

佐久市

SUBOUBATA

# 周防畑遺跡群

中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3

—佐久市内 3—

2014. 3

国土交通省関東地方整備局  
長野県埋蔵文化財センター



2・3区全景（南より）



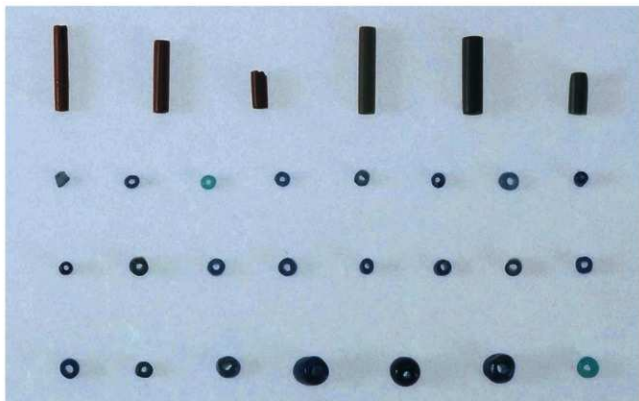
5区全景（西より）



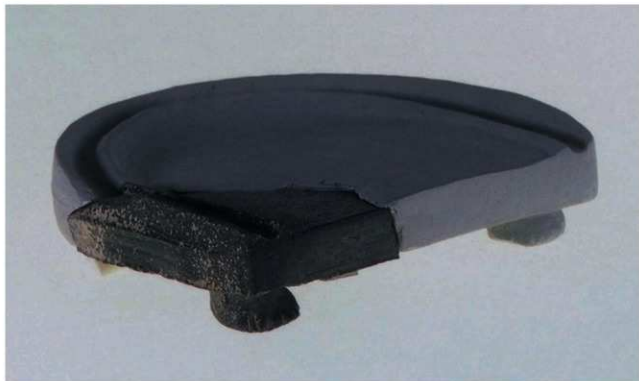
遺構外出土 ヒスイ製勾玉



5067号出土 3連銅釧



3号土器棺墓出土 管玉・ガラス小玉



遺構外出土 獸脚風字碗



遺構外出土 川原寺式軒丸瓦



80号住居跡出土 須恵器短頸壺



72号住居跡出土 土師器鉢形土器



59号土坑出土 土師器・灰釉陶器



60号土坑出土 土師器・灰釉陶器



60号土坑出土 「卒」墨書灰釉陶器

## はじめに

中部横断自動車道は、静岡県静岡市清水区の新清水ジャンクションで新東名高速道路と分かれ、山梨県甲斐市の双葉ジャンクションと同北杜市の長坂ジャンクションの間で中央自動車道と交わり、長野県小諸市の佐久小諸ジャンクションで上信越自動車道に繋がる高速自動車国道です。

高速道路が古代の官道の跡を通っていると言われることがありますが、実際に東山道の育良（いくら）駅は中央自動車道の飯田インターチェンジ付近と考えられており、上信越自動車道に伴う発掘調査で見つかった小諸市の宮ノ反（みやのそり）A遺跡群の官衛的建物群を東山道の長倉駅とする説も出されています。

この東山道のほかに、古代の官道で東国へ向かうものには日本海側の北陸道と、太平洋側の東海道がありました。近年甲斐国（かひのくに、現山梨県）の国名の由来を、この東海道と東山道を結ぶという意味の「交ひ（かひ）」からきているという説も提唱されています。東山道に沿った上信越自動車道と、太平洋側の新東名高速道路を「交ひ」の国である山梨県を介して結ぶ中部横断自動車道は、まさに古代の交通網を再現するものと言えるでしょう。

今回、報告する周防畑遺跡群は、そうした古代にあっては佐久郡の政治の中心であった佐久郡衙に近く、弥生時代にあっては日本海側で採れるヒスイも出土する、交通の要衝にあったと考えられる重要な遺跡群です。

本書が、この地域の歴史のみならず、他地域との交流の歴史をも考える一助となることを願ってやみません。

最後に、本遺跡の発掘から、整理・報告書の刊行までに、深いご理解とご協力を賜りました国土交通省関東地方整備局の方々、長野県教育委員会や佐久市・佐久市教育委員会の方々、地権者や区長をはじめとする地元住民の皆様、発掘作業・整理作業に携わっていただきました多くの方々に、心からの敬意と感謝の意を表する次第であります。



## 例言

- 1 本書は、長野県佐久市に所在する<sup>すほうぼたいせきぐん</sup>周防畑遺跡群の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、中部横断自動車道建設工事に伴う記録保存調査として、一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが実施した。委託契約等については第1章を参照願いたい。
- 3 遺跡の概要は、長野県埋蔵文化財センター刊行の『長野県埋蔵文化財センター年報』23・24・26で紹介しているが、本書の記述をもって本報告とする。
- 4 本書で使用した地図は、国土地理院発行の地形図（1：25,000、1：50,000）、佐久市・小諸市基本図（1：2,500）を基に作成した。
- 5 本書で扱っている国家座標は、国土地理院の定める平面直角座標系Ⅲ系の原点を基準点としている。座標値は、日本測地系（旧測地系）を用いている。
- 6 発掘調査にあたっては、以下の機関・諸氏に業務委託もしくはご指導、ご協力を得た。（敬称略）  
測量・空中写真撮影：新日本航業（株）（平成18・19年度）  
（株）写真測図研究所（平成21年度）  
人骨・獣骨鑑定：京都大学名誉教授 茂原信生、総合研究大学院大学准教授 本郷一美  
獨協医科大学技術員 櫻井秀雄  
古代の土器・土製品（視）の鑑定と整理指導：國學院大學教授 吉田恵二  
石器石材鑑定：信州大学教授 原山 智  
自然科学分析：（株）古環境研究所  
（株）パレオ・ラボ  
鉄製品保存処理：（株）文化財ユニオン  
遺物写真撮影：信毎書籍印刷（株）
- 7 発掘調査および報告書刊行にあたり、下記の方々・機関にご指導、ご協力をいただいた。お名前を記して感謝の意を表する。（敬称略）  
茂原信生、本郷一美、櫻井秀雄、吉田恵二、原山 智、小林正史、小山岳夫、石川日出志、中村由克、佐久市教育委員会、埼玉弥生土器観会、長野県遺跡調査指導委員会（戸沢充則、工業善通、丸山敏一郎、高橋龍三郎）、長野県文化財保護審議会 史跡・考古資料部会（小野 昭、笹澤 浩、会田 進）
- 8 発掘作業・整理作業の担当者は第1章に記載した。
- 9 本書は、調査研究員上田 真が執筆し、調査第2課長岡村秀雄が校閲し、調査部長大竹憲昭が総括した。
- 10 本書に添付したDVDには、以下の内容を収録した。  
本文PDFファイル、写真データ、自然科学分析報告書



## 凡例

- 1 遺構番号は、遺構種ごとに付してある。発掘調査時に欠番になっているものや整理作業において遺構として認定しなかったため欠番としたものがある。
- 2 実測図の遺物番号は、出土遺構ごとに付してある。遺構外から出土した遺物については弥生、古代、その他の時期別で、調査地区（1～3、5、8区）順に遺物番号を付した。
- 3 本書に掲載した実測図および遺物写真の縮尺は、原則として下記のとおりである。
  - (1) 遺構図  
調査区全体図 1 : 400 ~ 1 : 800 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、墓跡、土坑、不明遺構 1 : 80  
溝跡 1 : 50 ~ 1 : 200
  - (2) 遺物図  
土器・施釉陶器 1 : 4 土器拓影 1 : 4 石鏃等小型石器 2 : 3 磨石・敲石等 1 : 3  
台石等 1 : 6 金属製品 1 : 2 ~ 1 : 4
  - (3) 遺物写真  
土器供膳形態（杯、椀、皿等） 1 : 2 土器煮炊・貯蔵形態（甕、壺等） 1 : 3  
土製品 1 : 2 石器 1 : 2 金属製品 1 : 2 装飾品類（玉、銅等） 1 : 1
- 4 遺物の器種名については特に細分せず、過去の埋文センター報告書等を参考にして一般的と思われるものを用いた。
- 5 基本層序及び遺構埋土の色調は「新版 標準土色帖 2005年版」による。
- 6 実測図中のスクリーントーンは、下記の通り使用した。これ以外の場合は該当箇所説明してある。

### (1) 遺構図



### (2) 遺物図



# 目次

巻頭図版

はじめに

例言

凡例

目次

挿図目次

挿表目次

写真図版目次

## 第1章 調査に至る経緯

第1節 事業の概要と保護協議	1
1. 中部横断自動車道の建設計画	1
2. 埋蔵文化財の保護協議と調査	1
3. 文化財保護法の手続き	3
第2節 発掘作業と整理作業の体制	3

## 第2章 調査の経過

第1節 発掘作業の経過	5
1. 発掘作業の方法	5
(1) 遺跡名称と遺跡記号	
(2) 遺構名称と遺構記号	
(3) 調査区(グリッド)の設定と呼称	
(4) 遺構の発掘	
(5) 遺跡の公開	
2. 日誌抄	8
第2節 整理作業の経過	8
1. 整理作業の方法	8
(1) 基礎整理作業	
(2) 本格整理作業	
(3) 資料の収納	
2. 日誌抄	9

## 第3章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10

## 第4章 遺跡の概観と調査の概要

第1節 遺跡の概観	18
-----------	----

第2節	調査の概要	18
第3節	基本順序	19
第5章 遺構と遺物		
第1節	弥生時代の遺構と遺物	28
1.	竪穴住居跡	28
2.	円形周溝墓・方形周溝墓	124
3.	土坑墓	140
4.	土器棺墓	144
5.	土坑	150
6.	遺構外出土遺物	154
7.	小結	162
第2節	古代の遺構と遺物	165
1.	竪穴住居跡	165
2.	掘立柱建物跡	214
3.	性格不明遺構	224
4.	土坑	226
5.	溝跡	239
6.	遺構外出土遺物	248
7.	小結	253
第3節	その他の時代の遺構と遺物	255
1.	竪穴住居跡	255
2.	土坑	255
3.	遺構外出土遺物	256
4.	小結	257
第6章 科学分析・鑑定		
1.	須恵器の胎土分析	262
2.	土器付着物の分析	269
3.	土壌のリン・カルシウム分析	271
4.	出土骨に関する分析	275
第7章 総括		
1.	縄文時代	279
2.	弥生時代	279
3.	古代	281
4.	須恵器獣脚風字硯について	284
引用・参考文献		
写真図版		
抄録		

## 挿 図 目 次

第1図	中部横断自動車道 路線図と遺跡……………	2	第43図	43号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	60
第2図	周防畑遺跡群グリッドと調査区設定図…	6	第44図	43号住居跡 遺物図(2) ……	61
第3図	グリッド設定図……………	7	第45図	44号住居跡 遺構図・遺物図……………	62
第4図	浅間山南麓から佐久平北部周辺図……………	11	第46図	48号住居跡 遺構図・遺物図……………	63
第5図	周防畑遺跡群周辺地形図……………	12	第47図	51号住居跡 遺構図・遺物図……………	65
第6図	周防畑遺跡群周辺遺跡分布図……………	14	第48図	52号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	67
第7図	調査区全体と確認トレンチ位置図……………	20	第49図	52号住居跡 遺物図(2) ……	68
第8図	2区遺構配置図……………	21	第50図	53号住居跡 遺構図・遺物図……………	69
第9図	3区遺構配置図……………	22	第51図	54号住居跡 遺構図・遺物図……………	70
第10図	5区遺構配置図……………	23	第52図	55号住居跡 遺構図・遺物図……………	71
第11図	8区遺構配置図……………	24	第53図	56号住居跡 遺構図・遺物図……………	72
第12図	1・2・3区土層柱状図……………	25	第54図	58号住居跡 遺構図・遺物図……………	73
第13図	5区土層柱状図……………	26	第55図	59号住居跡 遺構図・遺物図……………	74
第14図	8区土層柱状図……………	27	第56図	66号住居跡 遺構図・遺物図……………	75
第15図	1号住居跡 遺構図・遺物図……………	28	第57図	77号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	77
第16図	2号住居跡 遺構図・遺物図……………	30	第58図	77号住居跡 遺物図(2) ……	78
第17図	3号住居跡 遺構図・遺物図……………	31	第59図	78号住居跡 遺構図……………	80
第18図	4号住居跡 遺構図……………	32	第60図	501号住居跡 遺構図・遺物図……………	81
第19図	5号住居跡 遺構図・遺物図……………	32	第61図	502号住居跡 遺構図・遺物図……………	83
第20図	6号住居跡 遺構図・遺物図……………	33	第62図	503号住居跡 遺構図・遺物図……………	84
第21図	7号住居跡 遺構図……………	34	第63図	504号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	86
第22図	8号住居跡 遺構図・遺物図……………	34	第64図	504号住居跡 遺物図(2) ……	87
第23図	10号住居跡 遺構図・遺物図……………	35	第65図	505号住居跡 遺構図……………	89
第24図	11号住居跡 遺構図……………	36	第66図	505号住居跡 遺物図(1) ……	90
第25図	12号住居跡 遺構図・遺物図……………	38	第67図	505号住居跡 遺物図(2) ……	91
第26図	13号住居跡 遺構図・遺物図……………	39	第68図	506号住居跡 遺構図・遺物図……………	92
第27図	14号住居跡 遺構図……………	39	第69図	507号住居跡 遺構図・遺物図……………	94
第28図	15号住居跡 遺構図・遺物図……………	40	第70図	508号住居跡 遺構図・遺物図……………	95
第29図	16号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	42	第71図	509号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	97
第30図	16号住居跡 遺物図(2) ……	43	第72図	509号住居跡 遺物図(2) ……	98
第31図	17号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	45	第73図	510号住居跡 遺構図・遺物図……………	99
第32図	17号住居跡 遺物図(2) ……	46	第74図	511号住居跡 遺構図・遺物図……………	100
第33図	18号住居跡 遺構図・遺物図……………	48	第75図	512号住居跡 遺構図・遺物図……………	102
第34図	20号住居跡 遺構図・遺物図……………	49	第76図	513号住居跡 遺構図・遺物図……………	103
第35図	21号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	51	第77図	514号住居跡 遺構図……………	105
第36図	21号住居跡 遺物図(2) ……	52	第78図	514号住居跡 遺物図(1) ……	106
第37図	22号住居跡 遺構図・遺物図……………	53	第79図	514号住居跡 遺物図(2) ……	107
第38図	26号住居跡 遺構図・遺物図……………	54	第80図	515号住居跡 遺構図・遺物図……………	108
第39図	32号住居跡 遺構図・遺物図……………	55	第81図	516号住居跡 遺構図・遺物図……………	109
第40図	34号住居跡 遺構図・遺物図……………	56	第82図	517号住居跡 遺構図・遺物図(1) ……	110
第41図	35号住居跡 遺構図・遺物図……………	57	第83図	517号住居跡 遺物図(2) ……	111
第42図	41号住居跡 遺構図・遺物図……………	58	第84図	518号住居跡 遺構図・遺物図……………	113

第 85 图	519 号住居跡	遺構園・遺物園	115	第 120 图	25 号住居跡	遺構園	170
第 86 图	520 号住居跡	遺構園・遺物園 (1)	116	第 121 图	27 号住居跡	遺構園・遺物園	170
第 87 图	520 号住居跡	遺物園 (2)	117	第 122 图	28 号住居跡	遺構園・遺物園	171
第 88 图	521 号住居跡	遺構園・遺物園	118	第 123 图	29 号住居跡	遺構園・遺物園	172
第 89 图	522 号住居跡	遺構園・遺物園	119	第 124 图	30 号住居跡	遺構園・遺物園	173
第 90 图	523 号住居跡	遺構園・遺物園	120	第 125 图	31 号住居跡	遺構園・遺物園	174
第 91 图	801 号住居跡	遺構園・遺物園 (1)	121	第 126 图	33 号住居跡	遺構園・遺物園 (1)	175
第 92 图	801 号住居跡	遺物園 (2)	122	第 127 图	33 号住居跡	遺物園 (2)	176
第 93 图	802 号住居跡	遺構園・遺物園	123	第 128 图	36 号住居跡	遺構園・遺物園	177
第 94 图	501・502・503 号円形周溝墓	遺構園	125	第 129 图	37 A・B 号住居跡	遺構園	180
第 95 图	504・505・506 号円形周溝墓	遺構園 ・遺物園	127	第 130 图	37 A・B 号住居跡	遺物園	181
第 96 图	507・508 号円形周溝墓・509 号方形周溝墓	遺構園・遺物園	129	第 131 图	38 号住居跡	遺構園・遺物園	182
第 97 图	510 号方形周溝墓・511 号円形周溝墓	遺構園・遺物園	131	第 132 图	39 号住居跡	遺構園・遺物園	183
第 98 图	509・510・519 号方形周溝墓・511 号溝跡	遺構園	132	第 133 图	40 号住居跡	遺構園・遺物園	184
第 99 图	512・514 号墓跡・513 号方形周溝墓 ・515 号円形周溝墓	遺構園・遺物園	134	第 134 图	42 号住居跡	遺構園・遺物園	186
第 100 图	516・517 号円形周溝墓	遺構園 ・遺物園	136	第 135 图	45 号住居跡	遺構園・遺物園	187
第 101 图	518 号円形周溝墓	遺構園・遺物園	137	第 136 图	46 号住居跡	遺構園・遺物園	189
第 102 图	519 号方形周溝墓・520 号円形周溝墓	遺構園・遺物園	138	第 137 图	47 号住居跡	遺構園・遺物園	190
第 103 图	503・511 号溝跡	遺構園・遺物園	139	第 138 图	49 号住居跡	遺構園・遺物園	191
第 104 图	5063・5067 号土坑	遺構園・遺物園	141	第 139 图	50 号住居跡	遺構園・遺物園	192
第 105 图	5079・5089 号土坑	遺構園・遺物園	143	第 140 图	60 号住居跡	遺構園・遺物園	193
第 106 图	3 号土器棺墓	遺構園・遺物園	145	第 141 图	61 号住居跡	遺構園・遺物園	194
第 107 图	501 号土器棺墓	遺構園・遺物園	147	第 142 图	62 号住居跡	遺構園・遺物園	195
第 108 图	502 号土器棺墓	遺構園・遺物園	148	第 143 图	63 号住居跡	遺構園・遺物園	196
第 109 图	503 号土器棺墓	遺構園・遺物園	149	第 144 图	64 号住居跡	遺構園・遺物園	197
第 110 图	46・100・156・158 号土坑	遺構園 ・遺物園	151	第 145 图	65 号住居跡	遺構園・遺物園	198
第 111 图	5001・5004・5006・5007 号土坑	遺構園・遺物園	153	第 146 图	67 号住居跡	遺構園・遺物園	200
第 112 图	遺構外出土遺物園 (1)		158	第 147 图	68 号住居跡	遺構園・遺物園	200
第 113 图	遺構外出土遺物園 (2)		159	第 148 图	69 号住居跡	遺構園・遺物園	201
第 114 图	遺構外出土遺物園 (3)		160	第 149 图	70 号住居跡	遺構園・遺物園	202
第 115 图	遺構外出土遺物園 (4)		161	第 150 图	71 号住居跡	遺構園・遺物園	203
第 116 图	9 号住居跡	遺構園・遺物園	166	第 151 图	72 号住居跡	遺構園・遺物園	205
第 117 图	19 号住居跡	遺構園・遺物園	167	第 152 图	73 号住居跡	遺構園・遺物園	206
第 118 图	23 号住居跡	遺構園・遺物園	168	第 153 图	74 号住居跡	遺構園・遺物園	208
第 119 图	24 号住居跡	遺構園	169	第 154 图	76 号住居跡	遺構園・遺物園	209
				第 155 图	79 号住居跡	遺構園・遺物園	210
				第 156 图	80 号住居跡	遺構園・遺物園	211
				第 157 图	81 号住居跡	遺構園・遺物園	213
				第 158 图	1 号掘立柱建物跡	遺構園・遺物園	214
				第 159 图	2 号掘立柱建物跡	遺構園・遺物園	216
				第 160 图	3・4 号掘立柱建物跡	遺構園 ・遺物園	217
				第 161 图	5・6 号掘立柱建物跡	遺構園 ・遺物園	219

第162図	7・8号掘立柱建物跡 遺構図 ・遺物図……………	230
第163図	9・10号掘立柱建物跡 遺構図……………	222
第164図	11・501・801号掘立柱建物跡 遺構図……………	223
第165図	1・2・3号性格不明遺構 遺構図・遺物図……………	225
第166図	20・26・57・147号土坑 遺構図・遺物図……………	227
第167図	59・60号土坑 遺構図・遺物図……………	229
第168図	162・208号土坑 遺構図・遺物図……………	231
第169図	192・209・210・215・217・232号土坑 遺構図・遺物図……………	234
第170図	243・244・246・266・269・283号土坑 遺構図・遺物図……………	236
第171図	294・313・335号土坑 遺構図・遺物図……………	238
第172図	1号溝跡 遺構図・遺物図……………	240
第173図	2号溝跡 遺構図・遺物図……………	241
第174図	5・6・7号溝跡 遺構図・遺物図……………	244
第175図	8・9・14号溝跡 遺構図・遺物図……………	246
第176図	18号溝跡 遺構図・遺物図……………	247
第177図	遺構外 遺物図(1)……………	251
第178図	遺構外 遺物図(2)……………	252
第179図	75号住居跡 遺構図……………	255
第180図	73号土坑 遺構図……………	256
第181図	遺構外 遺物図……………	257

第182図	周防畑遺跡群出土須恵器のSiO <sub>2</sub> - Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 分布図……………	265
第183図	周防畑遺跡群出土須恵器のFe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> - MgO分布図……………	265
第184図	周防畑遺跡群出土須恵器のK <sub>2</sub> O- CaO分布図……………	266
第185図	周防畑遺跡群出土須恵器のRb <sub>2</sub> O- SrO分布図……………	266
第186図	周防畑遺跡群出土須恵器のCaO/K <sub>2</sub> O- SrO/Rb <sub>2</sub> O分布図……………	267
第187図	おもな窯跡の須恵器胎土のSiO <sub>2</sub> - Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 分布図……………	267
第188図	おもな窯跡の須恵器胎土のFe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> - MgO分布図……………	268
第189図	おもな窯跡の須恵器胎土のK <sub>2</sub> O- CaO分布図……………	268
第190図	灰釉陶器瓶の内面付着物と赤外吸収 スペクトル図……………	270
第191図	元素マッピング図およびポイント 分析結果……………	270
第192図	ウマの歯……………	276
第193図	シカ・イノシシの骨・歯……………	277
第194図	弥生時代の遺構分布図……………	280
第195図	古代の遺構分布図……………	283
第196図	須恵器蹴脚風字硯実測図と推定復元図……………	284
第197図	他遺跡出土の風字硯……………	285

挿 表 目 次

第1表	文化財保護法の手続き……………	3
第2表	調査体制……………	3
第3表	周辺遺跡一覧表……………	15
第4表	1号住居跡出土土器観察表……………	29
第5表	2号住居跡出土土器観察表……………	29
第6表	3号住居跡出土土器観察表……………	31
第7表	5号住居跡出土土器観察表……………	33
第8表	6号住居跡出土土器観察表……………	33
第9表	8号住居跡出土土器観察表……………	34
第10表	10号住居跡出土土器観察表……………	36
第11表	10号住居跡出土土器観察表……………	36
第12表	12号住居跡出土土器観察表……………	37
第13表	13号住居跡出土土器観察表……………	37

第14表	15号住居跡出土土器観察表……………	41
第15表	15号住居跡出土土製品観察表……………	41
第16表	16号住居跡出土土器観察表……………	43
第17表	16号住居跡出土石器・玉類観察表……………	44
第18表	16号住居跡出土金属器観察表……………	44
第19表	17号住居跡出土土器観察表……………	47
第20表	18号住居跡出土土器観察表……………	49
第21表	20号住居跡出土土器観察表……………	49
第22表	21号住居跡出土土器・土製品観察表……………	50
第23表	21号住居跡出土金属器観察表……………	52
第24表	22号住居跡出土土器観察表……………	53
第25表	26号住居跡出土土器観察表……………	54
第26表	26号住居跡出土金属器観察表……………	54

第 27 表	32 号住居跡出土土器觀察表	54	第 71 表	511 号住居跡出土土器觀察表	100
第 28 表	34 号住居跡出土土器觀察表	56	第 72 表	512 号住居跡出土土器觀察表	101
第 29 表	35 号住居跡出土土器觀察表	57	第 73 表	513 号住居跡出土土器觀察表	103
第 30 表	41 号住居跡出土土器觀察表	59	第 74 表	513 号住居跡出土土器觀察表	103
第 31 表	43 号住居跡出土土器觀察表	61	第 75 表	514 号住居跡出土土器觀察表	104
第 32 表	43 号住居跡出土土器觀察表	61	第 76 表	514 号住居跡出土土器觀察表	107
第 33 表	44 号住居跡出土土器觀察表	63	第 77 表	515 号住居跡出土土器觀察表	107
第 34 表	48 号住居跡出土土器觀察表	64	第 78 表	516 号住居跡出土土器觀察表	108
第 35 表	51 号住居跡出土土器觀察表	64	第 79 表	516 号住居跡出土土器・玉類觀察表	108
第 36 表	51 号住居跡出土土製品觀察表	64	第 80 表	517 号住居跡出土土器觀察表	111
第 37 表	51 号住居跡出土土器觀察表	64	第 81 表	517 号住居跡出土土器觀察表	112
第 38 表	52 号住居跡出土土器觀察表	66	第 82 表	518 号住居跡出土土器觀察表	114
第 39 表	52 号住居跡出土土器觀察表	68	第 83 表	518 号住居跡出土土器觀察表	114
第 40 表	52 号住居跡出土金屬器觀察表	68	第 84 表	519 号住居跡出土土器觀察表	114
第 41 表	53 号住居跡出土土器觀察表	68	第 85 表	520 号住居跡出土土器觀察表	117
第 42 表	53 号住居跡出土金屬器觀察表	69	第 86 表	521 号住居跡出土土器觀察表	118
第 43 表	54 号住居跡出土土器觀察表	69	第 87 表	521 号住居跡出土土器觀察表	118
第 44 表	55 号住居跡出土土器觀察表	70	第 88 表	522 号住居跡出土土器觀察表	119
第 45 表	55 号住居跡出土土器・玉類觀察表	72	第 89 表	522 号住居跡出土土製品觀察表	120
第 46 表	56 号住居跡出土土器觀察表	72	第 90 表	523 号住居跡出土土器觀察表	120
第 47 表	58 号住居跡出土土器觀察表	73	第 91 表	801 号住居跡出土土器觀察表	122
第 48 表	59 号住居跡出土土器觀察表	75	第 92 表	802 号住居跡出土土器觀察表	123
第 49 表	66 号住居跡出土土器觀察表	75	第 93 表	504 号円形周溝墓出土土器觀察表	124
第 50 表	77 号住居跡出土土器觀察表	76	第 94 表	505 号円形周溝墓出土土器觀察表	126
第 51 表	77 号住居跡出土土器觀察表	79	第 95 表	506 号円形周溝墓出土土器觀察表	126
第 52 表	77 号住居跡出土金屬器觀察表	79	第 96 表	507 号円形周溝墓出土土器觀察表	126
第 53 表	501 号住居跡出土土器觀察表	80	第 97 表	507 号円形周溝墓出土土器觀察表	128
第 54 表	501 号住居跡出土土器觀察表	80	第 98 表	510 号方形周溝墓出土土器觀察表	130
第 55 表	502 号住居跡出土土器觀察表	82	第 99 表	513 号方形周溝墓出土土器觀察表	132
第 56 表	502 号住居跡出土土器觀察表	82	第 100 表	514 号墓跡出土土器觀察表	133
第 57 表	503 号住居跡出土土器觀察表	82	第 101 表	516 号円形周溝墓出土土器觀察表	135
第 58 表	504 号住居跡出土土器觀察表	85	第 102 表	516 号円形周溝墓出土土器・玉類觀察表	135
第 59 表	504 号住居跡出土土器・玉類觀察表	85	第 103 表	518 号円形周溝墓出土土器觀察表	135
第 60 表	505 号住居跡出土土器觀察表	88	第 104 表	518 号円形周溝墓出土土器觀察表	138
第 61 表	505 号住居跡出土土器觀察表	91	第 105 表	519 号方形周溝墓出土土器觀察表	138
第 62 表	506 号住居跡出土土器觀察表	93	第 106 表	511 号溝跡出土土器觀察表	140
第 63 表	506 号住居跡出土土器觀察表	93	第 107 表	5067 号土坑出土金屬器觀察表	142
第 64 表	507 号住居跡出土土器觀察表	94	第 108 表	5079 号土坑出土土器觀察表	142
第 65 表	508 号住居跡出土土器觀察表	96	第 109 表	5079 号土坑出土土器觀察表	142
第 66 表	508 号住居跡出土土器觀察表	96	第 110 表	3 号土器棺墓出土土器觀察表	144
第 67 表	509 号住居跡出土土器觀察表	98	第 111 表	3 号土器棺墓出土玉類觀察表	144
第 68 表	509 号住居跡出土土器觀察表	98	第 112 表	501 号土器棺墓出土土器觀察表	146
第 69 表	510 号住居跡出土土器觀察表	99	第 113 表	501 号土器棺墓出土玉類觀察表	146
第 70 表	510 号住居跡出土土器觀察表	99	第 114 表	502 号土器棺墓出土土器觀察表	148

第 115 表	503 号土器棺墓出土土器觀察表	148	第 159 表	50 号住居跡出土土器觀察表	192
第 116 表	46 号土坑出土土器觀察表	150	第 160 表	50 号住居跡出土土器觀察表	193
第 117 表	100 号土坑出土土器觀察表	150	第 161 表	60 号住居跡出土土器觀察表	193
第 118 表	156 号土坑出土土器觀察表	150	第 162 表	61 号住居跡出土土器觀察表	194
第 119 表	158 号土坑出土土器觀察表	152	第 163 表	62 号住居跡出土土器觀察表	194
第 120 表	5001 号土坑出土土器觀察表	152	第 164 表	62 号住居跡出土土器觀察表	196
第 121 表	5004 号土坑出土土器觀察表	152	第 165 表	62 号住居跡出土土器觀察表	196
第 122 表	5006 号土坑出土土器觀察表	154	第 166 表	63 号住居跡出土土器觀察表	196
第 123 表	5007 号土坑出土土器觀察表	154	第 167 表	64 号住居跡出土土器觀察表	197
第 124 表	遺構外出土土器觀察表	155	第 168 表	65 号住居跡出土土器觀察表	199
第 125 表	遺構外出土土器・玉類觀察表	157	第 169 表	65 号住居跡出土土器觀察表	199
第 126 表	出土弥生土器重量一覽表	162	第 170 表	67 号住居跡出土土器觀察表	199
第 127 表	9 号住居跡出土土器觀察表	165	第 171 表	68 号住居跡出土土器觀察表	201
第 128 表	19 号住居跡出土土器觀察表	166	第 172 表	69 号住居跡出土土器觀察表	202
第 129 表	19 号住居跡出土土器觀察表	167	第 173 表	70 号住居跡出土土器觀察表	203
第 130 表	23 号住居跡出土土器觀察表	168	第 174 表	71 号住居跡出土土器觀察表	204
第 131 表	27 号住居跡出土土器觀察表	171	第 175 表	71 号住居跡出土土器觀察表	204
第 132 表	28 号住居跡出土土器觀察表	172	第 176 表	72 号住居跡出土土器觀察表	204
第 133 表	29 号住居跡出土土器觀察表	172	第 177 表	72 号住居跡出土土器觀察表	204
第 134 表	30 号住居跡出土土器觀察表	173	第 178 表	73 号住居跡出土土器觀察表	207
第 135 表	31 号住居跡出土土器觀察表	173	第 179 表	73 号住居跡出土土器觀察表	207
第 136 表	33 号住居跡出土土器觀察表	174	第 180 表	73 号住居跡出土土器觀察表	207
第 137 表	33 号住居跡出土土器觀察表	176	第 181 表	74 号住居跡出土土器觀察表	208
第 138 表	33 号住居跡出土土器觀察表	176	第 182 表	76 号住居跡出土土器觀察表	209
第 139 表	36 号住居跡出土土器觀察表	177	第 183 表	79 号住居跡出土土器觀察表	210
第 140 表	36 号住居跡出土土器觀察表	177	第 184 表	80 号住居跡出土土器觀察表	210
第 141 表	37 A・B 号住居跡出土土器觀察表	178	第 185 表	80 号住居跡出土土器觀察表	212
第 142 表	37 A・B 号住居跡出土土器觀察表	179	第 186 表	81 号住居跡出土土器觀察表	212
第 143 表	37 A・B 号住居跡出土土器觀察表	179	第 187 表	1 号掘立柱建物跡出土土器觀察表	215
第 144 表	38 号住居跡出土土器觀察表	182	第 188 表	2 号掘立柱建物跡出土土器觀察表	215
第 145 表	39 号住居跡出土土器觀察表	183	第 189 表	3 号掘立柱建物跡出土土器觀察表	215
第 146 表	39 号住居跡出土土器觀察表	184	第 190 表	4 号掘立柱建物跡出土土器觀察表	217
第 147 表	40 号住居跡出土土器觀察表	184	第 191 表	6 号掘立柱建物跡出土土器觀察表	218
第 148 表	40 号住居跡出土土器觀察表	185	第 192 表	8 号掘立柱建物跡出土土器觀察表	221
第 149 表	42 号住居跡出土土器觀察表	185	第 193 表	1 号性格不明遺構出土土器觀察表	224
第 150 表	45 号住居跡出土土器觀察表	187	第 194 表	2 号性格不明遺構出土土器觀察表	224
第 151 表	45 号住居跡出土土器觀察表	188	第 195 表	3 号性格不明遺構出土土器觀察表	226
第 152 表	46 号住居跡出土土器觀察表	188	第 196 表	3 号性格不明遺構出土土器觀察表	226
第 153 表	46 号住居跡出土土器觀察表	188	第 197 表	3 号性格不明遺構出土土器觀察表	226
第 154 表	46 号住居跡出土土器觀察表	189	第 198 表	20 号土坑出土土器觀察表	226
第 155 表	47 号住居跡出土土器觀察表	190	第 199 表	26 号土坑出土土器觀察表	227
第 156 表	47 号住居跡出土土器觀察表	191	第 200 表	57 号土坑出土土器觀察表	228
第 157 表	47 号住居跡出土土器觀察表	191	第 201 表	147 号土坑出土土器觀察表	228
第 158 表	49 号住居跡出土土器觀察表	191	第 202 表	59・60 号土坑出土土器觀察表	230



第 203 表	162 号土坑出土土器観察表	230	第 224 表	2 号溝跡出土土器観察表	242
第 204 表	162 号土坑出土土器観察表	230	第 225 表	2 号溝跡出土土器観察表	242
第 205 表	208 号土坑出土土器観察表	232	第 226 表	5 号溝跡出土土器観察表	242
第 206 表	208 号土坑出土土器観察表	232	第 227 表	6 号溝跡出土土器観察表	243
第 207 表	192 号土坑出土土器観察表	232	第 228 表	7 号溝跡出土土器観察表	243
第 208 表	209 号土坑出土土器観察表	232	第 229 表	8 号溝跡出土土器観察表	245
第 209 表	210 号土坑出土土器観察表	233	第 230 表	9 号溝跡出土土器観察表	245
第 210 表	215 号土坑出土土器観察表	233	第 231 表	14 号溝跡出土土器観察表	245
第 211 表	217 号土坑出土土器観察表	233	第 232 表	18 号溝跡出土土器観察表	247
第 212 表	232 号土坑出土土器観察表	233	第 233 表	18 号溝跡出土土器観察表	247
第 213 表	243・244 号土坑出土土器観察表	235	第 234 表	遺構外出土土器観察表	248
第 214 表	246 号土坑出土土器観察表	235	第 235 表	遺構外出土土器観察表	250
第 215 表	266 号土坑出土土器観察表	237	第 236 表	遺構外出土土器観察表	250
第 216 表	269 号土坑出土土器観察表	237	第 237 表	出土古代の土器重量一覽表	253
第 217 表	283 号土坑出土土器観察表	237	第 238 表	遺構外出土土器観察表	256
第 218 表	294 号土坑出土土器観察表	239	第 239 表	遺構外出土土器観察表	256
第 219 表	313 号土坑出土土器観察表	239	第 240 表	出土土器重量一覽表	257
第 220 表	335 号土坑出土土器観察表	239	第 241 表	須恵器蛍光 X 線分析結果	263
第 221 表	1 号溝跡出土土器観察表	240	第 242 表	附着物の X 線分析結果	270
第 222 表	1 号溝跡出土土器観察表	240	第 243 表	半定量分析結果	272
第 223 表	2 号溝跡出土土器観察表	242	第 244 表	周防畑遺跡群出土の脊椎動物骨	278

## 写 真 図 版 目 次

P L 1	2・3 区全景、SB01～03	P L 17	SB80・81、ST01～06
P L 2	SB04～08・10～13	P L 18	ST07～10・501・801、SK57・60・162 ・208
P L 3	SB15～18・20・21・26・32	P L 19	SD02・05～07・09、2・3・5・8 区 作業風景
P L 4	SB34・35・46・47・61・41・43・44・48 ・45～50	P L 20	SB02・13 出土遺物
P L 5	SB51・52・54～56・58・59・66・77	P L 21	SB15～17 出土遺物
P L 6	5 区全景、SB501～503	P L 22	SB17・21・32・34・41 出土遺物
P L 7	SB504～509	P L 23	SB43 出土遺物
P L 8	SB510～519	P L 24	SB44 出土遺物
P L 9	SB520～522、8 区全景、SB801・802	P L 25	SB52 出土遺物
P L 10	SM501～511	P L 26	SB51・55・77 出土遺物
P L 11	SM512・514・516～520、SK5067	P L 27	SB502・504 出土遺物
P L 12	SK5079、SQ03・501・502・503 SK46・5001・5004・5007	P L 28	SB505 出土遺物
P L 13	SB09・19・23～25・27～30	P L 29	SB506・508・509 出土遺物
P L 14	SB33・36・38・37・40・45～50・46・ 47・49・50・53	P L 30	SB514 出土遺物
P L 15	SB60～65・67～70	P L 31	SB517～519 出土遺物
P L 16	SB71～74・76・79	P L 32	SB520 出土遺物
		P L 33	SB523・801 出土遺物

P L 34 SM513・516・518、SQ03・501 出土遺物  
P L 35 SQ502・503 出土遺物  
P L 36 SK158・5079、遺構外出土遺物  
P L 37 石器  
P L 38 石器・金属器  
P L 39 装身具類  
P L 40 SB16 出土遺物  
P L 41 SB16 出土遺物  
P L 42 SB23・27・33 出土遺物  
P L 43 SB29・33・35～37 出土遺物  
P L 44 SB39・40・42 出土遺物  
P L 45 SB49・50・52・53・62・64 出土遺物

P L 46 SB65・67・69・71 出土遺物  
P L 47 SB72～74 出土遺物  
P L 48 SB79～81、SK26 出土遺物  
P L 49 SK59 出土遺物  
P L 50 SK60 出土遺物  
P L 51 SK60・147・246・208・209 出土遺物  
P L 52 SK283・294・313 出土遺物  
P L 53 SD02・14・08、SX03、遺構外出土遺物  
P L 54 遺構外、SB81、SD01 出土遺物  
P L 55 土製品  
P L 56 石器・石製品  
P L 57 石器・錢貨・金属器

# 第1章 調査に至る経緯

## 第1節 事業の概要と保護協議

### 1. 中部横断自動車道の建設計画

本事業は、昭和62年6月第4次全国総合開発計画における高規格幹線道路網として閣議決定された後、同年9月国土開発幹線自動車道建設法が改正され、静岡県清水市（現静岡市）—長野県佐久市間の136kmが、国土開発幹線自動車道の新規追加路線に決定されている。その後、平成元年の第28回国土開発幹線自動車道建設審議会（以下、国幹審）で山梨県増穂町—双葉町（現甲斐市）間16kmの基本計画が決定されたのを皮切りに順次整備計画と基本計画が決定されている。

長野県内では平成3年の第29回国幹審で八千穂村（現佐久穂町）—佐久市間の23kmの基本計画が決定された後、平成8年の第30回国幹審で佐久南インターチェンジ（以下、IC）—佐久ジャンクション（以下、JCT）間8kmの整備計画が決定され、平成9年の同国幹審では山梨県長坂町（現北社市）—長野県八千穂村間38kmの基本計画が決定されている。平成10年4月には佐久市内の佐久南ICと佐久JCT間8kmの施工命令が出され、同年12月の第31回国幹審ではこの区間を含む八千穂村—佐久市間の23kmの整備計画が決定されている。

平成15年の第1回国土開発幹線自動車道建設会議（以下、国幹会議）では、整備計画区間の一部を新直轄方式（国（3/4）と地方（1/4）の負担により国土交通省が整備し、完成後は無料区間となる。）とする変更議案が審議・可決され、これにより八千穂村—佐久市間の23kmは新直轄方式に整備計画が変更された。

この間、山梨県内では一部供用開始した区間があったが、長野県内でも平成23年に佐久南IC—佐久小諸JCT間7.8kmが供用開始されている。現在、長野県内では八千穂IC（仮）—佐久南IC間で工事が進められているが、山梨県長坂JCT—八千穂IC間34kmは基本計画のままに残されている。

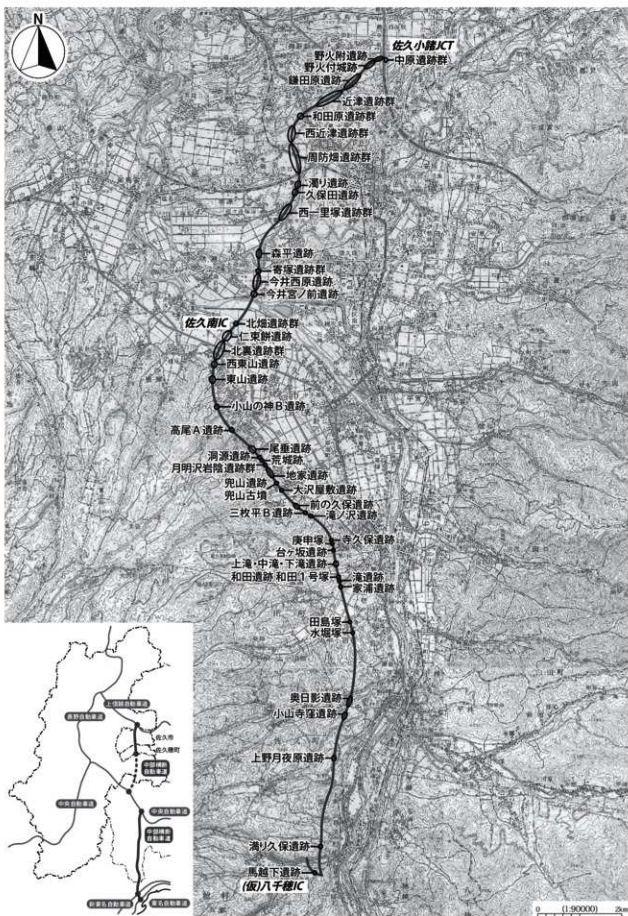
### 2. 埋蔵文化財の保護協議と調査

長野県教育委員会（以下、県教委）では、平成3年の基本計画決定を受けて、中部横断自動車道の建設予定地の埋蔵文化財保護のため、平成6年度から小諸市から八千穂村までの間の予想されるルートの幅1km前後について、現地踏査や試掘調査等の遺跡の詳細分布調査を行った。

平成11年には日本道路公団と文化庁、日本道路公団と県教委の間で建設予定地内の埋蔵文化財の保護協議が行われ、文化庁によって遺跡の記録保存を行うことが勧告された。

これを受けて、日本道路公団から県教委、県教委から（一財）長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）に建設予定地内の埋蔵文化財の発掘調査が委託され、佐久小諸JCT—佐久南IC間の16遺跡を対象として平成13年度より調査が始まった（第1図）。

その後、平成16年には整備計画の変更に伴って、国土交通省関東地方整備局、日本道路公団、県教委の3者による保護協議がもたれ、発掘調査における行政手続きを日本道路公団が行うことが確認された。平成17年度には日本道路公団の民営化により、日本道路公団の権利・義務は東日本高速道路株式会社



第1図 中部横断自動車道 路線図と遺跡

引き継がれた。

平成18年には、中部横断自動車道が新直轄方式で建設されることになり、あらためて国土交通省関東地方整備局、県教委、埋文センターの間で、中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財に関する協定書が締結され、以後国土交通省関東地方整備局と埋文センターの間で発掘調査に関する契約を結ぶことになった。佐久小諸JCTと小諸御影料金所の間は、東日本高速道路株式会社との区間として残り、この区間に所在する、中原遺跡群、野火附遺跡、野火付城跡の3遺跡の整理・報告は同社の事業として行い、平成20年度に報告書が刊行されている。

その後は、国土交通省関東地方整備局の事業区間となり、平成24年度に佐久市濁り遺跡・久保田遺跡・西一里塚遺跡群の発掘調査報告書、翌年度には小諸市鎌田原遺跡、佐久市近津遺跡群、小諸市和田原遺跡群の発掘調査報告書が相次いで刊行され、本年度は本書のほかには佐久市森平遺跡等の報告書が刊行された。

### 3. 文化財保護法の手続き

周防畑遺跡群の文化財保護法に基づく届け出等の手続きは以下の表のとおりである。

第1表 文化財保護法の手続き

	発掘届		県教委指示		発見届		文化財認定	
	文書番号	日付	文書番号	日付	発見届	日付	文書番号	日付
周防畑遺跡群 (H 18)	17長理第12-26号	H18.3.23	18教文第4-7号	H18.4.6	18長理第354号	H18.12.20	18教文第6-123号	H18.12.28
周防畑遺跡群 (H 19)	18長理第1-14号	H19.3.6	18教文第4-30号	H19.3.15	19長理第9-5号	H19.7.13	19教文第6-46号	H19.7.31
周防畑遺跡群 (H 21)	21長理第1-4号	H21.7.28	21教文第6-10号	H21.8.26	21長理第2-14号	H21.12.22	21教文第20-113号	H22.1.7

## 第2節 発掘作業と整理事業の体制

本報告書掲載の周防畑遺跡群に関する発掘・整理事業は以下の表のとおりである。

第2表 調査体制

	H18	H19	H21	H23	H24	H25
所長	仁科松男	仁科松男	仁科松男	窪田久雄	窪田久雄	窪田久雄
副所長	根岸誠司	根岸誠司	阿部精一	阿部精一	会津敏男	会津敏男
管理部長補佐					佐藤国昭	佐藤国昭
管理課長				窪田秀樹	窪田秀樹	村山清治
管理係長	山崎勇治	山崎勇治	窪田秀樹	西澤宏明		
調査部長	市澤英利	平林 彰	平林 彰	大竹憲昭	大竹憲昭	大竹憲昭
担当課長	上田典男	寺内隆夫	大竹憲昭	岡村秀雄	岡村秀雄	岡村秀雄
担当調査研究員	上田 真	上田 真	廣瀬昭弘	上田 真	上田 真	上田 真
	市川桂子	川崎 保	大澤泰智	市川隆之	市川隆之	
	西 香子	寺澤政俊	鈴木時夫	廣田和徳	鶴田典昭	
	廣瀬昭弘	藤松慎一郎				
	廣田和徳					
	柳澤 亮					
綿田弘実						

発掘作業員：

相沢昭二 青木昭 浅川高義 上野栄二 上原幸子 上原秀樹 上原裕子 大塚和美 大塚忠義  
大橋国三 大橋たか子 荻久恵 掛川信市 金沢徹 川井和右 川井次子 河原田恵子 木内一夫  
木内ゆみ子 菊地朝光 黒沢俊男 小泉けさみ 小泉静子 小井戸厚子 幸田千津 神津良太郎 小桜一雄  
小須田章 小須田安貞 小宮山登志幸 西藤富士男 坂本晴子 桜井房子 桜井マキ子 佐藤剛  
佐藤志げ子 佐藤純一郎 佐藤美枝子 篠原一人 篠原けさい 清水佐知子 清水正広 高塚幸平  
高橋梅子 高橋幸造 高橋三好 竹花道夫 田中宏幸 田畑恵子 千野浩 東城辰男 中島アキ代  
中原晴美 中村梅子 中村勝子 中村寛 野々村百合 久田辰夫 比田井和子 平林文樹 廣田祐一  
穂川邦子 細萱和美 三浦綾子 山浦孝子 山浦基邦 山口茂弥 山崎達浩 山田和子 山根知子  
依田和江 依田純子 和久井義雄

整理作業員：

赤尾香苗 阿部高子 市川ちず子 池田豊一 白井博子 大林久美子 窪田順 窪田翔 倉島由美子  
清水秋子 清水栄子 相馬麻織 高野和子 塚田春美 鳥羽仁美 西島典子 藤井裕子 増田千加代  
町田隆三 松本眞行 宮澤理恵子 宮下英樹 柳原澄子 山本和美



## 第2章 調査の経過

### 第1節 発掘作業の経過

#### 1. 発掘作業の方法

埋文センターでは、調査に対する共通認識や調査方法の統一を図るため「遺跡調査の方針と手順」を作成しており、今回の調査もこれに準じて実施している。

##### (1) 遺跡名称と遺跡記号

遺跡名称は周防畑遺跡群、遺跡記号は「DSB」である。

遺跡記号は、調査記録の便宜を図るため、遺跡名をアルファベット3文字で表したものである。1文字目の「D」は長野県内を10地区に分割したうちの佐久地区を表し、2文字目・3文字目は遺跡名のローマ字表記「SUBOUBATA」のうちの2文字「S」「B」を採ったものである。各種記録類や遺物注記にはこの記号を用いている。

##### (2) 遺構名称と遺構記号

遺構についても遺跡記号と同様に、調査記録の便宜を図るために遺構記号を用いた。但し、遺構名称は平面形や遺物出土状況から検出時に決定するため、後に遺構の種類や性格と合わなくなる場合がある。これが早期に分かった場合は遺構名称を変更し、遺構記号と遺構番号を振り直すこともあるが、調査がある程度進んで遺構記号や遺構番号の振り直しが却って混乱を招く場合は、最初に振った遺構記号と遺構番号をそのまま用いた。同様に、調査や整理の結果、遺構でないことが判明したものについても、その遺構番号を転用することなく、欠番とした。

今回の調査で用いた遺構記号には以下の種類がある。

SB：2mを目安とし、それ以上の大きさの方形、円形、楕円形の掘り込み。【堅穴住居跡、堅穴状遺構】  
ST：SBより小さな落ち込みや石が一定間隔で方形、円形に配置するもの。これ以外の落ち込みと関係が認められるものがある。【掘立柱建物跡、礎石を使用した建物跡】

SM：方形、円形、もしくはそれらが組み合わさった形の盛り上がり。【古墳、墳墓、周溝墓もここに含める】

SD：溝状の掘り込み。【溝跡、河道跡、自然流路跡】

SK：単独、もしくは他の掘り込みとの関係が認められないSBより小さな掘り込み。【土坑、陥し穴、貯蔵穴等】

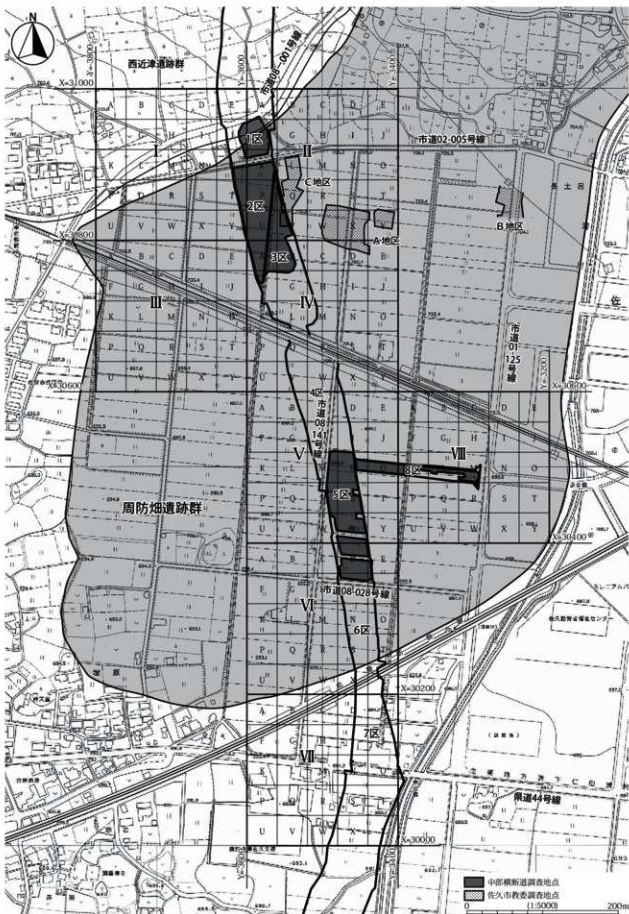
SQ：遺物が面的に集中するもの。【掘り方の認識できない埋設土器（埋裏）、土器棺もここに含める】

SX：以上に記した以外の不明遺構、および沼地、湿地、池など。

周防畑遺跡群の調査区は南北に長く、間に鉄道も走っているため、南北に離れた2・3区と5区（(3)調査区の設定と呼称）の間で常時使用した遺跡番号の情報を共有することが困難であった。このため、5区の土坑については500番台、5区のそれ以外の遺構については500番台の遺構番号を用いた。同様に8区の遺構についても、土坑は800番台、それ以外の遺構は800番台の遺構番号を付した。

##### (3) 調査区（グリッド）の設定と呼称

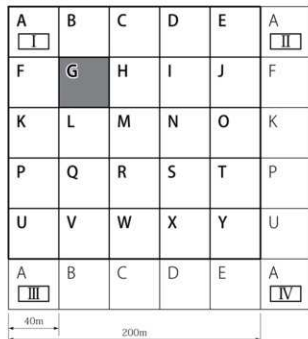
国土地理院の平面直角座標Ⅷ系における原点X = 0.0000 Y = 0.0000を基準に、200の整数倍の線に囲



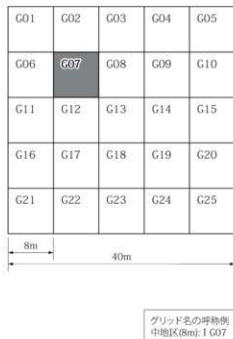
第2図 周防畑遺跡群グリッドと調査区設定図



- 大々地区  
200×200mの区画で、北西から南東へⅠ・Ⅱ・…とする。
- 大地区(40mグリッド)



- 中地区(8mグリッド)



第3図 グリッド設定図

まれた200×200mの大々地区を設定した。調査地にかかった大々地区は、北西から南東へⅠ～Ⅷの記号をあたえた(第2図)。

大々地区を40×40m区画に分割したものが、大地区である。大地区は、大々地区の中に25区画入ることになり、これに北西から南東へA～Yの記号をあたえる(第3図)。

大地区内を8×8m毎に区画したものが中地区である。中地区は、大地区の中に25区画入ることになり、北西から南東へ1～25の番号をあたえる。

調査におけるグリッドの設定は、測量業者に委託した。座標系については、発掘調査期間が世界測地系への変換期間と重なっており、調査の統一性を保つため日本測地系の座標で統一した。

#### (4) 遺構の発掘

遺構の状況を把握するため、重機によるトレンチ調査を実施し、遺構の確認された範囲について、重機による表土掘削と人力による遺構検出と掘り下げを行った。

遺構の測量は、調査研究員及び、その指導のもとに発掘作業員が行い、測量業者による単点測量と、空中写真測量も併用した。

調査中の写真撮影は、6×7cm中判カメラと35mm一眼レフカメラで、白黒ネガフィルムとカラーリバーサルフィルムの両方の撮影を行った。すべての年度・地区で、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。

#### (5) 遺跡の公開

平成18年9月16日に隣接する西近津遺跡群と合わせて、遺跡の現地説明会を実施し、193名の参加があった。

出土遺物については、平成18年度から25年度までの間の年度の長野県埋蔵文化財センター連展展や30周年記念展で、写真パネルなどとともに展示した。

## 2. 日誌抄

(平成 18 年度)

4月3日 調査準備着手  
 4月6日 東日本高速道路関係者、道路工事業者と協議  
 4月24日 試掘調査開始  
 6月1日 面調査のための表土剥ぎ開始  
 6月19日 2・3区作業員作業開始 - SD02掘り下げ  
 6月22日 SD02底面より馬歯多数出土  
 7月3日 5区作業員作業開始  
 7月28日 茂原京生京都大学名誉教授による馬歯鑑定・指導  
 8月10日 SK59・60から灰釉陶器出土  
 8月23日 SK5067より3連銅鏡出土  
 8月30日 土器洗浄中、灰釉陶器輪花模底面に「本」黒書発見  
 8月29日 501号土器棺蓋から勾玉・ガラス小玉出土  
 8月31日 5区空堀  
 9月6日 2・3区空堀  
 9月16日 現地説明会開催（西近津遺跡群と同時開催、193名参加）  
 9月29日 農作業のため、5区作業中断  
 3-2区より川原寺式軒丸瓦出土  
 10月11日 2・3区空堀  
 10月13日 SQ03内より管玉・ガラス小玉出土  
 11月15日 5区調査再開（水路・進入路部分）  
 11月16日 県遺跡調査指導委員会調査指導  
 12月11日 2・3区空堀

12月19日 2・3区調査終了

(平成 19 年度)

4月3日 調査準備着手  
 4月16日 2-3区表土剥ぎ開始  
 4月18日 2-3区作業員作業開始  
 4月23日 SX03より鉄製紡錘車出土  
 5月7日 SE20より銅鏡出土  
 5月15日 5区表土剥ぎ開始  
 5月28日 5区作業員作業開始  
 5月30日 2-3区空堀  
 6月7日 2-3区調査終了  
 6月12日 SM507 岡清外より大型ヒスイ製勾玉出土  
 6月19日 SB522床直より大型土製勾玉出土  
 6月29日 5区空堀  
 7月6日 5区調査終了

(平成 21 年度)

9月1日 調査準備着手  
 9月14日 8区表土剥ぎ開始、作業員作業開始  
 12月2日 8区空堀  
 12月17日 8区調査終了

## 第2節 整理作業の経過

## 1. 整理作業の方法

## (1) 基礎整理作業

発掘年度中に、記録類や出土遺物の基礎整理作業を実施した。

遺構図面や委託測量図面類は記載内容の確認や修正を行い、台帳を作成した。調査時に作成した調査所見については内容の点検を行い、追加記載などを行った。写真類は撮影内容等を点検し、35mm カラーリバーサルはマウントに、それ以外はアルバムに撮影内容等を注記し、アルバムに収納した。

出土遺物の洗浄は発掘作業期間中に行い、基礎整理作業中に遺物の注記と台帳の作成を行った。

## (2) 本格整理作業

報告書作成に向けた記録類の相互調整や調査所見との統合、出土遺物の検討・整理などの本格整理作業を平成23年度から平成25年度に実施した。

出土遺物は、材質・種類ごとに分けて本格整理作業を進めた。土器・土製品については分類・接合・復元補強を行い、報告書掲載遺物を選択抽出して、登録台帳により管理した。土器の観察は遺構単位で行い、全体像を把握したうえで、遺物の組成が把握できるように重量を計測し一覧表を作成した。実測は、埋文センターで手実測により、原寸で行った。縄文土器や、弥生土器、須恵器の一部と、瓦は拓本も用いた。遺物実測図のトレースも埋文センターで手作業で行った。掲載した土器・土製品については、観察表を作成した。

石器・石製品についても分類を行い、報告書掲載遺物を選択抽出して、登録台帳により管理した。実測・

トレースも埋文センターで手作業で行い、掲載した石器・石製品については、観察表を作成した。

金属製品は、遺存状態が悪く、そのままでは劣化が進むため、業者に委託して保存処理を行ったうえで、土器・石器と同様に、実測・トレースを埋文センターで手作業で行い、観察表を作成した。

図面類は、基礎整理作業で行った修正図を元に、必要に応じて2次原因を作成し、個別遺構図・土層図・遺構配置図などを作成した。図版作成は、原因・2次原因をパソコンに取り込み、デジタルトレースにより作成した。遺物図版もトレース図をパソコンに取り込み版組を行った。

遺物写真は、業者に委託して実施した。撮影には6×7カメラを使用し、巻頭カラー図版用にはカラーリバーサルフィルム、モノクロ写真図版用にはモノクロフィルムを用いた。撮影に当たっては、テスト撮影を兼ねて、一眼レフデジタルカメラでも撮影を行った。

### (3) 資料の取納

出土遺物、実測図面、写真などの記録類は、報告書刊行後の保管先変更へ備え、分類・取納した。

遺物は、材質・器種ごとに報告書掲載遺物と非掲載遺物に分けたうえで、出土遺構・地区別にテン箱に取納するとともに、遺物取納台帳を作成した。

実測図面類は、遺構・測量関係、遺物関係に分け、通し番号（図面番号）を付けて図面取納台帳を作成し、図面ファイル等に取納した。

写真は、発掘作業で撮影した遺構関係写真と、整理作業で撮影した遺物写真に分けて写真取納台帳を作成し、アルバムに取納した。

## 2. 日誌抄

(平成23年度)

4月1日 整理開始  
 4月5日 作業員整理開始、遺物整理  
 4月11日 図面整理開始  
 4月21日 国土交通省長野国造事務所専門官整理作業視察  
 7月13日 遺物接合終了  
 7月14日 遺物実測開始  
 7月27日 2次原因作成開始  
 9月5日 整理室を南プレハブに移動  
 12月5日 整理室を本館に移動  
 12月15日 SM510ほかサンプル土壌のリソカルシウム分析委託  
 12月21日 須恵器胎土分析委託  
 2月15日 遺構図デジタルトレース開始  
 2月28日 吉田恵二國學院大学教授による古代の土器・土製品（礎）の鑑定と整理指導  
 3月16日 須恵器胎土分析成果品納品  
 サンプル土壌のリソカルシウム分析成果品納品  
 3月23日 23年度整理作業員作業終了  
 3月30日 23年度整理作業終了

11月19日 茂原信生京都大学名誉教授、本郷一美総合研究大学院大学准教授、櫻井秀雄獨協医科大学技術員による出土動物骨の鑑定と整理指導  
 11月14日 金属製品保存処理委託  
 1月15日 遺物写真撮影開始  
 1月30日 遺物写真撮影終了  
 2月20日 原山智信州大学教授による石材鑑定指導  
 2月28日 金属製品保存処理終了、納品  
 3月19日 24年度整理作業員作業終了  
 3月29日 24年度整理作業終了

(平成25年度)

4月1日 25年度整理作業開始  
 4月5日 25年度作業員整理開始  
 5月2日 土器実測図トレース終了  
 5月7日 金属器実測・トレース開始  
 5月21日 金属器実測・トレース終了  
 6月4日 遺物写真版組開始  
 7月1日 遺構写真版組開始  
 8月5日 頁レイアウト開始  
 9月20日 写真版組終了  
 11月12日 茂原信生京都大学名誉教授、本郷一美総合研究大学院大学准教授、櫻井秀雄獨協医科大学技術員による出土動物骨の鑑定と整理指導  
 12月6日 頁レイアウト終了  
 12月24日 印刷・製本業者決定  
 3月14日 報告書刊行

(平成24年度)

4月2日 24年度整理開始  
 4月9日 24年度作業員整理開始  
 7月4日 土器付着物の元素マッピング分析と材質分析委託  
 9月28日 土器付着物の元素マッピング分析と材質分析成果品納入  
 10月17日 遺物実測終了、拓本開始  
 11月2日 遺物拓本終了  
 11月5日 土器実測図トレース、図版レイアウト作成開始

## 第3章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

周防畑遺跡群は千曲川右岸の佐久平北部に位置する。佐久平は、北を浅間山連峰、東を関東山地、南と西を八ヶ岳連峰に囲まれた盆地で、その中央を関東山地や八ヶ岳を源流とする湯川、濁川、滑津川、片貝川などの諸河川と合流しながら千曲川が南から北へ貫流している。

遺跡が位置する佐久平北部は浅間山の噴火によって形成された台地である（第4図）。浅間山は3つの火山体で構成されているが、噴火と山体崩壊を繰り返し現在の姿に至っている。数万年前から噴火を開始した浅間山は高さ2,800mの富士山型成層火山を形成した後、約23,000年前の大規模な水蒸気爆発によってその東半分が崩壊し、大規模なカルデラを形成した。西側の黒斑山などの第1外輪山はその名残である。この時に発生した岩屑なだれは塚原泥流と呼ばれ、本遺跡の所在する佐久市塚原地籍を中心とする地域に「流れ山」と呼ばれる小丘として残っている。その後、仏岩火山が活動を開始し、粘り気の強い溶岩流を繰り返し流出させたが、約15,000年前の大規模な噴火の後、しばらくして活動を終えている。その後、黒斑山と仏岩火山の中間にある浅間前掛火山で活動が始まり、約13,000年前の大噴火では、浅間第1軽石流が佐久平のほぼ全城を10m以上の厚さで埋め尽くし、約11,000年前の大噴火では、浅間第2軽石流が小諸市御影新田あたりまでを覆っている。この浅間第1軽石流は、固結度が低く縦に割れやすいため、河川によって容易に浸食され、浅間山から流れ出る中小河川に沿って「田切り」地形と呼ばれる切り立った崖と深い谷底からなる地形を形成している（第5図）。

この「田切り」地形が明瞭なのは、本遺跡群が所在する佐久市長土呂地籍あたりまでで、それ以南は流路を拡散して、氾濫低地を形成する。氾濫低地は度重なる土砂の流出により扇状地状に広がり、徐々に傾斜をゆるめながら千曲川に向かう。このため、本遺跡の周辺では、「田切り」地形は不明瞭となり、湿地と微高地、流れ山からなる緩傾斜地となっている。

周防畑遺跡群で遺構が存在するのは、そのような微高地上や、流れ山の大规模なものの上であり、その間にはその後の堆積や農地の造成によって隠された低湿地が存在する。

### 第2節 歴史的環境

ここでは、遺跡の所在する佐久平北部を中心とする遺跡を概観する。

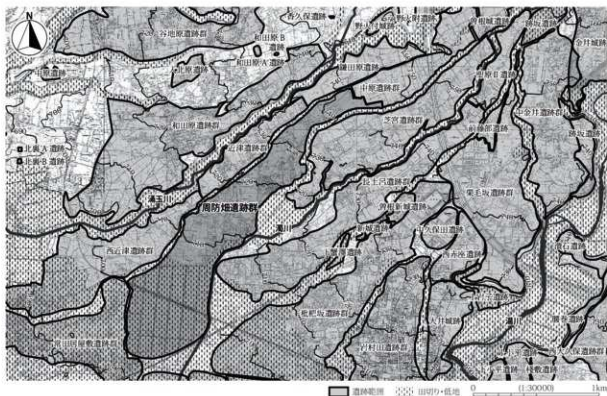
前節で述べたように、厚い浅間軽石流に覆われているため、旧石器時代の遺跡は佐久平の平地部には見られない。始良丹沢火山灰降下以前の石器群が出土した佐久市八風山Ⅱ遺跡や香坂山遺跡、旧石器時代末～縄文時代初頭の槍先形尖頭器製作跡の下茂内遺跡は、ガラス質黒色安山岩の産地である群馬県境の八風山山中に所在する。中部横断自動車道開通で調査され、始良丹沢火山灰降下以前と思われる石器群が出土した佐久市高尾A遺跡と槍先形尖頭器や細石刃核・細石刃が出土した佐久穂町満り久保遺跡は八ヶ岳東麓

の丘陵上にある。

縄文時代の遺跡も少なく、前・中期の榛名平遺跡群は蓼科山麓、中期の御代田町川原田遺跡、小諸市郷土遺跡（56）、後期の小諸市三田原遺跡（107）は浅間山麓と、代表的な遺跡はいずれも盆地周縁の丘陵上に所在し、平地部では、佐久市長土呂遺跡群（202）聖原遺跡、近津遺跡群（199）、などで陥し穴が散見される程度であった。こうした中において、中部横断自動車道関連で調査された西近津遺跡群（220）で中期の竪穴住居跡2軒が検出されたことは注目される。



第4図 浅間山南麓から佐久平北部周辺図



第5図 周防畑遺跡群周辺地形図

大規模な集落遺跡が平地部に立地するようになるのは、弥生時代中期後半で、湯川右岸に北西久保遺跡(275)、鳴澤遺跡群(274)五里田遺跡、岩村田遺跡群(243)西一本柳遺跡などの大集落遺跡が営まれる。中部横断自動車道建設に伴って調査された森平遺跡(371)も同時期の集落遺跡である。

弥生時代後期になると集落の規模は更に拡大し、今回報告する周防畑遺跡群(200)のほか、西近津遺跡群(220)、枇杷坂遺跡群(232)門正坊遺跡、同清水田遺跡、前述の岩村田遺跡群(243)西一本柳遺跡などの大集落遺跡が台地縁部にも営まれ、西近津遺跡群(220)では1辺18mを超える国内最大級の堅穴住居跡も検出されている。

古墳時代になると、遺跡の様相は一変し、佐久市近津遺跡群(199)、栗毛坂遺跡群(203)、腰巻遺跡(237)、小諸市和中原遺跡群(175)、野火付遺跡(193)、鎌田原遺跡(180)などの小規模で短期間の集落しか見られなくなる。中期後半になると佐久市北西久保遺跡(275)や下芝宮遺跡、下型端遺跡などの弥生時代の集落域に再び集落が形成され、御代田町前田遺跡(20)などのこれまで集落遺跡の見られなかった地域にも集落が営まれる。

古墳時代後期になると再び集落が数10軒から数100軒と大規模になり、長期間継続するようになる。その存続期間を見ると、小諸市中原遺跡群(166)や宮ノ反A遺跡群(141)竹花遺跡、佐久市西近津遺跡群(220)、芝宮遺跡群(201)、長土呂遺跡群(202)、栗毛坂遺跡群(203)のように、古墳時代後期から平安時代前半まで存続する集落が多い。こうした中において、小諸市野火付遺跡(193)は、奈良時代直前に集落が終わって、奈良時代には幅2.0～4.4mの区画のためと思われる溝だけが存在した遺跡であり、奈良時代には牧に転換されたものと考えられている。さらに、奈良時代かその直前から始まる「律令的計画村落」も多く、佐久市・小諸市・御代田町にまたがる鑄師屋遺跡群(196)根岸遺跡(22)、十二遺跡(21)、前田遺跡(20)、鑄師屋遺跡(153)、野火付遺跡(19)などがある。

これらの遺跡からは、中原遺跡群(166)、芝宮遺跡群(201)、長土呂遺跡群(202)聖原遺跡、根岸遺跡(22)で皇朝十二銭、中原遺跡群、宮ノ反A遺跡群(141)竹花遺跡、長土呂遺跡群聖原遺跡、前田遺

跡(20)で帯金具、宮ノ反A遺跡群竹花遺跡で「□布度玖段□・□□□飯依」等の文字が見られる漆紙文書が出土したほか、長土呂遺跡群型原遺跡で銅椀、「大方寺」墨書土器、瓦塔のほか「佛・甲斐国山梨郡大野郷戸主 乙作八千 此後与佛為 八千作願」のヘラ描きのある鉄鉢形土器、前田遺跡で「長倉寺」墨書土器、野火付遺跡(19)や前田遺跡で埋葬馬が出土している。さらに、現在整理中の中部横断自動車道関連で調査された西近津遺跡群(220)でも、埋葬馬のほか「郡」「大井」のヘラ書き土器、墨書土器や円面硯、帯飾具、銅印等が出土している。

これらの遺物の出土から、この付近に律令時代の佐久郡衙、東山道長倉駅、塩野牧や「三代實録」に見られる「佐久郡妙楽寺」が存在するものと考えられるが、これまでのところ、明確に比定された遺跡はなく、わずかに上信越自動車道関連で調査された宮ノ反A遺跡群(141)の溝に囲まれた大型掘立柱建物群が、東山道長倉駅に関連するものと考えられているだけである。周防畑遺跡群でも以前から川原寺式の軒丸瓦が採集されており、佐久郡衙の付属寺院や後の妙楽寺に繋がる寺院のものと考えられている。

このように隆盛を極めた古代の集落遺跡も、10世紀以降規模を縮小していく。鎌田原遺跡(180)や近津遺跡群(199)では、平安時代後期の11世紀後半から12世紀前半の堅穴住居跡が40～50mの間隔で散在する集落跡が検出されている。

中世では、御代田町と佐久市にまたがる栗毛坂遺跡群前藤部遺跡(28・203)で、鎌倉～室町時代の多数の土坑と80棟以上の堅穴状遺構が検出されている。また、中世には小豪族が割拠して多数の城郭が築かれる。そのうち佐久市の金井城跡(367)は城域のほぼ全域が調査され、掘立柱建物と堅穴建物で構成された屋敷が複数検出されている。

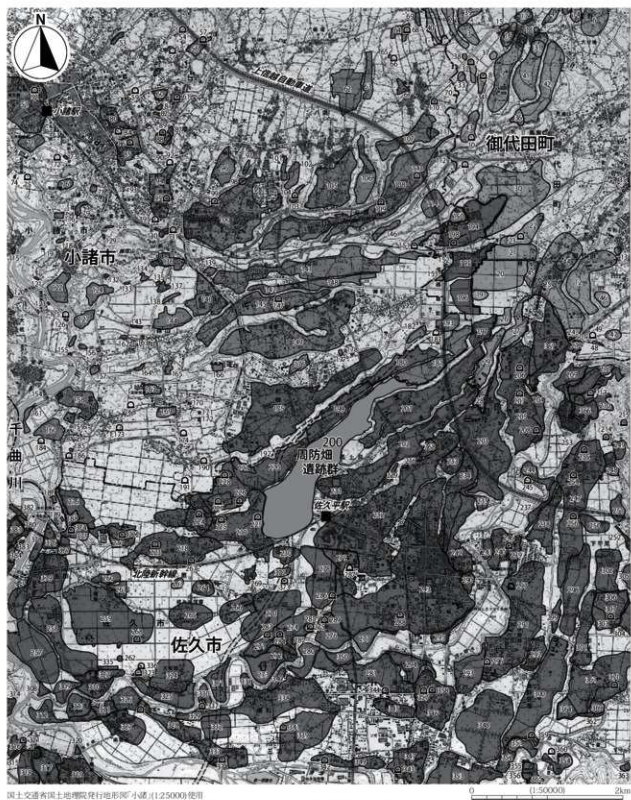
その後この地域は天文9(1540)年頃から武田氏の侵攻を受け、天文16(1547)年の志賀城の落城によって武田氏の支配下に入る。武田氏滅亡後は織田領となるものの、本能寺の変で織田信長が急死すると天正10(1582)年の天正壬午の乱を経て徳川領となる。江戸時代には、天領や旗本領、小諸藩領、岩村田藩領となって幕末を迎える。

こうした中において、周防畑遺跡群は縄文時代には、長土呂遺跡群型原遺跡(202)や、近津遺跡群(199)のように陥穴が掘られている。一定量の縄文時代中期後半から後期初頭の土器の出土を考えれば、西近津遺跡群のように小規模な集落があったかも知れないが、今回は確認されなかった。

再び人間活動の痕跡が見られるようになるのは、周辺の遺跡と同様に弥生時代中期になってからである。弥生時代中期に小規模な集落が営まれ、弥生時代後期になると集落の規模が拡大し、西近津遺跡群(220)や枇杷坂遺跡群(232)円正坊遺跡や清水田遺跡、岩村田遺跡群(243)西一本柳遺跡のような大集落となる。古墳時代に入ると一気に集落がなくなるのも、ほかの弥生時代後期の集落遺跡と同様である。

次に集落が営まれるのは、奈良時代に入ってからである。これは、鋤師屋遺跡群(196)中の各遺跡と同様に、この頃に付近に設置された佐久郡衙を維持するためと考えられる。したがって、郡衙が機能しなくなっている10世紀頃には集落も衰退し、11世紀には廃絶する。

その後、江戸時代には現在県道44号線となっている中仙道が調査区のすぐ南側を通過するものの、この地に集落が営まれることはない。聞き取り調査によると、周防畑遺跡群の範囲は昭和の頃まで田切りには挟まれた台地部は畑や山林、氾濫低地は水田であったようである。



第6図 周防畑遺跡群周辺遺跡分布図



第3表 周辺遺跡一覽表

地民 番号	遺跡名	市町村名	遺跡 番号	所在地	時 代					近 世
					縄	弥	古	奈	中	
1	西荒神	御代田町	1	塩野					○	
2	東荒神	御代田町	2	塩野 他	○				○	○
3	沼沢	御代田町	6	塩野		○				
4	上藤塚	御代田町	12	塩野					○	
5	東二ツ石	御代田町	13	塩野		○				
6	湯玉	御代田町	14	塩野						○
7	堀田塚古墳	御代田町	15	塩野			○			
8	塚田古墳群	御代田町	16	塩野			○			
9	馬場	御代田町	17	塩野	○					
10	めがね塚古墳群	御代田町	18	馬瀬口						○
11	下原古墳群	御代田町	19	馬瀬口		○				
12	小田丹城跡	御代田町	20	御代田					○	
13	兜玉	御代田町	28	兜玉				○		
14	塩野西原	御代田町	29	塩野		○				
15	上玉田	御代田町	30	塩野			○			
16	西吉	御代田町	32	塩野				○		
17	赤堂	御代田町	33	塩野					○	
18	下藤塚	御代田町	37	塩野	○					
19	野火付	御代田町	40	小田丹		○				
20	前田	御代田町	41	小田丹		○	○			
21	十二	御代田町	42	小田丹			○			
22	榎岸	御代田町	43	小田丹				○		
23	榎岸古墳	御代田町	44	小田丹			○			
24	丹井城跡	御代田町	45	小田丹					○	
25	中金井	御代田町	46	小田丹						○
26	菅根城跡	御代田町	53	小田丹				○		
27	跡坂	御代田町	54	小田丹					○	
28	前藤屋	御代田町	55	小田丹				○		
29	惣屋日	御代田町	56	小田丹				○	○	
30	西向原	御代田町	57	馬瀬口					○	
31	塩野城跡	御代田町	60	塩野						○
32	堀田	御代田町	61	塩野			○			
33	下荒田	御代田町	62	塩野				○		
34	塚田	御代田町	63	塩野			○			
35	谷地城跡	御代田町	65	丸町						○
36	馬瀬口城跡	御代田町	66	馬瀬口					○	
37	下赤堂	御代田町	67	塩野						○
38	中屋原	御代田町	68	塩野					○	
39	開屋	御代田町	69	塩野					○	
40	下大宮	御代田町	71	塩野						○
41	下ノ平	御代田町	72	塩野						○
42	正原	御代田町	73	塩野						○
43	菜場	御代田町	74	馬瀬口						○
44	辻倉城跡	御代田町	75	小田丹						○
45	戸谷城跡	御代田町	76	小田丹						○
46	榎倉	御代田町	79	兜玉						○
47	一本木	御代田町	81	兜玉						○
48	榎倉	御代田町	82	兜玉						○
49	下兜玉古墳	御代田町	83	兜玉						○
50	藤塚塚	御代田町	84	御代田					○	
51	小渚城跡	小渚市	78	丁						○
52	龍島古墳	小渚市	79	丁			○			
53	東沢城跡	小渚市	81	甲						○
54	松井古墳	小渚市	82	甲						○
55	土薮古墳群	小渚市	83	甲						○
56	郷土	小渚市	84	甲						○
57	郷土古墳群	小渚市	85	甲					○	
58	中松井城跡	小渚市	86	甲						○
59	古瀬野堂古墳	小渚市	87	甲						○
60	黒野裏A	小渚市	88	甲					○	
61	瀬下古墳群	小渚市	89	甲						○
62	石神遺跡群	小渚市	90	八溝						○
63	辻畝	小渚市	91	八溝						○
64	沼辺	小渚市	92	八溝						○
65	牛沖	小渚市	93	八溝						○
66	牛沖塚古墳	小渚市	94	塩野						
67	吉崎城跡	小渚市	95	塩野						○
68	善仁古墳	小渚市	96	塩野					○	
69	中大宮	小渚市	97	塩野			○			
70	下荒田	小渚市	98	塩野						○
71	七五三塚城跡	小渚市	108	甲						○
72	万才海土古墳	小渚市	109	甲						○
73	万才海土	小渚市	110	甲						○
74	下藪田	小渚市	115	丁						○
75	与倉平古墳	小渚市	116	甲						○
76	与倉城跡	小渚市	117	甲						○
77	藪屋	小渚市	118	甲						○
78	六道A	小渚市	119	甲						○
79	六道B	小渚市	120	甲						○
80	野岸	小渚市	121	甲					○	○
81	黒野裏B	小渚市	122	甲						○
82	東野岸	小渚市	123	甲						○
83	堀田原	小渚市	124	加増						○
84	与倉古墳	小渚市	126	甲						○
85	加増遺跡群	小渚市	127	加増						○
86	加増古墳群	小渚市	128	加増						○
87	日向	小渚市	129	加増						○
88	乙女城跡	小渚市	130	加増						○
89	源太谷地5号墳	小渚市	131	加増						○
90	藪	小渚市	132	加増						○
91	加増城跡	小渚市	133	加増						○
92	八子塚塚古墳	小渚市	134	加増						○
93	吉松一里塚	小渚市	135	甲						○
94	大塚遺跡群	小渚市	136	加増						○
95	岩松古墳群	小渚市	137	加増						○
96	吉原散	小渚市	138	加増						○
97	柏木北城跡	小渚市	139	柏木						○
98	柏木南城跡	小渚市	140	柏木						○
99	前原古墳	小渚市	141	柏木						○
100	柏木原遺跡群	小渚市	142	柏木						○
101	坪ノ内	小渚市	143	柏木						○
102	檀田A	小渚市	144	柏木						○
103	久保田	小渚市	146	平原						○
104	久保田古墳群	小渚市	147	平原						○
105	平原城跡	小渚市	148	平原						○
106	正原遺跡群	小渚市	149	平原						○
107	三田原遺跡群	小渚市	150	平原						○
108	三子塚遺跡群	小渚市	151	平原						○
109	寺裏塚古墳	小渚市	152	平塚						○
110	養老古墳	小渚市	153	塩野						○
111	上三田原城跡	小渚市	154	平原						○
112	十石城跡	小渚市	155	平原						○
113	三子塚1号墳	小渚市	156	平原						○
114	赤沼	小渚市	158	平原						○
115	中村	小渚市	166	山浦						○
116	大瀬	小渚市	167	甲						○
117	北原田	小渚市	169	甲						○
118	西原田	小渚市	170	甲						○
119	池久保	小渚市	171	甲						○
120	葛藤沢	小渚市	172	山浦						○
121	上龜川	小渚市	173	甲						○
122	龜川城跡	小渚市	174	甲						○
123	下龜川	小渚市	175	甲						○
124	立原	小渚市	176	甲						○
125	八幡在家古墳	小渚市	177	甲						○
126	八幡在家	小渚市	178	甲						○
127	北ノ城跡	小渚市	179	平取						○
128	九磨松	小渚市	180	甲						○

## 第3章 遺跡の位置と環境

地図 番号	遺跡名	市町村名	遺跡 番号	所在地	期 代						
					縄	弥	古	新	中	近	
129	前原山	小浜市	181	甲							
130	鎌久川城跡	小浜市	182	甲							
131	乙古墳	小浜市	183	甲							
132	上穂巻	小浜市	184	甲							
133	南諸山	小浜市	185	甲							
134	北諸山	小浜市	186	甲							
135	上山ノ前	小浜市	187	甲							
136	山ノ前	小浜市	188	甲							
137	開口B	小浜市	189	甲							
138	開口A	小浜市	190	甲							
139	釜神	小浜市	191	御影新田							
140	山神	小浜市	192	森山							
141	宮ノ反A遺跡群	小浜市	193	御影新田							
142	舟窪	小浜市	194	御影新田							
143	菅浦	小浜市	195	森山							
144	枅原遺跡群	小浜市	196	森山							
145	大塚原遺跡群	小浜市	197	御影新田							
146	三弘法山城跡	小浜市	198	平原							
147	一ツ谷大塚	小浜市	199	御影新田							
148	舟窪跡	小浜市	200	御影新田							
149	谷地原遺跡群	小浜市	201	御影新田							
150	長野原	小浜市	202	平原							
151	長野原塚古墳	小浜市	203	平原							
152	宮ノ反B	小浜市	204	御影新田							
153	埴物師屋	小浜市	205	御影新田							
154	宮口遺下	小浜市	208	山浦							
155	新城跡	小浜市	209	耳取							
156	大林	小浜市	210	耳取							
157	長林	小浜市	211	耳取							
158	耳取城跡	小浜市	212	耳取							
159	玄江院跡	小浜市	213	耳取							
160	宮ノ北	小浜市	214	耳取							
161	久保田	小浜市	215	耳取							
162	西城跡	小浜市	216	森山							
163	森山城跡	小浜市	217	森山							
164	大神前	小浜市	219	森山							
165	萩久保	小浜市	220	森山							
166	中原	小浜市	221	耳取							
167	牛原	小浜市	222	耳取							
168	十字塚古墳群	小浜市	223	耳取							
169	五方城	小浜市	224	市							
170	芝宮	小浜市	225	市							
171	北裏A	小浜市	226	市							
172	北裏B	小浜市	227	市							
173	耳取大塚古墳	小浜市	228	耳取							
174	北市古墳	小浜市	229	市							
175	和田原遺跡群	小浜市	230	和田							
176	人北原	小浜市	231	和田							
177	和田原A	小浜市	232	和田							
178	和田原B	小浜市	233	和田							
179	舟久保	小浜市	234	和田							
180	鎌田原	小浜市	235	御影新田							
181	中原遺跡群	小浜市	236	御影新田							
182	野火付城跡	小浜市	237	御影新田							
183	野火付古墳	小浜市	238	御影新田							
184	宮ノ下古墳	小浜市	239	耳取							
185	宮ノ前	小浜市	240	耳取							
186	宮ノ前古墳	小浜市	241	耳取							
187	五領A	小浜市	242	耳取							
188	五領B	小浜市	243	耳取							
189	五領C	小浜市	244	耳取							
190	萩原山古墳群	小浜市	245	市							
191	藤塚古墳	小浜市	246	市							
192	東城跡	小浜市	247	和田							

地図 番号	遺跡名	市町村名	遺跡 番号	所在地	期 代						
					縄	弥	古	新	中	近	
193	野火原	小浜市	252	御影新田							
194	下前山遺跡群	佐久市	1	小田井							
195	前山遺跡群	佐久市	2	小田井							
196	藤原屋遺跡群	佐久市	3	小田井							
197	青砥城	佐久市	4	小田井							
198	下前山原古墳群	佐久市	5	小田井							
199	近津遺跡群	佐久市	6	長土呂							
200	藤原屋遺跡群	佐久市	7	長土呂							
201	芝宮遺跡群	佐久市	8	長土呂							
202	長土呂遺跡群	佐久市	9	長土呂							
203	栗毛坂遺跡群	佐久市	10	小田井							
204	藤坂	佐久市	11	小田井							
205	中金井遺跡群	佐久市	12	小田井							
206	岐戸古墳	佐久市	13	小田井							
207	藤原古墳	佐久市	14	小田井							
208	からむし古道	佐久市	15	横根							
209	宇の原遺跡群	佐久市	17	横根							
210	上の原遺跡群	佐久市	18	横根							
211	上長坂遺跡群	佐久市	20	横根							
212	根坂	佐久市	21	小田井							
213	横根古墳群	佐久市	22	横根							
214	矢口古墳群	佐久市	23	横根							
215	平古墳群	佐久市	24	横根							
216	堀内田畠	佐久市	25	原田							
217	藤塚	佐久市	26	塚原							
218	前山遺跡群	佐久市	27	塚原							
219	塚田居原遺跡群	佐久市	28	塚田							
220	西近津遺跡群	佐久市	29	長土呂							
221	霊林城址	佐久市	30	栗田							
222	藤塚古墳群	佐久市	31	塚原							
223	堀小石古墳群	佐久市	32	塚原							
224	家田須古墳群	佐久市	33	栗田							
225	大豆塚古墳群	佐久市	34	塚原							
226	下大豆塚古墳群	佐久市	35	長土呂							
227	東池下古墳群	佐久市	36	栗田							
228	霊林古墳群	佐久市	37	長土呂							
229	下壷原	佐久市	38	長土呂							
230	瀧り	佐久市	39	塚原							
231	長土呂郡跡	佐久市	40	長土呂							
232	板取遺跡群	佐久市	41	岩村田							
233	中久保田	佐久市	42	岩村田							
234	西赤座	佐久市	43	岩村田							
235	上岩子	佐久市	44	岩村田							
236	新城	佐久市	45	岩村田							
237	藤巻	佐久市	46	上平尾							
238	西大久保遺跡群	佐久市	47	上平尾							
239	椎敷	佐久市	48	安原							
240	上小平	佐久市	49	岩村田							
241	下小平	佐久市	50	岩村田							
242	大井城跡	佐久市	51	岩村田							
243	岩村田遺跡群	佐久市	52	岩村田							
244	湧石	佐久市	53	上平尾							
245	湧石古墳	佐久市	54	上平尾							
246	椎敷古墳	佐久市	55	安原							
247	東大久保遺跡群	佐久市	56	上平尾							
248	十二前	佐久市	57	上平尾							
249	矢俣	佐久市	58	上平尾							
250	宮の前	佐久市	59	下平尾							
251	北山寺	佐久市	60	下平尾							
252	木田嶺	佐久市	62	下平尾							
253	白岩城跡(望古城)	佐久市	67	上平尾							
254	塚原古墳	佐久市	71	上平尾							
255	宮古墳	佐久市	72	上平尾							
256	宮の西古墳	佐久市	73	下平尾							

地名 番号	遺跡名	市町村名	遺跡 番号	所在地	時 代				
					縄 文	弥 生	古 金 奈	中 世	近 世
257	脇田遺跡群	佐久市	75	嶋瀬					
258	熊の堂	佐久市	78	嶋瀬					
259	足塚遺跡群	佐久市	79	嶋瀬					
260	新城	佐久市	80	塚原					
261	宮の前田	佐久市	82	塚原					
262	中津	佐久市	83	塚原					
263	瀬添	佐久市	85	岩田					
264	宮の前	佐久市	86	塚原					
265	瀬添	佐久市	87	塚原					
266	塚原屋敷跡	佐久市	88	塚原					
267	宮の塚古墳	佐久市	89	塚原					
268	狐塚古墳	佐久市	90	塚原					
269	瀬子田	佐久市	91	塚原					
270	西一里塚遺跡群	佐久市	92	岩村田					
271	日向屋敷	佐久市	93	榎々月					
272	榎々月井留敷	佐久市	94	榎々月					
273	榎々月氏館跡	佐久市	95	榎々月					
274	嶋瀬遺跡群	佐久市	96	榎々月					
275	武石久保	佐久市	98	岩村田					
276	中西の久保遺跡群	佐久市	99	岩村田					
277	中嶋澤遺跡群	佐久市	100	岩村田					
278	上砂田	佐久市	101	岩村田					
279	松の木	佐久市	102	岩村田					
280	瀬野分遺跡群	佐久市	106	榎々月					
281	寺廻遺跡群	佐久市	107	榎々月					
282	榎々月井東原跡跡	佐久市	108	榎々月					
283	榎々月大塚古墳	佐久市	109	榎々月					
284	瀬宮塚古墳	佐久市	110	榎々月					
285	上嶋澤古墳群	佐久市	111	榎々月					
286	清井山古墳	佐久市	112	岩村田					
287	国藏山古墳	佐久市	114	岩村田					
288	妻一本柳古墳	佐久市	115	岩村田					
289	中西の久保古墳群	佐久市	116	岩村田					
290	下原遺石	佐久市	118	岩村田					
291	姥塚遺跡群	佐久市	119	新子田					
292	東内沼	佐久市	121	新子田					
293	野馬塚遺跡群	佐久市	122	堀久保					
294	堀久保屋敷跡	佐久市	123	堀久保					
295	岩井堂	佐久市	124	岩村田					
296	野馬塚古墳	佐久市	125	堀久保					
297	肥塚古墳群	佐久市	126	安原					
298	戸原敷遺跡群	佐久市	127	安原					
299	堀久保遺跡群	佐久市	128	安原					
300	高野町遺跡群	佐久市	129	新子田					
301	霞野遺跡群	佐久市	130	安原					
302	東村遺跡群	佐久市	131	下平塚					
303	浅草遺跡群	佐久市	132	安原字					
304	前上屋敷	佐久市	133	安原字					
305	大井	佐久市	136	下平塚					
306	森城址	佐久市	139	安原					
307	安原大塚古墳	佐久市	141	安原					
308	相田	佐久市	202	嶋瀬					
309	熊畑	佐久市	203	嶋瀬					
310	浜合宮屋敷	佐久市	204	嶋瀬					
311	嶋瀬宮の前	佐久市	205	嶋瀬					
312	沼尾城跡	佐久市	206	嶋瀬					
313	下北古屋	佐久市	207	嶋瀬					
314	吉瀬	佐久市	209	野野					
315	谷沢田	佐久市	217	野野					
316	寺松坂	佐久市	218	野野					
317	石石	佐久市	219	野野					
318	舞台	佐久市	220	野野					
319	下島原遺跡群	佐久市	221	野野					
320	東森井戸	佐久市	222	野野					

地名 番号	遺跡名	市町村名	遺跡 番号	所在地	時 代				
					縄 文	弥 生	古 金 奈	中 世	近 世
321	大の黒塚古墳	佐久市	223	野野					
322	嶋瀬神明	佐久市	224	嶋瀬					
323	北邊見	佐久市	225	嶋瀬					
324	大和田屋敷遺跡群	佐久市	226	嶋瀬					
325	大和田遺跡群	佐久市	227	嶋瀬					
326	上平遺跡群	佐久市	228	嶋瀬					
327	嶋瀬中屋敷遺跡群	佐久市	229	嶋瀬					
328	白山遺跡群	佐久市	230	嶋瀬					
329	岩塚遺跡群	佐久市	231	横和					
330	鍛冶田	佐久市	232	横和					
331	武久保	佐久市	233	横和					
332	今井西原	佐久市	234	今井					
333	今井宮の前	佐久市	235	今井					
334	今井城跡	佐久市	236	今井					
335	浜合神明新跡	佐久市	237	嶋瀬					
336	道辺塚古墳	佐久市	238	嶋瀬					
337	藤塚古墳	佐久市	239	横和					
338	宮の上遺跡群	佐久市	240	横和					
339	中原遺跡群	佐久市	241	今井					
340	赤石河原	佐久市	242	榎々月					
341	土堂古墳	佐久市	243	三河田					
342	三河田大塚古墳	佐久市	244	三河田					
343	蟹ヶ沢古墳	佐久市	245	中込					
344	富士塚古墳	佐久市	246	堀久保					
345	西妻神	佐久市	247	中込					
346	藤塚前遺跡群	佐久市	248	堀久保					
347	大塚遺跡群	佐久市	249	中込					
348	馬瀬口遺跡群	佐久市	250	瀬戸					
349	梨の木1	佐久市	251	中込					
350	砂田	佐久市	252	堀久保					
351	和田	佐久市	253	瀬戸					
352	鶴の宮	佐久市	254	瀬戸					
353	深塚遺跡群	佐久市	255	瀬戸					
354	岩山遺跡群	佐久市	256	瀬戸					
355	中城塚城跡	佐久市	257	瀬戸					
356	中城塚古墳群	佐久市	258	瀬戸					
357	御塚古墳	佐久市	259	堀久保					
358	金比羅塚古墳	佐久市	260	堀久保					
359	和田上古墳	佐久市	261	瀬戸					
360	香山古墳	佐久市	262	志賀					
361	戸坂遺跡群	佐久市	263	新子田					
362	家の前	佐久市	267	新子田					
363	清水窪	佐久市	271	志賀					
364	鳥坂城跡	佐久市	275	新子田					
365	中妻塚	佐久市	337	瀬戸					
366	延寿城跡	佐久市	539	横和					
367	金丹城跡	佐久市	540	小田井					
368	青根新城	佐久市	541	岩村田					
369	浅井城跡	佐久市	545	新子田					
370	西つ塚古墳	佐久市	552	新子田					
371	森平	佐久市	593	横和					
372	久保田	佐久市	594	塚原					
373	庄山古墳	佐久市	595	塚原					
374	瀬口古墳	佐久市	811	堀名田					
375	五瀬城跡	佐久市	812	堀名田					
376	砂原	佐久市	813	堀名田					
377	山王	佐久市	814	堀名田					
378	下川原	佐久市	815	堀名田					
379	塚原裏遺跡群	佐久市	816	堀名田					
380	中平	佐久市	818	御馬寄					
381	田中島	佐久市	819	御馬寄					
382	御馬寄城跡	佐久市	820	御馬寄					
383	下平	佐久市	821	御馬寄					
384	橋野	佐久市	822	御馬寄					

## 第4章 遺跡の概観と調査の概要

### 第1節 遺跡の概観

本遺跡群は、早くから弥生時代から平安時代の遺跡として周知されており、昭和55年に中部横断自動車道用地を含む一帯の圃場整備事業、平成11年には佐久平駅周辺土地区画整理事業に伴い、佐久市教育委員会によって発掘調査が実施されている。

昭和55年に調査された周防畑B遺跡では、微高地のA～C地区（第2図）で弥生時代後期や平安時代の竪穴住居跡が98軒、掘立柱建物跡11棟、土坑、円形周溝墓などの遺構が検出され、弥生、奈良・平安時代の大集落であることが明らかにされた。このうち、今回の調査区と一部重なりを持って隣接するC地区は盛り土保存の後、圃場整備が実施されている（佐久市教委1982）。

平成11年に調査された周防畑遺跡群辻の前遺跡でも弥生時代後期～古墳時代初期の竪穴住居跡14軒、同遺跡群仲田遺跡でも平安時代の竪穴住居跡1軒などが検出されている（佐久市教委2001）。

また、小諸市中原遺跡群も同じ台地上に所在する一連の遺跡と考えられ、上信越自動車道と中部横断自動車道の建設に伴う発掘調査で、古墳時代後期から平安時代前半までの竪穴住居跡140軒、掘立柱建物跡100棟などが検出され、丸駒・鉈尾の帯金具、和銅開珎・萬年通寶の皇朝十二銭、鉄錘等が出土している（埋文センター1999）。

今回の調査対象地は、昭和55年度の調査で遺構が密集したA・C地点の西側で、C地点とは一部重なりを持つ。このため、調査前から弥生時代後期と奈良・平安時代の集落跡が検出されることが予想されていた。

### 第2節 調査の概要

調査対象地は、延長700mと非常に長く、圃場整備によって北から南へ階段状に下がる水田となっており、圃場整備前の地形はほとんど残っていない。このため、先ず調査区を北から市道02-005号線以北の1区、市道02-005号線からJR小海線までの2・3区、JR小海線から市道08-141号線までの4・5区、市道08-141号線からJR長野新幹線までの6区、JR長野新幹線から県道44号線までの7区に分け、2・3区は中央を南北に走る用水路で2区と3区に、4・5区は中央を南北に走る市道08-141号線によって区分した（第2図）。さらに、圃場整備によって段になっている部分で2・3・5区を2-①区から2-④区というように小区分した。このうち、1区は現在の佐久市遺跡詳細分布図では西近津遺跡群と周防畑遺跡群にまたがるが、調査時には全域が周防畑遺跡群の範囲であったため、周防畑遺跡群として報告する。

調査は、先ず遺跡の全体状況を把握することを目的として、調査対象地全域に用地に沿った東西と、等高線を横切る南北のT字にトレンチを入れて、確認調査を実施した（第7図）。トレンチ調査では遺構・

遺物の有無確認、土層観察、地形環境の検討などを行った。この結果、1・4・6・7区は低湿地で遺構は検出されず、水田の存在は想定されるものの、被覆砂層がないためトレンチ断面で畦畔が検出できず、2・3・5区を面調査することとした。

このうち、5区は調査区が東側残地の水田と市道08-141号との間を遮ることになり、営農に支障をきたすため、水田1筆ごとに約7m幅の農耕機具進入路を残して調査し、営農終了後に進入路を付け替えて、翌19年度に残りの部分を調査することとした。また2-③区は平成18年度の調査開始時点で未買収の用地があり、これも調査を翌19年度に持ち越すこととなった。

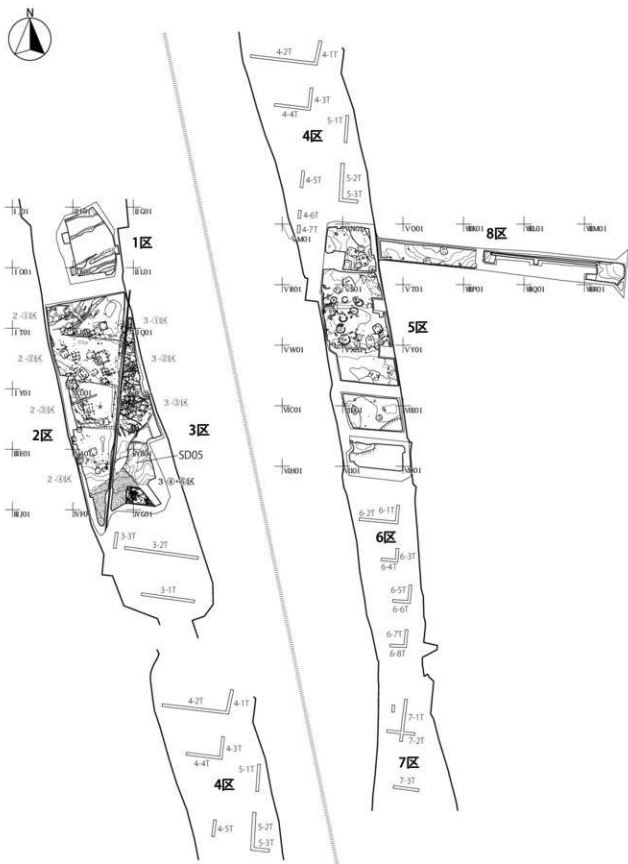
さらに平成21年度には、東側の市道01-125号線からのアクセス道路部分の調査をすることとなり、8区と名付けて調査を行った。

調査区内は、圃場整備時盛り土保存したにも関わらず、地山が削平されており、壁がほとんど残っていない堅穴住居跡が見られるなど、削平が著しい。削平によって消失した遺構も多いと思われる。

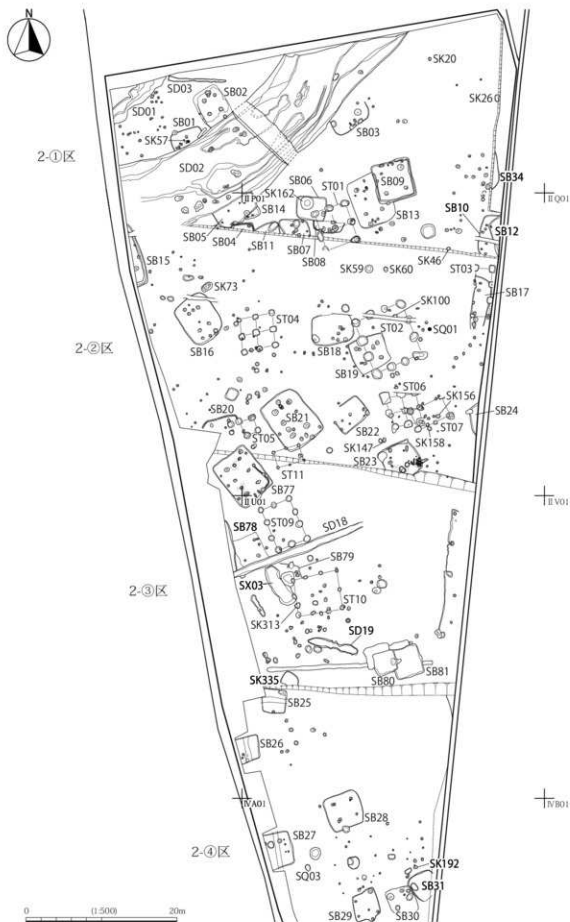
3年間の調査で、弥生時代の堅穴住居跡64軒、墓跡23基、奈良・平安時代の堅穴住居跡41軒、掘立柱建物跡13棟などが検出され、弥生時代の大型のヒスイ製勾玉や3連の銅鋼、古代の獸脚風字硯や川原寺式軒丸瓦、葉壺と思われる須恵器短頸壺などの遺物が出土した。

### 第3節 基本層序

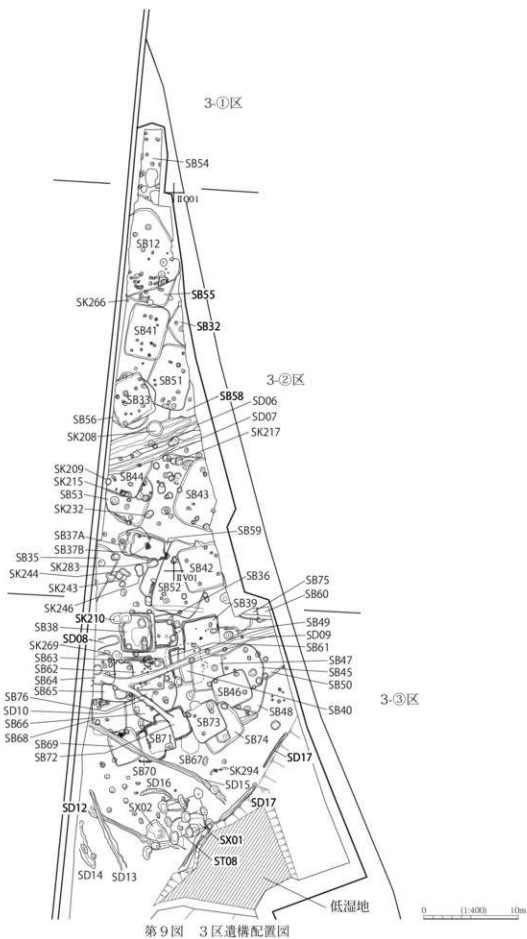
周防畑遺跡群の調査区内は、全面昭和55年に圃場整備を受けた後、水田となっている。このため、I層(現耕作土)は、すべての地点に共通して存在する。II層は、圃場整備による盛り土である。旧耕作土と思われ、圃場整備による盛り土が厚く、現代の耕作がその深さまで及んでいない地点に見られる。III層は、黒褐色の砂混じりシルトで、遺物包含層である。地点によって、洪水で運ばれたと思われる砂層や、粘土層が間に挟まることがある。旧地形によって厚さはまちまちで、低湿地で厚さが1m以上になるところもあるが、逆に2区では圃場整備で削平されて全く残っていない。弥生時代の土器棺墓はこの層中から検出されており、弥生時代の地表面はこの層中かこれよりも上層であるが、土器棺墓の掘り方をはじめ、遺構をこの層中で検出することは困難である。IV層は軽石層で、13,000年前の浅間第1軽石流と思われる。23,000年前の塚原泥流の高まり(流れ山)のある地点以外のすべての地点で見られる。III層上面での遺構検出が困難なことから、土器棺墓を除くほとんどの遺構はこのIV層上面で検出された。V層は塚原泥流で、圃場整備前は流れ山であったと思われる。8-①区に見られ、この上面で遺構が検出されている。



第7図 調査区全体と確認トレンチ位置図

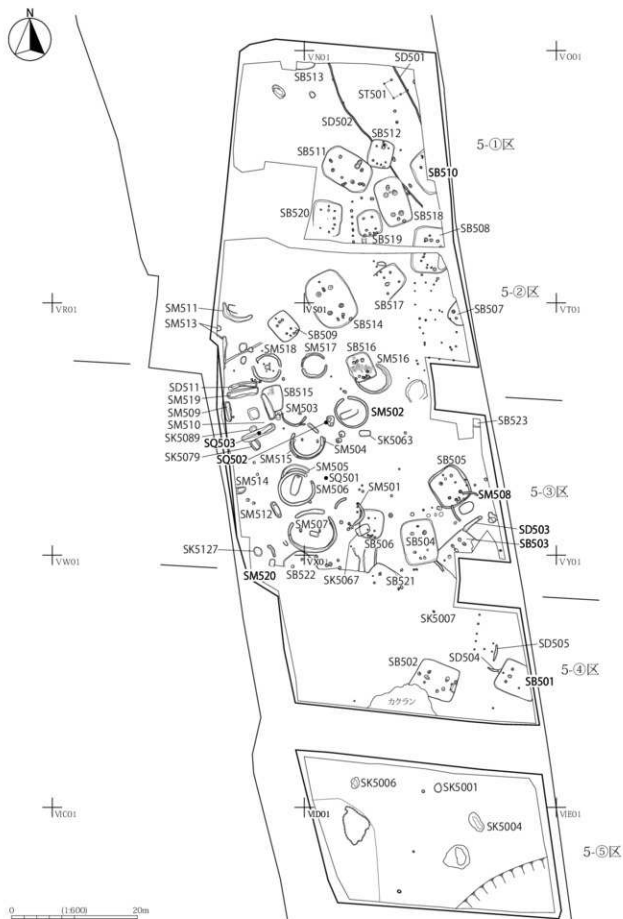


第8図 2区遺構配置図

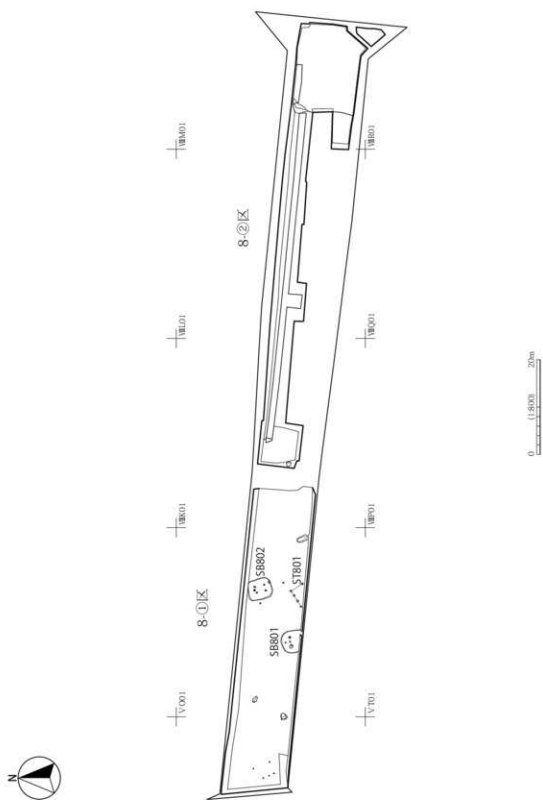


第9図 3区遺構配置図

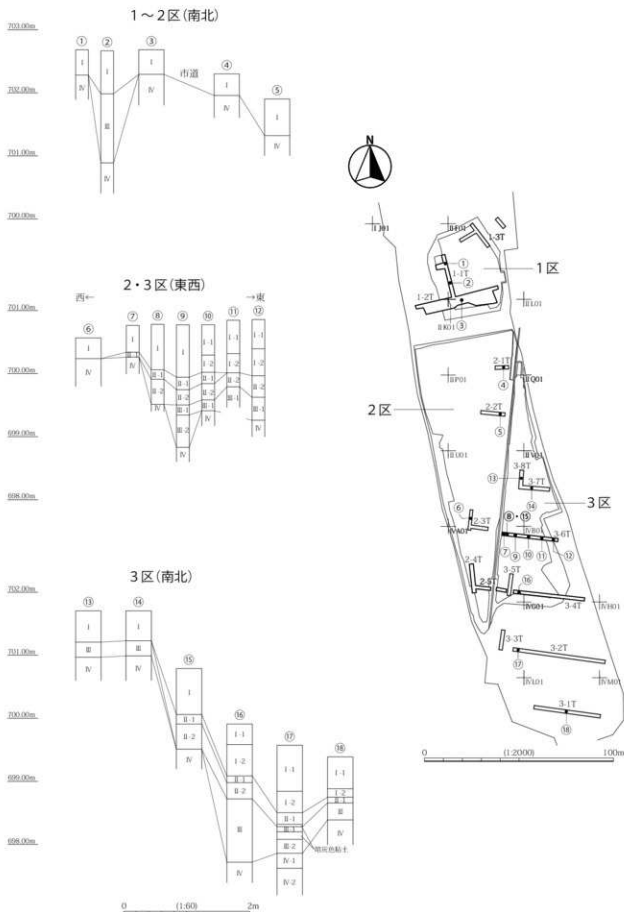




第10図 5区遺構配置図



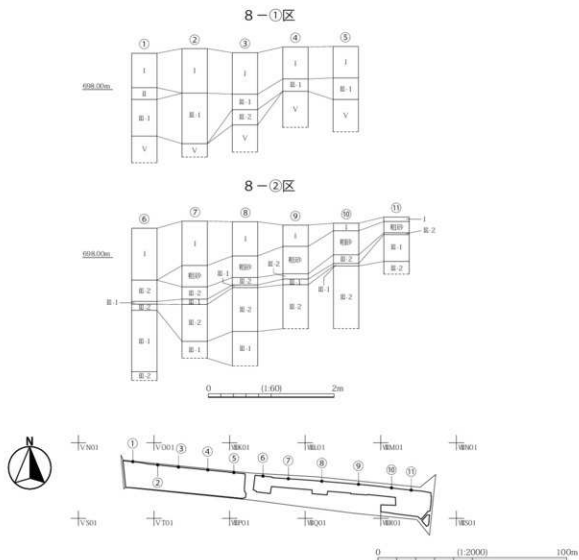
第11図 8区遺構配置図



第12図 1・2・3区土層柱状図



第13図 5区土層柱状図



第14图 8区土层柱状图

## 第5章 遺構と遺物

### 第1節 弥生時代の遺構と遺物

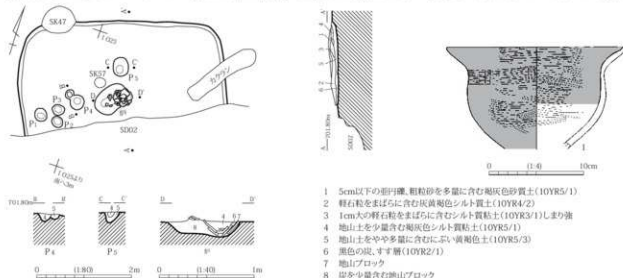
弥生時代の遺構は、2区、3区、5区、8区で、竪穴住居跡64軒、方形・円形周溝墓18基、土坑墓4基、土器棺墓4基のほか、土坑等が検出されている。但し、周溝墓は、調査区外にまたがるため、単なる溝なのか周溝墓の一部なのか判然としにくいものがある。土坑墓も遺物がほとんど出土しないことから、土坑墓なのか単なる土坑なのか確定できないものがある。また、土坑や溝跡は、遺物がほとんど出土しないもの、弥生時代と古代の遺物が共存し、どちらが混入か分からないものがあり、時期を決められないものが多い。このため、遺構数については不確定な要素があるが、2・3区の北部が弥生時代後期の集落跡、4区の湿地帯を挟んで、5区の南西部が弥生時代後期の墓域、これと隣接して、5区の北東部から8区にかけてが、弥生時代中後期の集落跡である。

#### 1. 竪穴住居跡

##### 1号住居跡 (SB01) [第15図 PL1]

**位置：**2-①区、I O 19・20・24・25 **検出：**IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状：**全形は不明であるが、隅丸長方形と思われる。 **規模：**東西4.3m、南北残存2.1m、検出面からの深さは9～16cm **主軸方位：**N-17°-W **遺構の重複：**2号溝跡、47・57号土坑に切られる。 **堆積状況：**6層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設：**炉とピット5基が検出されている。炉は、残存部中央南寄りに床面を掘り込み、土器片を敷いている。炉の西側と北側にP4・5があり支柱穴と思われる。床は炉の周辺が高く、壁際以外貼床である。 **遺物出土状況：**炉内に敷かれた土器はまとめて出土しているものの、複数個体の破片の寄せ集めであり、接合、図示できなかった。ほかに弥生土器と古代の土器が20kg埋土中に散在して出土している(第126表)。



第15図 1号住居跡 遺構図・遺物図

**遺物：**赤彩の弥生土器鉢（1）は、器高が低く脚付であったと思われる。そのほかは、いずれも小片で図示できなかった。

**時期：**出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第4表 1号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器鉢	(18.6)	—	底高 10.8	210	—	横ミガキ後赤彩、頸部襷状文	横ミガキ後半赤彩	—	普通	淡褐色	細砂やや多	30%	

## 2号住居跡 (SB02) [第16図 PL 1・20]

**位置：**2-①区、I O 20 **検出：**IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状：**隅丸長方形 **規模：**東西残存4.0m、南北残存4.3m、検出面からの深さ1～12cm **主軸方位：**N-32°-W **遺構の重複：**南部を2号溝跡に切られる。 **堆積状況：**わずかに残る埋土は2層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設：**6基のピットが検出されている。P1～4が主柱穴と思われる。炉は検出されていない。床は硬い。

**遺物出土状況：**床面南東部で、蓋（1）が東壁際、壺（6・7）、甕（9・10）が2号溝跡に切られた床面近くでまとまって出土し、小型の甕（8）がP2底面、甕（5）がP5上面で出土している。その他に、弥生土器ほか8.1kg埋土より出土している（第126表）。 **遺物：**壺（6）は頸部に矢羽根状沈線文が付く。甕胴部には甕（8）は櫛描波状文、甕（5・9・10）は櫛描羽状文が施される。

**時期：**出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第5表 2号住居跡出土土器観察表

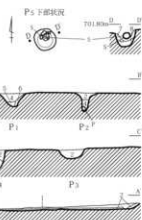
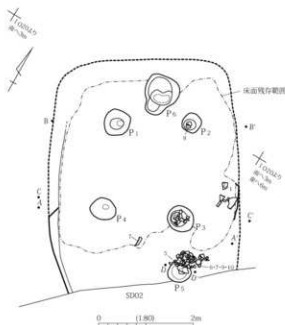
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器蓋	(17.5)	距径 5.5	9.7	235	天开部横ナデ	横ナデ、縦ハケ目	横ナデ、縦ハケ目	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	40%	中央付近に約4mmの孔
2	埋土	弥生土器鉢	(12.3)	4.5	6.7	160	へう割り	横ミガキ後半赤彩	横ミガキ後半赤彩	放射状ミガキ後半赤彩	普通	褐色	1mm以下の細砂やや多	70%	
3	埋土	弥生土器高杯	器径 9.6	—	底高 12.0	230	脚部内面横ハケ	横ミガキ後半赤彩	縦縞のミガキ	縦縞のミガキ	良好	赤褐色	細砂少量	40%	
4	埋土	弥生土器台付甕	器径 6.1	—	底高 4.0	40	脚部内面ナデ	縦へう割り	ナデ	ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	10%	脚部外面の一部所に浅い凹み
5	P5	弥生土器甕	15.0	7.3	17.3	640	へう割り	下半縦ミガキ、上半櫛描羽状文、頸部襷状文	横ナデ後半横ミガキ	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒少量	90%	
6	床面	弥生土器壺	—	7.4	底高 28.5	570	磨滅	横ミガキ後半赤彩	横ナデ後半赤彩	ナデ後一部ハケ目	やや軟	淡褐色	1mm以下の砂粒やや多	30%	
7	床面	弥生土器壺	(32.5)	—	底高 13.5	580	—	横ミガキ後半赤彩	横ミガキ後半赤彩	—	やや軟	淡黄褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
8	P2	弥生土器甕	11.6	5.5	12.2	383	へう割り	横ミガキ後半赤彩	横ミガキ	ミガキ	普通	茶褐色	1mm以下の細砂やや多	95%	以上
9	床面	弥生土器甕	—	7.2	底高 21.5	360	へう割り	下半へう割り、頸部櫛描羽状文	横ナデ後半一部ミガキ、ハケ	ナデ後一部ミガキ、ハケ	普通	灰褐色	1mm以下の砂粒やや多	20%	
10	床面	弥生土器甕	19.4	(6.4)	(30.3)	1240	へう割り	横ミガキ	横ミガキ	ミガキ	普通	淡赤灰色	2mm以下の砂粒やや多	60%	

## 3号住居跡 (SB03) [第17図 PL 1]

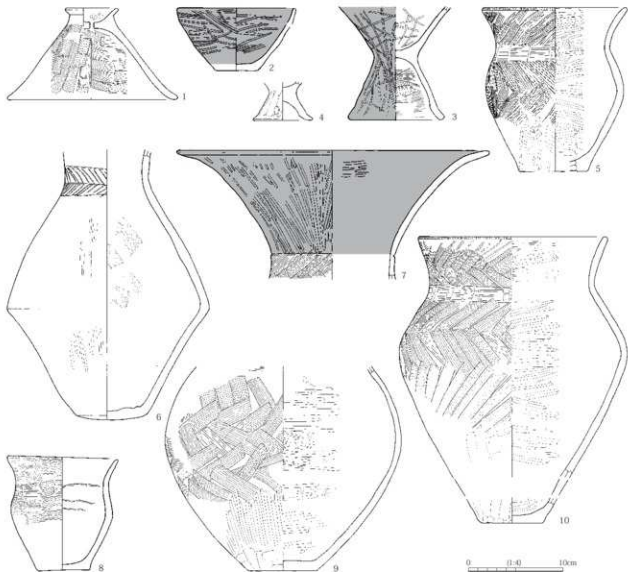
**位置：**2-①区、II K 17・18・22 **検出：**IV層上面でわずかに埋土の黒色土の残存により検出された。

**形状：**全形は不明であるが、隅丸長方形と思われる。 **規模：**東西5.4m、南北残存4.2m、検出面からの深さは3～7cmである。 **主軸方位：**N-29°-W **遺構の重複：**北部を2号溝跡に切られる。 **堆積状況：**削平のため、不明。

**住居内施設：**南西部P7横に土器敷炉があると調査時の所見があるが、P7は主柱穴であり、その横では火災の危険などがあり、炉とするには躊躇される。P6・7が主柱穴、南壁際のP5・4が梯子穴と思われる。P2はP3と対になるもう一つの梯子穴であるほか、鉢（1）と蓋（3）が出土することから、



- 1 地山、砂礫を微量含む褐色粘質シルト(10YR4/1)
- 2 地山、軽石、礫を少量含む褐色粘質シルト(10YR5/1) しまり強、粘り中
- 3 地山、礫の混じる赤い黄褐色土(10YR6/3) しまり弱、粘り中
- 4 砂礫を少量含む褐色粘質シルト(10YR4/1)
- 5 地山の混じる黄褐色土(10YR6/3)
- 6 地山の混じる赤い黄褐色土(10YR6/3)
- 7 0.5cmほどの軽石粒を微量含む褐色粘質シルト(10YR4/1) しまり弱、粘り中
- 8 1~2cmほどの軽石粒を少量含む赤い黄褐色粘質シルト(10YR5/4) しまり強、粘り中



第16図 2号住居跡 遺構図・遺物図



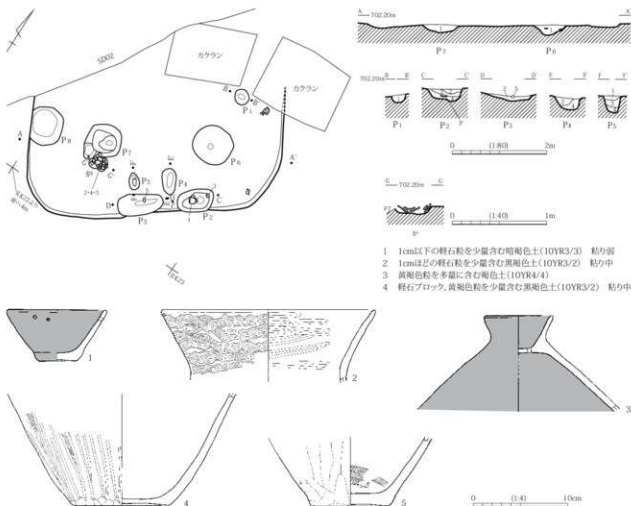
貯蔵具があって貯蔵穴であった可能性もある。床は硬い。

**遺物出土状況：**P7南側の床面で、甕(2・4)と壺(5)破片が、P2内からは完形に近い鉢(1)と蓋(3)が出土しているほか弥生土器が3.6kg埋土から出土している(第126表)。**遺物：**鉢(1)は口縁部に2個1対の小孔が空いている。蓋(3)も天井部に2個1対の小孔が空いている。

**時期：**出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第6表 3号住居跡出土土器観察表

四角番号	出土部位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P2	弥生土器鉢	10.2	4.1	5.5	155	ヘラ削り	縦横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂少量	95%以上	口縁下に2個1対の小孔
2	床面	弥生土器甕	(2.2.4)	—	7.7	135	—	縞縞羽状文	横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂やや多	5%未満	
3	P2	弥生土器蓋	—	距径7.0	現高10.3	460	天井部縦ミガキ	縦横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	80%	天井部に約1cm間隔で2個1対の小孔
4	床面	弥生土器壺	—	10.1	現高11.8	560	ヘラ削り	ハケ調整後縦ミガキ、下部ヘラ削り	横ナデ	ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	10%	
5	床面	弥生土器甕	—	8.0	現高7.1	300	ヘラ削り	縦ヘラ削り	横ハケ目	ハケ目	普通	淡茶褐色	細砂やや多	5%	



第17図 3号住居跡 遺構図・遺物図

#### 4号住居跡 (SB 04) [第18図 PL 2]

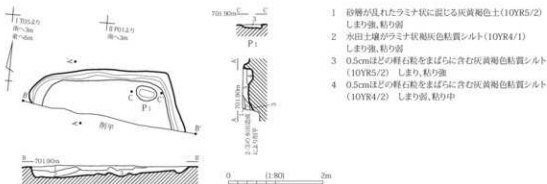
**位置：**2-①区、I T 5、II P 1 **検出：**IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状：**全形は不明であるが、隅丸方形、または隅丸長方形と思われる。**規模：**東西30m、南北残存1.2m、検出面からの

深さは8～20cmである。 主軸方位：N-5°-W 遺構の重複：5・11号住居跡を切る。 堆積状況：4層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット1基と周溝が検出されている。ピットは住居内の北東隅にあるが、支柱穴とするには隅に近すぎ、性格は不明である。周溝は北西隅から東壁北部まで、住居跡の残存部分を全周している。貼床はないが、床は硬い。

遺物出土状況：埋土から弥生土器が2片出土している。いずれも小片で図示できなかった。

時期：少量ではあるが弥生土器の出土から弥生時代と思われる。



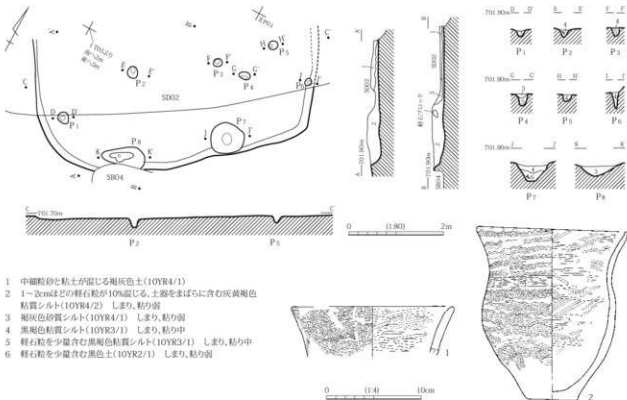
第18図 4号住居跡 遺構図

5号住居跡 (SB05) [第19図 PL2]

位置：2-①区、IT5、IIK21、P1 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。 形状：全形は不明であるが、隅丸長方形と思われる。 規模：東西5.8m、南北残存2.9m、検出面からの深さ12～20cm 主軸方位：N-40°-W 遺構の重複：2号溝跡、4号住居跡に切られ、14号住居跡を切る。

堆積状況：3層に分かれ、レンズ状の堆積。

住居内施設：直径20～25cmと小さめのP1～6が床面の南部で、70～90cmと大きめのP7・8が南



第19図 5号住居跡 遺構図・遺物図

壁下で検出されているが、性格は不明である。炉は検出されていない。床は平らであるが、柔らかい。

**遺物出土状況:** 埋土から弥生土器ほか6.2kg 出土している(第126表)。**遺物:** 甕2点(1・2)が図示できたほか、壺、甕、高杯片、混入と思われる土師器、須恵器が出土しているがいずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第7表 5号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	(16.6)	—	器高 5.3	117	—	縹緋羽状文	横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	
2	埋土	弥生土器 甕	15.5	5.4	18.0	560	へう削り	下部へう削り、胴部縹緋羽状文	横ミガキ	ミガキ	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	50%	

### 6号住居跡(SB06) [第20図 PL 2・37]

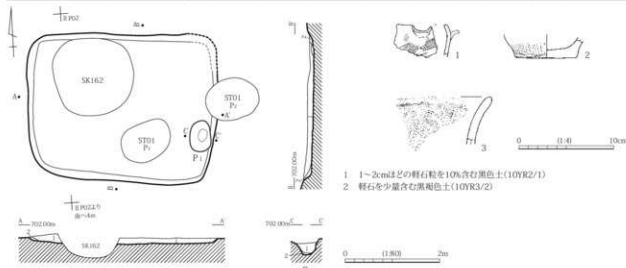
**位置:** 2-①区、ⅡP1・2 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西4.0m、南北4.0m、検出面からの深さ5~22cm **主軸方位:** W-5°-N **遺構の重複:** 1号掘立柱建物跡のP1・2と162号土坑に切られ、8号住居跡とも重なりを持つ。**堆積状況:** 2層に分かれる。自然堆積と思われる。

**住居内施設:** 東壁下にP1が検出されたが、性格は不明である。炉は検出されていない。床は地山のままである。

**遺物出土状況:** 埋土中から弥生土器ほか6.27g 出土している(第126表)。**遺物:** 片口鉢の口縁部(1)、甕の底部(2)と口縁部(3)を図示したが、いずれも小片である。**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第8表 6号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 片口鉢	4.5×3.5	—	7	—	—	横ナデ 一部ハケ	横ナデ	—	良好	淡褐色	細砂やや多	5% 未測	
2	埋土	弥生土器 甕	6.2	—	器高 2.4	70	無調整	縦縞かへう削り	ナデ	ナデ	普通	淡褐色	細砂やや多	5% 未測	
3	埋土	弥生土器 甕	7.5×5.3	—	30	—	—	縹緋羽状文	縦縞のミガキ	—	良好	黒褐色	細砂少量	5% 未測	拓本



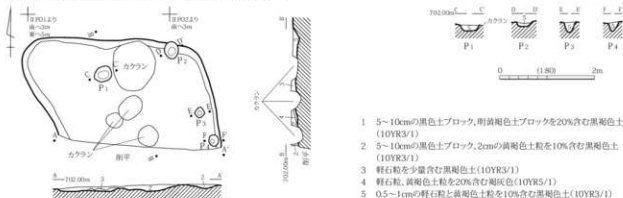
第20図 6号住居跡 遺構図・遺物図

### 7号住居跡(SB07) [第21図 PL 2]

**位置:** 2-①区、ⅡP1・2 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 全形不明、隅丸

平行四辺形 規模：東西3.6m、南北残存2.3m、検出面からの深さは2～10cm 主軸方位：N-25°-W  
 遺構の重複：なし。南部を掘場整備時に削平される。堆積状況：床面は削平されて掘り方のみ残存する。  
 住居内施設：床面北側から東壁下にP1～4が検出されているが、性格は不明である。炉は検出されていない。  
 遺物出土状況：土器小片が散在している。弥生土器ほか311g出土しているが（第126表）、いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第21図 7号住居跡 遺構図

### 8号住居跡 (SB08) [第22図 PL 2]

位置：2-①区、ⅡP2 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西4.1m、南北残存1.6m、検出面からの深さ3～14cm 主軸方位：N-13°-E 遺構の重複：1号掘立柱建物跡に切れ、6号住居跡とも重なりを持つが、北半の切り合い部分を削平されているため、前後関係は不明である。堆積状況：単層

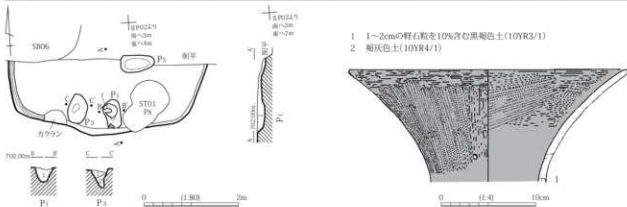
住居内施設：ピット3基が検出されている。南壁下のP1・3が入口施設と思われる。炉は検出されていない。床は薄い貼床である。

遺物出土状況：壺(1)がP1の上層から出土しているほか、床面から、弥生土器ほか1.3kg出土している(第126表)。遺物：壺(1)は、口縁の下部に直径5mmの穿孔が1cmの間隔で2個あったと思われる。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第9表 8号住居跡出土土器観察表

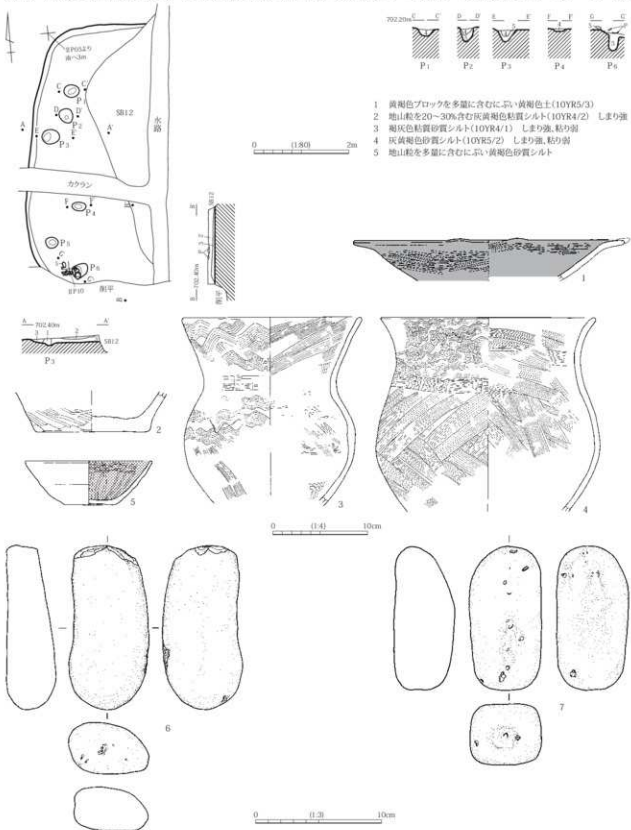
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P1	弥生土器壺	29.2	—	定高11.8	735	—	口縁部ミガキ半後赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂や砂多	10%	頸部に5mmほどの孔



第22図 8号住居跡 遺構図・遺物図

## 10号住居跡 (SB10) [第23図 PL 2・37]

位置：2-①区、ⅡP 4・5・9・10 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西残存2.5m、南北残存5.4m、検出面からの深さ4～10cm 主軸方位：N-10°-E 遺



第23図 10号住居跡 遺構図・遺物図

構の重複：12号住居跡に切られる。 堆積状況：3層に分かれる。

住居内施設：西壁に沿ってP1～6があるが、西壁に近すぎて、支柱穴とは思われず、性格は不明である。炬は検出されていない。

遺物出土状況：壺底部片（3）と甕（4）がP6周辺で出土しているほか、床直上と埋土から弥生土器ほか4.5kg出土している（第126表）。黒色土器杯（1）は、混入と思われる。 遺物：高杯（2）は、口縁が水平に広がり、4単位の突起が見られる。甕（4・5）は胴部が丸みを持ち、胴部最大径が、口径とほぼ等しくなるものである。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第10表 10号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器高杯	(28.0)	—	高さ4.5	77	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂や中多	30%	
2	伊?	弥生土器壺	—	12.1	高さ4.4	467	へう附り	へう附り後斜めミガキ	ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	2～3mm砂粒、小石や中多	5%未満	
3	P6、伊	弥生土器甕	(18.6)	—	高さ19.8	475	—	上下斜めハケ調整、上宇磨損状況	横～斜めハケ目	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	20%	
4	埋土	弥生土器甕	(22.5)	—	高さ23.5	410	—	口縁部磨損状況文、胴部磨損羽状文	口縁部磨ハケ、胴部斜めハケ	—	良好	淡褐色	細砂少量	20%	
5	埋土	黒色土器杯	(13.1)	5.3	4.7	87	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	—	普通	茶褐色	1mm以下の細砂や中多	40%	

第11表 10号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
6	伊?	磨き石	90%	13.1	6.4	4.1	500	砂岩	
7	伊?	磨き石	100%	11.5	5.9	4.9	578	火山岩	

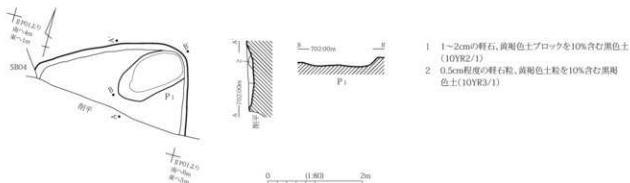
## 11号住居跡 (SB11) [第24図 PL 2]

位置：2-①区、II P 1 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。 形状：隅丸方形または隅丸長方形 規模：東西3.2m、南北残存1.8m、検出面からの深さ2～15cm 主軸方位：N-14°-W 遺構の重複：4号住居跡に切られる。 堆積状況：掘り方のみ残存し、埋土は残っていない。

住居内施設：東北隅にP1があり、大きさから貯蔵穴と思われる。

遺物出土状況：弥生土器ほか3片が出土したのみで、いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第24図 11号住居跡 遺構図

## 12号住居跡 (SB12) [第25図 PL 2]

位置：2-①・3-②区、II P 5・10、Q 1・6 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西6.8m、南北8.4m、検出面からの深さ19～42cm 主軸方位：N-17°-W 遺構の重複：10・55号住居跡を切る。堆積状況：5層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット24基が検出されている。住居内の位置からP1～3が主柱穴でP5が土器敷き炉であったと思われるが、そのほかのピットは性格不明である。

遺物出土状況：壺(3)がP4、鉢(4)がP12から出土しているほか、埋土から弥生土器ほかが14.1kg出土している(第126表)。灰軸陶器皿(7)がP15から出土しているが他の遺物と時代が異なり、P15が本住居跡を切る土壌であった可能性が高い。遺物：無頸壺(1)は口縁部に2個1対の小孔が空けられている。壺(2)は矢羽根状沈線文が施された頸部の下部に横一文字の沈線が付いたボタン状の添付文が付く。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第12表 12号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考	
1	埋土	弥生土器 無頸壺	6.6×3.3	—	—	15	—	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ	—	良好	淡褐色	細砂やや多	5% 未測	口縁部に2個1対の小孔	
2	埋土	弥生土器 甕	10.0×3.9	—	—	40	—	羽状沈線、 円形浮文	横ナデ土曜 縦ミガキ後 赤彩	—	普通	淡褐色	1～2mm 細 砂、砂粒や 多	5% 未測	頸部に円形浮文	
3	P4	弥生土器 甕	—	11.3	器高 20.2	2300	へうすり	—	下半縦ミガ キ中位縦ハ ケ後横ミガ キ後赤彩	横ハケ目	へうすり	普通	淡褐色	1mm 以下の 細砂少量	40%	—
4	P12	弥生土器 鉢	—	4.4	器高 4.8	120	へうすり	縦線の幅広 のミガキ後 赤彩	縦線の幅広 のミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡褐色	1～2mm 細 砂、砂粒や 多	60%	—	
5	埋土	弥生土器 甕	8.0×12.3	—	—	80	—	柳葉状沈文、 頸部環状文	一部横ハケ	—	普通	灰褐色	1mm 以下の 細砂少量	5% 未測	拓本	
6	埋土	弥生土器 甕	(20.8)	—	器高 8.1	233	—	柳葉状沈文、 頸部環状文	横ミガキ	—	普通	灰褐色	細砂少量	30%	—	
7	P15	灰軸陶器 皿	(13.4)	高台径 5.6	2.7	92	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	精良	50%	—	

## 13号住居跡 (SB13) [第26図 PL 2]

位置：2-①区、II K 22・23、P 2・3 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西5.3m、南北6.6m、検出面からの深さ0～20cm 主軸方位：N-20°-W 遺構の重複：9号住居跡に切られる。堆積状況：削平されて埋土はほとんど残っていない。

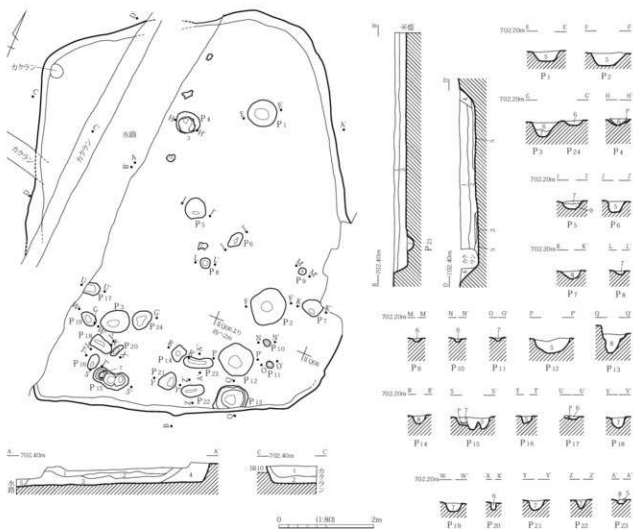
住居内施設：炉とピット12基が検出されている。炉は北側中央で土器敷き炉である。ピットは、住居内の位置からP1・5・10が主柱穴、P3・6が棟持柱と思われるが、そのほかは性格不明である。床は全面貼床である。

遺物出土状況：壺(1)がP9から出土しているほか、埋土から弥生土器ほかが2.0kg出土している(第126表)。遺物：壺(1)は2個1対の小孔が口縁部の2箇所に空けられている。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

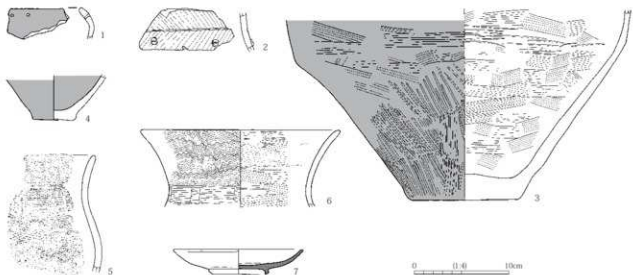
第13表 13号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P9	弥生土器 甕	9.7	7.8	24.0	780	へうすり	縦ミガキ後 赤彩	頸部細かい 縦線のハケ 目、口縁部 赤彩	ハケ目	良好	淡褐色	細砂少量	60%	口縁部に2個1対の小孔
2	P3・9	弥生土器 甕	—	13.5	器高 13.7	920	へうすり	下部縦ミガ キ、中横ミ ガキ後赤彩	磨滅	磨滅	普通	淡赤灰色	2mm 以下の 砂粒多	5%	—



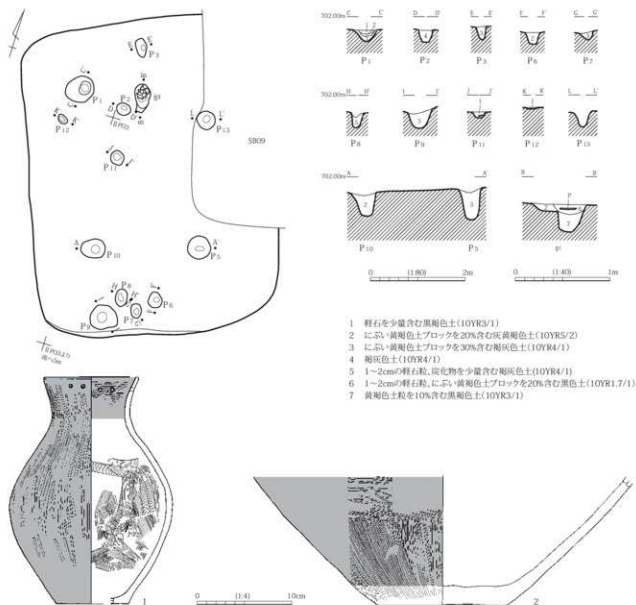
- 1 軽石粒、黄褐色土ブロックを10%含む黒色土(10YR2/1)
- 2 軽石粒、黄褐色土ブロックを10%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 3 1cm以下の軽石粒を10%含む黒色土(10YR2/1)
- 4 0.5cm程度の軽石粒を10%含むやや暗めの黒色土(10YR2/1)
- 5 黄褐色土ブロック、灰褐色土ブロックを10%含む黒褐色土(10YR3/1)

- 6 軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR3/1)
- 7 黒褐色土を30%含む灰褐色土(10YR4/1)
- 8 灰黄褐色や中砂質土(10YR4/2)
- 9 黄褐色ブロックを40%含む褐灰色土(10YR5/1)



第25図 12号住居跡 遺構図・遺物図





第26図 13号住居跡 遺構図・遺物図

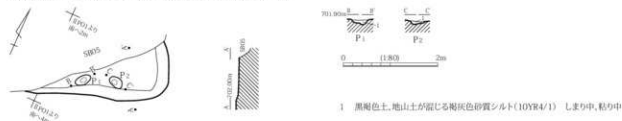
14号住居跡 (SB14) [第27図]

位置: 2-①区、II P1 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 不明 規模: 東西2.9m、南北残存1m、検出面からの深さ6~9cm 主軸方位: 不明 遺構の重複: 5号住居跡に切られる。堆積状況: 削平されて、埋土はほとんど残っていない。

住居内施設: ビット2基が検出され、住居内の位置から梯子穴と思われる。ほかに施設は検出されていない。

遺物出土状況: 埋土から壺・甕が各1片が出土しているが、いずれも小片で図示できなかった。

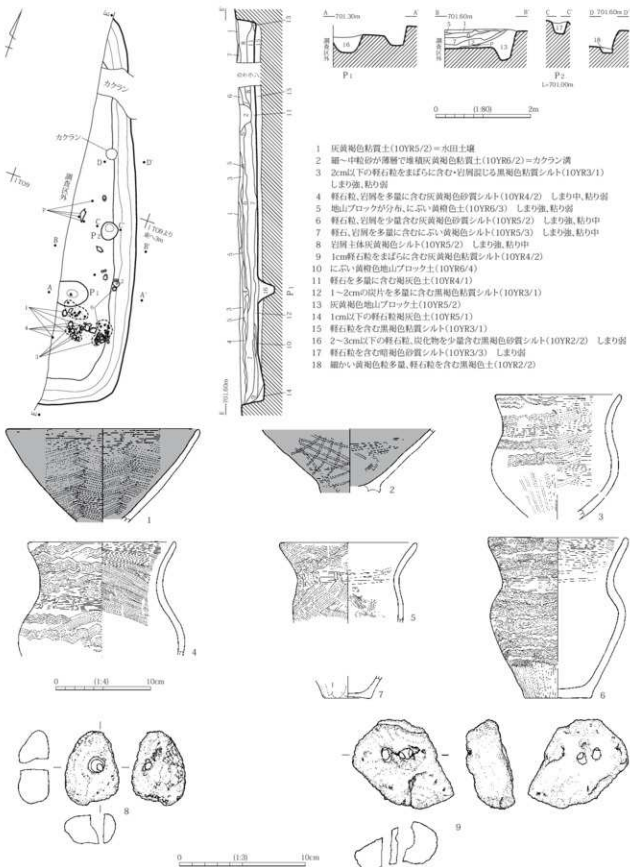
時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第27図 14号住居跡 遺構図

15号住居跡 (SB15) [第28図 PL 3・21・37]

位置：2-②区、IT4・9 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形と思



第28図 15号住居跡 遺構図・遺物図

われる。規模：東西残存1.6m、南北残存7.8m、検出面からの深さ27～49cm 主軸方位：N-19°-W 遺構の重複：なし。西側の大部分が調査区外である。堆積状況：14層に分かれ、自然堆積と思われる。住居内施設：ピット2基が検出されているほか、壁下に幅15～20cm、深さ5～10cmの周溝が巡る。床は全面貼床である。炉は検出されていない。

遺物出土状況：高杯(1・2)、甕(3・4・6)が住居跡南東部の床面でまとまって出土しているほか、弥生土器ほかが9.6kg出土している(第126表)。遺物：甕(3・4・6)は胴部に櫛描波状文が施されるが、甕(5)のみ横の櫛描羽状文が施される。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第14表 15号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	粘土	残存率	備考
1	床面	弥生土器高杯	20.2	—	器高 9.9	534	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡灰色	1mm以下の砂粒や砂多	40%	
2	床面	弥生土器高杯	—	—	器高 6.6	205	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	灰褐色	細砂や砂多	20%	
3	床面	弥生土器甕	13.0	—	器高 13.3	360	—	下部横ミガキ、上宇櫛描波状文	横ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂少量	50%	
4	床面	弥生土器甕	15.2	—	器高 12.0	448	—	櫛描波状文、頭部櫛描波状文	横ハケ	—	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒や砂多	40%	
5	埋土	弥生土器甕	(14.2)	—	器高 8.5	94	—	櫛描羽状文	横ミガキ後ハケ目	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%	
6	床面	弥生土器甕	14.2	7.1	器高 17.0	819	ヘラ削り	下部ヘラ削り、中～上部櫛描波状文	横ミガキ	ミガキ	普通	茶褐色	1mm以下の砂粒や砂多	95%	
7	埋土	弥生土器甕	—	4.7	器高 2.4	51	塊状の物による押しえ	縦ヘラ削り	ヘラナデ	ヘラナデ	普通	淡赤褐色	細砂や砂多	5%未満	

第15表 15号住居跡石器出土土器観察表

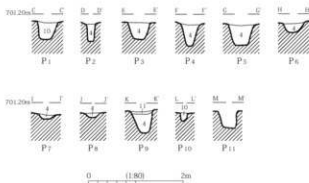
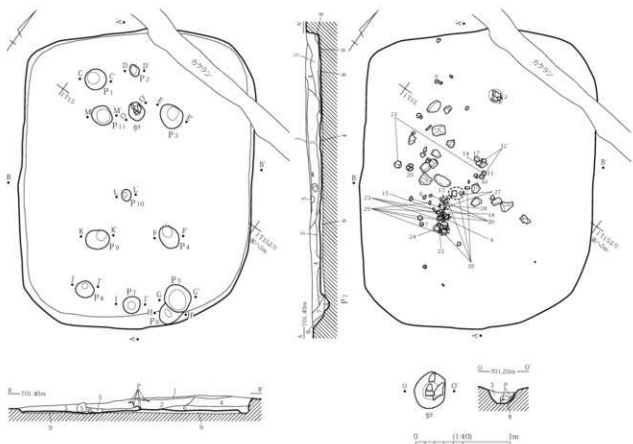
図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
8	埋土	石製品	10%	5.9	4.2	2.4	14	軽石	
9	埋土	石製品	10%	7.1	8.0	3.8	46	軽石	

### 16号住居跡 (SB16) [第29・30図 PL 3・21・37・39・40・41・57]

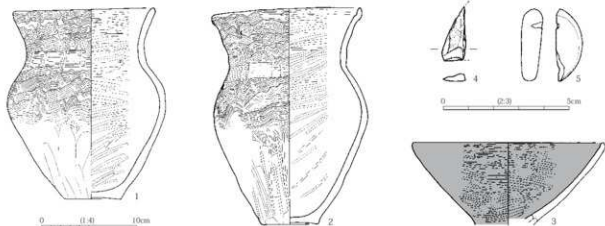
位置：2-①区、IT9・10・14・15 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。中央に古代の土器とカマドの芯材と思われる礫の集中箇所があったが、平面観察でもトレンチによる断面観察でも、本住居跡と異なる立ち上りを確認できず、記録上は本住居出土のものとして取り上げた。本住居跡を入れ子状に切る古代の住居跡または土坑があったものと考えられる。形状：隅丸長方形 規模：東西5.0m、南北6.3m、検出面からの深さ10～35cm 主軸方位：N-33°-W 遺構の重複：なし 堆積状況：8層に分かれる。中央部の堆積が不自然であり、この部分を中心とする住居跡とは別の掘り込みがあったと思われる。

住居内施設：炉とピット11基が検出されている。炉はP11・3のほぼ中間で検出されている。住居内の位置からP11・3・4・9が主柱穴、P2・7が棟持柱と思われるが、そのほかのピットは性格不明である。床は全面、軽石と粘質土の混じった貼床である。

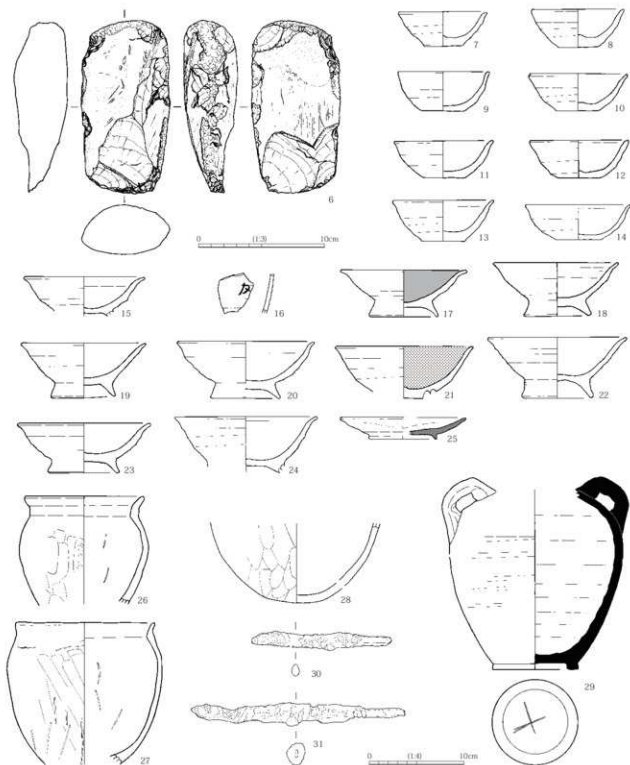
遺物出土状況：住居跡中央部西寄り古代の土器(7～29)と礫がまとまり、その北側で弥生土器甕(2)、P4・5の両方から弥生土器高杯(1)、P5で弥生土器高杯(3)が出土するなど、弥生土器と古代の土器が計16.1kg出土しているほか(第126表)、南部で動物歯の小片が出土している(第6章4)。遺物：土器器椀(16)は、体部側面に墨書があるが、右側が欠けており、字は不明である。土器器高台付椀(17)は内面赤彩、同(21)は内面黒色処理される。ヒスイ硬玉製勾玉(5)は、頭部の穿孔が貫通しておらず、途中で止まっている。時期：住居跡の形態は弥生時代のものであり、本住居跡は出土する弥生土器(1～3)から、弥生時代後期の住居跡と思われる。



- 1 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2)
- 2 軽石粘を少量含む褐色粘質シルト(10YR4/1) しまり強,粘り中
- 3 炭を含む黒褐色粘質シルト(10YR3/2)
- 4 1~5cm軽石粘,ブロックをまばらに含む灰黄褐色粘質砂質シルト(10YR4/2) しまり強,粘り中
- 5 砂礫が混じる灰黄褐色粘質粘質シルト(10YR5/2) しまり,粘り弱
- 6 軽石,炭を多量に含む褐色炭化物層(10YR4/1)
- 7 褐色粘質シルト(10YR4/1)
- 8 5cm以下の軽石を少量含む灰黄褐色やや砂質粘質シルト(10YR4/2)
- 9 地山砂礫と粘質土からなる灰黄褐色粘質シルト(10YR5/2)=粘り強
- 10 黒褐色粘質シルト(10YR2/2) しまり弱
- 11 黒色土(10YR1.7/1) しまり弱



第29図 16号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第30図 16号住居跡 遺物図(2)

第16表 16号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P4・5	弥生土器 鉢	14.6	5.9	20.2	760	へう附り	縦へう附り 上半縞線状 斑文	横ミガキ	ミガキ	普通	褐色～灰 褐色	2mm以下の 砂粒や草多	70%	
2	床面	弥生土器 鉢	15.5	5.8	22.8	950	へう附り	下半ハク調 整後縦へう 附り、上半 縞線状斑文	内面横ミガ キ	ミガキ	普通	茶～暗褐 色	2mm以下の 砂粒や草多	95%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考	
																—
3	P5	赤土器高杯	20.0	—	底高 8.7	302	—	緑ミガキ後赤彩	靨の産物のミガキ後赤彩	—	普通	淡灰色	細砂少量	60%		
7	床面	土師器小碗	9.2	4.0	3.7	96	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	中央ナデ残り	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	100%		
8	床面	土師器小碗	9.5	4.2	4.0	120	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	中央ナデ残りへそ状	普通	淡褐色	細砂少量	100%		
9	床面	土師器小碗	9.6	4.6	4.2	106	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂やや多	95%以上		
10	床面	土師器小碗	10.1	4.5	3.9	121	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	中央ナデ残りへそ状	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂やや多	100%	
11	床面	土師器小碗	10.2	4.3	4.0	136	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	90%		
12	床面	土師器小碗	10.4	4.0	4.0	106	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒	80%		
13	床面	土師器小碗	10.4	4.5	4.4	101	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡褐色	2mm以下の砂粒	80%		
14	床面	土師器小碗	10.9	4.8	3.7	115	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂やや多	100%		
15	床面	土師器高台付樽	12.6	—	底高 4.1	162	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	90%		
16	埋土	土師器樽	3.7 × 4.3		—	10	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡褐色	細砂やや多	5%未満	遺棄?	
17	床面	土師器高台付樽	(13.0)	高台径 7.2	5.0	150	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	60%		
18	床面	土師器高台付樽	13.0	高台径 6.6	5.7	214	回転へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂やや多	80%		
19	床面	土師器高台付樽	13.0	6.5	5.8	261	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	3mm以下の小石、砂粒少量	95%以上		
20	床面	土師器高台付樽	14.3	高台径 7.0	6.0	194	割渡	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒やや多	60%		
21	床面	黒色土器高台付樽	14.3	—	底高 5.5	202	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰褐色	細砂少量	80%		
22	床面	土師器高台付樽	(14.4)	7.0	6.5	175	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡灰色	3mm以下の小石少量	40%		
23	床面	土師器高台付樽	(13.8)	高台径 7.0	5.3	176	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	ナデ残りへそ状	普通	淡褐色	細砂少量	70%		
24	床面	土師器高台付樽	(14.8)	—	底高 5.9	137	回転へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂、浮分の吹出しやや多	60%		
25	埋土	灰軸陶器皿	(13.0)	(7.0)	2.3	40	回転へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	2mm大小砂粒、細砂少量	5%		
26	床面	土師器甕	12.4	—	底高 11.3	285	—	粗いへう割り	横ナデ後斜めへう割り	—	普通	茶褐色	細砂やや多	30%		
27	床面	土師器甕	14.6	—	底高 15.0	298	—	斜めのへう割り	横ナデ後靨へう割り	—	普通	灰褐色	細砂少量	20%		
28	床面	土師器甕	—	6.2	底高 8.6	155	—	ナデ後一部へう割り	靨へう割り	ナデ	ナデ	普通	赤褐色	白色細砂多	20%	
29	床面	赤土器耳付樽	—	高台径 8.8	底高 23.2	1215	回転へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	1mm以下の細砂やや多	50%	底面へう割り「×」	

第 17 表 16号住居跡出土石器観察表

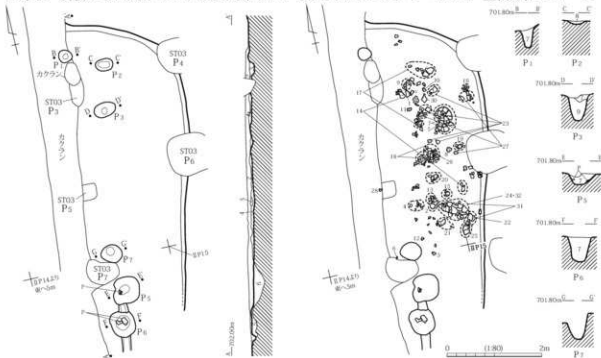
図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
4	埋土	磨製石鏃	20%	2.2	1.0	0.3	緑色片岩		
5	南部	短刀	50%	2.9	1.0	0.9	ヒスイ	比重 3.22	
6	床面	石斧	100%	13.7	7.1	3.9	550	泥岩	

第 18 表 16号住居跡出土金属器観察表

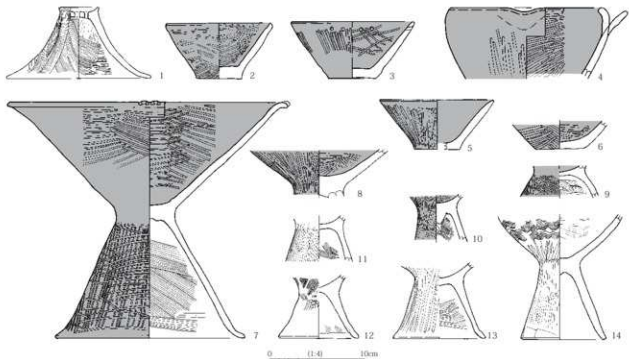
図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の現状		
			長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)			
30	埋土	刀子	15.0	3.64	272	73.9	14.88	1.46	0.74	23.5	分割3点。錆び、土砂全体に付着。
31	南部	小刀	22.8	3.80	323	206.3	22.66	2.14	1.97	91.8	先端部の錆び、錆び、土砂全体に付着。

## 17号住居跡 (SB17) [第31・32図 PL 3・21・22]

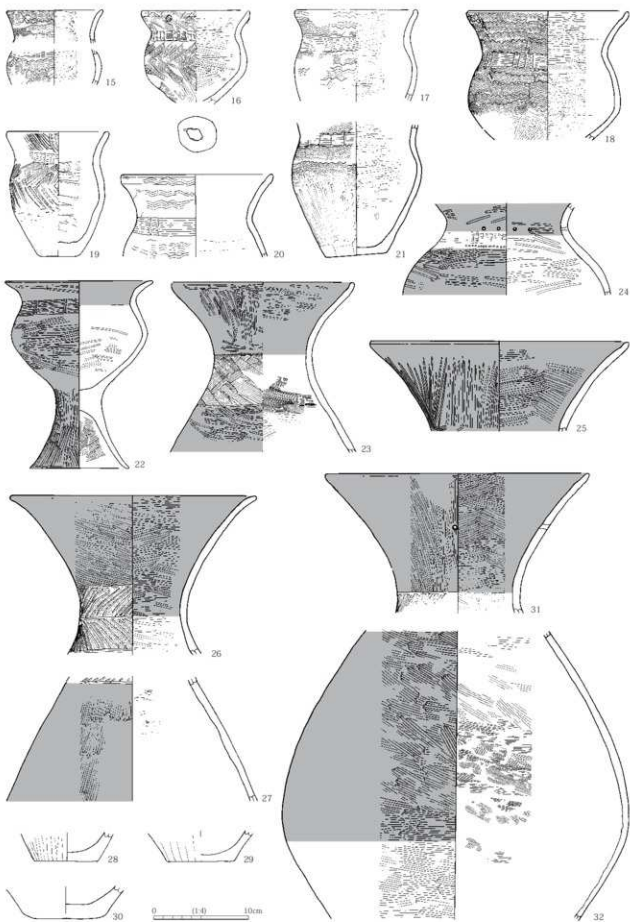
位置：2-②区、II P 9・10・14・15 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西残存2.4m、南北残存6.9m、検出面からの深さ1~13cm 主軸方位：N-14°-E



- 1 軽石を多量に含む褐色粘質シルト(10YR4/1)
- 2 1~2cm軽石粒を少量含む灰黄褐色粘質シルト(10YR5/2) しまり強、粘り中
- 3 1cm以下の軽石粒をまばらに含む褐色粘質シルト(10YR5/1) しまり強、粘り中
- 4 1cm以下の炭を多量に含む褐色粘質シルト(10YR4/1) 3より粘り強
- 5 地山をブロック状に含む赤い黄褐色粘質シルト(10YR6/3)
- 6 軽石粒と粘質シルトが層状に堆積した灰黄褐色砂質シルト(10YR4/2)
- 7 細かい黄褐色土粒、炭化物を少量含む黒褐色砂質シルト(10YR2/2) しまり、粘り中
- 8 黄褐色、灰白粘土ブロックを多量、炭化物を少量含む黒褐色砂質シルト(10YR2/3) しまり、粘り中
- 9 黒褐色土粒を少量含む浅黄褐色砂質シルト(10YR8/3)



第31図 17号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第32图 17号住居跡 遺物图(2)



**遺構の重視:** 3号掘立柱建物跡のP3～7に切られる。**堆積状況:** 4層に分かれる。自然堆積と思われる。住居内施設: P1～3・5～7のピット6基が検出されている。住居内の位置からP3・5が主柱穴と思われるが、そのほかのピットは性格不明である。P5からは、南に向かって、間仕切り溝と思われる溝が延びている。床面は地山のままであるが硬い。

**遺物出土状況:** 住居跡北東部から東部にかけての床面で弥生土器がまとめて出土するなど、合計24.1kgが出土しているほか(第126表)、シカ角、イノシシ上顎骨・第2大臼歯、動物種不明の腰椎骨も出土している(第6章4)。**遺物:** 蓋(1)は天井に2個1対の孔がある。鉢(3)も口縁下に2個1対の小孔がある。台付甕(16)は底部に焼成後の穿孔がある。壺(31)も口縁部の中ほどに小孔が空いている。**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第19表 17号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	總高 (cm)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考	
1	床面	弥生土器蓋 (15.0)	—	口径 4.0	7.5	180	天井部へつ 削り	縦ハケ目	縦ハケ目	天井部内面 へラナデ	普通	淡褐色	細砂少量	50%	径4mmで2個1 対の孔	
2	床面	弥生土器鉢 (15.0)	11.0	4.8	5.9	195	へら削り	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡褐色	細砂少量	95%		
3	床面	弥生土器鉢 (12.8)	—	底径 5.0	6.0	105	へら削り	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡褐色	細砂少量	30%	口縁に2個1対 の小孔が2箇所	
4	床面	弥生土器片口鉢 (15.0)	—	—	底高 5.5	155	—	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	20%		
5	床面	弥生土器鉢 (11.8)	—	底径 4.8	5.3	70	へら削り	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	30%		
6	床面	弥生土器鉢 (11.8)	—	底径 5.0	3.0	80	へら削り	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡赤褐色	細砂少量	30%		
7	床面	弥生土器高杯 (19.8)	28.8	—	脚径 19.8	25.1	1065	胴部内面 横ハケ目	胴部内面 横ハケ目	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	やや軟	淡黄褐色	細砂少量	80%	
8	床面	弥生土器高杯 (19.8)	—	—	底高 5.0	170	胴部内面 へラナデ	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	5%		
9	床面	弥生土器高杯 (19.8)	—	—	底高 3.3	60	胴部内面 ハケ目	横ミガキ後 赤彩	—	表面剥落	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	5%		
10	床面	弥生土器高杯 (19.8)	—	—	底高 5.1	65	胴部内面 横ハケ目	—	—	横ミガキ後 赤彩	普通	明赤褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%		
11	床面	弥生土器台付甕 (19.8)	—	—	底高 4.8	95	胴部内面 へラナデ後 横ハケ目	—	—	へラナデ	普通	茶褐色	1mm以下の 細砂少量	5%	未煮	
12	床面	弥生土器台付甕 (19.8)	—	脚径 9.6	底高 6.7	110	胴部内面 横ミガキ後 一部ハケ目	縦ハケ目	へラナデ	へラナデ	普通	淡褐色	細砂少量	5%		
13	床面	弥生土器台付甕 (19.8)	—	脚径 9.6	底高 8.0	210	胴部内面 横ハケ目	横ミガキ後 縦へら削り	へラナデ	へラナデ	普通	淡赤褐色	細砂やや多	10%		
14	床面	弥生土器台付甕 (19.8)	—	脚径 8.4	底高 13.3	385	胴部内面 横ミガキ後	縦縞波状文	横ハケ目	ハケ目	良好	明赤褐色	1mm以下の 細砂少量	20%		
15	床面	弥生土器甕 (19.8)	19.0	—	底高 7.2	110	—	縦縞波状文	横ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂少量	20%		
16	床面	弥生土器台付甕 (19.8)	11.1	—	底高 9.9	275	—	下部腹ミガ キ中～上半 縞縞波状文	横ミガキ	—	良好	淡赤褐色	1mm以下の 細砂少量	80%	底部に器台の剝離 痕	
17	床面	弥生土器甕 (12.6)	—	—	底高 9.7	160	—	縦縞波状文	横ハケ後 横ミガキ	—	やや軟	淡茶褐色	細砂少量	30%		
18	床面	弥生土器甕 (12.6)	16.7	—	底高 13.7	520	—	下部腹ミガ キ中～上半 縞縞波状文	腹口の折め ハケ後横ミ ガキ	—	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂やや多	70%		
19	床面	弥生土器甕 (10.5)	10.5	4.3	13.2	285	へら削り	へら削り 、下半縞 縞縞波状文	ナデ	ナデ	普通	褐色	1mm以下の 細砂少量	80%		
20	床面	弥生土器甕 (10.5)	15.6	—	底高 8.6	280	—	縦縞波状文	横ミガキ	—	やや軟	灰褐色	1mm以下の 細砂やや多	20%		
21	床面	弥生土器甕 (10.5)	—	底径 6.3	底高 14.3	330	へら削り	へら削り 、下半縞 縞縞波状文	横ハケ後 横ミガキ	ハケ後 ミガキ	普通	茶褐色	1mm以下の 細砂やや多	40%		
22	床面	弥生土器台付甕 (10.5)	15.4	脚径 10.4	19.8	380	胴部内面 横ハケ目	胴部横ミガ キ、胴部 横ミガキ	横ミガキ	ミガキ	普通	淡褐色	細砂やや多	40%		

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
23	床面	弥生土器	19.0	—	現高 18.1	320	—	横ミガキ後赤彩	横ハケ	—	普通	淡褐色	1mm以下の砂粒少量	5%	
24	床面	弥生土器	—	—	現高 9.8	265	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ、腹部赤彩	—	やや軟	淡褐色	1mm以下の砂粒やや多	10%	頸部に2個1対の小孔
25	床面	弥生土器	(27.0)	—	現高 9.6	270	—	横ナゲ後縦ミガキ、赤彩	横ナゲ後縦ミガキ、赤彩	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%	
26	床面	弥生土器	25.7	—	現高 16.8	970	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	10%	
27	床面	弥生土器	—	—	現高 13.1	265	—	縦ミガキ後赤彩	横ハケ後表面割落	—	普通	淡い赤褐色	1mm以下の砂粒やや多	5%	
28	埋土	弥生土器	—	6.7	現高 3.1	100	割代痕	縦ヘウ削り	ナゲ	ナゲ	普通	淡褐色	細砂、若用	5%未満	
29	床面	弥生土器	—	7.0	現高 3.2	130	ヘウナゲ後一部ヘウ削り	縦ヘウ削り	ナゲ、ヘウナゲ	ナゲ、ヘウナゲ	普通	淡灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
30	床面	弥生土器	—	6.0	現高 3.4	300	割代痕	縦ミガキ	ナゲ	ナゲ	普通	淡赤灰色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
31	床面	弥生土器	27.6	—	現高 14.8	1080	—	縦ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	良好	淡褐色	細砂少量	20%	口縁の中部に直径4mmの小孔
32	床面	弥生土器	—	—	現高 30.4	805	—	横ミガキ後赤彩	横ハケ後表面割落	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂	10%	

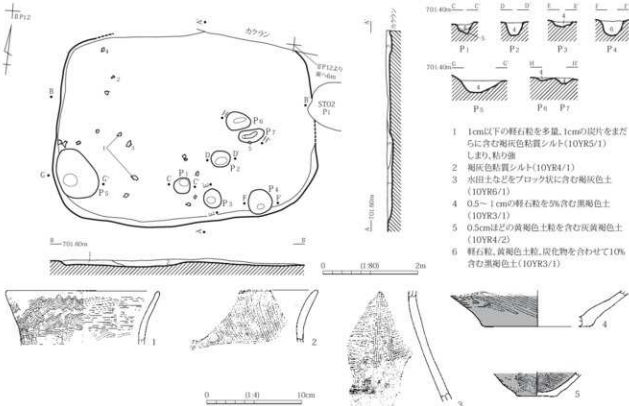
## 18号住居跡 (SB18) [第33図 PL 3]

位置：2-②区、ⅡP7・12 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西5.6m、南北4.0m、検出面からの深さ0~9cm 主軸方位：E-12°-N 遺構の重複：2号掘立柱建物跡のP1に切られる。堆積状況：3層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット7基が検出されているが、南東部に偏っており、性格は不明である。床面は地山のままである。

遺物出土状況：床面、埋土から弥生土器ほか16kg出土している（第126表）。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第33図 18号住居跡 遺構図・遺物図

第20表 18号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 甕	16.0	—	器高 5.7	45	—	縹緋紋状文	横ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%	
2	床面	弥生土器 甕	10.4 × 5.7	—	器高 —	42	—	縹の縹緋状 縹	一部横ミガ キ後赤彩	—	良好	黒褐色	細砂少量	5% 未測	拓本
3	床面	弥生土器 甕	6.9 × 12.2	—	器高 —	85	—	縹緋の ミガキ	横ハケ目	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	5% 未測	拓本
4	床面	弥生土器 甕	—	(11.0)	器高 3.8	70	へう割り	横ミガキ後 赤彩	表面刷毛	刷毛	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未測	
5	床面	弥生土器 鉢	—	(4.0)	器高 2.5	23	へう割り	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡褐色～ 灰色	細砂少量	10%	

## 20号住居跡 (SB20) [第34図 PL 3]

位置: 2-②区、I T 20 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 不明 規模: 東西 4.9m、南北残存 2.7m、検出面からの深さ 0cm 主軸方位: 不明 遺構の重複: 5号掘立柱建物跡の P1・2に切られる。堆積状況: 削平されて、周構内を除いて埋土は残っていない。

住居内施設: ピット5基と北壁沿いの周溝が検出されている。ピットは性格不明である。床は地山のままで軟弱である。

遺物出土状況: 床面から弥生土器ほか2.1kg出土している(第126表)。

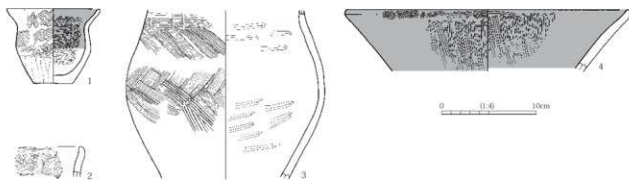
時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第21表 20号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	19.0	4.1	7.9	97	へう割り	下平堀へう 割りの縹緋紋 状文	横ミガキ後 上平赤彩	ミガキ	普通	淡褐色	細砂少量	50%	
2	P4	弥生土器 甕	5.0 × 3.3	—	器高 —	25	—	縹緋紋状文	横ナデ	—	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂少量	5% 未測	拓本
3	埋土	弥生土器 甕	—	—	器高 17.8	445	—	下平堀へう 割り、中上 縹緋羽状紋 縹	横ミガキ後 横ミガキ	—	普通	淡褐色	細砂少量	20%	
4	埋土	弥生土器 甕	(29.6)	—	器高 6.6	90	—	縹緋のミガ キ後赤彩	縹緋のミガ キ後、赤彩	—	普通	淡茶褐色	1mm以下の 縹砂やや多	5% 未測	



1 黄褐色土胎、軽石粉を少量含む黒褐色土(10YR2/2)



第34図 20号住居跡 遺構図・遺物図

## 21号住居跡(SB21) [第35・36図 PL3・22・38]

位置：2-②区、II P16・17・21・22 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西5.9m、南北7.6m、検出面からの深さ8~27cm 主軸方位：N-37°-W 遺構の重複：11号掘立柱建物跡のP2・3に切られる。堆積状況：2層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ビッド13基と炉が検出されている。住居内の位置からP1~4が柱柱穴、P7が棟持柱、P9・10が入口施設にと思われるが、そのほかのビッドは性格不明である。床は地山のままであるが壁際を除き硬い。

遺物出土状況：埋土やビッド内から19.9kgの弥生土器ほかとニホンジカの白歯が出土している(第126表・第6章4)。**遺物**：甕(1)は小型で、鉢のような器形である。甕(3~11)は胴部と口縁部に櫛描羽状文が施されるもの(4・9・11)と、櫛描波状文が施されるもの(3・5・6・10)、混在するもの(7)がある。壺(12~17)は頸部に櫛描沈線が施されるもの(12)とT字文が施されるもの(13・15)がある。匙形土製品(18)は内外面がよく磨かれて赤彩される。縄文土器深鉢(19・20)は混入と思われる。銅鏝(21)は今回の調査で唯一の出土である。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第22表 21号住居跡出土土器観察表

図版 番号	出土部位・ 位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P8	弥生土器 甕	Ø6.0	4.4	5.0	80	ヘラ削り	横ミガキ、 下部ヘラ削り	縦ミガキ	ミガキ	良好	淡赤褐色	1mm以下の 細砂や中多	50%	底部に1箇所 6mmの孔
2	床面	弥生土器 鉢	(11.4)	4.0	6.0	75	ヘラ削り	横ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	褐色色	細砂少量	20%	
3	埋土	弥生土器 壺	10.4	4.4	13.5	340	ヘラ削り	縦ハケ、櫛 描羽状文	横ミガキ	ミガキ	普通	暗茶褐色	1mm以下の 細砂少量	90%	
4	P8	弥生土器 甕	(19.9)	—	高さ 17.1	375	—	櫛描羽状文	横ハケ後 まぼらな 横ミガキ	—	良好	暗褐色	細砂や中多	10%	
5	床面	弥生土器 甕	(11.4)	—	高さ 10.0	80	—	ハケ調整後 櫛描波状文	横ナデ後縦 ヘラミガキ	—	普通	暗褐色	細砂や中多	5% 未測	
6	埋土	弥生土器 壺	—	5.2	高さ 4.5	130	一方穴ヘラ 削り	縦ヘラ削り 洗刷波状文、 施文	横ナデ一部 赤き上好 磨る	ナデ	良好	淡赤褐色	1mm以下の 細砂や中多	5%	
7	埋土	弥生土器 甕	—	6.0	高さ 9.6	75	ヘラ削り	上下ヘラ削り 後縦ミガキ、 中へ上 半櫛描羽状 文	横ナデ後一 部縦ミガキ	ナデ	普通	暗褐色	2mm以下の 砂粒少量	20%	
8	P1	弥生土器 壺	—	6.0	高さ 4.7	145	ヘラ削り	縦ヘラ削り	横ナデ	ヘラナデ	普通	褐色色	細砂や中多	5% 未測	
9	P8	弥生土器 甕	(21.0)	—	高さ 16.6	405	—	櫛描羽状文	一部縦ヘラ 削り後 横ミガキ	—	良好	赤褐色	細砂や中多	10%	
10	P5	弥生土器 甕	(23.2)	—	高さ 9.8	145	—	細ハケ 調整後 櫛描波状文	横へ斜めハケ 調整後 両方横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	5%	
11	P8	弥生土器 壺	—	8.1	高さ 10.7	745	ヘラ削り	上部縦ミガキ、 中部 ハケ目	横へ斜めハケ 調整後 横ミガキ	ヘラナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂や中多	20%	
12	埋土	弥生土器 甕	(12.8)	—	高さ 6.6	75	—	横ミガキ	横ミガキ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5% 未測	
13	P8	弥生土器 壺	—	5.8	高さ 12.0	310	ナデ	横ミガキ後 赤彩	横ハケ目	ヘラナデ	普通	淡黄褐色	細砂少量	50%	
14	埋土	弥生土器 甕	—	7.6	高さ 2.6	146	ヘラ削り後 洗刷ミガキ	横ヘラ削り 洗刷ミガキ	横ナデ	ヘラミガキ	普通	灰褐色	細砂少量	5%	
15	P2	弥生土器 壺	—	—	高さ 17.5	1390	—	横所々 縦ミガキ	横へ斜めハケ 目	—	良好	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	20%	
16	P4	弥生土器 壺	—	11.0	高さ 16.4	1665	ヘラ削り	下部ヘラ削り 後縦ミガキ、 赤彩	表面剥落	表面剥落	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂や中多	20%	
17	床面	弥生土器 甕	—	10.8	高さ 13.8	1210	ヘラ削り	縦ミガキ	横ハケ	ナデ削落	普通	淡茶褐色	3mm以下の 砂粒や中多	5%	
18	検出面	弥生土器 匙形土製品	6.4 × 4.6 × 2.6	—	—	36	—	ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂・炭化 物多	40%	

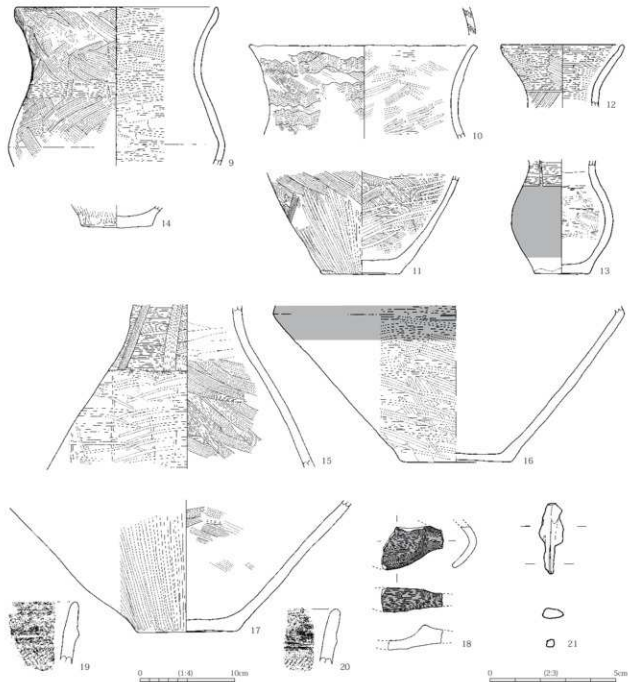
図版番号	出土層位・位置	面積	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
19	埋土	縄文土器 深鉢	4.9 × 6.5	—	65	—	縄文、土曜 部除け付 け後横ミ 方手	横ミ方手	—	普通	赤褐色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未満	拓本	
20	埋土	縄文土器 深鉢	3.4 × 5.7	—	42	—	縄文、土曜 部除け付 け後横ミ 方手	横ミ方手	—	普通	赤褐色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未満	拓本	



第35図 21号住居跡 遺構図・遺物図 (1)

第23表 21号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	処理前				処理後				遺物の現状
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	
21	床直	刺鏝	30.7	10.9	3.8	1.5	29.1	10.0	3.2	1.3	ほぼ完全に遺存。刃部が錆化。



第36図 21号住居跡 遺構図・遺物図(2)

22号住居跡 (SB22) [第37図]

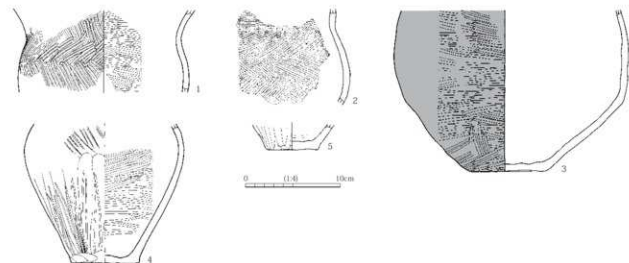
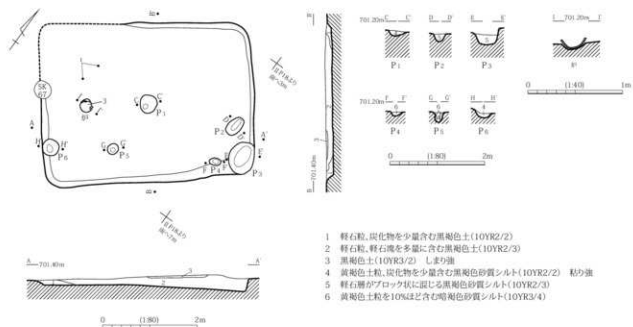
位置：2-①区、P 17・18 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。 形状：隅丸長方形 規模：東西4.5m、南北3.4m、検出面からの深さ0～20cm 主軸方位：E-39°-N 遺構の重複：67号土坑に切られる。 堆積状況：3層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：炉とピット6基が検出されている。炉は住居内の西側中央にあり、土器敷炉である。ピットは性格不明である。

遺物出土状況: 炬から壺(3)、P3から甕(2)が出土しているほか、埋土から6.2kg出土している(第126表)。  
 時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第24表 22号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 甕	—	—	器高 8.7	110	—	上段の縞縞羽状文	横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	
2	P3	弥生土器 甕	9.7 × 10.2	—	70	—	縞縞羽状文	横ミガキ	—	普通	焼成	黒褐色	細砂少量	5%未満	拓本
3	6F	弥生土器 甕	—	8.0	器高 17.0	880	ヘウ削り	横一部縦ミガキ後赤彩	剥落	剥落	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒や中多	20%	
4	埋土	弥生土器 甕	—	7.2	器高 14.7	560	ヘウ削り	下半縦ヘウ削り後縦ミガキ、上半縞縞羽状文	横ミガキ	ミガキ	普通	茶褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
5	埋土	弥生土器 甕	—	5.4	器高 2.7	83	ヘウ削り後平のこ状凹痕	ナデ	ナデ	ナデ	普通	灰褐色	1mm以下の細砂や中多	5%未満	



第37図 22号住居跡 遺構図・遺物図

## 26号住居跡 (SB26) [第38図 PL 3・38]

位置: 2-④区、I Y 25、II U 16・21 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 方形  
規模: 東西残存3.0m、南北3.4m、検出面からの深さ6~13cm 主軸方位: N-5°-W 遺構の重複:  
なし。西側が調査区外である。堆積状況: 単層

住居内施設: なし。北側に焼土が少量見られる。

遺物出土状況: 西側調査区境の床面から鉄鎌(2)が出土しているがカクランが多く入っている所であり  
混入と思われる。埋土からは弥生土器ほか6.3kg出土している(第126表)。遺物: 鉄鎌(2)は基  
部の一角が、くの字状に曲がっている。

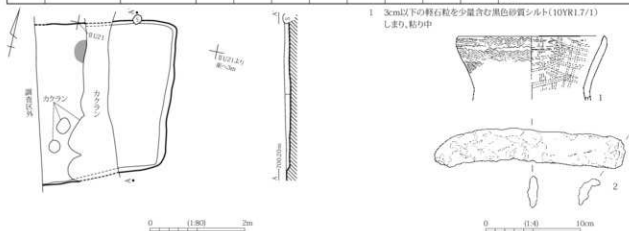
時期: 甕(1)ほか出土土器のほとんどが弥生時代後期のものであることから、弥生時代後期と思われる。

第25表 26号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	(15.3)	—	底高 6.8	85	—	縞線状文	縦縞ミガキ	—	普通	灰褐色	1mm以下の 縞砂や多	5%	

第26表 26号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の状況
			長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	
2	床面上	鉄鎌	20.98	4.80	2.98	1914	20.24	3.52	0.55	1192	先端部の破片、錆び、土砂全体に 付着。



第38図 26号住居跡 遺構図・遺物図

## 32号住居跡 (SB32) [第39図 PL 3・22]

位置: 3-②区、II P 10、Q 6・11 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 不明 規模:  
東西残存2.1m、南北残存3.0m、検出面からの深さ21~33cm 主軸方位: 不明 遺構の重複: 41号住居  
跡を切る。東側の大部分が調査区外である。堆積状況: 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設: ビット2基が検出されている。炉は検出されていない。

遺物出土状況: 床面やP2からまともに出て出土するなど、弥生土器ほか6.3kg出土している。(第126表)

遺物: 高杯(2・4・5)は口縁が真直ぐに伸びるもの(2)と大きく外反するもの(4)がある。甕(6)  
は頭部の縞状文の上に多数の刺突を持つボタン状の貼付文が付く。

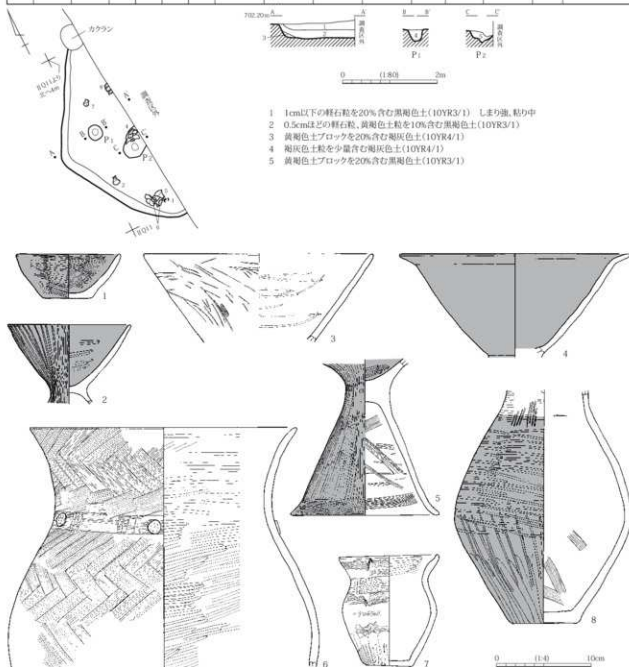
時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第27表 32号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 高杯	10.8	4.6	4.7	165	へう割り	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	良好	淡褐色	縞砂や多	5%	
2	床面	弥生土器 高杯	12.8	—	底高 8.4	205	—	縦ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	底部内面 ナマ	普通	淡灰褐色	縞砂少量	50%	



図版 番号	出土層位・ 位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 g	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
3	埋土	弥生土器 鉢	24.0	—	現高 9.4	105	—	ハケ調整後 ナデ	横ナデ後 まばらな ミガキ	—	普通	淡赤色～ 淡褐色	細砂やや多	5%	
4	P2	弥生土器 高杯	24.0	—	現高 11.1	410	—	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	30%	
5	床面	弥生土器 高杯	—	脚径 15.4	現高 16.4	550	脚部内面横 ナデ後一部 ハケ調整	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	良好	淡褐色	2mm以下の 砂粒やや多	40%	
6	床面	弥生土器 甕	27.9	—	現高 25.5	1212	—	縦縞羽状文	縦ミガキ	—	良好	淡褐色	細砂少量	30%	
7	床面	弥生土器 甕	10.4	5.0	11.9	310	ヘラ削り	下平へう削り 後縦ミガ キ、上半 縦縞状文	横ナデ後一 部横ミガ キ	ナデ後 ミガキ	普通	褐色	1mm以下の 細砂少量	95%	
8	床面	弥生土器 甕	—	7.5	現高 24.4	1124	ヘラ削り	下平縦へう 削り後縦 ミガキ、上 半横ミガ キ後赤彩	上半横ナデ 下平ハケ目	ナデ後 ハケ目	やや軟	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	80%	



第39図 32号住居跡 遺構図・遺物図

## 34号住居跡 (SB34) [第40図 PL 4・22]

位置：2-①区、ⅡK 25 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西残存1.0m、南北4.2m、検出面からの深さ13～21cm 主軸方位：N-6°-W 遺構の重複：なし。中・西部を圍場整備で削平されている。堆積状況：3層に分かれ、自然堆積と思われる。

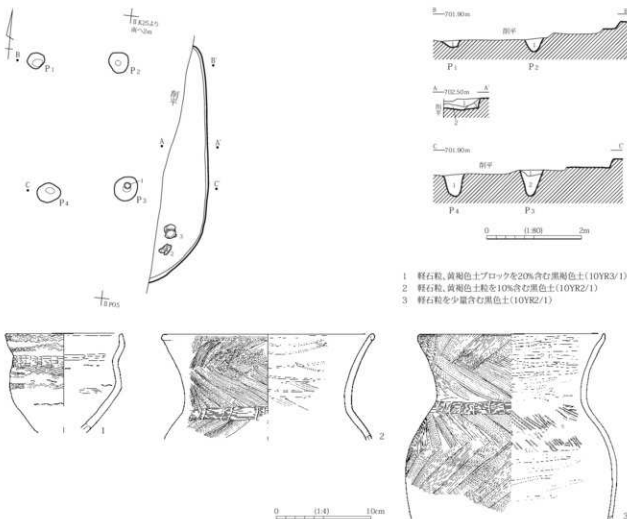
住居内施設：床面は削平されているが、P1～4が支柱穴と思われる。

遺物出土状況：南東部の床面とP3内から甕（1～3）が出土するなど、弥生土器ほかが1.9kg出土している（第126表）。遺物：甕（1～3）は、胴部と口縁部に櫛描波状文を施すもの（1）と櫛描羽状文（2・3）を施すものがある。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第28表 34号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P3	赤牛土器 甕	12.1	—	現高 10.5	330	—	上半櫛描波状文、縦ミガキ	上半横へうミガキ、下半櫛ミガキ	—	普通	赤褐色	細砂少量	90%	内外面に焼き上げ痕残る
2	床面	赤牛土器 甕	φ22.2	—	現高 11.2	280	—	櫛描羽状文	ハケ調整後 横ミガキ	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒少量	5%	
3	床面	赤牛土器 甕	19.5	—	現高 19.5	660	—	櫛描羽状文	ハケ調整後 横ミガキ	—	良好	赤褐色	細砂少量	30%	



第40図 34号住居跡 遺構図・遺物図

## 35号住居跡 (SB35) [第41図 PL 4・43]

位置：3-②区、II P 24・25, U 4・5 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西残存2.5m、南北残存4.5m、検出面からの深さ11～29cm 主軸方位：N-28°-E 遺構の重複：242・282号土坑に切られる。堆積状況：単層

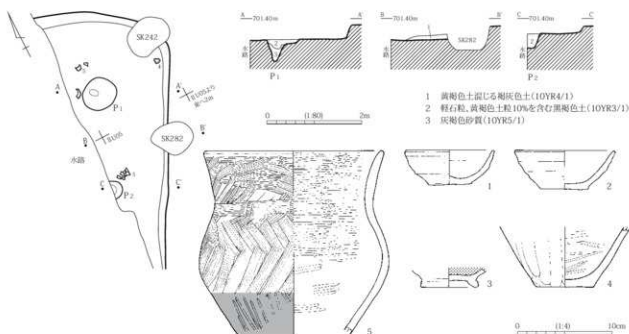
住居内施設：ピット2基が検出されている。住居内の位置からP1が主柱穴と思われる。

遺物出土状況：埋土に弥生土器と古代の土器が混在して、計3.5kgと種不明の四肢骨片が出土している（第126表・第6章4）。

時期：住居の形態から弥生時代のもので、出土遺物から弥生時代後期と思われる。

第29表 35号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	巻高 (cm)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器 輪	9.6	4.5	3.7	100	右回転赤切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ後 残りの突起	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂ややま	80%	
2	埋土	土師器 輪	10.4	5.0	4.1	100	右回転赤切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡桃色	1mm以下の 細砂ややま	70%	
3	埋土	黒色土器 高台付輪	—	高台径 6.0	現高 2.0	53	右回転赤切り	回転ナデ	回転ナデ後 横ミガキ、黒色処理	回転ナデ後 ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂	20%	
4	埋土	弥生土器 罎	—	6.0	現高 6.4	140	ヘラ削り	縦ヘラ削り	横ミガキ	ミガキ	普通	淡黄褐色	細砂ややま	5%	
5	床面	弥生土器 罎 (18.6)	—	—	現高 19.4	390	—	横ミガキ、半後赤彩	横ミガキ	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	20%	



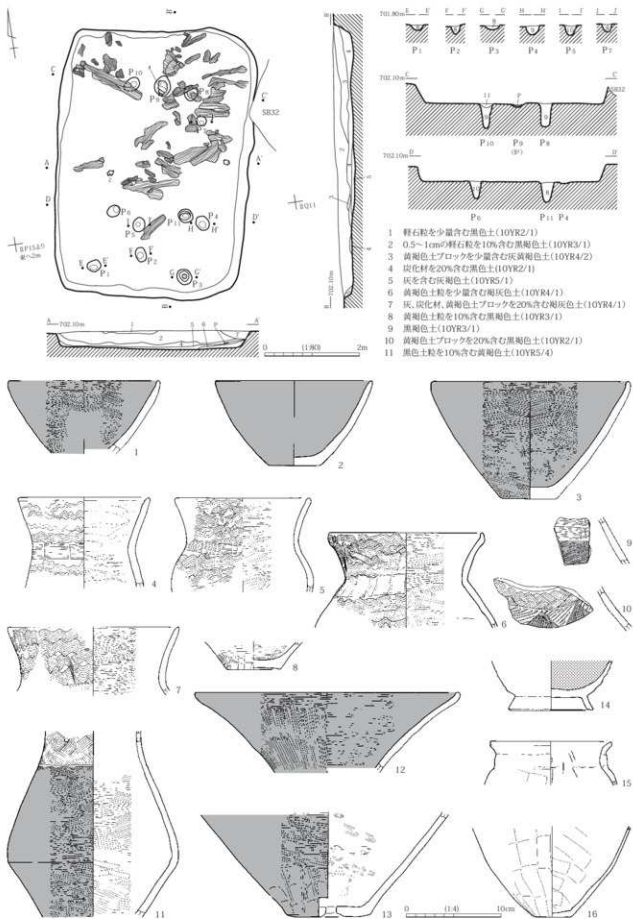
第41図 35号住居跡 遺構図・遺物図

## 41号住居跡 (SB41) [第42図 PL 4・57]

位置：3-②区、II P 10・15 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西4.2m、南北5.9m、検出面からの深さ23～49cm 主軸方位：N-12°-E 遺構の重複：51号住居跡を切り、32号住居跡に切られる。堆積状況：7層に分かれ、自然堆積と思われる。下層に炭化材や灰を含む層があり、焼失または、焼却されたものと思われる。

住居内施設：ピット11基が出土している。住居内の位置から、P10・8・11・6が主柱穴で、P9が扉であったと思われる。

遺物出土状況：焼失または焼却住居であり、床面から多数の炭化材が出土している。弥生土器ほか、炭



第42図 41号住居跡 遺構図・遺物図

化材の上下から17.1kg出土しているほか(第126表)、シカ角や動物骨の小片も出土している(第6章4)。

**遺物:** 鉢(1~3)は大小2種類の大きさがある。甕(4~7)はいずれも胴部と口縁部に櫛描波状文を施すものである。壺(9~13)は、頸部に櫛描横走沈線と列点を持つもの(9)、櫛描羽状文のもの(10~11)がある。さらに壺(10)は頸部下を沈線で鋸歯状に区画して平行沈線で埋めている。古代の土器(14~16)は、上からのカクランによる混入と思われる。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第30表 41号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	差径 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 鉢	(15.8)	—	取高 7.7	102	—	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	—	普通	淡褐色	細砂少量	10%	
2	床面	弥生土器 鉢	(16.2)	5.3	9.0	157	へう削り	横ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	淡褐色	1~2mm 砂 粒や中多	30%	
3	埋土	弥生土器 鉢	20.6	5.9	12.4	578	へう削り	縦横の長短 なミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	灰褐色	1mm 以下の 細砂や中多	70%	
4	P9	弥生土器 甕	13.6	—	取高 9.5	325	—	櫛描波状文	横ミガキ	—	普通	黒灰色	1mm 以下の 細砂少量	30%	
5	埋土	弥生土器 甕	(14.0)	—	取高 10.0	88	—	櫛描波状文	ハケ調整後 横ミガキ	—	普通	暗灰褐色	2mm 以下の 砂粒や中多	10%	
6	炭の中	弥生土器 甕	16.0	—	取高 10.0	215	—	櫛描波状文	ハケ調整後 横ミガキ	—	普通	灰褐色	1mm 以下の 細砂少量	10%	
7	埋土	弥生土器 甕	(17.8)	—	取高 7.1	100	—	櫛描波状文	縦横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	1mm 以下の 細砂や中多	5%	未測
8	埋土	弥生土器 甕	—	5.6	取高 2.9	85	へう削り	縦へう削り 後横ハケと 横ミガキ	横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm 以下の 細砂や中多	5%	
9	埋土	弥生土器 甕	3.7 × 4.9	—	—	18	—	横ミガキ後 赤彩	横ハケ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%	未測
10	埋土	弥生土器 甕	10.4 × 5.3	—	—	45	—	櫛描羽状文・ 三角区画・平 行沈線・縦 ミガキ後赤彩	横ナデ	—	普通	淡茶褐色	細砂や中多	5%	未測
11	埋土	弥生土器 甕	—	—	取高 19.8	275	—	縦横ミガキ 後赤彩	ハケ調整後 胴部付近 へう削り	—	普通	淡赤褐色	2mm 以下の 砂粒や中多	10%	頸部に5mm 大の 円孔
12	埋土	弥生土器 甕	(27.6)	—	取高 8.5	250	—	縦ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	—	普通	淡赤褐色	2mm 以下の 砂粒や中多	5%	未測
13	埋土	弥生土器 甕	—	8.8	取高 11.1	335	へう削り	手端へう削り 。縦横ミ ガキ後赤彩	ハケ調整後 剥剥多	ハケ目	普通	淡赤褐色	1mm 以下の 細砂や中多	5%	未測
14	埋土	黒色土器 高台付樽	—	高台径 8.6	取高 5.3	205	回転赤切り 後回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ後 黒射状ミガ キ、黒色追 埋	回転ナデ後 黒射状ミガ キ	普通	灰褐色	3mm 以下の 小石、砂粒 や中多	60%	頸部内面の一部に 巻き上げ痕?
15	埋土	土師器 甕	(12.6)	—	取高 4.6	53	—	縦へう削り	縦へうナデ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	頸部内面の一部に 巻き上げ痕?
16	埋土	土師器 甕	—	3.9	取高 9.6	150	へう削り	縦へう削り	縦へう削り 後へうナデ	へうナデ	良好	赤褐色	細砂少量	10%	

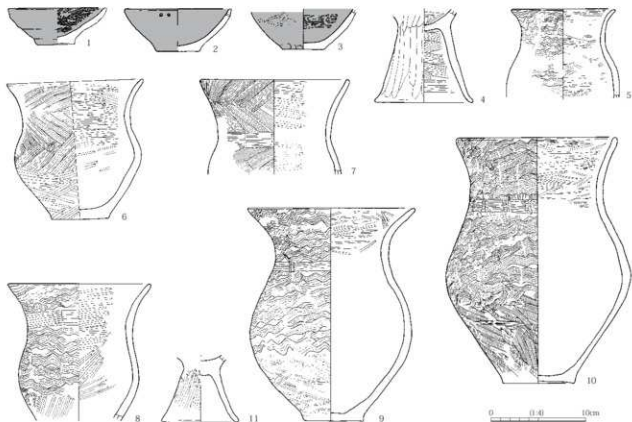
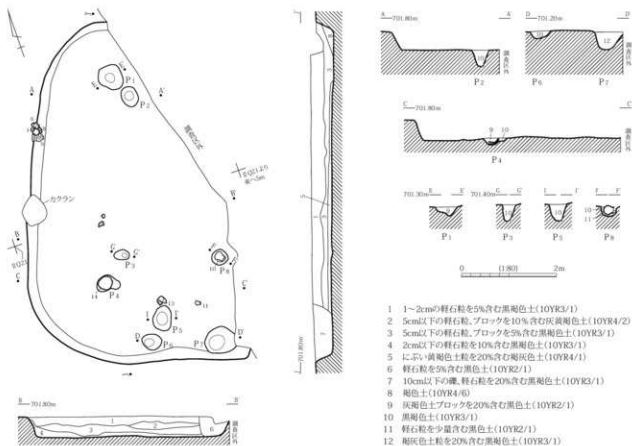
## 43号住居跡 (SB43) [第43・44図 PL 4・23]

**位置:** 3-②区、II P 25、Q 16・21 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西4.3m、南北6.9m、検出面からの深さ30~45cm **主軸方位:** N-25°-E **遺構の重複:** 58号住居跡を切る。北東部が調査区外である。 **堆積状況:** 8層に分かれ、自然堆積と思われる。

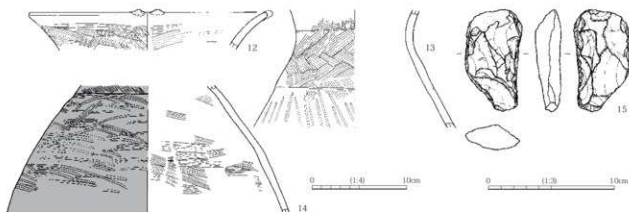
**住居内施設:** ビット8基が検出されている。P2・8・3が主柱穴、P6・7が入口施設に関わるものと思われる。

**遺物出土状況:** 完形の甕(9・10)が西壁際の床面やP8内で出土しているほか、床面、埋土から弥生土器ほか15.8kg出土している(第126表)。**遺物:** 鉢(1~3)はいずれも小型で、鉢(2)の口縁部には2個1対の小孔が空いている。甕(5~10)は、胴部と口縁部に櫛描波状文の付くもの(5・8~10)、櫛描羽状文の付くもの(6・7)、頸部に櫛状文の付くもの(7~10)と、付かないもの(5・6)とさまざまである。壺(13・14)は頸部に櫛描羽状文が施される。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第43図 43号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第44図 43号住居跡 遺物図(2)

第31表 43号住居跡出土土器観察表

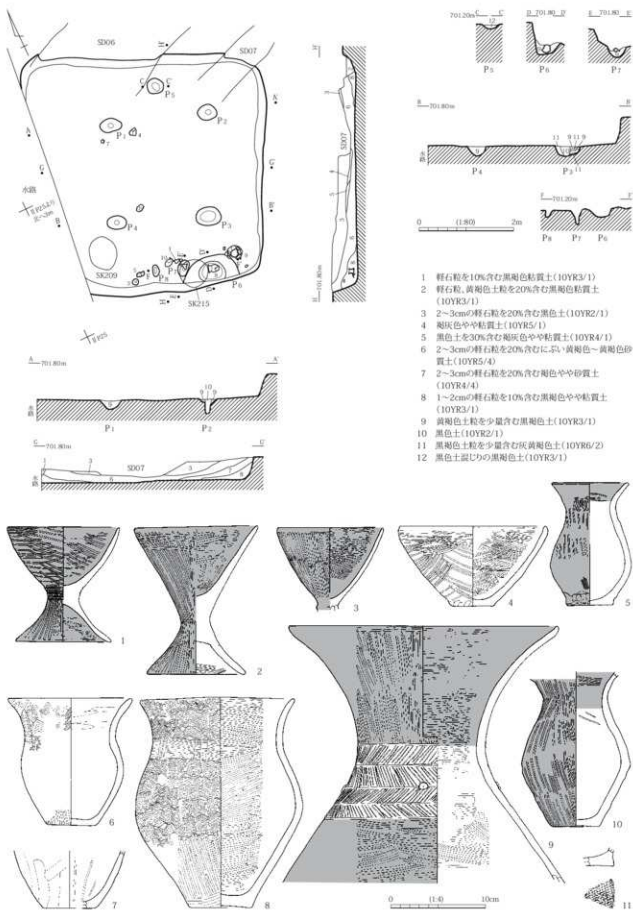
図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考	
1	床面	赤生土器鉢	10.1	4.0	3.9	115	へう割り	横ミナ後赤彩	横ミナ後赤彩	ミナ後赤彩	普通	淡い褐色	細砂少量	90%		
2	埋土	赤生土器鉢	11.0	4.5	4.6	140	へう割り	横ミナ後赤彩	横ミナ後赤彩	横ミナ後赤彩	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂少量	95%以上	口縁部に1箇所2個1対の小孔	
3	埋土	赤生土器鉢	—	4.2	4.3	92	へう割り	横ミナ後赤彩	横ハケ、縦ミナ後赤彩	ナデ後赤彩	やや軟	淡褐色	細砂少量	30%		
4	埋土	赤生土器台付鉢	—	脚径 9.8	9.8	250	—	脚部横ミナ後赤彩へう割り	—	ミナギ	普通	淡赤褐色	1~2mmの砂粒やや多	20%		
5	埋土	赤生土器鉢 (108)	—	—	9.9	60	—	縦線状文	上下横ミナ、下半縦ミナ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%未満		
6	床面	赤生土器鉢	(14.2)	6.1	14.9	470	へう割り	—	下半横ミナ、上半縦線状文	横ミナギ	ミナギ	良好	淡褐色	細砂少量	60%	
7	埋土	赤生土器鉢	(15.4)	—	10.0	70	—	縦線状文	横ミナギ	—	普通	淡赤色	2mm以下の砂粒やや多	5%未満		
8	床面	赤生土器鉢	14.8	—	14.5	513	—	—	下半へう割り後縦ミナ、上半縦線状文	横ミナギ	—	普通	灰色	細砂やや多	70%	
9	床面	赤生土器鉢	17.4	6.2	22.5	1117	へう割り	—	下半横ミナ、上半縦線状文	横ミナギ	ミナギ	良好	淡褐色	1mm以下の細砂少量	99%	
10	P8	赤生土器鉢	16.5	7.6	26.0	1464	へう割り	—	下半横ミナ、上半縦線状文	横ミナギ	ミナギ	普通	茶褐色	細砂やや多	100%	
11	床面	赤生土器台付鉢	—	脚径 7.9	7.1	145	—	脚部内面横ミナ後赤彩へう割り	—	ナデ	普通	赤褐色	細砂やや多	20%		
12	埋土	赤生土器鉢 (246)	—	—	4.3	153	—	縦線状文	横ハケ	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂やや多	5%未満		
13	床面	赤生土器鉢	—	—	12.4	345	—	—	横ミナギ	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	5%		
14	P4	赤生土器鉢	—	—	13.5	1060	—	—	横ミナ後赤彩	横ハケ目	—	普通	茶褐色	細砂やや多	30%	

第32表 43号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
15	埋土	打製石斧	100%	8.1	4.5	2.0	80	泥岩	

## 44号住居跡 (SB44) [第45図 PL 4・24]

位置：3-②区、II P 20・25 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸方形 規模：東西5.2m、南北5.2m、検出面からの深さ17~55cm 主軸方位：N-26°-E 遺構の重複：53号住居跡を切り、6・7号溝跡、209・215号土坑に切られる。堆積状況：8層に分かれ、自然堆積と思われる。住居内施設：ピット8基が検出されている。住居内の位置からP1~4が主柱穴、P5が棟持柱、P7・8が入口施設に関係のもの、完形の甕(8)が出土したP6は貯蔵穴と思われる。



第45図 44号住居跡 遺構図・遺物図



**遺物出土状況:**南壁際の床面で高杯(1・3)、壺(5・9・10)などがまとまって出土しているほか、床面、埋土から弥生土器ほか103kg出土している(第126表)。**遺物:**高杯(1~3)は口縁が真直ぐに伸びるもので、杯部と脚部の境に沈線があるもの(1)や稜があるもの(3)がある。壺(9)は頸部に矢羽根状沈線文が上下2段に施文されるもので、2段の間の中央に刺突を持つボタン状の貼付文が付けられる。壺底部片(11)は、底面の網代痕が明瞭である。

**時期:**出土遺物と入口ピットの存在から、弥生時代後期と思われる。

第33表 44号住居跡出土土器観察表

探査番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器高杯	(11.6)	口径 (10.0)	12.1	180	脚部内面横のへうみぎ半後赤彩	へうみぎ	脚部横へうみぎ半後赤彩	へうみぎ半後赤彩	普通	淡赤色	2mm以下の白色砂粒やや多	60%	
2	埋土	弥生土器高杯	12.8	10.2	15.7	440	脚部内面横のナデ後一部ハケ	縦ミガキ半後赤彩	上下横ミガキ半、下半横ミガキ半後赤彩	ミガキ半後赤彩	普通	淡赤褐色	細砂やや多	95%以上	
3	床面	弥生土器高杯	11.0	—	現高 8.9	160	—	縦ミガキ半後赤彩	横ミガキ半後赤彩	—	普通	灰褐色	細砂少量	50%	
4	床面	弥生土器鉢	(15.6)	4.4	8.5	180	へう割り	下端へう割り、横ミガキ半後赤彩	横ミガキ半後赤彩	ミガキ	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	40%	
5	床面	弥生土器壺	7.9	4.7	13.0	270	へう割り	上下縦横ミガキ、上半縦ミガキ半後赤彩	横ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	95%	
6	埋土	弥生土器壺	12.9	5.3	13.5	323	ナデ、一部へう割り	下半横へう割り、上半横ミガキ	ナデ	ナデ	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	90%	
7	床面	弥生土器壺	—	(5.5)	現高 6.0	40	へう割り	縦へう割り	横ナデ後縦ミガキ	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂やや多	5%未満	
8	P6	弥生土器壺	16.0	6.6	22.0	1045	へう割り	へう割り	縦ミガキ	ミガキ	普通	茶褐色	細砂やや多	90%	
9	床面	弥生土器壺	(28.2)	—	現高 27.2	1965	—	縦ミガキ半後赤彩、口縁部縦ミガキ半後赤彩	横ハケ目、口縁部縦ミガキ半後赤彩	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	
10	床面	弥生土器壺	—	4.9	現高 16.4	510	へう割り	縦ミガキ半後赤彩	横ナデ	ナデ	やや軟	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	90%	内面一部に巻き上げ痕残る
11	埋土	弥生土器壺	—	3.2 × 2.1	—	15	網代痕	縦へう割り	ナデ	ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	5%未満	拓本

## 48号住居跡 (SB48) [第46図 PL 4・24]

**位置:**3-③区、ⅡV 6・7 **検出:**Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:**隅丸長方形 **規模:**東西残存2.6m、南北残存3.6m、検出面からの深さ9~24cm **主軸方位:**N-13°-E **遺構の重複:**45・46・50号住居跡、297号土坑に切られる。 **堆積状況:**埋土はほとんど残っていない。



第46図 48号住居跡 遺構図・遺物図

住居内施設：ピット4基が検出されている。性格は不明である。

遺物出土状況：埋土とP3・4内から弥生土器と古代の土器が合わせて795g出土している（第126表）。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第34表 48号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	(14.2)	6.2	14.5	443	へう削り	下半へう削り、上半縞描波状文	横へ斜めミガキ	ミガキ	普通	暗褐色	1mm以下の細砂少量	50%	

### 51号住居跡 (SB51) [第47図 PL 5・26・39]

位置：3-②区、II P 10・15、Q 11 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西4.4m、南北6.8m、検出面からの深さ6～44cm 主軸方位：N-20°-E 遺構の重複：58号住居跡を切り、33・41・56号住居跡に切られる。北東部は調査区外である。堆積状況：2層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット12基が検出されている。住居内の位置からP3・6が主柱穴、P9～11が入口施設と思われる。そのほかのピットは性格不明である。

遺物出土状況：床面で炭化材が多数出土している。大型の高杯（6）の杯部がP1内、脚部が80cm北側の床面で立った状態で出土しているが、被熱した様子はない。葎き石（10）は西壁近くの床面から出土しているほか、埋土とP4・6から弥生土器ほかが122kg出土している（第126表）。遺物：甕（2～4）は縞描波状文が施されるもの（2・3）と縞描羽状文（4）のものがある。高杯（5・6）はいずれも口径が30cm超と大型である。黒色土器（7・8）は混入と思われる。小型の土製勾玉（9）は指で摘まんで作られ背と腹が平らである。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第35表 51号住居跡出土土器観察表

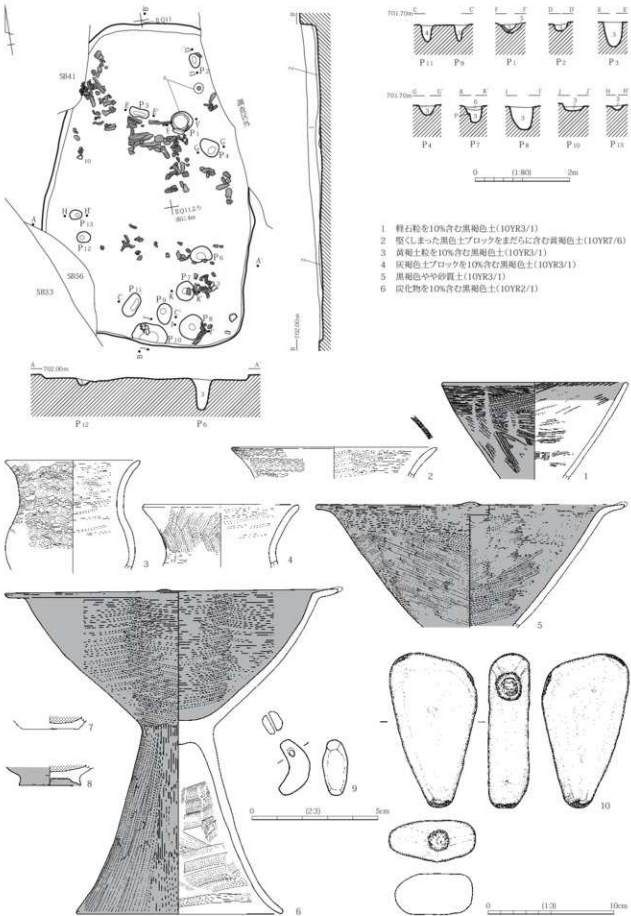
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P8	弥生土器 鉢	(19.2)	—	器高 10.2	173	—	縦ハケ、口縁部縦ハケ後赤彩	横ハケ後	—	普通	茶褐色	1mm以下の細砂少量	20%	
2	埋土	弥生土器 甕	(21.4)	—	器高 3.3	50	—	縞描波状文	横ミガキ	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂中～多	5%	未測
3	床面	弥生土器 甕	13.9	—	器高 11.5	440	—	下半縞ミガキ、上半縞縞波状文	横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	60%	
4	埋土	弥生土器 甕	(16.2)	—	器高 6.6	105	—	縞描羽状文	横ミガキ	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂中～多	5%	
5	埋土	弥生土器 高杯	(32.2)	—	器高 13.3	250	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂中～多	5%	未測
6	P1	弥生土器 高杯	口径 21.4	34.3	3135	—	脚部の内面縦ハケ目	下半縞ミガキ、上半縞ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	95%	以上
7	埋土	黒色土器 杯	—	6.0	器高 1.4	55	右回転糸切り	—	放射状ミガキ後黒色処理	放射状ミガキ後黒色処理	普通	淡褐色	1mm以下の細砂中～多	20%	
8	埋土	黒色土器 高台付樽	—	高台径 6.4	器高 2.1	80	右回転糸切り	回転糸後赤彩	放射状ミガキ、黒色処理	放射状ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色	細砂中～多	50%	

第36表 51号住居跡出土土製品観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
9	埋土	勾玉	100%	2.2	1.2	1.0	1.77	

第37表 51号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
10	床面	葎き石	100%	12.2	6.8	3.2	423	安山岩	



第47図 51号住居跡 遺構図・遺物図

## 52号住居跡(SB52) [第48・49図 PL 5・25・37・45]

位置：3-②区、II P 25、Q 21、U 5、V 1 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西5.3m、南北7.8m、検出面からの深さ17～38cm 主軸方位：N-18°-E 遺構の重複：37 B・42号住居跡と250・285号土坑に切られ、59号住居跡を切る。堆積状況：3層に分かれ、自然堆積と思われる。

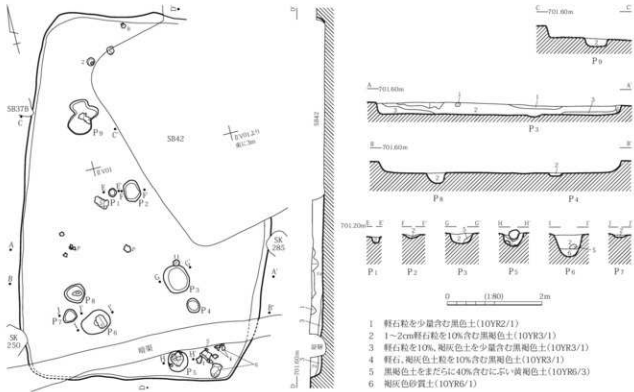
住居内施設：ピット9基が検出されている。住居内の位置からP 4・8・9が支柱穴と思われるが、そのほかのピットは性格不明である。

遺物出土状況：甌(1)と甕(4～6)が住居跡南東部の床面、高杯脚部(2)と台付甕脚部(8)が北西部の床面から出土している。そのほか埋土から弥生土器が多量、古代の土器が少量の合わせて15.4kg出土している(第126表)。古代の土器(9～15)は切り合う42号住居跡等のものの混入と思われる。遺物：甌(1)は直径1.1cmの円孔が1個空いている。甕(3～7)はすべて胴部と口縁部に櫛波状文、頸部に簾状文が施されるものである。

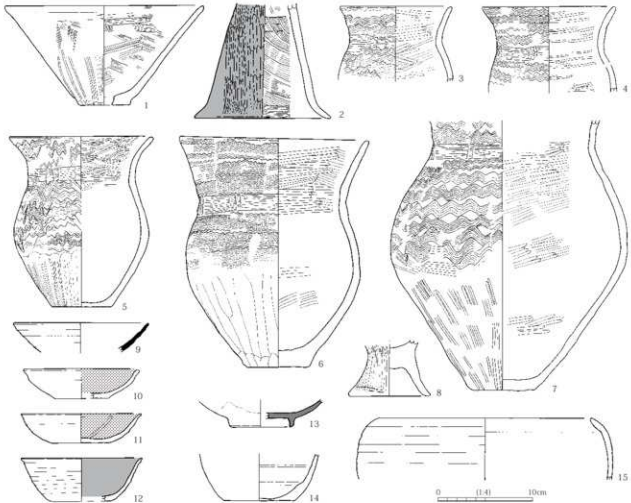
時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第38表 52号住居跡出土土器観察表

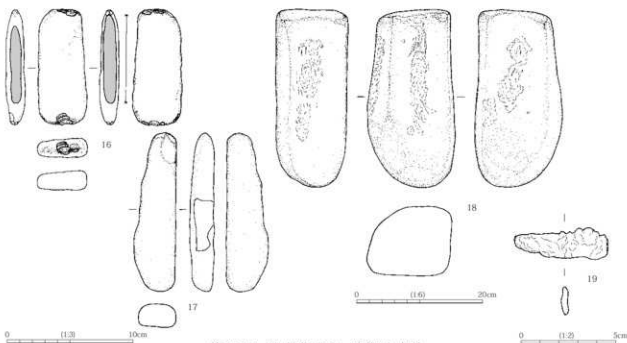
調査番号	出土部位・位置	西径	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	底成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 甌	(20.7)	5.4	10.6	220	へう割り	下縁へう割り、下平縁ミガキ、上平縁横ハケ目	横ハケ縁 横ミガキ	ハケ縁 ミガキ	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂少量	30%	底部最大径1.1cmの楕円形の孔
2	床面	弥生土器 高杯	—	脚径 14.1	現高 12.2	460	胴部内面 放射状ハケ目	縦ミガキ後 赤彩	—	—	普通	淡褐色	細砂少量	40%	内面の背に焼き 上げ痕
3	埋土	弥生土器 甕	11.6	—	現高 8.1	95	—	櫛波状文	横ミガキ	—	普通	灰褐色	細砂少量	10%	
4	床面	弥生土器 甕	13.8	—	現高 9.1	175	—	櫛波状文	横ミガキ	—	普通	暗灰色	1mm以下の 細砂やや多	10%	
5	床面	弥生土器 甕	14.9	6.4	18.0	745	へう割り	下平縁へう 割り後縦ミ ガキ、上平 縁櫛波状文	横ミガキ	ミガキ	普通	淡茶褐色	細砂やや多	90%	
6	床面	弥生土器 甕	19.7	6.5	24.4	1582	板状圧痕	下平縁へう 割り、上平 縁櫛波状文	横ミガキ	ミガキ	普通	茶褐色	細砂やや多	95%	
7	埋土	弥生土器 甕	—	6.7	現高 28.6	1805	へう割り	下平縁ミガ キ、上平縁 櫛波状文	横ミガキ	ミガキ	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂少量	80%	
8	床面	弥生土器 台付甕	—	脚径 8.4	現高 5.9	180	胴部内面 ナデ	縦へう割り	—	ナデ	普通	淡褐色	1mm～ 2mmの砂粒 多	10%	
9	カクラン	弥生土器 杯	(14.1)	—	現高 3.1	49	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰色	細砂少量	20%	
10	埋土	黒色土器 杯	(12)	(5.6)	3.2	157	回転糸切り 後すのこ状 圧痕	回転ナデ	回転ナデ後 放射状ミガ キ、黒色 処理	回転ナデ後 放射状ミガ キ、黒色 処理	普通	赤褐色	細砂少量	10%	
11	床面	黒色土器 杯	(12.6)	6.0	3.0	115	回転糸切り 後手持り へう割り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状ミガ キ、黒色 処理	回転ナデ後 放射状ミガ キ、黒色 処理	良好	褐色	細砂少量	100%	
12	カクラン	土師器 碗	(12.6)	(6.2)	4.6	30	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ、 赤彩	回転ナデ後 ミガキ、 赤彩	普通	褐色	2～3mmの 小石多	10%	
13	カクラン	灰輪陶器 碗	—	高台径 径5.0	現高 2.9	50	回転へう 割り	回転ナデ、 灰輪つけ 跡付	回転ナデ、 自然輪	回転ナデ	普通	灰色	精良	10%	
14	カクラン	土師器 盃	—	7.5	現高 5.0	139	右回転糸切 り後凸部を 手持りへう 割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	赤褐色	3mm以下の 小石、砂粒 やや多	10%	
15	埋土	土師器 鉢	(22.5)	—	現高 6.5	50	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	未測



- 1 軽石粒を少量含む黒色土(10YR2/1)
- 2 1~2cm軽石粒を10%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 3 軽石粒を10%、褐色土を少量含む黒褐色土(10YR3/1)
- 4 軽石、褐色土粒を10%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 5 黒褐色土をまだらに40%含むにじみ黄褐色土(10YR6/3)
- 6 褐色土質土(10YR6/1)



第48図 52号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第49図 52号住居跡 遺物図(2)

第39表 52号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
16	埋土	砥石	90%	9.1	3.9	1.5	103	凝岩	
17	埋土	砥石	100%	12.5	3.4	1.9	137	安山岩	
18	P6	打石	100%	28.6	14.2	11.2	8500	安山岩	

第40表 52号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
19	埋土	刀子	5.30	1.50	0.98	7.7	4.99	1.29	0.20	5.1	分割3点。錆び、土砂全体に付着。

53号住居跡 (SB53) [第50図 PL45]

位置：3-②区ⅡP 20・25 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：北西部を44号住居跡に切られて全形は不明であるが、残存部分からは、楕円形とも隅丸方形ともつかない不整形である。

規模：東西4.7m、南北5.4m、検出面からの深さ3～18cm 主軸方位：N-22°-E 遺構の重複：44号住居跡と231・232・239～241号土坑に切られる。堆積状況：5層に分かれる。

住居内施設：ピット6基が検出されている。住居内の位置と並びが不規則で、性格は不明である。

遺物出土状況：埋土から古代の土器と弥生土器が4.0kg出土しているがほとんどが小片である(第126表)。

遺物：黒色土器杯(1・2)、土師器杯(3)は、底面が回転糸切りされる。弥生土器小型甕(4)は、器形や頸部の文様は甕のものであるが、体部外面と口縁部内外面が赤彩される。

時期：出土遺物(1～3)は、古代であるが、44号住居跡に切られることや、弥生土器の出土量の方が多いことから、弥生時代後期と思われる。

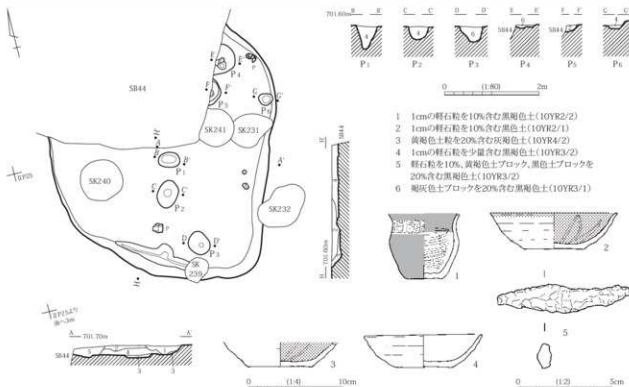
第41表 53号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	掘り方	弥生土器小型甕	—	4.0	6.9	85	ヘラ削り	横ミガキ後赤彩	横ミガキ	ミガキ	普通	灰褐色	砂粒中々多	50%	
2	埋土	黒色土器杯	(1.32)	6.2	3.9	70	瓶内の石臼転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	茶褐色	1mm以下の細砂中々多	30%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
3	埋土	黒色土器杯	—	6.8	器高 2.6	70	船形の右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	茶褐色	2mm以下の細砂少量	20%	底部内面焼付のもの剥落
4	カクラン	土師器杯	12.4	6.0	3.6	115	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	杖状の物附り蒸焼	良好	淡褐色	2mm以下の細砂やや多	80%	

第42表 53号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
5		刀子	7.0	2.2	1.53	17.0	6.97	1.58	0.8	11.6	完形品、錆び、土砂全体に付着。



第50図 53号住居跡 遺構図・遺物図

## 54号住居跡 (SB54) [第51図 PL 5]

位置：3-②区、II K 25, P 5 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存2.4m、南北残存5.7m、検出面からの深さ10～12cm 主軸方位：不明 遺構の重複：365・366・367号土坑に切られる。北、東、西側が調査区外である。堆積状況：2層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット10基が検出されているが、並びが不規則であり、性格は不明である。

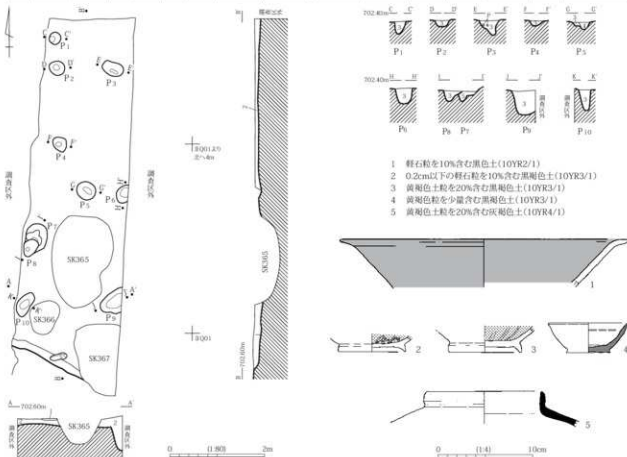
遺物出土状況：埋土から古代の土器と弥生土器が混在して2.9kg出土している(第126表)。

時期：住居跡の大きさから弥生時代、出土遺物から弥生時代後期と思われる。

第43表 54号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器高台付椀 (30.2)	—	現高 5.1	65	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	5%	
2	埋土	黒色土器高台付椀	—	高台径 7.0	現高 1.7	52	へう附り	回転ナデ	—	放射状ミガキ後黒色処理	普通	淡褐色	細砂やや多	20%	底部内面埋文印刷化文様
3	埋土	黒色土器高台付椀	—	7.4	現高 2.8	77	右回転糸切り並回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ、放射状ミガキ後黒色処理	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	
4	埋土	緑釉陶器椀 (8.4)	4.6	3.1	28	回転糸切り	回転ナデ後緑釉施釉	回転ナデ後緑釉施釉	回転ナデ後緑釉施釉	回転ナデ後緑釉施釉	良好	灰色	精良	30%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重畳 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
5	埋土	蓮生期加須面	(12.0)	—	底高 3.9	70	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	明灰色	細砂少量	5% 未測	



第51図 54号住居跡 遺構図・遺物図

55号住居跡 (SB55) [第52図 PL 5・26・37]

位置: 3-②区、II P 10、Q 6 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 隅丸長方形 規模: 東西残存 3.9m、南北残存 2.8m、検出面からの深さ 30 ~ 32cm 主軸方位: N - 16° - E 遺構の重複: 12号住居跡に切られる。堆積状況: 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

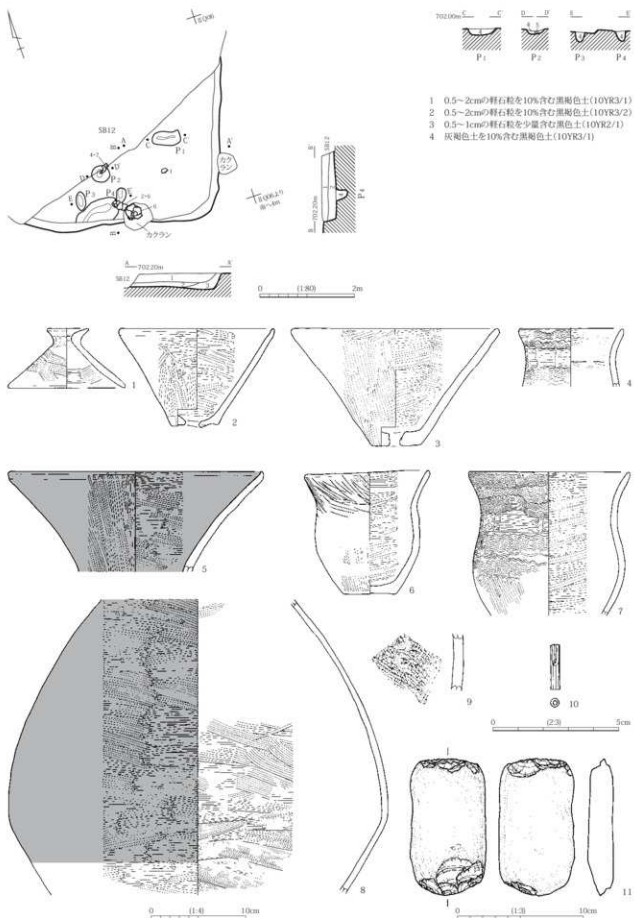
住居内施設: ピット4基が検出されている。住居内の位置と並びから P 3・4 が入口関連施設と思われる。そのほかのピットは性格不明である。

遺物出土状況: 甕(4)がP 2からのほか、埋土から弥生土器ほかが 5.1kg 出土している(第126表)。遺物: 甕(1)は天井に孔が貫通する。瓶(2・3)は1孔の甕である。甕(4・7)は、口縁部と体部に櫛描波状文が施されるが、甕(6)は口縁部にヘラ描きの斜めの沈線が施されるのみである。縄文土器深鉢(9)は混入である。時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第44表 55号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重畳 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	赤生土器	12.2	距径 4.2	6.3	135	天井部外面へラ削り	横ナデ後一部ハケ目	横ナデ後一部ハケ目	天井部内面ナデ	普通	茶褐色	細砂少量	60%	距の中央7~8mmの不整円形の孔
2	床面	赤生土器	16.1	5.1	10.4	325	へラ削り	下縁へラ削り。下半縦、上半横ミガキ	横ミガキ	ミガキ	良好	淡赤褐色	細砂少量	60%	底部に最大径 15mm の孔 1つ
3	埋土	赤生土器	(12.4)	5.1	12.5	420	へラ削り	縦ミガキ	横ミガキ	ミガキ	良好	淡赤褐色	細砂少量	40%	底部に最大径 13mm の孔 1つ





第52図 55号住居跡 遺構図・遺物図

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
4	P2	赤生土器 甕	(10.8)	—	現高 6.2	75	—	縦縞波状文	ハケ調整後 横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	
5	埋土	赤生土器 甕	(26.6)	—	現高 10.6	330	—	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ上 まぼらな縦 ミガキ後 赤彩	—	やや軟	淡黄褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	未測
6	カクラン	赤生土器 甕	12.9	5.5	13.0	475	ヘラ削り	下干堀へつ 削り、上平 へつ堀跡	横ミガキ 横ミガキ	ヘラナデ	普通	暗褐色	1mm以下の 細砂やや多	90%	
7	P2	赤生土器 甕	(16.8)	—	現高 15.2	275	—	下干堀へつ 削り、上平 縦縞波状文	ハケ調整後 横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	20%	
8	埋土	赤生土器 甕	—	—	現高 31.2	1356	—	縦ミガキ後 赤彩	横ハケ	—	普通	淡赤褐色	細砂やや多	10%	
9	埋土	縄文土器 深鉢	7.2 × 5.9	—	—	65	—	縄文施文後 比喩で区画 し外側ミガ キ削し	ナデ	—	普通	褐色	1mm以下の 細砂	5%	未測

第45表 55号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
10	P2	碧玉	80%	1.8	0.4	0.4	0.41	燧石	
11	P2	打製石斧	100%	10.8	6.0	2.0	222	泥岩	

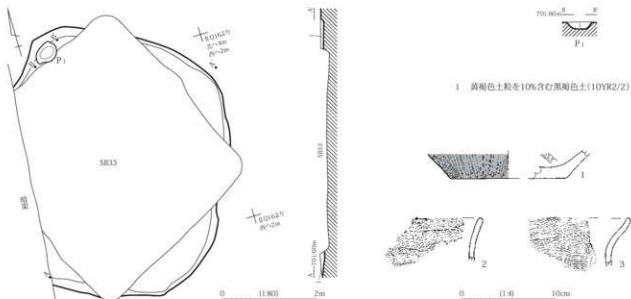
## 56号住居跡 (SB56) [第53図 PL 5]

位置: 3-②区、II P 15・20 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 隅丸長方形 規模: 東西4.7m、南北5.5m、検出面からの深さ6~37cm 主軸方位: N-30°-E 遺構の重複: 中央の大部分を33号住居跡に切られ、51号住居跡を切る。堆積状況: 単層

住居内施設: 住居内北西角からビット1基が検出されている。性格は不明である。

遺物出土状況: 埋土から弥生土器ほかが出ている(第126表)。いずれも小片である。

時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第53図 56号住居跡 遺構図・遺物図

第46表 56号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	現高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	赤生土器 甕	—	12.0	現高 3.0	110	ヘラ削り	縦ミガキ後 赤彩	ナデ	ナデ	普通	淡茶褐色	2mm以下の 砂粒やや多	5%	未測
2	削り方	赤生土器 甕	8.3 × 4.7	—	—	22	—	縦縞波状文	横ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%	未測

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
3	掘り方	弥生土器 甕	7.0 × 5.6	—	34	—	—	縞線波状文	横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5% 未満	写本

## 58号住居跡 (SB58) [第54図 PL 5]

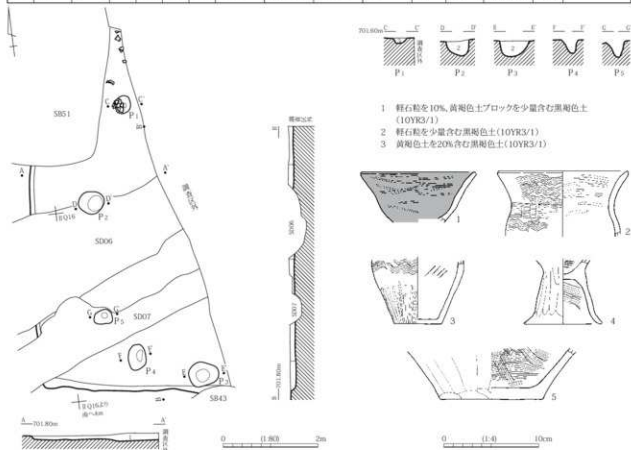
位置：3-②区、II P 15・20, Q 11・16 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存 4.0m、南北残存 7.7m、検出面からの深さ 8～15cm 主軸方位：N-9°-E 遺構の重複：43・51号住居跡、6・7号溝跡に切られる。東側が調査区外である。堆積状況：単層住居内施設：ピット5基が検出されている。住居内の位置から P 1・5 が主柱穴、P 3 が入口施設と思われるが、そのほかのピットは性格不明である。

遺物出土状況：P 3 から甕 (3) が出土しているほか、埋土、床面、P 1 から弥生土器ほかが 2.3kg 出土している (第 126 表)。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第 47 表 58号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床直	弥生土器 鉢	(12.0)	—	現高 5.3	75	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	赤褐色	1mm 以下の細砂やや多	30%	
2	埋土	弥生土器 甕	(13.4)	—	現高 6.9	55	—	縞線波状文	横ミガキ	—	普通	赤褐色	1mm 以下の細砂やや多	30%	
3	P3	弥生土器 甕	—	5.0	現高 6.7	90	へら削り	下半横ミガキ 上半縞線波状文	ナデ	ナデ	普通	淡茶褐色	細砂少量	10%	
4	床直	弥生土器 白付甕	—	脚径 8.0	現高 6.7	110	脚部内面へらナデ、一部ハケ目	—	へらナデ 一部ハケ目	へらナデ 一部ハケ目	普通	淡赤褐色	細砂やや多	5%	
5	埋土	弥生土器 甕	—	(10.6)	現高 5.3	214	へら削り	縦へら削り 横ミガキ	横ハケ目	ナデ	良好	淡黒褐色	2mm 以下の細砂やや多	5% 未満	



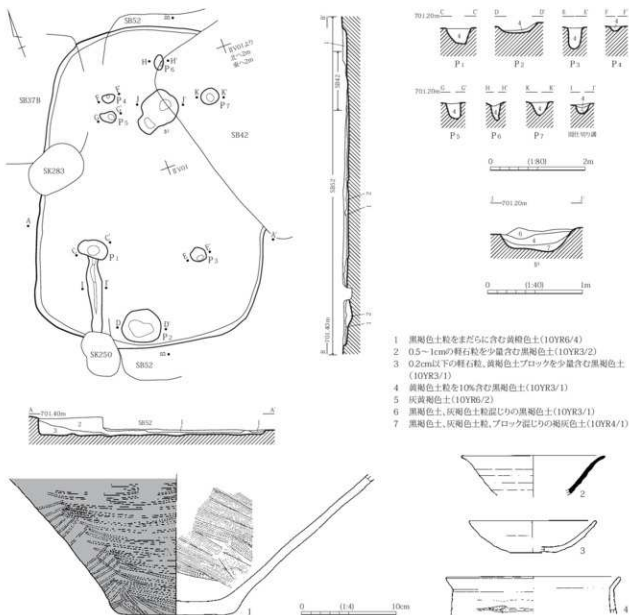
第 54 図 58号住居跡 遺構図・遺物図

59号住居跡 (SB59) [第55図 PL 5]

**位置:** 3-②区、ⅡP 25、Q 21、U 5、V 1 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西4.8m、南北6.8m、検出面からの深さ6~44cm **主軸方位:** N-25°-E **遺構の重複:** 37B・42・52号住居跡と250・283号土坑に切られる。**堆積状況:** 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設:** 炉とピット7基が検出されている。住居内の位置からP1・3・4・7が主柱穴、P6が棟持柱、P2が入口関連施設と思われるが、そのほかのピットは性格不明である。炉は住居跡北側の主柱穴間の床を掘りくはめた部分である。**遺物出土状況:** P3から杯(3)が出土しているほか、埋土、床面、P1から弥生土器と古代の土器ほかが5.4kg出土している(第126表)。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第55図 59号住居跡 遺構図・遺物図

第48表 59号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	赤土土器壺	—	12.2	現高 14.9	1410	へう附り	横ミガキ後赤彩	横ハケ後割漆	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	10%	
2	埋土	黄赤陶杯	(14.8)	—	現高 4.2	25	—	回転ナデ	回転ナデ	—	やや軟	暗灰色	5mm以下の小石、砂粒多	5%	
3	P3	土師器杯	(13.2)	(4.8)	3.4	33	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	赤褐色	1mm以下の細砂やや多	10%	
4	埋土	土師器壺	(18.0)	—	現高 3.8	30	—	横ナデ	横ナデ	—	普通	黒灰色	精良	5%	体部に巻き上げ筋

## 66号住居跡 (SB66) [第56図 PL5]

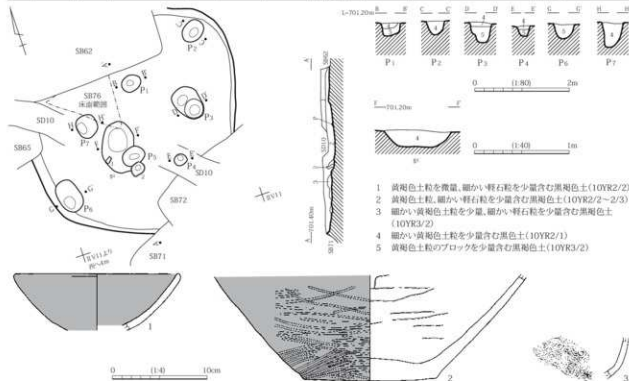
位置：3-②区、II U 10・15. V 6 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸方形 規模：東西残存4.4m、南北残存4.7m、検出面からの深さ10～16cm 主軸方位：N-25°-E 遺構の重複：62・65・71・72・76号住居跡と10号溝跡に切られる。堆積状況：5層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：炉とピット7基が検出されている。炉は住居跡中央のやや南寄りの、長径1.1mの楕円形の不整な窪みで、南東部をP5に切られ、更にその南側に壺底部(2)が乗っている。焼土は認められない。ピットは、住居内での位置が不整で性格は不明である。床は地山のままで軟弱である。遺物出土状況：炉南東部の縁上から壺底部(2)が出土しているほか、埋土、P3内から弥生土器と古代の土器が4.0kg出土している(第126表)。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第49表 66号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P4	弥生土器鉢	(17.0)	—	現高 6.0	125	—	横ミガキ後赤彩	赤彩、ほとんど割漆	—	やや軟	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	
2	P4	弥生土器壺	—	14.0	現高 11.2	1320	へう附り	横ミガキ後赤彩	ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	胴部内面巻き上げ痕残る
3	埋土	赤土土器壺	6.6×4.6	—	2.3	—	—	横縞皮状	ハケ調整後横ハケ目	—	普通	暗灰褐色	細砂少量	5%	拓本



第56図 66号住居跡 遺構図・遺物図

## 77号住居跡(SB77) [第57・58図 PL5・26・37]

位置: 2-③区、I T 25, Y 5, II P 21, U 1 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 長方形 規模: 東西5.5m、南北7.2m、検出面からの深さ9~31cm 主軸方位: N-38°-W 遺構の重複: なし 堆積状況: 5層に分かれ、自然堆積と思われる。

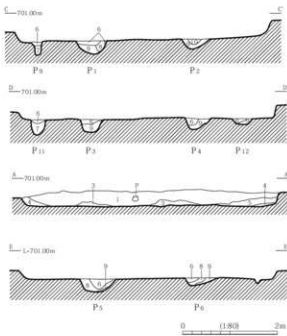
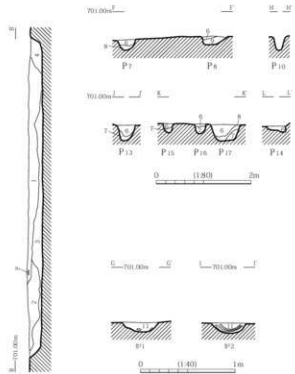
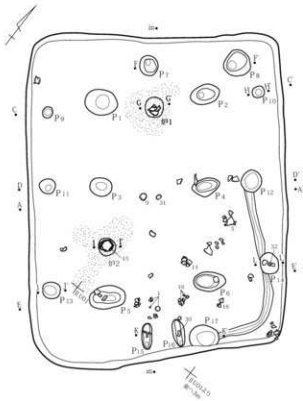
住居内施設: 炉2基とピット17基、周溝状の溝1条が検出されている。炉は住居跡北部中央、西部の各主柱穴と思われるP1・2間(炉1)、P3・5間(炉2)にあり、北部の炉1は床を掘りくぼめただけであるが、西部の炉2は甕(13)と壺頸部(15)が敷かれた上に高杯(3)が埋設されていた。ピットは住居内の位置と並びから、P1~6の6基が主柱穴、北側のP7が棟持柱、主柱穴外側のP9~14が軒を受ける支柱穴、南壁中央下のP15・16が入口関連施設と思われる。P12~14~17間には幅15~20cm、床面からの深さ5~8cmの周溝状の溝がくの字に曲がって走っている。

遺物出土状況: 炉2で高杯(3)・甕(13)壺(15)が出土しているほか、床面、埋土から土器が22.4kg出土している(第126表)。このほか、埋土から成人前のヒトの右下顎の第1または第2大臼歯の歯冠が出土している(第6章4)、見た目が新しく大きさも現代人のものと変わらず、調査時の所見ではこの住居跡を切る土坑内出土の可能性があるとあり、混入と思われる。遺物: 鉢(1・2)は体部がやや丸みを帯びる。甕(6~13・18~20)は、ほとんどが頸部に縷状文、口縁部と胴部に櫛波状文を施すものであるが、大型の甕(13)と破片(18・19)には櫛波羽状文を施すものもある。壺(15~17, 22~25)は頸部がT字文のもの(15)、櫛波羽状文のもの(17)、斜格子状沈線のもの(22)、同心円状文のもの(23・24)など様々である。刀子(33)は古代のもので、混入と思われる。

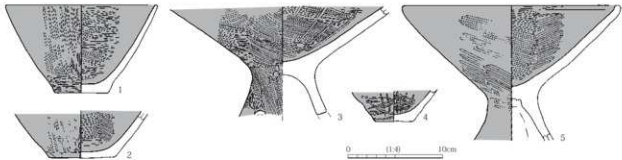
時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第50表 77号住居跡出土土器観察表

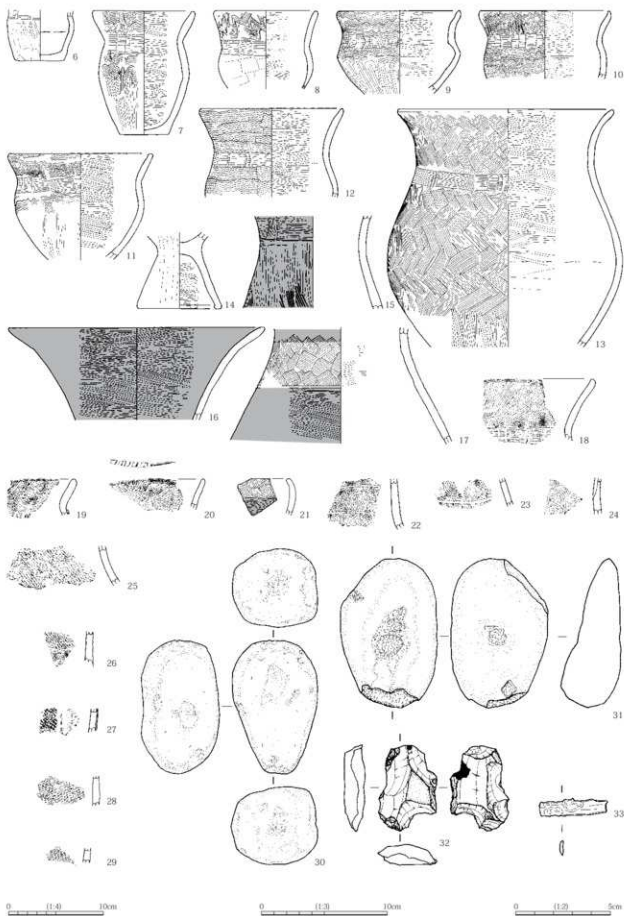
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	肌土	残存率	備考
1	床面	赤生土器鉢	(15.8)	5.6	9.3	108	へう割り	下縁へう割り後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡茶褐色	細砂少量	40%	
2	埋土	赤生土器鉢	—	6.8	4.9	183	へう割り	下縁へう割り後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡褐色	細砂やや多	20%	
3	炉2上	赤生土器高杯	—	—	器高11.6	987	脚部内面ナデ	縦ミガキ	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡褐色	細砂少量	30%	器部の3箇所に凹形と思われる孔
4	埋土	赤生土器鉢	—	4.0	器高3.4	58	銅代直	縦横ミガキ後赤彩	縦横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	灰色~淡黄褐色	1mm以下の細砂やや多	30%	
5	床面	赤生土器高林	22.6	—	器高14.2	840	脚部内面横へう割り	上半縦ミガキ、下半横へう割り後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	やや軟	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	40%	
6	埋土	赤生土器ミニチュウア	—	4.9	器高5.4	105	へう割り	縦へう割り後横ミガキ	ナデ	ナデ	普通	暗灰褐色	1mm以下の細砂やや多	50%	
7	埋土	赤生土器甕	(10.5)	(5.1)	13.0	126	へう割り	下半縦ミガキ、上半縦縷状文	横ミガキ	ナデ	普通	赤褐色	1mm以下の細砂少量	10%	
8	埋土	赤生土器鉢	(10.6)	—	器高8.2	53	—	横へう割り	横ハケ	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂少量	10%	
9	床面	赤生土器甕	12.8	—	器高8.7	325	—	下半縦、一部横へう割り後縦ミガキ	横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	1mm以下の細砂少量	70%	
10	埋土	赤生土器甕	(13.6)	—	器高7.1	60	—	櫛波状文	横ミガキ	—	普通	淡黄褐色	細砂少量	5%	
11	床面	赤生土器鉢	14.7	—	器高11.2	390	—	下半縦へう割り後縦ミガキ、上半櫛波状文	横ミガキ	—	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂やや多	70%	
12	埋土	赤生土器甕	(15.0)	—	器高9.4	130	—	櫛波状文	横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒やや多	20%	
13	炉2中	赤生土器甕	22.5	—	器高25.0	1390	—	下半縦ミガキ、中~上半櫛波状文	横ナデ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	40%	
14	埋土	赤生土器台付甕	—	脚径8.8	器高8.0	140	脚部内面横ハケ	縦へう割り後横ミガキ	ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	5%	未測



- 1 0.5~2cm大の軽石粒、ブロックをやや多量に含む黒褐色シルト(10YR2/2) しまり、粘性強
- 2 ローム粒を微量に混じる黒褐色砂質シルト(10YR2/3) しまり、粘り強
- 3 ローム粒、粘土粒を多量に含む黒褐色シルト(10YR2/2)
- 4 軽石粒、砂粒を微量含む黒色シルト(10YR2/1) しまり、粘り強
- 5 地山ローム、黒色シルト、砂、軽石粒の混土=カケラン
- 6 軽石、ローム粒、砂粒を微量含む黒褐色粘質シルト(10YR2/3) しまり強
- 7 軽石、ローム粒を少量含む黒褐色粘質シルト(10YR2/3) しまり弱
- 8 ローム粒を少量含む黒褐色粘質シルト(10YR2/3) しまり強
- 9 砂、ローム粒、暗褐色粘質シルトの混土(10YR3/4) しまり弱
- 10 ローム粒、砂粒を多量に含む褐色粘質シルト(10YR4/4) しまり強
- 11 砂、軽石粒を微量含む黒褐色粘質シルト(10YR2/3) しまり強



第57図 77号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第58图 77号住居跡 遺物图(2)



図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
15	B2	赤生土器	—	—	底高 9.8	210	—	粗めのハケ目紋、底ミガキ赤彩	滑焼	—	普通	淡褐色	1~3mmの細砂、砂粒、小石多	5%未満	
16	埋土	赤生土器	26.6	—	底高 9.8	267	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	
17	埋土	赤生土器	—	—	底高 12.2	173	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂やや多	5%	
18	埋土	赤生土器	7.8 × 7.8	—	—	50	—	凹み縞状紋	横ナデ後一部横ミガキ	—	普通	暗灰色	2mm以下の砂粒やや多	5%	拓本
19	埋土	赤生土器	5.5 × 3.8	—	—	15	—	縞状文の上の一部に凹み貼付文	横ミガキ	—	普通	黒褐色	2mm以下の砂粒少	5%	拓本
20	埋土	赤生土器	7.8 × 3.2	—	—	18	—	縞縞状文、一部割落	横ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂少	5%	拓本
21	埋土	赤生土器	4.2 × 3.9	—	—	18	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂少	5%	
22	埋土	赤生土器	5.6 × 5.2	—	—	26	—	水平沈積区画内に凹み付状紋	横ナデ	—	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂少	5%	拓本
23	埋土	赤生土器	3.0 × 6.0	—	—	13	—	沈積区画内の縞縞状文	横ナデ	—	普通	淡褐色	細砂少	5%	拓本
24	埋土	赤生土器	4.0 × 3.7	—	—	8	—	縞縞状文	横ハケ	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	拓本
25	埋土	赤生土器	9.4 × 4.3	—	—	32	—	縞文	横ナデ後一部ハケ目	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒多	5%	拓本
26	埋土	縄文土器	3.4 × 3.7	—	—	7	—	縄文文後沈積区画	ナデ	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂やや多	5%	拓本
27	埋土	縄文土器	3.7 × 2.5	—	—	13	—	縄文文後縦の縞縞状付	ナデ	—	普通	灰褐色	細砂少	5%	拓本
28	埋土	縄文土器	5.0 × 3.3	—	—	20	—	縄文	ナデ	—	普通	外面黒褐色内面淡褐色	白色細砂やや多	5%	拓本
29	埋土	縄文土器	3.0 × 1.6	—	—	4	—	縄文	ハケ目	—	普通	灰褐色	細砂少	5%	拓本

第51表 77号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
30	P16	磨き石	100%	10.6	6.8	6.1	628	花崗岩	
31	床面	磨き石	100%	11.7	7.7	4.8	500	安山岩	
32	P14	打製石斧	50%	6.8	4.6	1.6	55	凝灰岩	

第52表 77号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	処理前				処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
33	埋土	刀子	3.5	1.0	0.88	1.8	3.52	0.95	0.16	1.2	先端部の破片、錆び、土砂全体に付着。

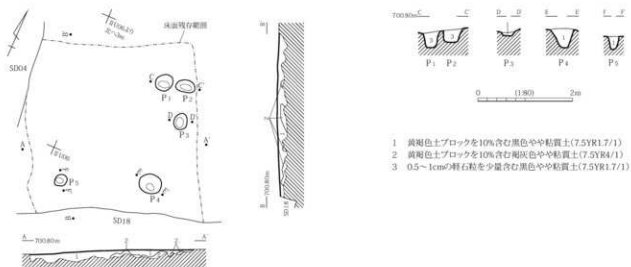
## 78号住居跡 (SB78) [第59図]

位置：2-③区、I Y 5・10、II U 1・6 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存3.6m、南北残存3.8m、検出面からの深さ0m。主軸方位：N-26°-W 遺構の重複：4・18号溝跡に切られる。堆積状況：床面削平され、掘り方のみ残存。

住居内施設：ピット5基が検出されている。住居内の位置と並びから、P1・4・5の3基が支柱穴と思われる。他のピットは性格不明である。

遺物出土状況：掘り方から弥生土器ほか371g出土している。いずれも小片で図示できなかった。

時期：弥生土器の出土が多いことなどから、弥生時代の可能性が高い。



第59図 78号住居跡 遺構図

## 501号住居跡 (SB501) [第60図 PL 6]

**位置:** 5-④区、V X 14・15 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 長方形 **規模:** 東西残存6.5m、南北残存5.0m、検出面からの深さ12~28cm **主軸方位:** W-24°-N **遺構の重複:** 5075号土坑を切る。東側が調査区外である。 **堆積状況:** 8層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設:** 炉とピット4基が検出されている。炉は住居跡西部中央のP1・2間にあり、土器敷き炉である。ピットは住居内の位置と並びから、P1・2が主柱穴で、P3が棟持柱と思われるが、P4は性格不明である。床は壁際を除き硬く締まっている。

**遺物出土状況:** 炉内と埋土から弥生土器ほか4.9kg出土しているが(第126表)、接合して形になるものはほとんどない。 **遺物:** 鉢(1)、壺(2)、甕(3)はいずれも小片である。砥石(4)は2面が使用されている。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第53表 501号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	粘土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器鉢	—	6.4	現高3.6	141	へら削り	縦ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡褐色	細砂少量	20%	
2	砂	弥生土器壺	—	9.2	現高6.2	270	へら削り	縦ミガキ後赤彩	ハケ調整後磨滅	ハケ調整後磨滅	普通	淡い赤褐色	1~2mmの細砂多	5%未満	
3	埋土	弥生土器甕	9.5×6.4	—	—	52	—	磨滅状況文	縦ミガキ後横のミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%未満	拓本

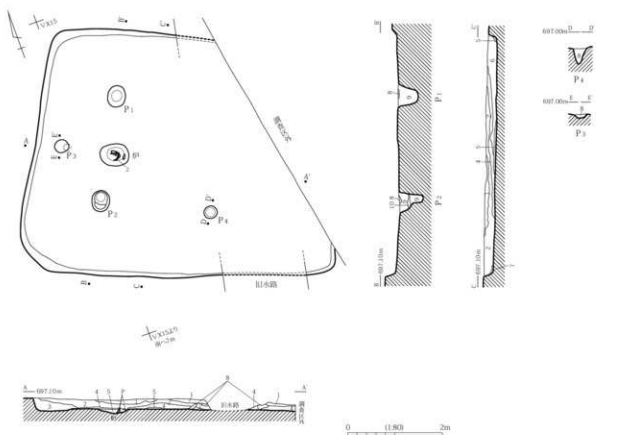
第54表 501号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			遺量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
4	埋土	砥石	40%	10.1	7.8	5.1	480	砂岩	
5	埋土	スクレイパー	80%	7.0	3.7	1.6	48	燧石	

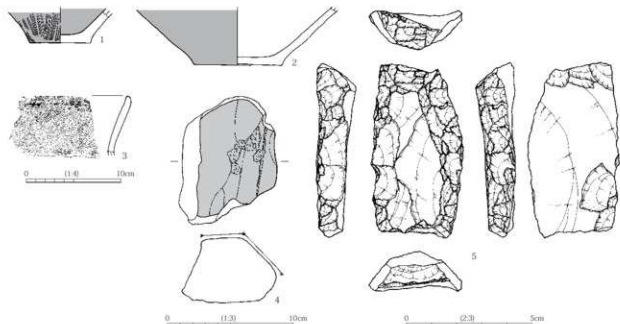
## 502号住居跡 (SB502) [第61図 PL 6・27・37]

**位置:** 5-④区、V X 13・14 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 長方形 **規模:** 東西5.6m、南北7.2m、検出面からの深さ3~27cm **主軸方位:** W-19°-N **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 9層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設:** 炉とピット10基が検出されている。炉は住居跡西部中央のP1・4間にあり、西側の壺形部片を埋設した土器埋設炉が、東側の高杯口縁部(1)を敷いた土器敷き炉へ作り替えがされている。ピット



- 1 0.5cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 2 0.5cmほどの軽石粒, 炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強, 粘り弱
- 3 0.5cmほどの軽石粒, 炭化物を少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強, 粘り弱
- 4 0.5cmほどの軽石粒を少量, 炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 5 0.5cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強, 粘り弱
- 6 0.5cmほどの軽石粒, 炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 7 0.5cmほどの軽石粒を微量含む黒褐色土(10YR3/2) しまり強, 粘り弱
- 8 0.5cmほどの軽石粒を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱—柱頭, 柱頭
- 9 0.5cmほどの軽石を微量, 暗褐色土を少量含む褐色砂質土(10YR4/4) しまり弱
- 10 0.5cmほどの軽石粒を微量, 暗褐色土をやや多量に含む褐色土(10YR4/4) しまり弱



第60図 501号住居跡 遺構図・遺物図

トは住居内の位置と並びから、P1～4が主柱穴で、P5が棟持柱、P7～9は入口施設に関わるものと思われる。床は部分的に貼られている。

**遺物出土状況：**炉内と埋土から弥生土器ほか7.2kgが出土しているほか（第126表）、骨小片が出土している（第244表）。**遺物：**無頸壺（2）は口縁に2個1対の小孔が穿たれている。壺（3）は頸部のT字文の縦線がやや波打っている。甕（4～6）はいずれも頸部に簾状文、口縁部と胴部に櫛描波状文が施されるものである。

**時期：**出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第55表 502号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	伊	弥生土器 高杯	(26.4)	—	器高 11.0	370	—	縦ミガキ後 赤彩	横ミガキ後 赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	10%	
2	床面	弥生土器 無頸壺	9.0	4.4	8.3	188	ヘラ削り	縦横ミガキ 後赤彩	縦横ミガキ 後赤彩	ミガキ後 赤彩	普通	赤褐色	1mm以下の 細砂少量	90%	口縁部内に2個1 対の小孔2箇所
3	床面	弥生土器 —	—	6.9	器高 26.0	1125	ヘラ削り	下平縦ミガ キ、上平縦 ミガキ後赤彩	横ハケ目 ハケ目	—	普通	淡い黄褐色	1mm以下の 細砂少量	90%	
4	P6	弥生土器 甕	10.2	4.7	10.2	243	ヘラ削り	下平縦ミガ キ、上平縦 櫛状文	横ミガキ	ミガキ	普通	淡い黄褐色	1mm以下の 細砂少量	90%	
5	床面	弥生土器 甕	14.6	6.0	16.8	530	ヘラ削り	下平縦へつ 削り後縦ミ ガキ上平縦 櫛状文	上平縦ミガ キ、下平斜 めミガキ	ミガキ	普通	淡い灰褐色	1mm以下の 細砂少量	90%	
6	床面	弥生土器 甕	15.5	5.5	16.2	660	ヘラ削り	下平へつ削 り、上平縦 櫛状文	横へ斜めハ ケ目	ハケ目	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	

第56表 502号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
7	伊	扁平片方石	50%	5.9	3.7	0.8	25	磨岩	

## 503号住居跡 (SB503) [第62図 PL 6]

**位置：**5-③区、V S 23・24、X 3・4 **検出：**IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状：**方形または長方形 **規模：**東西6.6m、南北残存4.5m、検出面からの深さ4～29cm **主軸方位：**N-42°-W **遺構の重複：**504号住居跡、503号溝跡に切られる。南東部は調査区外である。**堆積状況：**5層に分かれ、レンズ状の堆積である。

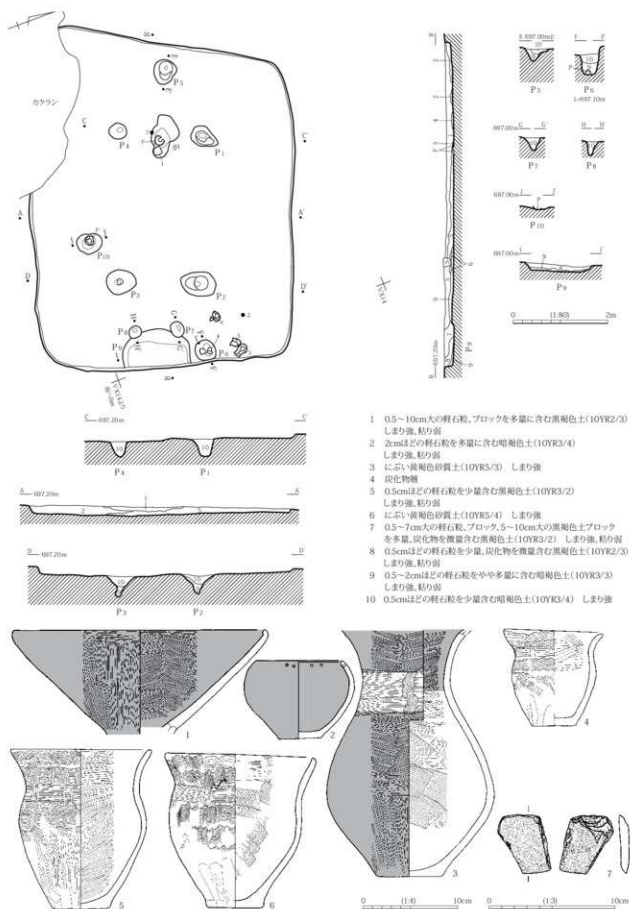
**住居内施設：**炉とピット5基が検出されている。炉は住居跡北部中央のP2・4間にあり、土器敷き炉である。炉北部の張出中に炭化物層が見られる。ピットは住居内の位置と並びから、P2・4が主柱穴で、P1が棟持柱と思われる。その他のピットの性格は不明である。床は硬くはないが明瞭である。

**遺物出土状況：**炉内と埋土から弥生土器5.1kgが出土している（第126表）。**遺物：**甕（1・2）はいずれも頸部に簾状文、口縁部と胴部に櫛描波状文が施されるものである。壺（3）は胴下半部が内湾して立ち上がる。

**時期：**出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

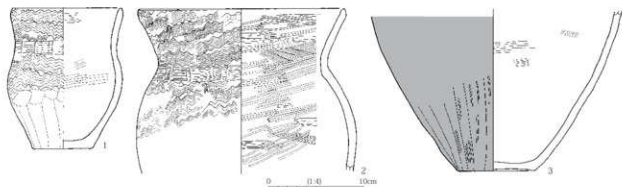
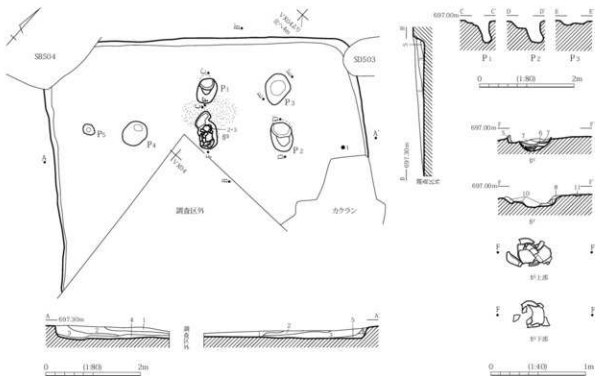
第57表 503号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 甕	11.5	6.1	15.0	550	ヘラ削り	下平縦へつ 削り、上平 櫛状文	横ナデ後一 部横ミガキ	ナデ後ミガ キ	普通	黒褐色	細砂少量	95% 以上	
2	伊	弥生土器 甕	21.6	—	器高 17.3	1205	—	斜め有上が りの櫛状文	横ハケ調整 洗横ミガキ	—	良好	淡黄褐色	1mm以下の 細砂多	60%	
3	伊	弥生土器 甕	—	7.9	器高 17.1	920	ヘラ削り	縦へつ削り 洗横ミガキ 赤彩	横ハケ	へらナデ	軟	褐色	1mm以下の 細砂多	20%	



- 0.5~10cm大の軽石粒、ブロックを多量に含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強、粘り弱
- 2cmほどの軽石粒を多量に含む暗褐色土(10YR3/4) しまり強、粘り弱
- にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) しまり強
- 炭化物類
- 0.5cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR3/2) しまり強、粘り弱
- にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) しまり強
- 0.5~7cm大の軽石粒、ブロック、5~10cm大の黒褐色土ブロックを多量、炭化物を微量含む黒褐色土(10YR3/2) しまり強、粘り弱
- 0.5cmほどの軽石粒を少量、炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強、粘り弱
- 0.5~2cmほどの軽石粒をやや多量に含む暗褐色土(10YR3/3) しまり強、粘り弱
- 0.5cmほどの軽石粒を少量含む暗褐色土(10YR3/4) しまり強

第61図 502号住居跡 遺構図・遺物図



第62図 503号住居跡 遺構図・遺物図

504号住居跡 (SB504) [第63・64図 PL 7・27・37]

位置：5-③区、VS 22・23、X 3 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西5.5m、南北7.1m、検出面からの深さ39～47cm 主軸方位：N-10°-W 遺構の重複：503号住居跡を切る。堆積状況：9層に分かれ、レンズ状の堆積である。

住居内施設：炉とピット7基が検出されている。炉は住居跡北部中央のP1・2間にあり、土器敷き炉である。炉北部の張出中に炭化物層が見られる。ピットは住居内の位置と並びから、P1・2・4・5が主柱穴、P3が棟持柱、P6・7が入口施設と思われる。床は壁際を除き硬く締まっている。

遺物出土状況：炉内と埋土から弥生土器が20.1kg出土している(第126表)。遺物：高杯(2・3)は

口縁が内湾して直立気味となる。甕（5～9・15・16）口縁部と胴部に櫛描波状文が施されるもの（5・6・8）と櫛描羽状文が施されるもの（9・15・16）がある。壺（10～14・17・18）は頸部に矢羽根状沈線が施されるもの（10）、櫛描波状文や櫛描横走沈線が施されるもの（11）、T字文のもの（17）、鋸歯状沈線と列点が施されるもの（18）などがある。

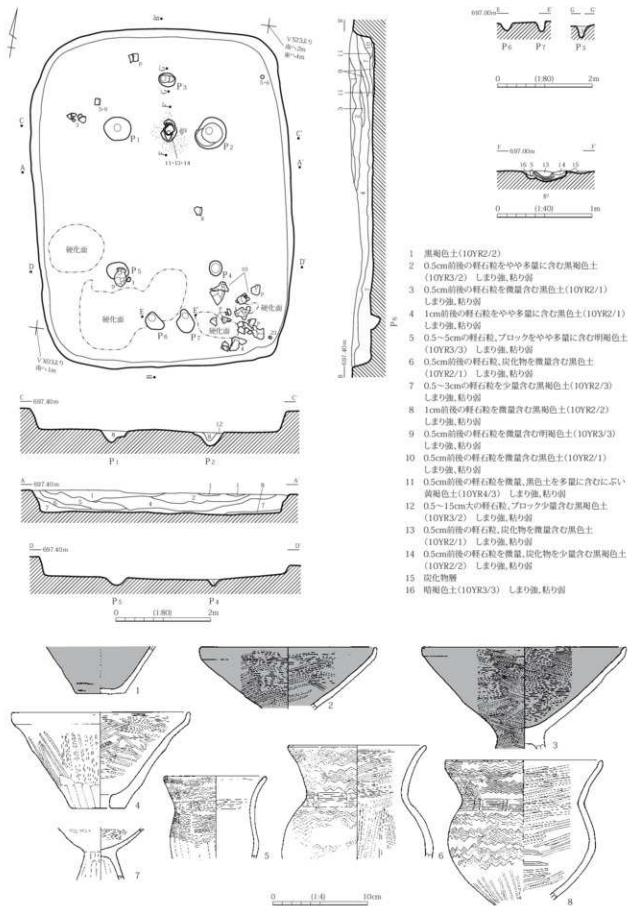
時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第58表 504号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面		底面内面	底面	底面内面	坑底	色調	胎土	残存率	備考
							外面	内面								
1	床面	赤生土器鉢	—	5.2	底高 4.9	97	副代版	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ナデ後赤彩	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	30%		
2	埋土	赤生土器高林	(18.4)	—	底高 6.5	130	—	縦横のミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	黒灰色	1mm以下の細砂やや多	10%		
3	床面	赤生土器高林	21.4	—	底高 10.7	535	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	50%		
4	床面	赤生土器甕	(18.5)	5.5	10.2	390	ヘラ削り	下端縦へう削り、中端ミガキ	横ミガキ	ナデ	良好	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	50%	底部中央に直径2.2cmの内形の孔	
5	床面	赤生土器甕	10.7	—	底高 8.8	195	—	下半縦へう削り、上半櫛描波状文	横ナデ	—	普通	黒褐色	細砂少量	60%		
6	床面	赤生土器甕	(14.4)	—	底高 12.0	180	—	櫛描波状文、縦文後赤彩	縦ミガキ	—	普通	黒褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%		
7	埋土	赤生土器白付甕	—	—	底高 5.5	66	—	横ミガキ後櫛描白文	横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	5%		
8	床面	赤生土器甕	16.3	—	底高 15.4	690	—	下半縦ミガキ、上半櫛描波状文	横ミガキ	—	普通	淡黄褐色	2mm以下の砂粒やや多	90%		
9	PS	赤生土器甕	21.0	8.8	34.5	3170	ヘラ削り	下半縦ミガキ、上半櫛描羽状文	縦ミガキ	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	95%以上		
10	床面	赤生土器甕	21.0	—	底高 8.2	359	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	灰褐色	細砂少量	10%		
11	炉下	赤生土器甕	—	—	底高 23.1	430	—	下半横、上半縦ミガキ後赤彩	横へ斜めハケ目	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	5%		
12	埋土	赤生土器甕	—	8.1	底高 6.7	370	—	縦横のミガキ後赤彩	横ハケ目	ナデ	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	未調査	
13	炉上	赤生土器甕	—	8.4	底高 12.0	500	ヘラ削り	縦へう削り、赤彩	ナデ後横へう削り、斜めハケ目	ナデ後ハケ目	普通	淡赤色	2mm以下の砂粒多	10%		
14	炉下	赤生土器甕	—	10.5	底高 10.5	580	ヘラ削り	下端へう削り、横ミガキ	横ハケ	ナデ	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	未調査	
15	埋土	赤生土器甕	7.0 × 6.5	—	—	40	—	横羽状沈線	横ナデ後縦横のミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	拓本	
16	埋土	赤生土器甕	9.1 × 4.2	—	—	32	—	横羽状沈線	横ナデ後横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	拓本	
17	埋土	赤生土器甕	4.0 × 3.1	—	—	10	—	T字文	ナデ後割落	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	拓本	
18	埋土	赤生土器甕	5.8 × 5.5	—	—	35	—	縦ミガキ後赤彩	内面横ナデ	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%	未調査	

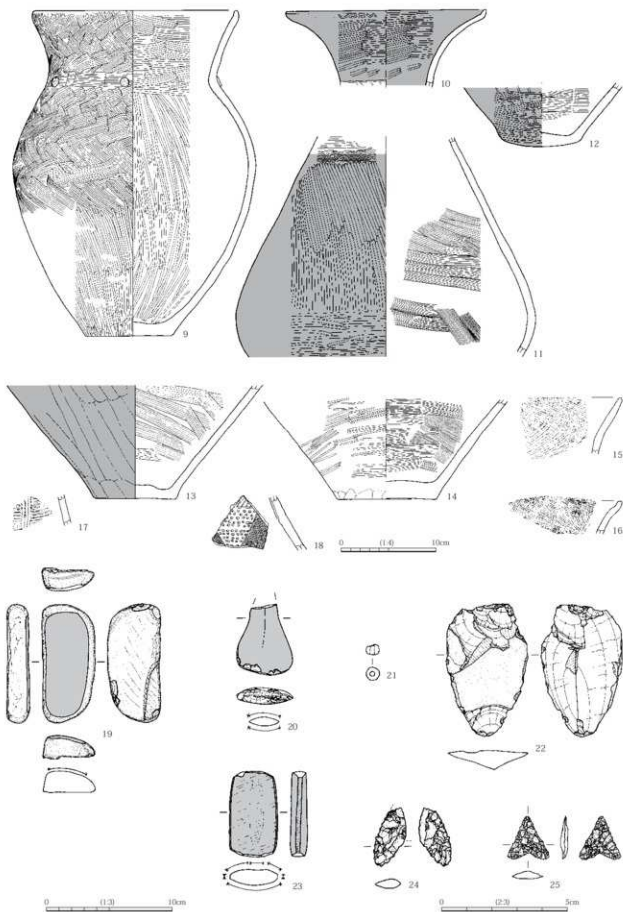
第59表 504号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
19	埋土	砥石	50%	9.4	4.2	1.8	114	細粒砂岩	
20	床面	砥石	60%	5.6	4.5	1.3	33	砂岩	
21	埋土	ガラス小玉	100%	0.5	0.5	0.4	0.1	ガラス	
22	埋土	櫻形石器	100%	5.3	3.3	0.8	10.6	凝灰岩	
23	埋土	砥石	100%	6.7	3.7	1.4	63	砂岩	
24	埋土	石鏝	20%	2.4	1.3	0.4	0.9	黒曜石	
25	埋土	石鏝	100%	1.8	1.7	0.3	0.57	黒曜石	



第63図 504号住居跡 遺構図・遺物図(1)





第64図 504号住居跡 遺物図(2)

## 505号住居跡(SB505) [第65・66・67図 PL7・28・37]

**位置:** 5-③区、V S 18・19・23・24 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西5.6m、南北5.9m、検出面からの深さ31~59cm **主軸方位:** N-35°-W **遺構の重複:** 508号円形周溝墓の周溝に切られる。 **堆積状況:** 9層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設:** 炉とピット13基が検出されている。炉は住居跡北部中央のP1・2間にあり、土器敷き坪である。ピットは住居内の位置と並びから、P1~4が主柱穴、P5が棟持柱、P10・11が入口施設と思われる。その他のピットは性格不明である。床は壁際を除き、硬く締まっている。

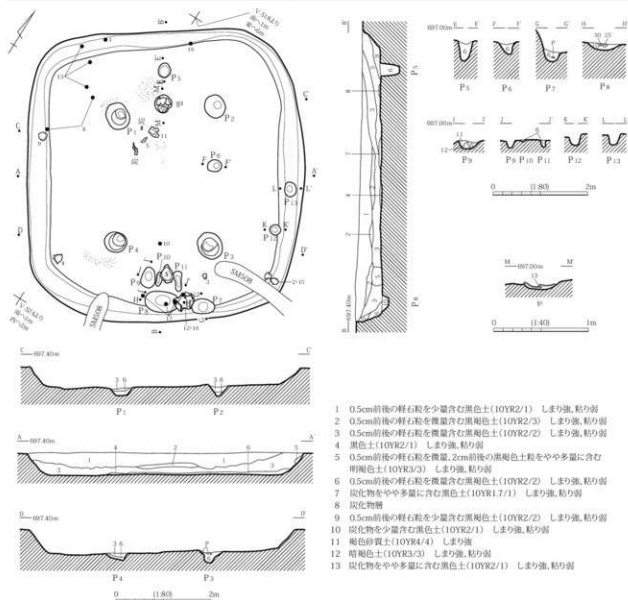
**遺物出土状況:** 炉内と埋土から弥生土器が26.6kg出土しているほか(第126表)、埋土よりシカ歯片が出土している(第244表)。 **遺物:** 鉢(1・2)高杯(3・4)は大小2種類のものがある。甕(5~12・18)も大小さまざまな大きさのものがあるが、口縁部と胴部の文様は櫛描波状文のものがほとんどであり、11のみ斜めの櫛描文が施される。10は内面に胎土のふくらみと、補修用粘土の貼り付けが見られる。壺(13~17・19~23)は、頸部にT字状文のもの(15)と鋸歯状文のもの(23)があり、14は口縁部に不整形のものの添付が見られる。壺(19)は表面にM字状の沈線が見られるが、小片で絵画かどうか断定できない。22は二重口縁の壺の口縁の屈曲部である。石器は種類が多く、打製石斧(24)、凹石(25)、敲き石(26)、砥石(27・29)、磨石(28)、有孔磨製石鏃(30)などがある。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

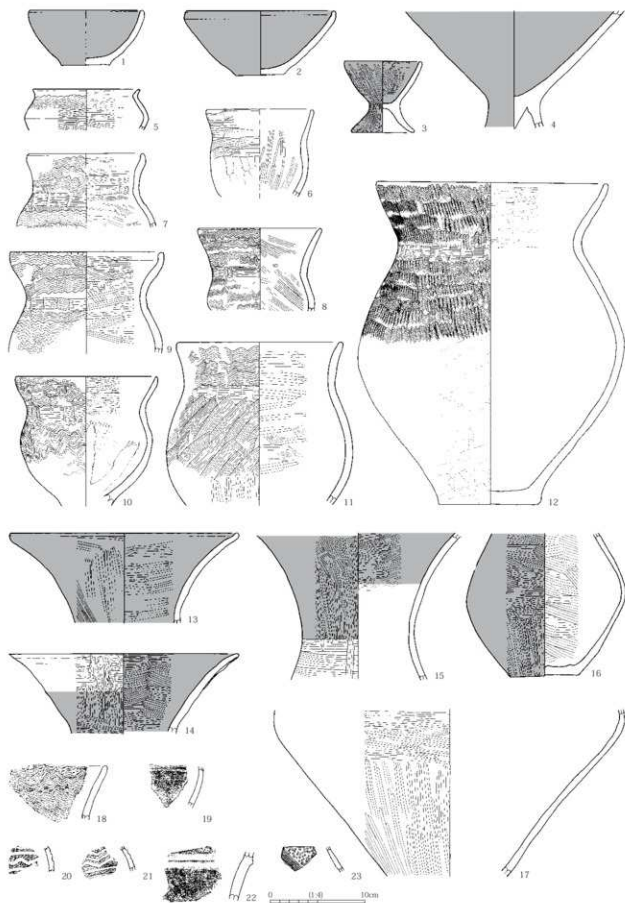
第60表 505号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土部位・位置	器種	口径(cm)	口径(cm)	口径(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器鉢	(11.7)	5.3	5.9	140	へら削り	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	60%	
2	床面	弥生土器鉢	15.6	5.2	6.9	285	へら削り	縦横ミガキ後赤彩	縦横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	灰褐色	細砂少量	80%	
3	床面	弥生土器高杯	8.0	脚径6.2	7.5	135	胴部内面へら削り	縦ミガキ後赤彩	縦ミガキ後赤彩	環部内面ミガキ後赤彩	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	95%	
4	床面	弥生土器高杯	—	—	現高12.5	505	胴部内面へら削り	上下横ミガキ、下半横ミガキ後赤彩	縦ミガキ後赤彩	環部内面ミガキ後赤彩	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	20%	
5	埋土	弥生土器甕	(11.1)	—	現高4.3	65	—	横ミガキ	横ミガキ	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂少量	10%	
6	埋土	弥生土器甕	(11.2)	—	現高9.3	47	—	縦へら削り	縦ミガキ	—	普通	黒灰色	1mm以下の細砂やや多	5%	
7	埋土	弥生土器甕	11.6	—	現高7.9	79	—	ハケ調整後櫛描波状文	横へら削りハケ目	—	普通	淡茶褐色	細砂やや多	10%	
8	床面	弥生土器甕	(12.8)	—	現高8.8	235	—	櫛描波状文	回めミガキ	—	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	50%	
9	床面	弥生土器甕	15.8	—	現高10.8	462	—	櫛描波状文	縦ハケ後横ミガキ	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂やや多	40%	
10	床面	弥生土器甕	(14.8)	—	現高13.6	160	—	下半へら削り後縦ミガキ、上半櫛描波状文	ナデ	—	普通	淡褐色	1mm以下の砂粒やや多	20%	胴部内面縦長粘土貼り付け痕2箇所
11	床面	弥生土器甕	(17.3)	—	現高17.1	470	—	上下へら削り後縦ミガキ、上半櫛描波状文	回めハケ調整後横ミガキ	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	20%	
12	床面	弥生土器甕	24.0	10.3	34.1	2525	へら削り	下半へら削り後縦ミガキ、上半櫛描波状文	ナデ	ナデ	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒やや多	90%	
13	床面	弥生土器甕	23.6	—	現高9.5	595	—	口縁部縦ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	20%	
14	埋土	弥生土器甕	(24.3)	—	現高8.3	480	—	下半横ミガキ、上半横ハケ、一部ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡灰褐色	2mm以下の砂粒多	5%	胎土の膨らみと粘土の補修の貼り付け
15	床面	弥生土器甕	—	—	現高15.5	700	—	斜めのハケ、縦ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡い灰褐色	2mm以下の砂粒多	5%	

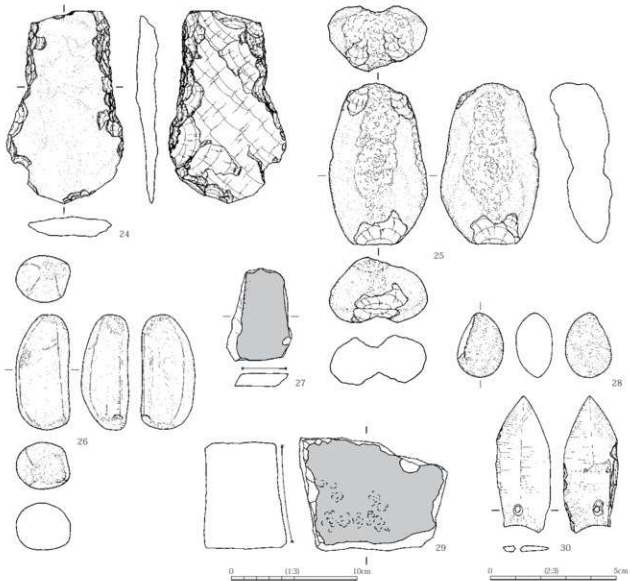
図版番号	出土層位・位置	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	容量 (L)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
16	P1・3	弥生土器	—	7.2	底高 15.2	518	へつ削り	上下縦へつ削り後縦ミガキ上半横ミガキ後半赤彩	横ハケ	縦ナデ	普通	表面は褐色・内面黒灰色	2mm以下の砂粒少量	40%	
17	P8、床面	弥生土器	—	—	底高 17.0	945	—	上下縦ミガキ、中央部横ハケ後半縦ミガキ	削落	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒中々多	10%	
18	埋土	弥生土器	8.2 × 6.0	—	—	35	—	縦筋波状文	ナデ後縦縞のミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%未満	拓本
19	埋土	弥生土器	4.0 × 4.2	—	—	10	—	縦ミガキ後半赤彩	横ハケ	—	普通	淡赤色	細砂少量	5%未満	拓本
20	埋土	弥生土器	3.2 × 2.7	—	—	5	—	横走り凹み縞と波切凹み縞間に縦文	ナデ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%未満	拓本
21	埋土	弥生土器	3.8 × 2.7	—	—	8	—	横走り凹み縞と波切凹み縞間に縦文	ナデ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%未満	拓本
22	埋土	弥生土器	6.2 × 5.3	—	—	45	—	縦ナデ後縦へつ削り	横へつ削り	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	5%未満	拓本
23	埋土	弥生土器	3.7 × 3.0	—	—	5	—	へつ削り縁と内形跡、下部斜めミガキ、赤彩	横ナデ後一部ハケ目	—	普通	淡灰褐色	1mm以下の砂粒中々多	5%未満	



第65図 505号住居跡 遺構図



第66図 505号住居跡 遺物図(1)



第67図 505号住居跡 遺物図(2)

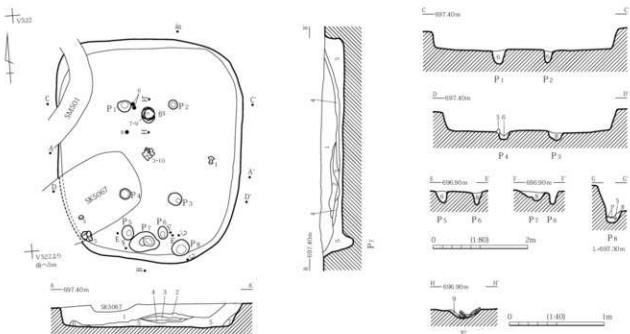
第61表 505号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
24	埋土	打製石斧	90%	15.3	9.2	2.0	257	デイサイト	
25	P8	凹石	90%	12.8	7.8	5.2	432	安山岩	
26	埋土	磨き石	100%	9.0	3.8	3.7	227	凝結砂岩	
27	埋土b	砥石	10%	7.3	5.1	1.8	72	安山岩	
28	埋土c	磨石	80%	5.1	3.7	2.9	70	灰岩	
29	埋土	砥石	20%	11.7	9.0	6.5	1260	安山岩	
30	埋土	有孔磨製石鏃	80%	5.4	2.2	0.3	43	緑色片岩	

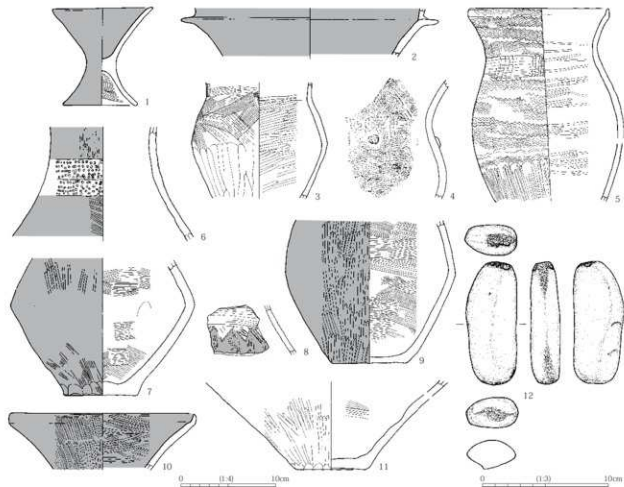
## 506号住居跡 (SB506) [第68図 PL 7・29]

**位置:** 5-③区、V S 22 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 隅丸方形 **規模:** 東西3.8m、南北4.6m、検出面からの深さ37~49cm **主軸方位:** N-3°-E **遺構の重複:** 501号円形周溝基の周溝と5067号土坑に切られる。 **堆積状況:** 6層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**住居内施設:** 炉とピット8基が検出されている。炉は住居跡北部中央のP1・2間のやや南にあり、土器敷き炉である。ピットは住居内の位置と並びから、P1~4が支柱穴、P5~7が入口施設と思われる。



- 1 1cm前後の軽石粒をやや多量、炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱
- 2 1cm前後の軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強、粘り弱
- 3 0.5cm前後の軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱
- 4 1cm前後の軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/1) しまり強、粘り弱
- 5 1cm前後の軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱
- 6 0.5cm前後の軽石粒を微量含む黒褐色土(10YR2/1) しまり強、粘り弱
- 7 0.5cm前後の軽石粒を微量、2~6cmほどの暗褐色土粒をブロック状に少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強、粘り弱
- 8 0.5cm前後の軽石粒、炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/1) しまり強、粘り弱
- 9 炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱



第68図 506号住居跡 遺構図・遺物図

その他のピットは性格不明である。床は壁際を除き硬い。

**遺物出土状況:** 炉内と埋土から弥生土器が13.9kgと多量に出土している(第126表)。**遺物:** 高杯(1)は小型で、杯部がやや外反して開く。高坏(2)は、二重口縁である。坏底部ではなく、口縁部から別の口縁が立ち上がることから、有段口縁の高杯や古墳時代前期に盛行する高坏状装飾器台とは器形が異なり、全体の器形は不明である。甕(3~5)は胴部が櫛描羽状文のもの(3)と櫛描波状文のもの(4・5)があり、4は頸部下に貼付文が施される。壺(6~11)は、頸部が平行沈線と列点のもの(6)や平行沈線と鋸歯状文のもの(8)があり、10は口縁部が内湾して直立気味となる。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第62表 506号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	燒成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 高杯	(10.4)	脚径 7.7	10.3	199	胴部内面ナ デ一部ハケ	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	坏部内面ミ ガキ後赤彩	不良	淡褐色	1mm以下の 砂粒やや多	95%	
2	埋土	弥生土器 高杯	—	—	瓶高 5.2	80	—	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	—	普通	褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	
3	P7	弥生土器 甕	—	—	瓶高 12.2	138	—	下平縁へう 削り、上半 櫛描羽状文	横ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂多	10%	
4	P8	弥生土器 甕	—	—	7.6 × 12.5	85	—	胴部櫛描 波状文	横ミガキ	—	普通	褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	拓本
5	床面	弥生土器 甕	14.4	—	瓶高 20.5	660	—	下平縁へう 削り後縦ミ ガキ、上半 櫛描波状文	横ナデ後 横ミガキ	—	良好	灰褐色	1mm以下の 細砂少量	60%	
6	床面	弥生土器 甕	—	—	瓶高 12.1	92	—	縦ミガキ後 赤彩	削落で不明	—	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	未満
7	P7下	弥生土器 甕	—	7.2	瓶高 14.4	805	へう削り	下平縁へう 削り、下平ハ ケ後ナデ、上 半縦ミガ キ、赤彩	横ハケ目	押さえ	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	50%	
8	床面	弥生土器 甕	—	—	6.5 × 5.9	28	—	縦ミガキ後 赤彩	横ナデ	—	やや軟	淡赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	5%	未満
9	床面	弥生土器 甕	—	7.6	瓶高 15.2	685	へう削り	縦へう削り 後赤彩	横ハケ目	ナデ	良好	淡褐色	2mm以下の 砂粒やや多	50%	
10	床面	弥生土器 甕	(19.3)	—	瓶高 6.1	142	—	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の 砂粒多	5%	未満
11	P7上	弥生土器 甕	—	7.1	瓶高 9.3	555	へう削り	下平縁へう 削り、縦ミガ キ	横ハケ目	ナデ	普通	淡褐色	2mm以下の 砂粒やや多	10%	

第63表 506号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法型 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
12	埋土	磨石	100%	9.7	4.1	2.4	140	細粒砂岩	

## 507号住居跡 (SB507) [第69図 PL 7]

**位置:** 5-②区、VN 23, S 3・4 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 不明 **規模:** 東西残存3.1m、南北残存2.6m、検出面からの深さ4~13cm **主軸方位:** N-43°-E **遺構の重複:** 5073号土坑に切られる。東部は調査区外である。 **堆積状況:** 4層に分かれ、レンズ状の堆積である。

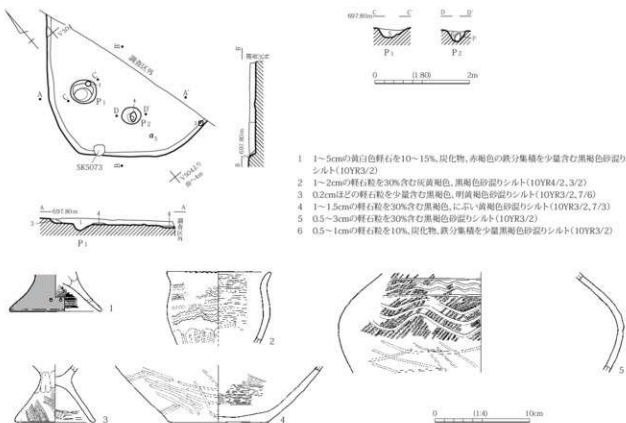
**住居内施設:** ピット2基が検出されている。ピットは住居内の位置から、P1が支柱穴の1つと思われる。その他のピットは性格不明である。床は地山のままである。

**遺物出土状況:** P2内と埋土から弥生土器が1.5kg出土している(第126表)。**遺物:** 高杯(1)は小型で、脚部に2個1対の小孔を持つ。甕(2)は頸部の文様帯がなく、口縁部から胴部まで櫛描波状文が続く。壺(5)は、胴部に縄文とへら描きの沈線文が施される。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代中期と思われる。

第64表 507号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底面内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P1	弥生土器 高杯	—	脚径 9.8	現高 4.1	95	—	縦ミガキ後 赤彩	横ハケ目	—	普通	淡褐色	細砂多	30%	脚部外面2個1 対の孔2箇所
2	埋土	弥生土器 甕	(10.8)	—	現高 7.6	78	—	上下縦へつ 削り後縦ミ ガキ上半部 櫛状文	横ミガキ	—	普通	赤褐色	1mm以下の 細砂少量	10%	
3	床面	弥生土器 付付籠	—	高台径 8.2	現高 6.0	108	脚部内面 横ハケ	高台部斜め 横ハケ	斜めハケ目	—	普通	淡赤色	1mm以下の 砂粒やや多	20%	
4	P2	弥生土器 甕	—	10.2	現高 6.0	522	へつ削り	へつ削り後 縦ミガキ	横ハケ目	ハケ目	普通	淡赤色	細砂少量	5%	
5	床面	弥生土器 甕	—	—	現高 10.5	217	—	上下縦横の ミガキ上半 部文脈文後 横ハケ目と 波状凹線	横ナデ	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	5% 未満	



第69図 507号住居跡 遺構図・遺物図

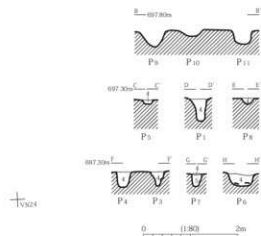
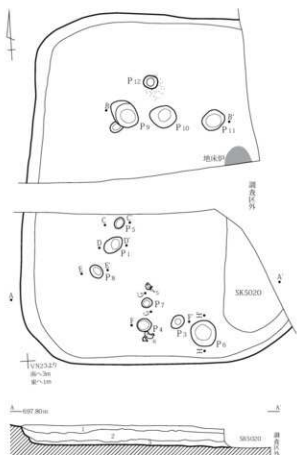
## 508号住居跡 (SB508) [第70図 PL 7・29]

位置: 5-②区、VN 18・23 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 隅丸長方形 規模: 東西残存 5.4m、南北 7.4m、検出面からの深さ 20～43cm 主軸方位: N-7°-E 遺構の重複: 5020号土坑に切られる。東部は調査区外である。堆積状況: 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

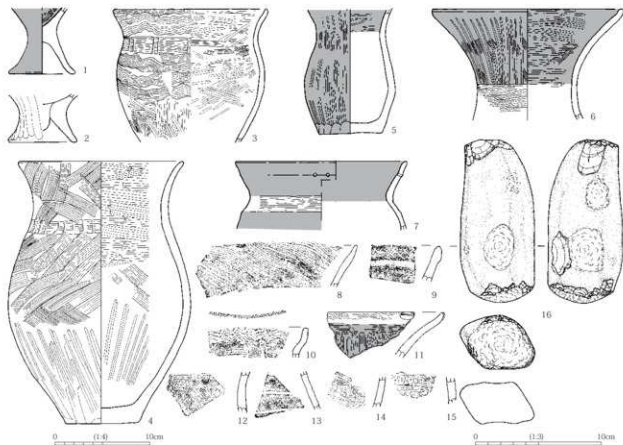
住居内施設: 炉とピット11基が検出されている。炉は、住居跡東部中央のP11の南側で、炭と焼土が分布しており、地床炉であったと思われる。ピットは住居内の位置から、P1・9・11が柱柱穴、P3・4が入口施設と思われる。その他のピットは性格不明である。床は硬く締まっている。

遺物出土状況: 床面と埋土から弥生土器が14.0kg出土している(第126表)。遺物: 甕(3・4・8～10)は口縁部が櫛波状文のもの(3・10)、櫛描羽状文のもの(4)、斜めの櫛描文のもの(8)などがある。9は折返し口縁で、折返し部に斜格子状の沈線が施される。胎土もほかと違って白っぽく、他地





- 1 0.5～1cmの軽石粒を5%、1cmの火山岩粒を少量含む黒褐色砂混リシルト(10YR3/1)
- 2 0.2～5cmの軽石粒、ブロックを10～15%、1～1.5cmの黄褐色粒を少量含む黒褐色砂混リシルト(10YR3/1)
- 3 軽石粒を微量、黄褐色塊を少量含む黒褐色砂混リシルト(10YR3/1)
- 4 1cm以下の軽石粒を少量含む黒褐色砂混リシルト(10YR3/1)
- 5 1cm以下の軽石粒を少量、1cm以下の浅黄褐色軽石粒20%含む黒褐色砂混リシルト(10YR3/1)



第70図 508号住居跡 遺構図・遺物図

域からの搬入品と思われる。壺（5・6・11～15）は、頸部に櫛描波状文が施されるもの（6）や斜格子状沈線のもの（12）縄文のもの（13）などがあるが、13は中期のもの混入と思われる。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第65表 508号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P6	弥生土器 高杯	—	脚径 6.8	器高 7.0	110	脚部内面 横ナデ後 ヘウ刷り	縦ミガ牛後 赤彩	横ミガ牛後 赤彩	ミガ牛後 赤彩	軟質	褐色	2mm以下の 砂粒多	30%	
2	埋土	弥生土器 行付蓋	—	脚径 7.0	器高 5.0	60	脚部内面 ナデ	縦ヘウ刷り	ナデ	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の 砂粒多	5%	
3	埋土	弥生土器 甕	(16.0)	—	器高 14.1	206	—	下半縦横ミ ガ牛上半 櫛描斜状文	横ハケ後 横ミガ牛	—	普通	暗褐色	1mm以下の 砂粒	20%	
4	P6	弥生土器 甕	(17.0)	7.7	27.7	1355	ヘウ刷り	下半縦横ミ ガ牛上半 櫛描斜状文	上半斜めハ ケ目、下半 縦ミガ牛	ナデ	普通	淡黄褐色	1mm以下の 細砂やや多	80%	
5	床面	弥生土器 甕	—	6.6	器高 13.2	300	ヘウ刷り	縦ミガ牛後 赤彩	横ナデ	ナデ	やや軟	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	80%	
6	床面	弥生土器 甕	19.8	—	器高 11.8	481	—	ハケ調整。 縦ミガ牛後 赤彩	横ミガ牛後 赤彩	—	良好	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	50%	
7	埋土	弥生土器 知照甕	(17.8)	—	器高 7.2	50	—	横ミガ牛後 赤彩	横ミガ牛	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	口縁下に2個1 羽の小丸
8	P5	弥生土器 甕	15.5 × 5.2	—	—	63	—	斜め櫛線文	横ナデ後 横ミガ牛	—	普通	暗褐色	細砂やや多	5%	拓本
9	埋土	弥生土器 甕	4.9 × 3.7	—	—	25	—	ナデ後斜格 子状沈線文	横ナデ後 斜め櫛線 のミガ牛	—	普通	白褐色	細砂少量	5%	拓本
10	埋土	弥生土器 甕	7.0 × 3.2	—	—	20	—	櫛描波状文	横ナデ	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂少量	5%	拓本
11	埋土	弥生土器 甕	9.2 × 6.3	—	—	49	—	上端横ミガ 牛後赤彩	横ミガ牛後 赤彩	—	普通	褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	未測
12	埋土	弥生土器 甕	6.4 × 4.2	—	—	20	—	斜めハケ後 斜格子状沈 線	縦横の ミガ牛	—	普通	淡茶褐色	細砂やや多	5%	拓本
13	埋土	弥生土器 甕	5.2 × 4.1	—	—	10	—	縄文施文後 平行凹線	横ナデ	—	良好	黒灰色	細砂やや多	5%	拓本
14	埋土	弥生土器 甕	4.1 × 3.2	—	—	15	—	ナデ後斜格 子状沈線文	横ナデ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%	拓本
15	埋土	弥生土器 甕	4.5 × 3.0	—	—	13	—	ナデ後斜格 子状沈線	横ナデ後 斜めハケ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%	拓本

第66表 508号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
16	P6	磨き石	90%	12.9	5.0	4.3	479	砂岩	

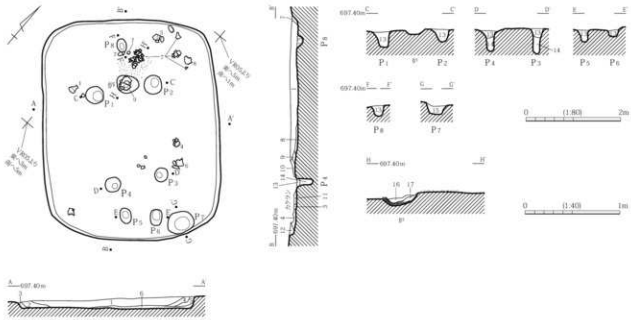
## 509号住居跡 (SB509) [第71・72図 PL 7・29]

位置：5-②区、VR 5 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西3.7m、南北4.6m、検出面からの深さ9～25cm 主軸方位：N-39°-W 遺構の重複：なし 堆積状況：12層に分かれ、自然堆積と思われる。

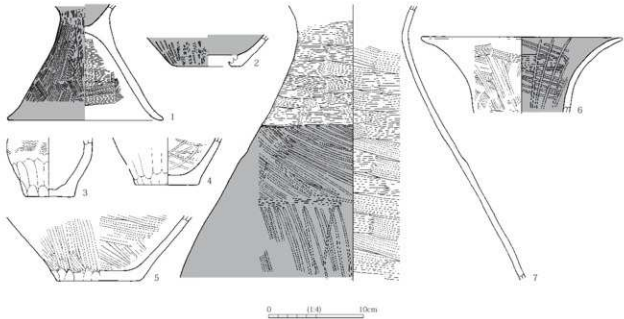
住居内施設：炉とピット8基が検出されている。炉は、住居跡北部中央のP1・2間にあり、土器敷き炉である。ピットは住居内の位置から、P1～4が支柱穴、P8が棟持柱、P5・6が入口施設と思われる。その他のピットは性格不明である。床は壁際を除き硬く締まっている。

遺物出土状況：床面と埋土から弥生土器が5.6kg出土している（第126表）。遺物：壺（6～11）は頸部に櫛描横走沈線のもの（7・9）、T字文のもの（8）、斜格子状沈線のもの（10）、不整な櫛描沈線のもの（11）などがあり、9は肩部に櫛描波状文を施した後沈線で鋸歯状に区画して、下半を磨り消している。

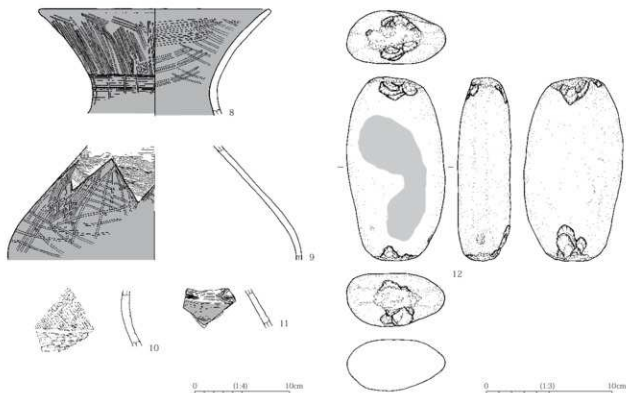
時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



- 1 0.5~1.5cmの軽石粒を15%、1~2cmの明褐色の鉄分集積を含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 2 0.2cm以下の軽石粒を少量含む褐灰色砂混りシルト(10YR4/1)
- 3 1cm以下の軽石粒を少量含む褐灰色土と淡い・褐色砂混りシルトの混土(7.5YR4/1, 5YR8/4)
- 4 細かい炭化物粒、明褐色鉄分集積ブロックを多量に含む黒褐色砂混りシルト(10YR3/1)
- 5 鉄分集積目立つ褐灰色砂混りシルト(7.5YR5/1)
- 6 0.2~0.5cmの軽石粒、炭化物粒子少量、鉄分集積少量含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 7 地山の細かいブロックを30%含む灰褐色砂混りシルト(7.5YR5/2)
- 8 0.3cmほどの炭化物粒を含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 9 細かい不い黄褐色シルトブロックを50%、1~2cmの軽石粒を10%、炭化物細粒を少量含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 10 細かい不い黄褐色シルトブロック50%、0.5cmほどの軽石粒を15%含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 11 0.5~1cmの軽石粒を少量、地山の細かいブロックを少量含む褐灰色砂混りシルト(10YR4/1)
- 12 1~2cmの軽石粒10%含む浅黄褐色シルト(10YR8/3)
- 13 0.3cm以下の炭化物粒、軽石粒、地山の浅黄褐色シルトの細粒を少量含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 14 粗粒砂を含む褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1) しまり割
- 15 0.5cm以下の炭化物、1.5cm以下の軽石粒を少量含む鉄分が集積した褐灰色砂混りシルト(7.5YR4/1)
- 16 炭化物、軽石粒を少量含む黒褐色砂混りシルト(7.5YR3/1)
- 17 黒褐色砂混りシルトを40%含む鉄分が集積した褐色焼土(7.5YR8/8)



第71図 509号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第72図 509号住居跡 遺物図(2)

第67表 509号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	境成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	赤生土器高杯	—	脚径 16.2	器高 12.2	410	—	縦ミガキ後赤彩	脚部縦ハケ目、杯部内面横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤	普通	淡灰褐色	3mm以下の小石や砂多	30%	
2	埋土	赤生土器甕	—	7.0	器高 3.3	76	ヘラ削り	縦ミガキ後赤彩	ナデ後赤彩	—	やや軟	淡赤褐色	1mm以下の細砂少	5%	
3	埋土	赤生土器甕	—	5.3	器高 6.2	175	ヘラ削り	下半縦ハケ削り、上半縦溝状文	横ナデ	ナデ	普通	褐灰色	1mm以下の細砂少	20%	
4	床面	赤生土器甕	—	6.6	器高 4.9	160	ヘラ削り後木目状圧痕	縦ミガキ	横ハケ	ミガキ	普通	茶褐色	1mm以下の細砂少	10%	
5	床面	赤生土器甕	—	8.8	器高 6.6	255	ヘラ削り	縦ミガキ	横ハケ	ナデ	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	未調
6	床面	赤生土器甕	(21.3)	—	器高 7.9	178	—	ハケ調整後縦ミガキ	縦横のミガキ後赤彩	—	軟質	灰白色	細砂少	5%	未調
7	床面	赤生土器甕	—	—	器高 28.9	1060	—	押め縦ミガキ後赤彩	ハケ	—	やや軟	淡赤褐色	1mm以下の細砂少	20%	
8	床面	赤生土器甕	(24.0)	—	器高 11.2	210	—	縦横ミガキ、赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤色	1mm以下の細砂やや多	5%	未調
9	炉	赤生土器甕	—	—	器高 12.1	250	—	上半縦横に粗いミガキ後赤彩、肩部縦溝状文に縦溝状文	割落の為不明	—	やや軟	淡赤灰白色	2mm以下の砂粒やや多	30%	
10	埋土	赤生土器甕	—	6.1 × 6.2	—	35	—	横ナデ後縦横のミガキ後赤彩	縦ナデ後縦横のミガキ後赤彩	—	普通	灰褐色	細砂少	1%	拓本
11	埋土	赤生土器甕	—	5.5 × 4.5	—	15	—	縦ミガキ後赤彩	割減	—	やや軟	淡褐色	1mm以下の細砂少	5%	未調

第68表 509号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法型 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
12	埋土	磨石	100%	14.6	7.8	4.2	730	砂岩	

## 510号住居跡 (SB510) [第73図 PL 8]

**位置:** 5-①区、VN 8・13 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西残存 3.4m、南北 6.9m、検出面からの深さ 27～38cm **主軸方位:** N-32°-W **遺構の重複:** なし。東部が調査区外である。 **堆積状況:** 単層

**住居内施設:** ビット 2 基が検出されている。住居内の位置から、P 1 が主柱穴、P 2 が棟持柱と思われる。床は全面硬く締まっている。

**遺物出土状況:** 埋土から弥生土器が 28kg 出土している (第 126 表)。器形を復元できるものはほとんどない。

**遺物:** 鉢 (1) は体部がやや丸みを帯びる。壺 (2) は、口唇が受け口状に内湾し、口唇外面に撓曲波状文が施される。3 は、磨裂石斧で先端のみの破片である。

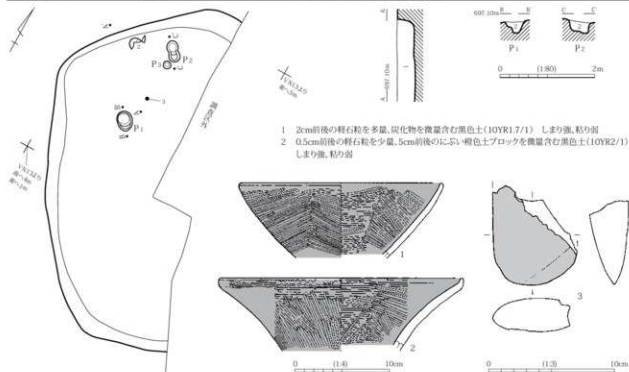
**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第 69 表 510号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	現存率	備考
1	埋土	弥生土器鉢	21.0	—	器高 7.9	142	—	ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤色	1mm 以下の細砂やや多	20%	
2	床面	弥生土器壺	25.6	—	器高 7.7	429	—	細ミガキ後赤彩	細ミガキ後赤彩	—	普通	淡灰褐色	2mm 以下の砂粒やや多	5% 未満	

第 70 表 510号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
3	埋土	磨裂石斧	30%	7.9	6.7	3.0	182	閃緑岩	



第 73 図 510号住居跡 遺構図・遺物図

## 511号住居跡 (SB511) [第74図 PL 8]

**位置:** 5-①区、VN 6・11・12 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西 5.3m、南北 8.1m、検出面からの深さ 10～26cm **主軸方位:** W-31°-N **遺構の重複:** 512号住居跡に切られる。 **堆積状況:** 2層に分かれ、自然堆積と思われる。

**住居内施設:** ビット 11 基が検出されている。住居内の位置と並びから、P 1～3・6 が主柱穴、P 4 が棟持柱と思われる。そのほかのビットは性格不明である。

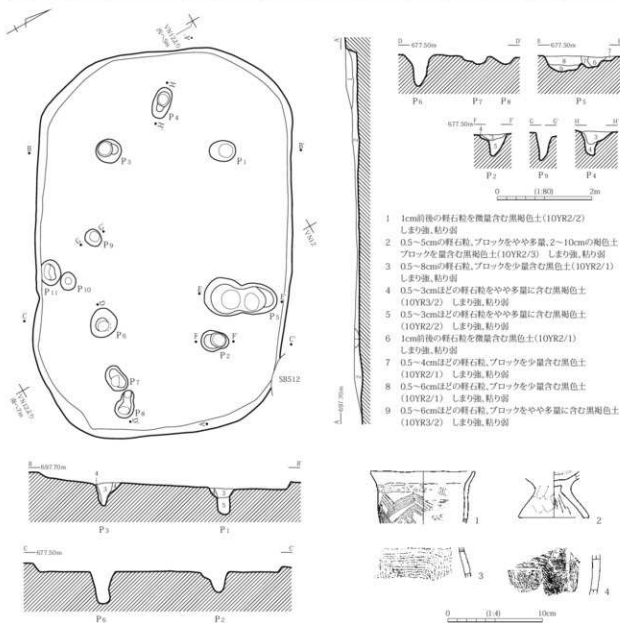
遺物出土状況：埋土から弥生土器が708g出土している(第126表)。器形を復元できるものはほとんどない。

遺物：甕(1・3・4)は、胴部が櫛描羽状文のもの(1)、コの字重ね文のもの(3)、縄文とコの字重ね文を施した後一部を磨り消したものの(4)などがある。

時期：出土遺物から、弥生時代中期と思われる。

第71表 511号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	胴高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	10.9	—	底高 5.4	44	—	縦櫛描羽状 文	横ハケ後一 部横ミガキ	—	良好	黒褐色	細砂少量	10%	内面の一部登き上 げ面残る
2	P1	弥生土器 付付儀	—	脚径 7.3	底高 4.9	95	ヘラ削り	横ナデ後一 部ヘラ削り	横ナデ後ヘ ラナデ	ミガキ	普通	淡茶褐色	細砂少量	20%	
3	P1	弥生土器 甕	7.9×3.2	—	—	21	—	横ハケ後コ の字重ね文	横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂やや多	5% 未測	拓本
4	埋土	弥生土器 甕	7.4×4.2	—	—	36	—	縄文衝文後 コの字重ね 文	横ナデ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5% 未測	拓本



第74図 511号住居跡 遺構図・遺物図

## 512号住居跡 (SB512) [第75図 PL 8]

位置：5-①区、VN 7・12 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸方形 規模：東西4.0m、南北4.5m、検出面からの深さ22～37cm 主軸方位：W-14°-N 遺構の重複：511号住居跡を切る。堆積状況：6層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：炉とピット8基が検出されている。炉は住居跡北側中央のP1・2間にあり、土器敷き炉である。ピットは住居内の位置と並びから、P1～4が主柱穴、P5が棟持柱、P7・8が入口関連施設と思われる。そのほかのピットは性格不明である。床は壁際を除き硬く締まっている。

遺物出土状況：床面と埋土から弥生土器が7.3kg出土している(第126表)。遺物：鉢(1・2)は、大小があり、体部がやや丸みを持つ。甕(3・5～8・10)は口縁部と胴部が櫛描波状文のもの(5)や櫛描羽状文のもの(6・7・10)、無文のもの(3・8)などがある。壺(9・11～13)は、頸部が櫛描横走沈線のもの(11)とT字文のもの(12)がある。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第72表 512号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底面内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 鉢	(11.4)	4.5	4.9	80	へら削り	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡褐色	2mm以下の細砂やや多	40%	
2	床面	弥生土器 鉢	18.7	—	現高 8.0	425	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	褐色	1mm以下の細砂やや多	50%	
3	床面	弥生土器 甕	—	4.7	現高 9.5	145	へら削り	上下の一部と下半へら削り	ナデ後横ハケ	ヘラナデ	普通	淡赤褐色	2mm以下の細砂やや多	40%	胴部内面巻き上げ取用一残
4	埋土	弥生土器 白付甕	—	脚径 8.3	現高 5.6	100	—	胴部外面横ナデ	横ナデ	胴部内面ミガキ	普通	褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	未測
5	埋土	弥生土器 甕	13.8	—	現高 9.0	120	—	上下半櫛波状文	横ナデ一部横ミガキ	—	普通	褐色	1mm以下の細砂やや多	10%	内面の一部に巻き上げ取用
6	埋土	弥生土器 甕	12.5	—	現高 6.9	220	—	櫛描羽状文か?	横ミガキ	—	普通	黒褐色	1mm以下の細砂やや多	30%	
7	床面	弥生土器 甕	15.5	—	現高 15.8	650	—	櫛描羽状文	横ハケ後横ミガキ	—	普通	灰褐色	1mm以下の細砂細砂少量	60%	
8	床面	弥生土器 甕	12.2	4.4	13.1	360	へら削り	下半へら削り、中横へら削り、上半櫛波状文	ナデ後横ミガキ	ナデ	普通	淡茶褐色	2mm以下の細砂やや多	98%	
9	床面	弥生土器 甕	—	5.4	現高 11.5	250	へら削り	ミガキ後赤彩	横ハケ	ハケ	普通	淡褐色	2mm以下の細砂やや多	50%	
10	埋土	弥生土器 甕	—	7.1	現高 10.0	195	へら削り	横ハケ後、下縁へら削り、一部横ミガキ、上半櫛波状文	斜めハケ後横ミガキ	ナデ	普通	褐色	1mm以下の細砂少量	5%	
11	床面	弥生土器 甕	23.3	—	現高 13.5	800	—	横ミガキ後赤彩	口縁内面横ミガキ後赤彩、胴部以下表面無文	—	普通	淡茶褐色	2mm以下の細砂やや多	10%	
12	炉	弥生土器 甕	—	—	現高 17.5	339	—	横ミガキ後赤彩	横へら削りハケ目	—	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	内面の背一巻き上げ取用
13	床面	弥生土器 甕	—	10.7	現高 2.5	250	ナデ後へら削り	横へら削り後赤彩	ハケ調整後磨滅	ハケ	普通	淡赤色	2mm以下の細砂やや多	5%	未測

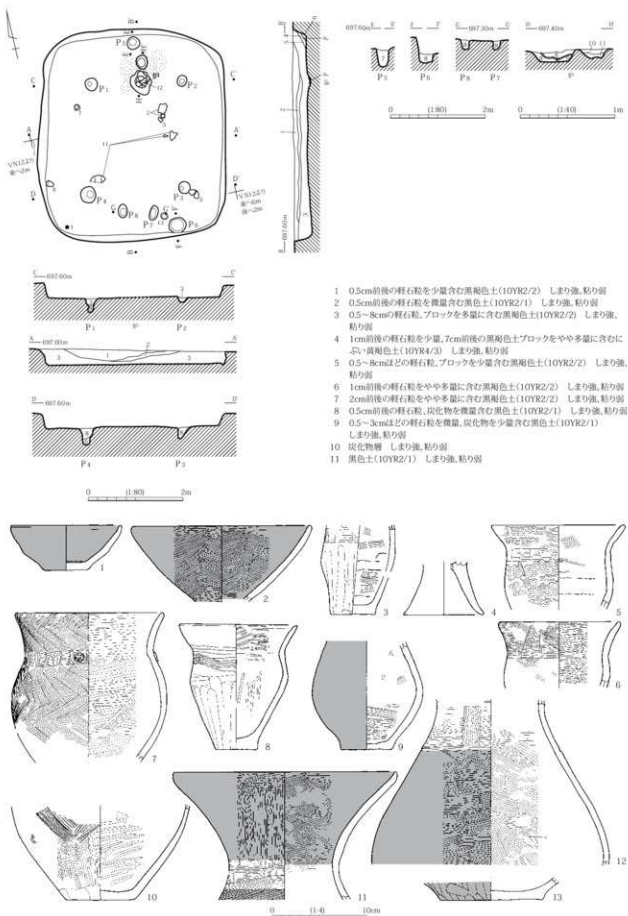
## 513号住居跡 (SB513) [第76図 PL 8・37]

位置：5-①区、VM 5・N1 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存29m、南北残存12m、検出面からの深さ13～15cm 主軸方位：不明 遺構の重複：なし。北部と西部が調査区外で、南東部の一部のみ残存 堆積状況：2層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：不明。床は壁際を除き硬く締まっている。

遺物出土状況：床面と埋土から弥生土器が885g出土している(第126表)。遺物：甕(1・2)は、胴部が櫛描波状文のもの(1)や縦櫛描羽状文のもの(2)がある。1は口唇端部に刻みが付される。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。



第75図 512号住居跡 遺構図・遺物図

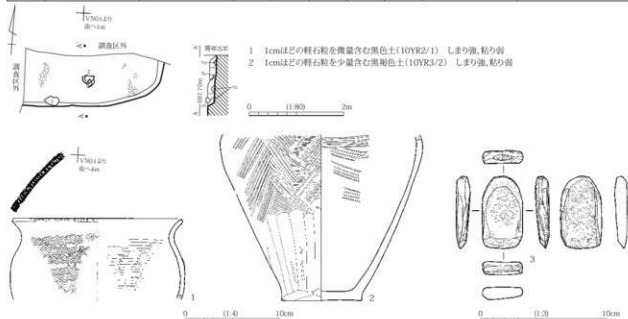


第73表 513号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	破成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	赤生土器蓋	(17.7)	—	規高 8.6	45	—	櫛描波状文	横ミガキ	—	良好	淡褐色	細砂少量	5%未満	
2	床面	赤生土器蓋	—	8.3	規高 17.5	620	へら削り	下平へら削り上平削りの縦櫛描羽状文	横ハケ目	ナデ	普通	褐色色	1mm以下の細砂やや多	30%	

第74表 513号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
3	埋土	砥平片方石斧	100%	5.8	3.1	1.1	36	透閃石質	



第76図 513号住居跡 遺構図・遺物図

## 514号住居跡 (SB514) [第77・78・79図 PL 8・30・37]

位置：5-②区、VN 21・22、S 1・2 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西6.8m、南北9.1m、検出面からの深さ37～45cm 主軸方位：N-33°-W 遺構の重複：なし 堆積状況：6層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：炉とピット10基が検出されている。炉は住居跡北側中央のP1・2間にあり、地床炉で、南側に炉縁石を設けている。ピットは住居内の位置と並びから、P1～4が主柱穴、P10が棟持柱、P5・6が壁からやや離れるものの入口関連施設と思われる。そのほかのピットは性格不明である。床は部分的に硬く締まっている。

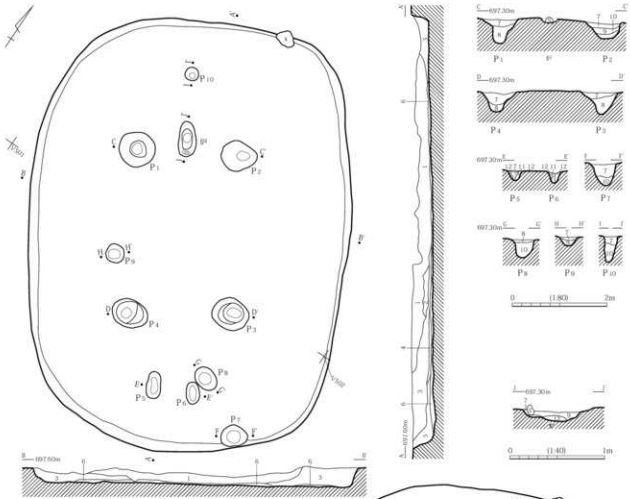
遺物出土状況：床面と埋土から弥生土器ほか54.7kgと本調査区全体の弥生土器出土量の1割を超える多量の土器が出土しているほか（第126表）、埋土の下層からシカ右下顎骨切歯部、左下顎骨+第3大臼歯、右上腕骨遠位骨端、第3大臼歯、歯片と複数のシカ骨・歯片が出土している（第244表）。遺物：蓋（1）は、鈕部に小孔が貫通する。鉢（2）は体部がやや外反する。高杯（3～6）は体部が内湾する（3・5）。甌（7・8）は底が一穴のものである。甕（9～17）は、口縁部と胴部が櫛描波状文のもの（9～12・15・16）や櫛描羽状文のもの（14）、両者を併用するが、頸部を境にするもの（17）と胴中部を境にするもの（13）などがある。壺（18～24・26～28）は、頸部が櫛描波状文と簾状文のもの（20）と矢羽根状沈線文のもの（21）、T字文のもの（22）、斜格子状沈線文のもの（27・28）などがあり、19は胴部に焼成後の穿孔がされている。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

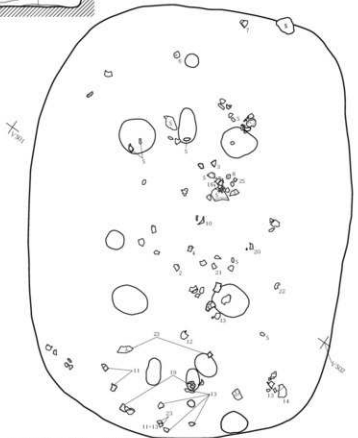
所見ほか：多量の土器と、シカ骨・歯の出土から、住居廃絶後、廃棄場となっていたと思われる。

第75表 514号住居跡出土土器観察表

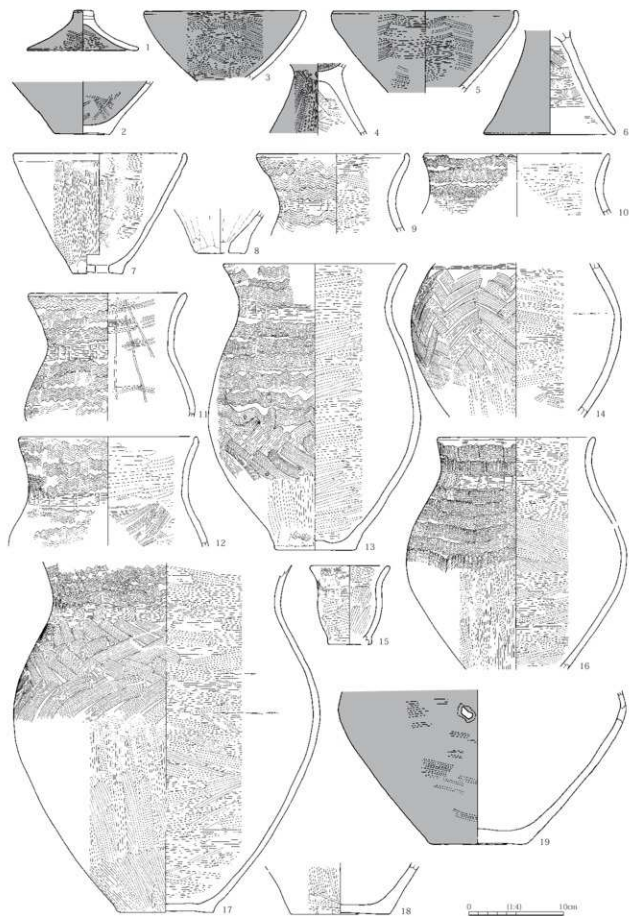
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	赤生土器壺	11.6	口径 2.2 底径 4.2	4.2	90	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	中や軟	淡灰色	1mm以下の細砂やや多	70%	
2	床面	赤生土器鉢	—	5.8	口径 5.6 底径 1.85	185	ヘラ削り	縦ミガキ後赤彩、磨滅	縦横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡灰色	細砂やや多	20%	
3	床面	赤生土器高杯	16.9	—	底径 7.4	350	—	横ミガキ後赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	淡灰色	1mm以下の細砂少量	50%	
4	床面	赤生土器高杯	—	—	底径 7.6	220	—	縦ミガキ、赤彩	杯部横ミガキ後赤彩、胴部横一斜めのハケ目	横ミガキ後赤彩	普通	暗灰色	1mm以下の細砂多	30%	
5	埋土	赤生土器高杯	19.2	—	底径 8.6	135	—	横ミガキ後赤彩、磨滅	ハケ調整後横ミガキ、赤彩	—	普通	明灰色	細砂少量 3mm以下の炭化物少量	20%	
6	床面	赤生土器高杯	—	口径 13.8 底径 11.1	11.1	450	—	縦ミガキ後赤彩	横ハケ目	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	40%	
7	床面	赤生土器壺	17.8	5.2	12.7	375	ヘラ削り	斜めハケ後縦ミガキ	横ハケ後縦ミガキ	ハケ後ミガキ	普通	灰色	2mm以下の砂粒やや多	50%	底部に径1.4cmの孔
8	床面	赤生土器壺	—	(5.1)	底径 4.7	183	ヘラ削り	縦ヘラ削り	ヘラナデ	ヘラナデ	普通	淡灰色	2mm以下の砂粒やや多	20%	底部に1.5cmの円孔が1個
9	埋土	赤生土器壺	15.7	—	底径 8.3	375	—	磨滅没文、頸部没文	横ハケ後横ミガキ	—	普通	淡い茶褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	
10	床面	赤生土器壺	(19.4)	—	底径 6.4	97	—	磨滅没文	横ナデ後横ミガキ	—	良好	淡褐色	細砂少量	5%未満	
11	床面	赤生土器壺	16.4	—	底径 13.4 13.4	560	—	磨滅没文、頸部没文	横ミガキ	—	普通	淡灰色	細砂少量	50%	
12	床面	赤生土器壺	(18.8)	—	底径 11.6	163	—	磨滅没文	ハケ調整後横ミガキ	—	良好	淡赤灰色	細砂少量	5%	
13	床面	赤生土器壺	18.9	8.6	30.2	1333	平のこ状圧痕	下平ヘラ削り、縦ミガキ 磨滅没文	横ミガキ	ミガキ	普通	淡茶褐色	1mm以下の細砂やや多	60%	
14	床面	赤生土器壺	—	—	底径 16.2	610	—	下部縦ミガキ、中～上部磨滅没文	横ミガキ	—	普通	淡灰色	細砂少量	20%	
15	埋土	赤生土器小平壺	(8.0)	4.4	8.3	62	—	横ミガキ	横ナデ後縦ミガキ	—	普通	淡灰色	1mm以下の細砂やや多	20%	
16	埋土	赤生土器壺	16.4	—	底径 24.4	1279	—	下平横ハケ後縦ミガキ、上平磨滅没文	横ハケ後横ミガキ	—	良好	淡褐色	1mm以下の細砂少量	70%	
17	埋土	赤生土器壺	—	10.1	底径 36.8	1485	ヘラ削り	下平横ハケ後縦ミガキ、上平磨滅没文	横ハケ後横ミガキ	ミガキ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
18	床面	赤生土器壺	—	10.6	底径 5.4	465	ヘラ削り後平のこ状圧痕	縦ミガキ後ヘラ削り、横ミガキ	ナデ	ナデ	普通	淡黄褐色	2mm以下の砂粒少量	5%未満	
19	P6、床面	赤生土器壺	—	10.0	底径 16.2	919	ヘラ削り	横ミガキ後赤彩、表面剥落	表面剥落	表面剥落	普通	淡褐色	2mm以下の細砂多	10%	胴部中段に1ヶ所8×14mmの孔
20	床面	赤生土器壺	15.7	—	底径 8.5	440	—	磨滅没文、頸部没文	横ハケ後横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	
21	床面	赤生土器壺	—	—	底径 8.1	60	—	横ミガキ後赤彩、頸部横上沈線内にヘラ削り状沈線	横ハケ	—	普通	灰色	1mm以下の細砂多	5%未満	
22	床面	赤生土器壺	(18.6)	—	底径 15.5	387	—	縦ミガキ後赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	淡灰色	1mm以下の細砂やや多	5%	
23	床面	赤生土器壺	24.8	—	底径 12.0	674	—	縦ミガキ後赤彩、磨滅	ハケ調整後横ミガキ、赤彩後磨滅	—	普通	淡灰色	1mm以下の細砂少量	5%	
24	P2	赤生土器壺	—	(9.7)	底径 14.0	405	木炭痕	ハケ調整後縦ミガキ	ハケ後横ミガキ	ミガキ	良好	淡赤灰色	細砂少量	5%	
25	床面	赤生土器小平壺	—	5.8	底径 8.1	206	ヘラ削り	下平縦、上平横ミガキ後赤彩、頸部没文	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	中や軟	淡い灰色	1mm以下の細砂やや多	80%	
26	埋土	赤生土器壺	5.5×3.6	—	—	15	—	沈線と刺突文	縦横のハケ目	—	普通	褐色	細砂少量	5%未満	拓本
27	埋土	赤生土器壺	10.4×6.1	—	—	110	—	斜格子状沈線	磨滅	—	普通	茶褐色	細砂少量	5%未満	拓本
28	埋土	赤生土器壺	7.0×7.2	—	—	48	—	頸部斜格子状沈線加え後横上沈線	縦横ミガキ	—	普通	褐色	細砂少量	5%未満	拓本



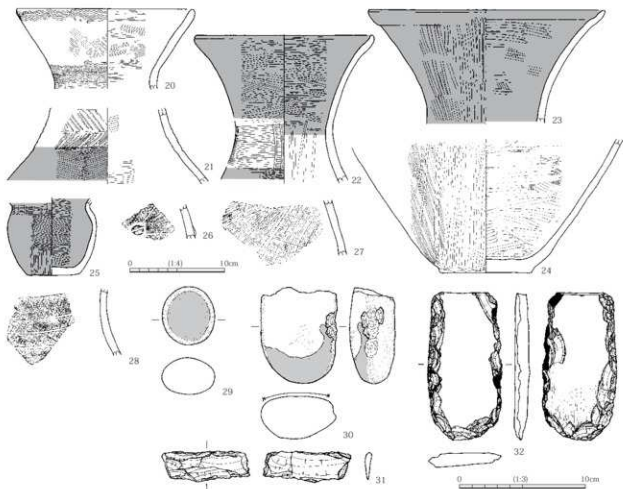
- 1 軽石粒、炭化物粒を少量含む褐色シルト(10YR4/1)
- 2 黒色シルト(10YR2/1)
- 3 軽石粒を少量含む灰黄褐色シルト(10YR4/2)
- 4 軽石粒を少量含む黒色シルト(10YR2/1)
- 5 0.5cm以下の軽石粒、炭化物粒を少量含む黒褐色シルト(10YR3/2)
- 6 軽石粒を多量に含む黒色シルト、褐色シルト、にぶい黄褐色シルトの混土=敷り床
- 7 1~3cmの軽石を10%含む黒色砂混じりシルト(10YR2/1)
- 8 2cmほどの軽石を少量含む黒色砂混じりシルトと褐色砂混じりシルトの混土(10YR5/1)
- 9 炭化物を多量に含む黒色砂混じりシルト(10YR2/1)
- 10 炭化物、にぶい黄褐色シルト、黒色砂混じりシルトの混土(10YR2/1)
- 11 軽石、にぶい黄褐色シルトを少量含む褐色砂混じりシルト(10YR4/1)
- 12 軽石を少量、にぶい黄褐色シルトをやや多量に含む褐色砂混じりシルト(10YR4/1)
- 13 灰混じりの黒色砂混じりシルト(10YR2/1)



第77図 514号住居跡 遺構図



第78図 514号住居跡 遺物図(1)



第79図 514号住居跡 遺物図(2)

第76表 514号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
29	P8	磨石	100%	4.7	4.2	3.0	74	安山岩	
30	埋土	磨石	40%	7.6	6.1	3.6	260	安山岩	
31	埋土	割片	60%	7.0	2.5	0.5	11.9	緑色片岩	
32	埋土	打製石斧	90%	11.7	5.9	1.2	114	デイサイト	

## 515号住居跡(SB515) [第80図 PL 8]

位置: 5-③区, V R 10-15 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 隅丸長方形 規模: 東西3.1m、南北4.1m、検出面からの深さ6~25cm 主軸方位: N-18°-W 遺構の重複: 5114号土坑を切り、510号方形周溝墓に切られる。堆積状況: 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

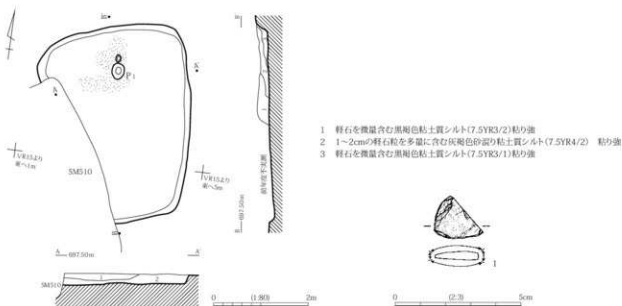
住居内施設: ビット1基が検出されている。位置から棟持柱と思われる。北側中央の床面に炭層が広がっているが、このビットも覆っており、炭層は住居跡廃絶後のものと考えられる。床は壁際を除き硬くしまっている。

遺物出土状況: 埋土から弥生土器はかが756g出土している(第126表)。いずれも小片で図示できなかった。遺物: (1)は薄い凝灰岩の表裏と側面を磨いたものであるが、小片で器種・用途は不明である。

時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第77表 515号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
1	埋土	不明	50%	1.9	1.7	0.4	1.4	凝灰岩	



第80図 515号住居跡 遺構図・遺物図

516号住居跡 (SB516) [第81図 PL.8]

位置：5-③区、VS2・6・7 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西3.8m、南北4.6m、検出面からの深さ23～39cm 主軸方位：N-24°-W 遺構の重複：516号円形周溝墓を切る。堆積状況：5層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット7基が検出されている。住居内の位置と並びからP1・3～5が主柱穴と思われる。P2は位置的に炉と思われるが、焼土や炭層は検出されていない。その他のピットは性格不明である。

遺物出土状況：埋土や床面から弥生土器が9.8kg出土しているが(第126表)、復元・図示できるものは少ない。このほか、動物の骨・歯片が複数出土している(第244表)。遺物：甕(2・3)は口縁部に櫛描波状文、頭部に簾状文が施される。甕(5)は頭部に押引文、口縁部に縦の凹線が付される。壺(6)は頭部に櫛描羽状文が施される。

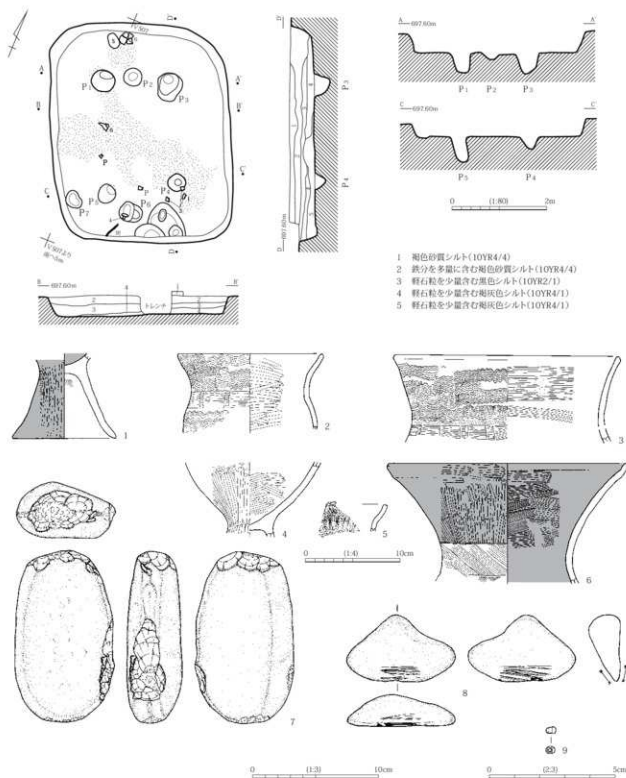
時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第78表 516号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器高杯	—	口径10.8	9.0	298	—	縦筋縦三ガ斗後赤彩	横ミガ斗後赤彩	横ハケ後ナ字	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
2	埋土	弥生土器甕	(15.0)	—	現高8.4	100	—	櫛描波状文	横ナデ後横ミガ斗	—	良好	赤褐色	細砂少量	5%	
3	床面	弥生土器甕	23.4	—	現高9.3	645	—	簾状文、櫛描波状文	横ハケ	—	普通	淡褐色	細砂やや多	10%	
4	床面	弥生土器白付甕	—	—	現高8.0	205	—	下部縦へつ附り中部櫛描波状文	横ミガ斗	—	良好	淡赤灰色	1mm以下の細砂やや多	10%	
5	埋土	弥生土器甕	—	4.4 × 3.0	—	9	—	押引文	横ナデ後横ミガ斗	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%未満	拓本
6	床面	弥生土器甕	(24.8)	—	現高12.7	330	—	口縁部縦ミガ斗、口縁部横ミガ斗後赤彩	ハケ後一部横ミガ斗、赤彩	—	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒多	5%未満	

第79表 516号住居跡出土石器・玉類観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材・材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
7	埋土	鏡き石	100%	11.4	8.9	4.4	720	砂岩	
8	埋土	砥石	100%	8.6	5.3	2.5	105	安山岩	
9	埋土	ガラス小玉	100%	0.4	0.3	0.3	0.03	ガラス	



第81図 516号住居跡 遺構図・遺物図

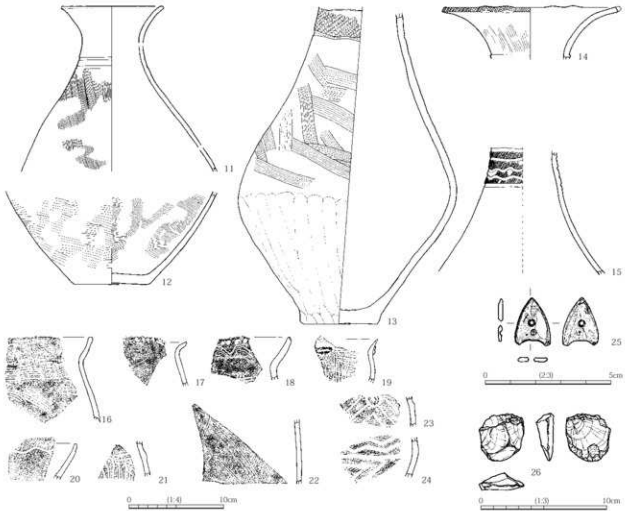
## 517号住居跡 (SB517) [第82・83図 PL 8・31]

位置：5-③区、V N 22・23 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西残存4.1m、南北4.6m、検出面からの深さ6～24cm 主軸方位：E-39°-N 遺構の重複：なし 堆積状況：2層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：炉とピット6基が検出されている。炉は住居跡中央のやや南寄りにあり、地床炉である。ピット







第83図 517号住居跡 遺物図(2)

トは住居内の位置と並びからP2～4が支柱穴と思われる。P5・6は、北西壁下ではあるが、炉が反対側に偏っていることを考えると入口施設であった可能性がある。

**遺物出土状況：**埋土や床面から弥生土器が11.4kg出土している(第126表)。**遺物：**蓋(1)は鈕の天井の内側が窪み、反転すると高台状となる。鉢(2)は体部が丸みを持ち、口縁部に瘤状の貼付がなされる。高杯(4)は口縁部に3個1対で3単位の突出部がある。甕(5～8・16～22)は口縁部が内湾し、口縁部に櫛描波状文、頸部に等連の縹状文、胴部に櫛描羽状文が施され、口縁端部に縄文が押厚されるものが多い。壺(11～15・23・24)は頸部にヘラ描きの沈線や波状沈線が描かれ、沈線の間に縄文が付されるものも多く、口縁端部に縄文が付されるもの(14)もある。有孔磨製石鏃(25)は、貫通する孔の下に、途中で止めた孔がある。**時期：**出土遺物から、弥生時代中期と思われる。

第80表 517号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	粘土	残存率	備考
1	床面	弥生土器蓋	22.1	直径 6.4	8.5	450	器内面へつ削り	器外面側面押さえ、体部外面側、一部の縦のミガキ、端部に縄目	器内面へつ削り	—	普通	褐色	細砂少量	70%	
2	埋土	弥生土器鉢	(12.6)	—	現高 5.1	25	—	横ナ字後赤彩	横ナ字後横ミガキ後赤彩	—	普通	淡褐色	—	10%	口縁外面に1×0.8cmの突起が付される
3	床面	ミニチュア高杯	(3.4)	—	現高 1.9	10	—	押さえ	押さえ	—	普通	茶褐色	白色の細砂中々多	50%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
4	床面	弥生土器 高杯	19.9	—	高さ 6.1	345	—	縦横ミガキ 後赤彩	横ミガキ後 赤彩	—	普通	褐色	精良	40%	
5	床面	弥生土器 甕	(27.8)	—	高さ 7.6	56	—	横ナデ	横ナデ	—	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	未洗
6	床面	弥生土器 甕	21.4	7.6	26.9	1330	ヘラ割り	ヘラ割り	横ハケ後 横ミガキ	ハケ後 ミガキ	良好	淡赤褐色	1mm以下の 細砂少量	90%	
7	埋土	弥生土器 甕	21.0	7.8	28.5	890	ヘラ割り	ヘラ割り	横ナデ後 一部横ハケ	ナデ後ハケ	普通	淡黄褐色	1mm以下の 細砂やや多	50%	
8	埋土	弥生土器 甕	—	7.1	高さ 5.4	190	ヘラ割り	縦横のハケ、 下端一部ヘ ラ割り	横ミガキ	指頭押さえ	普通	明褐色	細砂少量	5%	
9	埋土	弥生土器 台付甕	—	脚径 17.8	高さ 6.3	87	脚部内面 ナデ後 ハケ目	ナデ後上平 縦ヘラ割り	ナデ	ナデ	普通	淡赤灰色	細砂やや多	5%	未洗
10	埋土	弥生土器 台付甕	—	脚径 18.0	高さ 5.8	230	脚部内面 ハケ調整後 下端ヘラ割 り	横ナデ後 縦ヘラ割り	ミガキ	ミガキ	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂多	5%	
11	床面	弥生土器 甕	(10.5)	—	高さ 17.5	250	—	縦ハケ後 磨滅	磨滅	—	敷	灰褐色	細砂やや多	20%	
12	床面	弥生土器 甕	—	7.9	高さ 9.7	276	ナデ	横ハケ	横ハケ	ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂多	5%	
13	床面	弥生土器 甕	—	7.8	高さ 33.5	1810	ヘラ割り	ヘラ割り	横ハケ目	ハケ目	普通	淡褐色	細砂少量	70%	
14	床面	弥生土器 甕	(18.0)	—	高さ 5.4	72	—	横ナデ後 上下縦ハケ	横ナデ後 横ミガキ	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	5%	未洗
15	床面	弥生土器 甕	—	—	高さ 13.4	192	—	横ナデ後 縦ミガキ	横ナデ後 所々ハケ目	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	
16	埋土	弥生土器 甕	7.6 × 9.1		—	45	—	縦横沈線文	横ナデ後縦 横のミガキ	—	普通	灰褐色	細砂やや多	5%	拓本
17	埋土	弥生土器 甕	4.6 × 4.6		—	13	—	縦横沈線	横ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	未洗 拓本
18	埋土	弥生土器 甕	5.4 × 4.9		—	17	—	横ナデ後 縦横沈線文	横ナデ後縦 横のミガキ	—	普通	茶褐色	細砂やや多	5%	未洗 拓本
19	埋土	弥生土器 甕	4.6 × 4.5		—	10	—	コの字 垂文	横ミガキ	—	普通	茶褐色	細砂やや多	5%	未洗 拓本
20	埋土	弥生土器 甕	4.8 × 4.2		—	15	—	横ナデ後 縄文集文後 波状凹線	横ナデ後縦 横のミガキ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	未洗 拓本
21	埋土	弥生土器 甕	3.8 × 3.8		—	8	—	縄文集文後 コの字 垂文	ナデ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	未洗 拓本
22	床面	弥生土器 甕	10.1 × 6.7		—	32	—	印めハケ後 印格子状 縦横文	横ハケ目	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%	未洗 拓本
23	埋土	弥生土器 甕	6.4 × 3.1		—	15	—	縄文集文後 凹線	横ハケ目	—	普通	灰黒色	細砂少量	5%	未洗 拓本
24	埋土	弥生土器 甕	6.7 × 4.1		—	20	—	縄文集文後、 縦上・三角、 波状な凸の 凹線	横ハケ目	—	普通	黒褐色	細砂少量	5%	未洗 拓本

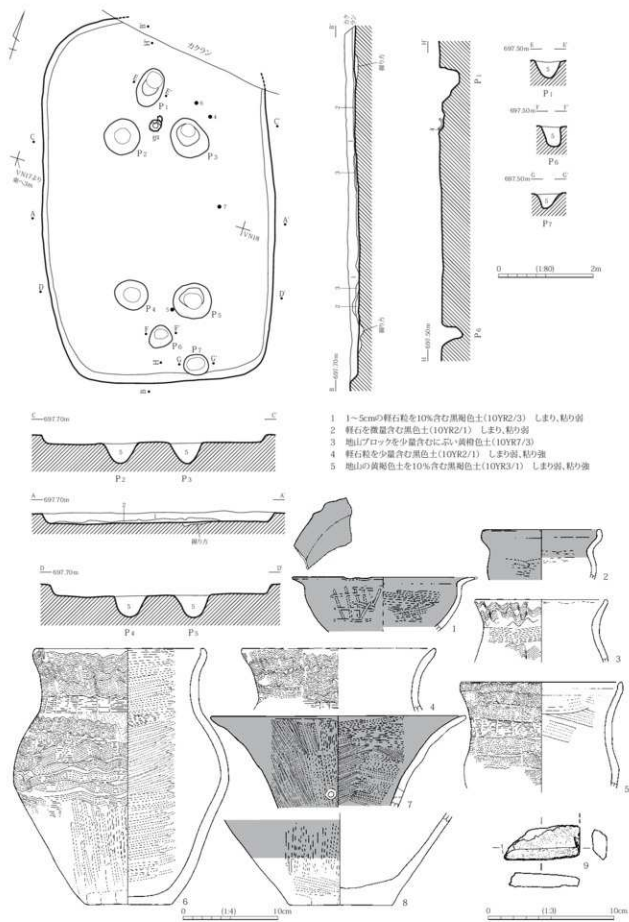
第81表 517号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
25	埋土	石孔磨製石鏃	100%	2.0	1.5	0.2	0.58	凝灰質閃岩	
26	埋土	打製石斧	30%	3.7	3.5	1.3	16	凝結砂岩	

## 518号住居跡 (SB518) [第84図 PL 8・31]

位置：5-①区、VN 12・13・17・18 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：狭長な隅丸長方形 規模：東西4.9m、南北7.7m、検出面からの深さ19～22cm 主軸方位：N-21°-W 遺構の重複：なし。東北部をカクランに削平されている。堆積状況：3層に分かれ、自然堆積と思われる。住居内施設：炉とピット7基が検出されている。炉は住居跡北側中央のP1～3に囲まれた部分にあり、土器敷き炉である。ピットは住居内の位置と並びからP2～5が主柱穴、P1・6が棟持柱と思われる。梁間が心々で1.2～1.4mなのに対して、桁行が同3.3～3.4mで梁間の2.5倍以上と非常に長い。床は全面硬く締まっている。

遺物出土状況：埋土や床面から弥生土器が8.7kg出土している(第126表)。遺物：鉢(1)は、口縁



第84図 518号住居跡 遺構図・遺物図

が大きく外反し、端部に2個1対の突出部がある。鉢(2)は甕のように頸部がくびれて口縁は内湾する。甕(3~6)はいずれも頸部に縷状文、口縁部と胴部に櫛描波状文が付されるものである。壺(7)は、口縁部下部に焼成後の穿孔がされている。このほか床面から獣歯片が出土している(第244表)。

時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第82表 518号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 [cm]	底径 [cm]	胴高 [cm]	重量 [g]	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P5	弥生土器鉢	(19.0)	—	底高 5.8	35	—	縦縷のミガキ半後赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	黒灰色	1mm以下の細砂やや多	5%未満	
2	埋土	弥生土器鉢	(12.0)	—	底高 5.3	26	—	縦ミガキ後赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂やや多	5%未満	
3	埋土	弥生土器甕	(13.6)	—	底高 6.6	72	—	櫛描波状文	横ナデ後横ミガキ	—	良好	黒褐色	細砂やや多	5%未満	
4	床面	弥生土器甕	(20.2)	—	底高 6.7	140	—	櫛描波状文	横ナデ後一部横ミガキ	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	5%	
5	床面	弥生土器甕	(16.8)	—	底高 11.3	253	—	櫛描波状文	横ハケ後ミガキ	—	普通	黒灰色	細砂少量	20%	
6	床面	弥生土器甕	(17.6)	9.1	27.0	1322	へう割り	下縁へう割り上平縁櫛波状文。下平縁ミガキ	縦ミガキ	ミガキ	普通	淡赤色	1mm以下の細砂やや多	30%	
7	床面	弥生土器甕	(26.6)	—	底高 9.8	350	—	縦ミガキ後赤彩	縦ミガキ後赤彩	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	口縁下部に外面で直径7mm内径で直径12mmの内孔
8	P7	弥生土器壺	—	10.8	底高 9.7	1980	へう割り	下縁へう割り。縦ミガキ	割落の為不明	不明	普通	淡赤色	1mm以下の細砂やや多	5%	

第83表 518号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 [cm]			重量 [g]	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
9	埋土	扁平片刈石斧	100%	5.9	2.8	1.2	25	透閃石岩	

## 519号住居跡(SB519) [第85図 PL 8・31]

位置: 5-①区、VN 17 検出: N層上面で土質の違いにより検出された。形状: 隅丸方形 規模: 東西3.9m、南北4.2m、検出面からの深さ7~12cm 主軸方位: N-12°-W 遺構の重複: なし 堆積状況: 5層に分かれ、自然堆積と思われる。

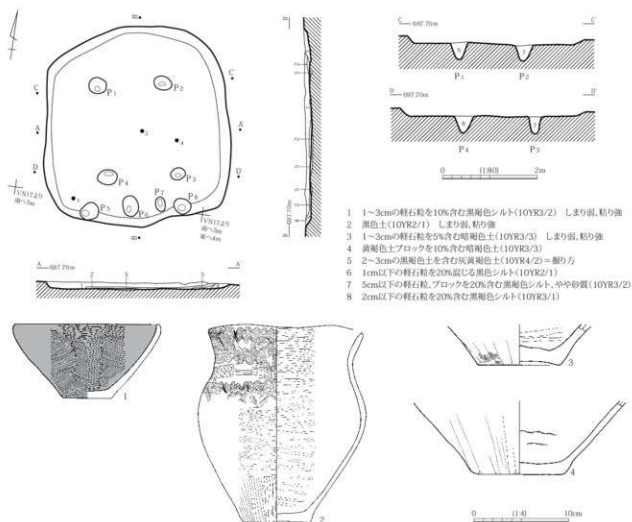
住居内施設: ピット8基が検出されている。ピットは住居内の位置と並びからP1~4が主柱穴、P6・7が入口施設と思われる。P5・7も南壁際の対称な位置にあり、入口施設に関わるものかも知れない。床は全面硬く締まっている。

遺物出土状況: 埋土や床面から弥生土器ほか5.2kg出土している(第126表)。遺物: 鉢(1)は、体部がわずかに丸みを持ち、口縁が内湾する。甕(2)は胴部に櫛描波状文が施されるが、図化できなかったものには櫛描羽状文のものもある。

時期: 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第84表 519号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 [cm]	底径 [cm]	胴高 [cm]	重量 [g]	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器鉢	(14.8)	5.1	7.8	228	一方向のミガキ	縦ミガキ後赤彩	ナデ後不整方向ミガキ半後赤彩	—	普通	黒灰色	1mm以下の細砂やや多	50%	
2	埋土	弥生土器甕	16.1	7.1	20.8	745	へう割り	下平縁へう割り中部横ミガキ上部櫛描波状文	縦ミガキ	横ナデ	普通	暗褐色	1mm以下の細砂少量	80%	
3	床面	弥生土器甕	—	8.8	底高 4.2	340	へう割り	縦へう割り後一部ハケ	横ナデ後横ミガキ	一方向の粗いミガキ	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
4	床面	弥生土器甕	—	9.1	底高 7.5	535	へう割り	縦へう割り	ナデ	ナデ	普通	淡赤色	2mm以下の砂粒やや多	10%	胴部内面一部に巻き上げ痕



第85図 519号住居跡 遺構図・遺物図

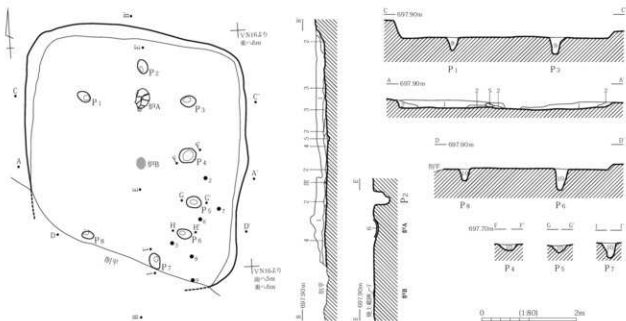
## 520号住居跡 (SB520) [第86・87図 PL 9・32]

**位置:** 5-①区, VN 11・16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 隅丸長方形 **規模:** 東西残存4.6m, 南北4.9m, 検出面からの深さ8~18cm **主軸方位:** N-5°-E **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 5層に分かれ, 自然堆積と思われる。

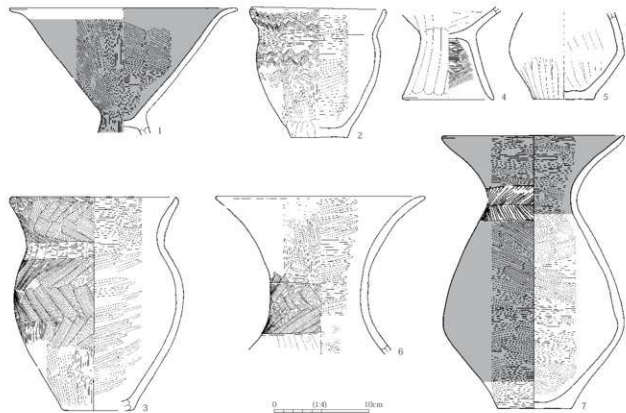
**住居内施設:** 炉2基とピット8基が検出されている。北側の炉AはP1・2間にあり, 土器敷き炉である。南側の炉Bは住居跡のほぼ中央にあり, 地床炉で明確な被熱面を伴っている。ピットは住居内の位置と並びからP1・3・6・8が主柱穴, P2が椽持柱, P7が入口施設と思われる。その他のピットは性格不明である。床は全面硬く締まっている。

**遺物出土状況:** 埋土や床面から弥生土器が11.0kg出土している(第126表)。炉Aには大型の壺胴部片が敷かれているが接合・図示できなかった。 **遺物:** 高杯(1)は, 杯部が直線的に開いて, 口縁部が外反する。甕(2・3・9)は口唇部がわずかに内湾するもので, 口縁部と胴部が櫛描波状文のもの(2)と櫛描羽状文のもの(3・9)がある。壺(6~8)は, 頸部が櫛描羽状文のもの(6)と, ヘラ描き矢羽根状沈線のもの(7・8)がある。

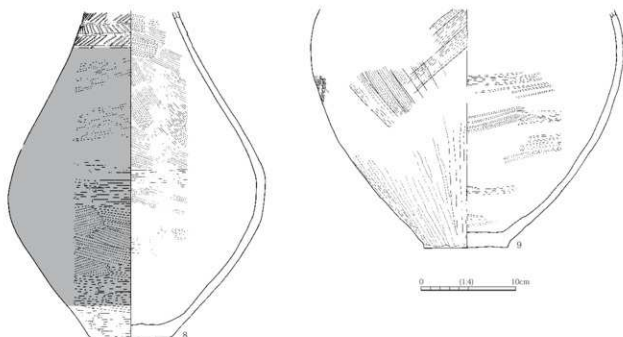
**時期:** 出土遺物から, 弥生時代後期と思われる。



- |   |  |
|---|--|
| <p>1 1cmほどの軽石粒、炭化物を10%含む暗褐色シルト(10YR3/3) しまり、粘り強</p> <p>2 褐色土、黄褐色土がブロック状に混ざるにぶい黄褐色シルト(10YR4/3) しまり弱、粘り強</p> <p>3 炭化物を50%含む暗褐色シルト(10YR3/3)</p> <p>4 黒色シルト(10YR2/1) しまり、粘り強</p> <p>5 軽石を少量含む黒色シルト(10YR2/1) しまり、粘り強</p> | <p>6 炭を多量に含み、鉄分が少量沈着する黒褐色砂質シルト(10YR2/3) しまり弱</p> <p>7 厚さ1cm未満のにぶい赤褐色土(5YR4/4)→焼土層</p> <p>8 地山の黄褐色土を15%含む黒褐色シルト(10YR3/2)</p> <p>9 4cm以下の軽石粒、ブロックを少量含む黒褐色シルト(10YR3/1)</p> <p>10 軽石を少量、地山の黄褐色土を10%含む黒褐色シルト(10YR3/2)</p> |
|---|--|



第86図 520号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第 87 図 520 号住居跡 遺物図 (2)

第 85 表 520 号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 高杯	(23.7)	—	現高 13.5	295	—	縦ミガキ後 赤彩	縦ミガキ後 赤彩	外部内面 縦ミガキ後 赤彩	普通	灰褐色	1mm 以下の 細砂少量	20%	
2	床面	弥生土器 甕	14.0	6.0	13.8	458	ヘラ削り	下縁ヘラ削り、上半部 指紋状文。縦ハケ後下 半縦ミガキ	縦ミガキ	ミガキ	普通	淡褐色	1mm 以下の 細砂やや多	90%	
3	床面	弥生土器 甕	17.4	7.6	22.3	1075	ヘラ削り	下半縦ミガ キ、上半部 指紋状文	縦ミガキ	ミガキ	良好	茶褐色	1mm 以下の 細砂少量	80%	
4	P2	弥生土器 付冪	—	口径 9.4	現高 9.8	382	外部内面 縦ハケ目	縦ヘラ削り	ヘラミガキ	ヘラミガキ	普通	淡褐色	細砂やや多	10%	
5	埋土	弥生土器 甕	—	6.2	現高 9.2	300	ヘラ削り	下半縦ヘラ 削り一部ミ ガキ、上半 ミガキ	回めヘラ ナデ	ヘラナデ	普通	淡赤褐色	1mm 以下の 細砂少量	30%	器表のひび割れ割 落多い
6	床面	弥生土器 甕	21.8	—	現高 16.6	304	—	縦ヘラ削り	横～斜めの ハケ調整	—	普通	淡褐色	1mm 以下の 細砂やや多	10%	内外面に粘土質、 粘土化物多数
7	床面	弥生土器 甕	(19.0)	7.8	28.8	1482	ヘラ削り	下半縦ミガ キ、上半部 指紋状文	縦ミガキ	ミガキ	普通	淡褐色	1mm 以下の 細砂少量	90%	
8	床面	弥生土器 甕	—	8.8	現高 34.4	2113	ヘラ削り	下縁ヘラ削り、横ミガ キ後赤彩	横～斜めの ハケ調整	ハケ目	普通	淡褐色	2mm 以下の 砂粒少量	60%	
9	床面	弥生土器 甕	—	8.8	現高 25.0	1354	ヘラ削り	下半縦ヘラ 削り上半部 の指紋状 文	ハケ調整後 縦ミガキ	ミガキ	普通	淡赤褐色	1mm 以下の 細砂やや多	20%	

## 521 号住居跡 (SB521) [第 88 図 PL 9]

位置：5-③区、V X 2 検出：IV 層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存 3.7m、南北残存 1.9m、検出面からの深さ 13～27cm 主軸方位：不明 遺構の重複：なし。北隅以外の大部分を圃場整備により削平されている。堆積状況：4 層に分かれ、自然堆積と思われる。

住居内施設：ピット 3 基が削平面下に残っている。住居内の位置から P 1 が支柱穴と思われる。その他のピットは性格不明である。

遺物出土状況：埋土や床面から弥生土器が 2.5kg 出土している (第 126 表)。遺物：壺 (1) は、口縁部が大きく外反し、頸部に T 字文が施される。

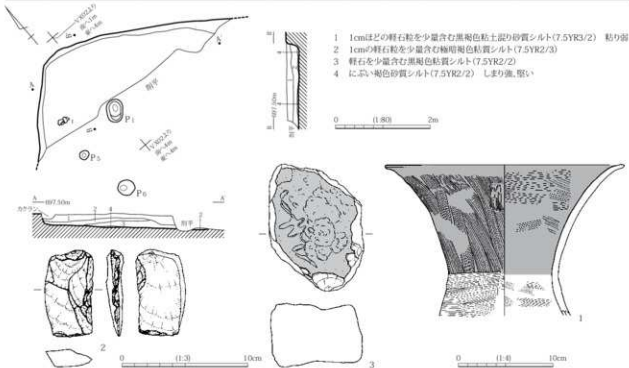
時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第86表 521号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重畳 (g)	底面	外面	内面	底面内面	焼成	色調	胎土	現存率	備考
1	床面	弥生土器壺	25.0	—	現高 16.1	524	—	縦ハケ後赤彩	横ハケ後赤彩	—	良好	淡橙色	1mm以下の細砂少量	5%	

第87表 521号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法量 (cm)			重畳 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
2	埋土	打製石斧	10%	6.8	3.9	1.4	46	燧石	
3	埋土	打石	100%	10.0	7.5	5.0	535	砂岩	



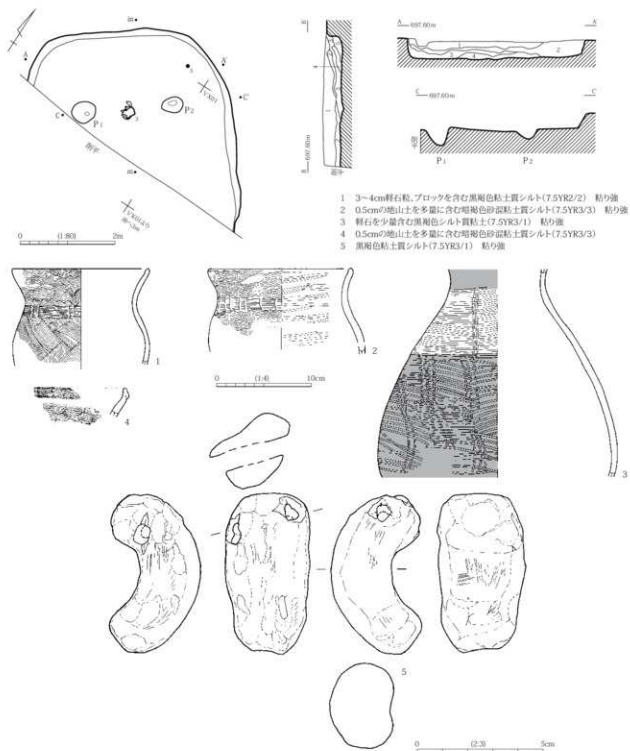
第88図 521号住居跡 遺構図・遺物図

## 522号住居跡 (SB522) [第89図 PL 9・39]

位置：5-③区、VR 25・S 21・W 5・X 1 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸方形 規模：東西4.0m、南北3.5m、検出面からの深さ25～36cm 主軸方位：N-37°-W 遺構の重複：なし。南部を圃場整備により削平されている。堆積状況：5層に分かれ、自然堆積と思われる。住居内施設：ピット2基が検出されている。住居内の位置と並びからP1・2のどちらも主柱穴と思われる。炬は検出されなかった。

遺物出土状況：壺(3)がP1・2間の床面で出土しているほか、埋土や床面から弥生土器が3.5kg出土している(第126表)。遺物：甕(1・2・4)は、いずれも口縁部に櫛描波状文が施されるが、胴部は櫛描羽状文のもの(1)、櫛描波状文のもの(2)があり、4は口縁が折り返されている。壺(3)は、頭部のT字文が幅広く、肩部にまで及んでいる。土製勾玉(5)は、全長6.2cm、幅3.4cm、厚さ3.3cm 重さ59.0gと大型で、背部は黒褐色、腹部は灰褐色を呈する。手捏で成形後、幅5mm以下の細かい削りによって整形している。頭部の孔は長径7mm、短径4mmの一方が尖り気味となる卵形で焼成前に穿たれる。腹部を手前にして上から見ると、孔は右側が腹部寄り、左側が背部寄りの所を通り、斜めに貫通している。孔は内部でわずかに曲がり、下部が突起物を引きずったように溝状となっている。この土製勾玉とはほぼ同大(全長5.5cm)のヒスイ製の勾玉が隣接する507号円形周溝墓の周溝のすぐ外側から出土しており、両者の関係が注目される。時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。





第89図 522号住居跡 遺構図・遺物図

第88表 522号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	(14.2)	—	器高 10.0	85	—	縦縞波状文	横ミガキ	—	良好	黒褐色	1mm以下の 細砂や中多	10%	
2	埋土	弥生土器 甕	14.9	—	器高 9.0	259	—	縦縞波状文	横ミガキ	—	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂少量	20%	
3	床面	弥生土器 甕	—	—	器高 22.0	640	—	縦縞ミガキ 後赤彩	表面剥離	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂や中多	10%	
4	埋土	弥生土器 甕	—	7.4×3.7	—	18	—	縦縞波状文	横ミガキ 後赤彩	—	普通	暗灰色	細砂少量	5% 未満	拓本

第89表 522号住居跡出土土製品観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
5	床面上	写玉	100%	6.2	3.4	3.3	59.0	

## 523号住居跡 (SB523) [第90図 PL33]

位置：5-③区、V S 14 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存1.0m、南北残存1.3m、検出面からの深さ17～22cm 主軸方位：不明 遺構の重複：なし。大部分が調査区外である。堆積状況：不明

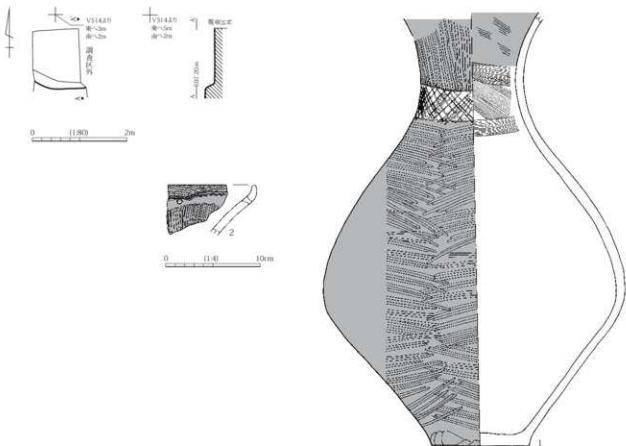
住居内施設：調査範囲では、施設は検出されていない。床は壁際を除き、硬く締まっている。

遺物出土状況：壺(1)が床面から出土したほか、埋土等から弥生土器4.1kgが出土しているが(第126表)、壺(1)以外は小片である。遺物：壺(1)は、頸部にヘラ描きの斜格子状沈線が施される。受口状口縁の壺(2)は、口唇部に櫛描波状文が施され、直下に小孔が貫通する。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第90表 523号住居跡出土土器観察表

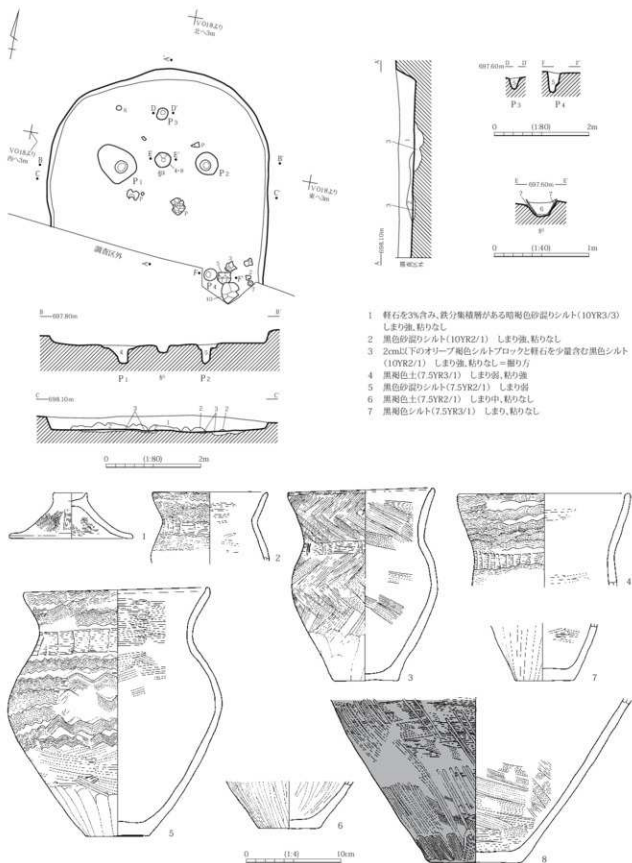
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器壺	—	10.1	現高45.7	385.4	ヘラ削り	下端ヘラ削り、横ミガキ後赤彩	横ハケ	ハケ	普通	淡黄褐色	細砂少量	90%	
2	埋土	弥生土器壺	6.5×6.5	—	—	38	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ、一部横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂多	5%	口縁部に小孔



第90図 523号住居跡 遺構図・遺物図

## 801号住居跡 (SB801) [第91・92図 PL 9・33]

位置：S-①区、VO12・13・17・18 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：南半



第91図 801号住居跡 遺構図・遺物図(1)

部が調査区外で全形は不明であるが、隅丸長方形と思われる。規模：東西4.7m、南北残存4.1m、検出面からの深さ9～37cm 主軸方位：N-7°-W 遺構の重複：なし。南半部が調査区外である。堆積状況：2層に分かれる。

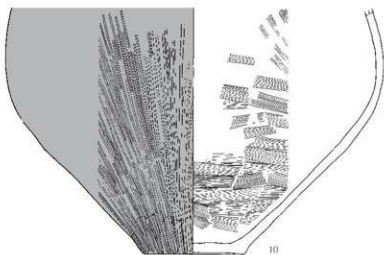
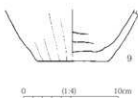
住居内施設：炉とピット4基が検出されている。炉は甕（4）とこれより小型の甕口縁部片が敷かれた上に壺（8）の底部片が埋設されていた。住居内の位置と並びからP1・2が主柱穴、P3が棟持柱と思われる。床は硬く締まっている。

遺物出土状況：床面を中心に弥生土器が15.5kg出土している（第126表）。遺物：蓋（1）は、天井部が中空になる。甕（2～7）は、口縁部・胴部とも櫛描波状文のもの（2・4・5）と櫛描羽状文のもの（3）がある。壺（8～10）は胴下半部が直線的に立ち上がり、10は胴上半部との境が丸みを帯びる。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第91表 801号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器蓋	(12.7)	3.5	4.8	120	底部ナデ	縦ハケ目	縦横のハケ目	—	普通	茶褐色	1mm以下の細砂少量	50%	
2	床面	弥生土器甕	(11.9)	—	7.6	135	—	櫛描波状文	横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	30%	
3	床面	弥生土器甕	15.1	6.6	20.4	950	へう削り	下半部へう削り、上半部櫛描羽状文	横ハケ	ナデ	普通	灰褐色	細砂少量	95%以上	
4	埋土	弥生土器甕	(17.8)	—	9.9	230	—	櫛描波状文	横ミガキ	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	10%	
5	床面	弥生土器甕	19.3	6.6	26.3	1145	へう削り	へう削り	横ミガキ	ミガキ	普通	暗褐色	1mm以下の細砂やや多	80%	
6	床面	弥生土器甕	—	6.5	現高5.0	282	へう削り	縦へう削り	横ナデ後一部縦へうミガキ	ナデ後へうミガキ	普通	淡赤褐色	細砂やや多	5%	
7	床面	弥生土器甕	—	6.0	現高6.2	155	へう削り	へう削り	横ナデ後一部横ミガキ	ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	10%	
8	9†	弥生土器壺	—	9.4	現高17.4	2150	へう削り	下部へう削り、横ハケ後まばらな縦ミガキ、赤彩	横ハケ	ハケ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
9	埋土	弥生土器壺	—	7.6	現高5.5	170	へう削り	縦へう削り	ナデ	ナデ	普通	淡茶褐色	細砂少量	5%未満	内面の一部に焼き上げ痕残る
10	床面	弥生土器壺	—	10.5	現高26.1	2461	へう削り	下部へう削り、下半部ミガキ後赤彩	横ハケ	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	20%	



第92図 801号住居跡 遺物図(2)

## 802号住居跡 (SB802) [第93図 PL 9]

位置：8-①区、VO9-14 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸長方形 規模：東西4.5m、南北5.3m、検出面からの深さ9～46cm 主軸方位：N-15°-W 遺構の重複：なし。北端が調査区外である。堆積状況：3層に分かれ、自然堆積と思われる。

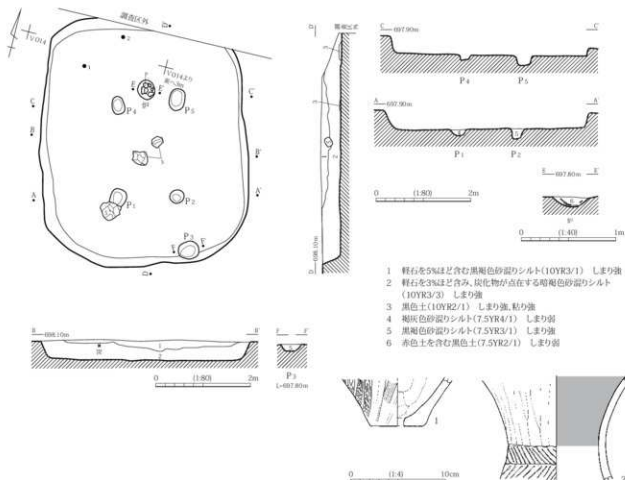
住居内施設：炉とピット5基が検出されている。炉は住居北部のP4・5間よりわずかに北寄りの所にあり、土器敷き炉で壺の胴・底部片が敷かれていた。ピットは住居内の位置と並びからP1・2・4・5が主柱穴と思われる。南壁際のP3は性格不明である。床は地山のままでが硬い。

遺物出土状況：埋土から弥生土器が9.8kg出土している(第126表)。遺物：甌(1)は底部が1穴の甌である。壺(2)は、頸部にヘラ描きの矢羽根状沈線文が付く。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第92表 802号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器 甌	—	5.7	現高 5.3	160	へう削り	縦ハケ目	縦ヘラナデ	ヘラナデ	軟	淡灰褐色	2mm以下の砂粒 灰層多	10%	底部に最大径 1.3cmの孔
2	床面	弥生土器 壺	—	—	現高 11.5	400	—	縦へう削り 縦縦ミガキ 磨滅	横ミガキ後 赤彩、磨滅	—	軟	淡赤色	細砂少量	5%	



第93図 802号住居跡 遺構図・遺物図

## 2. 円形周溝墓・方形周溝墓

## 501号円形周溝墓 (SM501) [第94図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V S 16・17・21・22 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 西部が削平されて全形は不明であるが、周溝はやや角ばった円形で北東部が開くほか、北西部と南西部も開いていたものと思われる。 **規模:** 現状で東西4.9m、南北3.1m、周溝の幅38～54cm、深さ8～12cm **遺構の重複:** 506号住居跡を切る。 **堆積状況:** 単層で自然堆積と思われる。

**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕が計110g出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

## 502号円形周溝墓 (SM502) [第94図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V S 6・7・11・12 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 円形で北側に開口部がある。 **規模:** 東西5.5m、南北4.9m、周溝の幅34～38cm、深さ1～15cm **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 主体部は2層、周溝は単層で、自然堆積と思われる。

**主体部:** 削平されているが、2.9×1.1mのややいびつな長方形で、確認面からの深さは7～22cmである。小口穴は検出されていない。

**遺物:** 主体部と周溝より弥生土器の壺と甕が計99g出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

## 503号円形周溝墓 (SM503) [第94図 PL10]

**位置:** 5-③区、V R15、S11 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北部を削平されて全形は不明であるが、円形であったと思われる。 **規模:** 現状で東西4.0m、南北1.8m、周溝の幅22～38cm、深さ4～13cm **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 2層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕が計10g出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

## 504号円形周溝墓 (SM504) [第95図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V R 15・20、S 11・16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北部を削平されて全形は不明であるが、円形であったと思われる。 **規模:** 現状で東西5.3m、南北3.7m、周溝の幅50～55cm、深さ10～30cm **遺構の重複:** 515号円形周溝墓を切る。 **堆積状況:** 2層に分かれ、自然堆積と思われる。

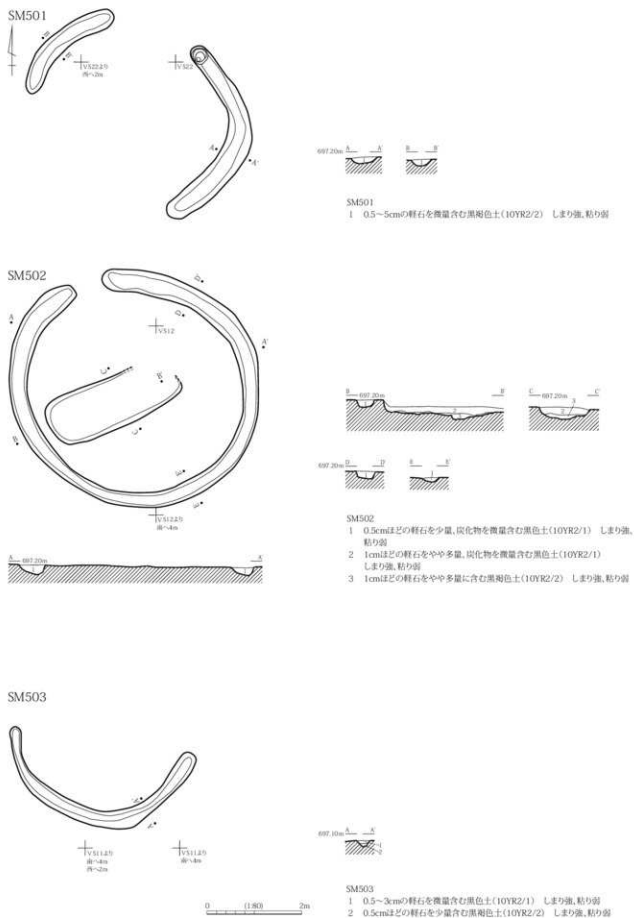
**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕ほか計619g出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。1は混入の縄文土器深鉢の口縁部で、胴部に凹線区画と縄文が見られる。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第93表 504号円形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	縄文土器深鉢	4.0×2.2		8	—	—	縄文施文後凹線区画	職ナデ	—	普通	淡赤褐色	3mm以下の砂粒や砂多	5%未満	拓本



第94図 501・502・503号円形周溝墓 遺構図・遺物図

## 505号円形周溝墓 (SM505) [第95図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V R 20、S 16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 南部を削平されて全形は不明であるが、円形であったと思われる。 **規模:** 現状で東西4.7m、南北1.8m、周溝の幅68~70cm、深さ13~25cm **遺構の重複:** 506号円形周溝墓に切られ、それ以南は削平されている。 **堆積状況:** 2層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕が計307g出土しているが(第126表)、甕口縁部(1)以外、いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第94表 505号円形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	(20.6)	—	器高 8.2	109	—	縞縞波状文	横ミガキ	—	普通	灰褐色	1mm以下の細砂や多	5%	

## 506号円形周溝墓 (SM506) [第95図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V R 20・25、S 11・16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 円形で、北東部が開いている。 **規模:** 東西6.0m、南北5.5m、周溝の幅40~56cm、深さ7~19cm **遺構の重複:** 505号円形周溝墓と5113号土坑を切る。 **堆積状況:** 6層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 周溝内の北寄りに位置し、南北3.2m、東西1.3mのややいびつな長方形で確認面からの深さは8~14cmである。小口穴はないが北端に直径35cmの円形で底面からの深さ10cmの穴がある。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕が計705g出土しているが(第126表)、いずれも小片で、甕口縁部(1)以外図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第95表 506号円形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	8.8×2.4	—	19	—	—	縞縞波状文	横ミガキ	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%未満	拓本

## 507号円形周溝墓 (SM507) [第96図 P L 10・37]

**位置:** 5-③区 V R 25、S 21 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 円形で、北東部と北西部が開いている。 **規模:** 東西7.9m、南北6.8m、周溝の幅40~78cm、深さ18~39cm **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 2層に分かれる。

**主体部:** 周溝内の中央よりわずかに南寄りに位置し、南北0.8m、東西1.5mの長方形で確認面からの深さは7~17cmである。小口穴はない。

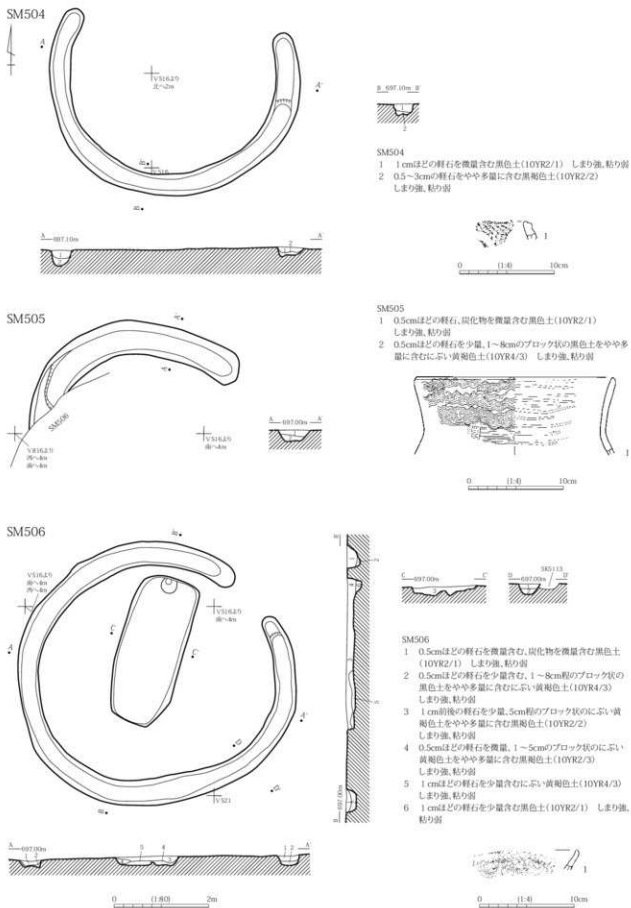
**遺物:** 周溝より弥生土器の壺・甕・高杯・鉢が計608gが出土しているほか(第126表)、混入と見られる石炭2点(2・3)、遺構外ではあるが周溝の南側の縁から大型のヒスイ硬玉製勾玉(第114図)が出土している。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第96表 507号円形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	(15.7)	—	器高 5.7	46	—	縞縞波状文	横ミガキ	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%未満	





第95図 504・505・506号円形周溝墓 遺構図・遺物図

第97表 507号円形周溝墓出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
2	埋土	石鏃	95%	2.5	1.8	0.4	1.58	黒曜石	
3	埋土	石鏃	90%	2.7	1.5	0.4	1	黒曜石	

## 508号円形周溝墓 (SM508) [第96図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V S 19・23・24 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 南東部が削平されて全形は不明であるが、北西部に開口部を持つ円形周溝墓と思われる。 **規模:** 現状で東西4.8m、南北3.6m、周溝の幅34～38cm、深さ7～10cm **遺構の重複:** 505号住居跡を切る。 **堆積状況:** 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 周溝内の北寄りに位置し、南北2.5m、東西1.6mの部分的に楕円形に近い隅丸長方形で確認面からの深さは4～13cmである。小口穴は検出されていない。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕が計89g出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

## 509号方形周溝墓 (SM509) [第96・98図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V R 9・14 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 南北に延びる直線的な溝である。調査時は、単独の埋葬施設の可能性を考えて遺構番号を付したが、底面の中央が薬研状に深くなる構造から、埋葬施設ではなく、510号方形周溝墓や519号方形周溝墓と組み合う四隅の開いた方形周溝墓の溝の一部と思われる。 **規模:** 長さ3.2m、周溝の幅78～104cm、深さ15～48cm **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 4層に分かれ、自然堆積と思われる。

**遺物:** 周溝より弥生土器の壺と甕が計1.4kg出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

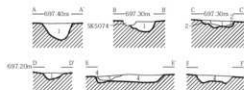
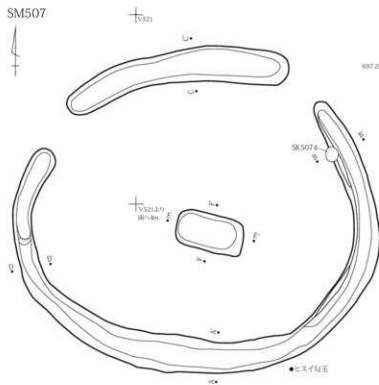
## 510号方形周溝墓 (SM510) [第97・98図 P L 10]

**位置:** 5-③区、V R 10・14・15 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 隅丸方形を呈する主体部と思われる土坑の東と南に直線的な溝各1条が、角の空いたL字状に延びる。調査時は、この溝2条と主体部のみを一組の方形周溝墓と考えて遺構番号を付したが、前述のように西側の509号墓と、北側の519号墓も含めた、四隅の開いた方形周溝墓と考えるのが自然と思われる。また、南側周溝の中央付近で検出された503号土器棺墓は、この周溝を切る掘り方が検出できず、当初からこの周溝に埋納されていた可能性がある。 **規模:** 東西6.7m、南北5.9mで、南側の周溝の長さ5.7m、幅116～118cm、確認面からの深さ31～65cm、東側の周溝の長さ4.3m、幅96～116cm、確認面からの深さ30～40cmである。 **遺構の重複:** 515号住居跡、5079・5089・5096・5114号土坑を切る。 **堆積状況:** 主体部4層、周溝5層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 509号方形周溝墓と519号方形周溝墓を含めた方形の周溝内の東寄りに位置し、南北1.9m、東西1.8mの隅丸方形で、確認面からの深さは14～41cmである。小口穴は検出されていない。 **遺物:** 主として周溝から弥生土器ほか計4.1kg出土しているほか(第126表)、周溝の埋土から骨細片が出土している(第244表)。甕(2・3・6～9)は口縁部に櫛描波状文が付されるものが主体であるが、櫛描羽状文のもの(3)や縄文のもの(9)も見られる。壺(4・5)には頸部を凹線でごく区画して、列点を施すものが見られる。

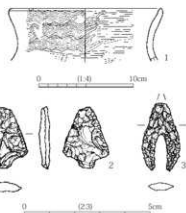
**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

SM507

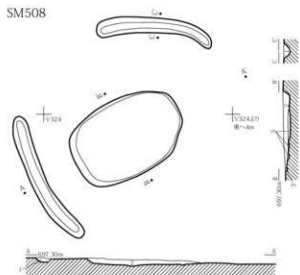


SM507

- 1 0.5cmほどの軽石をやや多量に含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 2 0.5~6cmの軽石粒, ブロックを少量含む黒褐色土(10YR3/2) しまり強, 粘り弱
- 3 1cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 4 1cmほどの軽石粒をやや多量に含む黒褐色土(10YR3/2) しまり強, 粘り弱



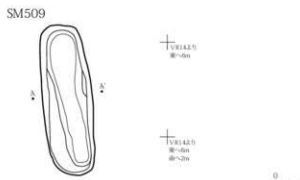
SM508



SM508

- 1 1cmほどの軽石を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 2 1cmほどの軽石を少量含む, 1層より若干暗い黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 3 1cmほどの軽石を少量含む黒褐色土(10YR3/2) しまり強, 粘り弱

SM509



SM509

- 1 0.5~3cmの軽石を少量, 炭化物を多量に含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 2 1cmほどの軽石, 炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強
- 3 0.5~6cmの軽石, 炭化物少量含む黒褐色土(10YR2/1) しまり強, 粘り弱
- 4 1cmほどの軽石を少量含む暗褐色土(10YR3/4) しまり強

第96図 507・508号円形周溝墓・509号方形周溝墓 遺構図・遺物図

所見ほか：主体部としては形が正方形に近く、埋土（周溝断面のD・I・M・N・P地点、主体部断面のA・E・G・I地点）のリン・カルシウム分析でもリンの含有量の高い箇所はなく（第6章）、本周溝墓とは無関係の土坑である可能性もある。

第98表 510号方形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 鉢	—	6.5	底高 3.7	119	へら削り	下縁へら削り、横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	暗灰色	1mm以下の細砂少量	10%	
2	埋土	弥生土器 甕	(15.2)	—	底高 6.0	44	—	縞縞状文	横ナデ後一部ミガキ	—	普通	暗灰色	2mm以下の砂粒少量	5%	未滅
3	埋土	弥生土器 甕	(24.0)	—	底高 6.8	222	—	縞縞状文	横ミガキ	—	良好	暗灰色	1mm以下の細砂少量	5%	
4	埋土	弥生土器 甕	(22.8)	—	底高 6.5	96	—	横ハケ後縦ミガキ、赤彩、磨滅	横ハケ後縦ミガキ、赤彩	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%	未滅
5	埋土	弥生土器 甕	—	—	底高 11.3	93	—	縦ミガキ後赤彩	横ハケ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	5%	未滅
6	埋土	弥生土器 甕	6.5 × 6.0	—	—	23	—	縞縞状文	横ナデ	—	普通	暗灰色	細砂少量	5%	未滅
7	埋土	弥生土器 甕	6.0 × 4.8	—	—	27	—	縞縞状文	横ナデ後横ミガキ	—	普通	褐色	1mm以下の細砂や中多	5%	未滅
8	埋土	弥生土器 甕	5.7 × 4.6	—	—	18	—	縞縞状文	横ナデ後横ミガキ	—	普通	暗灰色	細砂や中多	5%	未滅
9	埋土	弥生土器 甕	4.2 × 3.7	—	—	19	—	横ナデ後口縁部縦文	横ナデ	—	普通	暗灰色	細砂少量	5%	未滅

## 511号円形周溝墓 (SM511) [第97図 P L 10]

位置：5-③区、V M24・R 4 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：北部を削平されて全形は不明であるが、残存する溝の形状から円形周溝墓であると思われる。規模：現状で、東西5.2m、南北2.3m、周溝の幅58～110cm、周溝確認面からの深さ4～29cm 遺構の重複：なし 堆積状況：主体部、周溝とも単層で自然堆積と思われる。

主体部：周溝内の西寄りに位置する。東半部をカクランに壊されているが、現状で南北1.1m、東西1.6mのやや胴張りの長方形で、確認面からの深さは11～17cmである。小口穴は検出されていない。

遺物：周溝から弥生土器壺、甕、高杯が計285g出土しているが（第126表）、いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

## 512号墓跡 (SM512) [第99図 P L 11]

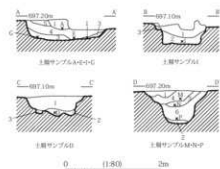
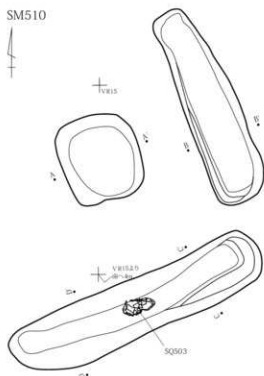
位置：5-③区、V R 20・25 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：長楕円形の溝状で、両端部分にテラスを持ち間の中央部がさらに一段窪む。規模：長さ2.8m、幅1.1m、確認面からの深さ4～29cm、底面は長径165cm、短径70cmの楕円形で平ら 遺構の重複：なし 堆積状況：3層に分かれるが、壁際と底面直上のわずかな部分の埋土のみが、大部分を占める中央部の埋土と異なる特異な堆積状況を示す。

主体部：底面が平らで、長さ165cm、幅70cmの楕円形とほぼ等身大であること、土層堆積状況から中央に棺の埋納があることが想定されることから、小口穴は検出されていないが、木棺墓であった可能性がある。

遺物：出土していない。

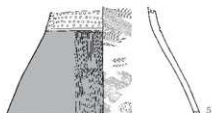
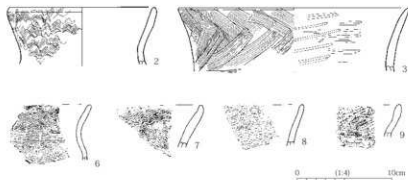
時期：周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

SM510

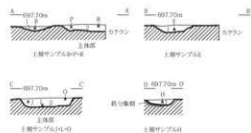
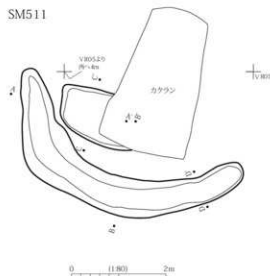


SM510

- 1 軽石粒をやや多量、炭化物を少量含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 2 軽石粒、にぶい黄褐色土ブロックを少量含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 3 軽石粒、にぶい黄褐色土ブロックを少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり中、粘り弱
- 4 軽石粒、褐色砂を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり中、粘り弱
- 5 軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり中、粘り弱
- 6 軽石粒を少量、炭化物を微量含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱



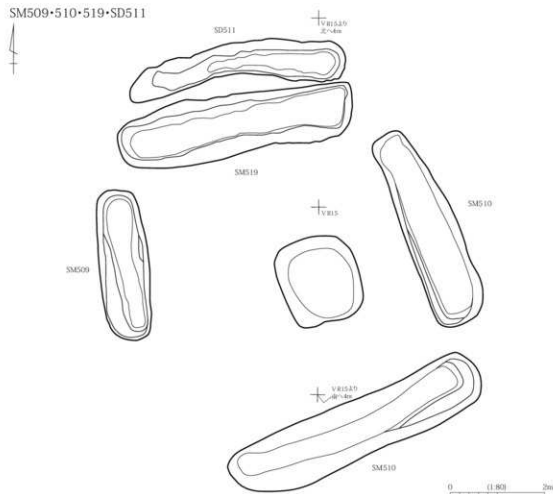
SM511



SM511

- 1 0.5~3cmの軽石を少量含む黒褐色シルト(10YR3/1~3/2)
- 2 0.5~5cmの軽石、炭化物を少量含む黒褐色シルト(10YR3/1~3/2)

第97図 510号方形周溝墓・511号円形周溝墓 遺構図・遺物図



第98図 509・510・519号方形周溝墓・511号溝跡 遺構図

**513号方形周溝墓 (SM513) [第99図 PL34]**

**位置:** 5-②区、VR4・9 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。検出当初、503号性格不明遺構 (SX503) としていたものを直交する溝が検出されたことにより、513号方形周溝墓 (SM513) に改称している。 **形状:** 西側が調査区外のため、全形は不明であるが、交差部分が空いたL字形の南北溝と東西溝の一部が検出されており、四隅が開く方形周溝墓の一部であると思われる。 **規模:** 北側の溝は長さ不明で現長0.6m、幅90cmで確認面からの深さ26cm、東側の溝は長さ5.1m、幅不明で、確認面からの深さは24～32cmである。 **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 4層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 弥生土器の壺と甕・鉢が合計128g出土している (第126表)。図示した土器 (1) は、巻き上げ痕を残したまま焼成された特異な土器で、隣接する西近津遺跡出土例 (整理中) からは小型のコップ形土器になるとと思われる。

**時期:** 出土遺物と、周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

第99表 513号方形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	周溝	弥生土器鉢	3.8 × 3.2		13	—	—	ナデと押さえ	ナデと押さえ	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	5%	

## 514号墓跡 (SM514) [第99図 P L 11]

**位置:** 5-③区、V R 19 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 西側が調査区外のため全形は不明であるが、東西に延びる溝か東西に長い土坑の一部である。 **規模:** 現状で長さ1.6m、幅1.1m、確認面からの深さ10～18cm **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 3層に分かれ、自然堆積と思われる。

**遺物:** 弥生土器の壺と甕が合計207g出土しているが(第126表)、甕(1)のほかは小片で図示できなかった。  
**時期:** 出土遺物と、周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 調査時には、方形周溝墓の溝の一部ではないかと考えて墓跡の遺構番号を付したが、周囲にこれに繋がる溝がなく、単独の土坑である可能性もある。

第100表 514号墓跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕		6.4 × 6.2		30	—	華縞波状文	横ナデ後 横ミガキ	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%未満	拓本

## 515号円形周溝墓 (SM515) [第99図]

**位置:** 5-③区、V R 15・20、S 11・16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北側が削平されて全形は不明であるが、504号円形周溝墓の周溝とはほぼ重なる半円形の溝で、円形周溝墓の一部と考えられる。 **規模:** 東西5.8m、南北3.3mで、周溝の幅40～80cm、確認面からの深さ6～15cm **遺構の重複:** 504号円形周溝墓に切られる。 **堆積状況:** 単層。

**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 出土していない。

**時期:** 周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

## 516号円形周溝墓 (SM516) [第100図 P L 11・34・37]

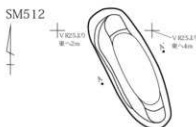
**位置:** 5-③区、V S 7 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北西部を516号住居跡に切られて全形は不明であるが、北側に開口部を持ち、南北に比べて東西がやや長い楕円形の周溝をした円形周溝墓と考えられる。 **規模:** 東西5.9m、南北4.9mで、周溝の幅40～80cm、確認面からの深さ16～39cm **遺構の重複:** 516号住居跡に切られる。 **堆積状況:** 場所によって土質は異なるが、いずれも単層である。

**主体部:** 検出されていない。

**遺物:** 弥生土器が合計2.7kgと出土している(第126表)。鉢(1・2)は周溝東側の底面付近で出土し、甕と呼んでもいいほどの小型品である。甕(3)は頸部の縞状文の下に斜格子状沈線が施される。管玉(5)は碧玉製、打製石斧(6)はアイサイト製である。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

SM512



SM512

- 0.5cmほどの軽石をやや多量に含む黒色土(10YR2/1) しまり強, 粘り弱
- 0.5cmほどの軽石をやや多量に含む黒褐色土(10YR2/3) しまり強, 粘り弱
- 0.5cmほどの軽石をやや多量に含む, にぶい黄褐色ブロックを微量含む暗褐色土(10YR3/3) しまり強, 粘り弱

SM513



SM513

- 0.2~3cmの軽石粒, 炭化物, にぶい黄褐色シルトを少量含む黒褐色土(10YR3/1)
- 部分的に鉄分集積が著しい黒褐色土(10YR3/1)
- にぶい黄褐色シルト粒をやや多量に含む灰黄褐色シルト(10YR5/2)
- 部分的に鉄分の集積が著しい灰黄褐色シルト(10YR5/2)

遺構の深さ



SM514



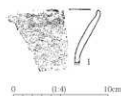
IVR2525  
直径=4m

IVR2525  
直径=2m

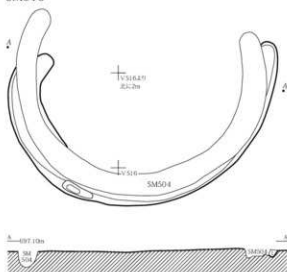


SM514

- 0.5cmほどの軽石, 炭化物を微量含む黒色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱
- 0.5~8cmの軽石, 炭化物を微量含む黒色土(10YR2/1) しまり強, 粘り弱
- 10cmほどの軽石を微量含む灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強, 粘り弱



SM515



0 (1.80) 2m

SM515

- 2cmほどの軽石をやや多量に含む黒色土(10YR2/2) しまり強, 粘り弱

第99図 512・514号墓跡・513号方形周溝墓・515号円形周溝墓 遺構図・遺物図



第101表 516号円形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	頸高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	周溝の横出面	弥生土器鉢	11.8	(4.3)	5.3	162	ヘラ削り後赤彩	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂やや多	90%	
2	周溝の横出面	弥生土器鉢	(13.0)	4.4	5.7	120	磨滅	横ミガキ後赤彩	縦横のミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂少量	50%	
3	埋土	弥生土器壺	4.9 × 3.5		13	—	横ナ字後斜格子状沈線	横ミガキ	—	普通	明灰色	細砂少量	5%未満	拓本	
4	埋土	弥生土器壺	11.1 × 8.0		103	—	縦線波状文	横ナ字後横ミガキ	—	普通	褐色	細砂少量	5%未満	拓本	

第102表 516号円形周溝墓出土石器・玉類観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
5	埋土	碧玉	100%	1.5	0.4	0.4	0.21	碧玉岩	
6	床面	打製石斧	80%	13.3	10.0	4.4	634	デイサイト	

## 517号円形周溝墓 (SM517) [第100図 P L 11]

位置：5-③区、VS1・6、R10 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：東西2箇所に開口部を持つ円形周溝墓 規模：東西4.1m、南北4.1mで、周溝の幅26～54cm、確認面からの深さ8～27cm 遺構の重複：なし 堆積状況：単層

主体部：検出されていない。

遺物：弥生土器ほか合計492g出土しているが(第126表)、いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

## 518号円形周溝墓 (SM518) [第101図 P L 11・34]

位置：5-③区、VR9・10 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：517号円形周溝墓と同様に東西2箇所に開口部を持つ円形周溝墓である。規模：東西4.7m、南北4.5mで、周溝の幅38～58cm、確認面からの深さ6～30cm 遺構の重複：なし 堆積状況：4層に分かれ、自然堆積と思われる。

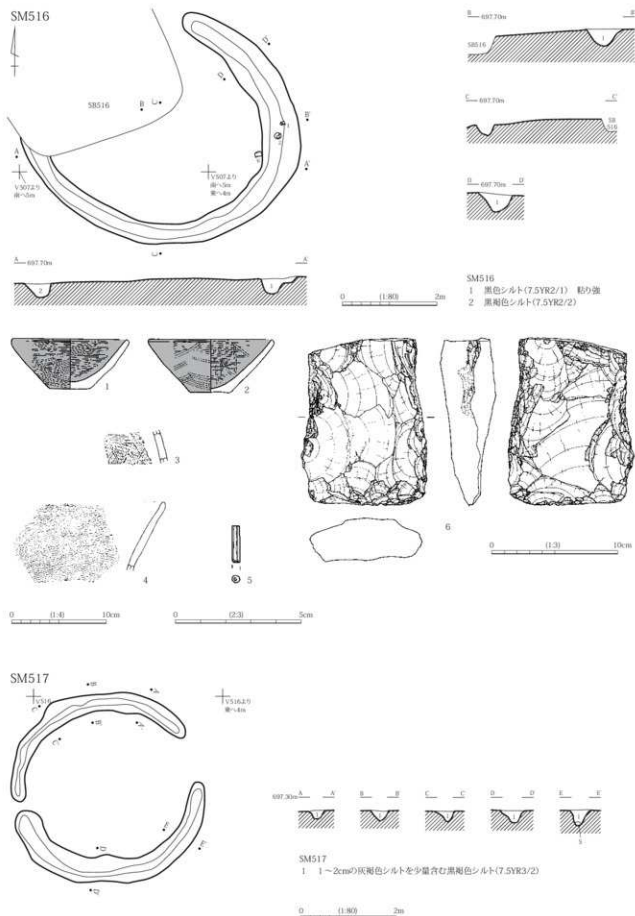
主体部：周溝内のほぼ中央に長径90cm、短径70cmの楕円形で、確認面からの深さ25～28cmの土坑があり、頸部までで高さ55cmを超える弥生土器壺ほか、横倒しになって埋納されていた。土器棺であり、これが本円形周溝墓の主体部であったと思われる。

遺物：主体部を中心に弥生土器が124kg出土している(第126表)。主体部の土器は壺がほとんどで、周溝では壺と甕がほぼ同量である。壺(2～4)は主体部からの出土で、頸部に横描羽状文や、ヘラ描き斜格子状沈線を施す。甕(1・5)は、周溝北からの出土で、口縁部が横描波状文のもの(1)と、横描羽状文のもの(5)がある。

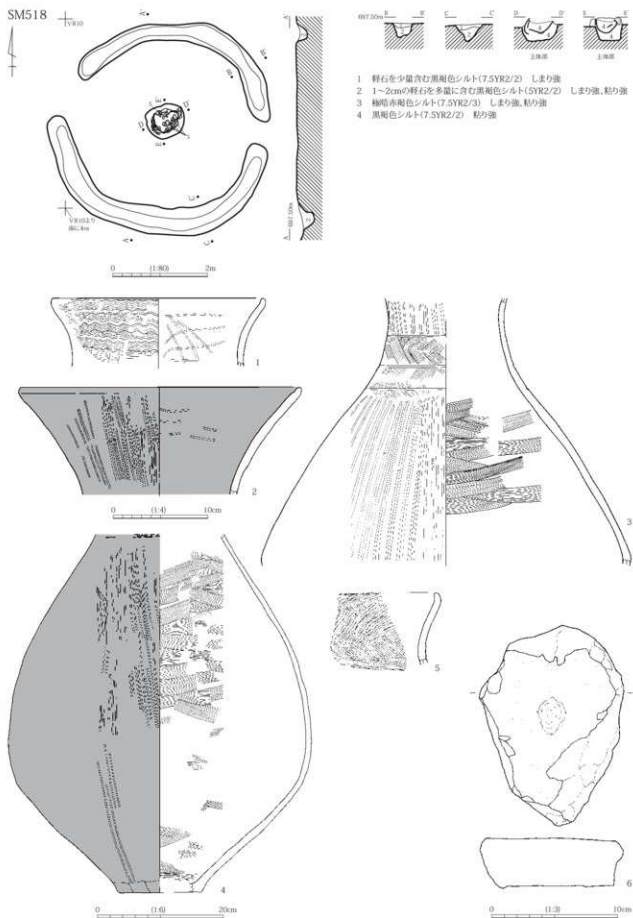
時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第103表 518号円形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	頸高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	周溝北	弥生土器壺	(22.0)	—	底高7.3	111	—	縦線波状文	横ナ字後まばらな縦横のミガキ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%	
2	主体部	弥生土器壺	29.4	—	底高11.6	555	—	縦横のミガキ後赤彩、磨滅	横ミガキ後赤彩、磨滅	—	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂やや多	5%未満	内外面及び断面に鉄分付着
3	主体部	弥生土器壺	—	—	底高28.1	560	—	縦ミガキ	横ナ字後一部横ハケ	—	普通	淡灰褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
4	主体部	弥生土器高軒	—	13.0	底高56.7	6597	ヘラ削り	縦ミガキ後赤彩	横ハケ	ハケ	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	40%	
5	周溝北	弥生土器壺	7.9 × 7.7		64	—	縦横羽状文	横ハケ	—	良好	淡赤色	細砂少量	5%未満	拓本	



第100図 516・517号円形周溝墓 遺構図・遺物図



第101図 518号円形周溝墓 遺構図・遺物図

第104表 518号円形周溝墓出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
6	埋土	台石	50%	15.8	11.5	3.9	1065	安山岩	

## 519号方形周溝墓 (SM519) [第102・104図 P L 11]

**位置:** 5-③区、VR9・10 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 東西に延びる直線的な溝である。 **規模:** 長さ5.1m、幅110～116cm、確認面からの深さ32～55cm **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 6層に分かれ、自然堆積と思われる。

**主体部:** 検出されていないが、後述のように509、510号方形周溝墓と組み合わせると、510号方形周溝墓の主体部が本周溝墓の主体部である。

**遺物:** 埋土から弥生土器ほか、2.6kg出土しているが(第126表)、甕(1)のほかは、いずれも小片で図示できなかった。

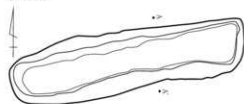
**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 調査時には単独の遺構番号を付したが、509・510号方形周溝墓と組み合わせ、四隅が開く方形周溝墓の一部とするのが妥当と思われる。

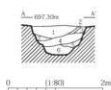
第105表 519号方形周溝墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	形高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	12.7 × 8.7			120	—	縦縞状文	横ナゲ後 横エケ斗	—	普通	黒褐色	1mm以下の 細砂少量	5%	拓本

## SM519

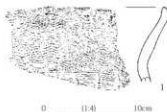
VR044.0  
東→北

VR015



## SM519

- 1 軽石をほとんど含まない黒褐色土(7.5YR3/1) 粘り強
- 2 褐色土(7.5YR4/3) しまり面
- 3 0.5cmほどの地山をブロック状に含む黒褐色シルト(7.5YR3/2)
- 4 砂混じりの黒褐色シルト(7.5YR3/1)
- 5 褐色砂質シルト(7.5YR4/6) しまり強
- 6 1cmほどの地山をブロック状に含む黒褐色シルト(7.5YR2/2)



## SM520



VR030

VR005.0  
東→北

## SM520

- 1 1～2cmの軽石を少量含む黒褐色シルト(7.5YR3/2) 粘り強
- 2 1～2cmの地山をブロック状に含む灰褐色シルト(7.5YR4/2)

第102図 519号方形周溝墓・520号円形周溝墓 遺構図・遺物図

## 520号円形周溝墓 (SM520) [第102図 P L 11]

**位置:** 5-③区、V R 25、W 5 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 南側が調査区外で、全形は不明であるが、北西から南に延びる弧状の溝とそれに連なる南北溝である。 **規模:** 現状で東西1.1m、南北3.4mで、周溝の幅は44～84cm、確認面からの深さ6～12cmである。 **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 北側と南側の溝で異なるが、それぞれ単層である。

**主体部:** 北側の溝の西側に5127号土坑が位置するが、本遺構が円形周溝墓であるとしても、周溝内で北に寄りすぎており、主体部とは考え難く、検出されていないと考えられる。

**遺物:** 出土していない。

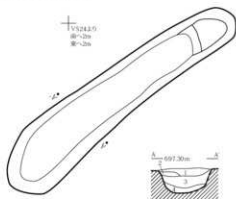
**時期:** 周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

## 503号溝跡 (SD503) [第103図]

**位置:** 5-③区、V S 24 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北東から南西に延びる直線的な溝で、北東側先端近くに底より一段浅くなるテラスを持つ。 **規模:** 長さ3.7m、幅53～80cm、検出面からの深さ10～28cmである。 **方向:** N-53°-E **遺構の重複:** 503号住居跡を切る。 **堆積状況:** 4層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**主体部:** 検出されていない。

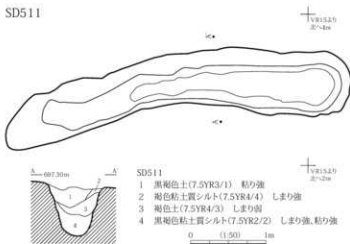
SD503



SD503

- 1 0.5～3cmの軽石をやや多量に含む黒色土(10YR2/1) 粘り強
- 2 2cmほどの軽石、5cmほどの黒褐色土をやや多量に含むに赤褐色土(5YR5/4) 粘り強
- 3 0.5cmほどの軽石をやや多量、炭化物を少量含む黒褐色土(10YR2/3) 粘り弱
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 粘り弱

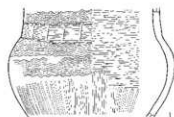
SD511



SD511

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘り強
- 2 褐色粘土質シルト(7.5YR4/4) しまり強
- 3 褐色土(7.5YR4/3) しまり弱
- 4 黒褐色粘土質シルト(7.5YR2/2) しまり強、粘り強

0 (1.50) 1m



0 (1.4) 10cm

第103図 503・511号溝跡 遺構図・遺物図

**遺物:** 弥生土器が140gと出土しているが(第240表)、いずれも小片のため図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 調査時には単独の溝として調査したが、本溝跡の南方と東方が調査区外のため、本溝に連なる溝が調査区外にあって、方形周溝墓の一部である可能性がある。

#### 511号溝跡(SD511) [第103図 P L 11]

**位置:** 5-②区、V R 9・10 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 519号方形周溝墓の北側を519号方形周溝墓に沿うように東西に走るわずかに弧状に曲がる。 **規模:** 長さ4.5m、幅0.6~0.8m、検出面からの深さ7~74cmである。 **方向:** W-7°-S **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 4層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**遺物:** 弥生土器が586g出土している(第240表)。寛(1)以外小片のため図示できなかった。

**時期:** 出土遺物と、519号方形周溝墓と土層が類似し同時期と考えられることから弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 509・510・519号方形周溝墓からなる方形周溝墓の北側の溝が二重になっていて、本溝がその一部をなしていた可能性もある。

第106表 511号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	胴高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器	—	—	底高11.7	166	—	下平縁ミガキ、上平縁楕円状文	上平縁ミガキ、下平縁ミガキ	—	普通	暗褐色	1mm以下の磁砂や砂多	5%	

### 3. 土坑墓

#### 5063号土坑(SK5063) [第104図]

**位置:** 5-③区、V S 12 **検出:** IV層上面で黒色土が落ち込んでいることにより検出された。 **形状:** 隅丸長方形で長軸の両端がやや丸みを帯びる。壁は急で、底は凹凸がある。 **規模:** 長さ183cm、幅96cm、検出面からの深さは22cmである。 **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 2層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**遺物:** 出土していない。

**時期:** 周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** ほぼ等身長の平面形状から土坑墓と認定したため、土壌サンプルを採り、そのうちの5箇所(断面図A~E)についてリン・カルシウム分析を行った。いずれのサンプルもリンの含有量が1%未満で、リンの含有量が明らかに高いものはなく、分析値からは墓であるとの確証は得られなかった(第6章)。

#### 5067号土坑(SK5067) [第104図 P L 11・39]

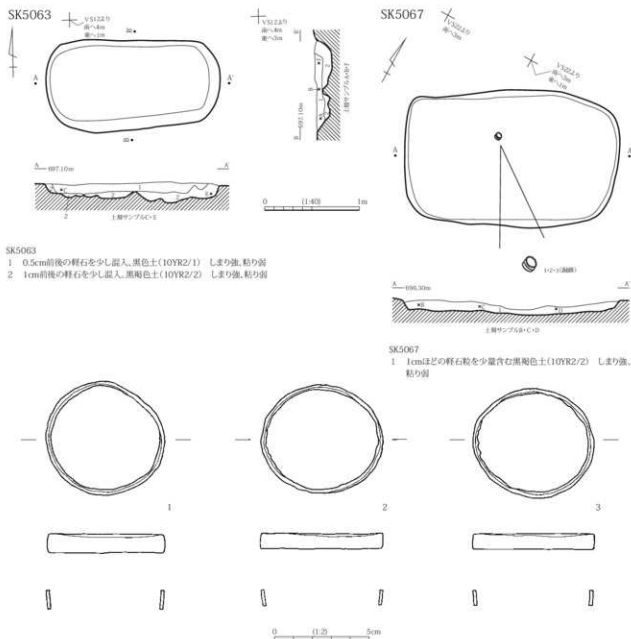
**位置:** 5-③区、V S 22 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** やや隅丸の長方形である。 **規模:** 長さ228cm、幅146cm、検出面からの深さ10cmである。 **遺構の重複:** 506号住居跡を切る。 **堆積状況:** 単層である。

**遺物:** 土坑中央よりやや西側の底面付近で3連の銅鋼(1~3)が出土している。銅鋼は、上から1~3の順で重なって出土し、中心部には腕と思われる骨の細片が残っていた。銅鋼は、保存処理後で長径が

62.5～64.0mm とほぼ同大の円形に近い楕円形であるが、厚さは6.2～10.1mmと異なり、保存処理後の重さは13～20gと若干のばらつきがある。表面の剥落とブロンズ病による内部の粉状化が著しく細部は不明であるが（第240表）、環にした時の接合跡が僅かな窪みとして残っている。そのほかに、弥生土器が182g出土しているが、いずれも小片で図示できなかった。

**時期：**出土遺物と周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか：**等身大よりやや大きめの平面形状と銅剣の出土から墓である可能性が高いため、土壌サンプルを採り、そのうちの3箇所（断面図B～D）のものについてリン・カルシウム分析を行った。その結果、C地点のサンプルでリン・カルシウムが明らかに多く、骨・歯に由来する可能性が高いことが明らかとなった（第6章）。



第104図 5063・5067号土坑 遺構図・遺物図

第107表 5067号土坑出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	
1	底面	銅鏡	6.27 × 5.92	1.05	21.0	6.25 × 5.91	1.01	20.4	ほぼ完全に遺存。全体が土・緑錆に覆われ、脆弱
2	底面	銅鏡	6.41 × 5.74	0.68	15.6	6.4 × 5.73	0.66	14.5	ほぼ完全に遺存。全体が土・緑錆に覆われ、脆弱
3	底面	銅鏡	6.4 × 5.78	0.7	14.6	6.37 × 5.73	0.62	12.8	ほぼ完全に遺存。全体が土・緑錆に覆われ、脆弱

## 5079号土坑 (SK5079) [第105図 P L 12・36・37]

位置：5-③区、V R 14・15 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：楕円形で、長軸の左右にテラスを持ち、そこから1段落ちた底面は隅丸長方形でやや凹凸がある。規模：現状で長さ183cm、幅139cm、検出面からの深さ20cmである。遺構の重複：510号方形周溝墓に切られる。堆積状況：7層に分かれ、レンズ状の堆積である。

遺物：埋土から、弥生土器が約7.6kgのほか、編物状の植物繊維や桃核、細骨片が出土している(第240・244表)。編物状の植物繊維は、幅2mm前後の薄い植物繊維が約15cm × 9cmの範囲に密集するもので、土ごと固めて取り上げたが、削り出すことはできなかった。出土土器には、高杯(1)、甌(2)、甕(3・4)、台付甕(5)、無頸壺(6)、片口鉢(7)などがあり、器種が豊富である。これらの土器は土坑底面の10～20cm上から出土しており、周囲から落ち込んだことも考えられる。9は磨製石鐮の未成品と思われる。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

所見ほか：等身大の形状などから墓である可能性が高いと思われたために、埋土の土壌サンプルを採り、そのうちの6箇所のもの(断面図のF・H・I・N・R地点と高杯(1)内)のサンプルのリン・カルシウム分析を行った。その結果、高杯(1)内の土壌サンプルからリン・カルシウムともに明らかに高い箇所が検出されたほか、埋土内のサンプルにもリンが1%を超えるものが複数あり、骨、歯に由来する可能性があることが、明らかとなった(第243表)。

第108表 5079号土坑出土土器観察表

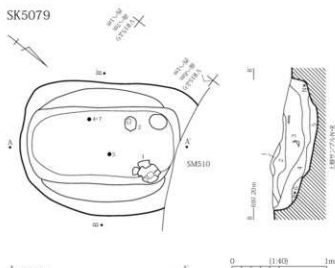
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	弥生土器高杯	27.0	—	現高10.3	490	—	縦横のミガキ後赤彩	縦横のミガキ後赤彩	—	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂少量	30%	
2	床面	弥生土器甌	—	5.5	現高9.3	326	へう削り	縦へう削り	横ナデ一部巻き上り痕残る	ナデ	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂少量	30%	底面に6～8mmの内訳又は楕円形の4箇の小孔
3	埋土	弥生土器甕	12.1	—	現高8.7	214	—	下半へう削り、上半縹緋波状文	横ミガキ	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂やや多	40%	
4	床面	弥生土器甕	17.8	—	現高15.6	442	—	下半へう削り、上半縹緋波状文	横ミガキ	—	普通	淡灰褐色	2mm以下の細砂やや多	80%	
5	床面	弥生土器台付甕	—	脚径8.7	現高6.7	104	脚部内面横ナデ一部横ハケ	縦へう削り	—	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%未残	
6	埋土	弥生土器無頸甕	(14.0)	—	現高6.3	51	—	横ミガキ後赤彩	縦横のミガキ赤	—	普通	灰褐色	1mm以下の細砂やや多	10%	口縁に2箇1対の小孔
7	床面	弥生土器片口鉢	12.0	—	現高12.6	910	—	下半へう削り、上半彫ハケ目	横ハケ目	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	70%	片口部分大部分欠われ形状不明
8	埋土	弥生土器甕	—	5.7 × 2.2	—	12	—	縹緋波状文	横ナデ縦横のミガキ赤	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%未残	拓本

第109表 5079号土坑出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
9	埋土	石鐮未成品	80%	3.4	1.4	0.4	2.2	凝灰質泥岩	

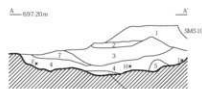


SK5079

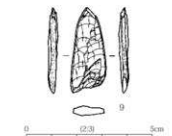
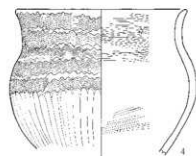
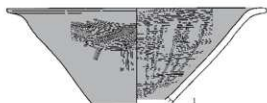


SK5079

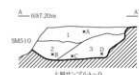
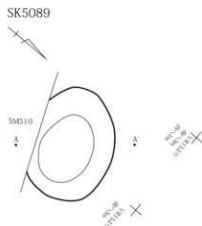
- 1 軽石粒、炭化物、焼酎を微量含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 2 軽石粒、焼酎を微量に、炭化物、焼土をやや多量に含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 3 軽石粒、焼酎を微量、炭化物をやや多量に含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 4 軽石粒を少量、炭化物を微量含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 5 軽石粒をやや多量に含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱
- 6 軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり中、粘り弱
- 7 軽石粒を微量、炭化物少量含む黒色土(10YR2/1) しまり中、粘り弱



0 1.40 1m



SK5089



SK5089

- 1 0.5~5cmの軽石粒を少量含む炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱
- 2 0.5cmほどの軽石粒、炭化物を微量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱
- 3 0.5cmほどの軽石粒、炭化物を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱

0 1.00 1m

第105図 5079・5089号土坑 遺構図・遺物図

## 5089号土坑 (SK5089) [第105図]

**位置:** 5-③区、V R 14・15 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 平面は楕円形で、壁は緩やかに立ち上がり、底面は平らである。 **規模:** 長さ120cm、幅90cm、検出面からの深さは34cmである。 **遺構の重複:** 510号方形周溝墓に切られる。 **堆積状況:** 3層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**遺物:** 埋土から、弥生土器が253g出土しているが、いずれも小片のため図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 形状などから墓である可能性が考えられたために、埋土の土壌サンプルを採り、そのうちの4箇所のもの(断面図のA～D地点)のサンプルのリン・カルシウム分析を行った。そのうちのD地点のサンプルにリン・カルシウム共に明らかに高い箇所が検出され、骨、歯に由来する可能性があることが明らかとなった。

## 4. 土器棺墓

## 3号土器棺墓 (SQ03) [第106図 P L 12・34・39]

**位置:** 2-④区、IV A 7 **検出:** III層黒色土中から土器がまとまって出土したことにより検出された。

**形状:** 南端が削平されて全形は不明であるが、残存部から卵形と思われる掘り方の中に大型の壺(2)が横位に据えられ、その上に別個体の壺(1)が乗っていた。 **規模:** 掘り方の長径は現状で78cm、幅66cm、検出面からの深さは24～28cmである。 **遺構の重複:** なし **堆積状況:** 黒褐色土が主体の3層に分かれる。

**遺物:** 埋土から、弥生土器ほか4.5kgと出土し(第240表)、そのほとんどが、図示した壺(1・2)と、その同一個体と見られる破片である。壺(1)はやや丸底気味で胴部が細身、壺(2)は頸部を沈線区画して、ヘラ描きの矢羽根状沈線を施す。そのほか、壺(2)の中からは碧玉製の管玉6個と、ガラス小玉23個のほか乳歯?2本が出土している(第244表)。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 2・3区で唯一の墓であることが確実と思われる遺構である。

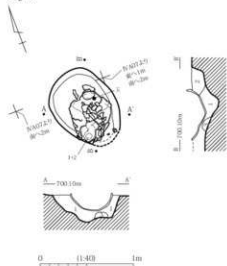
第110表 3号土器棺墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	包合層	弥生土器壺	—	11.0	器高 15.0	585	ナデ	下平腹三角半後赤彩、上平腹三角半後赤彩	横ナデ後一部横ハナ、縦へのナデ	ナデ後一部ハナ、ヘラナデ	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒、炭化物や多	10%	
2	包合層	弥生土器壺	—	11.4	器高 47.5	2950	ヘラ削り	下平腹三角半、中へ一部横三角半後赤彩	横ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒や多	40%	

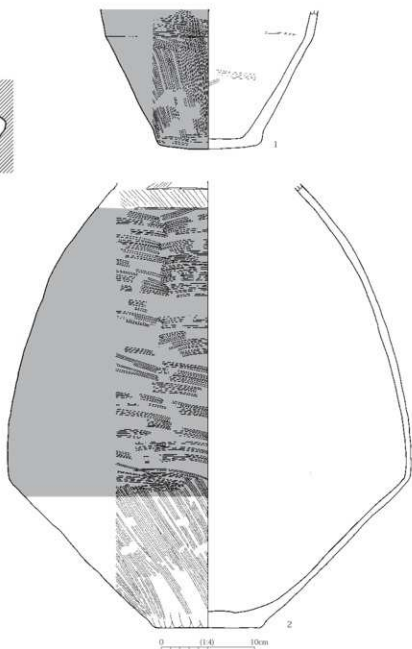
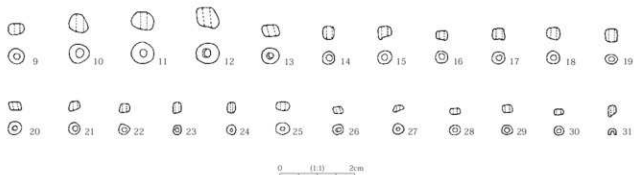
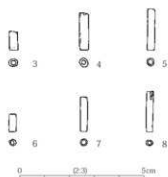
第111表 3号土器棺墓出土玉類観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材・材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
3	No 1 土器内	管玉	100%	0.8	0.4	0.4	0.15	碧玉	
4	No 1 土器内	管玉	100%	1.5	0.4	0.4	0.38	碧玉	
5	No 1 土器内	管玉	100%	1.7	0.3	0.3	0.29	碧玉	
6	No 1 土器内	管玉	100%	0.7	0.3	0.3	0.09	碧玉	
7	No 1 土器内	管玉	100%	1.4	0.3	0.3	0.19	碧玉	
8	No 1 土器内	管玉	100%	1.7	0.3	0.3	0.18	碧玉	
9	No 1 土器内	ガラス小玉	100%	0.5	0.5	0.3	0.07	ガラス	青色
10	No 1 土器内	ガラス小玉	100%	0.6	0.5	0.5	0.23	ガラス	紺色
11	No 1 土器内	ガラス小玉	100%	0.6	0.6	0.5	0.23	ガラス	濃紺色
12	No 1 土器内	ガラス小玉	100%	0.7	0.6	0.5	0.23	ガラス	紺色
13	No 1 土器内	ガラス小玉	100%	0.5	0.5	0.3	0.07	ガラス	紺色
14	No 1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.3	0.06	ガラス	紺色

SQ03



- 1 0.5～1 cmほどの軽石・ブロックを少量含む黒褐色土(10YR3/2) 粘性弱、しまり弱
- 2 1層に類似黒褐色土(10YR2/2) 粘性弱、しまり弱
- 3 地山の黒褐色土に近いブロック層に深い黄褐色土～黄褐色土(10YR5/4～5/6)



第106図 3号土器棺墓 遺構図・遺物図

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法器 (cm)			重量 (g)	石材・材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
15	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.4	0.06	ガラス	紺色
16	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.3	0.04	ガラス	紺色
17	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.3	0.05	ガラス	紺色
18	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.4	0.03	ガラス	紺色
19	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.3	0.4	0.04	ガラス	紺色
20	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.2	0.04	ガラス	紺色
21	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.3	0.03	ガラス	紺色
22	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.3	0.3	0.04	ガラス	濃紺色
23	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.3	0.03	ガラス	紺色
24	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.3	0.02	ガラス	紺色
25	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.4	0.4	0.2	0.03	ガラス	紺色
26	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.2	0.02	ガラス	紺色
27	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.2	0.02	ガラス	紺色
28	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.2	0.02	ガラス	紺色
29	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.2	0.01	ガラス	青色
30	No.1 土器内	ガラス小玉	100%	0.3	0.3	0.2	0.02	ガラス	紺色
31	No.1 土器内	ガラス小玉	60%	0.3	0.2	0.3	0.02	ガラス	青色

## 501号土器棺墓 (SQ501) [第107図 P L 12・34・39]

位置：5-③区、V S 16 検出：Ⅲ層黒色土中から土器がまとまって出土したことにより検出された。

形状：地山と埋土の土質の差がわずかで掘り方の全形は不明瞭であるが、円形と推定される掘り方の中に大型の壺2個(1・2)が横位に据えられていた。規模：掘り方の推定直径は53cm、検出面からの深さは23cmである。遺構の重複：なし 堆積状況：土器の上下で2層に分かれるが、地山のⅢ層と区別がつきにくい。

遺物：埋土から、弥生土器ほかが7.7kg出土し(第240表)、そのほとんどが、図示した壺(1・2)と、その同一個体と見られる破片である。壺(1)は胴部最大径を中位に持ち、頸部にT字文を施し、胴上半部を赤彩する。底面には意図的と思われる孔があげられている。壺(2)は、胴部最大径を下半に持ち、頸部にT字文を施すが、胴部の赤彩の有無は磨滅して不明である。壺(1)内からヒスイ硬玉製の半球形勾玉とガラス小玉各1個が出土している。

時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第112表 501号土器棺墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	粘土	現存率	備考
1	包含層	弥生土器 壺	—	11.8	底高 46.5	2653	ナデ	下部腹、中～上部腹ミナリ、上半赤彩	ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	50%	底部穿孔
2	包含層	弥生土器 壺	—	—	底高 36.0	1415	—	横ハケ後腹ミナリ、赤彩、磨滅	横ハケ後赤彩、磨滅	—	普通	淡褐色	細砂少量	20%	

第113表 501号土器棺墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法器 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
3	包含層	小玉	100%	0.4	0.4	0.3	0.05	ガラス	
4	包含層	勾玉	100%	1.9	1.3	0.8	3.4	ヒスイ	比重 3.31

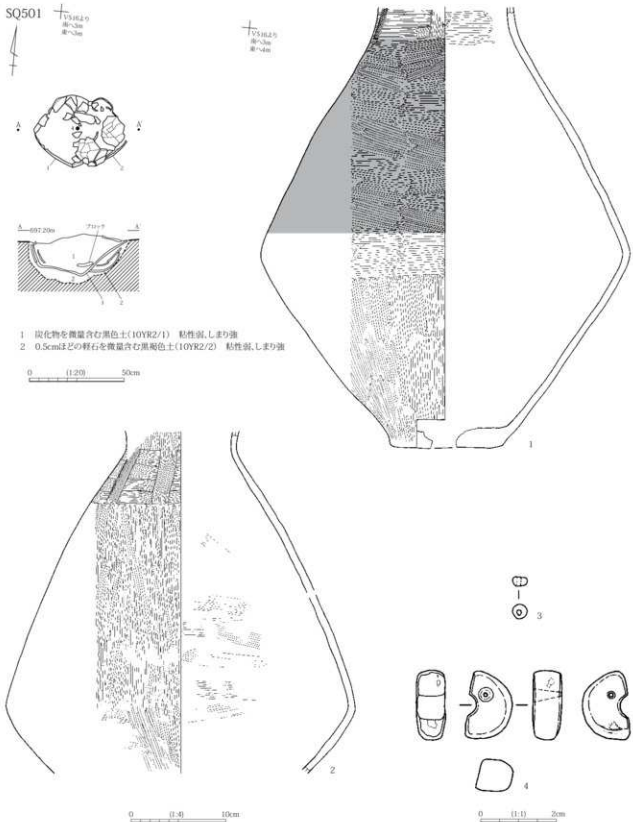
## 502号土器棺墓 (SQ502) [第108図 P L 12・35]

位置：5-③区、V S 11 検出：Ⅲ層黒色土中から土器がまとまって出土したことにより検出された。

形状：地山と埋土の土質の差がわずかで掘り方の全形は不明瞭であるが、円形と推定される掘り方の中に大型の壺(1)が横位に据えられていた。規模：掘り方の推定直径は55cm、検出面からの深さは30cmである。遺構の重複：なし 堆積状況：土器の上下で2層に分かれるが、地山のⅢ層とほとんど区別がつかない。

**遺物：**埋土から、弥生土器が6.1kg出土し（第240表）、そのほとんどが、図示した壺（1）と、その同一個体と見られる破片である。壺（1）は頸部にT字文を施し、胴上半部を赤彩する。

**時期：**出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

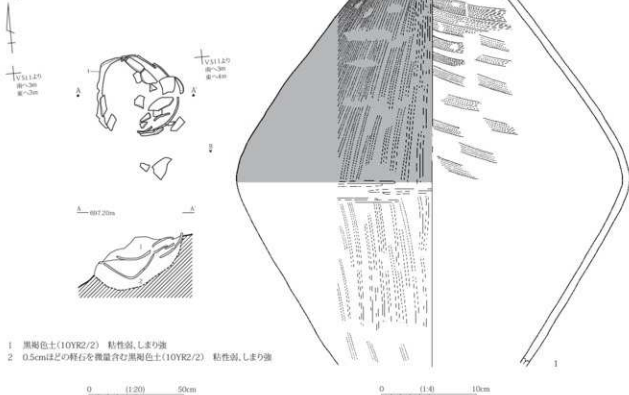


第107図 501号土器棺墓 遺構図・遺物図

第114表 502号土器棺墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	包合層	弥生土器壺	—	—	器高 40.4	3462	—	下平、上半縦ミガキ、中部横ミガキ、中～上部赤彩	下半横ミガキ、上半横ハケ、刻線多	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒や中多	30%	

SQ502



- 1 黒褐色土(10YR2/2) 粘性弱、しまり強  
 2 0.5cmほどの軽石を微量含む黒褐色土(10YR2/2) 粘性弱、しまり強

第108図 502号土器棺墓 遺構図・遺物図

## 503号土器棺墓 (SQ503) [第109図 P L 12・35]

位置：5-③区、VR 15 検出：510号方形周溝墓の周溝内より土器がまとまって出土したことにより検出された。形状：周溝と土器棺墓掘り方の埋土の差がわずかで、掘り方があったかどうかははっきりしないが、大型の壺(2)と甕(1)が口を合わせて、横位に据えられていた。規模：掘り方は不明。遺構の重複：なし 堆積状況：土器の上下で分かれる、さらに土器下部の土層が、511号方形周溝墓の周溝埋土とほとんど区別がつかない。

遺物：埋土から、弥生土器が9.2kg出土し(第240表)、そのほとんどが、図示した甕(1)壺(2・3)と、その同一個体と見られる破片である。甕(1)は胴部に柳描羽状沈線文、頸部以上に柳描波状文が施される。時期：出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

第115表 503号土器棺墓出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	包合層	弥生土器壺	22.4	8.1	37.7	3210	へう附り	下縁へう附り、下部縦へう附り、中部柳描羽状文	横ミガキ	ミガキ	普通	暗褐色	1mm以下の砂粒や中多	90%	
2	包合層	弥生土器壺	(23.7)	—	器高 10.4 + 35.0	3817	—	下部縦ミガキ、中～上部縦横のミガキ後赤彩	横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の砂少量	80%	
3	包合層	弥生土器壺	—	7.6	器高 25.0	1660	ナデ	縦横付足 横ミガキ後赤彩	横ハケ目	ハケ目	普通	淡赤褐色	2mm以下の砂粒や中多	70%	

SQ503

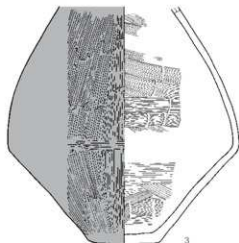
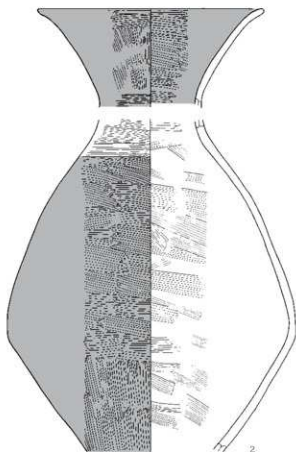
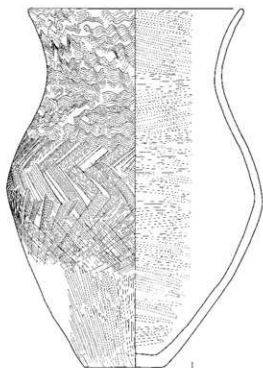


A—60700m



- 1 0.5cmほどの軽石を微量、炭化物を少量含む黒褐色土(10YR2/2)  
粘性弱、しまり強
- 2 0.5cmほどの軽石を少量、炭化物を微量含む黒色土(10YR2/1)  
粘性弱、しまり強
- 3 2cmほどの軽石をやや多量、炭化物を微量含む黒色土(10YR2/1)  
粘性弱、しまり強

0 1:200 50cm



0 1:40 10cm

第109図 503号土器棺墓 遺構図・遺物図

## 5. 土坑

## 46号土坑 (SK46) [第110図 P L 12]

**位置:** 2-①区、II P 04 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 平面楕円形で、壁は緩やかに立ち上がり、底は丸い。**規模:** 長径44cm、短径38cm、検出面からの深さ14cmである。**遺構の重複:** なし **堆積状況:** 黒色土の単層である。

**遺物:** 埋土から、弥生土器が288g出土した(第240表)。そのうち、小型の甕2点(1・2)の胴下半部を图示した。

**時期:** 出土遺物と周囲の遺構から、弥生時代後期と思われる。

第116表 46号土坑出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 甕	—	5.2	底高 4.6	80	へう割り	下半部はいぼへう割り	ミガキ	押さえ	普通	暗褐色	精良	5%	未図
2	埋土	弥生土器 甕	—	5.2	底高 4.5	125	へう割り	総へう割り 底上部ハケ目	ナデ後一部 ハケ目	ナデ後一部 ハケ目	普通	灰褐色	細砂や中多	5%	

## 100号土坑 (SK100) [第110図]

**位置:** 2-②区、II P 13 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 南側がカクランに壊されて全形は不明であるが、残存部分から平面形は円形または楕円形で、壁は緩やかで底は平らである。

**規模:** 直径56cm、検出面からの深さ11cmである。**遺構の重複:** なし **堆積状況:** 黒色土の単層である。

**遺物:** 底部付近から壺(1)の胴下半部が正位で出土したほか、弥生土器が1.9kg出土した(第240表)。

壺(1)の上半は圃場整備によって削り取られたものと思われる。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 本土坑は11cmと浅いが、2-②区は住居跡が浅いうえに分布密度が低く、圃場整備で厚く削平されたと考えられることから、床面が削平された住居に伴う貯蔵穴等が削られて残ったものと考えられる。

第117表 100号土坑出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 壺	—	10.4	底高 14.2	900	へう割り	下端へう割り、横・下部端ミガキ半後赤彩	表面割離	表面割離	普通	淡褐色	1mm以下の細砂や中多	10%	内面一部巻き上げ破損

## 156号土坑 (SK156) [第110図]

**位置:** 2-②区、II P 19 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** ややいびつな楕円形で、壁は緩やかで、底は平らである。**規模:** 長径58cm、短径48cm、検出面からの深さ15cmである。

**遺構の重複:** なし **堆積状況:** 黒色土の単層である。

**遺物:** 底部付近から壺(1)の胴下半部が正位で出土したほか、弥生土器が1.3kg出土した(第240表)。

壺(1)の上半は圃場整備によって削り取られたものと思われる。

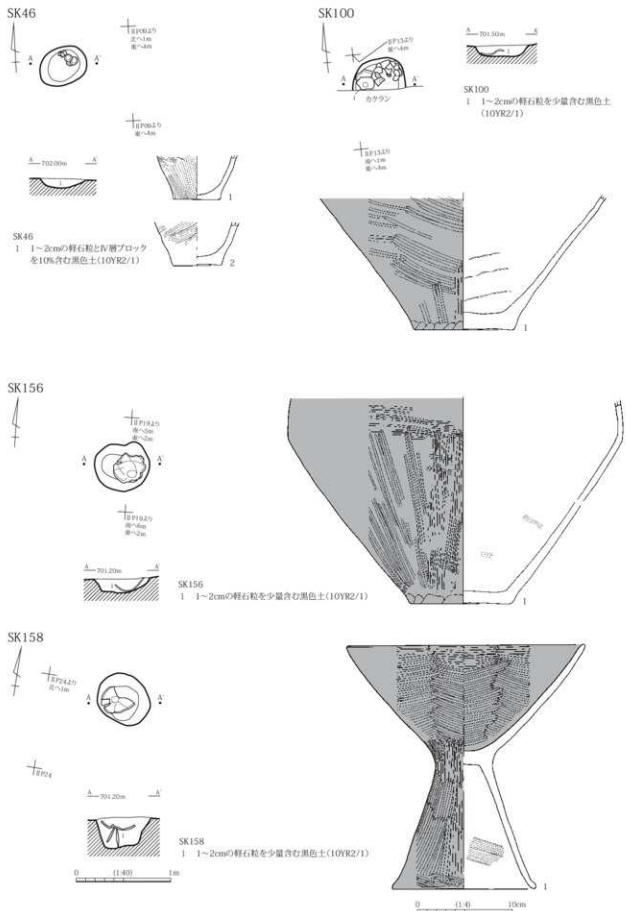
**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 100号土坑と同様に本土坑も15cmと浅いが、圃場整備で厚く削平されたと考えられ2-②区にあることから、床面が削平された住居跡の貯蔵穴等が削られ残ったものと考えられる。

第118表 156号土坑出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器 壺	—	10.8	底高 21.7	1145	へう割り	下端へう割り、下半部上半横ミガキ半後赤彩	表面割離	表面割離	普通	淡黄褐色	1mm以下の細砂少量	10%	





第110図 46・100・156・158号土坑 遺構図・遺物図

## 158号土坑 (SK158) [第110図 PL36]

**位置:** 2-②区、II P 19 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 平面楕円形で、壁はやや急、底は平らである。 **規模:** 長径59cm、短径49cm、検出面からの深さ28cmである。 **遺構の重複:** なし。 **堆積状況:** 黒色土の単層である。

**遺物:** 高杯(1)が正位で埋納されていたほか弥生土器1.2kg出土している(第240表)。口縁の一部が欠けており、完形で埋納されたものが圃場整備による削平で、削り取られたものと思われる。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 本土坑は28cmと比較的深いが、100・156号土坑と同様に圃場整備で厚く削平されたと考えられ2-②区にあることから、床面が削平された住居跡の貯蔵穴等が削られ残ったものと考えられる。

第119表 158号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器高杯	24.7	脚径15.0	25.8	1235	脚部内面横ナデ一部ハケ	杯部横のミガキ後赤彩、脚部縦ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	杯部内面ミガキ後赤彩	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	80%	

## 5001号土坑 (SK5001) [第111図 PL12]

**位置:** 5-⑤区、V X 23 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 平面楕円形で、壁は急な所と緩やかなところがあり、底はほぼ平らである。 **規模:** 長径147cm、短径113cm、検出面からの深さ24cmである。 **遺構の重複:** なし。 **堆積状況:** 大部分黒色土であるが、底面の窪みの部分に灰黄褐色土が見られる。

**遺物:** 図示した鉢(1)を含めて、弥生土器268gが出土しているが(第240表)、いずれも小片である。

**時期:** 出土遺物から、弥生時代後期と思われる。

**所見ほか:** 本土坑の性格は不明である。

第120表 5001号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器鉢	(11.4)	—	現高3.2	13	—	縦ミガキ	縦横のみミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	

## 5004号土坑 (SK5004) [第111図 PL12]

**位置:** 5-⑤区、VI D 4 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北西—南東に細長い長円形で、壁は緩く、底は丸い。 **規模:** 長さ303cm、幅170cm、検出面からの深さ65cmである。 **遺構の重複:** なし。 **堆積状況:** 大部分黒色土で、壁際のみ灰黄褐色土となる。

**遺物:** 埋土より黒曜石の剥片(1)が出土しているが、そのほかの遺物は出土していない。

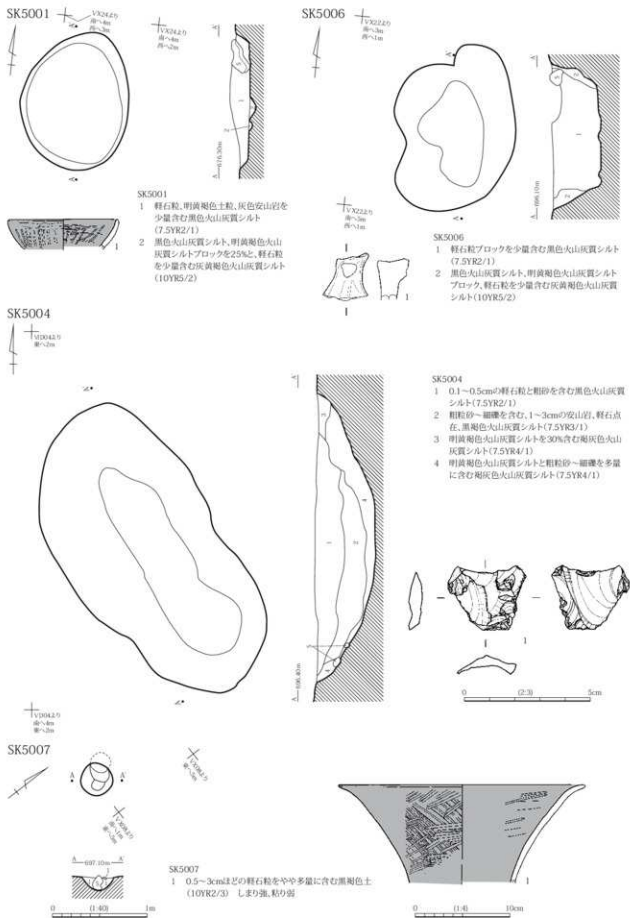
**時期:** 時期は不明である。

第121表 5004号土坑出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
1	埋土	剥片	100%	3.2	2.6	0.8	3.9	黒曜石	

## 5006号土坑 (SK5006) [第111図]

**位置:** 5-⑤区、V X 21・22 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 楕円形の一部が突出した不整形で、壁は急、底は小さな凹凸はあるもののほぼ平らである。 **規模:** 長径184cm、短



第111図 5001・5004・5006・5007号土坑 遺構図・遺物図

径152cm、検出面からの深さ60cmである。遺構の重複：なし 堆積状況：黒褐色土の2層である。

遺物：埋土より縄文土器深鉢の波状口縁の突起部（1）が出土しているほか縄文土器52gが出土している。

時期：出土遺物からは縄文時代の可能性もあるが、本遺跡で縄文時代の明確な遺構は検出されておらず、時期は不明である。

第122表 5006号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	縄文土器深鉢	5.1	4.7	3.3	52	—	縄文ハケ削り	—	—	普通	灰褐色	細砂少量	5%未満	

## 5007号土坑 (SK5007) [第111図 PL12]

位置：5-④区、V X 8 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：平面形は円形で、南東壁にテラスを持ち、北西壁はオーバーハングして、北西に向かって斜めに下がる。規模：直径34cm、検出面からの深さ18cmである。遺構の重複：なし 堆積状況：黒黄褐色土の単層である。

遺物：埋土中より弥生土器壺の口縁小片ほか弥生土器138gとシカの白歯片が出土している（第240・244表）。

時期：出土遺物から弥生時代後期と思われる。

所見ほか：圃場整備による段切りの直下で周囲に遺構はなく、遺構が削平されている可能性の高い5-④区北部にあり、削平された住居跡の柱穴等が削られ残ったものの可能性がある。

第123表 5007号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器壺	(25.5)	—	現高10.5	138	—	縄一筋めハケ調整後まばらな赤彩若干、赤彩	縄ハケ後横ハケ後、赤彩	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂少量	5%未満	

## 6. 遺構外出土遺物 [第112～115図 PL36・38・39]

圃場整備で多くの遺構が削平されていることから、多量の遺物が遺構外から出土している。本項では、そのうちで弥生時代に属すると思われるものを集めた。打製石斧や石鏃などの石器の中には、縄文時代に属すると思われるものもあるが、時期が確定できないため、ここに掲載した。一方、縄文時代に属することが明らかな縄文土器については、本章第3節 その他の遺構と遺物に掲載した。

土製円板（1）は、赤彩の壺破片の周囲を磨いて丸くしたものである。同様に壺破片の再利用品である土錘（14）のような扱いは見られない。鉢（16）は口唇の一箇所が摘まれて、豆粒状に隆起する。赤彩の蓋（17）は、鈕部に両側から穿孔がされているが、中央で孔が合わず貫通していない。瓶（18・38～40）はいずれも底部が一穴である。甕（20）は、口縁部に縄文に櫛描波状文が施された後、半截竹管によると思われる波状文が口縁部は横、胴部は縦に入れられる。甕（21・23）は口唇端部に縄文が押圧される。甕（25・43）は、口縁部、胴部ともに櫛描も羽状沈線のみが施され、甕（44）は口縁部に櫛描波状文、胴部に縦の櫛描羽状文が施されるが、櫛描波状文、櫛描羽状文とも短く途切れがちである。甕（41）は口縁部が折り返される。壺（54）はT字文の櫛描横走沈線が5段以上あるが、壺（55）は残存部で1段しか見られない。壺（56）は櫛描羽状文が施される頸部と赤彩の胴部の間を2状の沈線で区画する。

ヒスイ硬玉製の勾玉（62）は、遺構外ではあるが、507号円形周溝墓の周溝南東部の外側20cmの所から出土しており、この円形周溝墓との関係も考えられる。長さ5.5cm、幅3.0cm、厚さ2.2cm、重さ60.6gとヒスイ製の勾玉としては日本でも有数の大きさである。灰色の中に暗灰色の部分が縞状に混じり、やや暗めの色である。頭部が大きくて尾部が小さく、やや角張ってはいるが丸い頭部から胴部へはくびれがな

く滑らかにつながり、尾部に向かって徐々に細くなる。断面径は側面が僅かに平らであるが、楕円形である。よく磨かれて擦痕は見られず、特に頭部から腹部にかけては、光沢がある。頭部に円孔が頭部に向かって左側から右側に向かってあけられており、開孔部は直径5mmの円形、終孔部は右側で5×4mmの楕円形で内部は直径2.5mm程度の円形である。

石器には石鏃(63・64)、砥石(65・66・72)磨製石斧(67)、敲き石(70・80)、打製石斧(68・69・71・74～76・78・79)などがあるが、刃部のみ、基部のみ破片など、破損を受けたものが多い。

第124表 遺構外出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	胴高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	粘土	現存率	備考
1	1区	土製円筒	4.5×5.0		—	25	—	表面ミガキ後赤彩	裏面ハケ目	—	良好	淡茶褐色	細砂少量	100%	
2	2-①区	赤生土器鉢	19.7	—	現高6.4	295	—	縦横のミガキ後赤彩	縦横のミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	60%	
3	2-①区	赤生土器鉢	—	4.5	現高5.8	157	ヘラ削り	赤彩後磨滅	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	60%	
4	2-①区	赤生土器鉢	15.8	—	現高12.3	350	—	縦横波状文	横ミガキ	—	普通	暗褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
5	3-②区	赤生土器鉢	2.6×2.6		—	5	—	縦横波状文	横ナデ後ミガキ	—	普通	黒褐色	細砂やや多	5%未満	拓本
6	3-②区	赤生土器鉢	4.6×3.9		—	10	—	拍摩横波状文に内々区画が交わる口部ヘラ削り	横ナデ	—	良好	赤褐色	細砂少量	5%未満	拓本
7	3-③区	赤生土器鉢	6.9×6.1		—	32	—	縦横波状文	横ナデ後横ミガキ	—	普通	淡赤褐色	細砂やや多	5%未満	拓本
8	3-③区	赤生土器鉢	10.3×6.8		—	60	—	縦横波状文	横ナデ後横ミガキ	—	普通	黒褐色	1mm以下の細砂少量	5%未満	拓本
9	3-②区	赤生土器鉢	9.7×8.3		—	75	—	横ミガキ後赤彩	横ナデ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%未満	
10	3-③区	赤生土器鉢	—	7.7	19.2	680	ヘラ削り	下平ヘラ削り、上下縁部波状文	横ハケ後横ミガキ	ハケ後ミガキ	良好	淡褐色	細砂少量	30%	
11	3-②区	赤生土器鉢	(20高)	—	現高27.6	910	—	下平縦ミガキ、上下縁部波状文	横ミガキ	—	良好	淡褐色	細砂少量	20%	
12	3-②区	赤生土器鉢	—	—	現高10.2	95	—	横ミガキ後赤彩	剥落	—	普通	暗褐色	1mm以下の細砂やや多	5%未満	
13	3-①区	赤生土器鉢	—	12.4	現高13.2	750	ヘラ削り	縦ヘラ削り後横ミガキ	横ミガキ	ナデ	普通	淡い褐色	細砂少量	5%未満	
14	3-③区	土製	6.8×5.5		—	40	—	ナデ、赤彩	ハケ目	—	普通	明赤褐色	細砂少量	95%	
15	5-②区	赤生土器鉢	(18.2)	—	現高9.3	140	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	20%	
16	5-③区	赤生土器鉢	(18.8)	—	現高4.7	31	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	口部の1箇所楕円形のボタン状に陥起する
17	5-③区	赤生土器鉢	—	鉦径4.0	現高3.3	83	天井部内面	縦ヘラ削り後赤彩	横ミガキ、赤彩	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂多	5%未満	頂部近く2mmの穴が高側から空けられている
18	5-③区	赤生土器鉢	—	6.6	現高5.4	163	ヘラ削り	下端ヘラ削り、横ミガキ	横ミガキ	ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	底部に1.6×1.4cmの楕円形の孔
19	5-②区	赤生土器鉢	9.7	—	現高3.8	46	—	縦横波状文	横ミガキ	—	普通	茶褐色	細砂少量	10%	
20	5-②区	赤生土器鉢	(14.9)	—	現高5.9	40	—	縦横波状文、縦の波状平行線	横ナデ後ミガキ	—	普通	褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	
21	5-②区	赤生土器鉢	(17.6)	—	現高9.3	70	—	大きめの縦横波状文	横ハケ	—	普通	暗灰褐色	1mm以下の細砂少量	5%	
22	5-②区	赤生土器鉢	12.5×8.0		—	128	—	縦横波状文	横ナデ後横ミガキ	—	普通	暗褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	拓本
23	5-②区	赤生土器鉢	9.8×4.2		—	15	—	拍摩横波状文	横ハケ	—	普通	赤褐色	細砂やや多	5%未満	拓本
24	5-③区	赤生土器鉢	—	7.8	現高8.7	280	ヘラ削り	下端ヘラ削り後横ミガキ	横ナデ	ナデ	普通	淡灰褐色	細砂少量	5%	

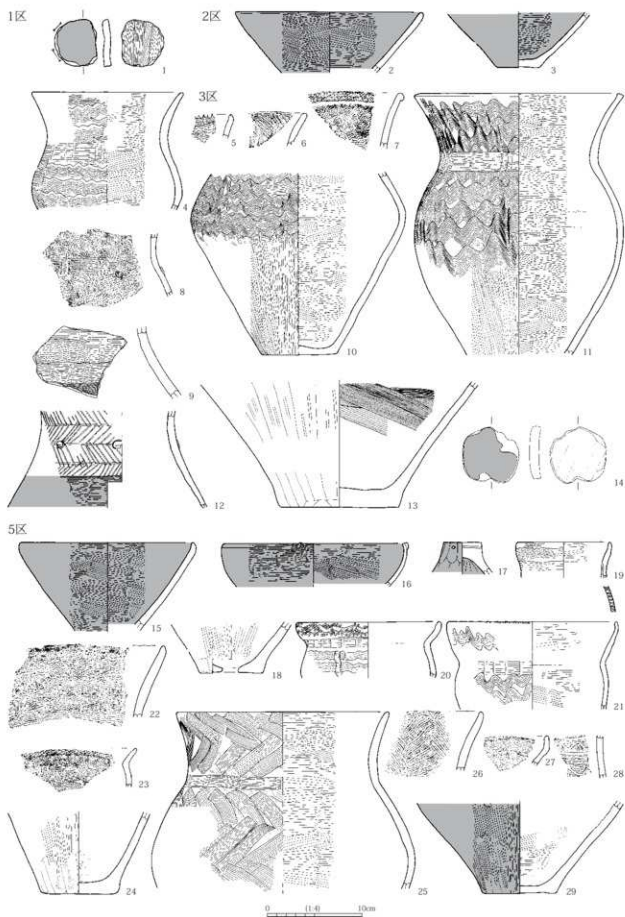
## 第5章 遺構と遺物

図版番号	出土層位・位置	面積	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
25	5-3区	赤生土器	(22.2)	—	現高 18.7	515	—	縹緋羽状文	横ミガキ	—	良好	淡赤灰色	細砂少量	5%	
26	5-2区	赤生土器	—	7.0 × 6.4	—	49	—	縹緋羽状文	横ミガキ	—	良好	淡褐色	細砂少量	5% 未満	拓本
27	5-3区	赤生土器	—	5.3 × 3.3	—	7	—	口縁部横ナデ、口内縹緋波状文	横ナデ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5% 未満	拓本
28	5-3区	赤生土器	—	3.8 × 4.5	—	10	—	横上沈線と縦面状沈線両方平行沈線	横ナデ	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	5% 未満	拓本
29	5-3区	赤生土器	—	7.2	現高 9.7	420	へう割り	下腹のへう割り、縦ミガキ後赤彩	横ハケ後赤彩	ハケ	普通	淡赤灰色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
30	8-1区	赤生土器	—	距径 2.8	現高 3.9	71	—	縦へう割り	へうナデ	距部ナデ押え	普通	淡褐色	細砂少量	30%	
31	8-1区	赤生土器	15.1	距径 2.1	5.6	173	天月部内横ナデ後一部縦ミガキ	横ナデ後、一部横ミガキ	距内面へう割り	—	普通	淡黄褐色	細砂やや多	40%	
32	8-1区	赤生土器	(11.8)	3.3	5.2	73	へう割り	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂少量	20%	
33	8-1区	赤生土器	—	5.5	現高 6.5	290	へう割り	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	普通	淡灰褐色	細砂少量	50%	
34	8-1区	赤生土器高杯	—	距径 9.5	現高 7.5	215	腹部内面横ハケ目	横ミガキ後赤彩	—	杯部内面縦横のミガキ後赤彩	普通	暗灰色	1mm以下の細砂やや多	40%	
35	8-1区	赤生土器高杯	—	—	現高 6.6	185	腹部内面横ハケ目	縦ミガキ後赤彩	横ハケ目	杯部内面縦横のミガキ後赤彩	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	20%	
36	8-2区	赤生土器高杯	—	距径 13.8	現高 9.5	400	腹部内面横ハケ目	縦横のミガキ後赤彩	—	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
37	8-2区	赤生土器	(17.9)	—	現高 10.9	172	—	縹緋波状文	横ミガキ	—	普通	暗灰色	1mm以下の細砂少量	10%	
38	8-2区	赤生土器	—	3.9	現高 3.3	70	へう割り	縦ミガキ	縦ミガキ	ミガキ	普通	淡灰色	細砂少量	10%	底面に1.4cmの円孔1個
39	8-2区	赤生土器	14.0	4.3	8.2	86	へう割り	縦ハケ目	縦ミガキ	ナデ	普通	灰色	1mm以下の細砂少量	30%	底面に1.3cmの円孔1個
40	8-2区	赤生土器	(21.7)	6.5	12.4	550	へう割り	縦へう割り後、上半横ミガキ下半平縦ハケ、下部へう割り	横ハケ後横ミガキ	ハケ後ミガキ	普通	暗灰色	細砂少量	60%	底面に2.3cmの円孔1個
41	8-1区	赤生土器	(19.8)	—	現高 9.9	107	—	縹緋波状文	横ハケ	—	普通	淡灰褐色	1mm以下の細砂少量	5% 未満	
42	8-2区	赤生土器	20.1	6.2	26.3	1118	へう割り	下半横ミガキ上半縦縹緋波状文	横ミガキ	ミガキ	普通	淡褐色	細砂少量	50%	
43	8-1区	赤生土器	(18.3)	—	現高 13.3	225	—	縹緋羽状文、腹部縹緋文	横ミガキ	—	普通	淡黄褐色	細砂少量	10%	
44	8-1区	赤生土器	(20.2)	—	現高 12.5	206	—	縹緋羽状文、腹部縹緋文	横ハケ	—	普通	淡赤褐色	3mm以下の砂粒、植物繊維多	5% 未満	
45	8-1区	赤生土器	(18.7)	—	現高 14.4	210	—	縹緋波状文、腹部縹緋文	横ハケ後横ミガキ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%	
46	8-2区	赤生土器	—	—	現高 25.4	790	—	下半ハケ調整後縦ミガキ、上半縦縹緋波状文	ハケ調整後上半横、下半縦のミガキ	—	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒少量	10%	
47	8-1区	赤生土器	—	14.2 × 10.7	—	129	—	不明な縹緋波状文	横ナデ後横ハケ目	—	普通	淡赤褐色	細砂やや多	5%	拓本
48	8-1区	赤生土器	—	8.3 × 4.8	—	33	—	縹緋波状文	横ナデ	—	普通	黒褐色	細砂少量	5% 未満	拓本
49	8-1区	赤生土器	—	7.1 × 6.1	—	35	—	縹緋羽状文	横ナデ後一部ハケ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5% 未満	拓本
50	8-2区	赤生土器	—	6.2 × 6.5	—	30	—	腹部縹緋文後横上り印線、口縁横ナデ、口内縹緋文後波状印線	横ナデ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5% 未満	拓本
51	8-1区	赤生土器	—	距径 7.1	現高 4.5	95	腹部内面ナデ	縦へう割り後	へうナデ	へうナデ	普通	淡赤褐色	細砂やや多	5%	
52	8-2区	赤生土器台付鉢	—	距径 9.4	現高 8.0	285	腹部内面横ナデ後一部横ハケ	縦へう割り後縦ミガキ	ナデ	—	普通	淡赤灰色	1mm以下の細砂少量	10%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
53	8-2区	赤生土器壺	(19.0)	—	底高 9.9	155	—	横ナデ後縦ハケ目	横ナデ	—	良好	淡灰色	1mm以下の細砂少量	5% 未測	
54	8-2区	赤生土器壺	(20.8)	—	底高 10.8	132	—	縦ハケ後一部横ミガキ赤彩、煎滅	横ハケ後横ナデ、赤彩	—	普通	淡赤灰色	1mm以下の細砂やや多	5% 未測	
55	8-2区	赤生土器壺	22.0	—	底高 10.3	300	—	両端ハケ、ハケ調整後縦ミガキ、赤彩、煎滅	横ミガキ後赤彩、煎滅	—	普通	淡赤灰色	2mm以下の細砂やや多	5% 未測	
56	8-2区	赤生土器壺	—	—	底高 30.0	710	—	下部縦、中へ上部横ミガキ後上部赤彩	煎滅で不明	—	普通	淡赤灰色	1mm以下の細砂やや多	20%	
57	8-2区	赤生土器壺	—	—	底高 9.5	130	—	縦ミガキ後赤彩	横ナデ	—	普通	淡褐色	細砂少量	5%	
58	8-1区	赤生土器壺	—	4.3	底高 4.1	67	ヘラ削り	横ハケ後縦ミガキ	横ミガキ	ヘラミガキ	普通	淡褐色	細砂やや多	10%	
59	8-1区	赤生土器壺	—	9.5	底高 24.7	1224	ヘラ削り	下部へラ削り、横ミガキ	横ハケ	ハケ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	30%	
60	8-1区	赤生土器壺	—	(12.3)	底高 20.0	1032	ヘラ削り	下部へラ削り、縦横のミガキ後赤彩、煎滅	横ハケ、表面研磨	ハケ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	10%	
61	表層	赤生土器壺	(15.8)	—	底高 8.4	117	—	縦横両面状文、強煎滅状文	横ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	10%	

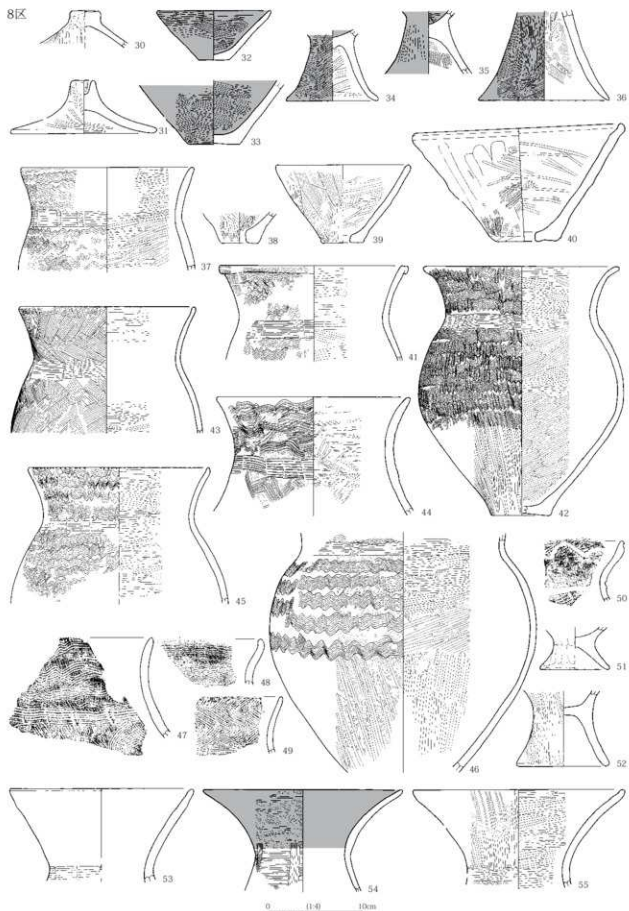
第125表 遺構外出土石器・玉類観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材・材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
62	遺構外	勾玉	100%	5.5	3.0	2.2	60.6	ヒスイ	比定 3.31 507号円形溝壺の周溝南東部の外側 20cm の所から出土
63	2-3区	石鏝	70%	1.3	1.2	0.3	0.45	黒曜石	
64	8-1区	石鏝	100%	3.2	1.6	0.4	1.3	玉髄	
65	2-3区	砥石	50%	5.0	4.1	2.1	50	石英斑岩	
66	2-1区	砥石	50%	10.4	4.9	3.9	290	石英斑岩	
67	2-1区	磨製石斧	20%	6.4	5.6	3.9	247	閃緑岩	
68	2-3区	打製石斧	90%	9.6	5.6	1.3	57	泥岩	
69	2-3区	打製石斧	99%	19.3	9.7	2.9	482	デイサイト	
70	2-2区	磨き石	100%	12.0	4.1	2.8	220	砂岩	
71	2-3区	打製石斧	100%	7.3	6.7	2.2	109	デイサイト	
72	3-3区	砥石	50%	8.7	3.8	2.3	108	石英斑岩	
73	3-2区	磨石	99%	5.1	3.4	3.4	33	安山岩	
74	3-3区 カクラン	打製石斧	100%	8.7	7.8	1.8	110	デイサイト	
75	5-3区 輪出面	打製石斧	30%	9.3	4.9	1.6	36	デイサイト	
76	5-3区 輪出面	打製石斧	70%	6.7	4.8	0.7	94	安山岩	
77	5区	石刃	80%	9.5	5.4	1.6	80	デイサイト	
78	8-1区	打製石斧	70%	7.9	5.6	2.6	150	デイサイト	
79	8-2区	打製石斧	100%	9.9	7.7	4.7	345	砂岩 (ホルンフェルス)	
80	8-2区	磨き石	80%	9.5	3.8	2.8	140	凝結砂岩	



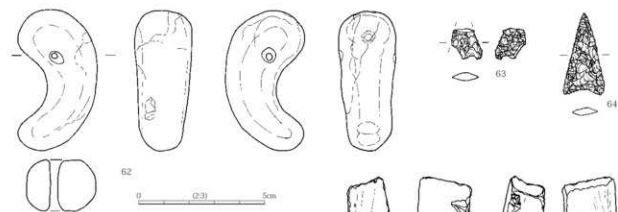
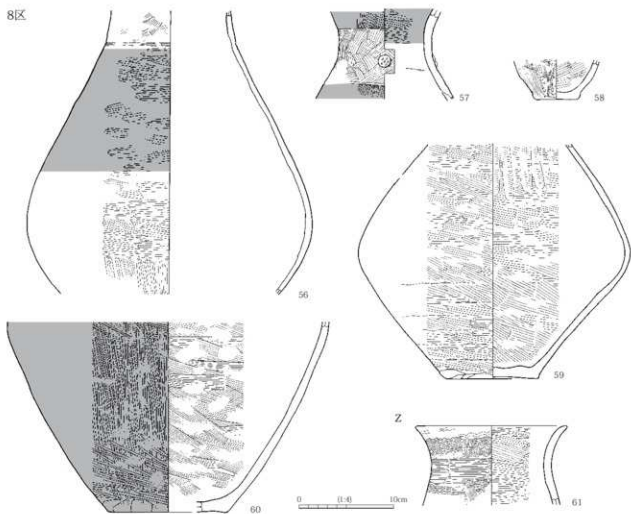
第112図 遺構外出土遺物(1)





第113図 遺構外出土遺物(2)

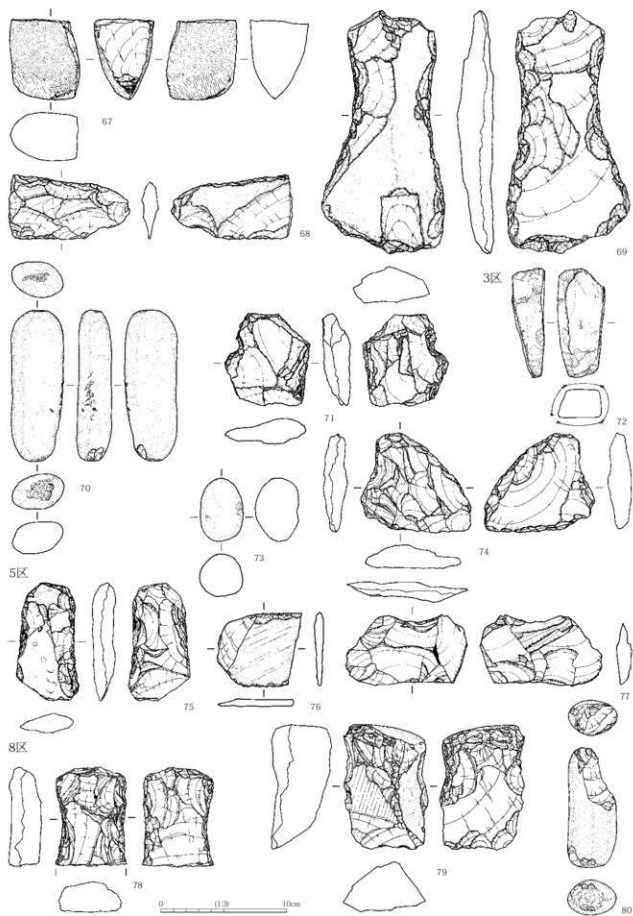
8区



2区



第114図 遺構外出土遺物(3)



第115图 遺構外出土遺物(4)

## 7. 小結

弥生時代の竪穴住居跡は2区で22軒、3区で16軒、2・3区にまたがるもの1軒、5区で23軒、8区で2軒の計64軒が検出された。このうち、弥生時代中期に属するものは、5区北東部の507・511・517号住居跡の3軒だけで、ほかはすべて後期である。

墓跡はとらえ方が難しいが、5区の509・510・519号の方形周溝墓を1基の方形周溝墓とし、方形周溝墓の周溝の可能性のある503号溝跡や、土坑墓と思われる512号墓や5063号土坑をすべて墓とすると、2区で土器棺墓1基、5区で方形周溝墓4基、円形周溝墓14基、土坑墓5基、土器棺墓3基が検出され、すべて後期と思われる。

最後に、弥生時代住居跡と墓跡出土の土器重量一覧表を掲載しておく。土坑、溝等については、時期を特定できないものが多いため、第3節に一括した。カクランを受け、2区の一部の住居跡と古代の遺構が検出されていない5区の住居跡を除くほとんどの住居跡に古代の遺物が混入している。また、上層を圃場整備で削平されているためか、遺物の遺存率も低く、図化できたのは全出土量の1/3程度にとどまった。

第126表 出土弥生土器重量一覧表 (上段:図化遺物総重量(g)、下段:出土遺物総重量(g)、1段の遺構:出土遺物総重量のみで図化遺物なし)

遺構名	棟文	弥生土器							図化率 %	土器器	須恵器	陶輪陶器	中世陶磁器	近世陶磁器	その他	計	図化率 / 全量 (%)
		壺	甕	高杯	鉢	瓶	その他	計									
SB01	0	0	0	0	210	0	0	<b>210</b>	17%	0	0	0	0	0	0	210	63%
	0	431	587	15	210	0	0	<b>1,243</b>		347	365	0	5	0	0	1,960	
SB02	0	1,150	2625	230	160	0	40	<b>4,303</b>	53%	0	0	0	0	0	0	4,303	98%
	0	2,882	4,103	630	160	0	40	<b>7,903</b>		0	143	0	0	0	0	8,050	
SB03	0	300	695	0	0	0	615	<b>1,610</b>	45%	0	0	0	0	0	0	1,610	100%
	0	1,034	1,816	101	0	0	615	<b>3,566</b>		0	0	0	0	0	0	3,566	
SB04	0	51	30	0	0	0	0	<b>81</b>	0%	0	0	0	0	0	0	81	100%
	0	0	677	0	0	0	0	<b>677</b>		0	0	0	0	0	0	677	
SB05	0	3,734	1,865	28	0	0	0	<b>5,627</b>	12%	74	493	0	0	0	0	6,194	91%
	0	0	100	0	0	0	7	<b>107</b>		0	0	0	0	0	0	107	
SB06	0	319	170	0	0	0	7	<b>497</b>	22%	50	90	0	0	0	0	627	78%
	0	135	61	0	0	0	0	<b>196</b>		100	15	0	0	0	0	311	67%
SB08	0	735	0	0	0	0	0	<b>735</b>	60%	0	0	0	0	0	0	735	98%
	0	1,365	55	0	0	0	0	<b>1,420</b>		0	25	5	0	0	0	1,450	
SB10	0	867	885	77	0	0	87	<b>1,516</b>	36%	0	0	0	0	0	0	1,516	93%
	0	2,965	1,310	203	0	0	87	<b>4,167</b>		31	244	24	0	0	0	4,466	
SB11	0	27	20	0	0	0	0	<b>47</b>	0%	15	0	0	0	0	0	42	70%
	0	2,340	313	0	135	0	0	<b>2,788</b>		0	0	0	0	0	90	2,880	92%
SB12	65	9,684	2,742	430	135	0	0	<b>12,981</b>	21%	259	241	50	400	15	90	14,103	
	0	1,700	0	0	0	0	0	<b>1,700</b>		0	0	0	0	0	0	1,700	100%
SB13	0	1,878	20	52	0	0	0	<b>1,900</b>	87%	0	2	0	0	0	0	1,902	
	0	10	5	0	0	0	0	<b>15</b>		0	0	0	0	0	0	15	100%
SB15	0	0	1,412	1,099	0	0	0	<b>2,511</b>	27%	0	0	0	0	0	0	2,511	99%
	90	4,643	3,333	1,464	35	0	0	<b>9,475</b>		15	29	0	0	0	0	9,600	
SB16	0	303	1,710	302	0	0	0	<b>2,595</b>	28%	2,575	1,213	0	0	0	202	6,387	58%
	0	5,868	2,977	695	0	0	0	<b>9,342</b>		4,235	2,212	111	0	0	202	16,302	
SB17	0	4,225	2,085	1,360	450	0	1,790	<b>10,210</b>	45%	0	0	0	0	0	0	10,210	94%
	25	12,904	5,150	2,229	634	0	1,790	<b>22,737</b>		425	917	12	0	0	0	24,116	
SB18	0	155	87	0	23	0	0	<b>265</b>	19%	0	0	0	0	0	0	265	90%
	0	1,091	205	95	103	0	0	<b>1,494</b>		0	135	0	0	0	0	1,629	
SB20	0	90	567	0	0	0	0	<b>657</b>	36%	0	0	0	0	0	0	657	87%
	0	987	834	35	16	0	0	<b>1,822</b>		214	50	0	0	0	0	2,086	
SB21	107	5,541	1,695	0	75	80	36	<b>7,427</b>	38%	0	0	0	0	0	0	7,424	98%
	173	14,456	4,264	569	164	80	36	<b>19,509</b>		141	15	0	0	0	0	19,666	
SB22	0	990	715	0	0	0	0	<b>1,705</b>	28%	0	0	0	0	0	0	1,705	98%
	83	4,277	1,663	189	0	0	0	<b>6,119</b>		17	5	10	0	0	0	6,234	
SB26	0	0	85	0	0	0	0	<b>85</b>	10%	0	0	0	0	0	0	85	91%
	0	600	200	14	0	0	0	<b>864</b>		89	0	0	0	0	0	953	

遺構名	縄文	弥生土器							計	弥生土器/全土器 (%)	土器器	灰土器	輪軸陶器	中世陶器	近世陶器	その他	計	弥生土器/全土器 (%)
		甕	壺	高杯	鉢	甕	その他	計										
SH32	0	2,336	310	1,365	270	0	0	4,081	67%	0	0	0	0	0	0	0	4,081	90%
	0	3,930	660	1,315	290	0	0	6,085		121	120	5	0	0	0	0	6,331	
SH34	0	0	1,270	0	0	0	0	1,270	77%	0	0	0	0	0	0	0	1,270	86%
	0	180	1,427	53	0	0	0	1,660		70	207	0	0	0	0	0	1,937	
SH35	0	0	530	0	0	0	0	530	18%	200	0	0	0	0	0	53	783	85%
	0	1,960	943	35	0	0	0	2,938		392	82	2	0	0	0	53	3,467	
SH41	0	923	813	0	0	837	0	2,573	18%	303	0	0	0	0	0	205	2,981	84%
	127	10,487	2,583	190	1,084	30	0	14,374		2,016	383	0	0	0	0	206	17,106	
SH43	0	1,538	3,691	365	347	0	0	5,994	39%	0	0	0	0	0	0	0	5,994	97%
	37	8,636	5,602	758	400	0	0	15,306		132	280	0	0	0	0	0	15,845	
SH44	15	2,745	1,408	780	180	0	0	5,113	50%	0	0	0	0	0	0	0	5,113	99%
	15	6,338	2,658	953	325	0	0	10,274		31	22	0	0	0	0	7	10,349	
SH48	0	0	443	0	0	0	0	443	77%	0	0	0	0	0	0	0	443	72%
	0	69	488	18	0	0	0	575		90	130	0	0	0	0	0	795	
SH51	0	0	395	3,385	173	0	0	4,153	39%	0	0	0	0	0	0	137	4,290	88%
	0	4,597	2,044	3,833	238	0	0	10,712		800	530	44	0	0	0	137	12,223	
SH52	0	0	4,402	480	0	237	180	5,282	38%	189	79	50	0	0	0	272	5,872	90%
	80	7,339	5,456	633	0	230	180	13,838		812	344	68	0	0	0	272	15,419	
SH53	0	0	85	0	0	0	0	85	3%	255	0	0	0	0	0	0	340	61%
	0	1,982	402	0	45	0	0	2,439		572	975	5	0	0	0	0	3,994	
SH54	0	0	0	65	0	0	0	65	4%	129	70	28	0	0	0	0	292	54%
	0	1,163	257	155	0	0	0	1,575		304	918	36	0	0	0	0	2,923	
SH55	63	1,686	350	0	0	1,230	135	3,391	68%	0	0	0	0	0	0	0	3,456	98%
	63	2,901	715	0	5	1,230	135	4,976		34	15	0	0	0	0	0	5,090	
SH56	0	110	56	0	0	0	0	166	50%	0	0	0	0	0	0	0	166	98%
	0	115	188	0	0	0	0	303		5	0	0	0	0	0	0	308	
SH58	0	214	255	0	75	0	0	544	28%	0	0	0	0	0	0	0	544	86%
	0	1,407	468	23	75	0	0	1,973		73	253	7	0	0	0	0	2,286	
SH59	0	1,410	0	0	0	0	0	1,410	34%	63	25	0	0	0	0	0	1,498	77%
	88	3,794	387	0	5	0	0	4,186		860	235	32	0	0	0	0	5,006	
SH66	0	1,339	23	0	125	0	0	1,468	57%	0	0	0	0	0	0	0	1,468	64%
	0	2,060	241	0	282	0	0	2,583		811	615	35	0	0	0	0	4,044	
SH77	44	729	2,802	1,827	367	0	0	5,725	30%	0	0	0	0	0	0	0	5,769	99%
	136	14,081	5,048	2,342	392	0	15	22,079		91	44	0	0	0	0	0	22,330	
SH78	0	288	45	0	0	0	0	303	0%	68	0	0	0	0	0	0	371	82%
	0	270	52	0	141	0	0	463		0	0	0	0	0	0	0	463	
SH801	0	3,410	784	0	286	0	11	4,491	10%	31	278	0	0	0	0	137	4,837	91%
	0	1,312	1,433	270	0	0	0	3,116		0	0	0	0	0	0	0	3,116	
SH802	0	2,877	2,713	1,230	397	0	0	7,207	43%	0	0	0	0	0	0	5	7,212	100%
	0	0	2,675	0	0	0	0	2,675		0	0	0	0	0	0	0	2,675	
SH803	0	1,259	3,524	299	0	0	0	5,082	53%	0	0	0	0	0	0	4	5,086	100%
	0	2,284	4,307	665	97	390	66	7,809		0	0	0	0	0	0	0	7,809	
SH804	0	10,273	8,479	700	167	360	81	20,090	39%	0	0	0	0	0	0	0	20,090	100%
	0	3,311	4,078	640	425	0	0	8,454		0	0	0	0	0	0	0	8,454	
SH805	3	15,863	8,932	1,031	790	0	15	26,631	32%	0	0	0	0	0	0	0	26,634	100%
	0	2,387	883	279	0	0	0	3,469		0	0	0	0	0	0	0	3,469	
SH806	0	8,800	4,601	651	106	0	70	13,918	25%	0	0	0	0	0	0	0	13,918	100%
	0	739	78	95	0	0	108	1,020		0	0	0	0	0	0	0	1,020	
SH807	0	1,160	88	305	0	0	109	1,471	69%	0	0	0	0	0	0	0	1,471	100%
	0	873	1,684	110	0	0	110	2,777		0	0	0	0	0	0	0	2,777	
SH808	0	8,152	5,427	285	30	0	110	14,004	20%	0	0	0	0	0	0	0	14,004	100%
	0	1,748	590	410	0	74	0	2,824		0	0	0	0	0	0	0	2,824	
SH809	0	3,927	1,130	401	0	78	0	5,525	51%	0	0	0	0	0	0	0	5,525	100%
	0	429	0	0	142	0	0	571		0	0	0	0	0	0	0	571	
SH810	0	2,234	447	13	152	0	0	2,846	33%	0	0	0	0	0	0	0	2,846	100%
	0	36	65	0	0	0	95	196		0	0	0	0	0	0	0	196	
SH811	0	388	225	0	0	0	95	708	28%	0	0	0	0	0	0	0	708	100%
	0	1,639	1,000	425	0	0	180	3,334		0	0	0	0	0	0	0	3,334	
SH812	0	4,184	2,415	550	0	10	188	7,347	54%	0	0	0	0	0	0	0	7,347	100%

第5章 遺構と遺物

遺構名	縄文	弥生土器							割合率 (%)	土陶器	灰土器	輪軸陶器	中世陶器	近世陶器	その他	計	弥生土器/全目 (%)
		器	罎	高杯	鉢	甕	その他	計									
SIS13	0	0	965	0	0	0	0	965	77%	0	0	0	0	0	0	965	100%
	0	112	770	0	0	0	0	882		3	0	0	0	0	0	0	
SIS14	0	3,888	5,095	1,155	391	558	90	11,137	20%	0	0	0	0	0	0	11,137	100%
	0	26,687	23,578	2,815	928	508	90	54,606		0	30	0	0	0	0	54,686	
SIS15	0	372	167	15	0	0	0	754	0%	0	0	0	0	0	2	756	100%
	0	339	754	303	0	0	0	1,587		0	0	0	0	0	0	1,587	
SIS16	0	4,631	4,145	951	53	0	0	9,780	16%	0	0	0	0	0	0	9,780	100%
	0	2,640	2,601	1,085	25	0	87	6,388		0	0	0	0	0	0	6,388	
SIS17	0	6,161	3,870	1,192	52	0	87	11,362	56%	0	0	0	0	0	0	11,362	100%
	0	2,339	1,787	0	61	0	0	4,178		0	0	0	0	0	0	4,178	
SIS18	0	4,882	3,414	291	89	0	0	8,706	48%	0	0	0	0	0	0	8,706	100%
	0	875	1,290	0	228	0	0	2,393		0	0	0	0	0	0	2,393	
SIS19	15	1,795	2,981	105	253	0	0	5,134	47%	0	22	0	0	0	0	5,171	99%
	0	4,199	2,887	295	0	0	382	7,763		0	0	0	0	0	0	7,763	
SIS20	0	5,934	4,180	495	3	0	382	10,994	71%	0	0	0	0	0	0	10,994	100%
	0	524	0	0	0	0	0	524		0	0	0	0	0	0	524	
SIS21	0	1,829	643	0	0	0	0	2,472	21%	0	0	0	0	0	0	2,472	100%
	0	649	362	0	0	0	0	1,002		0	0	0	0	0	59	1,060	
SIS22	0	2,014	1,309	25	95	0	0	3,503	29%	0	0	0	0	0	59	3,562	98%
	0	3,882	0	0	0	0	0	3,882		0	0	0	0	0	0	3,882	
SIS23	0	4,054	60	7	0	0	0	4,121	91%	0	0	0	0	0	0	4,121	100%
	0	5,198	2,000	0	0	0	0	7,208		0	0	0	0	0	0	7,208	
SIS801	0	9,651	5,503	9	384	0	0	15,547	30%	0	0	0	0	0	0	15,547	100%
	0	490	0	0	0	160	0	560		0	0	0	0	0	0	560	
SIS802	0	4,592	4,327	359	410	160	0	9,848	6%	0	0	0	0	0	0	9,848	100%
	0	32	58	0	0	0	0	110		0	0	0	0	0	0	110	
SME01	0	64	35	0	0	0	0	99	0%	0	0	0	0	0	99	100%	
SME02	0	3	5	0	0	0	0	10	0%	0	0	0	0	0	10	100%	
SME04	8	0	0	0	0	0	0	8	0%	0	0	0	0	0	0	8	98%
	8	416	190	0	0	0	0	606		0	0	0	0	0	5	619	
SME05	0	0	109	0	0	0	0	109	36%	0	0	0	0	0	0	109	100%
	0	198	190	0	0	0	0	307		0	0	0	0	0	0	307	
SME06	0	0	19	0	0	0	0	19	3%	0	0	0	0	0	0	19	100%
	0	401	300	0	0	0	0	705		0	0	0	0	0	0	705	
SME07	0	0	46	0	0	0	0	46	8%	0	0	0	0	0	0	46	100%
	0	209	258	68	13	0	0	608		0	0	0	0	0	0	608	
SME08	0	74	15	0	0	0	0	89	0%	0	0	0	0	0	89	100%	
SME09	0	658	745	45	0	0	0	1,448	0%	0	0	0	0	0	1,448	100%	
SME10	0	189	353	0	119	0	0	661	16%	0	0	0	0	0	0	661	99%
	0	1,314	2,646	0	154	0	0	4,114		25	0	0	0	0	0	4,139	
SME11	0	95	120	70	0	0	0	285	0%	0	0	0	0	0	0	285	100%
	0	0	0	0	13	0	0	13		0	0	0	0	0	0	13	
SME13	0	60	55	0	13	0	0	128	10%	0	0	0	0	0	0	128	100%
	0	0	30	0	0	0	0	30		0	0	0	0	0	0	30	
SME14	0	117	90	0	0	0	0	207	14%	0	0	0	0	0	0	207	100%
	0	0	116	0	282	0	0	398		0	0	0	0	0	0	398	
SME16	0	1,074	1,273	10	302	0	0	2,659	15%	0	0	0	0	0	0	2,659	100%
	0	166	135	0	0	0	0	301		0	0	0	0	0	191	492	
SME17	0	1,115	175	6,597	0	0	0	7,887	63%	0	0	0	0	0	0	7,887	100%
	0	4,610	1,095	6,712	20	0	0	12,437		0	0	0	0	0	0	12,437	
SME19	0	0	120	0	0	0	0	120	5%	0	0	0	0	0	0	120	93%
	0	1,099	1,187	67	25	0	0	2,378		0	0	0	0	0	0	190	
計	239	72,796	67,199	23,744	5,331	2,704	4,008	175,792	33%	3,614	1,289	78	0	0	1,020	182,132	95%
	1,015	285,543	163,344	35,494	9,520	2,744	4,143	500,788		13,448	10,457	446	405	15	1,562	528,136	
割合率 (%)	24%	25%	41%	67%	56%	99%	97%	35%		27%	13%	17%	0%	0%	65%	34%	

## 第2節 古代の遺構と遺物

古代の遺構は、2・3区で竪穴住居跡41軒、2・3・5・8区で掘立柱建物跡13棟のほか、土坑、溝跡等が検出されている。但し、5・8区の掘立柱建物跡については、周囲に古代の遺構がないことのほか、に構造でも古代のものかどうか疑問があるが、ここに掲載した。土坑や溝跡は遺物が出土しないか、弥生時代の遺物と古代の遺物が共存するものが多く、一部のものを除いて時期が確定できない。したがって、ここでは、出土遺物から比較的時期が明確なもののみを取り上げることとする。

### 1. 竪穴住居跡

古代の竪穴住居跡は、2区で13軒、3区で28軒の計41軒が検出され、5・8区では検出されていない。2区と3区の分布を比べると、2区はまばらで、3区は密である。これは、北西方向から南東方向に下がる緩斜面を圃場整備で平らにしたために、より標高が高かった西側（2区）が厚く削られることになり、浅い遺構が削平されて深いものだけが残ったためと考えられる。実際、2区の竪穴住居跡は皆浅くて、表土掘削時に床面が露出してしまうものも少なくない。また、後述するように2区の北部が掘立柱建物群の用地となっていて、竪穴住居跡の設置が限られていたことも考えられる。

#### 9号住居跡 (SB09) [第116図 PL13]

**位置：**2-①区、ⅡK 23、P 3 **検出：**Ⅳ層上面でわずかな黒褐色土の埋土の残りと柱穴、周溝が見られたことにより検出された。 **形状：**方形 **規模：**東西5.2m、南北5.3m、検出面からの深さは2～19cmである。 **主軸方位：**N-14°-W **遺構の重複：**13号住居跡を切る。 **堆積状況：**上部を削平されて東壁の一部にしか残っていない。

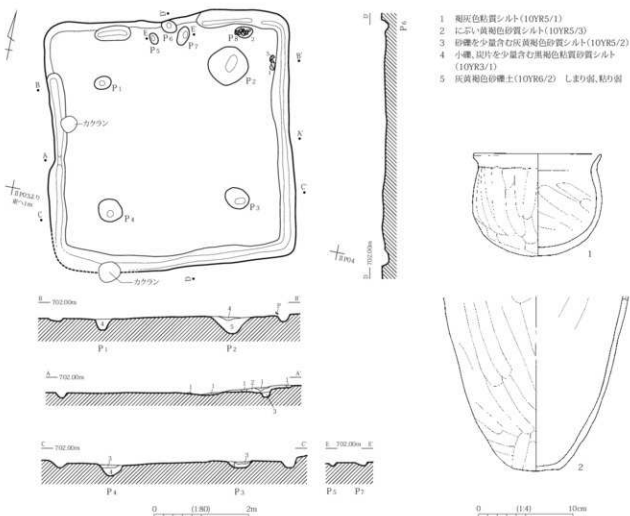
**住居内施設：**カマドとピット8基、周溝が検出されている。カマド跡は北壁中央下に袖石と支脚の抜き取り跡が見られるが、袖や火床、その他の部分は削平されて残っていない。ピットはP1～4が4隅にあり、主柱穴と思われる。周溝は、カマド部分と北西隅を除いて全周する。

**遺物出土状況：**土師器鉢(1)が住居跡北東隅の床面、甕(2)がP8で出土しているほか、埋土から土師器、須恵器と弥生土器が1.9kg出土している(第237表)。 **遺物：**鉢(1)は胴部のヘラ削りのために口縁部との境が段になっている。

**時期：**出土遺物が少なく時期を決め難いが、8世紀前半と思われる。

第127表 9号住居跡出土土器観察表

採取番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	地味	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	土師器鉢	13.3	—	10.9	410	—	縦へら削り	斜めへらナデ	横ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	80%	
2	P8	土師器甕	—	5.0	甕高18.7	570	へら削り	斜めのへら削り	横ナデ後縦へらナデ	ナデ後へらナデ	普通	暗褐色	1mm以下の細砂少量	10%	



第116図 9号住居跡 遺構図・遺物図

19号住居跡 (SB19) [第117図 PL13]

位置：2-②区、ⅡP 12・13 検出：Ⅳ層上面でわずかな黒褐色土の埋土の残りや柱穴が見られたことにより検出された。形状：南東部を削平されて全形は不明であるが、残存部分からはややいびつな方形と思われる。規模：東西4.9m、南北4.6m、検出面からの深さ0～11cm 主軸方位：N-22°-W 遺構の重複：2号掘立柱建物跡のP 10～12に切られる。堆積状況：ピット内をのぞいて埋土はほとんど残っていない。

住居内施設：ピット7基が検出されている。住居内の位置と並びからP 1～4、またはP 2・3・5・7が主柱穴と思われ、住居の拡張されたことにより主柱穴が2組あるとも考えられる。カマドは検出されていないが、2号掘立柱建物跡のP 12に壊されたものと考えられる。

遺物出土状況：埋土から土師器・須恵器・灰軸陶器が2.7kg、弥生土器が1.9kgと出土している（第237表）。

遺物：土師器碗（2）は内外面赤彩される。土師器甕（5）は口縁部外面の一部に巻き上げ痕を残す。須恵器短頸壺（7）と灰軸陶器短頸壺（8）は、焼き物の種類は異なるが同器形である。時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第128表 19号住居跡出土土器観察表

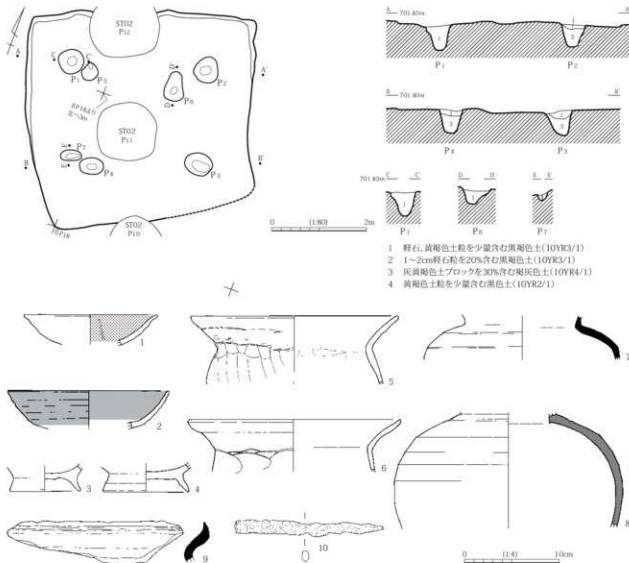
図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器杯	(13.8)	—	器高 3.2	22	—	回転ナズ	回転ナズ後放射状ミナリ	—	普通	淡褐色	細砂や多	5%	



図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
2	掘り方	土師器 甕	16.91	—	底高 4.0	35	—	回転ナズ後 赤彩	横ナズ後 放射状 ミガキ、 赤彩	—	普通	淡褐色	細砂やや多	20%	
3	掘り方	土師器 高台付甕	—	高台径 (7.3)	底高 2.9	90	右回転 糸のり後 回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ後 不整方向ミ ガキ	—	普通	淡茶褐色	1mm以下の 細砂やや多	40%	
4	埋土	土師器 高台付甕	—	高台径 8.9	底高 3.1	110	回転ヘラ 削り	—	—	回転ナズ後 放射状ナズ	良好	淡褐色	細砂少量	20%	
5	掘り方	土師器 甕	(21.6)	—	底高 7.2	110	—	縦ヘラ削り	横ナズ後 一部縦ヘラ ナズ	—	普通	灰褐色	細砂やや多	5%	
6	P6	土師器 甕	(22.2)	—	底高 5.5	83	—	縦ヘラ削り	横ナズ	—	普通	淡茶褐色	細砂やや多	5% 未満	
7	P6	須志器 短頸甕	—	—	底高 4.7	70	—	回転ナズ	回転ナズ	—	やや軟	淡黄褐色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未満	
8	掘り方	灰輪陶器 短頸甕	—	—	底高 12.1	265	—	回転ヘラ 削り	回転ナズ	—	普通	明灰色	1mm以下の 細砂少量	5%	
9	埋土	須志器 甕	18.6 × 4.3	—	—	115	—	2条の凹線 が深	回転ナズ	—	良好	灰色	3mm以下の 砂粒やや多	5% 未満	

第129表 19号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
10	埋土	刀子	16.1	2.0	1.45	41.8	15.75	1.48	0.92	32.3	3点に分別、錆び、土砂全体に付着



第117図 19号住居跡 遺構図・遺物図

- 1 軽石、黄褐色土胎を少量含む黒褐色土(10YR3/1)
- 2 1~2cm軽石粒を20%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 3 灰黄褐色土ブロックを30%含む明灰色土(10YR4/1)
- 4 黄褐色土粒を少量含む黒色土(10YR2/1)

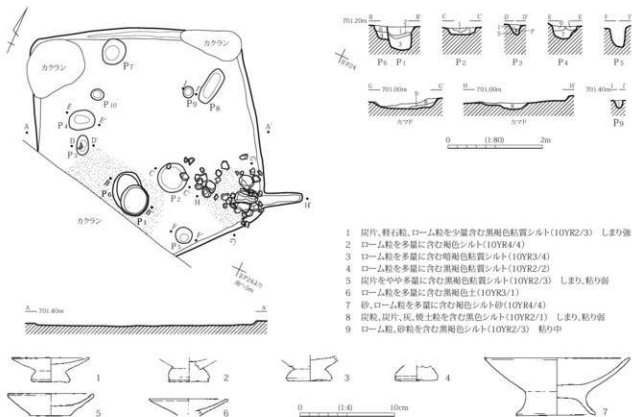
## 23号住居跡 (SB23) [第118図 PL13・42]

**位置:** 2-②・③区、II P 23・24 **検出:** IV層上面でわずかな黒褐色土の埋土の残りとかマドや柱穴が見られたことにより検出された。 **形状:** 南西部をカクランに壊されて全形は不明であるが、残存部分からはややいびつな方形と思われる。 **規模:** 東西4.7m、南北4.9m、検出面からの深さ0～11cm **主軸方位:** E-28°-N **遺構の重複:** なし。南西部をカクランに壊される。 **堆積状況:** ビット内をのぞいて埋土はほとんど残っていない。

**住居内施設:** カマドとビット10基、周溝が検出されている。カマドは、南東隅にあり、煙道が東に向かって細長く伸びる。袖は残っていないが、袖の芯材と思われる石と、炭化材がカマド前面に広がっていた。ビットは10基が検出されているが、埋土がなかったこともあって、本住居跡に伴うものか、切り合う土坑なのかはっきりしない。

**遺物出土状況:** 床面とビット内から古代の土器が5.7kgと弥生土器1.1kgが出土している(第237表)。ほとんどが小片である。 **遺物:** 土師器高台付皿(1～4)は、正位に置いた時に見えないベタ高台の端部が面取りされたり、側面下端に凹線が入れられたりしており、逆転して高台部分を鈕とする蓋として使用されたことも考えられる。土師器高台付碗(7)は、足高台の碗である。

**時期:** 出土遺物から、11世紀代と思われる。



第118図 23号住居跡 遺構図・遺物図

第130表 23号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器高台付皿	(8.1)	4.1	2.6	45	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡茶褐色	磁砂少量	50%	
2	埋土	土師器高台付皿	—	4.4	坂高2.1	38	右回転糸切り	—	—	—	普通	淡褐色	磁砂少量	30%	

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
3	埋土	土師器 高台付皿	—	4.8	高さ 2.7	60	右回転 糸切り幾 平のこ状 圧痕	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	40%	
4	埋土	土師器 高台付皿	—	4.6	高さ 1.6	35	右回転 糸切り	—	—	—	普通	灰褐色	細砂少量	30%	
5	埋土	土師器 皿	9.0	4.3	2.3	65	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	90%	
6	埋土	土師器 皿	8.2	—	高さ 1.8	20	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	20%	
7	埋土	土師器 高台付物	15.1	高台径 8.2	6.1	260	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡茶褐色	細砂少量	80%	

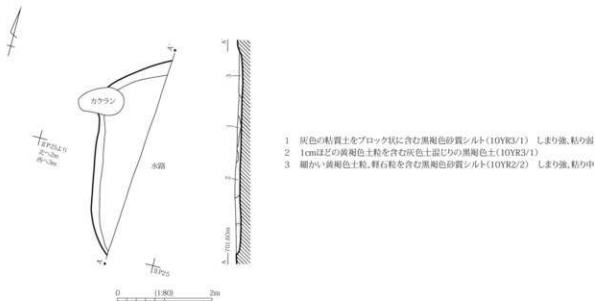
## 24号住居跡 (SB24) [第119図 PL13]

**位置:** 2-②区、II P 19 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 西壁付近を除く大部分を水路に壊されて全形は不明 **規模:** 東西残存幅1.7m、南北3.7m、検出面からの深さ3~27cm **主軸方位:** N-12°-W **遺構の重複:** なし。大部分が水路に壊される。 **堆積状況:** わずかしか残っていないが3層に分かれる。

**住居内施設:** 調査区内で施設は検出されていない。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器103gが出土している(第237表)。いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 出土遺物から、9世紀代と思われる。



第119図 24号住居跡 遺構図

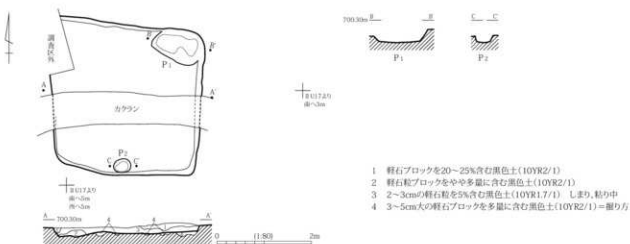
## 25号住居跡 (SB25) [第120図 PL13]

**位置:** 2-④区、II U 16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北西部を削平され全形は不明であるが、残存部分から方形と思われる。 **規模:** 東西3.1m、南北3.2m、検出面からの深さ3~14cm **主軸方位:** N-1°-E **遺構の重複:** なし。南北の中央部分をカクランに壊され、北西部が調査区外である。 **堆積状況:** 4層に分かれる。

**住居内施設:** ピット2基が検出されている。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか719gが出土している(第237表)。いずれも小片で図示できなかった。

**時期:** 不明



第120図 25号住居跡 遺構図

- 1 軽石ブロックを20～25%含む黒色土(10YR2/1)
- 2 軽石ブロックをやや多量に含む黒色土(10YR2/1)
- 3 2～3cmの軽石粒を5%含む黒色土(10YR1.7/1) しまり, 粘り中
- 4 3～5cm大の軽石ブロックを多量に含む黒色土(10YR2/1)＝餅り方

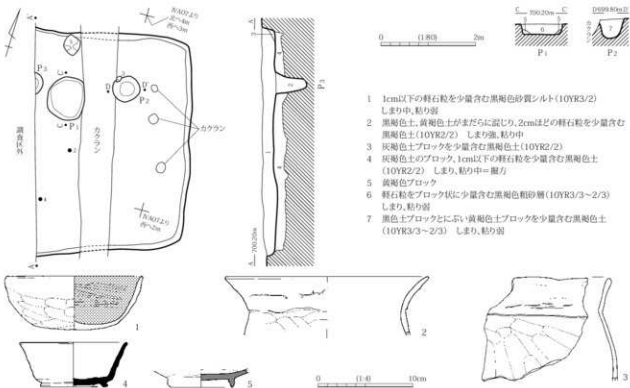
27号住居跡 (SB27) [第121図 PL13・42]

**位置:** 2-④区、ⅣA1・6 **検出:** Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 中央部をカクランに壊され、西部が調査区外で全形は不明であるが、残存部分からは方形になると思われる。 **規模:** 東西現存幅3.3m、南北4.8m、検出面からの深さ10～21cm **軸方位:** N-16°-W **遺構の重複:** なし。中央部をカクランに壊され、西部は調査区外である。 **堆積状況:** 埋土は2層に分かれる。

**住居内施設:** ピット3基が検出されている。その他の施設は検出されていない。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか2.3kg出土している(第237表)。 **遺物:** 黒色土器碗(1)は、やや丸底気味で、体部下半をへら削りする。土師器甕(2・3)は口縁部外面に巻き上げ痕が残る。須恵器高台付椀(4)は、体部がやや外反気味に立ち上がる。灰陶陶器皿(5)は混入と思われる。

**時期:** 出土遺物から、8世紀前半と思われる。



第121図 27号住居跡 遺構図・遺物図

- 1 1cm以下の軽石粒を少量含む黒褐色砂質シルト(10YR3/2) しまり中, 粘り弱
- 2 黒褐色土, 黄褐色土がまだらに混じり, 2cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強, 粘り中
- 3 灰褐色土ブロックを少量含む黒褐色土(10YR2/2)
- 4 灰褐色土のブロック, 1cm以下の軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり, 粘り中＝餅り方
- 5 黄褐色ブロック
- 6 軽石粒をブロック状に少量含む黒褐色粗砂相(10YR3/3～2/3) しまり, 粘り弱
- 7 黒色土ブロックとに黄褐色土ブロックを少量含む黒褐色土(10YR3/3～2/3) しまり, 粘り弱

第131表 27号住居跡出土土器観察表

深度 番号	出土層位 ・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部方向	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器 甕	14.2	5.9	5.7	207	手持ちへら 削り	手持ちへら 削り	横ミガキ	本型方向 ミガキ	普通	茶褐色	細砂少量	80%	
2	床面	土師器 甕	(21.2)	—	甕高 6.2	78	—	縦へら削り	横ナデ	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	5% 未測	口縁部外面に巻き 上げ筋
3	床面	土師器 甕	11.2×11.0		—	100	—	横へら削り	横ナデ後 へら削り	—	普通	灰褐色	細砂少量	5% 未測	
4	床面	黒色土器 高台付甕	11.1	高台径 6.8	4.7	134	回転へら 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	明灰色～ 褐色	1mm以下の 細砂やや多	90%	
5	埋土	灰褐色土器 甕	—	高台径 6.3	甕高 2.1	75	回転へら 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	1mm以下の 細砂少量	20%	

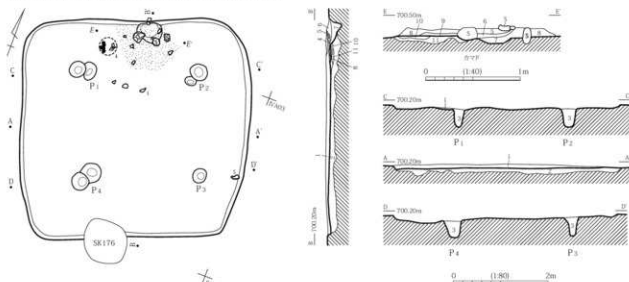
## 28号住居跡 (SB28) [第122図 PL13]

位置：2-④区、II U 22、IV A 2・3 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：隅丸の方形 規模：東西4.9m、南北4.7m、検出面からの深さ0～13cm 主軸方位：N-18°-W 遺構の重複：176号土坑に切られる。堆積状況：埋土は、薄く残るのみで、単層である。

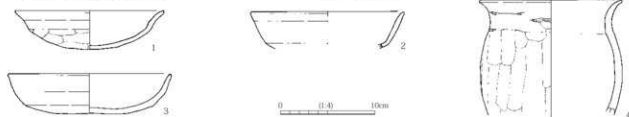
住居内施設：カマドとピット4基が検出されている。カマドは壊れているが、北壁中央下に焚口と思われる窪みがあり、周囲に袖材であったと思われる礫と炭化物が散っていた。P1～4は主柱穴と思われる。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか2.6kg出土している(第237表)。遺物：土師器杯(1・3)は、丸底または丸底気味の平底で、底面を手持ちへら削りする。土師器甕(4)は胴部を縦にへら削りし、口縁部は大きく外反する。

時期：出土遺物から、8世紀前半と思われる。



- 1.5cm以下の軽石粒を多量に含む黒褐色砂質シルト(10YR2/3) しまり強
- 黒褐色土と暗褐色土が少量混じるに、黄褐色～黄褐色軽石層(10YR4/4～5/6)削り方
- 黄褐色土粒、軽石粒、軽石ブロックを少量含む黒褐色砂質シルト(10YR3/2) しまり、粘り弱
- 灰褐色土混じりの黄褐色土(10YR6/4)
- 黒色土(10YR1/1)
- 1cm以下の埴土、炭化物、軽石粒を含む黄褐色土(10YR3/2)
- 1cm以下の黄褐色土と軽石粒をやや多量に含む黄褐色土(10YR2/3)
- 細かい黄褐色土粒を多量、1cm以下の軽石粒を多量に含む黄褐色土(10YR3/3)
- 黄褐色土粒、軽石粒を少量含む黄褐色土(10YR3/2)
- 10-11 カマド削り方



第122図 28号住居跡 遺構図・遺物図

第132表 28号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	土師器杯	(15.4)	—	4.0	83	手持ちへうすり	上下横ナデ、 下半へうすり	横ナデ	ナデ	普通	暗褐色	1mm以下の 細砂少量	30%	
2	埋土	土師器杯	(16.0)	—	規高 3.9	30	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰褐色	炭粒、細砂 やや多	10%	
3	埋土	土師器杯	(17.0)	(13.5)	4.2	48	手持ちへうすり	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色	細砂少量	20%	
4	床面	土師器盃	14.7	—	規高 12.2	325	—	縦へうすり	横ナデ縦 へうナデ	—	普通	暗褐色	細砂少量	30%	

## 29号住居跡 (SB29) [第123図 PL13・43]

位置：2-④区、ⅣA7・8・12・13 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：いびつな四辺形で、南側に張り出し部分を持つ。規模：東西3.5m、南北4.0m、検出面からの深さ3～11cm 主軸方位：N-20°-W 遺構の重複：なし 堆積状況：2層に分かれる。

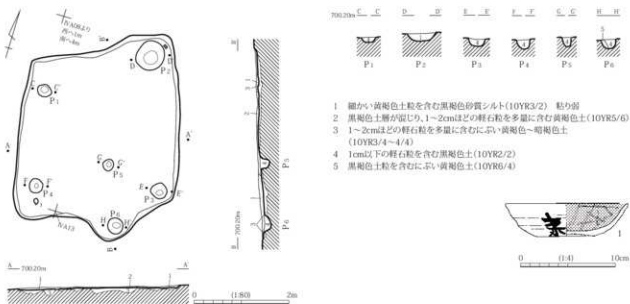
住居内施設：ピット6基が検出されている。P1～4は支柱穴、P6は入口施設に関係するものと思われる。その他の施設は検出されていない。

遺物出土状況：埋土から黒色土器・須恵器と弥生土器が合計589g出土している(第237表)。いずれも小片である。遺物：黒色土器杯(1)は小片ではあるが、体部外面に正位で「来」の字の墨書がある。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第133表 29号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	黒色土器杯	(12.7)	(8.4)	3.5	68	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 横ミガキ、 黒色処理	回転ナデ	普通	淡赤褐色	3mm以下の 砂粒、小石 やや多	30%	体部外面に墨書 「来」



第123図 29号住居跡 遺構図・遺物図

## 30号住居跡 (SB30) [第124図 PL13]

位置：2-④区、ⅣA8 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：南端部が削平されて全形は不明であるが、残存部から、ややいびつな方形と推定される。規模：東西3.6m、南北残存3.0m、検出面からの深さ0～4cm 主軸方位：N-24°-W 遺構の重複：31号住居跡を切る。堆積状況：削平されてわずかしが残っていないが、2層である。

住居内施設：ピット6基が検出されている。P1・5は、住居跡の大きさに比して大きすぎ、本住居跡に

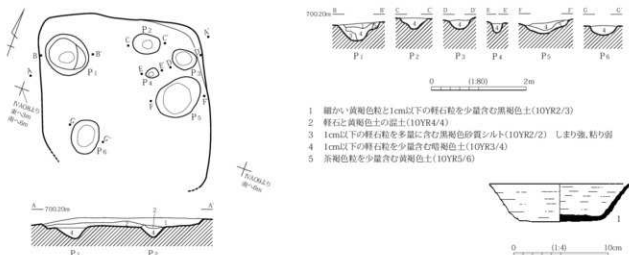
伴わず、切り合う土坑であった可能性もある。その他のピットも住居内の位置が不規則で、本住居跡に伴うかどうかや性格等は不明である。

**遺物出土状況：**埋土から土師器・須恵器と弥生土器が654g出土している（第237表）。いずれも小片である。  
**遺物：**須恵器杯（1）は底面を回転ヘラ切り後、一部手持ちヘラ削りする。

**時期：**出土遺物から、8世紀後半と思われる。

第134表 30号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(14.6)	(8.5)	4.0	64	回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂や中多	30%	



第124図 30号住居跡 遺構図・遺物図

## 31号住居跡 (SB31) [第125図]

**位置：**2-④区、ⅣA8・9 **検出：**Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。 **形状：**南東部が調査区外で、南西部を削平されており、全形は不明であるが、残存部からはやや隅丸の方形と思われる。

**規模：**東西3.7m、南北3.5m、検出面からの深さ0～19cm **主軸方位：**N-38°-W **遺構の重複：**30号住居跡に切られる。 **堆積状況：**削平されてわずかしが残っていないが、2層に分かれる。

**住居内施設：**ピット1基が検出されているが、住居跡の大きさに比して大きすぎ、本住居跡に伴わず、切り合う土坑であった可能性もある。

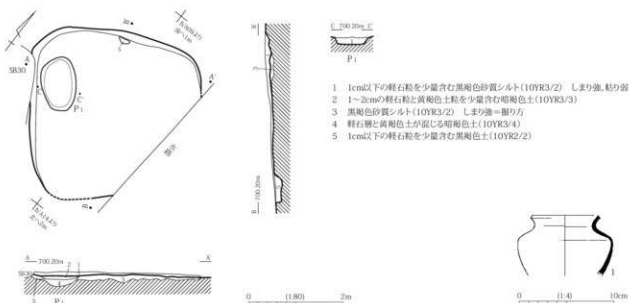
**遺物出土状況：**埋土から古代の土器と弥生土器が765g出土している（第237表）。いずれも小片である。

**遺物：**須恵器短頸壺（1）は、口径、器高とも7cm未満と小型である。

**時期：**30号住居跡に切られていることや出土遺物から、8世紀前半と思われる。

第135表 31号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器短頸壺	6.9	—	現高6.4	25	—	回転ナデ	回転ナデ	—	中や軟	暗灰色	細砂少量	20%	



第125図 31号住居跡 遺構図・遺物図

33号住居跡 (SB33) [第126・127図 PL14・42・43・56・57]

**位置:** 3-②区、II P 15・20 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北西部を水路に壊され全形は不明であるが、残存部からやや南北に長い方形と推定される。 **規模:** 東西4.2m、南北4.7m、検出面からの深さ13~40cm **主軸方位:** N-26°-W **遺構の重複:** 51・56号住居跡を切り、北西部を水路に壊される。 **堆積状況:** 4層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**住居内施設:** カマドとピット8基が検出されている。カマドは、袖や煙道は失われているが、北壁下の東寄りの所にカマドの芯材であったと思われる角礫2個と、土師器長胴甕2点が倒れた状態で出土しており、この付近にあったと思われる。ピットは、P1・3・4・7が主柱穴と思われ、P5・8は壁からやや離れているが、入口関連施設の可能性がある。そのほかのピットは性格不明である。

**遺物出土状況:** 床面と埋土から古代の土器が9.1kgと弥生土器が6.6kg出土している(第237表)。 **遺物:** 土師器甕(4)は体部外面に巻き上げ痕を残し、底面には木葉痕がある。土師器壺(5・6)は接合する部分はないが、同一個体と見られる。鉄鎌(12)は基部がくの字状に曲がる。弥生土器壺(10)と有孔磨製石鉄(11)は混入と思われる。

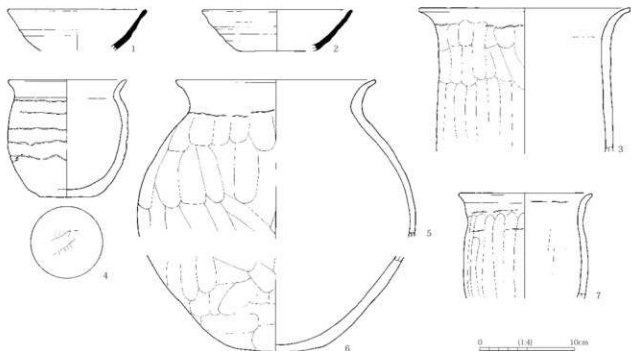
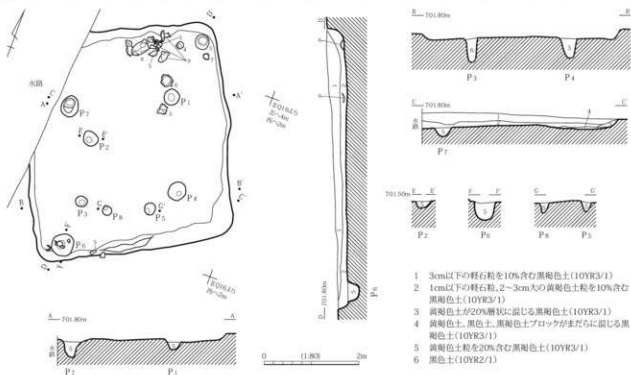
**時期:** 出土遺物から、8世紀前半と思われる。

第136表 33号住居跡出土土器観察表

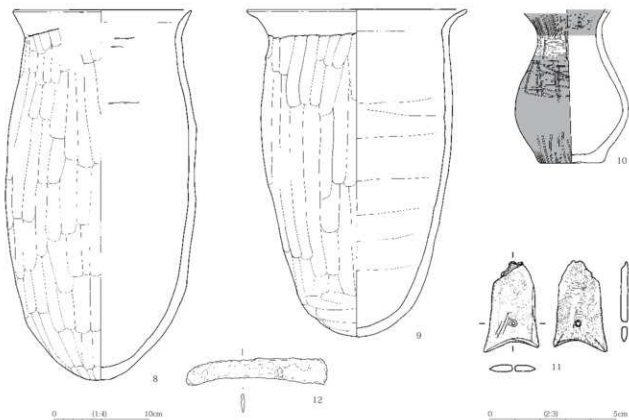
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	瓦志器杯	(14.5)	—	現高4.3	70	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰色	2mm以下の砂粒、炭化物や中多	20%	
2	埋土	瓦志器杯	(15.6)	(8.4)	4.4	30	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	上半期灰色、下半期灰色	3mm以下の砂粒少量	10%	
3	床面	土師器壺	(22)	—	現高15.0	550	—	縦へら削り	横ナデ	—	普通	黒褐色	細砂や中多	5%	
4	床面	土師器壺	12.0	5.0	12.4	615	木葉上痕の 東西手持ち へら削り	巻き上げ痕 残したまま 縦横のナデ	縦ナデ	ナデ	普通	暗灰褐色	雲母、 細砂少量	95% 以上	
5	床面	土師器壺	20.8	—	現高16.6	1425	—	縦から斜め へら削り	横ナデ	—	良好	明赤褐色	3mm以下の 小石、砂粒 や中多	50%	
6	床面	土師器壺	—	10.0	現高10.1	675	ナデ	へら削り	横ナデ	ナデ	良好	淡赤色	2mm以下の 砂粒や中多	20%	
7	床面	土師器壺	(13.7)	—	現高11.2	500	—	縦へら削り	横ナデ 縦横へらナデ ナデ	—	普通	淡褐色 - 淡赤褐色	1mm以下の 細砂や中多	50%	外面の一部 に巻き上げ 痕



図版番号	出土層位・位置	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
8	床面	土師器 釜	(18.7)	2.8	39.2	1915	一文字沈線、 水滲痕?	縦へう刷り	横ナデ	ナデ	普通	灰褐色	5mm以下の 小石多	90%	
9	床面	土師器 釜	23.0	—	34.7	1695	縦へう刷り	縦へう刷り	横ナデ	ナデ	普通	灰褐色	2mm以下の 砂粒やや多	95%	
10	埋土	赤生土器 甕	—	6.8	坂高 16.2	470	へう刷り	上半縦横 ミガキ、 下半縦ミガ キ残存彩	横ナデ	ナデ	やや軟	灰褐色	2mm以下の 砂粒やや多	90%	



第126図 33号住居跡 遺構図・遺物図(1)



第127図 33号住居跡 遺物図(2)

第137表 33号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位地	器種	現存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
11	埋土	有孔磨製石器	90%	3.6	2.2	0.3	2.67	燧灰岩	

第138表 33号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の取次		
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)		厚さ (cm)	重量 (g)
12	ビット	西鏃	15.2	3.8	3.0	636	14.93	2.74	0.42	34.2	分割2点。錆び、土砂、小石全体に付着

## 36号住居跡 (SB36) [第128図 PL14・43・57]

**位置:** 3-③区、II U 5・10、V 1 **検出:** IV層上面で土質の違いと礫群の分布により検出された。**形状:** 東辺に比べて西辺がやや短い台形に近い方形 **規模:** 東西3.2m、南北3.5m、検出面からの深さ8~20cm **主軸方位:** N-7°-W **遺構の重複:** 38・61号住居跡と211号土坑に切られ、一部をカクランに壊される。 **堆積状況:** 単層である。

**住居内施設:** ビット5基と周溝が検出されている。ビットは、P1~3・5が支柱穴と思われる。P4は欠番、P6は性格不明である。周溝は、東・南・西壁の中央付近は壁の直下を走るが、北側はP1・2間を走るため北壁と離れ、南東隅はP3に接続して東・南壁と離れている。南西隅はP5にとりつかずに途切れており、西壁下の周溝とP1の間も途切れている。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器のほかが3.7kg出土している(第237表)。 **遺物:** 須恵器杯(3)は酸化焰焼成である。灰軸陶器碗(9・10)は、高台下半の外面を削っている。鉄製品(12)は、帯金具の鉸具の一部と見られる。

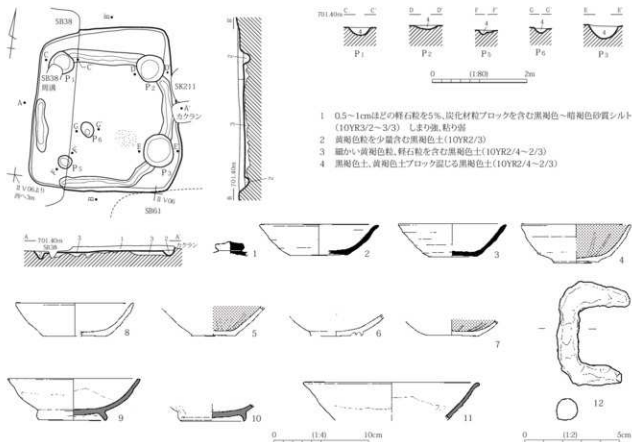
**時期:** 出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第139表 36号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器 鉢	—	口径 3.0	現高 1.6	16	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗灰色	細砂少量	5% 未調	
2	埋土	須恵器 鉢	(12.6)	6.2	3.2	50	手持ちへつ 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰白色	1mm以下の 細砂やや多	30%	
3	埋土	須恵器 鉢	(11.2)	5.2	3.5	56	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	赤褐色	細砂少量	40%	
4	P3	黒色土器 椀	11.2	4.8	4.1	120	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ	回転ナデ後 放射状 ミガキ	普通	淡赤褐色	砂粒やや多	95%	
5	埋土	黒色土器 椀	—	4.7	現高 3.2	54	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 幅広ミガキ、 黒色処理	回転ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	30%	
6	埋土	土師器 高台付椀	—	—	現高 2.4	70	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	茶褐色	細砂少量	20%	
7	埋土	黒色土器 鉢	—	5.8	現高 1.7	50	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ	普通	淡赤褐色	細砂少量	20%	
8	埋土	土師器 鉢	(12.3)	6.8	3.5	47	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	30%	
9	埋土	灰輪陶器 椀	13.7	6.8	4.4	148	回転へつ 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰白色	2mm以下の 砂粒少量	60%	
10	埋土	灰輪陶器 椀	—	高台径 6.6	現高 1.8	53	回転へつ 削り	回転ナデ後 輪跡け掛け	回転ナデ後 輪跡け掛け	回転ナデ後 輪跡け掛け	良好	灰白色	細砂少量	20%	
11	埋土	灰輪陶器 椀	(18.4)	—	現高 4.0	45	—	回転ナデ後 一部回転 へつ削り	回転ナデ	—	良好	灰白色	2mm以下の 砂粒少量	5%	

第140表 36号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の状況		
			長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)			
12	P3	器具	5.7	4.0	1.77	30.3	5.46	3.77	1.02	19.4	分割2点。錆び、土砂全体に付着



第128図 36号住居跡 遺構図・遺物図

## 37 A号住居跡 (SB37A) [第129・130図 PL14・43・56]

**位置:** 3-②区、II P 25 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。当初は37 A号住居跡と37 B号住居跡を1軒の住居跡37号住居跡として調査を進めたが、西側の周溝が当初想定された37号住居跡の西壁と離れたところを回り、中央の礎群が37 A号住居跡のカマドの残骸であることが分かったことから、37 A号住居跡と37 B号住居跡の2軒に分離した。 **形状:** 37 B号住居跡との切り合い部分のプランが不明瞭であるが、ややいびつな隅丸方形と思われる。 **規模:** 東西3.2m、南北残存2.6m、検出面からの深さ11～16cm **主軸方位:** S-22°-E **遺構の重複:** 37 B号住居跡を切る。 **堆積状況:** 単層である。

**住居内施設:** カマドとピット3基が検出されている。カマドは、南東隅に礎群と炭化物の分布もあることからこの部分であったと思われる。ピットは、性格は不明である。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか37 A号と37 B号住居跡の分を合わせて9.8kg出土している(第237表)。 **遺物:** 37 A号住居跡出土が確実なのは、カマド周辺の黒色土器杯(9)、高台付椀(10)、土師器杯(13)、土師器甕(23・24)である。杯・椀類はいずれも底面が右回転糸切りされる。土師器甕(23)は胴部を縦にヘラ削りするが、甕(24)はロクロ成形である。

**時期:** 出土遺物から、10世紀前半と思われる。

## 37 B号住居跡 (SB37B) [第129・130図 PL14・43・56]

**位置:** 3-②区、II P 25 **検出:** IV層上面で土質の違いと礎の分布により検出された。 **形状:** 狭長な長方形 **規模:** 東西4.9m、南北2.8m、検出面からの深さ10～21cm **主軸方位:** E-13°-S **遺構の重複:** 52・59号住居跡を切り、37 A号住居跡と283号土坑に切られる。 **堆積状況:** 3層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**住居内施設:** カマドと周溝が検出されている。カマドは、東壁の南寄りの所にあり、袖は失われているが礎を並べて煙道とし、平石をかぶせて蓋にしている。周溝はカマドのある東壁を除いて全周する。西壁下は非常に幅広となり、幅70cmを超える。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか37 A号と37 B号住居跡の分を合わせて9.8kg出土している(第237表)。 **遺物:** 出土位置から37 B号住居跡出土が確実なのは、黒色土器杯(7・8)、黒色土器椀(12)、土師器甕(22)と羽口(25)である。杯・椀類には底面をヘラ削りするもの(8・12)と右回転糸切りするもの(2・7)がある。

**時期:** 出土遺物から、9世紀後半と思われる。

**所見ほか:** 居住用としては床面積が小さく、羽口も出土することから鍛冶工場の可能性がある。

第141表 37 A・B号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土単位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色陶高台付椀	—	φ9.9	1.7	50	回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	細砂や中多	10%	
2	床面	黒色土器杯	12.1	5.5	3.5	235	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ、黒色処理	普通	暗褐色	1mm以下の細砂や中多	60%	
3	37A住居跡カマド	黒色土器杯	12.2	6.0	4.0	108	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後	回転ナデ後放射状ミガキ	普通	赤褐色	細砂や中多	70%	
4	37A住居跡カマド	黒色土器杯	13.0	5.2	4.1	110	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ	良好	赤褐色	細砂や中多	70%	
5	カマド	黒色土器杯	(13.2)	(5.8)	3.9	45	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ、黒色処理	普通	淡褐色	細砂少量	20%	

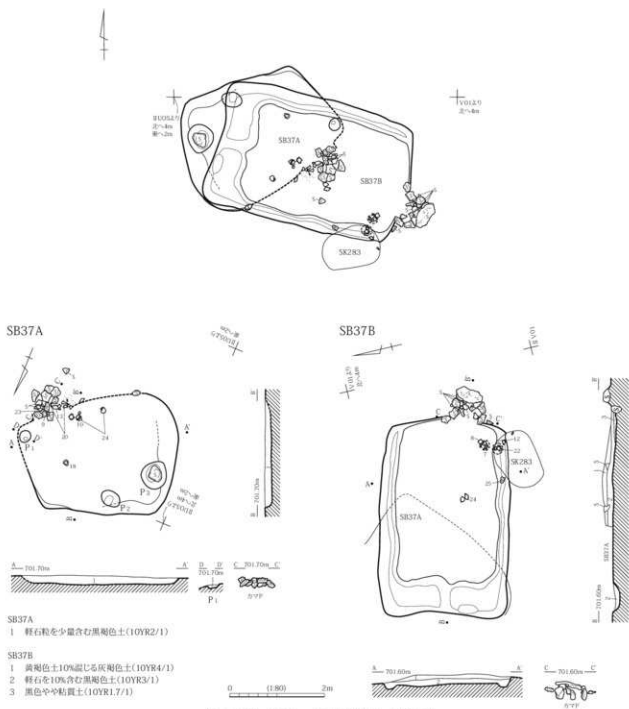
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
6	埋土	土師器杯	(13.6)	6.6	4.2	70	へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	茶褐色	1mm以下の 磁砂や砂多	30%	
7	床面	黒色土器杯	14.5	6.2	4.6	82	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ、黒色処理	普通	茶褐色	磁砂や砂多	95%以上	
8	床面	黒色土器杯	—	5.8	現高2.0	60	へう割り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ、黒色処理	普通	淡茶褐色	1mm以下の 磁砂や砂多	20%	
9	床面	黒色土器杯	—	5.5	現高2.3	70	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色	磁砂や砂多	20%	
10	床面	黒色土器高台付碗	—	高台径8.1 口径7.0	現高4.5	112	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ、黒色処理	普通	淡褐色	磁砂や砂多	30%	
11	埋土	黒色土器高台付碗	—	高台径7.0	現高2.8	67	回転へう割り	回転ナデ	ミガキ後黒色処理	ミガキ後黒色処理	普通	淡褐色	磁砂や砂多	10%	
12	床面	黒色土器碗	(13)	(5.7)	5.8	79	へう割り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ、黒色処理	普通	暗灰褐色	磁砂や砂多	30%	
13	床面	土師器杯	(13.1)	6.2	3.4	68	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ	回転ナデ後放射状ミガキ	普通	淡赤褐色	磁砂や砂多	40%	
14	埋土	土師器杯	(14.2)	(7)	4.0	89	回転糸切り後すのこ状仕立	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	茶褐色	磁砂や砂多	30%	
15	37A住カマド	灰輪陶器碗	—	(6.5)	現高3.7	37	回転へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰白色	磁砂少量	10%	
16	埋土	灰輪陶器碗	(14.3)	—	現高3.6	33	—	回転ナデ後灰輪掛け掛け	回転ナデ後灰輪掛け掛け	—	良好	灰色	磁砂少量	10%	
17	埋土	灰輪陶器碗	—	高台径(7.4)	現高2.4	52	回転へう割り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	磁砂少量	5%未満	
18	床面	灰輪陶器皿	13.1	6.0	3.0	95	回転へう割り	回転ナデ、体部に灰輪掛け掛け	回転ナデ、体部に灰輪掛け掛け	回転ナデ	普通	灰色	磁砂少量	60%	
19	37A住カマド	土師器蓋	(26.8)	—	現高4.5	70	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡褐色	2mm以下の 砂粒や砂多	5%未満	
20	37A住カマド	土師器蓋	(23.4)	—	現高14.6	270	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡褐色	1mm以下の 磁砂少量	10%	
21	37A住カマド	土師器蓋	(23.9)	—	現高7.9	95	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡褐色	2mm以下の 砂粒少量	5%未満	
22	床面	土師器蓋	—	7.2	現高10.0	107	一方向へう割り	縦へう割り	横ナデ	—	普通	暗褐色	磁砂少量	10%	
23	床面	土師器蓋	—	4.0	現高10.4	165	へう割り	縦へう割り	ナデ後一部斜めへうナデ	ナデ後へうナデ	普通	明赤褐色	1mm以下の 磁砂少量	5%	
24	床面	土師器蓋	(23.5)	—	現高17.0	300	—	回転ナデ	回転ナデ後一部へうナデ	—	良好	淡赤褐色	3mm以下の 小石、砂粒 や砂多	5%	
25	埋土	甕口	—	12.1×8.3	—	740	—	すのこ状仕立	—	—	良好	茶褐色	1mm以下の 磁砂や砂多	95%	

第142表 37A・B号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
26	埋土	磨石	100%	9.7	5.1	4.3	350	安山岩	

第143表 37A・B号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
			27	埋土	刀子	4.7	2.0	1.41	14.0	7.3	
			8.1	2.1	1.55	13.5					
			3.0	1.5	1.08	3.9					



SB37A

SB37B

SB37A

1 軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/1)

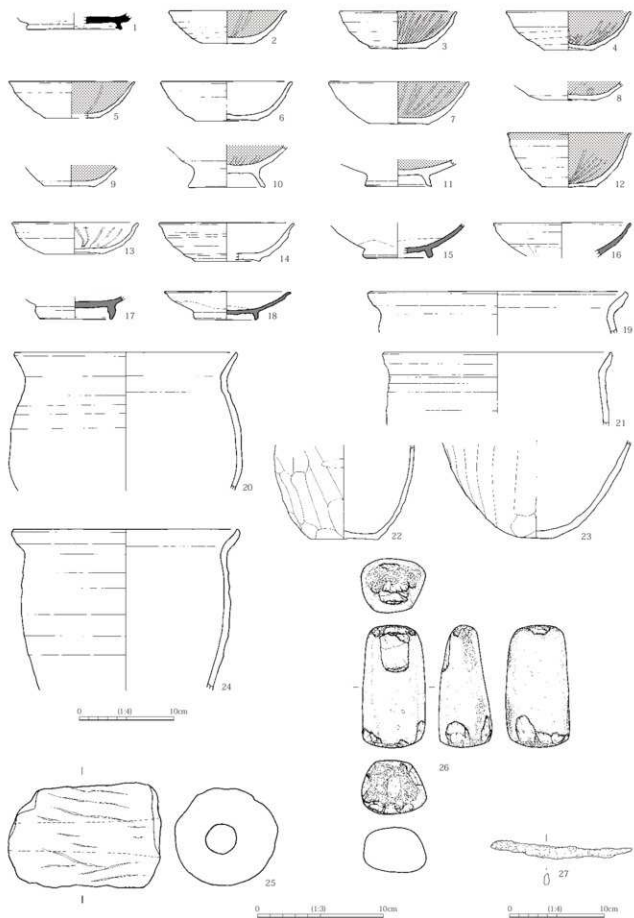
SB37B

1 黄褐色土10%混じる灰褐色土(10YR4/1)

2 軽石を10%含む黒褐色土(10YR3/1)

3 黒色やや粘質土(10YR1.7/1)

第129図 37 A・B号住居跡 遺構図



第130図 37 A・B号住居跡 遺物図

## 38号住居跡 (SB38) [第131図 PL14]

位置：3-③区、IIU5・10 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。 形状：いくつかの土坑に切られて、全形は不明であるが、残存部分からは方形である。 規模：東西3.8m、南北4.2m、検出面からの深さ6～10cm 主軸方位：N-1°-E 遺構の重複：36号住居跡を切り、210・212～214号土坑に切られる。 堆積状況：4層に分かれる。

住居内施設：ピット4基と周溝が検出されている。P2・4・5が主柱穴と思われ、P3はP4との間に浅い窪みがあるが、性格は不明である。周溝は、西壁際の1箇所を除いて全周する。北壁際と南壁際、西壁中央付近では、壁の直下を走るが、東壁際と西壁際の南部では、やや壁から離れる。

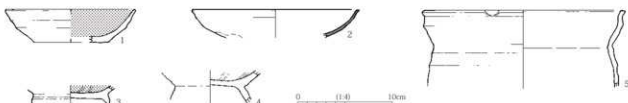
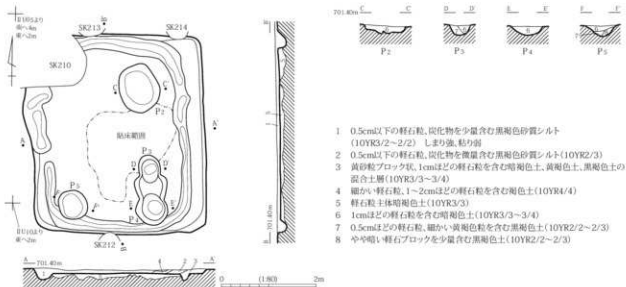
遺物出土状況：埋土から古代の土器ほかかが3.4kg出土しているが(第237表)、いずれも小片である。そのほか、イノシシの上顎骨と第2臼歯、種不明動物の腰椎が出土している(第6章4)。

遺物：土師器甕(5)は口径の1箇所が摘まれている。

時期：出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第144表 38号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	底色	色調	胎土	残存率	備考
1	P5	黒色土器 杯	(13.6)	8	3.5	48	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ、 黒色処理	普通	淡黒褐色	1mm以下の 細砂や中多	10%	
2	埋土	灰釉陶器 鉢	(17.5)	—	底高 3.0	19	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰白色	細砂少量	5%	
3	埋土	黒色土器 高台付甕	—	高台径 8.0	底高 2.0	91	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ、 黒色処理	普通	淡褐色	細砂少量	20%	
4	P4	土師器 高台付甕	—	—	底高 3.4	79	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 赤彩?	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂や中多	10%	
5	埋土	土師器 甕	(20.6)	—	底高 8.0	70	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5% 未満	口径の1箇所 角がつままれる



第131図 38号住居跡 遺構図・遺物図



## 39号住居跡 (SB39) [第132図 PL44]

位置：3-③区、ⅡV1・6 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：南部を9号溝跡に切られて全形は不明であるが、残存部分からは方形と推定される。規模：東西3.9m、南北残存長3.8m、検出面からの深さ10～20cm 主軸方位：N-8°-W 遺構の重複：40・49号住居跡を切り、61号住居跡、9号溝跡に切られる。堆積状況：床直上とその上層の2層に分かれる。

住居内施設：ピット2基と周溝が検出されている。ピット2基は、主柱穴としてもよさそうであるが、それに対応する北西隅と、南東隅ではピットが見つからない。周溝は、東壁際北半～北壁際～西壁際北半の半周巡り、それ以南では検出されていない。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか6.0kg出土している(第237表)。遺物：黒色土器杯(1)は体部外面に正位で則天文字「鳳」(=君)の墨書がある。黒色土器B類碗(3)は、器形や口唇内面の沈線が緑釉陶器の模倣と思われる。土師器甕(4)は、口縁端部に沈線が見られ、断面で外側から粘土を足した痕が見られる。

時期：出土遺物から、10世紀前半と思われる。



第132図 39号住居跡 遺構図・遺物図

第145表 39号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	粘土	残存率	備考
1	床面	黒色土器杯	14.0	6.0	4.0	115	へう附り	回転ナデ	放射状ミガキ、黒色処理	放射状ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	60%	体部外面に墨書「則天文字」
2	埋土	黒色土器杯	(14.9)	—	取高4.0	27	—	回転ナデ	回転ナデ後黒色処理	—	普通	茶褐色	細砂やや多	10%	

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
3	床面	黒色土器 B類椀	(15.2)	高台径 6.4	5.3	182	右回転糸切り	回転ナデ、全面黒色処理	ミガキ、全面黒色処理	ミガキ、黒色処理	普通	暗灰色	1mm以下の細砂やや多	60%	
4	横出	土師器甕	(20.6)	—	器高 8.5	70	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	5%未満	
5	床面	黒色土器椀	—	高台径 8.0	器高 3.1	103	回転ナデ	回転ナデ	放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	20%	
6	横出	灰釉陶器椀	(14.6)	高台径 (7.2)	4.1	80	回転へう前り	回転ナデ後灰釉漬け掛け	回転ナデ後灰釉漬け掛け	回転ナデ	良好	暗緑色	細砂やや多	50%	

第146表 39号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
7	町	釘	3.7	1.3	1.1	3.7	3.35	0.66	0.65	2.0	小破片。錆び、土砂全体に付着

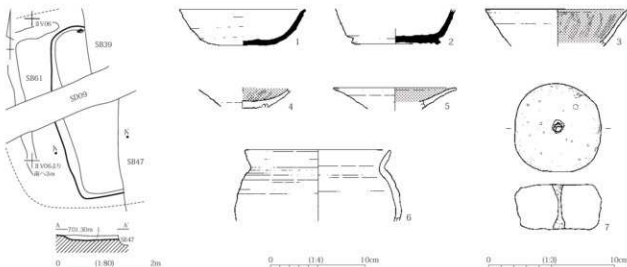
## 40号住居跡 (SB40) [第133図 PL44・56]

位置：3-③区、ⅡV6 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：39・47・61号住居跡と9号溝跡に切られて全形は不明であるが、残存部分から方形と推定される。規模：東西残存幅1.3m、南北3.7m、検出面からの深さ7~10cm 主軸方位：N-9°-W 遺構の重複：39・47・61号住居跡と9号溝跡に切られる。堆積状況：黒褐色土の単層である。

住居内施設：残存部分で施設は検出されていない。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか2.5kg出土している(第237表)が、いずれも小片である。遺物：須恵器杯(1)と須恵器高台付杯(2)は、ともに底面が回転糸切りのままである。土師器甕(6)はロクロ調整される。(7)は軽石製の紡錘車である。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。



1 黄緑釉が全体に多量、1cm以下の軽石粒を  
2~3%含む黒褐色砂質シルト(10YR3/2)

第133図 40号住居跡 遺構図・遺物図

第147表 40号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土部位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(13)	5.0	3.9	75	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	1mm以下の細砂多	30%	
2	埋土	須恵器高台付杯	—	高台径 8.7	器高 3.6	127	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗緑色	白色細砂やや多	30%	
3	埋土	黒色土器椀	(15)	—	器高 3.9	40	—	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	—	普通	淡赤褐色	細砂やや多	10%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	燒成	色調	胎土	残存率	備考
4	埋土	黒色土器 高台付椀	—	—	高さ 2.1	73	—	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	—	普通	暗灰色	細砂少量	10%	
5	埋土	黒色土器 皿	(12.8)	—	高さ 2.2	20	—	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ 黒色処理	—	良好	淡赤褐色	細砂やや多	5%	
6	埋土	土師器 甕	(15)	—	高さ 7.5	120	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡褐色	2mm 以下の 砂粒やや多	10%	

第148表 40号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
7	埋土	紡錘形	100%	7.0	6.8	3.6	101	軽石質アイサイト	

## 42号住居跡 (SB42) [第134図 PL44]

位置：3-②区、II Q 21, V 1 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：東部が調査区外で全形は不明であるが、残存部分からは、やや隅丸の方形と推定される。規模：東西残存幅4.1m、南北5.3m、検出面からの深さ19～38cm 主軸方位：N-15°-W 遺構の重複：なし。東部は調査区外である。堆積状況：3層に分かれ、レンズ状の堆積である。

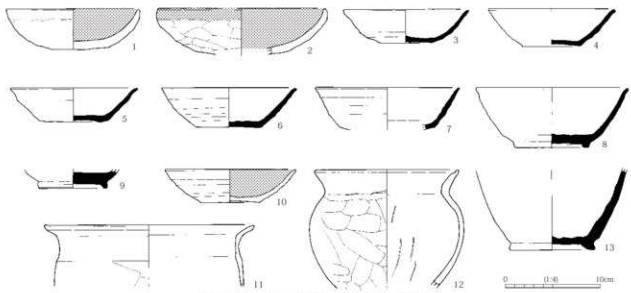
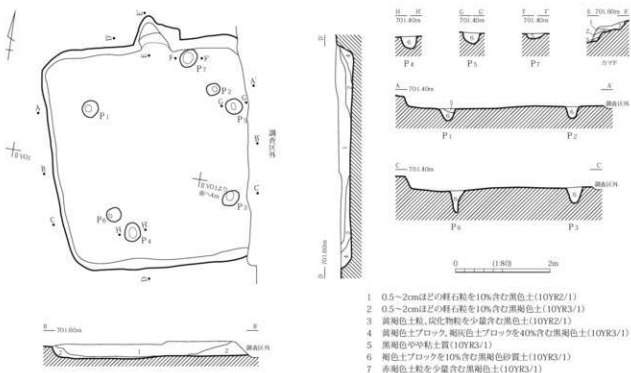
住居内施設：カマドとピット7基が検出されている。カマドの袖は失われていて、煙道のみが残る。ピットは、住居内の位置と並びからP1～3・6が支柱穴と思われる。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか10.1kg出土している(第237表)。遺物：黒色土器杯(1)は、底面が手持ちヘラ削りされる。須恵器杯(3～6)と須恵器高台付椀(8・9)は底面が回転系切りされ、須恵器杯(5)は回転系切り後に手持ちヘラ削りされる。黒色土器杯(10)も底面が回転系切り後手持ちヘラ削りされる。

時期：出土遺物から、8世紀後半と思われる。

第149表 42号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	燒成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器 杯	13.9	—	4.3	165	へう削り後 滑潤	へう削り	ミガキ後 黒色処理	—	普通	淡褐色	1mm 以下の 細砂少量	50%	
2	埋土	黒色土器 椀	(17.5)	—	4.9	70	—	へう削り	ミガキ後 黒色処理	—	普通	茶褐色	2mm 以下の 砂粒やや多	20%	
3	埋土	須恵器 杯	(13)	(5.5)	3.5	72	右回転 系切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	聖織	青灰色	2mm 以下の 砂粒やや多	40%	
4	埋土	須恵器 杯	13.1	6.2	4.0	116	右回転 系切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰褐色	細砂少量	60%	
5	埋土	須恵器 杯	13.2	7.4	3.7	120	右回転 系切り後 手持ち へう削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	暗灰色	1mm 以下の 細砂やや多	50%	
6	埋土	須恵器 杯	13.9	6.8	4.2	113	右回転 系切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	やや 酸化塩 気味	淡黄灰色	細砂少量	50%	
7	埋土	須恵器 杯	(15)	(9.9)	高さ 4.5	75	—	回転ナデ 下端へう 削り	回転ナデ	—	やや軟	茶褐色- 暗灰色	1mm 以下の 細砂やや多	30%	
8	埋土	須恵器 高台付椀	(15.9)	高台径 7.7	6.4	210	回転系切り 後回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂少量	50%	
9	埋土	須恵器 高台付椀	—	高台径 7.2	2.0	105	右回転 系切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	2mm 以下の 砂粒やや多	20%	
10	埋土	黒色土器 杯	(13.6)	(6.1)	3.5	76	回転系切り 後手持ち へう削り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	ナデ後 ミガキ	普通	灰褐色	5mm 代小石 砂粒 やや多	40%	
11	埋土	土師器 甕	(21.9)	—	高さ 6.4	40	—	横へう削り	横ナデ	—	良好	淡赤色	細砂やや多	5% 未満	
12	埋土	土師器 甕	(14.9)	—	高さ 12.5	180	—	へう削り	横ナデ後 へうナデ	—	普通	暗褐色	細砂やや多	30%	
13	埋土	須恵器 甕	—	高台径 8.9	高さ 8.7	210	右回転 系切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	青灰色	細砂やや多	10%	



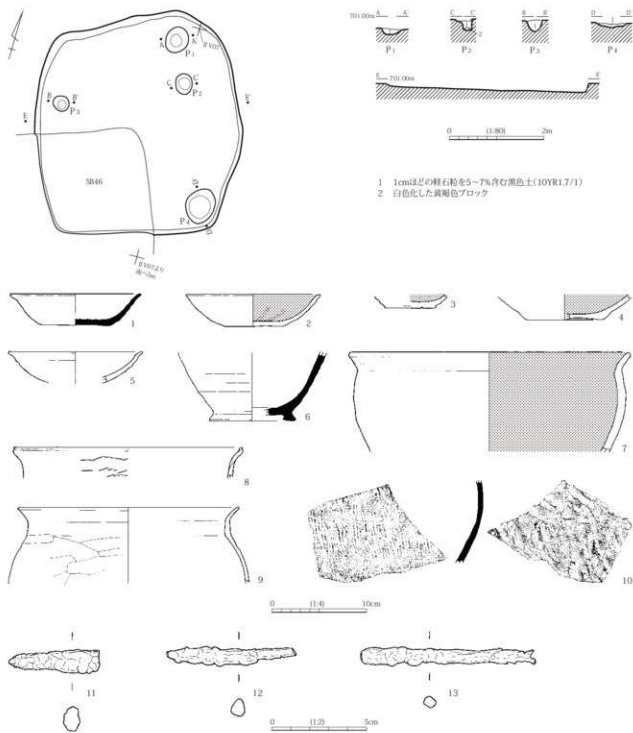
第134図 42号住居跡 遺構図・遺物図

45号住居跡 (SB45) [第135図]

位置：3-③区、ⅡV 1・2・6・7 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：東西壁が膨らんだ胴張りの方形 規模：東西4.3m、南北4.7m、検出面からの深さ13~23cm 主軸方位：N-19°-W 遺構の重複：47・48・50号住居跡を切り、46号住居跡に切られる。堆積状況：黒色土が埋土であるが、削平されてほとんど残っていない。住居内施設：ピット4基が検出されている。並び方が不規則で、性格は不明である。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか12.4kg出土している(第237表)。遺物：須恵器杯(1)、黒色土器杯(3)は、底面が回転糸切りのまま、黒色土器杯(2)は底面が手持ちヘラ削り、黒色土器碗(4)は底面が回転糸切り後ヘラ削りされる。黒色土器鉢(7)は、内面に炭化物が付着する。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。



第135図 45号住居跡 遺構図・遺物図

第150表 45号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	深窓器杯	13.7	7.5	3.4	105	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	1mm以下の細砂やや多	50%	
2	埋土	黒色土器杯	14.0	6.0	3.4	115	手持ちへう刷り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	ナデ後ミガキ	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂少量	60%	
3	埋土	黒色土器杯	—	5.3	1.5	45	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	灰黒色	2mm以下の細砂やや多	10%	内面に縦10mm前後の十字の遺文

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
4	埋土	黒色土器 甕	—	9.2	底高 2.8	85	回転糸切り 後ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ 黒色処理	ナデ後 ミガキ	普通	暗灰褐色	細砂や中多	10%	
5	埋土	土師器 杯	(14)	—	底高 3.3	45	—	回転ナデ	回転ナデ後 一部放射状 ミガキ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	20%	
6	埋土	須恵器 甕	—	高台径 9.0	底高 7.3	162	回転ヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	緑灰色	細砂少量	10%	
7	埋土	黒色土器 鉢	(29.3)	—	底高 10.3	108	—	回転ナデ	回転ナデ後 黒色処理	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5% 未満	内面に灰化物厚く 付いている
8	埋土	土師器 甕	(24)	—	底高 3.2	22	—	ヘラ削り	横ナデ一部 巻き上げ痕	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5% 未満	一部巻き上げ痕 残る
9	埋土	土師器 甕	(23.2)	—	底高 8.0	52	—	ヘラ削り	横ナデ	—	良好	明赤褐色	細砂や中多	5%	
10	埋土	須恵器 甕	14.7 × 10.5		—	303	—	平行明き後 横走沈期	同心円状 当て痕	—	良好	灰黒色 外面黒色 自然黒	細砂、浮分 の吹き出し や中多	5%	折本

第151表 45号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
11	埋土	刀子	5.0	1.4	1.13	7.6	4.81	1.3	0.96	5.6	小破片。錆び、土砂全体に付着。
12	北西部	刀子	14.0	2.0	0.9	19.7	9.23	0.96	0.9	9.1	分割4点。錆び、土砂全体に付着、 剥離始まる。
13	先行トレンチ	刀子	7.0	1.7	0.94	15.3	6.84	1.1	0.7	8.0	完形品。錆び、土砂全体に付着。 他2点、剥離有り(15.8g)。

## 46号住居跡 (SB46) [第136図 PL14・56]

位置：3-③区、ⅡV6・7 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：やや隅丸の方形 規模：東西3.8m、南北3.6m、検出面からの深さ7～23cm 主軸方位：N-21°-W 遺構の重複：45・47・48号住居跡を切り、74号住居跡に切られる。堆積状況：2層に分かれ、ほぼ水平な堆積である。住居内施設：ピット3基が検出されている。P2・5は主柱穴と思われるが、P1は性格不明である。遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか6.2kg出土している(第237表)。遺物：黒色土器杯(1)は底面が手持ちヘラ削り、須恵器杯(2)と黒色土器高台付皿(3)は、底面が回転糸切りのままである。土師器短頸壺(4)は内面の一部に巻き上げ痕がある。時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第152表 46号住居跡出土土器観察表

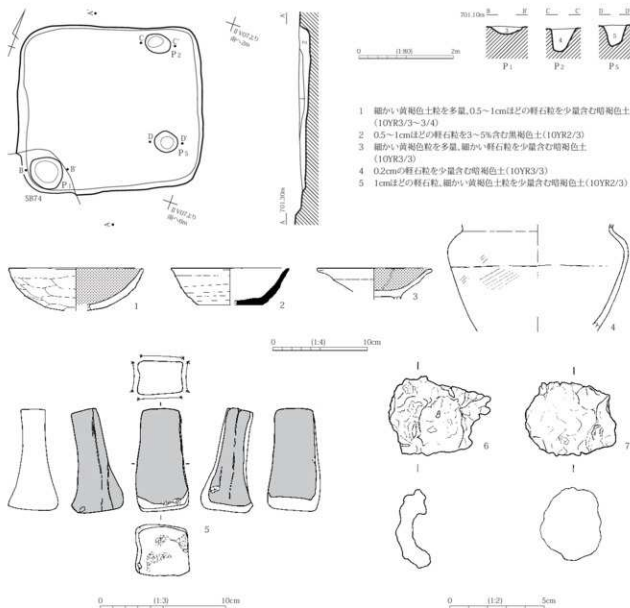
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器 杯	(14)	—	底高 4.6	55	ヘラ削り	ヘラ削り	横ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	横ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	良好	淡赤色	2mm以下の 砂粒や中多	10%	
2	埋土	須恵器 杯	(12.2)	7.0	3.9	35	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	青灰色	細砂少量	20%	
3	埋土	黒色土器 高台付皿	11.8	—	底高 3.3	121	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	淡赤褐色	細砂少量	90%	
4	埋土	土師器 短頸壺	—	—	底高 11.2	70	—	横ナデ後 一部ハケ	横ナデ、 一部巻き 上げ痕	—	良好	淡褐色	1mm以下の 細砂や中多	5%	内面の一部に 巻き上げ痕

第153表 46号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
5	埋土	砥石	50%	8.5	4.3	4.2	170	石島珪岩	

第154表 46号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
6	埋土(ベルト北)	不明	5.4	4.3	2.34	61.4	5.18	3.97	2.21	59.2	錆び、土砂全体に付着
7	埋土	鏡	5.1	4.1	3.51	88.6	4.93	4.1	3.42	85.5	丸くボール状、錆び、土砂全体に付着



第136図 46号住居跡 遺構図・遺物図

## 47号住居跡(SB47) [第137図 PL14]

**位置:** 3-③区、ⅡV6 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 南東部を46号住居跡に切られて、全形は不明であるが、やや東西が長い長方形と推定される。 **規模:** 東西4.2m、南北3.9m、検出面からの深さ4~19cm **主軸方位:** N-7°-W **遺構の重複:** 40号住居跡を切り、45・46・61号住居跡と9号溝跡に切られる。 **堆積状況:** 単層である。

**住居内施設:** ピット3基が検出されている。住居内の位置や並びが不規則で、性格は不明である。

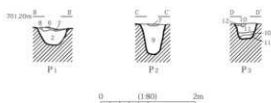
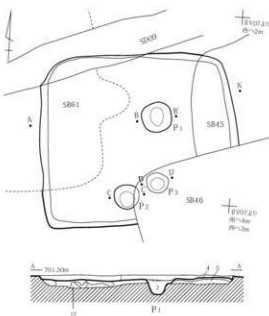
**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか6.1kg出土している(第237表)。 **遺物:** 黒色土器碗(1)と黒色土器高台付碗(4)は底面が回転糸切り、黒色土器杯(2)は底面が磨滅して不明である。土師器

甕(6)はロクロ調整される。磨石(7)は混入と思われる。

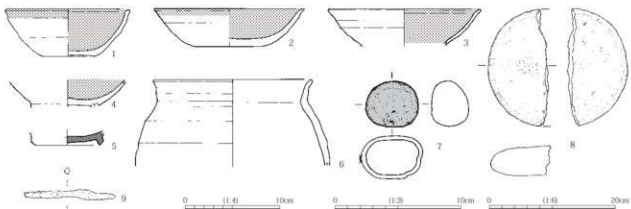
時期：出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第155表 47号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器重(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器 碗	12.9	5.6	5.0	135	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂や中多	80%	
2	埋土	黒色土器 杯	(15.6)	(7)	4.0	59	不明	下縁手持ち へつ附り	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ	普通	暗赤褐色	細砂や中多	20%	
3	埋土	黒色土器 杯	(15.8)	—	現高 3.8	29	—	回転ナデ	回転ナデ後 黒色処理	—	良好	淡赤褐色	7mm大小の 小石、 砂粒や中多	20%	内面灰化物厚い
4	埋土	黒色土器 高台付碗	—	—	現高 2.9	107	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	普通	茶褐色	細砂や中多	20%	
5	P1	灰釉陶器 碗	—	高台径 6.8	1.4	89	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	2mm以下の 砂粒や中多	10%	
6	埋土	土師器 甕	(16.3)	—	現高 9.3	—	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	茶褐色	細砂少量	5% 未満	



- 1 0.5~1cmほどの軽石粒、灰化物粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2)
- 2 0.5~1cmほどの軽石粒を少量含む黄褐色土、黒褐色土の混土層(10YR3/3, 5/6)
- 3 黄褐色土混じりの黒褐色土(10YR3/3)
- 4 暗褐色土ブロックを少量含む狭く締まった黒褐色土(10YR2/2)→SB47床面か
- 5 0.2~0.3cmの軽石粒を少量含む黒褐色砂質シルト(10YR2/2)
- 6 暗褐色灰層(7.5YR5/8)
- 7 黒色炭層(10YR17/1)
- 8 細かい軽石粒、黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR3/3~2/3)
- 9 黄褐色土粒ブロックと黒褐色土の混土層(10YR5/6~5/8)
- 10 細かい黄褐色土粒、0.5~1cmの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3)
- 11 黄褐色土粒を多量に含む黒褐色土(10YR2/3)
- 12 黄褐色土ブロック(10YR5/8)



第137図 47号住居跡 遺構図・遺物図



第156表 47号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
7	下	磨石	100%	3.6	4.2	2.8	22	軽石	
8	埋土	白石	40%	18.5	9.5	5.0	970	安山岩	

第157表 47号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
9	埋土 (東西ベムト内)	刀子	10.0	1.4	1.35	17.3	9.8	0.93	0.81	12.8	完形品。錆び、土砂全体に付着

## 49号住居跡 (SB49) [第138図 PL14・45]

位置：3-③区、ⅡV1 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：39・50・61号住居跡と9号溝跡に切られて北東隅のみ残存する。規模：東西残存長2.0m、南北残存長1.7m、検出面からの深さ6～15cm 主軸方位：N-5°-W 遺構の重複：39・50・61号住居跡と9号溝跡に切られる。

堆積状況：圃場整備で削平されて、埋土はほとんど残っていなかった。

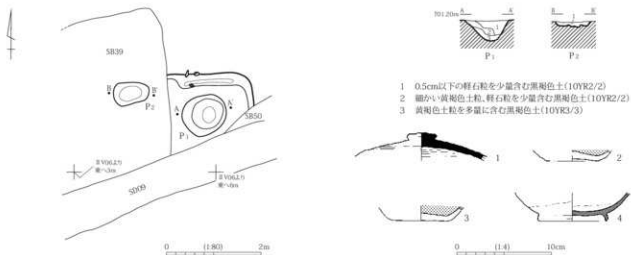
住居内施設：ピット2基が検出されているが、性格不明である。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか1.4kg 種不明焼骨片出土している（第237・244表）。遺物：黒色土器杯（2・3）は底面が回転糸切りされる。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第158表 49号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	底成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	栗色器蓋	—	—	現高 2.9	100	大耳部浅転ナデ、一部回転ヘラ削り	回転ナデ、一部回転ヘラ削り	回転ナデ	—	普通	暗灰色	2mm以下の砂粒やや多	30%	
2	埋土	黒色土器杯	—	5.5	現高 1.1	43	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	濃い褐色	2mm以下の砂粒やや多	20%	
3	埋土	黒色土器杯	—	5.8	現高 1.5	65	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗褐色	細砂やや多	20%	
4	埋土	灰褐色器輪	—	高台径 (7.0)	現高 3.0	42	回転ヘラ削り	回転ナデ、回転溝け跡け	回転ナデ	回転ナデ	普通	黒灰色	2mm以下の砂粒やや多	20%	



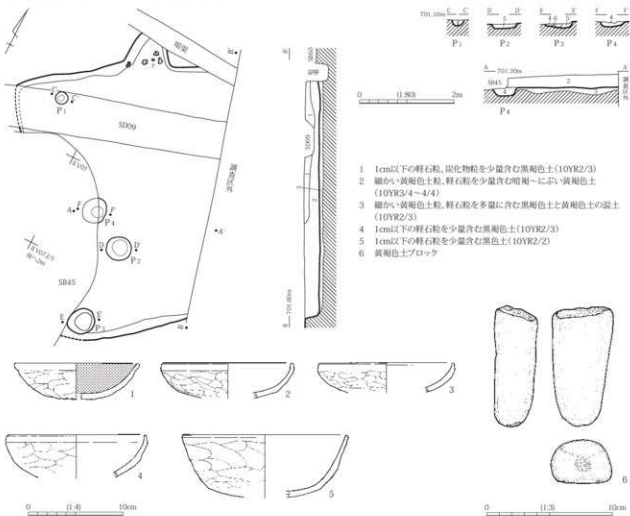
第138図 49号住居跡 遺構図・遺物図

50号住居跡 (SB50) [第139図 PL14・45]

**位置:** 3-③区、ⅡV1・2・6・7 **検出:** Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 東部が調査区外であるほか、45号住居跡切られ、東部が調査区外のため全形は不明であるが、残存部分から方形と推定される。 **規模:** 東西残存幅4.6m、南北6.3m、検出面からの深さ18~29cm **主軸方位:** N-28°-W **遺構の重複:** 48・49号住居跡を切り、45号住居跡、9号溝跡に切られる。東部は調査区外である。 **堆積状況:** 2層に分かれる。

**住居内施設:** カマドとピット4基が検出されている。カマドは、北壁中央にあり、袖は壊れていたが構築材と思われる礫が散乱しており、前面に薄く炭化物の層が見られた。 **遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか3.1kg出土している(第237表)。 **遺物:** 黒色土器杯(1)、土師器杯(2~4)、土師器碗(5)は、体部外面から底面がヘラ削りされ、丸底気味である。

**時期:** 出土遺物から、8世紀前半と思われる。



第139図 50号住居跡 遺構図・遺物図

第159表 50号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器杯	(13)	2.7	3.8	133	ヘラ削り	ヘラ削り	ナデ後ミガキ、黒色処理	ナデ	普通	淡褐色	磁砂やや多	20%	
2	掘り方	土師器杯	(13.6)	—	底高3.7	38	ヘラ削り	ヘラ削り	横ナデ	ナデ	良好	淡赤色	精良	20%	

図版番号	出土層位・位置	西端	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
3	埋土	土師器杯	14	—	高さ 3.1	31	—	ヘラ削り	横ナデ	—	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒少量	10%	
4	埋土	土師器杯	14.6	—	高さ 4.5	32	—	ヘラ削り	横ナデ	—	良好	淡赤色	細砂少量	5%	
5	埋土	土師器碗	17.1	—	高さ 6.6	155	ヘラ削り	ヘラ削り	横ナデ後 横ミガキ	ナデ後 ナデ方向 ミガキ	良好	淡赤色	精良	40%	

第160表 50号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	西端	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
6	埋土	巖石	100%	9.5	4.9	3.5	245	安山岩	

## 60号住居跡 (SB60) [第140図 PL15]

位置：3-③区、ⅡV2 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：不明 規模：東西残存幅1.4m、南北残存長1.0m、検出面からの深さ23～24cm 主軸方位：N-6°-W 遺構の重複：75号住居跡を切る。北部と東部は調査区外である。堆積状況：2層に分かれる。

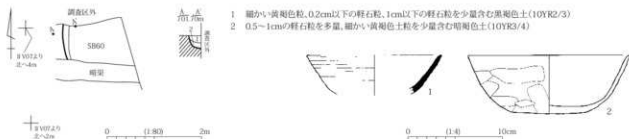
住居内施設：施設は検出されていない。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか663g出土している(第237表)。遺物：土師器碗(2)は、底面がヘラ削りされた後、布状の圧痕が見られる。

時期：出土遺物から、8世紀前半と思われる。

第161表 60号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	西端	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	面取銅杯	14	—	高さ 4.1	25	—	回転ナデ	回転ナデ	—	やや軟	灰白色	細砂少量	10%	
2	埋土	土師器碗	16.9	7.9	6.2	140	ヘラ削り後 布状の圧痕	横ナデ後 部分的に ヘラ削り	ナデ後 ミガキ	ナデ後 ミガキ	普通	淡褐色	細砂少量	30%	



第140図 60号住居跡 遺構図・遺物図

## 61号住居跡 (SB61) [第141図 PL15]

位置：3-③区、ⅡU5、V1 検出：40・47号住居跡の調査中に周溝と焼土面を検出したことにより検出。

形状：不明 規模：東西不明、南北不明、検出面からの深さ1～4cm 主軸方位：N-10°-W 遺構の重複：36・39・40・47・49号住居跡を切り、9号溝跡に切られる。但し、40号住居跡の調査時には本住居跡の存在が分からず、床を抜いてしまった。堆積状況：3層に分かれる。

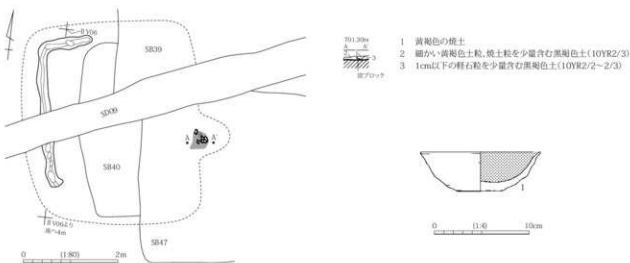
住居内施設：周溝と焼土面が検出された。焼土面は住居の南東隅に当たり、この部分にカマドがあったことも考えられる。周溝は北東隅から西壁沿いの一部のみ残存する。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか433g出土している(第237表)。遺物：黒色土器杯(1)は、底面が回転条切りされる。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第162表 61号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	カマド	黒色土器杯	12.4	4.8	4.1	100	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	普通	褐色	細砂少量	60%	



第141図 61号住居跡 遺構図・遺物図

## 62号住居跡 (SB62) [第142図 PL15・45]

**位置:** 3-③区、II U 10 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** やや東西に長い方形 **規模:** 東西4.0m、南北3.5m、検出面からの深さ7～23cm **主軸方位:** N-5°-W **遺構の重複:** 63・66号住居跡を切り、65号住居跡と9・10号溝跡に切られる。 **堆積状況:** 上部を削平されて埋土はほとんど残っていないが、黒褐色土の単層である。

**住居内施設:** カマドとピット4基が検出されている。カマドは北壁の中央にあり、袖は壊れているが、炭層が分布し、周囲に構築材と思われる礫が散在していた。ピットは、カマド脇のP4は貯蔵穴と見られるが、そのほかのピットは性格不明である。

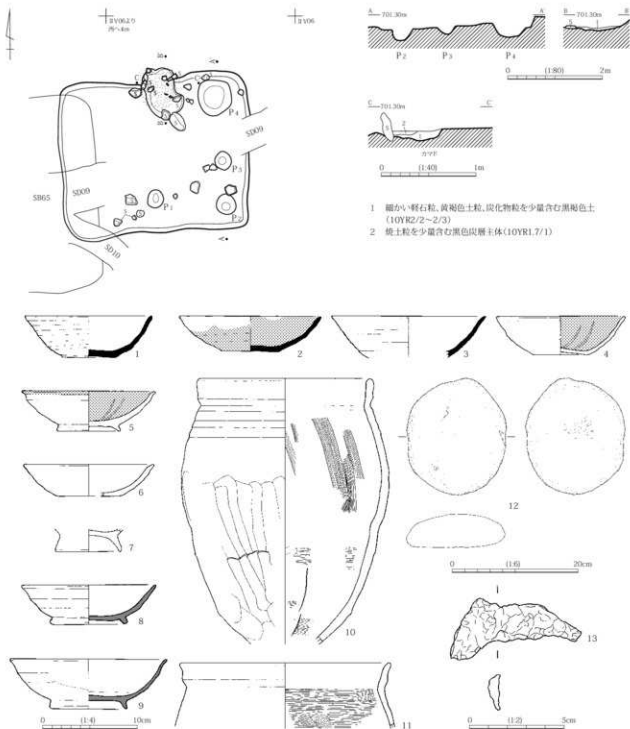
**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか、4.9kg出土している(第237表)。 **遺物:** 須恵器杯(1～2)、黒色土器杯(4)、黒色土器高台付碗(5)、灰軸陶器碗(8・9)は、底面が回転糸切りされ、土師器杯(6)は底面がへら削りされる。土師器甕(10・11)は胴部上半が回転ナデされ、口縁部が直立気味となる。

**時期:** 出土遺物から、10世紀前半と思われる。

第163表 62号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	13.3	5.7	4.4	120	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	2mm以下の砂粒や多	90%	
2	埋土	須恵器杯	14.8	6.0	3.7	97	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	褐色	細砂少量	40%	
3	P5	須恵器杯	(16)	—	板高4.4	37	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	灰色	3mm以下の小石、砂粒少量	20%	
4	P1	黒色土器杯	(13.6)	5.8	4.1	72	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	明確	茶褐色	2～3mmの小石、砂粒や多	40%	内面2本1組で土文字の埋文が見られる
5	埋土	黒色土器高台付碗	(14)	高台6.6	4.2	117	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	灰褐色	2mm以下の砂粒や多	50%	内面2本1組で土文字の埋文が見られる
6	埋土	土師器杯	(12.6)	(6.6)	3.4	30	へら削り	回転ナデ	磨かれ、平滑	磨かれ、平滑	良好	褐色	細砂少量	5%	

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
7	埋土	土師器 高台付椀	—	高台径 6.8	器高 2.3	80	右回転 糸切り	—	—	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂やや多	10%	
8	埋土	片輪陶器 椀	(14)	高台径 7.5	4.2	120	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	明灰色	細砂少量	60%	無軸
9	埋土	片輪陶器 椀	(16.4)	(7.8)	5.3	70	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	細砂やや多	30%	
10	埋土	土師器 罍	(18.1)	—	器高 28.1	522	—	下平紀、 下部横へつ 筋り、上半 回転ナデ	上平紀、 下部横へつ 筋り、上半 回転ナデ	—	良好	淡褐色	1mm以下の 細砂やや多	20%	
11	埋土	土師器 罍	(21.6)	—	7.0	100	—	回転ナデ	横ハケ目	—	良好	淡赤褐色	1mm以下の 細砂少量	5%	未調



第142図 62号住居跡 遺構図・遺物図

第164表 62号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
12	埋土	台石	100%	18.5	15.8	5.3	2200	安山岩	

第165表 62号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の現状		
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
13	ペルト南	不明	6.6	2.0	2.0	44.6	7.08	1.88	0.74	16.9	先端部破損、錆び、土跡全体に付着

## 63号住居跡 (SB63) [第143図 PL15]

**位置:** 3-③区、II U 10 **検出:** 62号住居跡掘り下げ前の先行トレンチ断面で62号住居跡床面に、別の床面が見られたことにより検出された。**形状:** 62号住居跡ほかに切られるが、残った床面は、ややいびつな方形である。**規模:** 東西残存3.1m、南北3.6m、検出面からの深さ13~23cm **主軸方位:** N-1°-W **遺構の重複:** 76号住居跡を切り、62・65号住居跡と9・10号溝跡に切られる。**堆積状況:** 上部を削平されて埋土はほとんど残っていないが、黒褐色土の単層である。

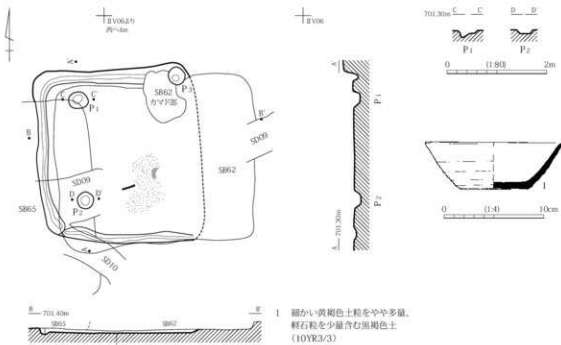
**住居内施設:** ピット3基と周溝が検出されている。P1・2は北西と南西隅にあり、主柱穴と思われる。周溝は南西隅でわずかに切れるほかは、北・西・南壁下を全周するが、東壁下の有無は62号住居跡に切られて不明である。

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほか、969g出土している(第237表)。**遺物:** 須恵器杯(1)は、底面が回転糸切りされる。

**時期:** 出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第166表 63号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	底高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(13.6)	6.6	4.7	102	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	普通	灰色	2mm以下の砂粒やや多	40%	



第143図 63号住居跡 遺構図・遺物図

## 64号住居跡 (SB64) [第144図 PL15・45]

位置：3-③区、IIU9・10 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：西部が水路で全形は不明であるが、残存部分からは、やや隅丸の方形と推定される。規模：東西2.3m、南北3.2m、検出面からの深さ12～15cm 主軸方位：N-3°-W 遺構の重複：65号住居跡と269号土坑を切り、9号溝跡と268号土坑に切られる。堆積状況：黒色土の埋土であるが、ほとんど残っていないかった。

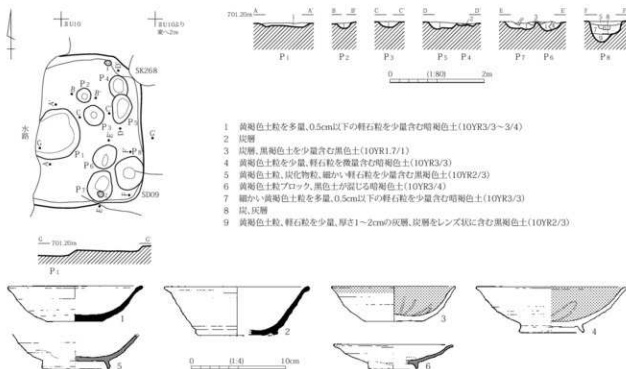
住居内施設：ビット8基が検出されているが密集しすぎており、すべてが本住居跡に伴うものかどうか不明である。

遺物出土状況：埋土・床面とビット内から古代の土器ほか、1.5kg出土している(第237表)。遺物：須恵器杯(1)、須恵器高台付椀(2)、黒色土器高台付椀(4)は、底面が回転糸切りのままであるが、黒色土器杯(3)は回転糸切り後へら削りされる。灰釉陶器椀(5)と灰釉陶器皿(6)は底面が回転へら削りされる。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第167表 64号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	須恵器杯	14.0	5.9	3.8	142	概めの右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	2mm以下の砂粒やや多	80%	
2	P7	須恵器高台付椀	15.0	高台径7.7	5.2	40	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	5mm以下の小石やや多	10%	
3	埋土	黒色土器杯	13.0	6.2	3.7	115	回転糸切り後へら削り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	60%	
4	P7	黒色土器高台付椀	(15.7)	高台径6.6	4.9	115	回転糸切り	右回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色	1mm以下の細砂やや多	50%	内面4方向に窪み状の痕
5	P8	灰釉陶器椀	—	高台径6.8	3.7	87	回転へら削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	1mm以下の細砂やや多	30%	
6	埋土	灰釉陶器皿	(12.4)	高台径5.0	2.7	23	回転へら削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	緑灰色	2mm以下の砂粒少量	10%	



第144図 64号住居跡 遺構図・遺物図

## 65号住居跡 (SB65) [第145図 PL15・46]

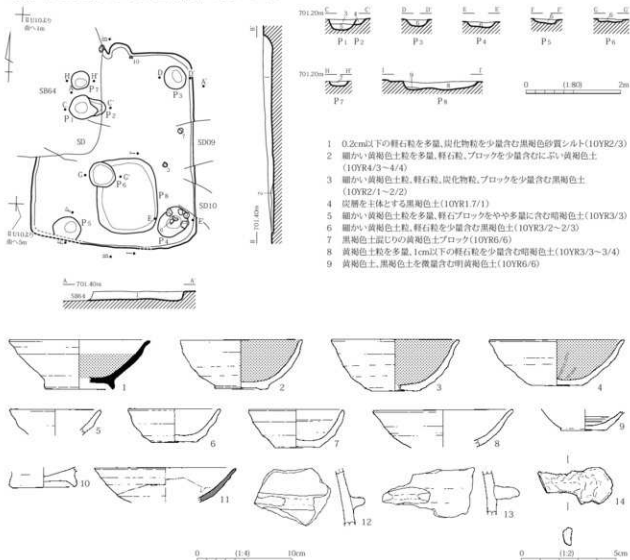
位置：3-③区、II U 10 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：64号住居跡に切られて、全形は不明であるが、残存部分からは、南北に長い長方形と推定される。規模：東西3.5m、南北4.1m、検出面からの深さ5～18cm 主軸方位：N-3°-W 遺構の重複：62・63・66・68号住居跡を切り、64号住居跡と9・10号溝跡に切られる。堆積状況：2層に分かれる。

住居内施設：ピット8基が検出されている。P3・4・5・7が主柱穴と見られ、住居が狭長なためか、東側の柱P3・4が壁に近くなっている。そのほかのピットは性格不明である。

遺物出土状況：埋土・床面とピット内から古代の土器ほかか、4.9kgと少量出土している(第237表)。

遺物：赤焼きの須恵器高台付碗(1)は、内面を磨いて黒色処理する。黒色土器碗(2-4)、土師器碗(5-10)は、ほとんどが椀形の器形である。土師器羽釜(12-13)は、鈎が全周するもの(12)と部分的に付くもの(13)がある。

時期：出土遺物から、10世紀後半と思われる。



第145図 65号住居跡 遺構図・遺物図



第168表 65号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	境況	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器 高台付碗	(14.6)	高台径 7.0	5.2	77	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	淡赤灰色	2mm以下の 砂粒やや多	20%	
2	埋土	黒色土器 碗	(12.7)	5.4	5.3	130	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	淡茶褐色	2mm以下の 砂粒やや多	50%	
3	床面	黒色土器 碗	13.3	5.1	5.6	74	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	普通	淡茶褐色	細砂少量	20%	
4	埋土	黒色土器 碗	(14.1)	5.5	4.9	120	回転糸切り 後すのこ状 仕直し	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	普通	淡褐色	2mm以下の 砂粒やや多	30%	内面中心から9 方向に放射状破文
5	埋土	土師器 碗	9.5	—	現高 2.7	13	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡赤色	細砂少量	5%	
6	P4	土師器 碗	9.6	4.9	3.6	73	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	60%	
7	床面	土師器 碗	9.9	4.8	4.1	113	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡褐色	5mm大の 小石を砂粒 やや多	95% 以上	
8	埋土	土師器 杯	(14.5)	—	現高 4.0	37	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	褐色	細砂少量	10%	
9	埋土	土師器 碗	—	4.8	現高 2.5	60	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	褐色	2mm以下の 砂粒少量	30%	内面へうによる酒 盃形状の凹み痕
10	床面	土師器 高台付碗	—	高台径 6.4	現高 2.1	80	右回転 糸切り	—	—	回転ナデ	普通	淡褐色	2mm以下の 砂粒少量	20%	
11	埋土	灰釉陶器 碗	(14.7)	—	現高 3.7	30	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	淡緑灰色	精良	10%	
12	埋土	土師器 羽釜	—	8.0 × 6.1	—	67	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	茶褐色	細砂やや多	5% 未満	
13	埋土	土師器 羽釜	—	9.6 × 5.3	—	82	—	横ナデ	横ナデ	—	普通	淡赤灰色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未満	

第169表 65号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
14	北西 (SD09 北)	不明	3.8	2.1	0.8	5.3	3.94	1.94	0.47	4.2	薄板状。錆び、土砂全体に付着

## 67号住居跡 (SB67) [第146図 PL15・46]

位置：3-③区、ⅡV11 検出：72・73号住居跡の調査中、これらの住居跡の外側に別の床面があったことにより検出された。形状：不明 規模：東西残存長1.9m、南北残存長2.5m、検出面からの深さ0cm 主軸方位：不明 遺構の重複：72・73号住居跡に切られる。堆積状況：埋土は残っていない。

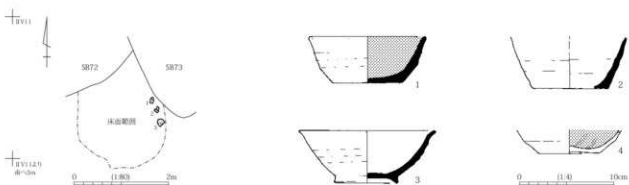
住居内施設：施設は検出されていない。

遺物出土状況：床面から古代の土器ほか、1.3kg出土している(第237表)。遺物：須恵器(1~3)はいずれも赤焼きの須恵器で、碗(1)は、内面を磨いて黒色処理する。高台付碗(3)は、須恵器にはない器形で、灰釉陶器の器形の模倣と思われる。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第170表 67号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	境況	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	須恵器 碗	(12.0)	7.2	4.9	102	回転糸切り 後すのこ状 仕直し	回転ナデ	回転ナデ後 細かい ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 細かい ミガキ、 黒色処理	良好	赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	40%	
2	床面	須恵器 碗	—	(7.8)	現高 5.4	55	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	5%	
3	床面	須恵器 高台付碗	14.2	高台径 6.5	5.6	153	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	軟質	淡赤灰色	2mm以下の 砂粒やや多	70%	
4	埋土	黒色土器 杯	—	6.2	現高 2.4	47	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	普通	灰褐色	3mm以下の 砂粒やや多	20%	内面2本単位で 中心から4方向に 放射状破文



第146図 67号住居跡 遺構図・遺物図

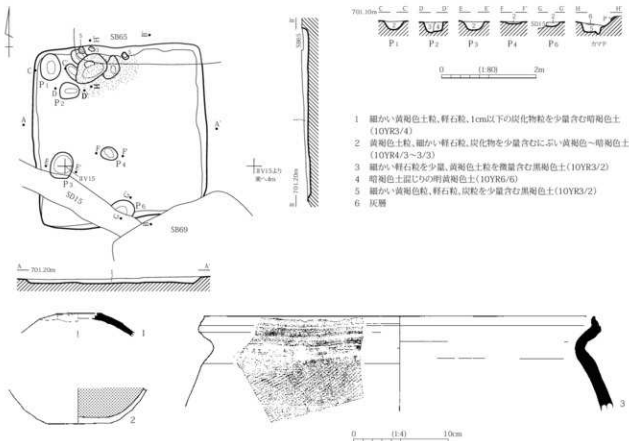
68号住居跡 (SB68) [第147図 PL15]

位置：3-③区、II U 9・10・14・15 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：方形  
 規模：東西3.7m、南北3.9m、検出面からの深さ6～30cm 主軸方位：N-2°-W 遺構の重複：65・  
 69号住居跡と15号溝跡に切られる。堆積状況：黒褐色土の単層である。

住居内施設：カマドとピット5基が検出されている。カマドは北壁中央よりやや西側にあり、炭化物の分布と少量の礫、浅い窪みが見られるが、焼土は検出されていない。ピットは、住居内の位置や並びが不規則で、性格は不明である。

遺物出土状況：埋土・床面とピット内から古代の土器ほか、1.9kg出土している(第237表)。遺物：須恵器蓋(1)は、体部が丸みを持つ。黒色土器碗(2)は、底面を回転糸切りした後、手持ちヘラ削りする。須恵器甕(3)は口縁部がくの字状に内湾する。

時期：出土遺物から、8世紀後半と思われる。



第147図 68号住居跡 遺構図・遺物図



第172表 69号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	カマド	須恵器蓋	16.6	—	3.4	247	天井部回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰色	3mm以下の砂粒多	80%	
2	カマド	須恵器蓋	18.1	—	1.8	260	天井部回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	黒灰色	2mm以下の砂粒やや多	90%	
3	カマド	須恵器杯	13.5	8.2	3.9	205	回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	4mm以下の小石多	100%	底面ヘラ記号「×」
4	カマド	土師器蓋	(22.8)	—	底高4.8	78	—	縦ヘラ削り	縦ヘラナデ	—	普通	灰褐色	1mm以下の細砂少量	5%未満	
5	カマド	土師器蓋	24.0	—	底高17.7	940	—	縦ヘラ削り	横ナデ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	20%	
6	埋土	縄文土器深鉢	6.8 × 4.5		41	—	横ナデ後口縁下段削り付	ナデ	—	—	普通	淡赤褐色	5mm大の小石も砂粒少量	5%未満	拵本

蓋(1・2)は、天井部を回転ヘラ削りする。須恵器杯(3)は、底部を回転ヘラ削りの後手持ちヘラ削りし、ヘラ記号「×」が記される。縄文土器(6)は混入である。

時期：出土遺物から、8世紀前半と思われる。

### 70号住居跡 (SB70) [第149図 PL15]

位置：3-③区、II U 15 検出：IV層上面で北壁の一部と床面が見られたことにより検出された。

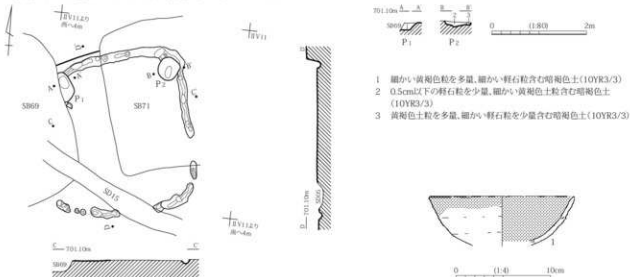
形状：壁のほとんどを削平されて、全形は不明であるが、残存する周溝から方形であったと推測される。

規模：東西3.1m、南北3.5m、検出面からの深さ0cm 主軸方位：N-19°-W 遺構の重複：69・71号住居跡と15号溝跡に切られる。堆積状況：埋土は残っていない。

住居内施設：ピット2基と周溝が検出されている。P1・2は北東と北西の角にあり、主柱穴と思われる。周溝は、東壁と南壁下で途切れる部分があるが、周溝の浅かった部分が削平されたため、ほぼ全周していたと思われる。

遺物出土状況：周溝とピット内から古代の土器ほか、770g出土している(第237表)。遺物：黒色土器碗(1)は、体部外面の一部に巻き上げ痕が残る。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。



第149図 70号住居跡 遺構図・遺物図

第173表 70号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P1	黒色土器 壺	(15.2)	—	残高 5.2	45	—	同軸ナデ	ミガキ後 黒色包埋	—	良好	淡褐色	細砂少量	10%	体部外面の一部に粘土層状包埋

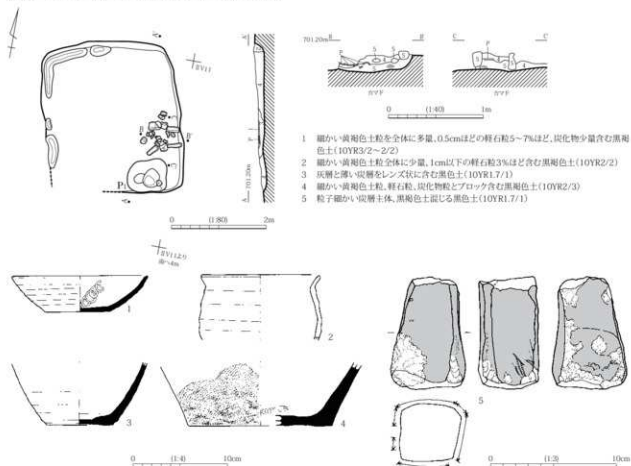
## 71号住居跡 (SB71) [第150図 PL16・46・56]

位置：3-③区、II U 10・15、V 11 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：方形  
規模：東西2.9m、南北3.2m、検出面からの深さ9～22cm 主軸方位：E-14°-N 遺構の重複：66・70・72号住居跡を切る。南西隅は削平されている。堆積状況：4層に分かれる。

住居内施設：カマドとピット1基、周溝が検出されている。カマドは、東壁中央よりやや南寄りにあり、石組のカマドである。ピットはカマドの脇にあり、貯蔵穴と見られる。周溝は、カマドの反対側の北西角と、北壁、西壁の一部に見られ、それ以外の部分では検出されていない。

遺物出土状況：埋土とピット内から古代の土器ほか、2.8kg出土している(第237表)。遺物：赤焼きの須恵器杯(1)は、内面の螺旋状暗文が放射状に5方向に施される。須恵器瓶(3)は底面が静止糸切りされる。

時期：出土遺物から、9世紀後半と思われる。



第150図 71号住居跡 遺構図・遺物図

第174表 71号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	カマド	須恵系 土師器 鉢	14.1	6.7	3.8	158	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 黒色処理?	回転ナデ後 黒色処理?	軟	赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	90%	内面5方向の放射 状に編み状印文
2	P1	土師器 鉢	(12.4)	—	現高 6.9	35	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	茶褐色	1mm以下の 細砂やや多	5%	未測
3	カマド	須恵系 土師器 鉢	—	(7)	現高 6.6	120	静止糸切り	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	普通	赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	5%	未測
4	カマド	須恵系 土師器 鉢	—	(1.5)	現高 6.8	212	へう削り	格子甲き後 下詰めへう 削り	横ナデ	ナデ	良好	暗灰色	5mm大の 小石砂粒 少量	5%	未測 拓本

第175表 71号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
5	埋土	磁石	50%	8.9	5.9	4.7	355	石高麗岩	

## 72号住居跡 (SB72) [第151図 PL16・47]

位置：3-③区、II U 10・15、V 6・11 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：方形 規模：東西3.3m、南北3.6m、検出面からの深さ17～22cm 主軸方位：N-20°-W 遺構の重複：66・67・73号住居跡を切り、71号住居跡と10号溝跡に切られる。堆積状況：4層に分かれ、レンズ状の堆積である。

住居内施設：カマドと周溝が検出されている。カマドは、東壁中央よりやや南寄りにあり、周溝が途切れた所に礫と少量の炭層の分布がある。周溝は、このカマドの部分と西壁沿いの2箇所を除いて、全周している。

遺物出土状況：埋土と床面から古代の土器ほか、7.7kg出土している(第237表)。遺物：土師器鉄鉢形土器(2・3)が2個体出土している。土師器甕(4・5)も2個体出土しているが、鉄鉢形土器(2)は体部外面に煤、内面に炭化物が付着しており、煮炊に使用されている。

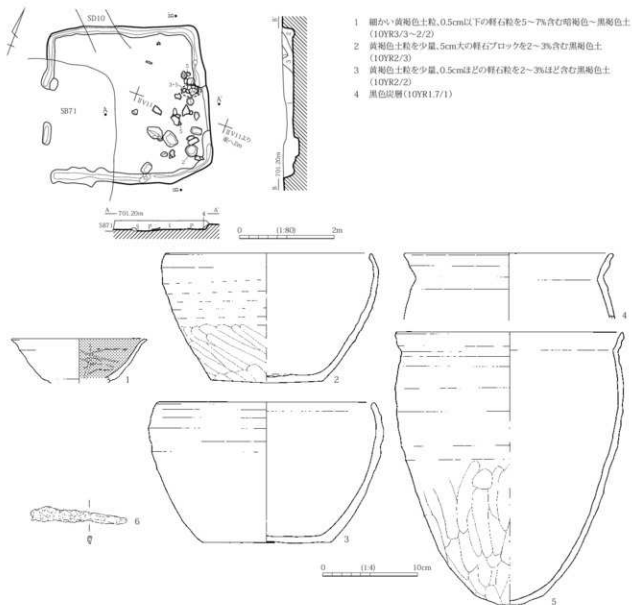
時期：出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第176表 72号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土師器 鉢	(14)	—	現高 4.7	38	—	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ、 黒色処理	—	普通	赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	10%	
2	床面	土師器 鉄鉢形 土器	21.6	11.8	13.7	920	手持ちへう 削り	回転ナデ後 下平削り へう削り	回転ナデ	割落	良好	淡赤褐色	1mm以下の 細砂少量	95%	
3	カマド	土師器 鉄鉢形 土器	(22.6)	(13.6)	14.8	462	一方削りへう 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色	細砂少量	20%	
4	埋土	土師器 甕	(21.9)	—	現高 7.0	88	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	赤褐色	1mm以下の 砂粒やや多	5%	
5	カマド	土師器 甕	23.6	—	28.9	1560	へう削り	下平削りへう 削り、 割落横ナデ	不整方向 ナデ	—	普通	淡赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	30%	

第177表 72号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の現状		
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		重量 (g)	
6	南北先行トレンチ内	刀子	10.3	2.2	0.58	23.9	10.14	1.22	0.46	16.1	分割2点。錆び、土粉全体に付着



第151図 72号住居跡 遺構図・遺物図

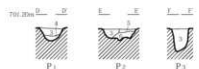
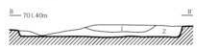
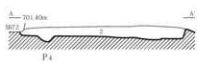
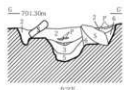
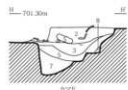
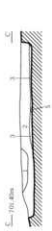
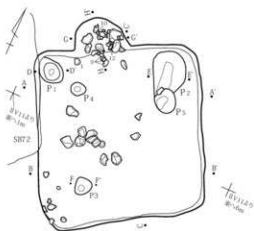
## 73号住居跡 (SB73) [第152図 PL16・47・56]

**位置:** 3-③区、ⅡV 6・11 **検出:** Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 方形 **規模:** 東西3.5m、南北4.3m、検出面からの深さ6～22cm **主軸方位:** N-27°-W **遺構の重複:** 67・74号住居跡を切り、72号住居跡に切られる。南西端を削平される。**堆積状況:** 3層に分かれ、レンズ状の堆積である。

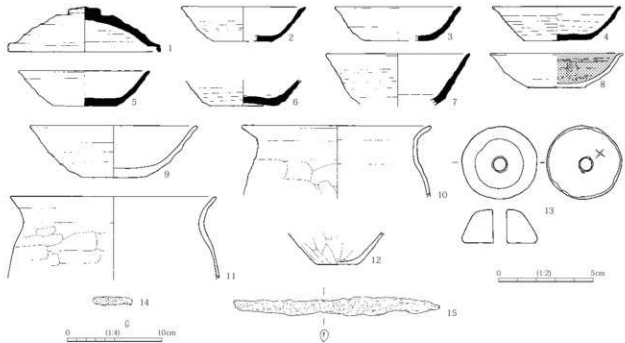
**住居内施設:** カマドとピット5基が検出されている。カマドは、北壁中央よりやや西寄りであり、石組のカマドで、礫と土器が散在しているほか、掘り方が残っていた。ピットは、住居跡内の位置と並びから、P3・4が支柱穴と思われるがそのほかのピットは性格不明である。

**遺物出土状況:** カマド内や埋土から古代の土器ほか、8.0kg出土している(第237表)。**遺物:** 須恵器杯(2～6)と土師器碗(9)は底面が回転糸切りのままであるが、黒色土器杯(8)は底面を回転糸切り後手持ちヘラ削りする。土師器甕(10・11)は、頸部が直立下から口縁部が外反する、コの字状口縁である。石製の紡錘車(13)は「+」の刻書がある。

**時期:** 出土遺物から、8世紀後半と思われる。



- 1 0.2cm以下の軽石粒をやや多量、0.5～1cmほどの軽石粒を3～5%、細かい黄褐色土粒を少量含む黒褐色砂質シルト(10YR2/2～2/3) しまり強、粘り弱
- 2 黄褐色粒をブロック状に含む黒褐色砂質シルト(10YR2/2～2/3) しまり強、粘り弱
- 3 1cm以下の黄褐色土粒、炭化粒、0.5cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3)
- 4 黄褐色土主体で黒褐色土が混じる明黄褐色土(10YR6/8)
- 5 0.5cm以下の軽石粒、黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3)
- 6 黄褐色土粒を多量に含む黒褐色土(10YR2/3)
- 7 軽石ブロック、黄褐色土粒、炭化物を少量含む黒色～黒褐色土(10YR2/2～3/2)
- 8 黒色土ブロック(10YR2/1)



第152図 73号住居跡 遺構図・遺物図



第178表 73号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	断面			底面	外面	内面	底部内面	底感	色調	胎土	残存率	備考
							底面	外面	内面									
1	カマド	須恵器蓋	(16)	—	4.6	182	大耳部 回転ナデ後 一部回転 へう削り	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗緑灰色	2mm以下の 砂粒やや多	50%				
2	カマド	須恵器杯	(13)	6.0	3.7	43	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	7mm大、小 石、砂粒 やや多	20%				内外面に1条ずつ 丸押痕
3	埋土	須恵器杯	(13)	(7)	3.6	45	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	2mm以下の 砂粒やや多	20%				
4	埋土	須恵器杯	13.4	7.0	3.6	153	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	精良	100%				
5	埋土	須恵器杯	13.6	6.6	3.8	175	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂少量	95% 以上				
6	埋土	須恵器杯	—	7.0	2.8	70	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	軟	灰褐色	2mm以下の 砂粒やや多	10%				
7	P4	須恵器 椀	(15)	—	高さ 5.5	72	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗灰色	2mm以下の 砂粒やや多	20%				
8	埋土	黒色土器 杯	(13.9)	6.0	3.6	70	回転糸切り 後手持ち へう削り	回転ナデ	回転ナデ後 縦溝ミガキ 黒色処理	回転ナデ後 縦溝ミガキ 黒色処理	良好	淡褐色	細砂少量	40%				
9	カマド	土師器 椀	17.4	6.7	5.5	370	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ	普通	褐色	2mm以下の 砂粒やや多	90%				
10	カマド	土師器 甕	(19.9)	—	高さ 7.5	77	—	横へう削り	横ナデ	—	普通	灰褐色	3mm大の 小石、砂粒 少量	5% 未満				
11	カマド	土師器 甕	(21.6)	—	高さ 8.6	72	—	横へう削り	横ナデ	—	普通	暗茶褐色	細砂少量	5% 未満				
12	カマド	土師器 甕	—	4.3	高さ 3.4	45	一方向へう 削り	縦へう削り	縦へうナデ	ナデ、へう ナデ	良好	暗灰色	1mm以下の 細砂、雲母 少量	5% 未満				

第179表 73号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
13	埋土	鈚鏃	100%	4.0	3.9	1.8	43	燧石	裏面に「×」刻痕

第180表 73号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の状況
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
14	埋土 (南西)	刀子	6.3	2.0	1.82	147	4.14	0.9	0.82	4.6	分割2点。錆び、土砂全体に付着
15	床直	刀子	22.2	3.0	1.9	69.1	21.83	1.93	1.01	57.9	分割3点。錆び、土砂全体に付着。完形品

## 74号住居跡 (SB74) [第153図 PL16・47]

**位置:** 3-③区、ⅡV6・11 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 方形 **規模:** 東西4.5m、南北4.2m、検出面からの深さ29～61cm **主軸方位:** N-36°-W **遺構の重複:** 46号住居跡を切り、73号住居跡に切られる。**堆積状況:** 9層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**住居内施設:** カマドが検出されている。カマドは、北壁中央にあり、構架材の礎と土器が密集している。また、この前面から北東隅にかけての床面に炭化物が広がっている。

**遺物出土状況:** 埋土と床面から古代の土器ほか、13.7kg出土している(第237表)。**遺物:** 須恵器蓋(1)はかえりが痕跡的に残る。口縁部が内湾する土師器杯(2)は丸底であるが、土師器杯(3)は平底に近い。土師器甕(6)はコの字状口縁であるが、土師器甕(7)は口縁部が胴部からくの字に折れ曲がる。弥生土器(8～12)は混入である。

**時期:** 出土遺物から、8世紀前半と思われる。



第153図 74号住居跡 遺構図・遺物図

第181表 74号住居跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	直立器蓋	3.6	2.7	7	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗灰色	2mm以下の砂粒少量	5%	未済	
2	カマド	土師器杯	13.3	—	5.3	235	へう割り	へう割り	横ナデ或ミガキ	横ナデ或ミガキ	普通	茶褐色	3mm以下の小石少量	95%以上	
3	カマド	土師器杯	(14.3)	(5.8)	3.9	98	へう割り	へう割り	ナデ	ナデ	普通	茶褐色	5mm以下の小石、砂粒少量	40%	
4	埋土	直立器蓋	(13)	6.4	3.7	65	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	細砂や多	30%	

図版番号	出土層位・位置	西経	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
5	埋土	土師器	—	3.7	3.5	120	ヘラ削り	ヘラ削り	ナデ後ヘラナデ	ナデ後ヘラナデ	良好	淡赤褐色	細砂少量	5%	底部に直径2.5cmの孔1つ
6	カマド	土師器	(22.6)	—	7.3	207	—	縦ヘラ削り	横ナデ	—	普通	淡褐色	細砂やや多	5%	
7	カマド	土師器	(23.8)	—	8.7	135	—	縦ヘラ削り	横ナデ	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	未満
8	埋土	弥生土器	—	2.9 × 3.3	—	12	—	ミガキ後赤彩	ミガキ後赤彩	—	普通	茶褐色	1mm以下の細砂やや多	5%	未満
9	埋土	弥生土器短頸甕	—	—	5.1 × 4.7	20	—	横ナデ後横ミガキ、赤彩	横ナデ後横ミガキ、赤彩	—	良好	淡赤褐色	2mm以下の砂粒多	5%	未満
10	埋土	弥生土器	—	—	25.0	210	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後一部横ハケ	—	普通	赤褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	
11	埋土	弥生土器	—	—	10.9 × 8.9	68	—	横ミガキ後赤彩	横ナデ	—	良好	淡褐色	2mm以下の砂粒やや多	5%	未満
12	掘り方	弥生土器	(17.8)	—	5.7	105	—	縦横波状文	横ミガキ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	5%	

## 76号住居跡 (SB76) [第154図 PL16]

位置：3-③区、ⅡU6 検出：下層の66号住居跡の掘り下げ中に硬化面が見られ、床面と判断されたことにより検出された。形状：不明 規模：不明 主軸方位：不明 遺構の重複：66号住居跡を切り、63号住居跡、10号溝跡に切られる。堆積状況：埋土は残っていない。

住居内施設：検出されていない。

遺物出土状況：古代の土器と弥生土器が合わせて316g出土している(第237表)。遺物：須恵器甕(1)は胴部外面が格子目叩きされる。

時期：出土遺物から、8世紀前半と思われる。

第182表 76号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	西経	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器	9.0 × 11.3	—	—	100	—	格子叩き 口縁横ナデ	同心円状 当て具痕、 横ナデ	—	普通	灰色	細砂やや多	5%	拓本



第154図 76号住居跡 遺構図・遺物図

## 79号住居跡 (SB79) [第155図 PL16・48]

位置：2-③区、ⅡU6 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：北東隅を除く大部分が削平されているため不明 規模：東西残存幅3.2m、南北残存長1.9m、検出面からの深さ10～11cm 主軸方位：不明 遺構の重複：他の遺構と切り合う部分が削平されているため不明。堆積状況：黒色土の単層である。

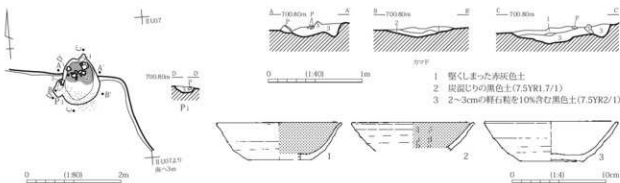
住居内施設：カマドとピット1基が検出されている。カマドは北壁の北東角に近い所にあり、焼土層がありその前面に炭層が広がっていた。脇にあるP1は袖の芯材とした礫の抜き取り痕と見られる。

遺物出土状況：カマド内や埋土から古代の土器ほか1.1kg出土している(第237表)。遺物：黒色土器杯(1)と土師器杯(3)は底面が回転糸切りされる。

時期：出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第183表 79号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	カマド	黒色土器杯	(13.2)	(7)	4.0	55	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	—	普通	灰褐色	5mm以下の 小石	30%	
2	カマド	黒色土器杯	(13)	—	現高 3.0	20	—	回転ナデ	回転ナデ後 ミガキ	—	普通	茶褐色	細砂やや多	5%	
3	カマド	土師器杯	(14.2)	(6.9)	4.3	47	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡茶褐色	細砂少量	20%	



第155図 79号住居跡 遺構図・遺物図

## 80号住居跡 (SBS0) [第156図 PL17・48・55・57]

位置：2-③区、ⅡU13 検出：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。形状：方形 規模：東西3.2m、南北4.0m、検出面からの深さ24~38cm 主軸方位：E-14°-N 遺構の重複：81号住居跡を切る。堆積状況：黒色土の単層である。

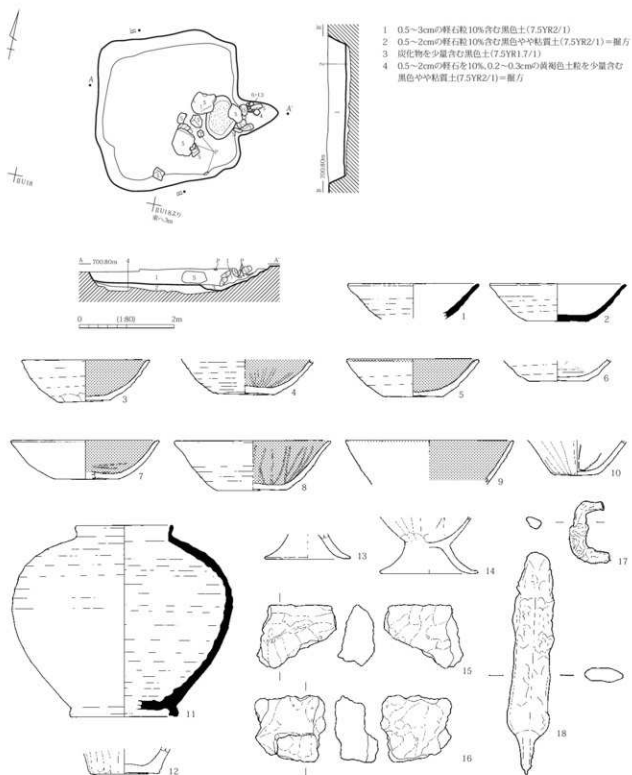
住居内施設：カマドが検出されている。カマドは東壁中央よりやや南寄りの所にあり、煙道と炭層、礫の分布が見られた。礫は大きめで石組のカマドであったと思われる。

遺物出土状況：床面やカマド内、埋土から古代の土器ほか7.5kg出土している(第237表)。遺物：須恵器杯(2)と黒色土器杯(3~5・7)は底面が回転糸切りされるが、土師器杯(6)、黒色土器碗(8)は回転糸切り後手持ちへら削りされる。須恵器短頸壺(11)は、外面一面に緑色の自然釉が掛かる。弥生土器甕(12)と弥生土器台付甕(13・14)は混入である。(15・16)は炉壁、(17)は鉋具である。不明鉄製品(18)は、全長12cm弱の両刃で、鉄には大きすぎ、銅には小さすぎる。剃刀のような日常用具ほかの工具と思われる。

時期：出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第184表 80号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(13.6)	—	現高 3.7	32	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰褐色	細砂少量	10%	
2	カマド	須恵器杯	14.2	6.4	4.0	160	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	軟質	淡赤褐色	細砂少量	95%	底面→外面の一部に乳白色の薄い付着物あり
3	埋土	黒色土器杯	13.3	5.6	4.5	163	右回転 糸切り	回転ナデ、 下端へう 削り	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	良好	淡赤色	細砂やや多	90%	
4	床面	黒色土器杯	—	5.9	現高 3.8	165	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	—	普通	暗赤褐色	細砂少量	50%	
5	埋土	黒色土器杯	(13.8)	(6.1)	4.0	78	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	良好	淡褐色	2mm以下の 砂粒やや多	30%	
6	カマド	土師器杯	—	6.1	現高 2.3	87	回転糸切り 後手持ち へら削り	回転ナデ	回転ナデ後 へうナデ	回転ナデ後 へうナデ	普通	暗褐色	2mm以下の 砂粒多	5%	土層



図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
7	埋土	黒色土器杯	(15.4)	(6.8)	4.1	53	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後縦、横ミガキ	回転ナデ後放射状ミガキ	普通	茶褐色	2mm以下の砂粒多	10%	
8	埋土	黒色土器碗	16.3	7.2	5.3	240	回転糸切り後手持ちへう削り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ	回転ナデ後放射状ミガキ	良好	淡赤褐色	細砂やや多	90%	
9	埋土	黒色土器碗	(17.6)	—	現高4.8	52	—	回転ナデ後縦へう削り	放射状ミガキ、黒色処理	—	良好	淡褐色	細砂少量	20%	
10	埋土	土師器甕	—	5.0	高さ3.6	61	へう削り	縦へう削り	へうナデ	へうナデ	普通	暗褐色	細砂少量	5%未満	
11	埋土	須恵器高台付椀	φ9.9	高台付11.0	20.2	1037	回転へう削り	回転ナデ後下平削りへう削り	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	2mm以下の砂粒やや多	50%	№654と接合
12	埋土	弥生土器甕	—	7.2	現高2.9	130	押さへ?	縦へう削り	ナデ	ナデ	普通	淡赤褐色	細砂少量	5%未満	
13	カマド	弥生土器台付甕	—	脚径9.0	現高2.6	53	—	横ナデ	横ナデ	—	普通	赤褐色	細砂少量	30%	
14	カマド	弥生土器台付甕	—	脚径10.2	現高6.0	132	横ナデ	縦へう削り	へうナデ	へうナデ	普通	茶褐色	1mm以下の細砂少量	10%	
15	埋土	砂壁	6.4×6.7×3.9	—	—	133	—	巻あげ痕残る	巻あげ痕残る	—	軟	暗褐色	3mm以下の砂粒多	5%未満	
16	埋土	砂壁	7.4×7.0×4.6	—	—	175	—	接合痕	焼熱と酸化鉄の溶着により赤褐色	—	軟	暗褐色	4mm以下の砂粒多	5%未満	

第185表 80号住居跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
17		銅尺	3.2	2.1	1.15	5.9	3.31	2.07	0.87	4.9	縦尺、錆び、土砂全体に付着
18	掘り方	不明	11.8	3.4	1.8	48.3	11.67	2.07	0.8	31.2	分割2点、錆び、土砂全体に付着

## 81号住居跡 (SB81) [第157図 PL17・48]

位置：2-③区、II U 13・14 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：方形 規模：東西3.8m、南北4.1m、検出面からの深さ14～31cm 主軸方位：N-18°-W 遺構の重複：80号住居跡に切られる。堆積状況：3層に分かれ、レンズ状の堆積である。

住居内施設：カマドは明確ではないが、北東部の床面に薄い炭層が分布し、周囲に礫が散在することから、この部分にあったものが壊されていると思われる。そのほかの施設は検出されていない。

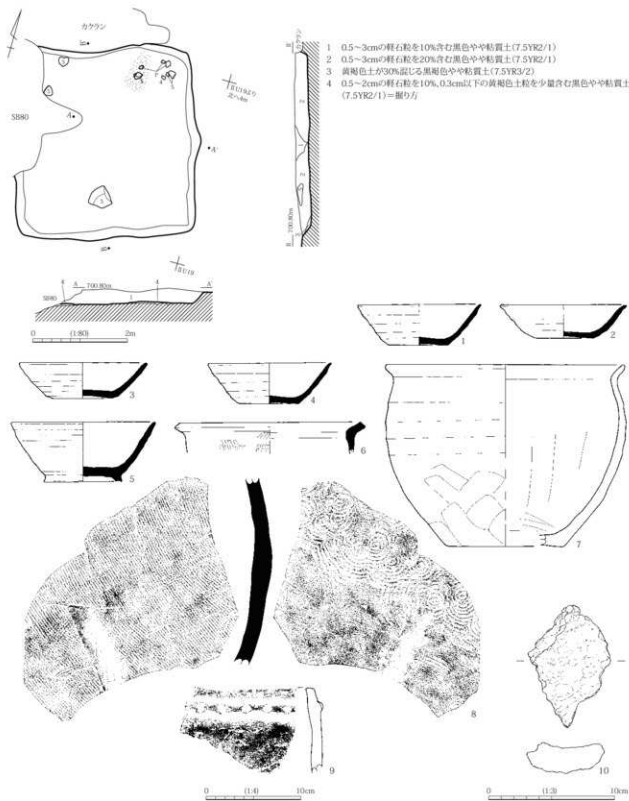
遺物出土状況：床面や埋土から古代の土器ほか6.7kg出土している(第237表)。遺物：須恵器杯(2～4)と須恵器高台付椀(5)は底面が回転糸切りのままであり、高台の接地面は内側がくぼんで、内面に段が付いているように見える。須恵器甕(8)は、外面に平行叩き、内面に同心円状の当て具痕がある。縄文土器(9)は混入で、鉄滓(10)は碗形鍛冶滓の縁刃部である。切り合う80号住居跡では炉壁が出土しており、付近で鍛錬鍛冶を行っていたと思われる。

時期：出土遺物から、8世紀後半と思われる。

第186表 81号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	12.9	6.2	4.3	145	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	5mm以下の小石、砂粒やや多	80%	
2	埋土	須恵器杯	(13.1)	6.0	3.6	105	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂少量	50%	
3	埋土	須恵器杯	(13.3)	6.3	3.9	77	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	2mm以下の砂粒多	30%	
4	床面	須恵器杯	13.8	6.8	4.2	50	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	軟	淡褐色	細砂少量	20%	
5	埋土	須恵器高台付椀	(14.9)	高台付8.2	6.3	195	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	1mm以下の細砂少量	40%	
6	埋土	須恵器鉢	(19.2)	—	現高3.3	30	—	平行叩き	横ナデ	—	やや軟	赤褐色	1mm以下の細砂少量	5%未満	
7	埋土	土師器鉢	(25)	(12.1)	19.1	670	へう削り	下平削りへう削り、上下回転ナデ	へうナデ	へうナデ	良好	淡褐色	1mm以下の細砂少量	20%	

図版番号	出土層位・位置	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	容量 (l)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
8	埋土	面土探査	22.5 × 19.8	1030	—	—	—	平行甲斐	当て具傷	—	良好	灰色	3mm以下の砂粒少量	5%未満	拓本
9	埋土	縄文土層深鉢	12.2 × 9.0	140	—	—	—	横ナデ後口押下に段階取付け	ナデ	—	普通	褐色色	1~2mmの砂粒やや多	5%未満	拓本



第157図 81号住居跡 遺構図・遺物図

## 2. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、2区で10棟、3・5・8区で各1棟が検出されている。堅穴住居跡と逆に2区で検出数が多く3区で少ない。3区で堅穴住居跡の残りがよいために切り合う掘立柱建物跡の柱穴が見逃されたためと考えられなくもないが、堅穴住居跡が削平されて掘立柱建物跡だけが残ることは考えにくい。養老律令倉庫令の規定にあるように、標高が高く「高燥」であった2区が掘立柱建物群の用地に選ばれたためと考えられる。弥生時代の遺構だけの5区や8区でも掘立柱建物跡が見られるが、これについては疑問もあり後述する。

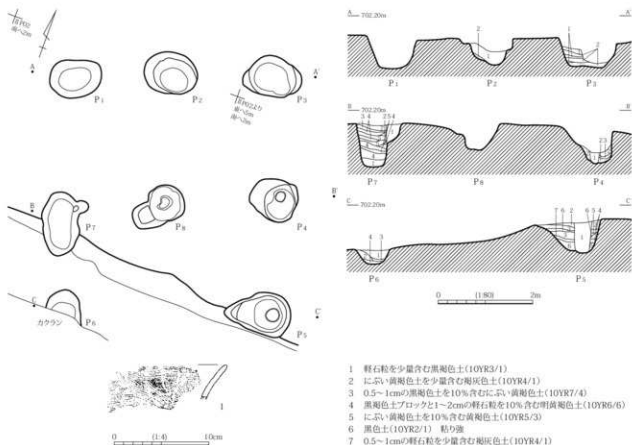
## 1号掘立柱建物跡 (ST01) [第158図 PL17]

位置：2-①区、II P 2 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：総柱建物 規模：桁行2間、梁間2間で、東西4.3m、南北5.0m 長軸方位：N-19°-W 遺構の重複：6・8号住居跡を切る。柱穴：74×50cm～142×118cmの楕円形で、検出面からの深さは26～94cmである。埋土は、P3～5・7で版築されたように楕円で、断面で柱痕が確認された。

遺物出土状況：各ピットから弥生土器と古代の土器が合わせて462g出土している（第240表）。いずれも小片である。遺物：弥生土器（1）は外面に柳描沈線の施文がある。

時期：出土遺物は混入と見られ時期を決め難いが、2号掘立柱建物跡と同時期だとすると10世紀前半と思われる。

所見ほか：2・5・7・9号掘立柱建物跡と主軸方向がほぼ一致するか直交する。



第158図 1号掘立柱建物跡 遺構図・遺物図



第187表 1号掘立柱建物跡出土土器観察表

探検番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P4	弥生土器 甕	10.0	4.4	35	—	—	横ナデ後 磨面沈着	横ナデ	—	普通	茶褐色	細砂やや多	5% 丸潰	拓本

## 2号掘立柱建物跡 (ST02) [第159図 PL17]

位置：2-②区、II P 8・12・13・14・18 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行3間、梁間3間で、東西6.6m、南北7.3m 長軸方位：N-25°-W 遺構の重複：18・19号住居跡を切る。

柱穴：78×78cm～134×152cmの円形または楕円形で、検出面からの深さは22～60cmである。

遺物出土状況：各ピットから弥生土器と古代の土器が合わせて1.2kg出土している（第240表）。いずれも小片である。

時期：9世紀代の19号住居跡を切ることや、出土遺物から10世紀前半と思われる。

所見ほか：7号掘立柱建物跡と東側の柱筋が通る。1・5・7・9号掘立柱建物跡と主軸方向がほぼ一致するか直交する。

第188表 2号掘立柱建物跡出土土器観察表

探検番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P12	土師器 杯	(13.7)	(6.5)	3.7	50	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡灰色	2mm以下の 砂粒やや多	20%	

## 3号掘立柱建物跡 (ST03) [第160図 PL17]

位置：2-②区、II P 9・10・14・15 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：総柱建物 規模：桁行3間、梁間不明、東西現状で2.3m、南北6.4m 長軸方位：N-5°-E 遺構の重複：17号住居跡を切る。東部に2・3区境の水路があり、西部は削平されている。

柱穴：38×30cm～102×80cmの方形で、検出面からの深さは10～48cmである。

遺物出土状況：各ピットから弥生土器と古代の土器が合わせて404g出土している（第240表）。いずれも小片である。

時期：出土遺物から、8世紀後半と思われる。

所見ほか：小さめのP5は側柱ではなく東柱で、西側の削平部分にもう1間以上あったと思われる。

第189表 3号掘立柱建物跡出土土器観察表

探検番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P6	重車器 杯	(15.8)	—	短高 3.1	23	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰色	2mm以下の 砂粒、炭化 物粒、氣泡 やや多	5%	

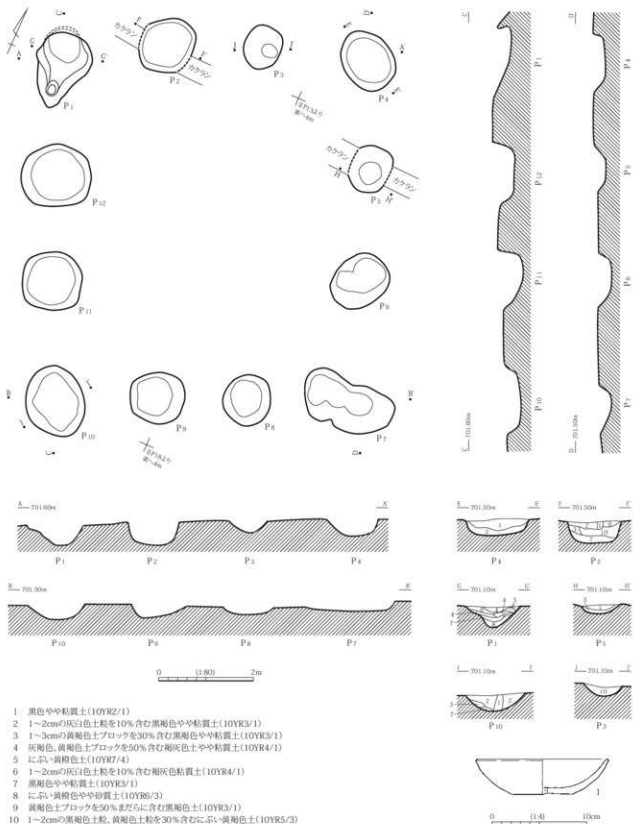
## 4号掘立柱建物跡 (ST04) [第160図 PL17]

位置：2-②区、I T 15、II P 6・11 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：総柱建物 規模：桁行2間、梁間2間で、東西4.8m、南北4.4m 長軸方位：N-15°-W 遺構の重複：なし

柱穴：58×58cm～82×86cmの方形または隅丸方形で、検出面からの深さは15～42cmである。

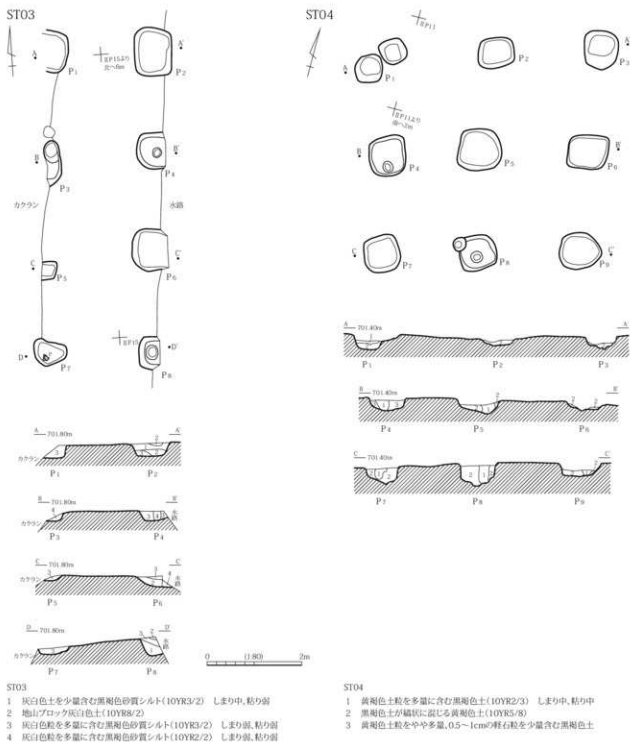
遺物出土状況：P8内から土師器1点3g出土している（第240表）。小片で図示できなかった。

時期：不明



第159図 2号掘立柱建物跡 遺構図・遺物図

- 1 黒色やや粘質土(10YR2/1)
- 2 1~2cmの灰白色土粒を10%含む黒褐色やや粘質土(10YR3/1)
- 3 1~3cmの黄褐色土ブロックを30%含む黒褐色やや粘質土(10YR3/1)
- 4 灰褐色、黄褐色土ブロックを50%含む褐色土やや粘質土(10YR4/1)
- 5 に近い黄褐色土(10YR7/4)
- 6 1~2cmの灰白色土粒を10%含む褐色粘質土(10YR4/1)
- 7 黒褐色やや粘質土(10YR3/1)
- 8 に近い黄褐色やや砂質土(10YR6/3)
- 9 黄褐色土ブロックを50%まだらに含む黒褐色土(10YR3/1)
- 10 1~2cmの黒褐色土粒、黄褐色土粒を30%含むに近い黄褐色土(10YR5/3)



第160図 3・4号掘立柱建物跡 遺構図・遺物図

第190表 4号掘立柱建物跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の状況
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
2	P8柱穴内	不明	4.3	1.0	0.81	3.7	4.13	0.75	0.7	2.9	釘状, 跡び, 土砂全体に付着

## 5号掘立柱建物跡 (ST05) [第161図 PL17]

位置：2-②区、I T 20、II P 16・21 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：南部を削平されて不明 規模：残存部で桁行1間、梁間2間で、東西3.2m、南北2.0m 長軸方位：N-21°-W 遺構の重複：20号住居跡を切る。

柱穴：80×80cm～82×100cmの方形または円形で、検出面からの深さ40～54cmである。

遺物出土状況：P 2内から弥生土器と土師器合わせて39g出土している（第240表）。いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物からは不明だが、2号掘立柱建物跡と同時期だとすると10世紀前半と思われる。

所見ほか：9号掘立柱建物跡と直列に並ぶ。1・2・7・9号掘立柱建物跡、18号溝跡と主軸方向がほぼ一致するか直交する。

## 6号掘立柱建物跡 (ST06) [第161図 PL17]

位置：2-②区、II P 18・19 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：総柱建物 規模：桁行2間、梁間2間で、東西3.6m、南北3.9m 長軸方位：N-15°-W 遺構の重複：7号掘立柱建物跡を切る。

柱穴：30×104cm～166×130cmの方形または隅丸方形で、検出面からの深さは11～46cmである。

遺物出土状況：P 1・2・4・5内から弥生土器と土師器、須恵器合わせて312g出土している（第240表）。いずれも小片である。

時期：不明

第191表 6号掘立柱建物跡出土土器観察表

図面番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	P1	弥生土器	—	5.4	底高 2.7	40	ヘラ削り	横ミガキ	横ミガキ	ミガキ	普通	淡褐色	細砂少量	5%未満	底面に10数個の小孔
2	P1	弥生土器	—	4.0×4.1	—	15	—	横ミガキ、赤彩 口縁横百状 成層	横ミガキ 赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂やや多	5%未満	拓本

## 7号掘立柱建物跡 (ST07) [第162図 PL18]

位置：2-②区、II P 18・19 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行1間以上、梁間2間で、東西4.7m、南北不明だが、現状3.1m 長軸方位：N-22°-W 遺構の重複：6号掘立柱建物跡に切られる。

柱穴：40×56cm～98×102cmの円形または楕円形で、検出面からの深さは31～44cmである。

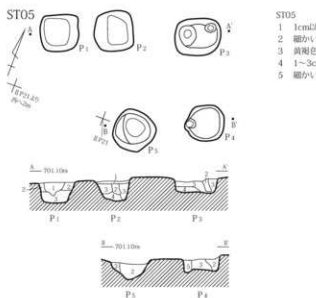
遺物出土状況：P 1～5の各ピットから弥生土器と須恵器合わせて384g出土している（第240表）。いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物からは不明だが、2号掘立柱建物跡と同時期だとすると10世紀前半と思われる。

所見ほか：2号掘立柱建物跡と東側の柱筋が通る。1・2・5・9号掘立柱建物跡と主軸方向がほぼ一致するか直交する。

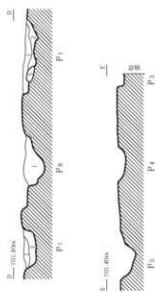
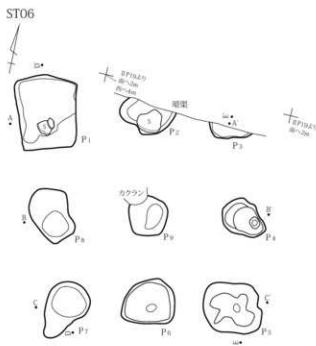
## 8号掘立柱建物跡 (ST08) [第162図 PL18]

位置：3-③区、II U 20、V 11・16 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：総柱建物 規模：桁行2間、梁間2間で、東西3.5m、南北3.9m 長軸方位：N-20°-W 遺構の重複：1号性格不明遺構を切り、12号溝跡に切られる。



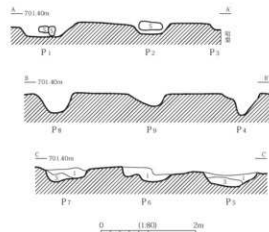
ST05

- 1cm以上の黄褐色土粒, 2cm以上の軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり中, 粘り中
- 細かい黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3) しまり中
- 黄褐色土粒, 軽石粒をやや多量に含む黒褐色土(10YR2/3)
- 1~3cmの黒褐色土粒混じりの黄褐色土(10YR5/8)
- 細かい黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR3/1)



ST06

- 黄褐色土粒を少量含む黒色土(10YR2/1)
- 5cm大の黒色土ブロック, 黄褐色土ブロックを40%まだらに含む灰褐色土(10YR6/2)
- 黄褐色土ブロックを10%含む灰褐色土(10YR4/1)

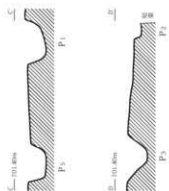
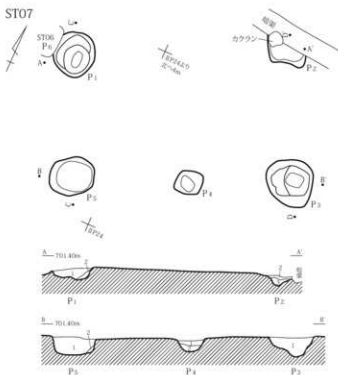


0 (1.00) 2m

0 (1.0) 10cm

第161図 5・6号掘立柱建物跡 遺構図・遺物図

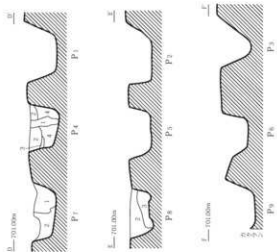
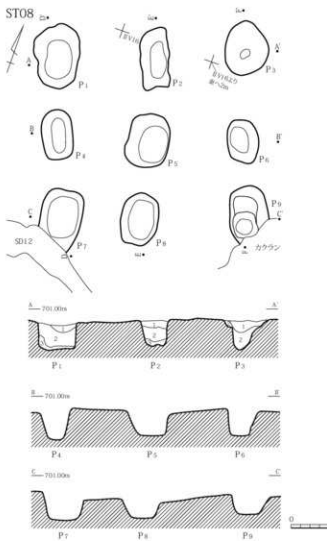
ST07



ST07

- 1 黄褐色土粒を少量含む黒色土(10YR2/1)
- 2 赤い・黄褐色土を20%含む褐色土(10YR4/1)
- 3 2~3cmの黒色土ブロックを30%含む黄褐色土(10YR5/6)

ST08



ST08

- 1 1~2cmの軽石粒を10%含む黒褐色土(10YR3/1) しまり強
- 2 10~20cmの灰黄褐色土ブロックを30%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 3 10~20cmの黒褐色土ブロックを30%含む灰黄褐色土(10YR6/2)
- 4 1~3cmの軽石粒10%と5~10cmの灰黄褐色土ブロック少量含む黒褐色土(10YR3/1)



0 (1.8) 2m

0 (2.3) 5cm

第162図 7・8号掘立柱建物跡 遺構図・遺物図

柱穴：84 × 70cm ~ 130 × 100cm の長方形または楕円形で、検出面からの深さは48 ~ 70cmである。

遺物出土状況：P 6以外の各ピットから弥生土器と土師器、須恵器が合わせて622g出土している（第240表）。小型の土製勾玉（1）以外いずれも小片で図示できなかった。

時期：不明

第192表 8号掘立柱建物跡出土土製品観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
1	P9	勾玉	100%	1.9	1.1	0.8	1.19	

#### 9号掘立柱建物跡 (ST09) [第163図 PL18]

位置：2-③区、II P 21・U 1・2 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行3間、梁間2間で、東西4.1m、南北5.8m 長軸方位：N-23°-W 遺構の重複：なし 柱穴：80 × 70cm ~ 94 × 100cmで、検出面からの深さ12 ~ 26cmである。

遺物出土状況：P 6以外の各ピットから弥生土器と土師器、須恵器が合わせて578g出土している（第240表）。いずれも小片で図示できなかった。

時期：出土遺物からは不明だが、2号掘立柱建物跡と同時期だとすると10世紀前半と思われる。

所見ほか：1・2・5・9号掘立柱建物跡、18号溝跡と主軸方向がほぼ一致するか直交する。

#### 10号掘立柱建物跡 (ST10) [第163図 PL18]

位置：2-③区、II U 6・7・11 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行3間、梁間2間で、東西6.0m、南北5.2m 長軸方位：E-12°-N 遺構の重複：3号性格不明遺構を切る。79号住居跡、313号土坑と平面的には重なるが、直接の切り合いはない。

柱穴：52 × 44cm ~ 76 × 66cmの楕円形で、検出面からの深さは17 ~ 46cmである。

遺物出土状況：出土していない。

時期：不明

#### 11号掘立柱建物跡 (ST11) [第164図]

位置：2-②・③区、II P 21・22 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行2間、梁間1間で、東西3.6m、南北2.1m 長軸方位：E-15°-N 遺構の重複：21号住居跡を切る。

柱穴：32 × 30cm ~ 48 × 48cmの円形で、検出面からの深さは29 ~ 50cmである。

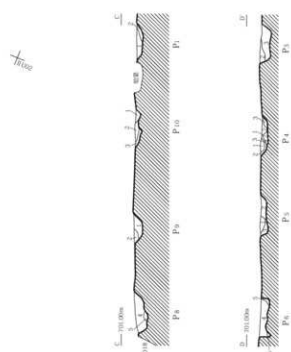
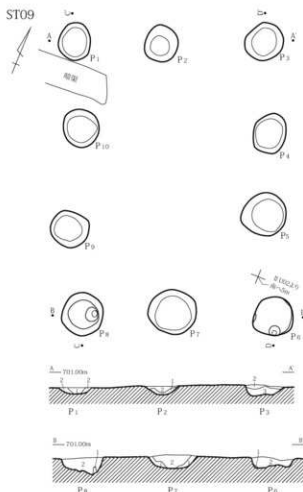
遺物出土状況：出土していない。

時期：不明

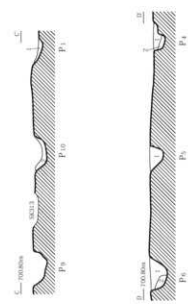
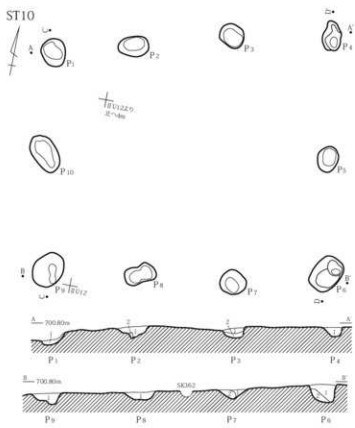
所見ほか：ほかの掘立柱建物跡に比べて柱穴が小さいこと、梁間が1間しかないこと、桁行に比べて梁間が長いこと、遺物の出土がないことなどから、中世の掘立柱建物か後世の稲架掛け（はぜかけ=稲木：収穫した稲の束を干せるように、木材をXの字に組んで何列か並べて立てた上に横木を渡したも）等の可能性もある。

#### 501号掘立柱建物跡 (ST501) [第164図 PL18]

位置：5-①区、VN 2・3 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行2間、梁間1間で、東西2.6m、南北2.8m 長軸方位：E-33°-N 遺構の重複：501号溝跡に切



- ST09
- 1 ローム粒、砂、軽石粒をやや多量に含む黒褐色シルト質土(10YR2/2) しまり強、粘り中
  - 2 ローム粒、砂、軽石粒を少量含む黒褐色シルト質土(10YR2/2) しまり強、粘り中
  - 3 黄褐色ローム、砂、黒褐色シルトがまだらに混じる黄褐色土(10YR5/6) しまり強、粘り強
  - 4 ローム粒、砂、軽石粒を少量含む黒褐色シルト質土(10YR2/2) しまり強、粘り強
  - 5 ローム粒、砂、軽石粒をやや多量に含む黒褐色シルト質土(10YR2/2) しまり強、粘り強

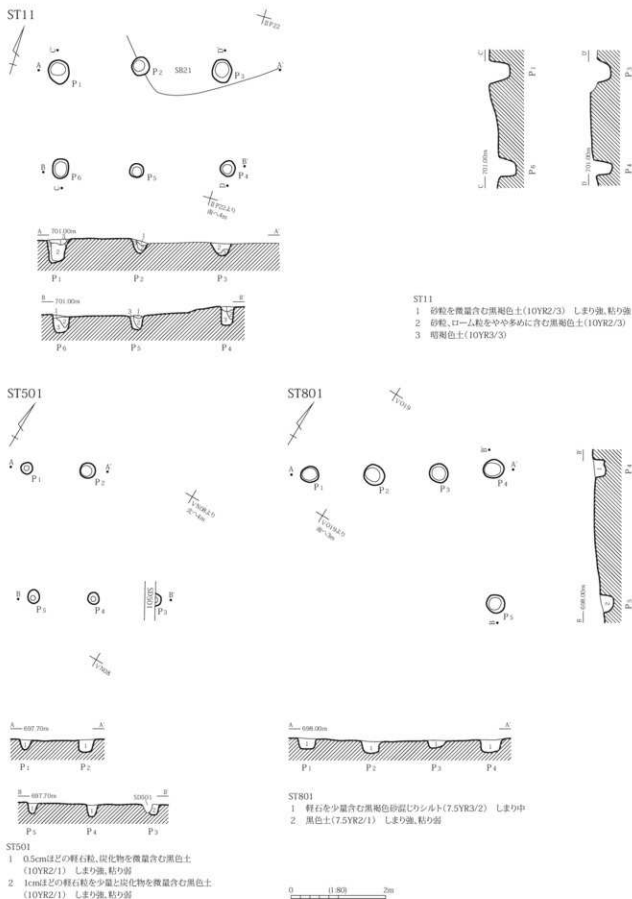


- ST10
- 1 2~3cmの軽石粒を少量含む黒色粘質土(7.5YR1.7/1)
  - 2 軽石粒を30%含む黒色粘質土(7.5YR1.7/1)



第163図 9・10号掘立柱建物跡 遺構図





第164図 11・501・801号掘立柱建物跡 遺構図

られる。柱穴：26×20cm～34×36cmの円形で、検出面からの深さは23～28cmである。

遺物出土状況：出土していない。

時期：不明

所見ほか：11号掘立柱建物跡と同じ理由で、中世の掘立柱建物か後世の稲架掛け等の可能性が高い。

### 801号掘立柱建物跡 (ST801) [第164図 PL18]

位置：8-①区、V O 18・19 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：側柱建物 規模：桁行3間、梁間1間で、東西3.9m、南北2.8m 長軸方位：E-33°-N 遺構の重複：なし

柱穴：26×36cm～40×44cmで、検出面からの深さは15～30cmである。

遺物出土状況：出土していない。

時期：不明

所見ほか：11号掘立柱建物跡と同様に、中世の掘立柱建物か後世の稲架掛け等の可能性が高い。

## 3. 性格不明遺構

### 1号性格不明遺構 (SX01) [第165図]

位置：3-③区、II U 20, V 16 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：南部を削平されて全形は不明であるが、方形で壁は緩やかである。底面はやや凹凸があり、中央に130×120cmで深さ13～20cmの隅丸方形の窪みがある。規模：現状で東西3.7m、南北3.5m、検出面からの深さ35cmである。遺構の重複：8号掘立柱建物跡のP 2・4・7・8、275号土坑、17号溝跡に切られる。

遺物出土状況：埋土から弥生土器と古代の土器が合わせて1.3kg出土している(第240表)。遺物：黒色土器高台付杯(1)は、器壁が厚く、皿とも杯ともつかない独特の器形で、底面は回転ヘラ削りされる。

時期：図示した遺物からは、8世紀前半と思われる。

所見ほか：内部に中央の窪み以外の施設がなく、この部分を尿溜めとする馬小屋の可能性もある。

第193表 1号性格不明遺構出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器高台付杯	(15.4)	(10.4)	4.4	75	回転ヘラ削り	回転ナデ後ミガキ、黒色装璜	回転ナデ後ミガキ、黒色装璜	回転ナデ	普通	茶褐色	細砂少量	20%	

### 2号性格不明遺構 (SX02) [第165図]

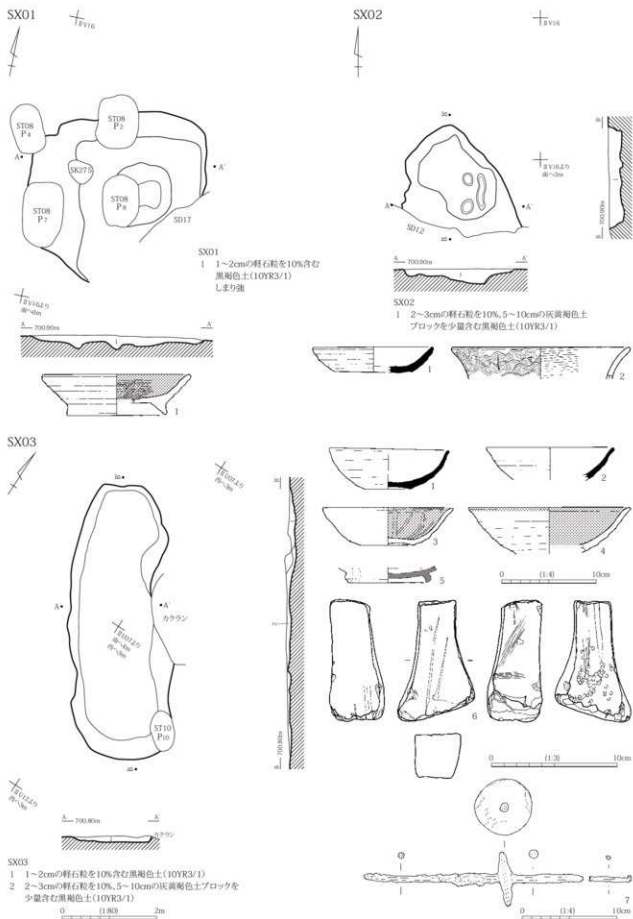
位置：3-③区、II U 20 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：不整形で底面はやや凹凸がある。規模：長さ2.8m、幅2.1m、検出面からの深さ54cmである。遺構の重複：12号溝跡に切られる。

遺物出土状況：埋土から弥生土器と古代の土器が合わせて704g出土している(第240表)。遺物：須恵器盤状杯(1)は、底面は手持ちヘラ削りされる。

時期：図示した遺物からは、8世紀前半と思われる。

第194表 2号性格不明遺構出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(12.6)	(8.1)	2.7	32	手持ちヘラ削り	回転ナデ、ロケロ目焼	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	白色、細砂やや多	10%	
2	埋土	赤牛土器盃	(18.6)	—	器高3.3	75	—	欄端流注文	横ミガキ	—	良好	赤赤褐色	細砂少量	5%	未磨



第165図 1・2・3号性格不明遺構 遺構図・遺物図

## 3号性格不明遺構 (SX03) [第165図 PL53・57]

**位置:** 2-③区、II U 6 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 狭長な長方形 **規模:** 長さ5.8m、幅2.0m、検出面からの深さは28cmである。 **遺構の重複:** 10号掘立柱建物跡のP10に切られる。 **遺物出土状況:** 埋土から弥生土器と古代の土器が合わせて5.2kg出土している(第240表)。  
 砥石(6)や鉄製紡錘車(7)も出土している。そのほかに、ウマの左上第2~第4小白歯と、第1第白歯も出土しており、本性格不明遺構の大きさを考えると馬が埋められていたことも考えられる。 **遺物:** 須恵器杯(1)と黒色土器杯(3)は、底面は回転糸切りのままである。

**時期:** 図示した遺物から、9世紀前半と思われる。

第195表 3号性格不明遺構出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	12.5	4.9	4.3	160	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色~灰黒色	白色細砂多量に含む	95%以上	
2	埋土	須恵器杯	(13.4)	—	現高3.5	20	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡赤灰色	黑色細砂、炭化物やや多	5%	
3	埋土	黒色土器杯	13.7	5.5	4.0	145	右回転糸切り	回転ナデ後放射状ミガキ、黑色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黑色処理	回転ナデ	普通	淡褐色	白色細砂やや多	90%	
4	埋土	黒色土器杯	(17)	—	現高4.9	70	—	回転ナデ、ロク口目盛	回転ナデ後、黑色処理	—	良好	褐色	白色細砂少量	10%	
5	埋土	灰釉陶器杯	—	高台径8.2	現高1.8	50	回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	—	緑灰~暗灰色	10%	

第196表 3号性格不明遺構出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
6	埋土	砥石	50%	9.6	6.1	3.5	270	砂岩	

第197表 3号性格不明遺構出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の現状		
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)		厚さ (cm)	重量 (g)
7		紡錘車	28.4	6.3	6.0	1012	27.34	5.9	0.75	71.6	完形品。分割6点。錆び、土砂全体に付着

## 4. 土坑

前節でも述べたように土坑は遺物がほとんど出土しないか、逆に弥生土器と古代の土器が混在するため、時期の不明確なものが多い。ここでは、古代の可能性が高いものだけ取り上げる。

## 20号土坑 (SK20) [第166図]

**位置:** 2-①区、II K 14 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 楕円形で、壁はやや急、底は平らである。 **規模:** 長さ49cm、幅39cm、検出面からの深さ29cmである。 **遺構の重複:** なし  
**遺物出土状況:** 埋土から土師器と灰釉陶器が合わせて111g出土している(第240表)。

**時期:** 図示した遺物から、9世紀後半と思われる。

第198表 20号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	灰釉陶器杯	(10)	—	現高3.9	41	—	回転ナデ一部回転ヘラ削り	回転ナデ	—	良好	灰色	1mm未満の細砂やや多	10%	

## 26号土坑 (SK26) [第166図 PL48]

位置：2-①区、II K 20 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：やや隅丸の長方形で、壁はやや急、底は平らである。規模：長さ96cm、幅50cm、検出面からの深さ20cmである。遺構の重複：なし

遺物出土状況：埋土から弥生土器と須恵器が合わせて224g出土している(第240表)。遺物：須恵器高台付碗(1)は緑色がかかった色調で、底面は回転ヘラ削りされる。

時期：図示した遺物から、8世紀前半と思われる。

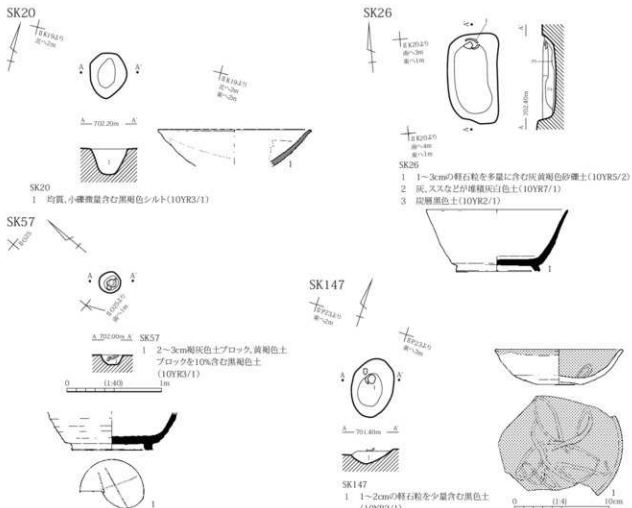
第199表 26号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	粘土	残存率	備考
1	床面	須恵器高台付碗 (14.9)	高台付碗底径	6.5	1.33		回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	緑灰色	2mm以下の砂粒や砂多	30%	

## 57号土坑 (SK57) [第166図 PL18]

位置：2-①区、I O 25 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：円形で、壁はやや急、底は平らである。規模：直径24cm、検出面からの深さは11cmである。遺構の重複：1号住居跡を切る。遺物出土状況：埋土から須恵器195g出土している(第240表)。遺物：須恵器高台付碗(1)は、底面は回転条切りのままで、ヘラ記号「井」が付される。

時期：図示した遺物から、8世紀後半と思われる。



第166図 20・26・57・147号土坑 遺構図・遺物図

第200表 57号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色陶器 高台付椀	—	高台径 8.5	高台高 4.1	90	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	青灰色	3mm以下の砂粒	10%	底面へう記号「廿」

## 147号土坑 (SK147) [第166図 PL51]

**位置:** 2-②区、II P 23 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 楕円形で、壁は緩やか、底は丸い。 **規模:** 長径63cm、短径44cm、検出面からの深さ8cmである。 **遺構の重複:** なし **遺物出土状況:** 埋土から黒色土器184g出土している(第240表)。 **遺物:** 黒色土器杯(1)は、内面一杯に一筆書き風の花弁のような暗文が付される。

**時期:** 図示した遺物から、9世紀後半と思われる。

第201表 147号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	黒色土器 杯	(13.2)	5.2	3.7	118	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒、灰粒、炭化物粒や多	70%	内面乱雑な線状痕あり

## 59号土坑 (SK59) [第167図 PL49]

**位置:** 2-②区、II P 8 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 円形で、壁はやや急、底は平らである。 **規模:** 直径103cm、検出面からの深さは47cmである。 **遺構の重複:** なし

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほかかが1.1kg出土している(第240表)。完形や完形に近いものが多い。そのうち、灰軸陶器輪花皿(6)と、灰軸陶器椀(7)は、本土坑と60号土坑出土の破片が接合する。 **遺物:** 土師器椀(3)は、体部外面に「井」墨書がある。灰軸陶器椀(5)は口径の10箇所に灯芯油痕が付く。

**時期:** 図示した遺物からは、10世紀後半頃と思われる。

## 60号土坑 (SK60) [第167図 PL18・50・51]

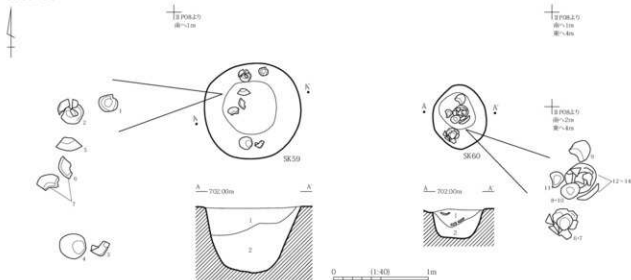
**位置:** 2-②区、II P 8 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 円形で、壁は急、底は平らである。 **規模:** 直径68cm、検出面からの深さは29cmである。 **遺構の重複:** なし

**遺物出土状況:** 埋土から古代の土器ほかかが1.6kg出土している(第240表)。完形や完形に近いものが多い。そのうち、灰軸陶器輪花皿(6)と、灰軸陶器椀(7)は、本土坑と59号土坑出土の破片が接合する。 **遺物:** 土師器椀(8・10)は、口径に灯芯油痕が付き、(10)は内面に炭化物が付着する。灰軸陶器椀(12～14)はすべて輪花椀で、(13)と(14)の底面には「本」が墨書される。

**時期:** 図示した遺物から、10世紀後半頃と思われる。

**所見ほか:** 近接する59・60号の2つの土坑は、出土する土器が接合したことから同時期であることが確実である。高価な灰軸陶器や灯油を使用し、更に輪花椀・皿を選択的に使用していること、土師器椀だけでなく灰軸陶器椀までも灯明皿として使用していること、灰軸陶器の底面に墨書していることなどに特徴がある。出土状態からは、何らかの祭祀に使用したものを直後に埋納したと思われるが、これだけの祭祀を周辺の堅穴住居跡の住人が私的に行ったとは考えづらく、公的なものであろう。両土坑はほぼ東西に並び、掘立柱建物群の軸とは一致しないが、掘立柱建物群と関係するものと思われる。

SK59・60

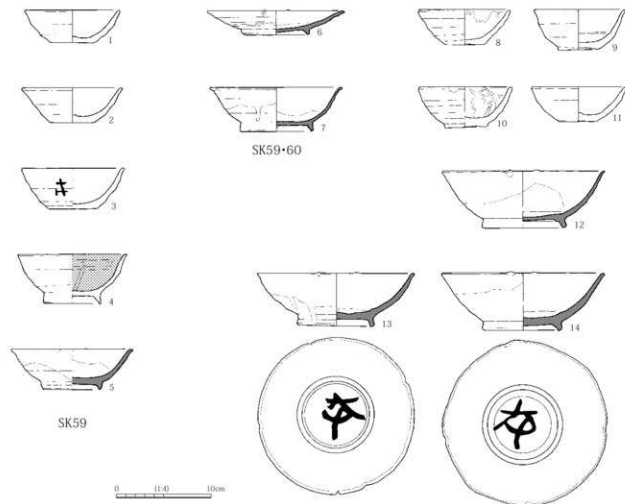


SK59

- 1 0.1～0.5cmの軽石粒、黄褐色土粒を含む黒褐色土(10YR3/1)  
 2 0.1～0.5cmの軽石粒、黄褐色土粒を含む褐色土(10YR4/1)

SK60

- 1 0.1～0.5cmの軽石粒、黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR3/1)  
 2 明黄褐色土(10YR5/8)



SK60

第167図 59・60号土坑 遺構図・遺物図

第202表 59・60号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器碗	9.8	4.7	3.5	110	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒やや多	95%	
2	埋土	土師器碗	10.3	4.7	3.7	122	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤灰色	細砂少量	100%	
3	埋土	土師器碗	(10.6)	5.0	4.3	75	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	3cm、5cm大の小石胞砂粒少量	40%	体部外面黒着「本」
4	埋土	黒色土師器碗	11.4	高台径6.0	5.3	155	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色炭層	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色炭層	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒、気泡やや多	95%以上	
5	埋土	灰輪陶器碗	12.6	高台径5.8	4.3	185	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰白色	細砂少量	100%	口縁の約20%に灯芯油痕
6	埋土	灰輪陶器輪花皿	14.4	高台径6.6	2.7	162	回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	明赤色	1mm以下の炭化物粒少量	95%以上	
7	埋土	灰輪陶器碗	13.5	高台径7.5	4.7	160	回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	中央削り残り	良好	淡緑灰色	2mm以下の砂粒少量	90%	底面中央削り残り盛り上がる
8	埋土	土師器碗	9.5	4.1	3.8	105	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	2mm以下の砂粒少量	95%以上	口縁の約10箇所に灯芯油痕
9	底面	土師器碗	9.5	4.3	4.3	110	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡褐色	1mm以下の細砂、炭化物粒やや多	95%	
10	埋土	土師器碗	9.6	4.5	4.4	128	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	細砂少量	95%以上	内面に炭素付着、口縁の3箇所に灯芯油痕
11	埋土	土師器碗	(9.9)	4.1	3.7	63	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	5mm以下の砂粒、気泡やや多	50%	
12	底面	灰輪陶器輪花皿	17.0	高台径8.1	6.1	315	右回転糸切り後中央部守のこ状注痕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡緑灰色	1～5mmの細砂、砂粒、小石やや多	100%	
13	底面	灰輪陶器輪花皿	16.2	高台径7.6	5.7	300	右回転糸切り、灰輪直け跡付	回転ナデ、灰輪直け跡付	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡緑灰色	1mm以下の細砂少量	95%	口縁の4箇所程くつままれ内面に由けられ輪花状となる。底面炭着「本」
14	底面	灰輪陶器輪花皿	17.0	高台径7.7	6.1	360	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡緑灰色	細砂、炭化物粒少量	100%	口縁の4箇所つままれ輪花状、底面炭着「本」

## 162号土坑 (SK162) [第168図 PL18]

位置：2-①区、II P 1-2 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：円形で、壁は緩やか、底は丸い。規模：直径170cm、検出面からの深さは51cmである。遺構の重複：6号住居跡を切る。遺物出土状況：埋土から須恵器と弥生土器が合わせて1.7kg出土している(第240表)。遺物：須恵器杯(1)は、底面が回転糸切りされるが、須恵器高台付碗(2)は底面が回転ヘラ削りされる。時期：図示した遺物から、8世紀後半と思われる。

第203表 162号土坑出土土器観察表

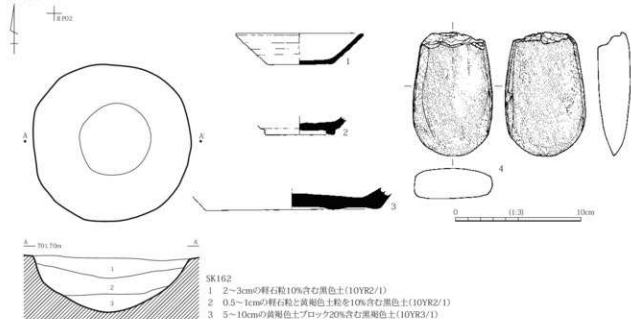
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(13.4)	6.8	3.4	55	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	細砂炭化物粒やや多	30%	底面に炭着のひび割れ多い
2	埋土	須恵器高台付碗	—	高台径7.2	規高1.9	105	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	青灰色	1～2mmの黒～黒色砂粒多	20%	
3	埋土	須恵器甕	—	18.4	規高2.3	480	無調整	ヘラ削り	無調整さえ一部ナデ	ナデ	普通	外面暗灰色・内面青灰色	細砂、炭化物粒少量炭化物粒、気泡やや多	5%未満	

第204表 162号土坑出土石器観察表

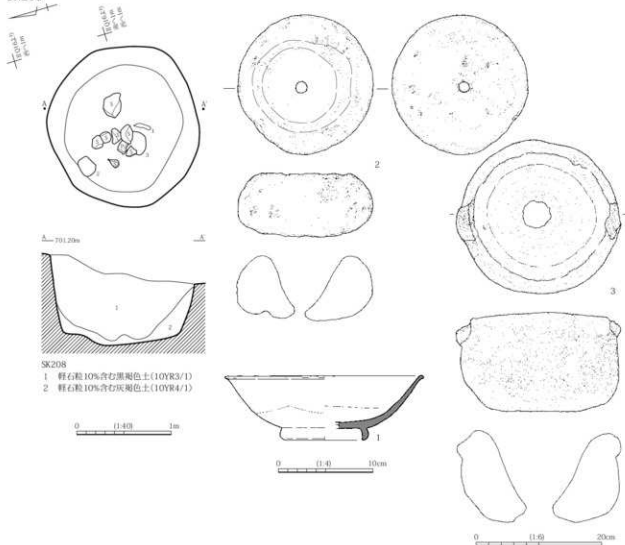
図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
4	埋土	磨製石斧	80%	9.8	6.3	2.5	270	透閃石岩	



SK162



SK208



第168図 162・208号土坑 遺構図・遺物図

## 208号土坑 (SK208) [第168図 PL18・51・56]

**位置:** 3-②区、II P 20 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 円形で、壁は急、底面は平らに近い。 **規模:** 直径173cm、検出面からの深さは96cmである。 **遺構の重複:** 6号溝跡を切る。

**遺物出土状況:** 埋土から灰釉陶器205g(第240表)と石鉢2点(2・3)、礫、種不明四肢骨片(第244表)が出土している。 **遺物:** 石鉢(2・3)の底面の孔は周囲が磨かれており、製作時のものの可能性もある。 **時期:** 図示した遺物から、10世紀前半と思われる。

第205表 208号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	灰釉陶器 鉢	(20.6)	高台径 (5.2)	6.8	205	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂少量	40%	

第206表 208号土坑出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
2	埋土	石鉢	100%	22.2	21.5	10.2	5600	多孔質安山岩	
3	埋土	石鉢	100%	24.5	26.2	15.7	11400	多孔質安山岩	

## 192号土坑 (SK192) [第169図]

**位置:** 2-④区、IV A 8 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 楕円形で、壁は緩く、底は丸い。 **規模:** 長さ56cm、幅39cm、検出面からの深さは12cmである。 **遺構の重複:** 北部をカクランに切られる。

**遺物出土状況:** 埋土から土師器185g出土している(第240表)。いずれも小片である。

**時期:** 図示した遺物から、10世紀後半と思われる。

第207表 192号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器 鉢	(16.8)	—	出高 5.0	60	—	回転ナデ	回転ナデ、 詰め方向 ミガシ	回転ナデ	普通	茶褐色	細砂灰色物 粒や中多	20%	

## 209号土坑 (SK209) [第169図 PL51]

**位置:** 3-②区、II P 20 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 楕円形、壁や底の形状は不明である。 **規模:** 長径76cm、短径58cm、検出面からの深さは不明である。 **遺構の重複:** 44号住居跡を切る。

**遺物出土状況:** 埋土から土師器ほか218g出土している(第240表)。いずれも小片である。 **遺物:** 黒色土器高台付碗(1)は、口唇部がやや外反する。

**時期:** 図示した遺物から、10世紀前半と思われる。

第208表 209号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器 高台付碗	10.1	高台径 5.3	4.6	103	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡褐色	細砂多く ざらつく	70%	

## 210号土坑 (SK210) [第169図]

**位置:** 3-③区、II U 5 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 長円形で、壁は緩やか、西にテラスを持って東が深く、底は丸い。 **規模:** 長さ232cm、幅106cm、検出面からの深さ43cmである。 **遺構の重複:** 38号住居跡を切る。

**遺物出土状況**：埋土から灰軸陶器ほかが218g出土している（第240表）。いずれも小片である。**遺物**：灰軸陶器碗（1）は、底面が回転ヘラ削りされる。

**時期**：図示した遺物から、9世紀後半と思われる。

第209表 210号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	灰軸陶器碗	—	高台径 7.1	器高 2.2	82	回転ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	明灰色	精良	20%	部分的に歪む破片

## 215号土坑 (SK215) [第169図]

**位置**：3-②区、II P 20・25 **検出**：IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状**：円形で、壁は急で、底は平らである。中央付近に直径15cm、深さ5cmの窪みがある。**規模**：長さ62cm、幅58cm、検出面からの深さ28cmである。**遺構の重複**：44号住居跡を切る。

**遺物出土状況**：埋土から図示した弥生土器鉢（1）を含めて弥生土器が57g出土している（第240表）。混入と思われる。

**時期**：不明

**所見ほか**：中央の窪みは柱のめり込みと思われ、削平された掘立柱建物の一部か。

第210表 215号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器鉢	(12.6)	—	5.3	46	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	3mm以下の小石や砂多	20%	

## 217号土坑 (SK217) [第169図]

**位置**：3-②区、II Q 16、P 20 **検出**：IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状**：円形で、壁は急、底は丸い。**規模**：直径70cm、検出面からの深さ39cmである。**遺構の重複**：218号土坑を切る。

**遺物出土状況**：埋土から弥生土器と須恵器216gが出土している（第240表）。いずれも小片である。

**時期**：不明

第211表 217号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器鉢	(17.8)	—	器高 4.1	41	—	縦横のミガキ後赤彩	縦横のミガキ後赤彩	—	普通	淡赤褐色	細砂多量	10%	

## 232号土坑 (SK232) [第169図]

**位置**：3-②区、II P 25 **検出**：IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状**：円形と楕円形を合わせたような平面形で、2基の土坑の切り合いかもしれない。壁はやや急で、底は平らである。**規模**：長さ104cm、幅66cm、検出面からの深さ35cmである。**遺構の重複**：53号住居跡を切る。

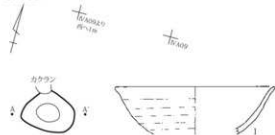
**遺物出土状況**：埋土から土師器ほか126g出土している（第240表）。いずれも小片である。**遺物**：土師器杯（1）は浅い盤状で、体部外面赤彩、内面黒色処理、底面はヘラ削りされる。

**時期**：出土遺物から、8世紀前半と思われる。

第212表 232号土坑出土土器観察表

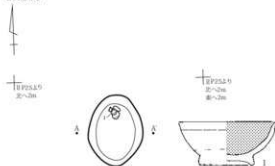
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器杯	(13.2)	(7.4)	3.5	46	ヘラ削り	回転ナデ後赤彩	回転ナデ後黒色処理	回転ナデ	良好	明灰色	2mm以下のすね粒や砂多	20%	

SK192



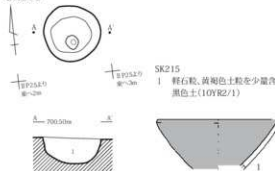
SK192  
1 壁~1cmほどの軽石粒、細かい黄褐色土粒含む黒褐色土(10YR3/2)

SK209



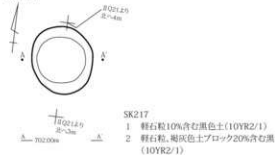
SK209  
1 軽石粒、黄褐色土粒を少量含む黒色土(10YR2/1)

SK215



SK215  
1 軽石粒、黄褐色土粒を少量含む黒色土(10YR2/1)

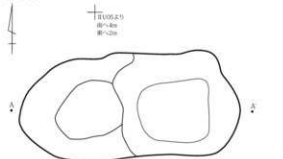
SK217



SK217  
1 軽石粒10%含む黒色土(10YR2/1)  
2 軽石粒、褐灰色土ブロック20%含む黒色土(10YR2/1)



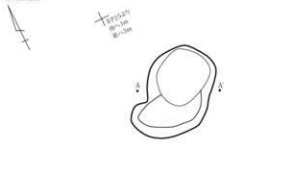
SK210



SK210

- 1 細かい黄褐色土粒、軽石粒を多量に含む黒褐色土(10YR2/3)しまり中、粘り面
- 2 に高い黄褐色土(10YR6/4)
- 3 灰褐色土粒含む黒褐色土(10YR3/2)
- 4 黄褐色土粒、軽石粒混入少ない暗褐色土(10YR3/3)
- 5 微細な黄褐色土粒を含む黒褐色土(10YR2/3)
- 6 細かい黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR2/3)
- 7 黄褐色土粒を多量に含む黒褐色土(10YR2/3)

SK232



SK232

- 1 軽石粒、黄褐色土粒20%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 2 軽石粒、黄褐色土ブロック20%含む黒褐色土(10YR3/1)



第169図 192・209・210・215・217・232号土坑 遺構図・遺物図

## 243号土坑 (SK243) [第170図]

位置: 3-②区、II P 25, U 5 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 狭長な楕円形で、壁は急、底は平らである。規模: 長径129cm、短径52cm、検出面からの深さは48cmである。遺構の重複: 244号土坑を切る。

遺物出土状況: 埋土から須恵器ほかが211g出土している(第240表)。遺物: 須恵器杯(1)は底面が回転糸切りされる。

時期: 出土遺物から、9世紀後半と思われる。

## 244号土坑 (SK244) [第170図]

位置: 3-③区、II P 25, U 5 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: 243土坑に切られて全形は不明であるが、楕円形で、壁は急、底は平らである。規模: 長径不明、短径76cm、検出面からの深さは49cmである。遺構の重複: 243号土坑に切られる。

遺物出土状況: 遺物は出土していない。

時期: 243号土坑に切られることから、8世紀前半と思われる。

第213表 243・244号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	頸高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	(12.8)	6.7	3.6	100	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	翠織	青灰色	細砂少量	40%	

## 246号土坑 (SK246) [第170図 PL51]

位置: 3-②区、II P 25, U 5 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: くびれ部を持つようなん形で2基の土坑の切り合いかも知れない。壁は急、底は南部にテラスを持って北部が深く丸い。規模: 長径126cm、短径67cm、検出面からの深さは54cmである。遺構の重複: なし

遺物出土状況: 埋土から土師器・須恵器ほかが1.0kg出土している(第240表)。遺物: 黒色土器杯(1・2)は底面が回転糸切りのままで、(2)は体部外面に正位で「本」の墨書がある。

時期: 出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第214表 246号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	頸高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器杯	(13)	(5.5)	3.9	43	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡赤褐色	細砂少量	20%	
2	埋土	黒色土器杯	(13.8)	(7.3)	3.9	60	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後ミガキ、黒色脱埋	回転ナデ後ミガキ、黒色脱埋	普通	淡褐色	細砂炭化物粒や今多	20%	側面墨書「本」

## 266号土坑 (SK266) [第170図]

位置: 3-②区、II P 10 検出: IV層上面で土質の違いにより検出された。形状: やや角ばった円形で、壁はやや急、底は平らである。規模: 直径60cm、検出面からの深さは22cmである。遺構の重複: なし

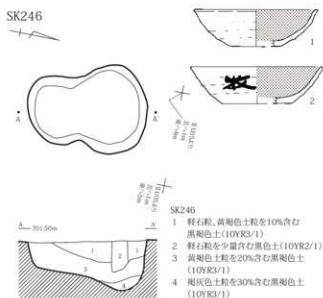
遺物出土状況: 埋土から弥生土器と土師器ほかが321g出土している(第240表)。遺物: 土師器杯(1)は底面が回転糸切りされる。

時期: 出土遺物から、10世紀前半と思われる。

SK243・SK244



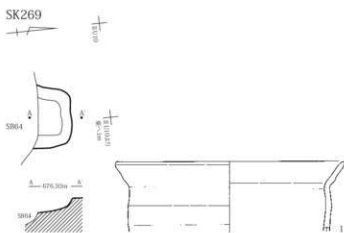
SK246



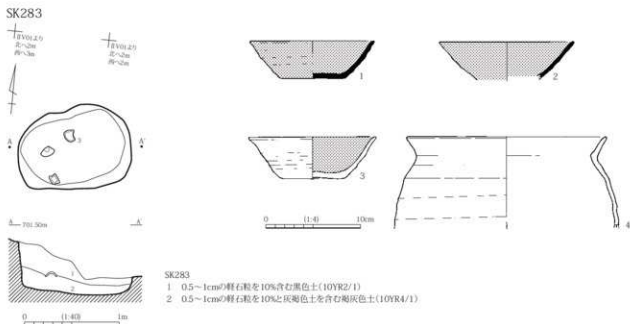
SK266



SK269



SK283



第170図 243・244・246・266・269・283号土坑 遺構図・遺物図

第215表 266号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器杯	(12.7)	5.6	4.1	111	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色	細砂少量	60%	

## 269号土坑 (SK269) [第170図]

**位置:** 3-③区、II U 10 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 64号住居跡に切られて全形は不明であるが、方形と思われる、壁はやや急で底は丸い。**規模:** 1辺62cm、検出面からの深さは8cmである。**遺構の重複:** 64号住居跡に切られる。

**遺物出土状況:** 埋土から土師器ほかが164g出土している(第240表)。いずれも小片である。**遺物:** 土師器甕(1)は体部がロクロ調整される。

**時期:** 出土遺物から、8世紀後半と思われる。

第216表 269号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器甕	(24)	—	現高7.4	58	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	明赤褐色	8mm大の小石散在、3mm以下の小石多	5%未満	

## 283号土坑 (SK283) [第170図 PL52]

**位置:** 3-②区、II P 25 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 隅丸の長方形で、壁は急、底は平らである。**規模:** 長さ126cm、幅82cm、検出面からの深さ58cmである。**遺構の重複:** 37B・59号住居跡を切る。

**遺物出土状況:** 埋土から弥生土器と土師器ほかが776g出土している(第240表)。**遺物:** 須恵器杯(1・2)は内外面に煤が付着し、黒色土器杯(3)は口縁の1/3に5カ所の灯心油痕がある。

**時期:** 出土遺物から、9世紀前半と思われる。

第217表 283号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器杯	12.9	6.8	3.9	145	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	赤褐色	1~3mmの細砂・小石やや多	80%	全面スス付着
2	埋土	須恵器杯	(14)	—	現高4.0	28	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	灰色	1~2mmの細砂砂粒多い	10%	全面スス付着
3	床面	黒色土器杯	13.2	6.7	4.5	147	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	良好	淡赤褐色	2mm以下の砂粒、気泡やや多	90%	口縁外面の約1/3部に5箇所の灯心油痕
4	埋土	土師器甕	(20.9)	—	現高9.7	90	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗赤褐色	1~3mmの細砂・小石やや多	5%未満	

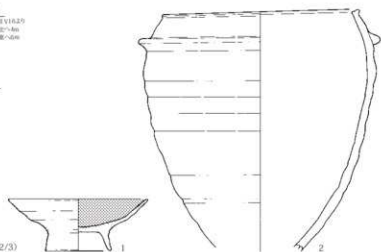
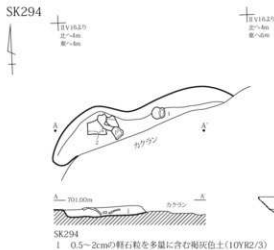
## 294号土坑 (SK294) [第171図 PL52]

**位置:** 3-③区、II V 11 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 南部をカクランに壊されて全形は不明であるが、狭長な溝状で、壁はやや急、底は平らである。**規模:** 残存長202cm、幅42cm、検出面からの深さは8cmである。**遺構の重複:** なし

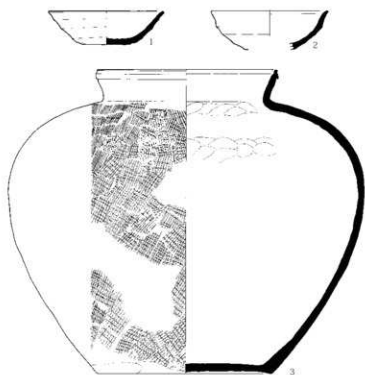
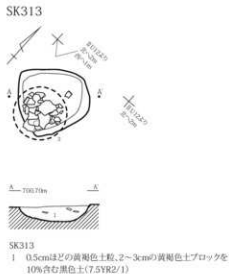
**遺物出土状況:** 埋土から土師器ほかが2.3kg出土している(第240表)。**遺物:** 足高台の黒色土器甕(1)、土師器羽釜(2)とも、本遺跡での出土は稀である。

**時期:** 出土遺物から、10世紀後半と思われる。

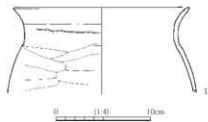
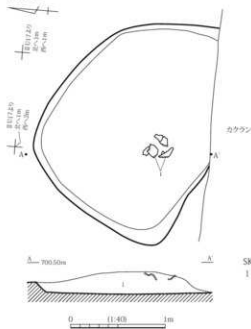
SK294



SK313



SK335



第171図 294・313・335号土坑 遺構図・遺物図



第218表 294号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	床面	黒色土器 高台付甕	14.5	高台径 6.8	5.5	180	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 黒色処理	回転ナデ後 黒色処理	普通	淡褐色	1-2mmの砂粒多	50%	
2	床面	土師器 甕	20.5	—	器高 25.3	1510	—	横ナデ	横ナデ	—	普通	淡茶褐色	2mm以下の砂粒やや多	60%	口縁端部平らで中央がやや凹む

## 313号土坑 (SK313) [第171図 PL52]

**位置:** 2-③区、II U 6 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 方形に近い台形で壁は緩やか、底は丸い。 **規模:** 1辺68～76cm、検出面からの深さは17cmである。 **遺構の重複:** なし **遺物出土状況:** 埋土・底面から図示した須恵器ほか4.0kg出土している(第240表)。 **遺物:** 須恵器杯(1・2)は底面が回転糸切りのまま、須恵器甕(3)は体部外面が格子叩き、内面の当て具痕はナデ消されているが、肩部内面に、指頭抑えの痕が残る。

**時期:** 出土遺物から、8世紀後半と思われる。

第219表 313号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	須恵器 杯	(12)	5.0	3.5	56	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	褐色	細砂少量	20%	
2	埋土	須恵器 杯	(12.2)	(5.2)	4.1	26	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂やや多	10%	
3	埋土	須恵器 甕	(18.8)	18.4	32.1	3645	ヘラ削り	平行印金、 下縁ヘラ削り	横ナデ	ナデ	普通	暗灰色	2mm以下の砂粒少量	60%	

## 335号土坑 (SK335) [第171図]

**位置:** 2-③区、II U 11・16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 南部がカクランに壊されて全形は不明であるが、残存部からやや隅丸の長方形と思われる。 **規模:** 残存長244cm、幅180cm、検出面からの深さは11cmである。 **遺構の重複:** なし

**遺物出土状況:** 埋土から土師器ほか365g出土している(第240表)。 **遺物:** 土師器甕(1)は体部外面上半を横ヘラ削りし、口縁はコの字状である。

**時期:** 出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第220表 335号土坑出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器 甕	(18.4)	—	器高 9.1	63	—	横ヘラ削り	横ナデ後 一部縦ヘラ ナデ	—	良好	灰褐色	細砂少量	5%	

## 5. 溝跡

## 1号溝跡 (SD01) [第172図]

**位置:** 2-①区、I O 18・19 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 北東-南西方向にやや蛇行して走る。底両側の立ち上がりは緩いが、南東側に比べて北西側により緩やかである。 **規模:** 長さ6.4m、幅2.3m、検出面からの深さは27cmである。 **方向:** N-45°-E **遺構の重複:** なし

**遺物出土状況:** 埋土から縄文時代～古代の土器が5.4kg出土している(第240表)。 **遺物:** 土師器皿(1)は底面を回転ヘラ削りし、体・底部内面はよく磨かれている。弥生土器壺(2)は口縁部が短く甕のような器形で、口縁端部の所々に刻みがある。縄文土器深鉢(3)は中期のもので、把手のみ出土している。平瓦(4)は薄手で、凸面に格子叩き、凹面に布目が見られる。釘(5)は、断面方形で鍛造である。

**時期:** 様々な時代の遺物が混在するが、最新の遺物と同じ8世紀前半のものと思われる。

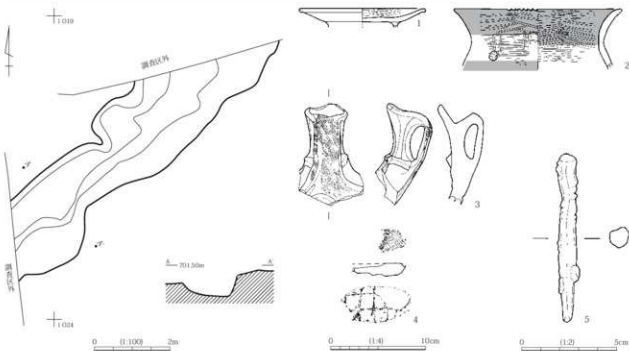
**見どころ:** 遺物の時期にまとまりはないが、中近世の遺物はなく、一時的な自然流路と思われる。

第221表 1号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器皿	(13)	—	現高 2.0	102	回転ヘラ削り	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	普通	赤褐色	1mm以下の細砂少量	50%	
2	埋土	赤生土器鉢	(17.4)	—	現高 6.3	100	—	横ミガキ後赤彩	横ミガキ後赤彩	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	5%	
3	埋土	縄文土器深鉢	—	10.6 × 6.8	—	156	—	縄文	横ナデ	—	普通	淡灰色	1mm以下の細砂少量	5%	未図
4	埋土	平瓦	—	5.6 × 3.9 × 1.4	—	34	—	格子甲斐	布目	—	平や敷	茶褐色	細砂少量	5%	未図

第222表 1号溝跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の状況
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
5		釘	9.0	1.3	1.27	159	8.93	1.18	0.82	12.7	完全品。釘状。錆び、土砂全体に付着

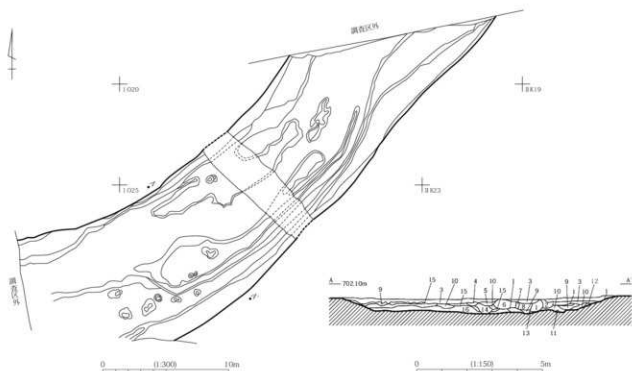


第172図 1号溝跡 遺構図・遺物図

## 2号溝跡 (SD02) [第173図 PL19・53・57]

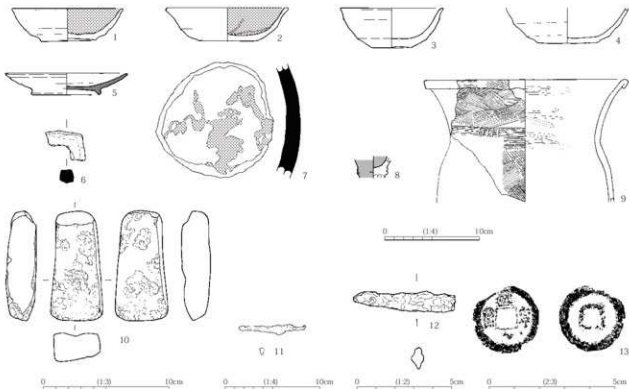
**位置:** 2-①区、I O 20・24・25、T 4・5、II K 11～13・16～18・21・22、P 1 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** やや湾曲して走る溝で、底は平らで、立ち上がりは緩い。 **規模:** 長さ34m、幅9.6～11.3m、検出面からの深さは55cmである。 **方向:** N-44°-E **遺構の重複:** 1・2・3・5号住居跡を切る。

**遺物出土状況:** 埋土から縄文時代～古代の土器が11.8kg(第240表)と底面付近で馬歯がまとまって出土している(第6章4)。 **遺物:** 黒色土器杯(1・2)と土師器碗(3・4)は底面が回転糸切りのままであるが、灰軸陶器皿(5)は、底面が回転ヘラ削りされる。水滴の把手(6)は残存長が4.2cmであるが、屈折部で割れており、全長は5cm程度である。この大きさの把手が付く平瓶は、直径が10数cmであり、水滴と考えられる。須恵器甕胴部(7)は、擦跡や打割痕は見られないものの円形に割れており、内面に黒色の付着物がある。内面に磨痕が見られないことから転用甕ではないが、パレットとして使用されたと



- 1 1~2cmの礫を5%、5~10cmの赤褐色粗砂ブロックを10%含む褐灰色シルト(2SYR4/1) しまり強、粘り弱
- 2 0.5~2cmの礫を30%含む、赤褐色土(5YR4/3) しまり中
- 3 1~2cmの礫を10%、赤褐色粗砂を5%含む黒褐色粘質土(5YR3/1) しまり強、粘り中
- 4 赤褐色粗砂を30%含む褐灰色シルト(2SYR4/1) しまり強、粘り弱
- 5 0.5~1cmの礫を30%、3~5cmの灰色シルトブロックを10%含む褐灰色土(5YR5/2) しまり中
- 6 0.5~1cmの礫を40%含む赤褐色土(5YR4/3) しまり弱
- 7 0.5~1cmの礫を20%含む褐灰色土(5YR4/1) しまり強、粘り中

- 8 0.5~3cmの礫を50%含むに、赤褐色土(5YR4/3)
- 9 褐灰色シルトを10%含むに、赤褐色土(5YR4/3)
- 10 赤褐色砂、2~3cmの黒色土ブロックを10%含む黒褐色シルト(5YR3/1) しまり中、粘り中
- 11 5cm大の黒褐色粘土塊を10%含むに、赤褐色土(5YR4/3)
- 12 赤褐色砂、黒褐色シルトブロックを10%含む黒褐色粘質土(5YR2/1) しまり強、粘り中
- 13 0.5~1cmの礫を50%含む褐灰色土(10YR4/1)
- 14 0.5~1cmの礫を50%含む黒褐色土(10YR3/1)
- 15 0.5~1cmの赤褐色細砂粒を10%含む褐灰色土(10YR5/1) しまり強
- 16 0.5~5cmの礫を20%含む赤褐色細砂粒の褐灰色土(10YR4/1)



第173図 2号溝跡 遺構図・遺物図

思われる。弥生土器高杯(8)は、杯と脚の接合部の外面に稜線が2条巡る。弥生土器甕(2)は口縁が折り返される。銭貨(13)は北宋の熙寧元寶で1068年初鑄である。

**時期:** 様々な時代の遺物が混在するが、最新の遺物と同じ11世紀のものと思われる。

**所見ほか:** 遺物の時期にまとまりはないが、中近世の遺物はなく、一時的な自然流路と思われる。

第223表 2号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黑色土器杯	(11.6)	5.7	3.4	50	左回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ	回転ナデ後放射状ミガキ	良好	赤褐色	2mm以下の細砂や中多	20%	
2	埋土	黑色土器杯	(12.9)	6.0	3.5	140	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	回転ナデ後放射状ミガキ、黒色処理	普通	茶褐色	2mm以下の細砂や中多	80%	
3	埋土	土師器碗	(10.6)	4.0	4.2	90	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡褐色	1mm以下の細砂少量	40%	
4	埋土	土師器碗	—	6.4	器高3.8	100	回転糸切り縦へう削り	回転ナデ	ミガキ	ミガキ	普通	茶褐色	細砂少量	5%未満	
5	埋土	灰釉陶器皿	(12.7)	高台径17.0	2.3	35	回転へう削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	精良	10%	
6	埋土	水溝	4.2 × 3.2 × 1.5	—	20	—	へう削	—	—	—	普通	黒灰色	白色細砂や中多	5%	
7	埋土	築造路	12.3 × 12.4	—	280	—	平行印き	横ナデ	—	—	普通	暗褐色	1mm以下の細砂少量	5%未満	一部にターム状の付着物
8	埋土	弥生土器高杯	—	—	器高2.3	17	—	赤彩	赤彩	—	普通	淡灰褐色	細砂少量	5%未満	
9	埋土	弥生土器甕	(2)	—	器高7.8	195	—	横線羽状沈痂	横ミガキ	—	普通	暗褐色	1mm以下の細砂少量	5%未満	

第224表 2号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
10	埋土	板石	90%以上	8.7	4.2	2.3	125	砂岩	

第225表 2号溝跡出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前			保存処理後			遺物の現状		
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)		厚さ (cm)	重量 (g)
11	底面	不明	8.5	2.4	1.78	2.9	7.09	1.23	0.4	2.5	分割2点。錆び、土砂全体に付着
12	不明	不明	5.5	1.7	1.32	10.5	5.42	0.9	0.81	6.1	釘状。錆び、土砂全体に付着
13	底面	銭貨	1.6	1.6	0.18	1.5	2.68	2.62	0.13	1.5	分割4点。白く劣化。もろい

### 5号溝跡 (SD05) [第174図]

**位置:** 3-⑤区、II V 21、IV A 5・10、B 1・6・11 **検出:** IV層上面で黒色土が落ち込むことにより検出された。常時湧水があり、平面的広がりのみ記録した。 **形状:** 南側の4区に向かって落ちる流路で幅が一定しない。河床は平らで、両側の立ち上がりは緩い。 **規模:** 調査した長さ24.6m、幅1.3~7.4m、検出面からの深さは20~30cmである。 **方向:** N-7°-E **遺構の重複:** なし

**遺物出土状況:** 埋土から弥生土器ほか、18.0kg出土している(第240表)。9割以上が弥生土器である。

**時期:** 古代の遺物も出土するが、弥生土器の割合が高いことから弥生時代の可能性が高い。

**所見ほか:** 形状から、自然流路と思われる。

第226表 5号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器甕	13.6	—	器高5.8	100	—	縦へう削り	横ナデ	—	良好	淡赤褐色	1mm以下の細砂や中多	10%	
2	埋土	弥生土器甕	6.3 × 4.7	—	20	—	—	縄文	横ナデ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%未満	拓本
3	埋土	弥生土器甕	11.8 × 7.4	—	55	—	—	横線羽状沈痂	横ハケ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%未満	拓本

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
4	埋土	赤生土器壺	—	21.7 × 7.6	—	205	—	上平帯環状文、下平帯ハケ後縦ヘラナデ	縦ハケ後縦ヘラナデ	—	普通	灰褐色	細砂少量	5% 未満	拓本

## 6号溝跡 (SD06) [第174図 PL19]

**位置:** 3-②区、II P 20・Q 11・16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 直線的に延びる溝で、両側にテラスを持ち、底は丸い。**規模:** 東部が調査区外、西部が削平されて全長は不明であるが、調査した長さ9.7m、幅1.9～2.1m、検出面からの深さ21～38cmである。**方向:** E-17°-N **遺構の重複:** 44・58号住居跡を切り、208号土坑に切られる。

**遺物出土状況:** 埋土から弥生土器と古代の土器3.3kgと種不明の骨片が出土している(第240・244表)。いずれも小片である。

**時期:** 出土遺物から、10世紀後半と思われる。

**所見ほか:** 西側の2区では削平されて、続きが検出されないが、1・2・5・7・9号掘立柱建物跡と軸がほぼ一致しており、掘立柱建物群を区画する溝であった可能性がある。7号溝跡とは平行している。

第227表 6号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器高台付陶	—	高台径8.0	現高3.6	100	回転糸切り後のこ状出籠	回転ナデ	回転ナデ後放射状ミガキ	回転ナデ後放射状ミガキ	良好	淡褐色	5mm以下の小石、砂粒や砂多	30%	
2	埋土	赤生土器壺	—	—	現高13.4	420	—	縦縞波状文	縦ハケ後縦縞ミガキ	—	普通	淡褐色	1mm以下の細砂や砂多	5%	

## 7号溝跡 (SD07) [第174図 PL19]

**位置:** 3-②区、II P 20・Q 16 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。**形状:** 直線的に延びる溝で、立ち上がりはやや急で、底は丸い。**規模:** 東部が調査区外、西部が削平されて全長は不明であるが、調査した長さ10.4m、幅0.5～0.8m、検出面からの深さ16～27cmである。**方向:** E-17°-N **遺構の重複:** 44・58号住居跡を切る。

**遺物出土状況:** 埋土から弥生土器と古代の土器3.8kgとニホンジカの白歯、骨片ほかが出土している(第240・244表)。いずれも小片である。

**時期:** 出土遺物から、11世紀と思われる。

**所見ほか:** 6号溝跡と同様に、1・2・5・7・9号掘立柱建物跡と軸がほぼ一致しており、掘立柱建物群を区画する溝であった可能性がある。6号溝跡とは平行しているが6号溝跡より新しく、6号溝跡の位置をずらしての掘り直しか。

第228表 7号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器羽釜	—	7.8 × 8.7	—	95	—	縦ヘラ削り	横ナデ	—	普通	赤褐色	1mm以下の細砂や砂多	5% 未満	

SD05



TR021



TR001

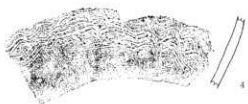
TR002



TR010

TR006

TR007

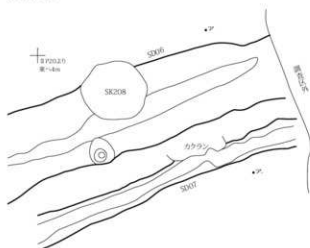


TR011

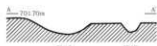
TR012

0 (1:200) 5m

SD06・07

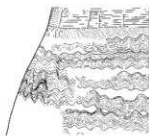


TR002(1)  
溝・4m  
東・4m

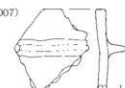


0 (1:100) 2m

(SD06)



(SD07)



0 (1:4) 10cm

第174図 5・6・7号溝跡 遺構図・遺物図

## 8号溝跡 (SD08) [第175図 PL53]

位置：3-③区、II U 5・10 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：直線的な溝で、立ち上がりは緩く、底は平らである。規模：長さ2.3m、幅1.0～1.1m、検出面からの深さ10～21cmである。方向：E-17°-N 遺構の重複：なし

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか、702g出土している(第240表)。いずれも小片である。遺物：土師器椀(1)は底面が回転糸切りのままであるが、灰軸陶器椀(2)は底面が回転へう削りされる。

時期：出土遺物から、10世紀前半と思われる。

第229表 8号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	土師器椀	10.1	4.7	3.6	100	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡褐色	1mm以下の細砂や少量	100%	体部外面凸凹目立つ
2	埋土	灰軸陶器椀	(13.6)	高台径7.0	4.6	85	回転へう削り	回転へう削り	回転ナデ	回転ナデ	良好	明灰色	—	40%	

## 9号溝跡 (SD09) [第175図 PL19]

位置：3-③区、II U 10、V 1・6 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：直線的に延びる溝で、立ち上がりは緩く、底は丸い。規模：東西が調査区外で全長不明だが、調査した長さ16.7m、幅0.6～0.9m、検出面からの深さ7～22cmである。方向：E-21°-N 遺構の重複：39・40・47・49・50・61・62・63・64・65号住居跡を切るが10号溝跡との切り合いは不明確である。東西は調査区外で、水路を挟んだ2区では続きが削平されて検出されていない。

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか、336g出土している(第240表)。いずれも小片である。遺物：瓦質土器高台付椀(1)は、内面を黒色処理するが、体部が直線的で、黒色土器とは器形が大きく異なる。時期：出土遺物から、10世紀前半と思われる。

第230表 9号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	瓦質土器高台付椀	(13.9)	高台径6.0	5.3	53	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ・黒色処理	回転ナデ・黒色処理	普通	淡褐色	1mm以下の細砂や中多	20%	

## 14号溝跡 (SD14) [第175図 PL53]

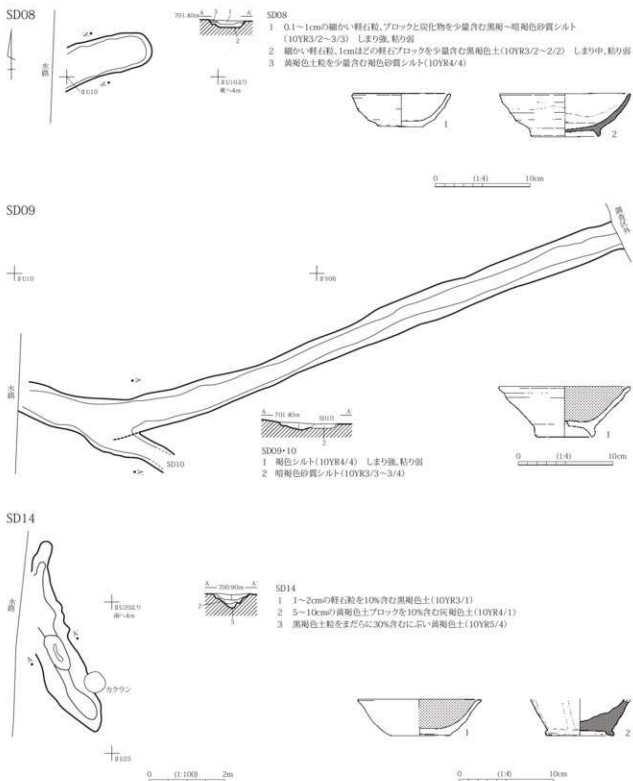
位置：3-③区、II U 19 検出：IV層上面で土質の違いにより検出された。形状：やや湾曲する溝で、立ち上がりはやや急で、底はとがる。規模：長さ5.4m、幅0.4～1.2m、検出面からの深さは35cmである。方向：N-20°-W 遺構の重複：なし

遺物出土状況：埋土から古代の土器ほか、858g出土している(第240表)。いずれも小片である。遺物：黒色土器杯(1)は、灰軸陶器瓶(2)とも底面を回転糸切りし、灰軸陶器瓶(2)の高台は八の字状に外側に大きく張り出す。

時期：出土遺物から、9世紀後半と思われる。

第231表 14号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	埋土	黒色土器杯	(12.8)	6.1	3.9	100	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後放射状の細かいさび、黒色処理	回転ナデ後放射状の細かいさび、黒色処理	普通	淡赤褐色	細砂や中多	30%	
2	埋土	灰軸陶器瓶	—	高台径7.2	3.9	200	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡灰色	2mm以下の細砂や中多	5%	



第175図 8・9・14号溝跡 遺構図・遺物図

18号溝跡 (SD18) [第176図 PL37]

**位置:** 2-③区、I Y 10、II U 1・2・6 **検出:** IV層上面で土質の違いにより検出された。 **形状:** 直線的に延びる溝で、立ち上がりはほぼ垂直で、底は平らである。 **規模:** 長さ18.5m、幅0.7～1.2m、検出面からの深さ17～47cmである。 **方向:** E-22°-N **遺構の重複:** 78号住居跡と4号溝跡を切る。 **遺物出土状況:** 埋土から弥生土器と古代の土器が、3.6kg 出土している(第240表)。いずれも小片である。



遺物：弥生土器甕（1）は、口縁に櫛描羽状文が施され、須恵器甕（2）の口縁内外面は横ナデされる。

時期：出土遺物の時期はばらばらで、時期は不明である。

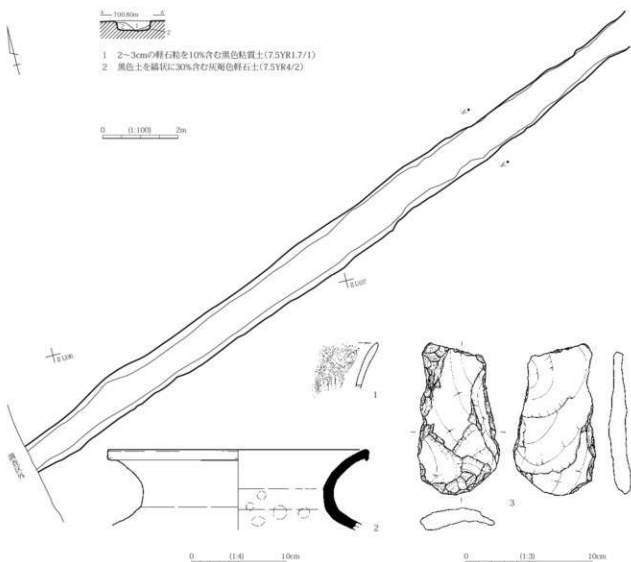
所見ほか：形態からは、現代の暗渠の可能性が高い。

第232表 18号溝跡出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	粘土	残存率	備考
1	埋土	弥生土器甕	5.0	5.1	20	—	—	櫛状文並文 口縁櫛状文	横ナデ 縦櫛の ミガキ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5% 未満	拍本
2	埋土	須恵器甕	(27.2)	—	底高 8.5	185	—	横ナデ	横ナデ	—	普通	灰色	細砂少量	5% 未満	頸部内面に指頭圧

第233表 18号溝跡出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
3	埋土	打製石斧	60%	12.0	6.5	1.8	125	デイサイト	



第176図 18号溝跡 遺構図・遺物図

## 6. 遺構外出土遺物 [第177・178図 PL53・54・55・57]

多くの遺構が園地整備によってカクランを受けているため、遺構外から出土する遺物は多く、土器に限っても総量 276.6kg と、本調査での土器の出土総量 1127.9kg の 1/4 に達する (第126・237・240表)。残念ながらそのほとんどは小片であるうえに互いに接合・復元ができず、図示できたのは碗・杯・皿などの小型品と、甕・壺などの中型品の口縁部などにとどまった。

須恵器杯 (1) から灰軸陶器碗 (4) は 1 区の出土遺物である。自然の流路と見られる溝跡で採集されたが、特に流されてきたような磨滅痕はなく、付近からの流入の可能性がある。

2 区出土の黒色土器高台付碗 (9) は、4～5 本 1 組の暗文が放射状に施される。黒色土器高台付碗 (11) は、内面に施軸陶器の印刻花文の様な花卉様の暗文が見られる。黒色土器高台付碗 (12) は内面のミガキが強く、凹線のようにくぼんでいる。黒色土器碗 (13) は内外両面 8 面が黒色処理される黒色土器 B 類である。土師器碗 (15) は底部内面に人の顔のような灰褐色の付着物が見られ、描画土器の可能性を考慮し、付着物の科学分析を行ったところ、ケイ素やアルミニウム、鉄などが多く含まれる物質で一般的な土砂の成分に近く、マイクロスコープ観察で植物細胞が観察されたために、土器表面を這うように根が伸びて付着したものと判断された (第 6 章)。黒色土器皿 (16) と灰軸陶器皿 (17) は口縁部がくの字に内折する。緑軸陶器碗 (19) は本調査では 2 点のみの緑軸陶器の 1 つである。須恵器瓶の高台 (20) は器高が高く、円面碗の可能性も考えられるが、上面の中央に口から落ち込んだと思われる自然釉が厚く付着しており、碗として使用することは困難である。平瓦 (24) は内面の布目は残るが、外面は剥落している。

3 区出土の黒色土器高台付碗 (34) は内面に 2 本 1 組で十文字の暗文が見られる。灰軸陶器瓶の底部 (45) は内面に、黄褐色～黒色の付着物があり、科学分析の結果、漆であることが確認された (第 6 章)。須恵器蹴脚風字碗 (48) は楕円形の一方の端を直線的に切り取ったような平面形の角の部分の裏面に足が付き、足の先端に 5 本の刻み目を入れることによって指を表現している。磨り面には焼成時の灰が付着しており、使用された形跡はない。この碗については、第 7 章で後述する。青磁直口瓶 (47) は中国磁州窯産と見られ、頸に耳が付けば双耳瓶、付かなければ直口瓶であるが、口縁部だけなので判断できない。軒丸瓦 (49) は、2・3 区境の農業用水路の掘り方出土である。川原寺式の複弁八葉蓮華文の川原寺式であるが中央の蓮子の数が 1 + 5 で外側の 1 周分少なく、外縁が面違鉛菌文ではなく、凸鉛菌文である点などが大元の川原寺出土のもの異なる。

5 区出土の土師器高杯 (50) は杯部が浅い皿状で、外周に低い隆帯がめぐらされている。

砥石 (52) は携帯用の孔が穿たれており、砥石 (53) は直方体状で、各磨り面は凹むことがなく、ほぼ平らである。

第 234 表 遺構外出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
1	1 区	須恵器杯	(12.9)	(5.6)	3.5	90	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	3mm 以下の炭化物	40%	
2	1 区	須恵器高台付碗	(14.6)	高台径 7.8	7.2	205	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	3mm 以下の白色砂多	50%	
3	1 区	黒色土器高台付碗	(14.3)	高台径 8.3	5.0	105	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	回転ナデ後ミガキ、黒色処理	普通	淡褐色～淡黄褐色	細砂少量	30%	
4	1 区	灰軸陶器碗	14.8	高台径 7.6	4.9	160	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰白色	1mm 以下の細砂少量	40%	
5	2・3 区	須恵器杯	(13.6)	4.9	3.9	55	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	1mm 以下の細砂やや多	20%	
6	2・3 区	須恵器杯	(14)	(8)	3.5	30	へう削り	回転ナデ、ロクロ目やや強い	回転ナデ	回転ナデ	普通	赤褐色	2mm 以下の砂粒やや多	5%	
7	2・3 区	須恵器杯	(14)	(7.2)	3.9	75	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	灰色	細砂、炭化物、気泡多	30%	

図版番号	出土層位・位置	図種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	構成	色調	胎土	残存率	備考
8	2-③区	黒色土器 杯	(13)	(5.6)	4.6	40	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	茶褐色	2mm以下の 砂粒、気泡 やや多	10%	
9	2-③区	黒色土器 高台付樽	13.8	6.6	4.5	110	回転糸切り 後ナデ	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	淡赤褐色	2mm以下の 砂粒、気泡 やや多	60%	内面4～5本 1筋の放射状の ミガキ
10	2-③区	黒色土器 杯	16.2	—	底高 4.7	45	—	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	—	普通	赤褐色	2mm以下の 砂粒やや多	10%	
11	2-③区	黒色土器 高台付樽	(17.2)	8.2	5.7	95	回転糸切り 後ナデ	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	赤褐色～ 明赤褐色	2mm以下の 砂粒、気泡 やや多	30%	
12	2-③区	黒色土器 高台付樽	—	高台径 6.4	底高 3.1	90	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	普通	淡褐色	2mm以下の 砂粒、気泡 やや多	30%	
13	2-③区	黒色土器 B型樽	—	高台径 5.8	底高 1.6	15	回転ヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	回転ナデ後 放射状 ミガキ、 黒色処理	良好	黒灰色	細砂少量	5%	厚く炭素附着
14	2-③区	土師器 杯	(12.8)	5.2	4.0	63	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色 ～暗赤色	細砂少量	40%	
15	2-③区	土師器 樽	11.8	6.2	4.2	110	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色	細砂少量	80%	
16	2-①区	黒色土器 盃	(11)	高台径 6.4	2.4	30	ナデ	ナデ	ナデ後放射 状ミガキ、 黒色処理	ナデ後放射 状ミガキ、 黒色処理	普通	赤褐色	1～5mmの 砂粒多	10%	
17	2-①区	灰輪肉器 盃	(14.4)	高台径 6.6	2.8	48	回転ヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡緑灰色	精良	20%	体部外面上平の 横溝に軸の 拍痕量
18	2-①区	灰輪肉器 盃	(14)	(7.6)	2.9	28	回転ヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	明灰色	精良	10%	
19	2-①区	緑輪肉器 樽	(15)	高台径 (7.4)	5.7	65	回転ヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	劣悪	暗灰色	精良	10%	
20	2-③区	黒色土器 盃	—	口径 (11.4)	底高 3.5	155	ヘラナデ?	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	細砂少量	5% 未測	底面中央直徑4cm の範囲が厚く 削り落ちる
21	2-③区	土師器 盃	(22.6)	—	底高 10.4	120	—	上端横それ 以下ヘラ 削り	横ナデ後 旋ヘラ ミガキ	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	5% 未測	
22	2-③区	土師器 盃	(24)	—	底高 8.4	80	—	回転ナデ	回転ナデ	—	良好	赤褐色	3mm以下の 砂粒やや多	5% 未測	
23	2-③区	土師器 羽釜	(26.9)	—	底高 8.0	165	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	淡茶褐色	細砂少量	5% 未測	
24	2-③区	平瓦	3.4×3.2			13	—	割瓦	布目	—	やや軟	灰灰色	2mm以下の 砂粒やや多	5% 未測	根本
25	3-①区	黒色土器 杯	13.0	6.6	4.2	130	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	1mm以下の 細砂、気泡 やや多	100%	
26	3-①区	黒色土器 杯	(13.2)	6.0	3.7	90	手持ちヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ	不整方向 ナデ	普通	暗灰色	白色 細砂少量	40%	
27	3-②区	黒色土器 杯	13.3	6.3	3.9	140	右回転 糸切り	回転ナデ、 口クロ目 やや強い	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	3mm以下の 小石、炭化 物粒、気泡 やや多	80%	
28	3-②区	黒色土器 杯	14.3	5.8	4.5	150	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	暗灰色	1mm以下の 細砂、気泡 やや多	70%	内外面に十字の 火押痕
29	3-②区	黒色土器 杯	(14)	(6.7)	4.6	50	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂少量	20%	体部外面 5～6mm幅線状 の火押痕2本
30	3-③区	黒色土器 高台付杯	(16)	—	底高 3.9	24	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡赤褐色、 内面 褐色	細砂、炭化 物粒やや多	30%	
31	3-③区	黒色土器 杯	(15)	5.2	3.7	55	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ、 縦目の放射 状ミガキ、 黒色処理	回転ナデ、 縦目の放射 状ミガキ、 黒色処理	普通	茶褐色	細砂少量	30%	
32	3-②区	土師器 杯	(12)	(5.5)	3.9	65	右回転 糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	赤褐色	2mm以下の 砂粒少量	40%	
33	3-①区	土師器 高台付杯	—	高台径 7.6	底高 5.7	139	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	普通	淡赤褐色	細砂、気泡、 炭化物粒 やや多	30%	
34	3-③区	黒色土器 高台付樽	(15)	高台径 8.0	5.3	125	回転ヘラ 削り	回転ナデ	回転ナデ、 黒色処理	回転ナデ、 黒色処理	普通	茶褐色	2mm以下の 砂粒少量	50%	内面2本単位 4方向放射状 ミガキ

第5章 遺構と遺物

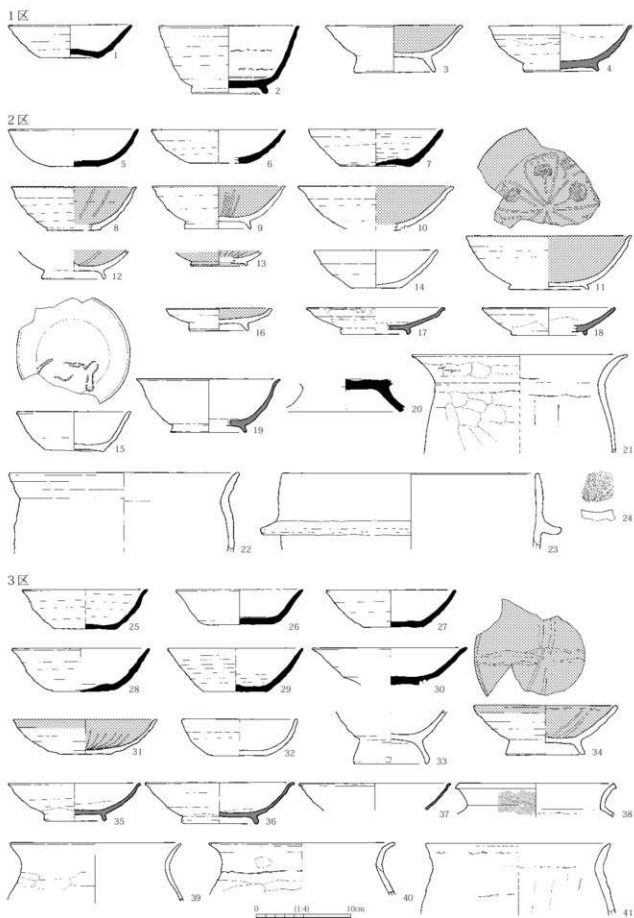
図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	胎土	残存率	備考
35	3-②区	灰釉陶器 甕	(13.8)	高台径 6.1	4.0	48	回転へう 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	淡緑灰色	精良	20%	
36	3-②区	灰釉陶器 甕	(15.6)	高台径 7.4	4.3	116	回転へう 削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	暗灰色	細砂少量	50%	下部灰釉白濁
37	3-③区	灰釉陶器 甕	(15.8)	—	器高 2.9	13	—	回転ナデ後 灰釉加施	回転ナデ後 灰釉加施	—	良好	明灰色	2mm 以下の 砂粒やや多	5%	
38	3-③区	土師器 甕	(16.3)	—	器高 3.6	71	—	横ハケ	横ナデ	—	普通	黒褐色	1mm 以下の 細砂やや多	5%	
39	3-③区	土師器 甕	(18)	—	器高 6.1	45	—	横へう削り	回転ナデ	—	普通	暗褐色	細砂少量	5%	
40	3-②区	土師器 甕	(19.5)	—	器高 5.6	57	—	横へう削り	横ナデ	—	普通	淡赤褐色	細砂少量	5% 未満	底部外面の一部 高台跡と大と巻き 上げ痕
41	3-②区	土師器 甕	(19.4)	—	器高 7.6	105	—	回転ナデ	回転ナデ後 一部横へう ナデ	—	良好	淡赤褐色	細砂少量	5% 未満	口縁部内外面の一部 巻き上げ痕残る
42	3-③区	須志路 突帯付 四耳壺	5.0 × 4.1 × 2.1			24	—	平行叩き	ナデ	—	普通	灰色	細砂少量	5% 未満	内面黒色の自然釉 かかる
43	3-②区	須志路 甕	7.0 × 9.1			125	—	横ナデ後 縦線状文	横ナデ	—	普通	暗灰色	細砂少量	5% 未満	拓本
44	3-②区	須志路 甕	11.0 × 9.9			350	—	平行叩き	同心円状 当具痕	—	良好	灰色	3mm 以下の 砂粒やや多	5% 未満	拓本
45	3-③区	灰釉陶器 甕	—	高台径 9.4	器高 7.5	90	へう削り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰白色	精良	5% 未満	内面に緑色磨石状 付着物有
46	3-③区	灰釉陶器 甕	—	高台径 11.6	器高 6.1	198	回転へう 削り	回転へう 削り	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	細砂少量	5% 未満	体部外面一部に緑 色磨石の一部にも 灰釉かか
47	3-③区	青磁 直口壺	伊3	—	器高 2.4	12	—	調整不明	調整不明	—	良好	淡緑灰色	精良	5% 未満	縦方向の貫入が数 mm おきに入る
48	3-③区	須志路 磨擦線字 甕	10.9 × 7.6 × 3.9			217	へう削り	側面 へう削り	—	縦面降灰の ため不明	良好	暗灰色	精良	20%	
49	3-②区	研丸瓦	10.5 × 12.2			410	—	整形し後 磨滅	ナデ	—	良好	暗灰色	精良	5%	
50	5-③区	土師器 高杯	(11)	—	器高 2.7	172	—	横ナデ後 一部へう 削り	放射状 ミガキ	—	普通	淡灰褐色	細砂やや多	30%	
51	5区	須志路 長頸甕	10.1	—	器高 2.7	240	—	回転ナデ	回転ナデ	—	普通	暗灰色	2mm 以下の 砂粒やや多	10%	降灰顯著

第 235 表 遺構外出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	残存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
52	2-②区	砥石	90% 以上	10.1	3.6	2.2	104	石英斑岩	
53	不明	砥石	80%	7.2	2.0	1.9	50	石英斑岩	
60	2-②区	砥石	50%	16.1	11.0	6.1	1679	砂岩	

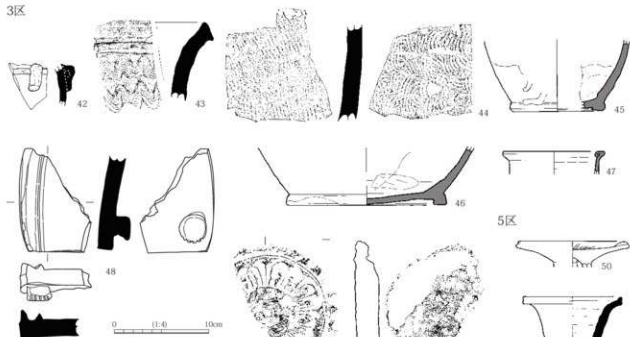
第 236 表 遺構外出土金属器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	保存処理前				保存処理後				遺物の現状
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
54	砂礫層	不明	5.5	2.4	1.14	15.8	5.09	1.25	0.55	5.3	先端部の破片、錆び、土砂全体に 付着
55	黒色土層南面区	刀子	3.5	1.1	0.71	2.5	3.55	0.94	0.44	1.9	先端部の破片、錆び、土砂全体に 付着
56	横出面	小刀	5.5	2.3	1.06	9.6	5.41	2.12	0.43	7.0	先端部の破片、錆び、土砂全体に 付着
57	不明	刀子	7.0	1.6	1.28	13.2	6.95	1.48	0.88	10.0	釘状、錆び、土砂全体に付着
58	黒色土層	不明	3.7	3.0	1.3	9.4	3.64	1.72	0.42	7.3	L状破片、錆び、土砂全体に付着
59	横出面	不明	3.3	1.3	0.79	3.0	3.19	1.19	0.45	1.5	先端部の破片、錆び、土砂全体に 付着

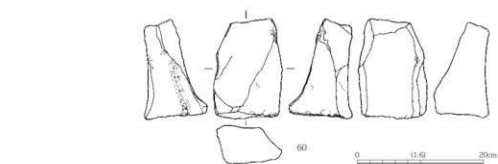
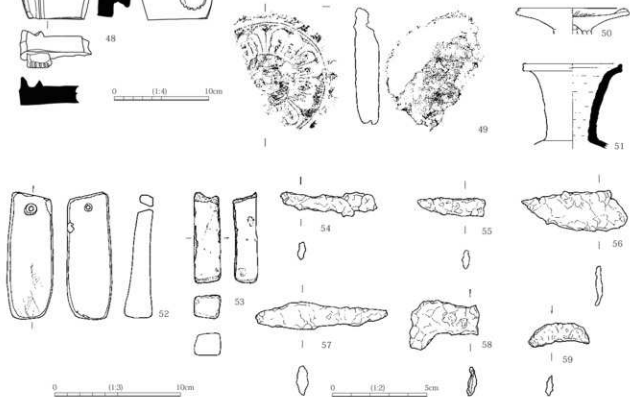


第177図 遺構外 遺物図(1)

3区



5区



第178図 遺構外 遺物図(2)







### 第3節 その他の時代の遺構と遺物

本調査で検出された遺構と遺物は、弥生時代と古代のものがほとんどであり、これに若干の縄文時代の遺物が混入するだけである。ここでは、唯一縄文時代と考えられる遺構と、弥生時代か古代のどちらか判断できない竪穴住居跡と、縄文時代のものと思われる遺物を取り上げる。

#### 1. 竪穴住居跡

##### 75号住居跡 (SB75) [第179図]

**位置**：3-③区、ⅡV1・2 **検出**：60号住居跡調査中に、東側に60号住居跡とは違う落ち込みが見られたことにより検出された。 **形状**：東部を60号住居跡に切られ、西部から北部が調査区外のため不明。

**規模**：不明であるが、残存部の東西2.0m、南北1.3m、検出面からの深さは25～35cmである。 **主軸方位**：不明 **遺構の重複**：60号住居跡に切られる。 **堆積状況**：3層に分かれ、レンズ状の堆積である。

**住居内施設**：ピット1基が検出されているが、本住居との関係は不明である。

**遺物出土状況**：出土していない。

**時期**：不明



第179図 75号住居跡 遺構図

#### 2. 土坑

##### 73号土坑 (SK73) [第180図]

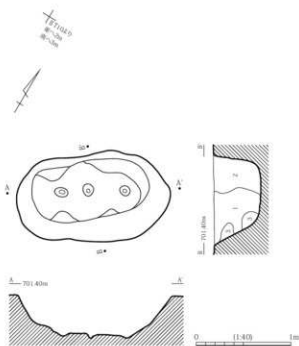
**位置**：2-②区、ⅠT14 **検出**：Ⅳ層上面で土質の違いにより検出された。 **形状**：楕円形で、壁はやや急、底は平らである。底面に直径11～14cm、深さ2～5cmの小穴が3個縦に並んでいる。 **規模**：

長さ162cm、幅98cm、検出面からの深さ46cmである。 **遺構の重複**：なし

**遺物出土状況**：埋土から弥生土器30gが出土している（第240表）。小片で図示できなかった。

**時期**：弥生土器は混入と見られ、出土遺物からは時期不明である。

**所見ほか**：底面の小穴は浅いが、逆茂木を立てた縄文時代の陥し穴と思われる。



第180図 73号土坑 遺構図

3. 遺構外出土遺物 [第181図]

縄文時代のもと思われる遺構は、前述の73号土坑だけであるが、縄文土器や縄文時代のもと思われる石器は、弥生時代や古代の遺構に混入して出土しており各々の遺構出土遺物として報告した。それ以外にも少量ではあるが、遺構外で縄文時代の遺物が出土している。

(1)~(4)は縄文時代中期のもので、(1)は両耳壺の把手、(2)は圧痕隆帯土器の口縁部である。(3)は浅鉢の口縁部、(4)は無節の縄文が施された胴部である。(5)・(6)は磨消縄文が施された胴部または口縁部で、(5)は縄文時代後期初頭、(6)は中期末~後期初頭のもと思われる。(7)は同時期の軽石製の凹石であるが、表裏両面のほか、長径方向の両側面にも凹みがある。

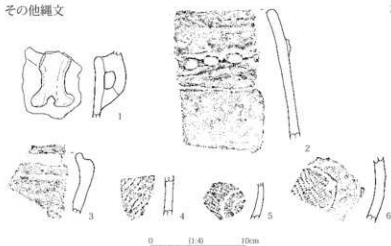
第238表 遺構外出土土器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	底面	外面	内面	底部内面	焼成	色調	粘土	残存率	備考
1	表土	縄文土器 深鉢	7.6 × 5.3 × 3.4		100	—	ナデ	ナデ	—	—	普通	淡褐色	1mm以下の 細砂多	5% 未済	
2	表土	縄文土器 深鉢	9.5 × 13.9		200	—	横ナデ後 圧痕隆帯 跡付	横ナデ	—	—	良好	淡褐色	細砂少量	5% 未済	拓本
3	表土	縄文土器 浅鉢	6.3 × 6.2		58	—	横ナデ後 一部へう 跡付	横ナデ	—	—	普通	灰褐色	1mm以下の 細砂多	5% 未済	拓本
4	表土	縄文土器 深鉢	3.5 × 4.2		18	—	無節縄文	横ナデ	—	—	普通	淡赤褐色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未済	拓本
5	表土	縄文土器 深鉢	4.5 × 3.9		12	—	縄文で施文 後沈線で 区画	ナデ	—	—	普通	褐色	1mm以下の 細砂やや多	5% 未済	拓本
6	表土	縄文土器 深鉢	7.4 × 7.0		62	—	縄文で施文 沈線で 区画	横ナデ	—	—	良好	茶褐色	細砂少量	5% 未済	拓本

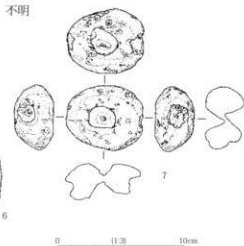
第239表 遺構外出土石器観察表

図版番号	出土層位・位置	器種	現存	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
7	表土	凹石	100%	6.1	5.2	3.1	32.3	軽石	

その他縄文



不明



第181図 遺構外 遺物図

## 4. 小結

施設の検出や出土遺物がないことから時期不明の75号住居跡と、縄文時代の陥し穴と思われる73号土坑を報告した。陥穴は複数個が集中して掘られていることが多いが、本調査区内では陥し穴であることが明確なものは73号土坑だけである。最後にこれらの土坑も含めた、竪穴住居跡と墓跡以外の遺構の出土土器を一括して表とした。出土土器は小片が多く、まとまって出土することが少ないため、図化率は15%にとどまった。

第240表 出土土器重量一覧表 (g) (上段:図化遺物総重量(g),下段:出土遺物総重量(g),1段の遺構:出土遺物総重量のみで図化遺物なし)

遺構名	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	胎輪陶器	中世陶器類	近世陶器類	輸入陶器類	その他	計	図化率 (%)
SD01	156	100	102	0	0	0	0	0	34	392	7%
	206	1592	1278	1715	47	0	0	0	584	5422	
SD02	0	212	380	280	35	0	0	0	20	927	8%
	15	5856	1986	3567	168	0	132	0	65	11789	
SD03	0	1605	602	958	8	0	0	0	0	3173	0%
SD04	0	0	30	0	0	0	0	0	0	30	100%
	0	0	30	0	0	0	0	0	0	30	
SD05	20	260	100	0	0	0	0	0	0	380	2%
	25	16760	475	690	0	0	0	0	0	17950	
SD06	0	420	100	0	0	0	0	0	0	520	16%
	0	1670	651	861	68	0	0	0	0	3250	
SD07	0	0	95	0	0	0	0	0	0	95	2%
	0	1995	795	996	38	0	0	2	0	3826	
SD08	0	100	0	0	85	0	0	0	0	185	26%
	0	160	236	183	123	0	0	0	0	702	
SD09	0	0	0	0	0	0	0	0	53	53	16%
	0	43	160	50	30	0	0	0	53	336	
SD10	0	67	63	32	0	0	0	0	38	200	0%
SD12	0	50	5	45	0	0	0	0	0	100	0%
SD13	13	77	27	50	0	0	0	0	0	167	0%
SD14	0	0	100	0	200	0	0	0	0	300	35%
	0	95	330	233	200	0	0	0	0	858	
SD15	0	217	80	75	20	0	0	0	0	392	0%
SD16	0	3	70	0	0	0	0	0	0	73	0%
SD17	0	90	3	5	0	0	0	0	0	98	0%
	0	20	0	185	0	0	0	0	0	205	
SD18	0	2465	296	800	0	0	0	0	29	3590	6%
SD19	0	543	85	50	0	0	0	0	0	678	0%
SD20	0	49	0	0	0	0	0	0	0	49	0%

## 第5章 遺構と遺物

遺構名	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	瀬越陶器	中世陶磁器	近世陶磁器	輸入陶磁器	その他	計	関比率(%)
SD24	0	551	10	5	0	0	0	0	0	566	0%
SD25	0	456	132	390	0	0	0	0	0	978	0%
SD26	0	930	544	1702	110	0	0	0	0	3286	0%
SD27	0	165	250	1020	35	0	0	0	0	1470	0%
SD28	0	175	0	360	5	0	0	0	0	540	0%
SD503	0	140	0	0	0	0	0	0	0	140	0%
SD511	0	166	0	0	0	0	0	0	0	166	28%
	0	586	0	0	0	0	0	0	0	586	
SK07	0	170	0	0	0	0	0	0	0	170	0%
SK10	0	19	0	0	0	0	0	0	0	19	0%
SK11	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0%
SK16	0	11	0	0	0	0	0	0	0	11	0%
SK20	0	0	0	0	41	0	0	0	0	41	37%
	0	0	70	0	41	0	0	0	0	111	
SK21	0	44	0	0	0	0	0	0	0	44	0%
SK22	0	1180	0	0	0	0	0	0	0	1180	0%
SK26	0	0	0	133	0	0	0	0	0	133	59%
	0	6	0	218	0	0	0	0	0	224	
SK27	0	16	0	0	0	0	0	0	0	16	0%
SK28	0	31	0	0	0	0	0	0	0	31	0%
SK30	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	0%
SK34	0	25	0	0	0	0	0	0	0	25	0%
SK35	0	90	9	0	0	0	0	0	0	99	0%
SK38	0	100	30	125	5	0	0	0	0	260	0%
SK41	0	96	0	0	10	0	0	0	0	106	0%
SK45	0	573	0	0	0	0	0	0	0	573	0%
SK46	0	205	0	0	0	0	0	0	0	205	71%
	0	288	0	0	0	0	0	0	0	288	
SK49	0	226	6	0	0	0	0	0	0	232	0%
SK55	0	90	5	0	0	0	0	0	0	95	0%
SK56	0	765	148	80	0	0	0	0	0	993	0%
SK57	0	0	0	90	0	0	0	0	0	90	46%
	0	0	0	195	0	0	0	0	0	195	
SK59	0	0	462	0	345	0	0	0	0	807	72%
	0	25	643	84	370	0	0	0	0	1122	
SK60	0	0	406	0	1137	0	0	0	0	1543	97%
	0	25	436	0	1137	0	0	0	0	1598	
SK62	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0%
SK63	0	325	0	315	0	0	0	0	0	640	0%
SK73	0	30	0	0	0	0	0	0	0	30	0%
SK75	0	40	0	0	0	0	0	0	0	40	0%
SK76	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	0%
SK78	0	25	0	0	0	0	0	0	0	25	0%
SK80	0	65	0	0	0	0	0	0	0	65	0%
SK88	0	160	0	0	0	0	0	0	0	160	0%
SK89	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0%
SK90	0	55	0	0	0	0	0	0	0	55	0%
SK93	0	145	0	0	0	0	0	0	0	145	0%
SK95	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10	0%
SK100	0	900	0	0	0	0	0	0	0	900	48%
	0	1875	0	0	0	0	0	0	0	1875	
SK120	0	30	105	20	0	0	0	0	0	155	0%
SK121	0	15	0	20	0	0	0	0	0	35	0%
SK130	0	18	0	0	0	0	0	0	0	18	0%
SK132	0	15	0	0	0	0	0	0	0	15	0%
SK136	0	25	0	0	0	0	0	0	0	25	0%
SK147	0	0	118	0	0	0	0	0	0	118	64%
	0	0	184	0	0	0	0	0	0	184	
SK155	0	60	0	0	0	0	0	0	0	60	0%
SK156	0	1145	0	0	0	0	0	0	0	1145	92%
	0	1251	0	0	0	0	0	0	0	1251	

遺構名	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	瀬越陶器	中世陶器類	近世陶器類	輸入陶器類	その他	計	開化率(%)
SK158	0	1235	0	0	0	0	0	0	0	1235	100%
	0	1239	0	0	0	0	0	0	0	1239	
SK162	0	0	0	640	0	0	0	0	0	640	37%
	0	230	0	1305	0	0	0	0	0	1735	
SK164	0	40	0	0	0	0	0	0	0	40	0%
SK181	0	20	0	10	0	0	0	0	0	30	0%
SK191	0	10	11	0	0	0	0	0	0	21	0%
	0	0	60	0	0	0	0	0	0	60	
SK192	0	0	185	0	0	0	0	0	0	185	32%
	0	0	0	0	205	0	0	0	0	205	
SK208	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100%
SK209	0	0	103	0	0	0	0	0	0	103	47%
	0	49	144	19	6	0	0	0	0	218	
SK210	0	0	0	0	82	0	0	0	0	82	38%
	0	40	60	36	82	0	0	0	0	218	
SK211	0	0	14	15	0	0	0	0	0	29	0%
SK212	0	5	9	0	0	0	0	0	0	14	0%
	0	46	0	0	0	0	0	0	0	46	
SK215	0	57	0	0	0	0	0	0	0	57	81%
	0	41	0	0	0	0	0	0	0	41	
SK217	0	176	0	40	0	0	0	0	0	216	19%
	0	14	0	0	0	0	0	0	0	14	
SK221	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	0%
SK223	0	69	0	165	0	0	0	0	0	234	0%
SK224	0	10	0	19	0	0	0	0	0	29	0%
SK228	0	14	0	4	0	0	0	0	0	18	0%
SK231	0	86	0	0	0	0	0	0	0	86	0%
	0	0	46	0	0	0	0	0	0	46	
SK232	0	19	81	26	0	0	0	0	0	126	37%
	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	
SK234	0	16	0	15	0	0	0	0	0	31	0%
SK235	0	59	0	0	0	0	0	0	0	59	0%
SK242	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100	47%
	0	55	35	121	0	0	0	0	0	211	
SK243	0	0	103	0	0	0	0	0	0	103	10%
	0	80	498	385	53	0	0	0	0	1016	
SK244	0	10	35	4	0	0	0	0	0	49	0%
SK248	0	65	10	8	0	0	0	0	20	103	0%
SK250	0	60	30	55	0	0	0	0	0	145	0%
SK252	0	55	0	0	0	0	0	0	0	55	0%
SK254	0	210	3	5	0	0	0	0	0	218	0%
SK255	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0%
SK258	0	105	0	0	0	0	0	0	0	105	0%
SK261	0	15	0	0	0	0	0	0	0	15	0%
SK263	0	30	0	0	0	0	0	0	0	30	0%
	0	0	111	0	0	0	0	0	0	111	
SK265	0	180	123	18	0	0	0	0	0	321	35%
	0	25	5	60	0	0	0	0	0	90	
SK267	0	18	0	0	0	0	0	0	0	18	0%
SK268	0	0	58	0	0	0	0	0	0	58	35%
	0	0	151	13	0	0	0	0	0	164	
SK269	0	60	0	2	0	0	0	0	0	62	0%
SK272	0	28	0	0	0	0	0	0	0	28	0%
SK278	0	143	90	155	0	0	0	0	0	388	0%
SK281	0	0	237	173	0	0	0	0	0	410	53%
	0	45	464	248	19	0	0	0	0	776	
SK283	0	0	15	55	0	0	0	0	0	70	0%
SK284	0	50	0	0	0	0	0	0	0	50	0%
SK285	0	15	0	0	0	0	0	0	0	15	0%
SK286	0	0	1690	0	0	0	0	0	0	1690	74%
SK294	0	5	1995	265	5	0	0	0	0	2270	
SK296	0	290	0	0	0	0	0	0	0	290	0%

## 第5章 遺構と遺物

遺構名	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	瀬越陶器	中世陶磁器	近世陶磁器	輸入陶磁器	その他	計	関比率(%)
SK298	0	95	10	0	0	0	0	0	0	105	0%
SK300	0	30	25	30	0	0	0	0	0	85	0%
SK311	0	20	15	0	0	0	0	0	0	35	0%
SK313	0	0	56	3671	0	0	0	0	0	3727	94%
	0	25	166	3741	25	0	0	0	0	3957	
SK317	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0%
SK322	0	0	45	0	0	0	0	0	0	45	0%
SK323	0	0	53	0	0	0	0	0	0	53	0%
SK324	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0%
SK335	0	0	63	0	0	0	0	0	0	63	17%
	0	75	290	30	0	0	0	0	0	365	
SK339	0	0	0	20	0	0	0	0	0	20	0%
SK343	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0%
SK345	0	15	0	68	0	0	0	0	0	83	0%
SK348	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	0%
SK350	0	15	0	0	0	0	0	0	0	15	0%
SK351	0	12	40	0	0	0	0	0	0	52	0%
SK355	0	20	10	0	15	0	0	0	0	45	0%
SK362	0	25	0	0	0	0	0	0	0	25	0%
SK5001	0	13	0	0	0	0	0	0	0	13	5%
	0	268	0	0	0	0	0	0	0	268	
SK5005	0	50	0	0	0	0	0	0	0	50	0%
SK5006	52	0	0	0	0	0	0	0	0	52	100%
	52	0	0	0	0	0	0	0	0	52	
SK5007	0	138	0	0	0	0	0	0	0	138	100%
	0	138	0	0	0	0	0	0	0	138	
SK5011	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0%
SK5016	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	0%
SK5019	0	17	0	0	0	0	0	0	0	17	0%
SK5020	0	118	0	0	0	0	0	0	0	118	0%
SK5033	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0%
SK5043	0	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0%
SK5046	0	17	0	0	0	0	0	0	0	17	0%
SK5055	0	17	0	0	0	0	0	0	0	17	0%
SK5061	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	0%
SK5064	0	318	0	0	0	0	0	0	0	318	0%
SK5066	0	343	0	0	0	0	0	0	0	343	0%
SK5067	0	182	0	0	0	0	0	0	0	182	0%
SK5072	0	38	0	0	0	0	0	0	0	38	0%
	0	2549	0	0	0	0	0	0	0	2549	
SK5079	0	7567	0	0	0	0	0	0	0	7567	34%
	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	
SK5083	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0%
SK5089	0	253	0	0	0	0	0	0	0	253	0%
SK5101	0	55	0	0	0	0	0	0	0	55	0%
SK5119	0	70	0	0	0	0	0	0	0	70	0%
SK5121	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	0%
SK5122	0	40	0	0	0	0	0	0	0	40	0%
SK5127	0	65	0	0	0	0	0	0	0	65	0%
SK5133	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0%
SQ01	0	63	0	0	0	0	0	0	0	63	0%
	0	230	50	5	0	0	0	0	0	285	
SQ02	0	3535	0	0	0	0	0	0	0	3535	79%
	0	4413	65	0	15	0	0	0	0	4493	
SQ501	0	4068	0	0	0	0	0	0	0	4068	53%
	55	7662	0	0	0	0	0	0	0	7717	
SQ502	0	3462	0	0	0	0	0	0	0	3462	57%
	0	6110	0	0	0	0	0	0	0	6110	
SQ503	0	8687	0	0	0	0	0	0	0	8687	95%
	0	9162	0	0	0	0	0	0	0	9162	
ST01	0	35	0	0	0	0	0	0	0	35	8%
	0	316	90	50	6	0	0	0	0	462	

遺構名	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	瀬越陶器	中世陶磁器	近世陶磁器	輸入陶磁器	その他	計	開化率(%)
ST02	0	0	30	0	0	0	0	0	0	50	4%
	0	800	362	80	0	0	0	0	0	1242	
	0	0	0	23	0	0	0	0	0	23	
ST03	0	316	0	88	0	0	0	0	0	404	6%
	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	
ST04	0	30	9	0	0	0	0	0	0	39	0%
ST05	0	55	0	0	0	0	0	0	0	55	18%
	0	275	10	22	0	0	0	0	5	312	
ST07	0	355	0	29	0	0	0	0	0	384	0%
ST08	0	520	62	40	0	0	0	0	0	622	0%
ST09	0	545	32	1	0	0	0	0	0	578	0%
SX01	0	0	75	0	0	0	0	0	0	75	6%
	0	790	470	45	40	0	0	0	0	1345	
SX02	0	75	0	32	0	0	0	0	0	107	15%
	0	450	165	77	12	0	0	0	0	704	
SX03	0	0	215	180	50	0	0	0	0	445	9%
	0	1641	2613	735	200	0	0	0	0	5189	
SX501	0	140	0	0	0	0	0	0	0	140	9%
	0	1490	0	0	0	0	0	0	0	1490	
SX502	0	80	5	90	0	0	0	0	0	175	0%
1区 遺構内	0	0	570	295	160	0	0	0	25	1050	42%
	0	528	722	1035	215	0	0	0	25	2525	
2-1区 遺構内	0	452	30	0	301	0	0	0	0	783	3%
0	10539	3155	11250	1007	0	85	0	35	26071		
2-2区 遺構内	0	350	0	0	0	0	0	0	0	350	2%
38	14052	1944	3514	477	10	0	0	0	20035		
2-3区 遺構内	18	0	808	330	0	0	0	0	0	1156	3%
43	19511	10948	10047	460	18	0	0	140	41167		
2-4区 遺構内	200	0	110	0	13	0	0	0	13	336	9%
340	1823	957	469	35	0	0	2	13	3639		
3-1区 遺構内	0	750	139	130	0	0	0	0	0	1019	41%
0	1106	370	981	20	0	0	0	0	2477		
3-2区 遺構内	62	1095	227	815	48	0	0	0	410	2657	13%
97	11050	1846	6155	213	0	30	0	413	19804		
3-3区 遺構内	0	772	125	90	90	0	0	0	0	1077	6%
0	9322	3660	6005	363	0	0	0	10	19360		
3-4区 遺構内	0	0	55	119	198	0	0	0	40	412	3%
41	9559	1156	3256	350	0	0	0	40	14402		
3-5区 遺構内	0	0	71	0	116	0	0	12	217	416	5%
7	5238	577	1985	208	0	0	12	819	8846		
5-1区 遺構内	0	2766	0	25	0	0	0	0	0	2791	0%
100	348	0	0	0	0	0	0	0	448		
5-2区 遺構内	100	14464	5	3	0	0	0	35	14607	3%	
0	1378	0	0	0	0	0	0	0	1378		
5-3区 遺構内	0	11903	0	0	0	0	0	0	0	11903	12%
0	140	0	0	0	0	0	0	0	140		
5-4区 遺構内	0	2242	0	0	0	0	5	0	5	2252	6%
70	131	172	240	0	0	0	0	0	613		
5-5区 遺構内	70	1092	199	542	0	0	0	0	5	1908	32%
0	28	0	15	0	0	0	0	0	43		
5区表探	0	827	0	328	0	0	2	0	0	1157	0%
8-1区 遺構内	0	4370	0	0	0	0	0	0	0	4370	11%
0	41176	14	0	0	0	44	0	4	41238		
8-2区 遺構内	0	4928	0	0	0	0	0	0	0	4928	13%
14	37680	5	0	0	0	0	0	355	38054		
表探・試掘 トレンチ・ 博士ほか	0	117	0	0	0	0	0	0	0	117	3%
0	3209	156	825	90	0	0	0	25	4305		
計	658	41783	6772	7526	3106	0	0	12	812	60669	15%
1116	291555	44003	69678	6536	28	298	16	2718	415948		
開化率(%)	59%	14%	15%	11%	48%	0%	0%	75%	30%	15%	

## 第6章 科学分析・鑑定

### 1. 須恵器の胎土分析

周防畑遺跡群出土の須恵器には、獸脚風字硯や薬壺と思われる須恵器短頸壺を含む様々な器種があり、胎土の違いから複数の産地のものが使用されていることが推測された。これらの須恵器を佐久郡内、信濃国内、信濃国外のどのような産地から入手しているのか、また器種によって産地の違いがあるのかを知ることは、本遺跡の古代集落の性格を考えるうえで意味がある。このため、今回掲載したほとんどの須恵器について、胎土の蛍光X線分析を株式会社古環境研究所に委託して行った。

対象を須恵器としたのは、窯跡の窯体内や、灰原、物原から多量の廃棄・遺棄個体が出土し、その胎土を分析することによって、消費地で出土する須恵器の胎土と比較するための産地のデータが得られやすいこと、ほとんどが集落周辺で製作されたと考えられる土師器と違って、長距離を移動する焼き物であることなどによる。特に埋文センターでは、千曲市屋代遺跡群の報告書作成時に屋代遺跡群出土の須恵器の産地推定を行うために、比較用に県内外の多くの窯跡出土須恵器の蛍光X線分析を行っており、今回もそのデータとの対比が行えることが期待された。

分析の対象としたのは、非掲載の破片ではなく報告書掲載の須恵器であるため、非破壊であることが望まれた。蛍光X線分析は非破壊でも可能であり、測定面に灰軸が付着している場合などを除いて、非破壊であることが、測定結果に大きな影響を及ぼすことはない。但し、表面の凹凸によってX線の照射角度が異なり、測定結果に影響を及ぼすことも考えられたため、断面等の一部をダイヤモンドカッターで研磨し、洗浄・乾燥の後に測定を行った。したがって、純粋な意味での非破壊ではない。

測定は、エネルギー分散型の蛍光X線分析装置（日本電子株式会社製 JSX - 3100R II）を用い、元素の同定とファンダメンタルパラメーター法による定量分析を行った。測定の条件は、測定時間 240 秒、照射径 7.0mm、電圧 30kV、資料室内真空である。Na、Mg、Al、Si、P、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Zr の 13 元素について測定を行った。

測定の結果は、第 242 表である。各元素の定量分析結果を小数点以下 2 桁まで示している。この結果を基に  $\text{SiO}_2 - \text{AlO}_2$ 、 $\text{Fe}_2\text{O}_3 - \text{MgO}$ 、 $\text{K}_2\text{O} - \text{CaO}$ 、 $\text{Rb}_2\text{O} - \text{SrO}$ 、 $\text{CaO}/\text{K}_2\text{O} - \text{SrO}/\text{Rb}_2\text{O}$  の各分布図を作成した。

$\text{SiO}_2 - \text{AlO}_2$  分布図では、 $\text{SiO}_2$  が 70 ~ 75% 程度、 $\text{AlO}_2$  が 17 ~ 19% 程度の A 領域、 $\text{SiO}_2$  が 64 ~ 70% 程度、 $\text{AlO}_2$  が 17 ~ 22% 程度の B 領域、 $\text{SiO}_2$  が 57 ~ 63% 程度、 $\text{AlO}_2$  が 19 ~ 24% 程度の C 領域の 3 領域に大別された。 $\text{Fe}_2\text{O}_3 - \text{MgO}$  分布図でも、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$  が 2.0 ~ 5.5% 程度、 $\text{MgO}$  が 0.5 ~ 1.3% 程度の A 領域、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$  が 6.0 ~ 9.0% 程度、 $\text{MgO}$  が 0.7 ~ 1.3% 程度の B 領域、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$  が 9 ~ 12% 程度、 $\text{MgO}$  が 0.8 ~ 1.3% 程度の C 領域に分かれ、A ~ C の各領域に含まれる個体は、 $\text{SiO}_2 - \text{AlO}_2$  分布図の A ~ C 領域に含まれる個体とはほぼ一致している。

$\text{K}_2\text{O} - \text{CaO}$  分布図では、 $\text{K}_2\text{O}$  が 1.4 ~ 2.8% 程度、 $\text{CaO}$  が 0.1 ~ 0.5% 程度の A 領域、 $\text{K}_2\text{O}$  が 1.1 ~ 1.8% 程度、 $\text{CaO}$  が 0.8 ~ 1.8% 程度の B 領域、 $\text{K}_2\text{O}$  が 0.8 ~ 1.2% 程度、 $\text{CaO}$  が 0.7 ~ 1.2% 程度の C 領域の 3 領域に分かれ、A 領域に含まれる試料は 9 点中 6 点が  $\text{SiO}_2 - \text{AlO}_2$  分布図と  $\text{Fe}_2\text{O}_3 - \text{MgO}$  分布図の A 領域の試料と一致するが、 $\text{SiO}_2 - \text{AlO}_2$  分布図と  $\text{Fe}_2\text{O}_3 - \text{MgO}$  分布図の C 領域に含まれる試料の内、No.275、No.455、No.618、No.632 の 4 点は上方に大きく離れて分布する。



Rb<sub>2</sub>O - SrO 分布図では、Rb<sub>2</sub>O が 0.01 ~ 0.02% 程度、SrO が 0.01% 以下の A 領域、Rb<sub>2</sub>O が 0.01% 前後、SrO が 0.01 ~ 0.4% 以下の B 領域に分かれ、A 領域に含まれるものは K<sub>2</sub>O - CaO 分布図の A 領域に含まれるものと共通する。

CaO/K<sub>2</sub>O - SrO/Rb<sub>2</sub>O 分布図では、CaO/K<sub>2</sub>O が 0.3% 以下、SrO/Rb<sub>2</sub>O が 0.8% 以下の A 領域に含まれる試料が、Rb<sub>2</sub>O - SrO 分布図の A 領域のもの一致する。

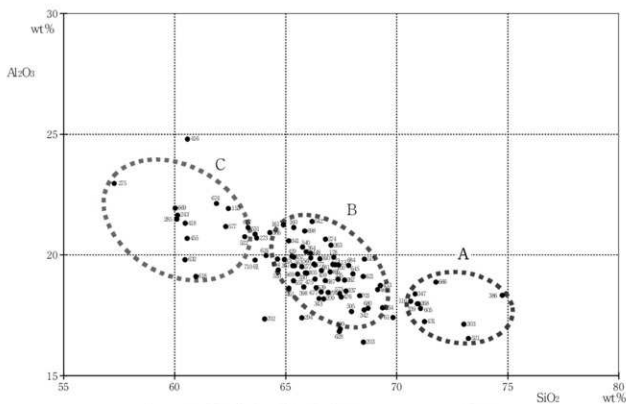
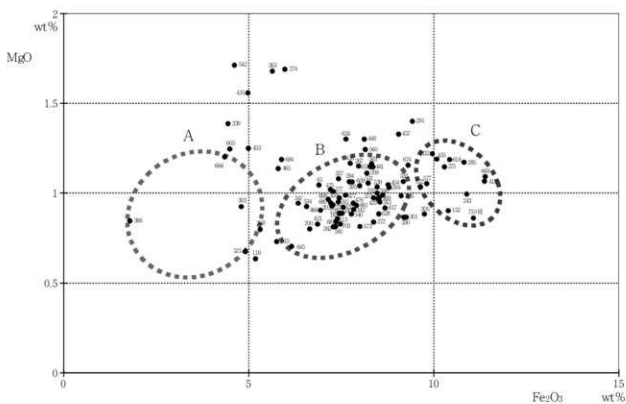
これらの領域の内 A 領域のものは、Rb<sub>2</sub>O の比率が高く、SrO の比率が低いことからフォッサマグナを挟んだ岐阜・愛知県産の可能性が、その逆の B 領域は長野県産の可能性が高い。但し、(井上 1998) から作成した県外窯跡群のデータの領域(実線)と、屋代遺跡群報告書作成時に測定した県内諸窯のデータから作成したの SiO<sub>2</sub> - Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 分布図と K<sub>2</sub>O - CaO 分布図の領域(破線)は一部を除いて重なっており、県内産と県外産さえ明確に区別することは難しい。

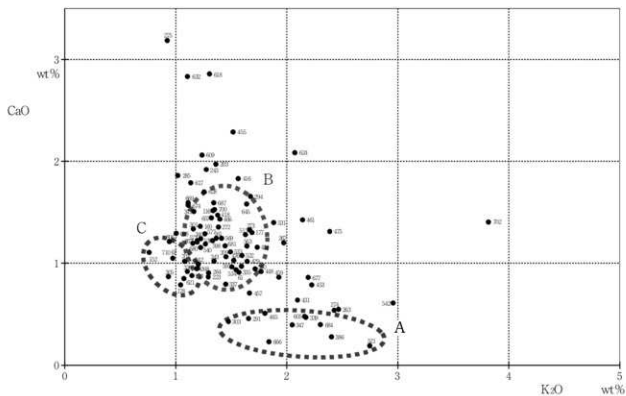
以上のことから、周防畑遺跡群出土の須恵器は、A 領域のものが県外産、B 領域のものが県内産らしいということは言えそうだが、個々の産地を特定することは困難であり、当初の期待通りの結果は得られなかった。蛍光 X 線分析は、候補となる産地が 2 つ程度に絞られ、かつその 2 つの産地の試料の分布領域がある程度分かれていて初めて有効となるのか、候補が多数であっても 2 変量ではなく多変量を組み合わせることによってより細かい推定が可能となるのか、データを蓄積する中で検討されなければならない。

第 241 表 須恵器蛍光 X 線分析結果

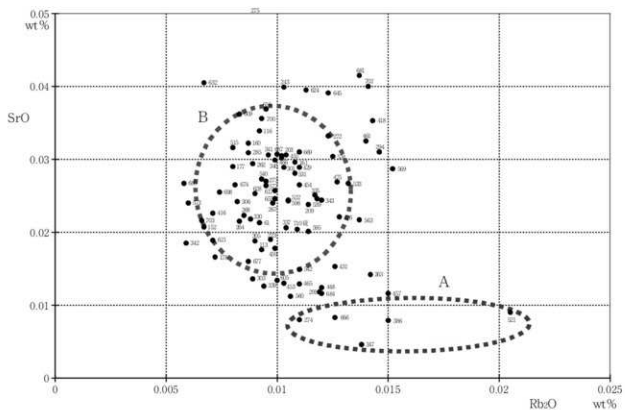
番号	図版番号	出土遺構	器種	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	Zr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>
61	第 30 図 - 23	SB16	耳付壺	1.16	1.05	17.41	69.83	0.29	1.57	0.91	0.78	0.05	6.90	0.01	0.02	0.03
116	第 117 図 - 7	SB19	短頸壺	1.01	0.63	18.08	70.63	0.62	1.34	1.52	0.87	0.05	5.18	0.01	0.03	0.03
113	第 117 図 - 9	SB19	壺	0.89	0.86	19.59	67.23	0.26	1.15	0.88	1.63	0.06	7.40	0.01	0.02	0.04
152	第 121 図 - 4	SB27	高台付碗	0.65	0.90	21.92	62.42	0.39	0.76	1.11	1.32	0.09	10.39	0.01	0.02	0.03
160	第 124 図 - 1	SE30・31	杯	1.15	0.81	21.13	65.36	0.27	1.22	1.36	1.20	0.07	7.35	0.01	0.03	0.04
161	第 125 図 - 1	SB31	短頸壺	1.17	0.89	21.25	64.90	0.31	1.36	1.24	1.27	0.08	7.45	0.01	0.03	0.04
177	第 126 図 - 1	SE33	杯	0.91	1.01	19.62	66.28	0.38	1.69	1.30	1.38	0.08	7.29	0.01	0.03	0.03
178	第 126 図 - 2	SB33	杯	0.76	0.89	19.91	67.16	0.30	1.04	0.79	1.57	0.06	7.45	0.01	0.02	0.04
209	第 128 図 - 1	SB36	壺	1.07	1.11	18.18	66.71	0.32	1.45	1.06	1.72	0.09	8.20	0.01	0.02	0.04
203	第 128 図 - 2	SB36	杯	0.76	0.93	16.39	68.50	0.80	1.36	1.97	1.89	0.06	7.25	0.01	0.03	0.04
223	第 130 図 - 1	SB37	高台付碗	0.95	0.94	19.60	67.12	0.31	1.29	0.87	1.53	0.05	7.27	0.01	0.02	0.04
285	第 133 図 - 1	SB40	杯	0.86	1.17	21.48	60.10	1.16	1.02	1.86	1.33	0.13	10.82	0.01	0.03	0.04
330	第 133 図 - 2	SB40・47	高台付杯	0.85	0.87	19.26	65.89	0.28	1.10	0.92	1.52	0.05	9.20	0.01	0.02	0.04
275	第 134 図 - 4	SB42	杯	1.13	1.15	22.96	57.28	1.58	0.92	1.19	1.29	0.11	10.29	0.01	0.06	0.04
267	第 134 図 - 5	SB42	杯	0.71	1.15	19.55	65.32	0.40	1.97	1.20	1.60	0.06	7.97	0.01	0.02	0.04
263	第 134 図 - 6	SB42	杯	0.80	1.68	20.04	67.04	0.33	2.47	0.55	0.97	0.06	5.64	0.01	0.01	0.04
272	第 134 図 - 7	SB42	杯	0.94	0.84	19.51	65.72	0.28	1.38	1.36	1.44	0.07	8.37	0.01	0.03	0.05
264	第 134 図 - 8	SB42	高台付碗	0.85	1.06	20.13	65.92	0.36	1.30	0.90	1.64	0.05	7.72	0.01	0.02	0.04
288	第 134 図 - 9	SB42	高台付碗	0.76	0.80	17.97	70.98	0.37	1.19	0.95	1.56	0.05	5.31	0.01	0.02	0.04
262	第 134 図 - 13	SB42	瓶	1.01	0.81	18.96	67.65	0.32	1.19	1.21	1.43	0.05	7.29	0.01	0.03	0.04
301	第 135 図 - 1	SB45	杯	0.83	0.87	19.81	64.94	0.21	1.16	1.34	1.18	0.26	9.61	0.01	0.03	0.04
303	第 135 図 - 6	SB45	瓶	0.83	0.93	17.13	73.03	0.31	1.47	0.43	1.00	0.02	4.80	0.01	0.01	0.03
305	第 135 図 - 10	SB45	壺	0.42	0.88	19.24	65.96	0.31	0.93	0.87	1.50	0.07	9.75	0.01	0.02	0.04
306	第 136 図 - 2	SB46	杯	0.81	0.99	20.92	64.29	0.28	0.94	1.21	1.31	0.07	9.12	0.01	0.02	0.04
291	第 138 図 - 1	SB49	蓋土器	0.24	1.40	18.44	66.91	0.40	1.66	0.46	0.96	0.05	9.42	0.01	0.01	0.03
294	第 138 図 - 3	SB49	黒色土器杯	1.08	1.03	17.39	65.73	0.97	1.67	1.66	1.52	0.08	8.79	0.01	0.03	0.04
274	第 48 図 - 9	SB52	杯	0.62	1.69	20.65	66.79	0.28	2.43	0.54	0.92	0.06	5.98	0.01	0.01	0.03
386	第 51 図 - 5	SB54	短頸壺	0.13	0.85	18.33	74.75	0.38	2.40	0.28	0.99	0.04	1.79	0.02	0.01	0.05
243	第 55 図 - 2	SB59	杯	1.11	0.99	21.64	60.13	0.25	1.28	1.92	1.62	0.09	10.89	0.01	0.04	0.04
453	第 140 図 - 1	SB60	杯	1.14	1.25	18.73	69.26	0.61	2.23	0.79	0.91	0.04	4.99	0.01	0.01	0.03
418	第 142 図 - 1	SB62	杯	0.89	1.07	21.31	60.48	0.27	1.38	1.47	1.59	0.08	11.37	0.01	0.04	0.05
429	第 142 図 - 3	SB62	杯	0.61	0.97	19.94	65.28	0.28	1.64	1.02	1.61	0.08	8.48	0.01	0.03	0.04
454	第 143 図 - 1	SB63	杯	0.75	1.05	19.83	64.63	0.35	1.73	1.16	1.52	0.13	8.77	0.01	0.03	0.05
431	第 144 図 - 2	SB64	高台付碗	0.89	1.56	17.24	71.25	0.34	2.10	0.64	0.92	0.02	4.98	0.01	0.02	0.03
448	第 145 図 - 1	SB65	高台付碗	0.01	1.30	20.06	66.12	0.36	1.77	0.92	1.12	0.15	8.12	0.01	0.01	0.03

番号	図版番号	出土遺構	器種	NaO	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	ZrO <sub>2</sub>
455	第146図-1	SB67	椀	1.31	1.19	20.68	60.57	0.76	1.52	2.29	1.39	0.14	10.08	0.01	0.03	0.03
457	第146図-3	SB67	高台付椀	0.10	1.33	19.91	65.37	0.27	1.66	0.71	1.00	0.53	9.05	0.02	0.01	0.04
461	第147図-1	SB68	蓋	0.91	1.15	18.62	65.14	0.40	2.14	1.43	1.66	0.10	8.36	0.01	0.03	0.05
459	第147図-3	SB68	甕	0.65	0.95	19.36	66.61	0.38	1.93	0.86	1.71	0.06	7.42	0.01	0.02	0.04
465	第148図-1	SB69	蓋	1.45	1.14	18.56	69.14	0.34	1.80	0.51	1.15	0.05	5.80	0.01	0.01	0.04
466	第148図-2	SB69	蓋	1.36	0.91	19.29	67.00	0.32	1.40	1.43	1.21	0.06	6.94	0.01	0.03	0.04
476	第150図-3	SB71	瓶	0.96	0.94	18.26	67.50	0.28	1.52	1.03	1.51	0.10	7.83	0.01	0.02	0.04
475	第150図-4	SB71	甕	0.61	1.02	19.00	66.32	0.64	2.39	1.31	1.35	0.08	7.21	0.01	0.03	0.04
342	第152図-2	SB73	杯	0.80	0.91	17.72	68.53	0.30	1.20	0.99	1.58	0.06	7.84	0.01	0.02	0.04
340	第152図-3	SB73	杯	1.01	0.92	19.84	66.54	0.25	1.22	1.24	1.28	0.07	7.55	0.01	0.03	0.04
339	第152図-4	SB73	杯	1.30	1.39	17.97	70.93	0.33	2.17	0.47	0.91	0.04	4.44	0.01	0.01	0.03
337	第152図-5	SB73	杯	0.96	1.08	18.51	67.72	0.22	1.45	0.79	1.72	0.05	7.43	0.01	0.02	0.04
335	第152図-6	SB73	杯	0.67	0.89	18.99	67.37	0.28	1.59	0.97	1.58	0.06	7.53	0.01	0.03	0.04
341	第152図-7	SB73	椀	1.25	0.97	20.58	65.14	0.32	1.16	1.51	1.47	0.06	7.45	0.01	0.03	0.04
347	第153図-1	SB74	蓋	0.00	0.94	18.38	70.83	0.04	2.05	0.40	0.93	0.05	6.34	0.01	0.00	0.04
343	第153図-4	SB74	杯	1.23	0.95	18.19	66.50	0.32	1.35	1.02	1.70	0.12	8.56	0.01	0.02	0.04
515	第154図-1	SB76	甕	0.89	0.73	19.82	68.55	0.26	1.63	1.28	0.96	0.05	5.76	0.01	0.03	0.03
522	第156図-1	SB80	杯	0.85	1.04	20.75	63.15	0.24	1.60	1.08	1.48	0.11	9.64	0.01	0.02	0.04
531	第156図-2	SB80	杯	0.85	1.06	20.86	63.63	0.37	1.88	1.40	1.57	0.09	8.23	0.01	0.03	0.04
521	第156図-11	SB80	短頸甕	0.14	0.67	16.54	73.23	0.35	2.75	0.19	1.02	0.12	4.91	0.02	0.01	0.05
534	第157図-1	SB81	杯	0.81	0.93	17.81	69.36	0.33	1.54	0.94	1.54	0.07	6.57	0.01	0.03	0.06
533	第157図-2	SB81	杯	0.96	1.06	19.38	64.67	0.27	1.49	1.11	1.66	0.13	9.18	0.01	0.03	0.04
540	第157図-3	SB81	杯	0.62	0.88	20.33	65.76	0.42	1.22	1.15	1.70	0.06	7.78	0.01	0.03	0.04
542	第157図-4	SB81	杯	1.09	1.71	21.38	66.19	0.36	2.96	0.61	0.97	0.05	4.62	0.01	0.01	0.03
539	第157図-5	SB81	高台付椀	1.18	1.03	18.64	66.37	0.30	1.27	1.19	1.39	0.07	8.47	0.01	0.02	0.04
645	第173図-7	SD02	瓶	1.26	0.70	19.21	68.03	0.22	1.64	1.58	1.05	0.05	6.16	0.01	0.04	0.04
560	第175図-1	SD09	瓦質土器 高台付椀	0.13	1.24	19.88	66.13	0.52	1.71	0.94	1.12	0.11	8.15	0.01	0.01	0.03
563	第176図-2	SD18	甕	1.29	1.16	19.55	65.40	0.25	1.64	1.17	1.13	0.03	8.32	0.01	0.02	0.03
573	第166図-1	SK26	高台付椀	1.00	0.81	18.39	67.43	0.30	1.19	1.22	1.37	0.21	8.00	0.01	0.02	0.04
577	第166図-1	SK57	高台付椀	1.16	1.05	21.18	62.30	0.28	1.26	1.29	1.53	0.07	9.81	0.01	0.03	0.04
595	第168図-1	SK162	杯	0.82	1.06	17.66	67.97	0.40	1.51	0.96	1.69	0.07	7.80	0.01	0.02	0.04
598	第168図-2	SK162	高台付椀	1.18	0.99	18.67	65.82	0.33	1.33	1.22	1.69	0.07	8.62	0.01	0.02	0.04
605	第170図-1	SK243-244	杯	1.48	1.25	17.78	71.07	0.28	2.16	0.48	0.92	0.04	4.49	0.01	0.01	0.03
609	第170図-2	SK283	杯	1.09	1.04	16.93	67.46	0.56	1.24	2.06	1.46	0.08	8.00	0.01	0.04	0.04
618	第171図-1	SK313	杯	1.05	1.19	19.11	60.96	1.54	1.30	2.86	1.40	0.09	10.43	0.01	0.04	0.03
617	第171図-2	SK313	杯	0.99	0.92	21.13	63.30	0.39	1.14	1.79	1.52	0.07	8.69	0.01	0.03	0.04
621	第171図-3	SK313	甕	0.85	0.83	19.11	68.49	0.29	1.07	0.85	1.54	0.05	6.86	0.01	0.02	0.04
624	第160図-1	ST03	杯	0.70	1.30	19.97	64.12	0.51	2.07	2.08	1.40	0.12	7.63	0.01	0.04	0.04
698	第165図-1	SX02	杯	0.81	0.97	20.99	65.85	0.29	1.00	1.29	1.49	0.08	7.15	0.01	0.03	0.04
632	第165図-1	SX03	杯	1.03	1.22	19.80	60.47	1.95	1.11	2.83	1.47	0.09	9.96	0.01	0.04	0.03
628	第165図-2	SX03	杯	1.05	0.88	16.83	67.42	0.56	1.26	1.70	1.60	0.11	8.52	0.01	0.03	0.04
569	第177図-1	1区	杯	1.06	0.98	19.21	65.53	0.27	1.41	1.25	1.59	0.09	8.53	0.02	0.03	0.05
669	第177図-5	2-③区	杯	0.77	1.09	21.94	60.02	0.27	1.11	1.59	1.63	0.10	11.39	0.01	0.03	0.04
657	第177図-7	2-④区	杯	1.37	1.15	18.93	65.35	0.46	1.32	1.45	1.51	0.09	8.29	0.01	0.02	0.04
666	第177図-20	2-③区	瓶	0.14	1.20	18.87	71.77	0.31	1.84	0.23	1.17	0.06	4.35	0.01	0.01	0.03
674	第177図-25	3-①区	杯	0.68	1.16	22.13	61.88	0.46	1.11	1.57	1.56	0.07	9.31	0.01	0.03	0.04
680	第177図-27	3-②区	杯	0.97	0.95	17.79	68.71	0.35	1.15	1.20	1.55	0.06	7.21	0.01	0.03	0.04
681	第177図-28	3-②区	杯	0.82	0.93	19.58	66.32	0.23	1.44	1.17	1.42	0.07	7.91	0.01	0.04	0.05
677	第177図-29	3-②区	杯	1.17	0.99	18.47	66.60	0.42	2.19	0.86	1.55	0.07	7.61	0.01	0.02	0.04
687	第178図-43	3-②区	甕	1.32	0.84	18.93	66.78	0.29	1.34	1.59	1.39	0.07	7.36	0.01	0.03	0.04
684	第178図-44	3-②区	甕	1.21	1.19	19.56	67.83	0.33	2.30	0.40	1.10	0.11	5.89	0.01	0.01	0.04
700	第178図-26	3-③区	杯	1.14	0.80	19.58	67.38	0.30	1.35	1.53	1.13	0.06	6.65	0.01	0.04	0.04
702	第178図-30	3-④区	高台付杯	1.60	1.00	17.34	64.05	0.48	3.82	1.40	1.59	0.14	8.47	0.01	0.04	0.05
703	第178図-42	3-④区	尖帯付 四耳甕	0.97	0.83	18.31	68.33	0.29	1.08	1.02	1.54	0.08	7.48	0.01	0.02	0.04
710	第178図-48	3-⑤区	獸脚風字 甕	0.72	0.86	19.78	63.62	0.27	0.97	1.05	1.50	0.08	11.07	0.01	0.02	0.04

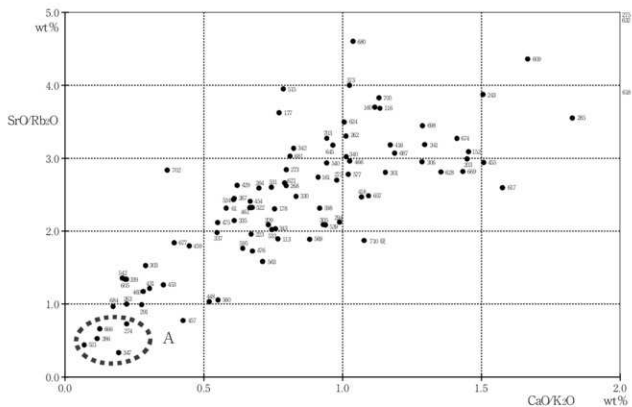
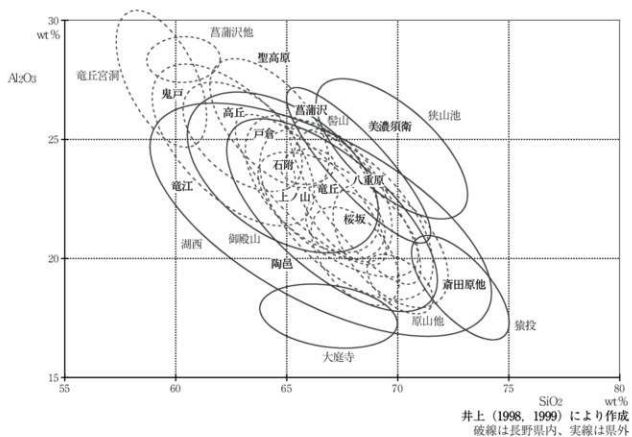
第182図 周防畑遺跡群出土須恵器の $\text{SiO}_2$  -  $\text{Al}_2\text{O}_3$ 分布図第183図 周防畑遺跡群出土須恵器の $\text{Fe}_2\text{O}_3$  -  $\text{MgO}$ 分布図

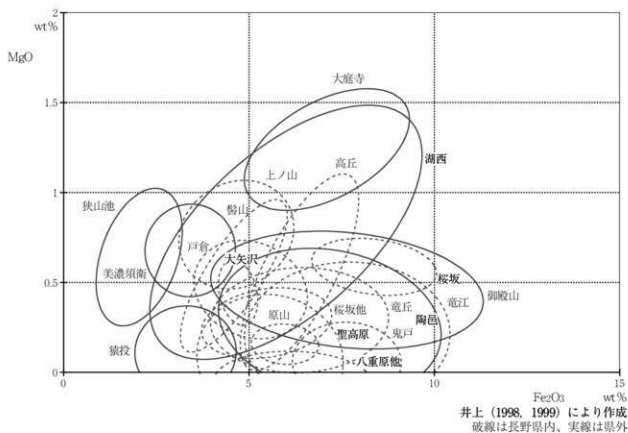


第184図 周防畑遺跡群出土須恵器のK<sub>2</sub>O - CaO分布図

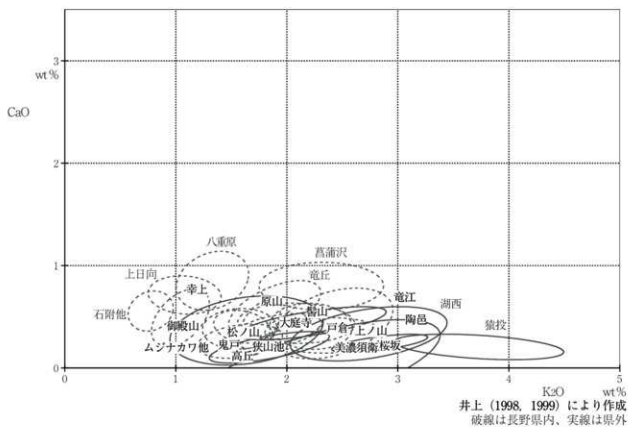


第185図 周防畑遺跡群出土須恵器のRb<sub>2</sub>O - SrO分布図

第186図 周防畑遺跡群出土須恵器のCaO/K<sub>2</sub>O - SrO/Rb<sub>2</sub>O分布図第187図 おもな窯跡の須恵器胎土のSiO<sub>2</sub> - Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>分布図



第 188 図 おもな窯跡の須恵器胎土の Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - MgO 分布図



第 189 図 おもな窯跡の須恵器胎土の K<sub>2</sub>O - CaO 分布図

## 2. 土器付着物の分析

土器付着物の分析は2点について行った。1点は3-③区のカクラン出土の灰軸陶器瓶（第178図45）に付着した黄色～黒色のタール状のものが固まったような付着物であり、漆であると考えられた。もう1点は2-④区遺構外出土の土師器杯（第177図15）で、内面に灰色の付着物が線状に付着し、人の顔を描いているようにも見えた。漆であるとするとき近辺に工房があったことが考えられ、描画であるとするとき日常的に筆と墨を使用する人物がいた可能性が高く、ともに遺跡の性格を考えるうえで重要である。したがって、その確認のために付着物の材質分析を株式会社パレオ・ラボに委託して行った。

灰軸陶器瓶の漆状の付着物は、赤外分光分析と蛍光X線分析を行った。赤外分光分析の分析試料は黄色物質中に見られる黒褐色部（試料No. 1）と、黄色部縁辺の黒色物（試料No. 2）の2箇所を手術用メスで薄く削り取ったものを用い、押しつぶして厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7tで加圧成形した後、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光株式会社製 FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

蛍光X線分析は、赤外分光分析に用いなかった残り部分を採取して、試料台に両面テープで固定し、走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-5900LV）と付属するエネルギー分散型蛍光X線分析装置（同 JED-2200）を用いて無機成分の定性及び簡易定量分析を行った。

その結果が付着物の赤外吸収スペクトル図（第190図）とX線分析結果（第242表）である。赤外吸収スペクトル図によれば、試料No. 1の赤外吸収位置（実線）は、ウルシオールの部分（6～8）を含めてよく一致する。試料No. 2の赤外吸収位置（一点破線）は、ウルシオール部分は明瞭でないものの、その他の部分ではよく一致する。

試料No. 1、No. 2の各2箇所での蛍光X線分析では、炭素（C）が各64.23～67.59%、70.59～73.69%と高く、次いで酸化銅（CuO）が各24.34～25.51%、14.94～15.29%であり、そのほかに酸化カルシウム（CaO）、や酸化鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、酸化アルミニウム（Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）などが検出されている。

以上から、いずれの試料も赤外分光分析により漆と考えられ、No. 1がやや透明な黒褐色、No. 2が黒色を呈することから、黒漆と考えられる。黒漆の発色剤としては一般的に油煙が知られており、銅を混ぜる例はない。蛍光X線分析で酸化銅が高かったのは青銅を伴った環境下でその成分が付着したためと考えられ、この漆やそれが入っていた瓶の用途を考えるうえで重要である。

描画土器と見られる土師器杯の付着物については元素マッピング分析を行った。分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製の分析顕微鏡 XGT-5000Type II を用いて、先ず元素マッピング分析、続いて描画と思われる箇所と地の箇所のポイント分析を非破壊で行った。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメーター法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

元素マッピング分析の結果、アルミニウム（Al）、ケイ素（Si）、リン（P）、硫黄（S）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、ジルコニウム（Zr）が検出された（第191図）。ポイント分析では、付着物の箇所では地の箇所よりも硫黄、カルシウム、マンガンの輝度が高く、アルミニウム、ケイ素、カリウム、チタンの輝度がやや低い傾向が見られた。

付着物の箇所は、地の箇所よりも硫黄、カルシウム、マンガンの含有量が高いことは言えるものこのれら3元素の含有量は量的には少なく、主成分であると言ひ難い。ケイ素やアルミニウム、鉄などの元素も含まれ、一般的な土砂の成分に近い物質である可能性が高く、顔料が使用されているのか土砂が固着しただけなのか判断が付かなかった。このため、マイクロスコブによる拡大観察も実施した。

観察では炭化していない生の植物細胞が観察され、植物種は不明であるが、茎あるいは根と考えられた。





### 3. 土壌のリン・カルシウム分析

周防畑遺跡群では、円形周溝墓や方形周溝墓が多数検出されている一方で、周溝は持たないが形態や出土遺物から土坑墓であると考えられる土坑もいくつか存在する。これらの墓跡と考えられる遺構に埋葬されたはずの骨は溶けてなくなっており、墓であったという確証は得られない。これらが、墓跡であったかどうかを確認するため、いくつかの遺構について採取土壌のリン・カルシウム分析を行った。

リンとカルシウムは自然の土壌にも含まれており、検出されたからと言って、それが墓跡とは言えない。したがって、墓跡と考えられる遺構のもとと比較するための土壌として、地山のIV層浅間軽石層、主体部や土坑墓の埋土と似た黒褐色土であるが、埋葬はされていないと推定される周溝墓の周溝埋土もリン・カルシウム分析を行った。

分析対象としたのは、510号方形周溝墓主体部、511号円形周溝墓主体部、5063号、5067号、5079号、5089号土坑の各層から採取した土壌計27点である。比較試料として、地山の浅間軽石層と510号方形周溝墓、511号円形周溝墓の周溝埋土からの採取土壌計9点の分析も行った。

分析は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用し、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得て、その結果を基にリン(P)のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では50kV、100mA、ビーム径100 $\mu$ m、測定時間2000sを5回走査、パルス処理時間P3に、ポイント分析では50kV、0.10~0.44mA(自動設定)、ビーム径100 $\mu$ m、測定時間500s、パルス処理時間P4に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

その結果、地山の土(分析No.18)では、リン(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)が0.01~0.68%、カルシウム(CaO)が1.39~7.74%の値を示した。

510号方形周溝墓では、周溝D・L・M・N・P地点(分析No.1~5)でリンが0.10~12.52%、カルシウムが0.49~8.69%、同主体部A・E・I・G地点(分析No.6~9)でリンが0.00~0.73%、カルシウムが1.47~5.76%の値を示した。主体部の試料はいずれもリンの含有量が1%未満であり、特にリンの含有量の多い箇所は検出されなかった。逆に周溝の方にリンの含有量が多い箇所があり、由来について検討の必要がある。

511号円形周溝墓では、周溝B・E・H地点(分析No.10~12)で、リンが0.00~4.76%、カルシウムが1.42~9.02%、同主体部J・O・L・P・R地点(分析No.13~17)で、リンが0.00~16.99%、カルシウムが1.55~20.53%の値を示した。主体部のP地点の試料に、リン・カルシウムとも含有量の高い箇所があり、骨・歯に由来する可能性が高い。そのほかに周溝内のB地点でもリン・カルシウムとも含有量の高い箇所が検出されており、由来について検討の必要がある。

5063号土坑A・B・C・E・F地点(分析No.19~23)では、リンが0.15~0.95%、カルシウムが1.50~7.98%の値を示した。いずれの試料もリンの含有量が1%未満であり、リン含有量の明らかに多い箇所は検出されなかった。

5067号土坑B・C・D地点(分析No.24~26)では、リンが0.00~34.71%、カルシウムが1.42~44.15%の値を示した。C地点の試料(分析No.25)にリン・カルシウムの含有量が明らかに高い箇所が検出されており、骨・歯に由来する可能性が高い。

5079号土坑F・H・I・N・R地点と土器No.1内(分析No.27~32)では、リンが0.25~20.95%、カルシウムが1.72~17.99%の値を示した。土器No.1内採取土壌の試料(分析No.32)にリン・カルシウムの含有量が明らかに高い箇所が検出されており、骨・歯に由来する可能性が高い。

5089号土坑A・B・C・D地点(分析No.33~36)では、リンが0.22~5.99%、カルシウムが1.72~13.81%の値を示した。D地点の試料(分析No.36)にリン・カルシウムの含有量が明らかに高い箇所が検出されており、骨・菌に由来する可能性が高い。

以上、511号円形周溝墓の主体部、5067号土坑、5079号土坑、5089号土坑では、リン・カルシウムの含有量が高い箇所があり、骨・菌などが存在したことが示唆されるが、510号方形周溝墓の主体部と5063号土坑ではリン・カルシウムの含有量が明らかに高い箇所は検出されず、骨・菌の存在は確認できなかった。逆に、骨・菌の存在が予想されていなかった510号方形周溝墓と511号円形周溝墓の周溝でリン・カルシウムの含有量が高い箇所があり、その由来について新たな問題を提起することとなった。

第243表 半定量分析結果 (mass%)

試料	ポイント	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ZrO <sub>2</sub>
1	a	0.46	4.89	21.74	12.52	0.11	0.10	2.76	0.09	0.49	56.72	0.01	0.05	0.01	0.04
	b	0.90	20.40	67.12	1.02	0.46	1.05	2.20	0.70	0.05	6.03	0.00	0.02	0.01	0.02
	c	0.90	11.93	56.97	5.37	0.49	0.54	2.73	0.69	0.20	20.09	0.01	0.04	0.01	0.03
	d	0.88	17.79	61.90	3.06	0.37	0.81	2.46	0.81	0.34	11.49	0.01	0.04	0.01	0.03
	e	0.90	18.32	64.44	1.44	0.46	0.64	2.20	0.72	0.23	10.58	0.01	0.03	0.01	0.03
2	a	0.81	23.05	66.72	1.11	0.37	0.46	6.94	0.26	0.00	1.18	0.00	0.07	0.01	0.01
	b	0.84	21.96	68.82	0.55	0.46	0.95	2.39	0.69	0.03	3.24	0.01	0.04	0.01	0.03
	c	0.78	25.45	65.77	0.44	0.46	0.73	2.22	0.80	0.04	3.23	0.01	0.03	0.01	0.03
	d	1.16	24.10	65.36	0.37	0.35	1.14	3.11	0.71	0.04	3.56	0.00	0.06	0.01	0.03
	e	0.84	23.32	67.11	0.71	0.46	1.28	2.21	0.78	0.04	3.14	0.00	0.06	0.01	0.03
3	a	0.88	19.53	67.42	0.58	0.47	1.66	2.69	0.59	0.07	6.04	0.00	0.04	0.00	0.02
	b	0.90	18.22	53.46	0.22	0.51	0.59	1.65	0.46	1.14	22.82	0.00	0.01	0.01	0.01
	c	0.90	19.10	68.59	0.15	0.60	0.74	3.84	0.46	0.16	5.40	0.01	0.03	0.00	0.02
	d	1.14	11.47	83.24	0.55	0.19	0.40	0.49	0.16	0.05	2.28	0.00	0.01	0.00	0.01
	e	0.88	17.97	65.17	0.79	0.74	1.01	4.41	1.00	0.11	7.85	0.00	0.04	0.00	0.03
4	a	0.82	22.05	65.61	0.57	0.53	1.39	2.70	0.68	0.20	5.35	0.01	0.05	0.00	0.02
	b	0.79	19.88	57.11	0.61	0.43	0.81	2.52	0.72	2.03	14.95	0.01	0.07	0.01	0.04
	c	0.79	22.59	63.18	0.16	0.28	0.44	8.69	0.22	0.18	3.38	0.01	0.05	0.01	0.03
	d	0.87	19.31	67.41	0.10	0.22	0.83	4.74	0.45	0.19	5.78	0.00	0.05	0.01	0.02
	e	0.89	13.34	61.10	0.26	0.25	0.62	0.87	7.37	0.25	14.99	0.01	0.02	0.00	0.03
5	a	0.95	14.53	63.29	3.72	0.55	1.27	3.19	0.73	0.10	11.57	0.01	0.05	0.01	0.03
	b	2.19	19.21	68.16	0.37	0.52	1.08	2.78	0.52	0.08	5.01	0.01	0.02	0.01	0.03
	c	1.10	22.46	62.68	0.98	0.57	0.97	2.22	0.71	0.12	8.11	0.00	0.04	0.01	0.02
	d	0.96	17.28	71.64	0.53	0.45	1.19	2.48	0.68	0.05	4.67	0.01	0.04	0.01	0.01
	e	0.90	20.46	68.54	0.78	0.49	1.29	1.96	0.69	0.04	4.78	0.01	0.04	0.00	0.02
6	a	0.77	17.55	50.76	0.32	0.34	0.55	1.86	0.69	1.18	25.91	0.01	0.03	0.01	0.03
	b	0.85	20.75	62.74	0.32	0.24	1.33	1.47	0.60	0.74	10.89	0.01	0.03	0.00	0.03
	c	0.82	22.49	63.18	0.36	0.45	1.17	3.30	0.87	0.12	7.19	0.01	0.03	0.01	0.03
	d	0.87	19.76	64.22	0.73	0.51	1.16	1.93	0.74	0.35	9.68	0.00	0.03	0.01	0.03
	e	0.73	20.38	50.89	0.58	0.34	0.48	2.07	0.70	0.69	23.06	0.00	0.02	0.01	0.04
7	a	0.80	22.77	64.36	0.00	0.25	0.76	5.68	0.42	0.05	4.80	0.00	0.07	0.01	0.02
	b	0.82	21.46	59.72	0.03	0.29	0.89	2.50	0.61	0.29	13.30	0.00	0.04	0.01	0.04
	c	0.71	25.61	63.78	0.13	0.28	0.75	5.76	0.46	0.02	2.38	0.00	0.11	0.01	0.01
	d	0.89	22.20	66.27	0.35	0.25	0.94	1.89	0.61	0.15	6.36	0.00	0.05	0.01	0.03
	e	0.76	24.83	61.12	0.14	0.38	0.58	5.14	0.57	0.05	6.38	0.00	0.03	0.00	0.01
8	a	0.78	23.57	59.72	0.10	0.28	0.68	1.70	1.80	0.10	11.22	0.00	0.01	0.01	0.03
	b	0.78	21.07	57.99	0.62	0.32	0.80	2.12	0.51	0.23	15.48	0.01	0.03	0.01	0.03
	c	0.87	20.18	65.22	0.18	0.30	1.25	2.21	0.57	0.07	9.05	0.00	0.07	0.01	0.02
	d	0.74	25.54	58.04	0.38	0.40	0.94	1.64	2.70	0.05	9.49	0.01	0.02	0.01	0.03
	e	1.16	24.38	61.21	0.40	0.43	1.32	1.51	1.16	0.07	8.30	0.00	0.02	0.01	0.03
9	a	0.84	23.67	64.65	0.00	0.27	0.86	3.32	0.62	0.05	5.67	0.00	0.03	0.00	0.01
	b	0.87	22.36	68.41	0.64	0.49	1.75	1.83	0.53	0.08	3.10	0.00	0.03	0.01	0.01
	c	0.78	26.23	62.86	0.57	0.30	1.23	1.73	0.78	0.09	5.35	0.00	0.04	0.00	0.02
	d	0.84	24.37	66.09	0.31	0.48	1.21	1.53	1.46	0.06	3.58	0.01	0.03	0.01	0.02
	e	0.83	25.10	66.18	0.37	0.35	0.93	4.20	0.37	0.02	1.54	0.00	0.07	0.00	0.02
10	a	0.83	18.37	61.43	4.76	0.36	1.00	5.27	0.87	0.10	7.05	0.01	0.02	0.01	0.02
	b	1.02	22.38	63.32	0.43	0.28	0.43	2.13	0.60	0.19	9.16	0.00	0.02	0.01	0.02
	c	0.82	17.36	56.64	0.73	0.15	0.47	6.25	0.43	0.79	16.22	0.00	0.06	0.02	0.04
	d	0.99	16.79	75.15	0.22	0.16	1.83	1.42	0.49	0.06	2.83	0.01	0.02	0.01	0.02
	e	0.00	25.31	62.58	0.10	0.32	0.55	3.02	0.57	0.10	7.36	0.00	0.06	0.01	0.01
11	a	0.18	20.70	61.43	0.52	0.29	0.49	2.88	0.60	0.04	12.79	0.00	0.05	0.01	0.02
	b	0.80	22.76	63.96	0.42	0.48	0.84	3.25	0.93	0.06	6.44	0.00	0.02	0.01	0.02
	c	0.59	23.84	65.50	0.00	0.03	0.23	9.02	0.08	0.00	0.60	0.00	0.09	0.01	0.01
	d	0.69	20.34	63.18	0.23	0.39	0.55	4.43	0.57	0.20	9.32	0.00	0.06	0.00	0.01
	e	3.79	15.87	48.24	0.12	0.31	0.18	8.75	2.46	0.43	19.81	0.01	0.01	0.01	0.02



試料	成分	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ZrO <sub>2</sub>
27	a	0.91	21.45	67.91	<b>0.69</b>	0.36	0.82	<b>2.04</b>	0.85	0.05	4.87	0.01	0.02	0.01	0.02
	b	0.84	21.87	58.65	<b>0.77</b>	0.52	1.12	<b>2.08</b>	0.90	0.45	12.74	0.00	0.03	0.01	0.03
	c	0.88	22.87	65.51	<b>0.42</b>	0.44	1.72	<b>2.02</b>	0.88	0.04	5.17	0.00	0.03	0.01	0.02
	d	0.85	21.23	61.04	<b>0.80</b>	0.50	1.28	<b>2.34</b>	0.87	0.17	10.83	0.01	0.02	0.01	0.03
	e	0.90	18.40	64.63	<b>1.23</b>	0.48	1.46	<b>2.22</b>	0.62	0.70	9.25	0.00	<b>0.06</b>	0.01	0.02
28	a	0.74	15.02	46.30	<b>0.69</b>	0.50	0.47	<b>3.82</b>	1.55	1.83	28.88	0.02	0.11	0.02	0.04
	b	1.10	10.82	71.87	<b>0.72</b>	0.25	0.74	<b>1.98</b>	0.38	0.31	11.78	0.01	0.02	0.01	0.02
	c	0.83	22.43	65.37	<b>0.76</b>	0.50	1.08	<b>2.85</b>	1.16	0.10	4.83	0.01	0.06	0.00	0.01
	d	0.88	19.68	65.31	<b>0.66</b>	0.44	0.55	<b>2.39</b>	0.72	0.13	9.18	0.00	0.03	0.01	0.02
	e	0.67	12.89	41.14	<b>1.30</b>	0.43	0.59	<b>4.96</b>	0.53	2.05	35.26	0.02	0.07	0.02	0.05
29	a	0.81	23.42	63.59	<b>0.68</b>	0.53	0.75	<b>2.18</b>	0.89	0.20	6.88	0.01	0.04	0.01	0.04
	b	0.77	26.44	63.39	<b>0.71</b>	0.77	0.93	<b>1.72</b>	0.85	0.06	4.26	0.00	0.08	0.01	0.01
	c	0.89	18.84	65.62	<b>0.99</b>	0.53	0.73	<b>2.99</b>	0.67	0.21	8.48	0.00	0.03	0.00	0.02
	d	0.83	22.65	64.04	<b>0.32</b>	0.54	0.87	<b>2.18</b>	0.89	0.13	7.46	0.01	0.05	0.00	0.03
	e	0.79	25.76	62.10	<b>0.43</b>	0.41	0.78	<b>3.44</b>	0.83	0.08	5.31	0.01	0.03	0.00	0.03
30	a	0.82	20.53	59.75	<b>1.03</b>	0.57	1.21	<b>2.61</b>	0.90	0.34	12.13	0.01	0.05	0.01	0.03
	b	1.91	22.00	57.85	<b>0.98</b>	0.72	1.13	<b>2.13</b>	0.77	0.49	11.95	0.01	0.03	0.01	0.03
	c	1.68	22.50	59.04	<b>1.27</b>	0.46	1.04	<b>2.02</b>	0.81	0.31	10.79	0.00	0.04	0.01	0.05
	d	0.00	11.13	47.55	<b>1.61</b>	0.55	0.43	<b>2.45</b>	0.92	1.03	34.14	0.02	0.07	0.02	0.07
	e	0.83	19.52	58.40	<b>0.86</b>	0.60	1.01	<b>2.36</b>	0.62	1.22	14.53	0.01	0.02	0.01	0.02
31	a	0.98	16.27	65.78	<b>0.56</b>	0.35	0.57	<b>2.68</b>	0.48	0.30	11.99	0.00	0.01	0.01	0.02
	b	0.84	23.62	62.23	<b>0.44</b>	0.56	0.81	<b>4.84</b>	0.56	0.06	5.97	0.00	0.04	0.01	0.03
	c	0.85	19.44	61.67	<b>0.65</b>	0.44	1.08	<b>2.59</b>	0.59	0.48	12.12	0.01	0.04	0.00	0.03
	d	0.77	26.31	60.51	<b>0.25</b>	0.49	0.42	<b>9.17</b>	0.32	0.01	1.66	0.00	0.07	0.01	0.01
	e	0.82	23.14	61.31	<b>0.80</b>	0.40	1.10	<b>1.75</b>	0.87	0.07	9.63	0.00	0.09	0.00	0.02
32	a	1.55	11.80	35.42	<b>20.95</b>	0.42	0.39	<b>17.99</b>	0.36	0.36	10.67	0.00	0.08	0.00	0.02
	b	1.05	13.99	46.67	<b>19.81</b>	0.42	0.92	<b>12.56</b>	0.57	0.05	3.90	0.01	0.02	0.01	0.02
	c	0.74	17.73	49.80	<b>2.71</b>	0.46	0.41	<b>5.27</b>	0.48	0.26	22.05	0.01	0.02	0.01	0.04
	d	0.96	15.49	65.30	<b>0.81</b>	0.64	0.73	<b>4.24</b>	0.70	0.44	10.61	0.01	0.04	0.01	0.02
	e	0.97	15.18	67.17	<b>0.86</b>	0.49	0.75	<b>3.70</b>	0.71	1.11	9.00	0.01	0.03	0.01	0.02
33	a	0.82	23.80	62.69	<b>0.74</b>	0.67	0.64	<b>2.39</b>	0.80	0.45	6.91	0.01	0.05	0.01	0.03
	b	7.04	13.44	53.61	<b>0.22</b>	0.29	0.31	<b>13.81</b>	0.64	0.29	10.31	0.01	0.02	0.01	0.01
	c	0.91	20.00	65.18	<b>0.55</b>	0.52	0.83	<b>2.36</b>	0.68	0.18	8.69	0.01	0.03	0.00	0.04
	d	0.84	20.15	58.81	<b>0.74</b>	0.45	0.77	<b>3.79</b>	0.54	0.48	13.34	0.01	0.07	0.00	0.02
	e	0.79	25.39	60.42	<b>0.47</b>	0.61	0.91	<b>2.45</b>	0.76	0.08	8.00	0.00	0.11	0.00	0.01
34	a	0.98	17.73	69.27	<b>0.62</b>	0.48	0.94	<b>2.05</b>	0.63	0.36	6.89	0.01	0.02	0.00	0.02
	b	0.91	22.65	65.84	<b>0.51</b>	0.53	0.90	<b>2.48</b>	0.78	0.07	5.27	0.01	0.02	0.01	0.02
	c	0.95	21.12	68.80	<b>0.61</b>	0.27	1.09	<b>2.23</b>	0.73	0.17	3.99	0.00	0.02	0.00	0.01
	d	0.88	21.31	62.57	<b>0.79</b>	0.47	0.66	<b>2.92</b>	1.06	0.11	9.14	0.00	0.04	0.01	0.02
	e	0.94	20.39	67.66	<b>0.71</b>	0.50	0.76	<b>3.44</b>	0.93	0.27	4.33	0.01	0.04	0.00	0.01
35	a	0.80	23.25	59.53	<b>0.57</b>	0.41	0.83	<b>2.81</b>	0.71	6.64	4.71	0.00	0.02	0.00	0.01
	b	0.86	23.84	67.78	<b>0.35</b>	0.42	0.65	<b>1.72</b>	0.64	0.14	3.55	0.01	0.03	0.01	0.02
	c	0.77	18.18	49.46	<b>0.25</b>	0.20	0.59	<b>2.14</b>	0.55	17.36	10.45	0.01	0.03	0.01	0.01
	d	0.82	21.98	59.81	<b>0.73</b>	0.52	0.97	<b>2.34</b>	0.64	7.61	4.50	0.01	0.03	0.01	0.03
	e	0.81	25.04	62.04	<b>0.52</b>	0.25	0.96	<b>2.65</b>	0.80	0.06	7.40	0.01	0.03	0.01	0.02
36	a	0.80	18.04	54.95	<b>5.99</b>	0.36	0.86	<b>8.48</b>	0.83	0.46	9.16	0.01	0.04	0.01	0.01
	b	2.06	21.77	65.52	<b>0.84</b>	0.40	1.23	<b>2.71</b>	0.65	0.11	4.65	0.01	0.03	0.01	0.01
	c	0.89	21.58	65.87	<b>0.67</b>	0.60	0.72	<b>2.75</b>	0.73	0.21	5.90	0.00	0.03	0.01	0.02
	d	0.95	19.09	66.62	<b>0.66</b>	0.39	0.87	<b>2.25</b>	0.71	0.42	7.77	0.01	0.03	0.01	0.02
	e	0.90	20.44	64.29	<b>0.82</b>	0.44	0.84	<b>2.75</b>	1.01	2.32	6.09	0.00	0.07	0.01	0.02

#### 4. 出土骨に関する分析

周防畑遺跡群では、17号住居跡、38号住居跡ほかの遺構から、骨や歯が出土しており、その鑑定・指導を茂原信生京都大学名誉教授、本郷一美総合研究大学院大学准教授、櫻井秀雄獨協医科大学技術員の3氏にいただいた。その結果は以下のとおりである。

##### (1) 17号住居跡出土骨、歯、鹿角

17号住居跡は、2-②区で検出された弥生時代後期の竪穴住居跡である。中～西部が削平されて失われ、東部も壁の最も高い所で13cmと上部を削平されているが、床面から多量の土器と炭が出土し、骨と歯が出土している。骨2点はイノシシ上顎骨（第193図B）と動物種不明の腰椎、歯はイノシシの第2大白歯（M2）である。イノシシ上顎骨は第3大白歯（M3）が摩耗しており、3才以上の成獣のものである。鹿角は遺存状態が悪く、加工の有無は不明である。1軒の住居跡で使用されたとは思えない多量の土器の出土から、住居の廃絶後廃棄場所となったと考えられ、骨・歯も廃棄されたものと考えられる。上顎骨や腰椎は、ト骨や加工用とは考えにくく、食物残渣と思われる。

##### (2) 38号住居跡出土骨

38号住居跡は、3-③区で検出された9世紀後半と考えられる竪穴住居跡である。遺物の出土は少ない。出土状況は不明であるが、シカ右下顎骨（第193図A）とイノシシ上顎骨の破片が出土している。これ以外に古代の遺構でシカの骨の出土はなく、出土状況も不明であることから、骨の性格は不明で、弥生時代のものの混入の可能性もある。

##### (3) 505号住居跡出土骨

505号住居跡は、5-③区で検出された弥生時代後期の竪穴住居跡である。埋土から多量の土器片が出土している。出土状況は不明であるが、シカ歯片が出土している。埋設中に廃棄場所になっており、歯片は食物残渣と考えられる。

##### (4) 514号住居跡出土骨

514号住居跡は、5-②区で検出された弥生時代後期の竪穴住居跡である。埋土から50kg超と多量の土器が出土している。住居跡中央から東にかけての炭化物を多量に含む層で、シカ右下顎骨切歯部、第3大白歯（M3）、左下顎骨+第3大白歯（M3）、歯片、右上腕骨遠位骨端が出土している。1軒の住居跡で使用されたとは思えない多量の土器の出土から、住居の廃絶後廃棄場所となったと考えられる。骨・歯も廃棄されたもので食物残渣と考えられる。

##### (5) 3号性格不明遺構出土歯

3号性格不明遺構は、2-③区で検出された幅2.0m、長さ5.8mの土坑の範囲には入らない大きさの穴で、9世紀後半頃の土器と砥石、鉄製紡錘車が出土している。出土状況は不明であるが、ウマ左上顎第2～第4小臼歯（P2～4）と第1大白歯（M1）が出土している（第192図C）。遺構の性格は不明であるが、遺構はウマ1頭が十分入る大きさであるのに遺物の量が少なく、ウマが埋葬されていた可能性もある。

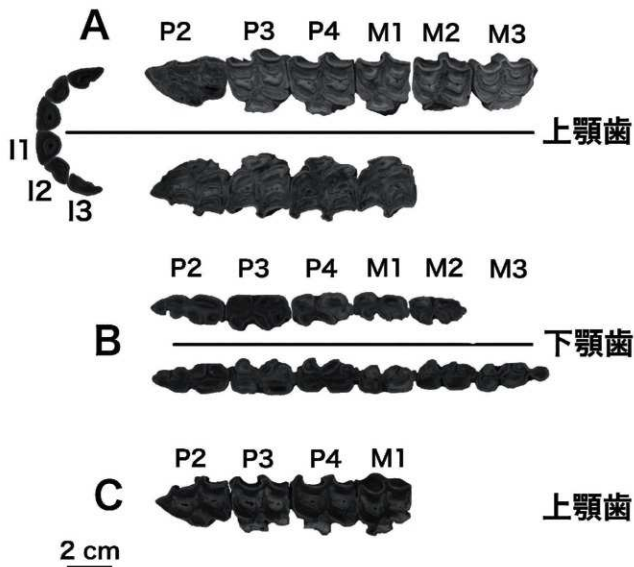
##### (6) 2号溝跡出土歯

2号溝跡は2-①区で検出された幅約10mの自然の流路と考えられる溝である。遺物は縄文土器から古代の土器まで混在しているが、1068年初鋳の熙寧元寶が出土しており、少なくとも11世紀までは存在していたと思われる。歯は底面近くにまとまって出土している。ウマ1頭分の歯（第192図A・B）と別個体のウマの左上顎第2～第4小臼歯（P2～4）・第1大白歯（M1）と第3大白歯（M3）の少なくとも2個体の歯が出土している。自然流路に馬の遺体を投げ込んだと思われるが、2頭が偶然同じ場所で行き倒れたとは考えにくく、2-①区かその近辺で馬が飼育されていた可能性がある。

(7) 2-③区出土骨

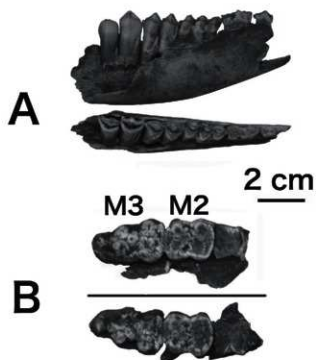
ウマの下顎骨が出土しているが、遺構外であり性格は不明である。

そのほかの出土骨片・歯片及び主な脊椎動物骨は、第244表に一括した。



- A : 2号溝跡 (SD02) 出土の上顎左右臼歯列 (線の上が左側歯列、下が右側歯列)  
 B : 2号溝跡 (SD02) 出土の下顎の左右臼歯列 (線の上が右側歯列、線の下が左側歯列)  
 C : 3号性格不明遺構 (SX03) 出土の上顎左臼歯列  
 (いずれも左が近心(前方))

第192図 ウマの歯



A : 38 号住居跡 (SB38) シカの右下顎骨外側面 (上) と咬合面 (下)  
 B : 17 号住居跡 (SB17) イノシシの上顎左右第 2 および第 3 大臼歯 (上が右大臼歯、下が左大臼歯)  
 (いずれも右が近心 (前方))

第 193 図 シカ・イノシシの骨・歯

第244表 周防畑遺跡群出土の脊椎動物骨

出土遺構	時代	種名	状態	部位	部位詳細	左右	備考	年齢等
16号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
21号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
17号住居跡	弥生前期	ニホンジカ		角	鏡片			
17号住居跡	弥生前期	ニホンジカ		下顎骨	未歯出 P 4	右		
41号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
77号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
77号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
905号住居跡	弥生	ニホンジカ		乳歯鏡片				幼獣
514号住居跡	弥生	ニホンジカ		頸骨鏡片、白歯鏡片				
514号住居跡	弥生	ニホンジカ		角?				
514号住居跡	弥生	ニホンジカ	鏡骨	上顎骨	遠位部	右		
514号住居跡	弥生	ニホンジカ	鏡骨	高脚骨	近位部			
514号住居跡	弥生	ニホンジカ	鏡骨	上顎骨、歯	M 3			
514号住居跡	弥生	ニホンジカ	鏡骨	角	基部	右		
514号住居跡(覆土下)	弥生	ニホンジカ		下顎骨	切歯部			
516号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
518号住居跡	弥生	ニホンジカ		白歯				
9007号土坑	弥生	ニホンジカ		乳歯鏡片				幼獣
9079号土坑	弥生	ニホンジカ		側頭骨片				
17号住居跡	弥生前期	イノシシ		上顎骨	M 1-3	右		成獣
17号住居跡	弥生前期	イノシシ		上顎骨	M 1-3	左		成獣
3号土器特窟	弥生	ヒト		乳歯?	2本			
35号住居跡	弥生	ヒト?		四肢骨片				
17号住居跡	弥生	不明		骨片				
41号住居跡	弥生	不明		骨片				
41号住居跡	弥生	不明		四肢骨片				
502号住居跡	弥生	不明		四肢骨片				
503号住居跡	弥生	不明		骨片				
505号住居跡	弥生	不明	不明	骨片				
510号方形埴輪墓	弥生	不明	不明	骨片				
514号住居跡	弥生	不明		骨片				
516号住居跡	弥生	不明		骨片				
516号住居跡	弥生	不明	鏡骨	四肢骨片				
5079号土坑	弥生	不明	鏡骨?	骨片				
5079号土坑	弥生	不明	鏡骨?	骨片				
5079号土坑	弥生	不明		骨片				
38号住居跡 覆土北東	古代	ニホンジカ		下顎骨	歯あり dp 2-M 2	右		若獣
38号住居跡	古代	ニホンジカ		角?				
38号住居跡	古代	ニホンジカ		下顎骨	M 3	左		
7号溝	古代	ニホンジカ		白歯 3本、骨片				
38号住居跡 覆土北東	古代	イノシシ		上顎骨	尖歯部分の鏡片	右		
3号性格不明遺構	古代	ウマ		上顎骨	P 2-M 1	左		
2-3区黒色土層	古代	ウマ		下顎骨	歯あり P 2-M 3	右		4歳半以上~11歳
2-3区黒色土層	古代	ウマ		上顎骨	歯あり 1-1-3	右		4歳半以上~11歳
2号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	1-1-3, P 2-M 1	右		
2号溝跡	古代~中世	ウマ		下顎骨	P 2-M 2	右	同一個体	4才以上
2号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	1-1-3, P 3-M 3	左		
2号溝跡	古代~中世	ウマ		下顎骨	P 2-M 3	左		
2号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	1-2	左		
2号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	1-3 鏡片	右	同一個体	同一個体の可能性
2号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	1-2	右		
3号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	M 3	左	同一個体	
2号溝跡	古代~中世	ウマ		上顎骨	P 2-M 1	左		
306号土坑	古代	不明		四肢骨片				
37号住居跡	古代	不明	鏡骨?	四肢骨片				
49号住居跡	古代	不明	鏡骨	骨片				
6号溝	古代	不明		骨片				
7号溝	古代	不明		骨片				
7号溝	古代	不明		四肢骨片				
VII K13 区上表	不明	ニホンジカ	鏡骨	肩甲骨	関節部			
5-6区 東側砂層	不明	ウマ		上顎骨	右1.2.3 左1.2	左右		4歳以上
溝土	不明	ウマ		下顎骨	1.3 鏡片	右		
45号土坑	不明	不明	鏡骨	四肢骨片				
遺構外	不明	不明	鏡骨	骨片				
遺構外	不明	不明	鏡骨	骨片				
遺構外	不明	不明	鏡骨	骨片				
遺構外	不明	不明	鏡骨	骨片				



## 第7章 総括

ここでは、調査成果を概観しつつ、その調査成果の持つ意味について総括したい。

### 1. 縄文時代

縄文時代と考えられる遺構は、底面に逆茂木の跡と見られる小穴があって、陥し穴と思われる73号土坑のみである。陥し穴は複数基がまとめて掘られていることが多く、そこに獲物を追いこんで捕らえたと考えられている。73号土坑の周辺に同様に陥し穴と見られる土坑はないが、73号土坑は削平が著しい2-③区西端近くにあり、確認面からの深さが陥し穴としては浅めの46cmしかないことから、浅いものが削平されて失われているか、西部の調査区外にほかの陥し穴があることも考えられる。

縄文時代の遺物は縄文土器が約28kg出土しているほか、縄文時代のものと思われる石器や剥片が弥生時代や古代の遺構に混入したり、遺構外で出土したりしている。陥し穴からは遺構の性質上、ほとんど遺物が出土しないことが多い。陥し穴群があったとしても、それだけで説明できる遺物量は少なく、調査区内や周辺に小規模な縄文時代の集落跡があったことも考えられる。

### 2. 弥生時代

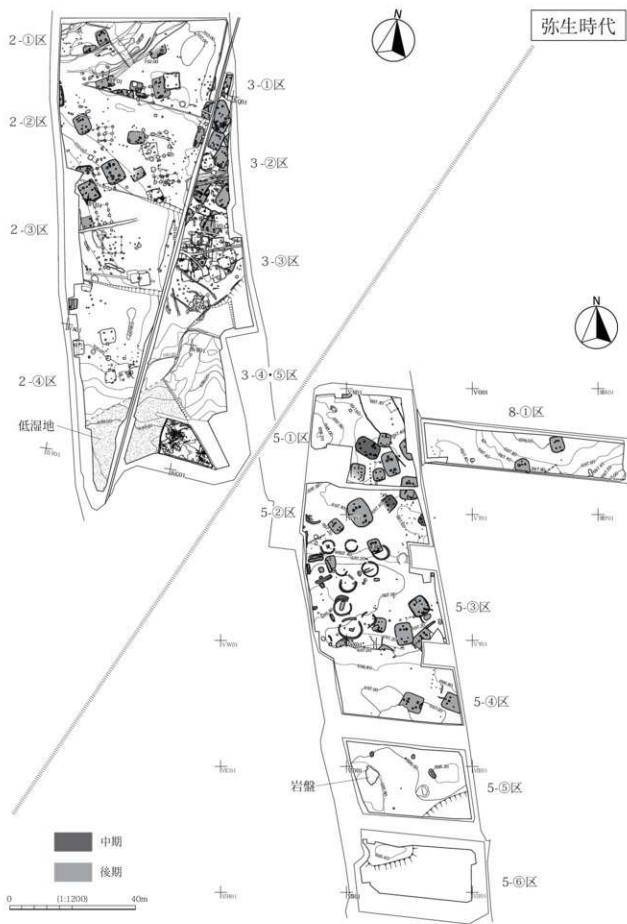
弥生時代の竪穴住居跡は2区で22軒、3区で16軒、2・3区にまたがるもの1軒、5区で23軒、8区で2軒の計64軒が検出された。このうち、弥生時代中期に属するものは、5区北東部の507・511・517号住居跡の3軒だけで、ほかはすべて後期である(第195図)。

墓跡は数え方が難しいが、5区の509・510・519号の方形周溝墓を1基の方形周溝墓とし、方形周溝墓の周溝の可能性のある503号溝跡や、土坑墓と思われる512号墓や5063号土坑をすべて墓とすると、2区で土器棺墓1基、5区で方形周溝墓4基、円形周溝墓14基、土坑墓5基、土器棺墓3基が検出され、すべて後期と思われる。

以上をまとめると、2・3区では北寄りに弥生時代後期の集落跡があり、南西のはずれに3号土器棺墓1基が存在する。3号土器棺墓と最も近い弥生時代の住居跡である26号住居跡とは南北に約20mの距離があり、その次の66号住居跡や77号住居跡とは40～50mの距離がある。これは、一見集落域と墓域が分かれているようであるが、土層柱状図(第12図)で明らかのように、2区は現耕作土の直下が遺構検出面であるIV層浅間軽石層となっており、昭和55年の圃場整備でIV層まで削平されて、浅い遺構が失われている可能性が高い。3号土器棺墓の出土地点は、IV層検出面が南に向かって下がり始めているところであり、そのために削られずに残ったと考えられる。また、周囲には周溝墓や土坑墓が全く検出されず、墓域を形成していたかどうかどうかも不明である。したがって、2・3区は弥生時代後期の集落域が存在するが、墓域があったかどうか、集落域と分かれていたかどうかは不明である。

これに対して5・8区は、弥生時代中期には5区の北東部に小規模な集落があったものが、後期になると東部の8区や5区の中部にまで広がり、さらに西部に方形周溝墓や円形周溝墓、土坑墓からなる墓域を形成する。この墓域では、5067号土坑墓から3連の銅剣、遺構外ながら507号円形周溝墓の周溝近くから長さ5.5cmの大型のヒスイ製勾玉などが出土している。

この勾玉は、弥生時代のヒスイ製勾玉としては、東京都板橋区四葉遺跡出土品の7.4cm、大阪府泉大津市・和泉市池上曾根遺跡出土品の6.3cmなどに次ぐ最大級のものであるが、北部九州で発達し、西日本で



第194図 弥生時代の遺構分布図

生産された定形式勾玉と異なり、顎のくびれが不明瞭な不定形勾玉である(森 1980)。この時期、ヒスイの産地でもある北陸地方で生産された勾玉はほとんどが半球状勾玉であり、不定形勾玉は産地不明とされてきた。最近長野市塩崎遺跡群で大形のヒスイ原石が出土したことから(未報告)、長野県内での生産も考えられる。

ここで問題となるのは、この墓域と集落域との関係である。墓跡群に伴う土器は少なく詳細な時期は不明であるが、出土土器を見る限り、後期の集落と大きな時間差はなさそうである。遺構の切り合い関係でみても、506号住居跡が501号円形周溝墓や土坑墓と思われる5067号土坑に、515号住居跡が510号方形周溝墓に切られる一方で、516号住居跡が516号円形周溝墓を切っており、集落域と墓域の時間的前後関係は明らかではない。集落域と墓域の存続時期に若干のずれがある可能性は残るが、同時存在した時期があるものと思われる。

周辺の遺跡を見ると、同時代の一本柳遺跡群北西久保遺跡や西一本柳遺跡では、集落域のみが検出されている。枇杷坂遺跡群円正坊遺跡ではⅡ・Ⅴ地点が弥生時代中・後期の集落域であるのに対して、Ⅳ地点が後期の墓域となっている。また、中部横断自動車道建設に伴って調査された西一里塚遺跡群では、A～Cの3グループの集落域のうち、中期後半の集落Aは後期の墓域と重なりを持つが時間差があり、集落B・Cは墓域を伴わない。鳴沢遺跡群五里田遺跡では、堅穴住居跡21軒からなる集落域と円形周溝墓4基と壺棺墓2基からなる墓域が検出されているが、集落は弥生時代中期、墓域は弥生時代後期と時代が分かれ、後期の円形周溝墓からは銅鋼片5点が出土している。後沢遺跡は、後期後半の堅穴住居跡33軒からなる集落域と方形周溝墓3基からなる墓域が隣接し、周防畑遺跡群5区の集落域と墓域のあり方に近い。また、周防畑B遺跡では、A・C地区の集落に対して、円形周溝墓と土器棺墓、土坑からなる墓域が東側のB地点に離れて存在する。

以上のように、この地域では後沢遺跡を例外として、集落域と墓域は離れて存在することが一般的である。このようななかで、5区の集落域と墓域が隣接するのは、後沢遺跡を除いて例外的である。五里田遺跡で集落域と墓域が中期と後期で時期がずれるように、土器型式に表れない時間幅のなかで集落域と墓域の時期がずれるのか、丘陵状の後沢遺跡のように地形的に集落域と墓域を離すだけの余地がなかったのか、5区の集落規模に対して墓域の規模や3連の銅鋼や大型のヒスイ製勾玉のような副葬品が立派すぎないか、あるいはほかの大規模集落の墓域であるのかなど考えるべき問題は多岐にわたるが、それを考えるには力不足であり、問題点の提示にとどめることとする。

### 3. 古代

古代の遺構は堅穴住居跡が2区で13軒、3区で28軒の合計41軒、掘立柱建物跡が2区で10棟、3区で1棟が検出されており、5・8区では掘立柱建物跡として調査された遺構があるものの古代に属するかどうかは不明である(第195図)。2区の堅穴住居跡が少ないのは、圃場整備で2区と3区の間にある水路を共有するために東西を平らにし、元々標高が高かった2区の遺構が多く削平されたことが一つの原因として考えられる。しかし、掘立柱建物跡数でみると2区の10棟に対して3区で1棟と逆転することは、削平深度だけではないことを示している。2区の北部が掘立柱建物群に占められていた間、一般の堅穴住居跡を建てるのが制限されていたことも考えられるからである。この地区は、北側を自然の流路である2号溝跡に、南側を6・7号溝跡のような施設で区画され、東西も調査区外の何らかの施設に区画されていた可能性が高い。2区の検出面が削平されていることから確定的なことは言えないが、このように2・3区の古代の集落は、ある時期、おそらくは10世紀代に掘立柱建物群の地区と堅穴住居跡の地区に分かれていたと考えられる。

この掘立柱建物群の地区は、59・60号土坑に見られるような祭祀が行われた場でもある。59・60号土坑では「本」の字が墨書されたもの2点を含む灰軸陶器輪花椀と灰軸陶器輪花皿、「井」墨書土師器椀、灯明椀に使われたと見られる灰軸陶器椀や土師器椀がまとも出土している。これらの土器は手磨れの痕がなく、ほぼ1回限りの祭祀に使用されて埋納されたものと考えられる。1回限りの使用であれば所有者や所属を明記して管理する必要はなく、祭祀に使用するために書かれたものと考えられることも可能であろう。その場合、墨書「本」は、「本」ではなく、「奉」の省略形と考えられる。

平川南氏は、千葉県印旛から香取地区で出土する多文字墨書土器の検討から、これらの土器を古代人が御馳走を盛って自らの罪による死を免れようとする賄賂（まいない）行為に使用されたものとしている（平川1996）。また、「井」墨書については、道教の悪霊を払い、願成就のための符号「𠩺」（九字）の略号としている（平川1991）。また、庚申の日ごとに夜通し眠らずに過ごすという庚申信仰についても触れており、昌泰3（900）年成立の『管家文草』に庚申信仰に関する記述があることが紹介されている。

59・60号土坑の土器のセットは、賄賂に使用されたと思われる「本」墨書灰軸陶器輪花椀と、願成就の「井」墨書土師器椀、灯明椀が揃っていることから、すでに日本で行われていた庚申信仰による祭祀（守庚申）に使用されたものである可能性がある。59・60号土坑ほど顕著ではないが、「本」墨書黒色土器杯が出土した246号土坑や煤の付着した須恵器杯と灯芯油痕のある黒色土器杯が出土した283号土坑も、使用された土器の量と質でかなり落ちるが、同様の祭祀の跡である可能性がある。

それでは、この掘立柱建物群の地区はどのような性格を持つのか。堅穴住居跡を排除して一定の面積を占め、59・60号土坑に見られるように多数の灰軸陶器を用いる祭祀を行っているところから、灰軸陶器の出土が非常に少ない一般の堅穴住居跡に住んでいた庶民のものとは思われない。しかしながら、そこに立つ掘立柱建物跡は、2×2間の納屋的な建物が多く、最も大きな2号掘立柱建物跡は3×3間の側柱建物である。柱の掘り方も4・5・6号掘立柱建物跡に方形や方形に近いものが見られるが建物の規模が2×2間と小さいか不明で、ほかの大部分の掘立柱建物跡では柱の掘り方が円形や楕円形であり、官衙的なものではなさそうである。周囲の集落にかかわる公的な場か、あるいは有力者の宅地であろうか。

一方、堅穴住居跡で占められる集落の方はどうか。8世紀にはじまり10世紀代まで続く集落は、鋳師屋遺跡群中の各遺跡と同じで、律令的計画村落といえる。但し、出土遺物を見ると皇朝十二銭や帯金具の出土はなく、墨書土器も59号土坑出土の「井」墨書土師器や60号土坑出土の「本」墨書灰軸陶器2個体、246号土坑出土の「本」墨書土師器以外では、29号住居跡出土の「来」墨書黒色土器と39号住居跡出土の則天文字「風」（=君）だけである。視も遺構外で須恵器獸脚風字硯の出土はあるが、それ以外では転用硯も含めて全く出土していない。さらに古代の堅穴住居跡からの灰軸陶器の出土量も2.1kgと古代の堅穴住居跡出土土器の総量525.6kgのわずかに0.4%で、官衙関連とは言えない状況である。堅穴住居跡出土の遺物で目につくものは、72号住居跡出土の土師器鉄鉢形土器2個体と80号住居跡出土の須恵器短頸壺である。このような集落にはいかなる人々が住んだのであろうか。

中村順昭氏は、『和名類聚抄』国郡部で6か国の15郡に存在する「郡家郷」について、その呼称が郷内に郡衙が所在したことからきていることは疑いがなく、郷は元々50戸1郷の原則によって戸をまとめたものであるのに対して、郡衙は付随する戸が設定されていないとして、郡家郷に編成された人々について考察している（中村1995）。それによれば、先ず郡内から任用された郡司が考えられ、続いてその子弟、伝馬の飼養にあたった伝子、郡司職分田の耕作に当たった人々と郡雑任である。郡雑任は郡司の下で様々な郡務に従事した人々で、『類聚三代格』所収の弘仁13（822）年閏9月20日の太政官符には、郡書生、案主、益取、税長、徴税丁、調長、服長、庸長、庸米長、駆使、器作、造紙丁、採松丁、炭焼丁、採藁丁、菊丁、駅伝使鋪設丁、伝馬長の名前が挙がっている。これらの職に当たったのは有位者の外散位と官人身分を持

古代



■ 前半 ■ 後半

0 1:1500 50m

第195図 古代の遺構分布図

たない白丁である。

周防畑遺跡群の集落に住んでいたのは、このような郡雑任ではないだろうか。彼らは身分が低いが官人身分を持っていないために、帯金具を必要とせず、職によっては文字を扱うこともなく、戦掌と関係して短頸壺や鉄鉢形土器のような特殊な器形の土器を必要としたのであろう。佐久郡衛に関係するとしても最末端の人々であり、集落の出土遺物に官衛的要素が薄いのである。

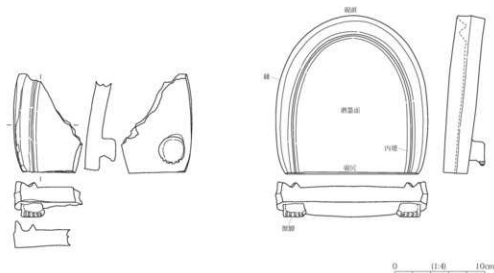
ところで、第3章で述べたように周辺の同時代の遺跡では官衛的な遺物が多数出土して、佐久郡衛の存在が予想されながら、未だに位置が確定できずにいる。平城京では、長屋王邸が左京三条二坊で4町の広さであったように、位階によって広さが決められているだけではなく、位階が高いほど平城宮に近い傾向がある。佐久郡衛を取り巻く佐久郡家でも同じようなことがあったと考えられるが、だとすれば未発見の佐久郡衛は、官衛的要素の薄い周防畑遺跡群の周辺にあり得ず、より官衛的要素の濃い西近津遺跡群（第3章第2節）の方が佐久郡衛に近いであろう。このように、調査された各遺跡の官衛的な要素の度合いを検討することによって、未発見の佐久郡衛の位置を絞り込めないかと考えているが、本論の趣旨とは外れてくるので後日を期したい。

#### 4. 須恵器獣脚風字硯について

須恵器獣脚風字硯は、3-⑤区Ⅱ層、圃場整備時の盛土中で出土した。これまでにほとんど類例のないものであるので、ここに取り上げる。

硯は、硯尻部の片側の破片で、残存長は10.9cm、残存幅は7.6cm、高さ3.9cmである。硯尻部は真直ぐで、側面は緩い曲線を描き、楕円形の方の端を直線で切ったような平面形と推定される（第196図）。その裏面の角に近い所に、硯尻部に向かって下部が緩やかに広がる長さ3.0cm、幅2.8cm、高さ1.7cmの獣脚が付く。獣脚の前面には5箇所の刻みが入れられて指を表現している。磨面も特徴的で内提が縁から15～18mmの所を平行に巡っている。縁の高さは最高で11mm、内提の高さは最高で6mmと低い。縁の上下のほぼ中央に微隆起線が巡る。暗灰色を呈し、焼成は良好であるが硯面の全面と側面の一部に焼成時の灰が被り、側面と裏面の一部は黒色の自然釉が掛かる。磨面に灰が被っているのが墨が滑り、実際に墨が磨れたかどうかは疑問である。

この破片から、以下のように全形を推定した。脚の底面は硯面と平行ではなくわずかに角度を持っている。風字硯は、通常2つの脚と硯頭部の3点で接地するので、硯頭部と脚の底面全体が同時に接地して



第196図 須恵器獣脚風字硯実測図と推定復元図

いるのが最も安定がよい。したがって、脚の底面と硯面の裏面を延長して交わる点を求めると、全長は17.5cm前後となる。

幅は、本例と同様に内堤が硯尻部まであり全周すると思われる佐久市儘田遺跡H5号住居跡出土風字硯を参考にした(第197図)。儘田遺跡出土例は残存率が高く、残存長128cm、残存幅10.9cmであるが、全長は約15cm、幅は約13cmと推定される。裏面に脚の貼付痕があり、直径は16mm、側面から脚の中心までの距離も16mmである。本獣脚風字硯は脚の直径が接合部で22mm、側面から中心までの距離が19mmと儘田遺跡例よりも20～40%大きい。したがって、幅を儘田遺跡出土例より30%大きいとすると17cm前後である。長さを17.5cm。硯尻部の幅を17cmとして、残存部の曲線から楕円形を描くと、自然な楕円形が描ける。したがって平面形は楕円形の一方を直線的に切り取ったような形になると推定した(第196図)。内堤については、風字硯は硯頭部に水をためるので、硯尻部だけにあっても用をなさない。したがって内堤は硯頭部からの延長であり、儘田遺跡出土例のように全周すると推定した。

この獣脚風字硯の年代であるが、遺構外出土のため、伴出遺物はない。したがって形態から時期を考えるしかない。獣脚風字硯と同様に獣脚を持つ獣脚円面硯は7世紀前半頃から8世紀初めに限られる。一方風字硯は8世紀後半に現れる(奈良文化財研究所2003・2004)。この間には断絶があるが、獣脚円面硯は高級品であるので、伝世品や情報として獣脚円面硯が8世紀後半まで残っていた可能性はある。また、硯尻部では用をなさない内堤が全周しているのは円面硯や楕円硯の名残と考えられる。したがって、この獣脚風字硯は、風字硯登場の初期、8世紀後半のものと考えられる。

先述の内堤が全周する硯が出土した儘田遺跡H5号住居跡は伴出する土師器蓋が8世紀代ながら、風字硯の出土からそれが盛行する9世紀前半に位置付けている。しかしながら、この風字硯は内堤が全周することから風字硯でも初期のものと思われ、また硯は伝世することがあっても、日常の器である土師器蓋が伝世することは考えにくく、8世紀代に位置付けてよいのではないか。

この風字硯の産地であるが、胎土分析ではCグループに属して、産地は不明である。しかしながら磨墨面に灰が被って実用に供さない品物が長距離運ばれてきたとは考えにくく、地元産と思われる。8世紀後



1：長野県佐久市儘田遺跡H5号住居跡出土  
2：奈良県奈良市平城京左京3条2坊2坪出土  
3：長野県松本市百瀬遺跡S36W24出土

第197図 他遺跡出土の風字硯

半という年代と合わせて、佐久郡司などの有力者が風字硯の登場直後に円面硯は知っていても風字硯をよく知らない工人に本格生産を目指して作らせた試作品ではないかと考えている。

奈良文化財研究所の平城京出土陶硯データベースでは風字硯（獸脚）と称するものは、左京3条2坊2坪の6A F I S M 71 地区南北溝出土の風字硯（4450）1点のみである（第197図）。残存長8.2cm、残存幅13.8cm、残存高5.8cmの硯頭部の破片で、裏に粗いつくりの獸脚が付く。磨墨面に内堤は見られない。硯頭部に脚が付いていることから、これが風字硯であるとすると硯尻部を上げるために硯尻部にさらに高い脚を付けなければならないが、硯頭部の脚は湾曲していて接地面が小さく、硯尻部に高い脚を付けて傾けると非常に不安定になって使いづらいと思われる。報告書に「楕円硯の可能性の高いものを含む」とあるように楕円硯である可能性が高いと思われる。

もう1点、獸脚風字硯とは報告されていないが、その可能性が高いものをあけておく。長野県松本市百瀬遺跡の検出面出土の風字硯は、図で見る限りは脚が直方体ではなく、下部がくの字に曲がって獸脚を表現しているようである（第197図）。脚部に指の表現がない点、硯尻部が曲線である点、内堤が磨墨面の硯頭部と硯尻部を山形に分けている点などが本遺跡群のものとは異なる。

このように、本遺跡群出土の須恵器獸脚風字硯は、全国的にもほとんど例を見ない資料であると同時に、本地域における風字硯の受容の過程に関して重要な資料である。

## 引用・参考文献

- 井上巖 1998 「胎土分析から見た須恵器生産体制に関する考察—陶邑・湖西・御殿山窯跡群に共通する現象—」『考古学と自然科学』第37号
- 井上巖 1999 「胎土分析」『更埴条里遺跡・屋代遺跡群（含む大境遺跡・窪河原遺跡）—古代Ⅰ編—』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42
- 鐘江宏之 1997 「八・九世紀の国府構成員—文書行政への関わり方を中心に—」『弘前大学国史研究』第102号
- 川村好光 2000 「ヒスイ勾玉の誕生」『考古学研究』第47巻第3号
- 木島 勉 2006 「翡翠勾玉の生産」『季刊考古学』第94号
- 駒見和夫・櫻井秀雄 2004 「甲信 長野県・山梨県」『日本玉作大観』
- 小諸市 1986 『小諸市誌』自然編
- 小諸市教育委員会 1983 『曾根城遺跡』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
- 小諸市教育委員会 1988 『鋳物師屋』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
- 小諸市教育委員会 1994 『東下原 大下原 竹花 舟窪 大塚原』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集
- 小山岳夫 1994 「素描 弥生社会解体に伴う集落の拡散」長野県考古学会誌74
- 佐久考古学会 1990 『赤い土器を追う』佐久考古6号
- 佐久市 1988 『佐久市志』自然編
- 佐久市 1995 『佐久市志』歴史編（一）原始古代
- 佐久市教育委員会 1980 『周防畑遺跡』
- 佐久市教育委員会 1985 『鋳師屋遺跡』
- 佐久市教育委員会 1988 『鋳師屋遺跡Ⅱ』
- 佐久市教育委員会 1989 『前田遺跡（第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次）』
- 佐久市教育委員会 1995 『西一本柳遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡Ⅰ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第37集
- 佐久市教育委員会 1995 『曾根新城遺跡 上久保田向遺跡 西曾根遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第41集



- 佐久市教育委員会 1996『権現平遺跡 池端遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集
- 佐久市教育委員会 1994『池端城跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第48集
- 佐久市教育委員会 1994『藤塚遺跡Ⅲ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第50集
- 佐久市教育委員会 1997『円正坊遺跡Ⅱ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第53集
- 佐久市教育委員会 1999『五里田遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第74集
- 佐久市教育委員会 1999『八風山遺跡群』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第75集
- 佐久市教育委員会 2001『榛名平遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第84集
- 佐久市教育委員会 2001『西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第91集
- 佐久市教育委員会 2001『辻の前遺跡Ⅱ 中仲田遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第92集
- 佐久市教育委員会 2002『円正坊遺跡Ⅳ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第102集
- 佐久市教育委員会 2002『聖原 第1分冊』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第103集
- 佐久市教育委員会 2003『聖原 第2分冊』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第107集
- 佐久市教育委員会 2003『佐久駅周辺土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査報告書』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第110集
- 佐久市教育委員会 2004『西一本柳遺跡Ⅸ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第113集
- 佐久市教育委員会 2004『聖原 第3分冊』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第115集
- 佐久市教育委員会 2004『聖原 第4分冊』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第122集
- 佐久市教育委員会 2005『聖原 第5分冊』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第126集
- 佐久市教育委員会 2008『市道遺跡Ⅲ 辻遺跡 儘田遺跡Ⅱ 西裏遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第148集
- 佐久市教育委員会 2008『周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅰ Ⅱ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第156集
- 佐久市教育委員会 2008『寄塚遺跡群寄塚遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第157集
- 佐久市教育委員会 2009『森平遺跡 北近津遺跡Ⅱ 西一里塚遺跡Ⅲ 大豆田遺跡』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第165集
- 佐久市教育委員会 2009『西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅵ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第162集
- 佐久市教育委員会 2009『下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ 周防畑遺跡群』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第163集
- 佐久市教育委員会 2010『西一本柳遺跡ⅩⅥ 北一本柳遺跡Ⅲ 東大門先遺跡Ⅱ 西八日町遺跡Ⅲ 西八日町遺跡Ⅶ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第175集
- 佐久市教育委員会 2010『周防畑遺跡群 南近津遺跡Ⅱ』佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第177集
- 佐久埋蔵文化財調査センター 1987『北西の久保』佐久埋蔵文化財調査センター調査報告書第8集
- 佐久埋蔵文化財調査センター 1989『腰巻 西大久保 曲尾Ⅱ』佐久埋蔵文化財調査センター調査報告書第15集
- 高橋浩二 2010『翡翠半球形勾玉の製作技術と地域性の背景』『待兼山考古学論集Ⅱ—大阪大学考古学研究室20周年記念論集—』
- 堤 隆・藤森英二・小山岳夫・富沢一明・櫻井秀雄・森泉かよ子 2008『考古学が語る 佐久の古代史』
- 堤 隆 2012『浅間 火山と共に生きる』
- 戸根比呂子 2013『弥生時代玉文化研究の展望』『玉文化』第10号
- 長野県教育委員会 1997『大規模開発事業内遺跡—遺跡詳細分布調査報告書—』
- 長野県教育委員会 2000『大規模開発事業内遺跡—遺跡詳細分布調査2—』
- 長野県教育委員会 2003『大規模開発事業内遺跡—遺跡詳細分布調査3—』
- 長野県教育委員会 2009『大規模開発事業内遺跡—遺跡詳細分布調査4—』
- 長野県考古学会 1999『長野県の弥生土器編年』
- 長野県埋蔵文化財センター 1992『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書1 下茂内遺跡』
- 長野県埋蔵文化財センター 1992『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2 木戸平A・吹付・東』

- 林・鶴ヲネ・上中原・千草場・城の口・西林・東祓ふた・西祓ふた・大星尻古墳群・丸山古墳群・丸山Ⅱ・丸山・北山寺・東大久保・西大久保・腰巻・栗毛坂・西赤座・中久保田・枇杷坂]
- 長野県埋蔵文化財センター 1998「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5 松原遺跡 弥生総論6」
- 長野県埋蔵文化財センター 1998「北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書1 県 県南西部 池尻 小田井城南部台地 唄坂 金井城跡 中金井 栗毛坂 下沢沢 長土呂 常田居屋敷 前田 砂原 中平・田中島 土合」
- 長野県埋蔵文化財センター 1999「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書17 栗毛坂・長土呂・野火附・前田・宮ノ反A・下前田原・長野原・赤沼」
- 長野県埋蔵文化財センター 1999「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書18 芝宮遺跡群 中原遺跡群」
- 長野県埋蔵文化財センター 2000「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19 三田原遺跡群 郷土遺跡ほか」
- 長野県埋蔵文化財センター 2001「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書29 香坂山遺跡」
- 長野県埋蔵文化財センター 2007～2010「長野県埋蔵文化財センター年報 23～26」
- 長野県埋蔵文化財センター 2009「上信越自動車道佐久ジャンクション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中原遺跡・野火附遺跡・野火附城跡」
- 長野県埋蔵文化財センター 2009「中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4 濁り遺跡・久保田遺跡・西一里塚遺跡群」
- 長野県埋蔵文化財センター 2013「中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1 鎌田原遺跡・近津遺跡群・和田原遺跡群」
- 中村順昭 1995「郡家の所在と郷の編成一〔和名類聚抄〕にみえる郡家郷をめぐって一」『史叢』第54・55合併号
- 奈良国立文化財研究所 1996「平城京長屋王邸跡 左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告」
- 奈良文化財研究所 2003「古代の陶硯をめぐる諸問題」
- 奈良文化財研究所 2004「古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編」
- 林 幸彦 1982「周防畑B遺跡」『長野県史 考古資料編 主要遺跡（北・東信）』
- 原 明芳 2011「信濃の陶硯」『長野県立歴史館研究紀要』第17号
- 平川 南 1996「“古代人の死”と墨書土器」『国立歴史民族博物館研究報告』第68集
- 平川 南 1991「墨書土器とその字形—古代村落における文字の実相—」『国立歴史民族博物館研究報告』第35集
- 福田和憲 1970「駅戸に関する二、三の考察」『信濃』第22巻第5号
- 御代田町 1995『御代田町誌』自然編
- 御代田町 1998『御代田町誌』歴史編上
- 御代田町教育委員会 1983「川原田遺跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書
- 御代田町教育委員会 1985「野火付遺跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書
- 御代田町教育委員会 1987「前田遺跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集
- 御代田町教育委員会 1988「十二遺跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
- 御代田町教育委員会 1989「根岸遺跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
- 御代田町教育委員会 1993「細田遺跡」御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第14集
- 森貞次郎 1980「弥生勾玉考」『鏡山猛先生古稀記念 戸文化論攷』
- 柳沢 亮 2008「『郡』刻書土器と銅印の発見—西近津遺跡群の調査から—」『千曲』第137号
- 山形県埋蔵文化財センター 2002「中袋遺跡 発掘調査報告書」
- 山中敏史 1994「古代地方官衙遺跡の研究」塙書房

# 報告書抄録

ふりがな	すほうばたいせきぐん							
書名	周防畑遺跡群							
副書名	中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3 - 佐久市内3 -							
シリーズ名	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	105							
著作者名	上田 真							
編集機関	(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター							
所在地	〒388 - 8007 長野県長野市篠ノ井布施高田963 - 4 TEL.026 - 293 - 5926							
発行年月日	2014年3月14日							
所収遺跡名	よりがる 所在地	コ ー ド 市 町 村	遺跡番号	北 緯	東 経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
すほうばたいせきぐん 周防畑遺跡群	長野県佐久市 長土呂字大豆 田1705ほか	20217	7	36° 16' 34" (世界測地系) 36° 16' 46" (日本測地系)	138° 27' 37" (世界測地系) 138° 27' 26" (日本測地系)	20060424～ 20061219 20070416～ 20070709 20090914～ 20091221	43,250	中部横断自動車道建設に伴う記録保存調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
周防畑遺跡群	集 落 墓 跡	縄文時代  弥生時代  奈良・ 平安時代	陥し穴1  竪穴住居跡 64 円形・方形周溝墓 18 土坑墓5、土器棺墓4  竪穴住居跡 41 掘立柱建物跡 13	縄文土器  弥生土器、打製石斧 磨製石斧、磨製石鏃 勾玉、管玉 ガラス小玉  土師器、須恵器 黒色土器、灰釉陶器 緑釉陶器、青磁 砥石、鉄製品(刀子、 紡錘車)、銭貨		土坑墓から3連銅鋼出土。円形周溝墓の周溝の縁からヒスイ製勾玉出土。土器棺墓の中から管玉6とガラス小玉23が出土。奈良時代の竪穴住居跡から須恵器短頸壺や土師器鉄鉢形土器、平安時代の土坑から墨書されたものを含む灰釉陶器がまわって出土。遺構外で須恵器獸脚風字硯や川原寺式軒丸瓦が出土。		
要 約	<p>浅間山麓の佐久平北部では、厚く堆積した軽石流により形成された台地を河川が侵食して深い谷となった「田切り地形」と呼ばれる独特の地形を形成する。本書掲載の周防畑遺跡群はこうした田切りの一つである濁り川の田切り谷に面した台地が途切れた先の緩傾斜地に立地する。</p> <p>周防畑遺跡群では、弥生時代の集落と墓跡、奈良～平安時代の集落が検出された。弥生時代中期の集落は小規模で、竪穴住居跡3軒が南部の5区で検出されている。弥生時代後期になると、5区の集落が拡大し、新たに北部の2・3区にも集落が形成されるとともに、5区の集落の南西部に隣接して墓域が形成される。この墓域内の円形周溝墓の周溝縁から国内最大級のヒスイ製勾玉、土坑墓の一つから3連の銅鋼が出土し、2区の土器棺墓からは滑石製管玉6個とガラス小玉23個が出土している。</p> <p>古代の集落は北部の2・3区に見られる。薬壺と思われる須恵器短頸壺や土師器鉄鉢形土器が竪穴住居跡から出土し、遺構外で須恵器獸脚風字硯や川原寺式軒丸瓦が出土するが、これ以外に硯と帯金具や皇朝十二銭の出土はなく、灰釉陶器や墨書土器の出土も少ない。近辺にあったと考えられる佐久郡衙に関連するとしても下のクラス、群雑同等の集落と思われる。その中で、10世紀後半に成立した2区北部の掘立柱建物群の地区では、墨書を含む灰釉陶器と灯明具を多数使用する祭祀を行っており、有力者の屋敷地と思われる。</p>							



平成 26 (2014) 年 3 月 14 日 発行

長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 105

**周防畑遺跡群**

中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3

－佐久市内 3－

発行者 国土交通省 関東地方整備局  
(一財) 長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター  
〒 388-8007 長野県長野市藤ノ井布施高田 963-4  
Tel 026-293-5926 Fax 026-293-8157  
E-Mail info@naganomaibun.or.jp

印刷者 明和印刷株式会社  
〒 380-0943 長野県長野市安茂里 2161-2  
Tel 026-226-5311 Fax 026-228-0799

